

1. 科目名(単位数)	アジア文化論 (2単位)		3. 科目番号	GELA1337 GELA1355
2. 授業担当教員	越野 香子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表			
6. 履修条件・他科目との関係	全学部・全学年対象科目			
7. 講義概要	21世紀はアジアの時代ともいわれ、アジア諸国とその文化に注目が集まっている。アジア文化圏は、アセアンに代表される東南アジア諸国から、中央アジアや西アジアまでを含む広大な範囲を含んでいる。本講義では、まず世界におけるアジア文化圏の位置づけを考える。次に、現在注目を集めている東南アジア諸国連合(ASEAN)を中心に様々なアジア文化の特色を考察していく。また興味のあるアジア文化について調べ、個人ごとまたはグループごとで調査内容を発表することとする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の様々な文化圏の中のアジア文化圏の位置づけと特色について理解し説明できる。 2. アジア文化圏の中の東南アジア文化圏の位置づけと特色を理解し説明できる。 3. 東南アジア文化圏以外の多様なアジア文化について理解し説明できる。 4. 興味のあるアジア文化の特色について調査を実施し異文化理解と自文化理解を深めることができる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習と事後学習課題については、初回の講義で説明する。 2. 全てのグループが発表を割り当てられ、その準備に向けて出される課題も評価の対象とする。 3. その他の課題については、講義中に適宜説明する。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 池上彰著『池上彰の世界の見方：東南アジア』小学館、2019。 【参考書】 随時、授業で言及する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準(学習目標) <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の様々な文化圏の中のアジア文化圏の位置づけと特色について理解し説明できる。 2. アジア文化圏の中の東南アジア文化圏の位置づけと特色を理解し説明できる。 3. 東南アジア文化圏以外の多様なアジア文化について理解し説明できる。 4. 興味のあるアジア文化の特色について調査を実施し異文化理解と自文化理解を深めることができる。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加態度 総合点の30% 2 試験(小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の30% 3 提出課題(レポート等) 総合点の40% 			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。 2. iphone, smartphone, 携帯電話, その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんの中にしまうこと。 3. 本学規定により、3/4(4回)以上欠席すると単位の修得が認められないので留意しておくこと(遅延については、遅延証明書を当日又は次回講義までに担当教員に提出すること。遅延の累計回数が多い場合、遅延を認めない場合もあるため、注意すること)。 4. 成績総合評価の内、授業での積極的参加は比重が大きいため、分からないことは積極的に質問し、ディスカッションにも意欲を持って臨むことを勧める。 5. 不正行為への対応等について、本学は、「東京福祉大学・短期大学部 研究活動における不正行為への対応等に関する規程」を平成26年12月4日に制定しています。詳しくは、本学ホームページの大学紹介・研究活動のところを参照してください。文部科学省のガイドラインでは、「学生に対する研究倫理教育」を行うことが要請されているので、皆さんは、大学で自分の学習成果をレポートにしたり発表したりしていくうえでの倫理、つまり、守らなければならない事があります。不正行為としては、1. 捏造(ねつぞう)、2. 改ざん、3. 盗用があります。不正行為については、適宜、処置がなされるので、これらについて十分に注意をして、勉学に臨んでください。 			
13. オフィスアワー	初回授業時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	アジア文化圏の国々の世界での位置づけ。多様な「アジア」の国々・文化について	事前学習	アジア文化圏を構成する国々について各自調べておく。	
		事後学習	講義で説明されたグループ発表について重要事項を確認しながら、形成されたグループで、担当する国について調査を始める。	
第2回	日本とASEANの歴史的関係	事前学習	テキスト pp. 14~47 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。	
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。	
第3回	戦後の日本の経済成長とASEANとの関係	事前学習	テキスト pp. 47~61 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。	
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。	
第4回	ベトナム南北分断の歴史的背景	事前学習	テキスト pp. 64~77 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。	

		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う
第5回	ASEANは共産主義への防波堤？	事前学習	テキスト pp. 77~102を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第6回	シンガポールとマレーシアの関係	事前学習	テキスト pp. 104~120を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第7回	マレーシアとLook East 政策	事前学習	テキスト pp. 120~125を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第8回	インドネシアと東インド会社	事前学習	テキスト pp. 128~146を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第9回	スカルノ大統領とスハルト大統領	事前学習	テキスト pp. 146~162を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第10回	タイの歴史と社会性	事前学習	テキスト pp. 164~179を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第11回	フィリピンの魅力	事前学習	テキスト pp. 179~192を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第12回	ドゥエルテ大統領とフィリピン	事前学習	テキスト pp. 179~192を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第13回	カンボジアの歴史	事前学習	テキスト pp. 194~210を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第14回	ミャンマーの歴史と社会	事前学習	テキスト pp. 210~221を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第15回	ロヒンギャと国際社会	事前学習	テキスト pp. 221~225を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	アジア圏内の国家間の交流について分析し、今後の傾向と動向について考える。

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2単位)	3. 科目番号	GECM1121 GECM1111
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。一定の英単語や文法などの暗記学習も必要だが、表現力に重点を置いた4技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを主な目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。		
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	1. 主体的に学習を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として「授業で扱ったレッスンの練習問題 2. Incomplete Sentences と3. Composition に解答する」を課すので計画立てて実施すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ジョージ・トラスコット他著『そのまま日米比較』南雲堂。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	●成績評価の規準(学習目標) 1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランス良く向上させて、応用できるようになったか。 2. 1.)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解して、表現できるようになったか。 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め、理解することで、説明できるようになったか。 ●評定の方法 試験・レポート:30% 小テスト・発表・スピーチ等:30% 課題(長期休暇課題・レポート等):20% 受講態度等:20%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、英語の総合的運用能力の向上を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対に行わないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	授業中に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点 実力診断テスト	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	実力診断テストで理解の不十分だった点について復習し、知識の定着を図る。
第2回	Lesson 1 Physical Education Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第3回	Lesson2 Sports Clubs Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。

		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第4回	Lesson3 Cultural Differences Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第5回	Lesson4 Haircuts Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第6回	小テスト Lesson5 Music Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第7回	Lesson6 Money Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第8回	Lesson7 Safety Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第9回	Lesson8 Life Expectancy Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第10回	Lesson9 The Metric System Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第11回	小テスト Lesson10 Police Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第12回	Lesson11 Seasons Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第13回	Lesson12 TV Sports Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第14回	DVD鑑賞 ディスカッション	事前学習	期末試験に備え、前回まで読解練習した英文の内容把握ならびに練習問題の復習を行う。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをま

			とめておく。
第15回	DVD鑑賞 ディスカッション 総括	事前学習	期末試験に備え、前回まで読解練習した英文の内容把握ならびに練習問題の復習を行う。
		事後学習	鑑賞した映像作品を参考にアメリカ文化についての理解を深める。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2単位)	3. 科目番号	GECM1311
2. 授業担当教員	田村 エレナ		GECM1121
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。一定の英単語や文法などの暗記学習も必要だが、表現力に重点を置いた4技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを主な目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。		
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として映画「ローマの休日」を用いたリスニング養成課題を課すので計画立てて実施すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ジョージ トラスコット 他『Eye on America and Japan そのまま日米比較』南雲堂。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	●成績評価の規準(学習目標) 1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランス良く向上させて、応用できるようになったか。 2. 1.)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解して、表現できるようになったか。 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め、理解することで、説明できるようになったか。 ●評定の方法 試験・レポート:30% 小テスト・発表・スピーチ等:30% 課題(長期休暇課題・レポート等):20% 受講態度等:20%		
12. 受講生へのメッセージ	学生の皆さんがこの授業を通じて、楽しく積極的に学習経験を積むことができるよう願っている。この機会を活用してアメリカの文化についてできるだけたくさん学ぶことができるよう頑張ってもらいたい。それと同時に英語力も向上させていこう。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Physical education	事前学習	体育の日米比較について何を学習するのか考える。
		事後学習	テキスト(pp.8-9)の練習問題を実施する。
第2回	Sports Clubs	事前学習	スポーツクラブの日米比較について何を学習するのか考える。
		事後学習	テキスト(p.10)の文章を2回リライトする。
第3回	Cultural Differences	事前学習	異文化についてどのくらい興味があるかについて考える。
		事後学習	テキスト(p.14)の練習問題を実施する。
第4回	Continue with the topic on Culture Differences	事前学習	テキスト(p.15)の練習問題を実施する。
		事後学習	異文化についての意見を短い文章にして表現する。
第5回	Haircuts	事前学習	ヘアカットの日米比較について何を学習するのか考える。
		事後学習	テキスト(pp.17-18)の練習問題の答をもう一度確認する。
第6回	Music	事前学習	音楽の日米比較について説明できるようにする。
		事後学習	テキスト(p.20)の練習問題を実施する。
第7回	Music	事前学習	好きな音楽について短い文章にして表現する。
		事後学習	テキスト(pp.20-21)の練習問題を全て繰り返す。
第8回	Money	事前学習	お金の日米比較について何を学習するのか考える。
		事後学習	テキスト(pp.23-24)の練習問題を確認する。
第9回	Safety	事前学習	安全を確保できる手段について考える。
		事後学習	テキスト(p.26)の練習問題を全て繰り返す。
第10回	Safety	事前学習	安全についての意見を短い文章にして表現する。
		事後学習	テキスト(p.27)の練習問題を実施する。
第11回	Life Expectancy	事前学習	寿命の日米比較について考える。
		事後学習	テキスト(pp.29-30)の練習問題を実施する。
第12回	The metric system	事前学習	メートル法について知っていることを整理する。
		事後学習	テキスト(pp.32-33)を読んで練習問題を実施する。
第13回	Police	事前学習	警察の日米比較について何を学習するのか考える。
		事後学習	テキスト(pp.35-36)の練習問題をもう一度実施する。
第14回	Seasons	事前学習	季節の日米比較について知っていることを、短い文章にして表現する。
		事後学習	テキスト(pp.38-39)の練習問題を実施する。
第15回	総括(学期中に扱った内容を全て復習する)	事前学習	既習の全ての文章を読んでおく。
		事後学習	既習の全ての練習問題をもう一度実施する。

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語Ⅱ (外国語活動) (2単位)	3. 科目番号	GECM1312 GECM1322 GECM1112 JNGC1302
2. 授業担当教員	山口 敬雄		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	アメリカの文化と言語Ⅰのクラスで学んだアメリカの文化と言語に関する知識の幅を広げ、アクティブラーニングを取り入れ、楽しく外国語活動を行い使える力へと高める。まず、活動型の授業形態をとり、活動に伴う会話力の技能を、様々な日常生活の場面に応じて基本的なレベルから、より高いレベルへと向上させる。また、コミュニケーション力や人間関係能力を高めるための基本的な表現力を身につける。アメリカの文化を学びながら自国の文化と比較することで、様々な文化を尊重できる素地を養う。		
8. 学習目標	1) 様々な日常生活に必要な活動に応じた教材を適宜使用しながら、英語(表現力)の技能を高め、実生活で外国語を使える力を育成する。 2) 1)を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解する。 3) アメリカの文化事情について多角的に考察を深める。 4) アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	英語の基本的な文法事項を総点検するために、高校英語の入門的な練習問題を毎週課す。学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Alison Baxter, <i>The USA</i> . Oxford University Press (Oxford Bookworms Factfiles: Stage 3). 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	●成績評価の基準(学習目標) 1. 様々な教材を適宜使用しながら、英語の4技能をバランスよく育成することができたか。 2. 1.)を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解することができたか。 3. アメリカの文化事情について多角的に考察を深めることができたか。 4. アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成することができたか。 ●評定の方法 試験・レポート: 30% 小テスト・発表・スピーチ等: 25% 課題(長期休暇課題・レポート等): 20% 受講態度等: 25%		
12. 受講生へのメッセージ	指定した範囲を事前・事後に必ず読んで、予習・復習すること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。辞書を必ず持参すること。		
13. オフィスアワー	初回にアナウンスする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	速やかに教科書を手渡し、必ず90分以上かけて通読する。
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。
第2回	ch. 1: In the Beginning 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、ch. 1のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 1のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第3回	ch. 2: The Pilgrim Fathers 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 2のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 2のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第4回	ch. 3: The War of Independence 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 3のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 3のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第5回	ch. 4: The Civil War 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 4のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 4のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第6回	ch. 5: The Wild West 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 5のテキストにおいて知らない単語を調べ、通

			読み、概要を整理する。
		事後学習	ch. 5 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 7 回	ch. 6: Native Americans 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 6 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 6 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 8 回	ch. 7: New Americans 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 7 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 7 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 9 回	ch. 8: Black Americans 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 8 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 8 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 10 回	ch. 9: The government of the USA 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 9 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 9 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 11 回	ch. 10: Living in the USA 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 10 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 10 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 12 回	ch. 11: Eating and drinking the American way 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 11 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 11 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 13 回	ch. 12: Music from America 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 12 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 12 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 14 回	ch. 13: Some great American cities 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 13 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 13 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 15 回	ch. 14: California 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 14 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 14 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	異文化コミュニケーション教育 (2単位)	3. 科目番号	EIJP2171
2. 授業担当教員	越野 香子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	国際教育コース2年生必修科目		
7. 講義概要	異文化コミュニケーションは、異文化環境下でのコミュニケーションや文化背景が異なる者同士によるコミュニケーション事象などを対象としている。グローバル化の進む国際社会では、越境する人々によって教育環境も多様化し、異文化コミュニケーションの機会は増加している。 本講義では、教育場面での異文化の対人関係を取り上げながら、教育の現状や文化とコミュニケーションの関係、またその影響や対応などについて考えていく。		
8. 学習目標	1. 文化とコミュニケーションの関係について理解することができる。 2. 多様な教育環境について理解することができる。 3. 教育場面における文化の影響について理解することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中話し合われた内容についての感想文を提出課題とし、期末発表に向けての準備も評価の対象となる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 随時、参考資料を配布する。 【参考書】 随時、授業で言及する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (学習目標) 1. 文化とコミュニケーションの関係について理解することができたか。 2. 多様な教育環境について理解することができたか。 3. 教育場面における文化の影響について理解することができたか。 ○評定方法 以下の点を総合的に評価する。 1. 授業態度 総合点の 30%: 積極的な参加、課題の提出状況などにより評価。 2. グループ・ワーク 総合点の 30%: 共同作業での発言、役割貢献などにより評価。 3. 試験・レポート 総合点の 40%: 基礎知識の理解、自身の意見の表出の程度により評価。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は原則として認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。 2. iphone, smartphone, 携帯電話, その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんの中に入れないこと。 3. 本学規定により、3/4 (4回) 以上欠席すると単位の修得が認められないので留意しておくこと (遅延については、遅延証明書を当日又は次回講義までに担当教員に提出すること。遅延の累計回数が多い場合、遅延を認めない場合もあるため、注意すること)。 4. 成績総合評価の内「授業への参加態度」は、授業での積極的参加 (発言等) も含むため、分からないことは積極的に質問し、意見を述べることを勧める。 5. 不正行為への対応等について、本学は、「東京福祉大学・短期大学部 研究活動における不正行為への対応等に関する規程」を平成 26 年 12 月 4 日に制定しています。詳しくは、本学ホームページの大学紹介・研究活動のところを参照してください。文部科学省のガイドラインでは、「学生に対する研究倫理教育」を行うことが要請されているので、皆さんは、大学で自分の学習成果をレポートにしたり発表したりしていくうえでの倫理、つまり、守らなければならない事があります。不正行為としては、1. 捏造(ねつぞう)、2. 改ざん、3. 盗用があります。不正行為については、適宜、処置がなされるので、これらについて十分に注意をして、勉学に臨んでください。		
13. オフィスアワー	授業時に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	「異文化」とは	事前学習	教科書を購入し、目を通しておく
		事後学習	「異文化」について分かったことを自分なりにまとめておく。
第2回	コミュニケーション能力はなぜ必要とされているのか	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	「コミュニケーション」について分かったことを自分なりにまとめておく。
第3回	社会的に構築されたアイデンティティとは	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	「ウチ」と「ソト」の文化について分かったことを自分なりにまとめておく。
第4回	「ホンネ」と「タテマエ」	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑問や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第5回	「帰国児童・子女」とは	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑問や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第6回	「サード・カルチャー」について	事前学習	配布された資料を読んでおく。

		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第7回	「障がい」と共文化	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第8回	「ハラスメント」とコミュニケーション解決	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第9回	コミュニケーション・スタイルと人間関係	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第10回	「ジェンダー」とコミュニケーション	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第11回	「積極性」と「主体性」	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第12回	国際感覚の「ずれ」とは？	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第13回	コミュニケーションを通しての交渉力	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第14回	海外で起こるコミュニケーション問題	事前学習	配布された資料を読んでおく。
		事後学習	議論から学んだ新しい疑念や語彙について分かったことを自分なりにまとめておく。
第15回	まとめ：問題解決への筋道	事前学習	これまでの授業を顧み、今後、異文化接触で起こりうる状況を想定し、どのように適切に対応できるか考える。
		事後学習	まとめから得られた意見を参考に、自分なりにノートを整理しておく。

1. 科目名 (単位数)	医療的ケア実践論 (2 単位)	3. 科目番号	SNMP3110
2. 授業担当教員	山下 喜代美	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義 演習		
6. 履修条件・他科目との関係	「医療的ケア論」と同時に履修すること		
7. 講義概要	<p>医療的ケアを実施するための基本研修となる科目である。</p> <p>喀痰吸引を安全・適切に実施するために必要な、呼吸器の構造と機能、小児と成人の違い、人工呼吸器、吸引の危険性と事後の安全確認、吸引に必要な器具、痰の喀出に伴うケアについて学ぶ。</p> <p>経管栄養を安全・適切に実施するために必要な、消化器の構造と機能、小児と成人の違い、人工呼吸器、経管栄養の危険性と事後の安全確認、経管栄養に必要な器具、経管栄養にケアについて学ぶ。</p> <p>また医療的ケアが必要な人や家族の気持ちとそのケアについても学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸のしくみとはたらきが説明できる 2. 喀痰吸引が必要な状態を説明できる 3. 人工呼吸器装着者の吸引の必要性と留意点が説明できる 4. 消化器のしくみとはたらきが説明できる 5. 経管栄養法が必要な状態を説明できる 6. 経管栄養法の種類を説明できる 7. 医療的ケアが必要な人とその家族の気持ちを理解できる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題</p> <p>課題 1. 喀痰吸引が必要な状態について (400字)</p> <p>課題 2. 経管栄養法が必要な状態について (400字)</p> <p>課題 3. 生活支援の延長としての医療的ケアの実践について (800字)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】武宮敏子監修『医療的ケア』ミネルヴァ書房、2013 年</p> <p>【参考書】久木木香監修『「たんの吸引・経管栄養」がスラスラわかるイラスト学習帳』服部万里子編著『介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド』</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器、消化器のしくみとはたらきを理解できたか 2. 医療的ケアを必要とする状態を理解できたか 3. 喀痰吸引、経管栄養法の実施に伴う基本的な知識を身に付けることができたか <p>○評定の方法</p> <p>[授業で課した課題、期末試験を総合的に評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題 総合点の 20% 2 期末試験 総合点の 80% <p>知識の定着が必要な科目であるため、期末試験に重点を置く。またそのことで知識を身に付ける必要性を認識させ、学ぶ意欲を高めていく。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>介護福祉士に医療的ケアの実施が認められ、その基本研修となる科目です。</p> <p>医療的ケアは、生命に直接関わるケアです。授業には真剣に取り組んでください。</p> <p>授業への取り組む姿勢によっては、単位の修得を認めないこともあります。</p> <p>実技を行うときは、取得できるまで何度も繰り返し行ってください。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 授業概要の説明 喀痰の吸引 経管栄養に必要な知識について	事前学習	シラバスを読み、授業の概要をつかんでおく
		事後学習	必要な知識について整理しておく
第 2 回	呼吸器官の構造と機能	事前学習	呼吸器官の構造を復習しておく
		事後学習	呼吸器官の構造と機能を整理しておく
第 3 回	呼吸状態の観察 正常な呼吸と異常な呼吸、呼吸苦がもたらす苦痛と障害、喀痰吸引が必要な状態、成人と小児の吸引の違い	事前学習	呼吸の観察方法を復習しておく
		事後学習	異常な呼吸の特徴をまとめる 成人と小児の吸引の違いをまとめる
第 4 回	人工呼吸器と吸引 人工呼吸器が必要な状態 課題 1	事前学習	テキスト p. 101 図 2-1-5 人工呼吸器の構造をみておく
		事後学習	課題 1
第 5 回	喀痰吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、喀痰吸引によって生じる危険と事後の安全確認	事前学習	テキスト pp. 109～111 を読み、喀痰吸引を受ける家族の気持ちを考えておく
		事後学習	喀痰吸引によって生じる危険についてまとめておく
第 6 回	喀痰吸引で用いる器具・器材の取り扱い(1) 吸引器の取り扱い	事前学習	テキスト p. 122 図 2-2-5 吸引に必要な物品を理解しておく
		事後学習	器具の名称を覚える
第 7 回	喀痰吸引で用いる器具・器材の取り扱い(2) 吸引圧の調整 模擬痰の吸引	事前学習	器具の取り扱いのポイントを復習しておく
		事後学習	器具の取り扱いをまとめる
第 8 回	消化器官の構造と機能	事前学習	消化器官の構造と機能を復習しておく
		事後学習	消化器官の構造を整理しておく
第 9 回	消化と吸収 消化器症状の観察	事前学習	消化と吸収について復習しておく

2020年度

	経管栄養が必要な状態 課題2	事後学習	課題2
第10回	経管栄養法の種類 成人と小児の経管栄養法の違い	事前学習	テキスト pp. 151～152 を読み、経管栄養法の概要を理解しておく
		事後学習	成人と小児の経管栄養法の違いをまとめる
第11回	経管栄養法を受ける利用者や家族の気持ちと対応、経管栄養法によって生じる危険と事後の安全確認	事前学習	テキスト pp. 164～165 を読み、経管栄養法を受ける家族の気持ちを理解しておく
		事後学習	経管栄養法によって生じる危険をまとめておく
第12回	経管栄養剤の準備	事前学習	テキスト p. 155 表 3-1-1 栄養剤の種類、形状、作用を理解しておく
		事後学習	経管栄養剤の準備の留意点をまとめる
第13回	経管栄養法で用いる器具・器材の取り扱い(1) イルリガートル 栄養点滴チューブ シリンジ の取り扱い	事前学習	テキスト p. 153 図 3-1-6 をみて、必要な器材を理解しておく
		事後学習	器具・器材の名称を覚える
第14回	経管栄養法で用いる器具・器材の取り扱い(2) 滴下量の調整	事前学習	器具・器材の取り扱いを復習しておく
		事後学習	器具・器材の取り扱いをまとめる
第15回	医療的ケアについてのまとめ (介護福祉士として、医療的ケアを実践する責任と自覚) 課題3	事前学習	医療的ケアとは何か自分の言葉で説明できるようにしておく
		事後学習	課題3
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医療的ケア論 (2単位)	3. 科目番号	SNMP3109
2. 授業担当教員	山下 喜代美		
4. 授業形態	講義 演習 実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「医療的ケア実践論」と同時に履修すること		
7. 講義概要	医療的ケアを実施するための基本研修となる科目である。 医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防、健康状態の把握など、医療的ケアを安全に、適切に実施するための基礎を学ぶ。		
8. 学習目標	1. 医療の倫理について説明できる。 2. チーム医療と介護職の連携について説明できる。 3. 感染予防について説明できる。 4. 無菌操作法での器具の取り扱いができる 5. 健康状態を把握し、急変時の状態が説明できる。 6. 救急蘇生法について説明できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1. チーム医療と介護職の連携について(レポート600字にまとめる) 課題2. スタンダードプリコーションについて(レポート600字にまとめる) 課題3. 救急蘇生法の手技をまとめる(レポート1000字にまとめる)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】武宮敏子監修『医療的ケア』ミネルヴァ書房、2013年 【参考書】久良木香監修『「たんの吸引・経管栄養」がスラスラわかるイラスト学習帳』服部万里子編著『介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド』		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 医療的ケアを実施するための法制度、倫理、関連職種との協働について理解できたか 2. 医療的ケアを実施するうえでの基本的な感染予防、健康状態の把握を理解できたか 3. 救急蘇生法を理解できたか ○評定の方法 [授業への積極的参加度、授業で行う豆テスト、期末試験を総合的に評価する] 1 課題 総合点の20% 2 期末試験 総合点の80% 知識の定着が必要な科目であるため、期末試験に重点を置く。またそのことで知識を身に付ける必要性を認識させ、学ぶ意欲を高めていく。 基本研修で義務づけられていることから、救急蘇生法を実施しなかった者は、単位を修得することはできない。		
12. 受講生へのメッセージ	介護福祉士に医療的ケアの実施が認められ、その基本研修となる科目です。 医療的ケアは、直接生命に関わるケアです。授業には真剣に取り組んでください。 授業への取り組む姿勢によっては、単位の修得を認めないこともあります。 実技は、修得できるまで何度も繰り返し行ってください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス、授業概要の説明、 喀痰吸引とは何か、経管栄養とは何か 保健医療に関する制度 医行為に関する法律	事前学習	吸引、経管栄養とは何か、調べておく
		事後学習	医行為に関する法律についてまとめておく
第2回	個人の尊厳と自立 医療の倫理：医療の倫理、自己決定、説明と同意、個人情報保護	事前学習	テキスト pp. 33～35 を読んで、医療倫理の概要をつかんでおく
		事後学習	倫理的ジレンマについてまとめておく
第3回	チーム医療と介護職の連携 記録と報告 (レポート課題1)	事前学習	チームにおけるコミュニケーションについて復習しておく
		事後学習	課題1
第4回	安全な喀痰吸引と経管栄養 喀痰の吸引と経管栄養を実施することに伴う危険性、安全な実施の重要性について リスクマネジメント リスクマネジメントの考え方や枠組み ヒヤリハット、アクシデント報告書について	事前学習	テキスト pp. 52～53 を読み、リスクマネジメントの考え方を理解しておく
		事後学習	喀痰の吸引と経管栄養を実施することに伴う危険性をまとめる
第5回	感染症とは、感染の成り立ちとその予防 感染予防① スタンダードプリコーションについて、手洗い、ガウンテクニック (課題2)	事前学習	スタンダードプリコーションを復習しておく
		事後学習	課題2
第6回	感染予防② 地域集団、施設・組織としての予防策、療養環境の清潔、汚染物 医療廃棄物の処理	事前学習	テキスト p. 73 表 1-4-6 を見て、施設内の環境整備を理解しておく
		事後学習	汚染物の処理方法をまとめる
第7回	感染予防③ 消毒法、滅菌と消毒、	事前学習	テキスト p. 65 表 1-4-1 を読んで、用語を理解しておく
		事後学習	無菌操作法の手順をまとめる

2020年度

	無菌操作での器具の取扱い		
第8回	無菌操作での器具の取り扱いの実践	事前学習	無菌操作方法を復習しておく
		事後学習	無菌操作方法のポイントをまとめる
第9回	感染予防④ 職員の感染予防 感染の兆候	事前学習	実習の手引き pp. 27～31 の感染症を復習しておく
		事後学習	感染の徴候についてまとめる
第10回	感染予防⑤ 喀痰の吸引 経管栄養に関する感染症とその予防	事前学習	喀痰の吸引、経管栄養とは何か、復習しておく
		事後学習	喀痰の吸引、経管栄養に関する感染症をまとめる
第11回	感染予防⑥ 気管カニューレ、吸引カテーテル 経管栄養チューブ イルリガートル の清潔保持	事前学習	テキスト pp. 176～177 経管栄養に必要な物品をみておく
		事後学習	物品の清潔保持についてまとめておく
第12回	健康状態の把握 バイタルサインと健康状態の観察	事前学習	バイタルサインの正常値を復習しておく
		事後学習	観察のポイントをまとめる
第13回	急変時の対応 急変状態と観察 急変時の対応 救急蘇生法について学習する	事前学習	救急蘇生法について復習しておく
		事後学習	急変状態をまとめる
第14回	救急蘇生法の実際	事前学習	急変時の対応を復習しておく
		事後学習	救急蘇生法のポイントをまとめる
第15回	救急蘇生法の実際 (課題3)	事前学習	救急蘇生法の手順を確認しておく
		事後学習	課題3
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語学演習Ⅱ (意味論) (2単位)	3. 科目番号	EDEN3305
2. 授業担当教員	阿部 裕子		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語学の1つの分野である意味論 (Semantics) に焦点を当てて学習する。まず、意味論は言語 (日常言語) の意味を研究対象とするが、本講座では、「意味の分析」「意味関係」「テキストと意味」「意味変化」などの分野を取り上げる。このような分野を通して、言葉の意味、日常語の曖昧性と類似性、いくつかの文からなる「テキスト」(「談話」ともいう)の構造、意味の変化の原因や分類などの考察を試みる。そして意味論の学習を通して、英語の音声の仕組み・英文法・英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を知り、理解を深めていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解している。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について学習し理解している。 3. 意味関係について学習し、意味の曖昧さの原因を知り、同義性と反意性の理解を深め、英語の語彙指導を行う際の留意点について考察できる。 4. 意味変化の原因と分類の仕組みを学習し、英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を理解することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	プレゼンテーションとレポート課題 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「意味関係」に関連するプレゼンテーション 2. 意味論の英語教育への応用に関するレポート 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 池上嘉彦『テイクオフ英語学シリーズ3 英語の意味』大修館書店。 【参考書】 松本曜『認知意味論』大修館書店。 山内信幸・北林利治 共編著 『現代英語学へのアプローチ』英宝社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解しているか。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について学習し理解しているか。 3. 意味関係について学習し、意味の曖昧さの原因を知り、同義性と反意性の理解を深め、英語の語彙指導を行う際の留意点について考察できるか。 4. 意味変化の原因と分類の仕組みを学習し、英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を理解することができるか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・積極的参加度 総合点の30% 2 復習テスト・レポート 総合点の30% 3 期末テスト 総合点の40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意味論は大変興味深い分野であり、語学教育への応用が可能です。授業研究や教材開発にも、意味論学んだことを積極的に活用してみてください。 2. 本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は、単位の修得は基本的に認められない。 3. 遅延の場合は、遅延証明書を授業の終わりまでに担当教員に提出すること。なお、遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため、注意すること。 		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction 講義概要・学習目標・学習方法 1. 日常の言語生活の中の「意味論」	事前学習	第1章(pp.3~)を読み、重要語句に印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、意味論の全体像を把握する。
第2回	2. 意味の本質 ①概念的意味 ②感情的意味 ③文法的意味 ④意味の分析としての成分分析	事前学習	意味の本質について、配付プリントに目を通す。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第3回	3. 意味関係 ①意味のあいまいさ：同音性と多義性	事前学習	教科書の pp.4~5, p.9を読み、「同音性」と「多義性」について理解する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第4回	3. 意味関係 ②意味の類似性 (同義性) : ○意味のずれ (上下関係、非両立性) ○文体的価値のずれ	事前学習	教科書の第4章の「意味の類似性」を読み、配付プリントの説明に目を通す。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第5回	3. 意味関係 ③反意性 1. 相補的な関係に基づくもの 2. 連続した尺度に基づくもの 3. 反対関係に基づくもの	事前学習	教科書の第4章及び配付プリントの「反意性」に目を通し、以下の3つの枠組みに注意を払うこと。 1. 相補的な関係に基づくもの 2. 連続した尺度に基づくもの 3. 反対関係に基づくもの
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第6回	4. 意味とコンテクスト 話し手と聞き手が特定の場面で発する表現、すなわち、発話の意味を理解するための4つの仕組みの理解。 ①指示機能 ②発話行為	事前学習	第6章を読み、「意味とコンテクスト」について理解する。話し手と聞き手が特定の場面で発する表現、すなわち、発話の意味を理解するため、4つの仕組みについて事前に教科書の説明をよく読んでおくこと。 ①指示機能 ②発話行為 ③背景となる知識 ④会話の原則

	③背景となる知識 ④会話の原則	事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第7回	5. テキストと意味 ①テキストの定義 ②テキスト構造(マイクロ構造、マクロ構造)。 テキストとは、「いくつかの文からなるもの」の事を言い、文と文のつながりや段落間の関連性(cohesion & coherence)について学習する。	事前学習	「テキストと意味」に関する印刷教材を読み、提示された英文の内容を理解する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第8回	5. テキストと意味 ③印刷教材を使用し、実際に英文でテキスト構造を確認する。	事前学習	配付されたプリントの英文の内容を理解し、テキスト構造について考えてみる。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第9回	6. 意味変化 (第7章) ①語の意味変化:意味は時と共に変化する。Key Words は、意味の特殊化、意味の一般化、意味の向上、意味の下落。	事前学習	第7章を読み、語の意味変化として、以下の4点について理解する。 ①意味の特殊化 ②意味の一般化 ③意味の向上 ④意味の下落。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第10回	6. 意味変化 (第7章) ②意味変化の原因:語の意味はなぜ変化するのかを考察する。例、社会における語の移動、語の意味と指示物とのずれ、語彙体系の変化など。	事前学習	第7章の意味変化の原因をよく読み、①社会における語の移動 ②語の意味と指示物とのずれ ③語彙体系の変化について理解する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第11回	6. 意味変化 (第7章) ③意味変化の仕組み:元の意味と新しい意味との関係を考察する。Key Words は意味の類似性、近接性、語形の類似性、語形の近接性など	事前学習	第7章の意味変化の仕組みをよく読み、意味の類似性、近接性、語形の類似性、語形の近接性などについて理解する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第12回	7. 意味論の初等教育への応用:これまで学んできたことが小学校の英語教育にどのように活用できるか、考察する。	事前学習	意味論の分野で、小学校の英語教育への応用が可能な分野や内容を事前に選択し、英文は音読練習をしておくこと。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第13回	8. 意味論の中等教育への応用:これまで学んできたことが、中学校や高等学校の英語教育にどのように活用できるか、考察する。	事前学習	意味論の分野で、中学校や高校の英語教育への応用が可能な分野や内容を事前に選択し、英文は音読練習をしておくこと。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第14回	9. 意味論の英語教育への応用:これまで学んできたことが、小学校・中学校・高校学校での英語教育にどのように活用できるか、発表する。	事前学習	グループ発表の準備をする。実際に声を出して練習し、間の取り方を確認し、質疑応答が英語で出来るよう準備をする。
		事後学習	グループ発表を通して学んだこと、気づいたことを振り返りシートに書き留めておく。
第15回	10. 総まとめ 15回の授業のポイントの確認と質疑応答	事前学習	これまでに学習したことをよく復習し、質問内容を考える。
		事後学習	期末テストに備え、知識の整理を行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位 数)	英語科指導法Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	EDEN3342
2. 授業担当教員	志手 和行		
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「英語科指導法Ⅰ」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	英語科指導法Ⅰで学んだことを踏まえ、教育実習に必要な実践的な知識を身につけることを目標とする。授業の構成は以下になる。まず、学習者及び、言語活動のポイントに応じて、授業が展開できるよう、基本的な知識や指導技術を学び、次に、学んだことや自分で行なった教材研究の成果を生かして、指導案を作成する。この指導案に基づいて、模擬授業を展開し、自己及び相互評価、ディスカッションを通して、授業の改善の可能性を探る。最後に、より良い授業を目指して、教授法と教授技術の学びを深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できる。 2. 教材研究 (教科用図書等) を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができる。 3. 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を踏まえた形で、領域別の学習到達目標、指導計画、そして評価規準を設定し、実際に指導案を作成できる。 4. 模擬授業の体験を通じて、英語でのインタラクションを指導に生かすことができる。 5. ICTを含む視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の指定した範囲を読んでもらう。 2. 文法の指導力向上のため、学期中に文法解説演習を数回課す。 3. 教育実習本番を想定した形で、冬期休暇中の課題として英語科の学習指導案を作成してもらおう。 4. 実施した模擬授業から得た知見を主に活かして50分授業の学習指導案を最後に作成してもらおう。 		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 米山朝二・杉山敏・多田茂 共著『英語科教育実習ハンドブック 改訂版』大修館書店。</p> <p>【参考書】 教育実習を考える会『教育実習生のための学習指導案作成教本 英語科[改訂版]』蒼岡書店。</p> <p>【参考資料】 文部科学省『小学校学習指導要領外国語活動・外国語編』開隆堂。 文部科学省『中学校学習指導要領外国語編』開隆堂。 文部科学省『高等学校学習指導要領外国語編』開隆堂。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できるようになったか。 2. 教材研究 (教科用図書等) を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができるようになったか。 3. 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を踏まえた形で、領域別の学習到達目標、指導計画、そして評価規準を設定し、実際に指導案を作成できるようになったか。 4. 模擬授業の体験を通じて、英語でのインタラクションを指導に生かすことができるようになったか。 5. ICTを含む視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができるようになったか。 <p>○評定の方法 以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コースワーク (授業中の態度・積極的参加度、ペア、グループワーク等) 総合点の20% 2. 指導案作成 総合点の30% 3. 模擬授業 総合点の25% 4. 期末テスト 総合点の25% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>翌年度実施する教育実習に備える上で、当授業はとても重要な位置付けにある。実習校で担当する生徒に自信を持って教えることができるよう目指そう。模擬授業の機会を多く設けることで教える立場から考えられるようにできるだけ促していく。皆さんの方でも友達同士で教え合う練習をするなど、教える機会を是非積極的に作ってみて欲しい。授業内外で能動的に取り組みながら、自分の英語力と授業実践力を培ってもらいたい。</p>		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	これまで英語科指導法Ⅰで扱った英語教育に関する基礎知識をまとめて整理しておく。
		事後学習	授業の流れをつかみ、学習の準備を始める。
第2回	第1章 教育実習に臨んで 第2章 観察参加	事前学習	教育実習に臨む上での重要点を英語科指導法Ⅰで学んだことを基に考えてみる。
		事後学習	教育実習において留意すべき事項を押さえ、整理しておく。
第3回	第3章 授業準備	事前学習	テキスト第3章を読んで授業準備についての概要を理解する。
		事後学習	教材研究の方法について、実際に検定教科書を使って

			実践してみる。
第 4 回	第 4 章 指導案の作成 (評価計画も含む) 第 5 章 指導案 (1) —中学校編 第 6 章 指導案 (2) —高等学校編	事前学習	指導案の例を数多く観察することで様々な形式に慣れる。
		事後学習	学習指導要領の理念を踏まえた上で、指導案の作成方法について様々な指導事例を参考にして理解を深める。
第 5 回	第 7 章 授業の工夫 (1) —Warm-up と Review	事前学習	第 7、8 章を読んで、授業の導入についての概要を理解する。
		事後学習	教える立場で、どのように授業を導入するか考えを発展させる。
第 6 回	第 8 章 授業の工夫 (2) —文法・文型の導入	事前学習	文法の導入について、中・高等学校での学習経験と比較してみる。
		事後学習	文法事項の種類によって効果的な導入方法があることを押さえる。
第 7 回	第 9 章 授業の工夫 (3) —文法・文型の練習と発展活動	事前学習	第 9、10 章を読んで、文法の練習活動と語彙の導入・指導についての概要を理解する。
		事後学習	模擬授業で自分が教える予定の文法をどのように導入し、練習していくべきかについて考えを発展させていく。
第 8 回	第 10 章 授業の工夫 (4) —語彙の導入と指導	事前学習	語彙の導入について、中・高等学校での学習経験と比較してみる。
		事後学習	語彙指導の重要性を再度認識して、模擬授業での指導方法について考えを発展させていく。
第 9 回	第 11 章 授業の工夫 (5) —本文の読解指導 (1)	事前学習	第 11 章を読んで、読解指導についての概要を理解する。
		事後学習	読解指導における段階指導を理解し、模擬授業への活用に努める。
第 10 回	第 11 章 授業の工夫 (5) —本文の読解指導 (2)	事前学習	読解指導について、中・高等学校での自らの学習経験と比較してみる。
		事後学習	模擬授業で読解指導をどのように展開していくかについて考えを発展させていく。
第 11 回	第 12 章 教材・ICT の活用 第 13 章 教室管理	事前学習	第 12 章を読んで、教材・ICT の活用と教室管理の概要を理解する。
		事後学習	教育機器を自分の模擬授業でどのように活かすかについて考えを発展させていく。
第 12 回	第 14 章 発展	事前学習	ティームティーチングについて中・高等学校での自らの学習経験と比較してみる。
		事後学習	実習先で ALT と協働する際の留意点を整理し、実践できるよう準備をしておく。
第 13 回	模擬授業第 1 回目 (1) Warming-up & Review (授業展開方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第 14 回	模擬授業第 1 回目 (2) Warming-up & Review (授業内活動実践)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第 15 回	模擬授業第 1 回目 (3) Warming-up & Review (授業観察眼養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第 16 回	模擬授業第 1 回目 (4) Warming-up & Review (各要素の目標理解)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第 17 回	模擬授業第 2 回目 (1) Grammar (授業観察)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第 18 回	模擬授業第 2 回目 (2) Grammar (授業観察眼養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第 19 回	模擬授業第 2 回目 (3) Grammar (文法の導入方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から

			学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第20回	模擬授業第2回目(4) Grammar (文法の練習方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第21回	模擬授業第2回目(5) Grammar (文法の発展練習方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第22回	模擬授業第2回目(6) Grammar (文法指導から4技能の養成方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第23回	模擬授業第2回目(7) Reading (授業観察)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第24回	模擬授業第2回目(8) Reading (授業観察眼養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第25回	模擬授業第2回目(9) Reading (読解指導のPre-reading)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第26回	模擬授業第2回目(10) Reading (読解指導のIn-reading)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第27回	模擬授業第2回目(11) Reading (読解指導のPost-reading)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第28回	模擬授業第2回目(12) Reading (読む技能から他の技能への発展養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第29回	模擬授業総括	事前学習	これまでの模擬授業を振り返る。
		事後学習	模擬授業を通じて学んだことを、実習準備に活かせるようにしていく。
第30回	全体総括(英語教育の現状と今後の展望を踏まえて)	事前学習	教育実習に向けての必要事項を改めて考える。
		事後学習	実習に向けてすべきことを着実にこなせるよう計画立てた準備ができるようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習Ⅱ (文法・読解) (2単位)	3. 科目番号	EDEN1302
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	演習 (ペアワーク)、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英文法の基本的な事項を図式的にまた日本語の文法と比較しながら学習することで理解を深めていくことにまず焦点を置く。また、英文法の基本的な事項を学習して、英文を読む基礎を身につけるため、リーディング用の教材が用意されている。この講読作業の中で、英語学とりわけ英語の英文法のほかに音声の仕組み・英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を学習し英語教員として必要な基礎的かつ総合的な英語学的知見を修得する。		
8. 学習目標	1. 英語の音声の仕組みについて理解している 2. 英語の文法について理解している 3. 英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解している		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	家庭学習：予め教科書の練習問題に解答しておくこと。 冬期休暇課題：英文法の問題演習		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 木村啓子他著『Laugh and Learn』南雲堂。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・英語の音声の仕組みについて理解できたか。 ・英語の基礎的な文法事項を理解できたか。 ・英語の歴史の変遷を踏まえ、国際共通語としての英語の実態について理解できたか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。] 1 授業態度 総合点の15% 2 試験 総合点の75% 3 宿題 総合点の10%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、大学生に求められる基礎的な英語力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点 実力診断テスト。	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	実力診断テストで理解の不十分だった点について復習し、知識の定着を図る。
第2回	Unit 5 文型と文の要素 実力診断 練習問題1～5 It Hurts!	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第3回	Unit 6 進行形 実力診断1～2 練習問題1～5 Cold Cream	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第4回	Unit 7 受動態 実力診断1～2 練習問題1～5 Diet Problem	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第5回	Unit 8 助動詞(1) will, can, may	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文

	実力診断1～2 練習問題1～6 Memory Problem(1)		と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第6回	小テスト Unit 9 助動詞(2) should, must, 助動詞+完了形 実力診断1～2 練習問題1～3	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第7回	Unit 9 助動詞(2) should, must, 助動詞+完了形 練習問題4～6 Memory Problem(2)	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第8回	Unit 10 現在完了 実力診断1～2 練習問題1～6 A Good Chess Player	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第9回	Unit 11 動名詞と to 不定詞(名詞的用法) 実力診断1～2 練習問題1～6 A Mime in a Zoo(1)	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第10回	Unit 12 to 不定詞(形容詞的用法、副詞的用法) 実力診断1～2 練習問題1～6 A Mime in a Zoo(2)	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第11回	小テスト Unit 13 分詞 実力診断1～2 練習問題1～3	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第12回	Unit 13 分詞 練習問題4～6 A Mime in a Zoo(3)	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第13回	Unit 14 第5文型 実力診断1～2 練習問題1～3	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第14回	Unit 14 第5文型 練習問題4～6 A Snail's Fast New car	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第15回	基礎英文法についてのまとめ ディスカッション 「国際共通語としての英語教育について」	事前学習	期末試験に備え、練習問題の復習と読解練習した英文の内容把握を行う。
		事後学習	英文法の基礎力を養い、音声の仕組みについて理解することができたか確認する。国際共通語としての英語教育のありかたについて考察する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	EDEN1312
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	講義、グループ学習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この授業では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、精確に英文を読む力を身につけて、中学校または高等学校で教育実習を確実にこなし、中学・高校教諭一種免許を取得できるようにすることをめざす。さらに英語圏文学と文化の基礎的な知識を習得して、英語圏文学独自の世界の魅力を味わい、文学および文化に対する関心を高めることも目的とする。この授業を履修することによって得られた文学に関する知識は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際、実践的に役立つ。また異文化への理解は、21世紀の現代的問題を多角的に考察する上でも役に立つ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学・高校教諭一種免許が取得できるように、英語の学力を身につける。 2. 英文法を応用して構文を確認しながら、英文を読んで意味内容を把握する力を身につける。 3. 英語圏文学の基礎的な知識が習得できる。 4. 英語圏文化について理解し考察することができる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	家庭学習：各自に和訳を発表してもらうので、周到に準備しておくこと。 レポート課題：授業で扱う作品から一作品を選び、ブックトークの原稿・読書感想画・マップ等を作成すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 S. ゲイツ著『総合・英米児童文学への招待』英宝社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学・高校教諭一種免許が取得できるようになるための英語の学力が身についたか。 2. 英文法を応用して構文を確認しながら、英文を読んで意味内容を把握する力が身についたか。 ○評定の方法 期末試験 (50%)、小テスト (25%)、レポート課題 (15%)、授業中の態度 (10%) の結果を総合して判定する		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	はじめに 実力診断テスト	事前学習	Chapter 1 について、英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	実力診断テストで理解が不十分だった箇所について再検討し、理解を深める。
第2回	Chapter 1 <i>Huckleberry Finn</i> , pp. 7-9. 読解練習 *作品の舞台「ミシシッピ川流域 (アメリカ)」の文化	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第3回	Chapter 1 Exercises, pp. 10-12. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第4回	Chapter 3 <i>Anne of Green Gables</i> , pp. 19-21. 読解練習 *作品の舞台「プリンス・エドワード島 (カナダ)」の文化	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第5回	Chapter 3 Exercises, pp. 22-25. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第6回	小テスト DVD鑑賞	事前学習	小テストの準備を十分に行う。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。

第7回	Chapter 4 <i>Treasure Island</i> , pp. 27-29. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第8回	Chapter 4 Exercises, pp. 30-32. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第9回	Chapter 6 <i>Peter pan</i> , pp. 39-41. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第10回	Chapter 6 Exercises, pp. 42-44. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第11回	小テスト DVD鑑賞	事前学習	小テストの準備を十分に行う。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第12回	Chapter 10 <i>Paddington</i> , pp. 63-65. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第13回	Chapter 10 Exercises, pp. 66-68. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第14回	ディスカッション「児童・生徒への効果的な読書指導について」	事前学習	前回まで読解練習した全体の内容を把握する。
		事後学習	ディスカッションをとおして学んだことを整理し、発表できるようにしておく。
第15回	ブックトーク等発表 まとめ「英語圏児童文学が扱うテーマや主題について」	事前学習	発表の準備を十分に行う。期末試験に備え、前回まで読解練習した英文の内容把握ならびに練習問題の復習を行う
		事後学習	この授業で得た読書体験を、教育現場での読書指導に、どのように活かしたらよいか考えてみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅲ (2単位)	3. 科目番号	EDEN1303
2. 授業担当教員	阿部 裕子		
4. 授業形態	講義、グループ学習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのためDavid Crystalの英語の歴史に関する本を講読し、古英語から現代英語までの英語の歴史を概観しつつ、英語の特徴を把握していく。この講読作業の中で、英語の文章構造を速やかに把握する方法を身につけ、英語学とりわけ、英語の音声の仕組み・英文法・英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の役割を考察する。		
8. 学習目標	1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解している。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について学習し理解している。 3. 英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態を学習し理解している。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：授業の予習と復習 (事前学習と事後学習の欄を参照してください。) レポート：(A4用紙1枚) 1. Old Englishについて要点をまとめなさい。 2. Middle Englishについての特徴をまとめなさい。 3. Modern Englishについて特徴をまとめなさい		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 David Crystal 著 西出公之 註 『A History of The English Language』成美堂。 【参考書】 中尾俊夫・寺島勉子『An Illustrated History of English 図説英語史入門』大修館書店。 山内信幸・北林利治 共編著 『現代英語学へのアプローチ』英宝社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解しているか。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について理解しているか。 3. 英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態を理解しているか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する。 1. コースワーク (20%) : 授業中の態度・活動参加度。 2. 小テスト・レポート課題 (40%) 3. 期末テスト (40%) なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 英語は積み重ねの教科です。日々の努力が、近い将来実を結びます。コツコツ努力を続けてください。 2. 英文は、一文一文ではなく段落単位でまず読み、その後分からない単語の意味や慣用語を調べ、内容の理解に努め、学んだ単語や表現は、教育実習で英語を教える時すぐ役立つようにしっかり覚えましょう。 3. 受講の心構えとしては、常に他の受講生の事を思いやり、落ち着いて授業を受け、与えられている学習の機会を最大限に活用し、積極的に学んでください。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction : 講義概要・学習目標・学習方法・英文講読法 1. The Origins of English (p.1~)	事前学習	はしがきと目次を読み、これから学ぶ「英語の歴史」の全体像を把握する。次に1章 (pp.1~3) を読み、英語の起源に関する理解を深める。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第2回	2. Old English (pp. 6~44) 2.1 The Early Period (pp.6~8) 2.2 Old English Letters (pp.17~20)	事前学習	2章 2.1~ 2.2を読み、古英語の文字と発音の特徴を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第3回	2.3 Old English Sounds (pp.20~24) 2.4 Some Features of Old English Grammar (pp.24~31) 2.5 Old English Vocabulary (pp.31~32) 2.6 Lexical Invasion (pp.35~39)	事前学習	2章 2.3~2.6を読み、古英語の音声・文法・語彙の特徴を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第4回	復習テスト (1) 3. Middle English (pp.45~82) Historical Background (pp.45~48) 3.1 The Transition from Old English (pp.48~51) 3.2 Middle English Spelling (pp.61~64)	事前学習	3章の中英語の歴史的背景、古英語と中英語の主要な相違、及び中英語のつづりについて把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第5回	3.3 Middle English Sounds (pp.66~69) 3.4 Middle English Grammar (pp.70~71) 3.5 Middle English Vocabulary (pp.71~74)	事前学習	3章の3.3~3.5を読み、中英語の音声・文法・語彙の特徴を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第6回	復習テスト (2) 3.6 The Origin of Standard English (pp.78~82) グループ発表・まとめ	事前学習	3.6 標準英語の起源を読み、要点を把握する。 グループ発表の準備
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。

第7回	4. Early Modern English (pp. 83~110) 4.1 The Age of Bibles (p. 85) 4.2 English During the Renaissance (pp. 85~87) 4.3 The Influence of Shakespeare (p. 87~88)	事前学習	4章の序文から4.3までを読み、近代英語の特徴・当時の聖書・ルネッサンス期の英語、及びShakespeareの影響を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第8回	4.4 The King James Bible (pp. 88~92) 4.5 The Emerging Orthographic System (pp. 93~95) 4.6 Renaissance Punctuation (pp. 96~97)	事前学習	4.4から4.6を読み、近代英語の時代における欽定訳聖書、正字法、句読法の要点を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第9回	4.7 Sound Changes (pp. 97~100) 4.8 Early Modern English Grammar (pp. 100~105)	事前学習	4.7から4.8を読み、近代英語の時代における発音の変化(大母音推移)と文法の特徴を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第10回	復習テスト(3) 5. Modern English (pp. 111~127) Introduction, Grammatical Trends	事前学習	5章(pp. 111~113)を読み、近代英語と現代英語の文法上の相違を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第11回	5.1 New Nation, New Themes (pp. 117~120) 5.2 American Identities (pp. 120~121)	事前学習	5.1から5.2を読み、要点を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第12回	5.3 Variety Awareness (pp. 122~123) 5.4 In Living Memory (pp. 124~127)	事前学習	5.3から5.4を読み、要点を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第13回	6. World English (pp. 128~153) 6.1 The New World (pp. 128~130) 6.2 Dialect Differences (pp. 130~135) (1) Introduction. (pp. 130~132)	事前学習	6章の6.1から6.2を読み、要点を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第14回	6.2 (2) Linguistic Diversity, Canada (pp. 132~135)	事前学習	6.2の(2)(pp. 132~135)を読み、要点を把握する。
		事後学習	授業中学んだことをよく復習し、要点を英語と日本語を併用し、図式化してまとめておく。
第15回	6.3 A World Language (pp. 149~152) 6.4 Standard English (pp. 152~153) まとめ	事前学習	6.3から6.4を読み、要点をまとめておく、
		事後学習	15回の授業で学んだことをよく復習し、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読V (2単位)	3. 科目番号	EDEN2312
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	演習、グループ学習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語圏の小説や英語のリーディングテキストを教材として使用し、習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文の英文を読む力を身につける。ストーリーの面白さを味わいながら、英語で物語を読む楽しさを体験すること、歴史上の人物のライフストーリーを追体験しながら、他者への想像力を鍛えることを目的とする。この授業を履修することによって得る読書体験は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際に必ず役立つ。また、言語の背景に潜在する歴史や文化を理解することにより、異文化圏の人々とコミュニケーションする際にも役に立つ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の基本事項を確認し、英語の読解力を身に付ける。 2. 英語圏の小説や歴史、文化に関する理解を深めることができる。 3. 多様な英語表現に親しみ、異文化コミュニケーションに活用できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	家庭学習：各自に和訳を発表してもらうので、周到に準備しておくこと。 レポート課題：『シャーロック・ホームズの冒険』に関するブックトークの原稿・読書感想画・マップ等を作成すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 田中康裕注解『シャーロック・ホームズの冒険』英光社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の基本事項を確認し、英語の読解力を身に付けることができたか。 2. 英語圏の小説や歴史、文化に関する理解を深めることができたか。 ○評定の方法 期末試験 (50%)、小テスト (25%)、レポート課題 (15%)、授業中の態度 (10%) の結果を総合して判定する。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	はじめに 実力診断テスト	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	実力診断テストで不正解だった問題について再検討し、理解を深める。
第2回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp. 1-3. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第3回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp. 4-6. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第4回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp. 7-9 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第5回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp. 10-12. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第6回	小テスト DVD鑑賞	事前学習	小テストの準備を十分に行う。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。

第7回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp. 13-16. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第8回	<i>The Red-Headed League</i> , pp. 47-49. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第9回	<i>The Red-Headed League</i> , pp. 50-52. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第10回	<i>The Red-Headed League</i> , pp. 53-55. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第11回	小テスト DVD鑑賞	事前学習	小テストの準備を十分に行う。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第12回	<i>The Red-Headed League</i> , pp. 56-58. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第13回	<i>The Red-Headed League</i> , pp. 59-61. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第14回	<i>The Red-Headed League</i> , pp. 62-63. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第15回	ディスカッション「本作品の語り的手法について」及びまとめ「シャーロック・ホームズの魅力について」	事前学習	前回まで読解練習した物語全体の内容を把握する。
		事後学習	この授業で得た読書体験を、教育現場での読書指導に、どのように活かしたらよいか考えてみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読VI (2単位)	3. 科目番号	EDEN2303
2. 授業担当教員	志手 和行		
4. 授業形態	講義、演習、ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	本講座の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語の地域性の相違、言語使用域、母語習得、言語接触及び借用といった英語学に関する小論文を講読し英語の特徴を把握していく。この講読作業の中で、英語の文章構造を速やかに把握する方法を身につけ、英語学とりわけ英語の音声の仕組み・英文法・英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を学習し理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解している。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について学習し理解している。 3. 英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態を学習し理解している。 4. 英文の要点をまとめ、他文化や他言語と比較し、類似点や相違点を発見し、自分の考えを表現することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の問題を毎回課す。 2. 読解力を更に高めるため、長期休暇中の課題として英語の文章読解の問題演習を課す。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Denise Kirby 他『Break Away 2 最新速読演習 -実践編-』成美堂、2018。 【参考書】 各自英和辞書を持参すること。詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解しているか。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について理解しているか。 3. 英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態を理解しているか。 4. 英文の要点をまとめ、他文化や他言語と比較し、類似点や相違点を発見し、自分の考えを表現することができるようになったか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・積極的参加度 総合点の25% 2 復習テスト 総合点の25% 3 課題 (ライティング、レポート等) 総合点の20% 4 期末テスト 総合点の30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	英語の読み方について学習することも大事だが、英語の読み物について愛読書を一冊以上は持ってもらいたい。英語を読むことに関しては日本語とは異なる文章構造であることを理解し、それに相応しい読み方ができるよう目指そう。予習・復習を重視すると共に、授業への積極的な参加を期待する。		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	自分の「読む」能力について振り返り授業に臨むこと。
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。
第2回	Unit 1 - Agatha Christie	事前学習	Unit 1のPre-readingとVocabulary (p.1)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第3回	Unit 2 - Vincent van Gogh	事前学習	Unit 2のPre-readingとVocabulary (p.5)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第4回	Unit 3 - Antoni Gaudi	事前学習	Unit 3のPre-readingとVocabulary (p.9)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第5回	Unit 6 - New Lives for Old Phones	事前学習	Unit 6のPre-readingとVocabulary (p.21)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第6回	Unit 7 - Tree Planting Day	事前学習	Unit 7のPre-readingとVocabulary (p.25)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第7回	Unit 8 - The Crown of Thorns Starfish	事前学習	Unit 8のPre-readingとVocabulary (p.29)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第8回	Unit 11 - Island: An Icy "Hot Spot"	事前学習	Unit 11のPre-readingとVocabulary (p.41)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。

			る。
第9回	Unit 12 - Socotra: A Land That Time Forgot	事前学習	Unit 12のPre-readingとVocabulary (p.45)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第10回	Unit 13 - Lake Baikal	事前学習	Unit 13のPre-readingとVocabulary (p.49)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第11回	Unit 16 - One Small Step	事前学習	Unit 16のPre-readingとVocabulary (p.61)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第12回	Unit 17 - Spacesuits	事前学習	Unit 17のPre-readingとVocabulary (p.65)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第13回	Unit 4 - Oscar Niemeyer	事前学習	Unit 4のPre-readingとVocabulary (p.13)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第14回	Unit 9 - Pumpkin Power	事前学習	Unit 9のPre-readingとVocabulary (p.33)に取り組み、本文を読む準備をする。
		事後学習	同Unitの残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第15回	英語の読み方に関する総括	事前学習	既習事項を整理し、疑問点があれば質問する準備をしておく。
		事後学習	総復習をして試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションⅡ (2単位)	3. 科目番号	EDEN1322
2. 授業担当教員	田村 エレナ		
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation and Discussions	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	英語コミュニケーションⅠを受講していることが望ましい。		
7. 講義概要	この授業は英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵシリーズの第2の授業である。英語コミュニケーションⅠで学習した内容に加え、さらにレベルアップした講義内容となる。国際共通語としての英語をコミュニケーションツールと捉え、実践的なコミュニケーション能力を養う。基本はすべて英語での授業である。リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」力を養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならない。補足的に母語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらコミュニケーション能力向上を目指す。文法力を養うため、TOEICの教材を適宜使用する。理解可能な英語による言語インプットを多用し、理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付けていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと【やり取り・発表】ができる。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6. 自身の学習傾向を把握し、自分に合った学習方法を選び学習することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	Students will be given assignments to be completed at home. These assignments will be : 1 Writing short new conversations based on what we do in class. 2 Answer questions based on the topics we do in each Unit.		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 田中正道『実践英語コミュニケーションの技法- Functional English for Communication -』英宝社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができた。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えを理解することができた。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと「やり取り・発表」ができた。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を書くことができた。 5. 複数の領域を統合した言語活動を遂行できた。 6. 自身の学習傾向を把握し、自分に合った学習方法を選び学習できた。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、口頭発表、テスト等を総合して評価する。] <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 試験 総合点の60% 3 課題(口頭、筆記) 総合点の10% 		
12. 受講生へのメッセージ	This course will prepare you for international communication		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Complementing Unit13	事前学習	Read the conversations on pages 50, 52
		事後学習	Do all the exercises p.51, 53
第2回	Expressing interest Unit14	事前学習	Read all the conversations
		事後学習	Do the exercises p.54, 56
第3回	Expressing surprise Unit15	事前学習	Read the conversations on pages 58, 60
		事後学習	Do all the exercises p.59, 61
第4回	Expressing gratitude Unit16	事前学習	Read all the conversations p.62, 64
		事後学習	Write new sentences using key sentences
第5回	Offering and accepting apology Unit17	事前学習	Learn all the words and phrases on pages 66, 68
		事後学習	Do the exercises p.66, 68
第6回	Expressing regret, sympathy Unit18	事前学習	Learn all the words and phrases on pages 70, 72
		事後学習	Do all the exercises p.71, 73
第7回	Review Short test	事前学習	Review all we did in class from Unit13 to 18
		事後学習	Review all we did in class from Unit13 to 18
第8回	Requesting someone to do something Unit19	事前学習	Read the conversations on pages 74, 76
		事後学習	Do the exercises p.75, 76
第9回	Advising someone to do something Unit20	事前学習	Read all the conversations p.78, 80
		事後学習	Write new sentences using key sentences
第10回	Accepting / declining offer or invitation Unit21	事前学習	Read all the conversations p.82, 84
		事後学習	Write new sentences using key sentences
第11回	Addressing a friend / customer Unit22	事前学習	Read the conversations on pages 86, 88
		事後学習	Write new dialogues using words and expressions from Unit22
第12回	Introducing someone to someone else Unit23	事前学習	Read the conversations p.90, 92
		事後学習	Make new conversations using the key sentences we
第13回	Taking leave Unit24	事前学習	Read the conversations p.94, 96
		事後学習	Make new conversations learned in this Unit23
第14回	Review the material previously studied	事前学習	Review the key words, key sentences and grammar we did in Unit13 to 24

		事後学習	Listen once more to the dialogues
第 15 回	Oral communication check	事前学習	Read all the passages and dialogues from each Unit
		事後学習	For the oral test consists of questions from all the Units we did in class.
期末試験 (Final exam)			

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションⅣ (2単位)	3. 科目番号	EDEN2322
2. 授業担当教員	別府 結起		
4. 授業形態	Listening and reading practice, Building vocabulary, Presentation and Discussion.	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この授業は英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵシリーズの第4の授業である。英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ及びⅢで学習した内容に加え、さらにレベルアップした講義内容となる。 国際共通語としての英語をコミュニケーションツールと捉え、実践的なコミュニケーション能力を養う。基本はすべて英語での授業である。リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」力を養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならない。補足的に母語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらコミュニケーション能力向上を目指す。理解可能な英語による言語インプットを多用し、理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付けていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6. 自身の学習傾向を把握し、自分に合った学習方法を選び学習することができる。 7. 批判的思考を学習に生かすことができる。 8. 自信を持って、英語で交流しようとするすることができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	Students can choose homework that will be given during the break. It will be announced in detail in class. *Research Project *Book Review *Article Review *Movie Review *Skit *Singing an English Song *Dialogue Writing *Diary		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 <i>Impact Listening 1: Second Edition</i> Ellen Kisslinger Todd Beuckens Series Editor: Michael Rost, Publisher: Pearson Longman		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができた。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えを理解することができた。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと「やり取り・発表」ができた。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を書くことができた。 5. 複数の領域を統合した言語活動を遂行できた。 6. 自身の学習傾向を把握し、自分に合った学習方法を選び学習できた。 7. 批判的思考を学習に生かすことができた。 8. 自信を持って、英語で交流することができる。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、口頭発表、テスト等を総合して評価する。] <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 試験 総合点の60% 3 課題 (口頭、筆記) 総合点の10% 		
12. 受講生へのメッセージ	Welcome to the English Communication Class IV. We will enjoy learning and communicating together. You will find you have learned a lot in English in spring term, and it is time to further develop your skills.		
13. オフィスアワー	To be announced on the first day in class.		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction of the Class: 様々なジャンルや話題の英語を読んで目的に応じて情報や考えを理解する Warm Up Interaction Unit 9 Schedules: I'm really busy these days. Part 1	事前学習	Read Through Unit 9. Check all the words.
		事後学習	Listen to Self-Study CD Unit 9. Read aloud along with CD.
第2回	Warm Up Interaction: 教科書の英語を読んで目的に応じて情報や考えを理解する Unit 9 Schedules: I'm really busy these days. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 9. Check new words.
		事後学習	Check all the answers in Unit 9. Read aloud along with CD.
第3回	Warm Up Interaction Unit 10 Travel: It was a fantastic trip! Part 1 英語リスニング活動を通して、目的に応じて情報や考えを理解する	事前学習	Read Through Unit 10. Check new words.
		事後学習	Listen to Self-Study CD Unit 10. Read aloud along with CD.
第4回	Warm Up Interaction Unit 10 Travel: It was a fantastic trip! Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 10. Check new words.
		事後学習	Check all the answers in Unit 10. Read aloud along with CD.

第5回	Warm Up Interaction Unit 11 Money: Where does it all go? Part 1 Quiz 1: 筆記試験を通して様々な話題について目的、場所、状況について英語で書く	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 9, 10 and 11. Check all the answers of Unit 9, 10, and 11. Prepare for the Quiz 1.
		事後学習	Check all the answers in Quiz 1. Read aloud along with CD.
第6回	Warm Up Interaction Unit 11 Money: Where does it all go? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 11. Check new words.
		事後学習	Check all the answers in Unit 11. Read aloud along with CD.
第7回	Warm Up Interaction Unit 12 Free Time: What do you want to do? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 12. Check new words.
		事後学習	Check all the answers in Unit 12. Read aloud along with CD.
第8回	Warm Up Interaction Unit 12 Free Time: What do you want to do? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 12. Check new words.
		事後学習	Check all the answers in Unit 12. Read aloud along with CD.
第9回	Warm Up Interaction Unit 13 Food: She makes the best pasta! Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 13. Check new words.
		事後学習	Check all the answers in Unit 13. Read aloud along with CD.
第10回	Warm Up Interaction Unit 13 Food: She makes the best pasta! Part 2 Quiz 2: 筆記試験を通して様々な話題について目的、場所、状況について英語で書く	事前学習	Listen to Self-Study CD 12 and 13. Prepare for the Quiz 2.
		事後学習	Check all the answers of Quiz 2.
第11回	Warm Up Interaction Unit 14 Health: How are you feeling? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 14. Check new words.
		事後学習	Check all the answers of Unit 14. Prepare for the presentation.
第12回	Warm Up Interaction Presentation (2~3 min.): 様々な話題について目的、場所、状況を踏まえ英語で話す Unit 14 Health: How are you feeling? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 14. Check new words. Practice for the presentation.
		事後学習	Check all the answers of Unit 14. Prepare for the presentation.
第13回	Warm Up Interaction Presentation (2~3 min.): 様々な話題について目的、場所、状況を踏まえ英語で話す Unit 15 City Life: I love it here. Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 15. Check new words. Practice for the presentation.
		事後学習	Check all the answers in Unit 15. Prepare for the presentation.
第14回	Warm Up Interaction Presentation (2~3 min.): 様々な話題について目的、場所、状況を踏まえ英語で話す Unit 15 City Life: I love it here. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 15. Check new words. Practice for the presentation.
		事後学習	Check all the answers in Unit 14 and 15. Prepare for the Quiz 3.
第15回	全授業のまとめを通して複数の領域を統合した言語活動を行う Over All Review of the classes Quiz 3	事前学習	Read through Unit 9 to 15. Study for Quiz 3.
		事後学習	Review all the answers of Quiz 3.
期末試験			
15.実務経験を有する教員 特記事項	高等学校教諭(英語)及び個人塾(英語)経営の実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位 数)	英語コミュニケーションVI (2単位)	3. 科目番号	EDEN3322						
2. 授業担当教員	田村 エレナ								
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation and Discussions	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	この授業は英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵシリーズの最後の授業である。英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ及びⅤで学習した内容を習得した上に成り立つ講義内容となる。国際共通語としての英語をコミュニケーションツールと捉え、実践的なコミュニケーション能力を養う。基本はすべて英語での授業である。リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」力を養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならない。補足的に母語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらコミュニケーション能力向上を目指す。理解可能な英語による言語インプットを多用し、理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付けていく。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと【やり取り・発表】ができる。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6. 自身の学習傾向を把握し、自分に合った学習方法を選び学習することができる。 7. 批判的思考を学習に生かすことができる。 8. 自信を持って、英語で交流しようとするすることができる。 9. 社会言語学的知識を活かした英語交流ができる。 10. 自己評価において上記の到達目標に届いていることが確認できる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Homework and drills for improving vocabulary								
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】八木克正/Richard Hodson/井上亜依/Sebastian Fuller 著 『Express Yourself in English : A Fresh Start to Your College Life -英語で自己表現-大学英語のフレッシュスタート TOEIC 予想問題付き-』英宝社。								
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができた。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えを理解することができた。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと「やり取り・発表」ができた。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語を書くことができた。 5. 複数の領域を統合した言語活動を遂行できた。 6. 自身の学習傾向を把握し、自分に合った学習方法を選び学習できた。 7. 批判的思考を学習に生かすことができた。 8. 自信を持って、英語で交流することができた。 9. 社会言語学的知識を活かした英語交流ができた。 10. 自己評価において上記の到達目標に届いていることが確認できた。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、口頭発表、テスト等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 試験</td> <td>総合点の60%</td> </tr> <tr> <td>3 課題(口頭、筆記)</td> <td>総合点の10%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の30%	2 試験	総合点の60%	3 課題(口頭、筆記)	総合点の10%
1 授業への積極的参加	総合点の30%								
2 試験	総合点の60%								
3 課題(口頭、筆記)	総合点の10%								
12. 受講生への メッセージ	This course will help you understand and talk freely in English								
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間(本館1階 非常勤講師室)								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	Practicing of short conversations	事前学習	Think of the importance of learning English						
		事後学習	Think of the importance of speaking in English						
第2回	Talking about your future dialogues	事前学習	Read and practice the conversations						
		事後学習	Role play						
第3回	Talking about your future Reading	事前学習	Presentations						
		事後学習	Do all the exercises						
第4回	A summer trip to London: Plans and departures	事前学習	Read the conversations						
		事後学習	Do all the exercises						
第5回	A summer trip to London Shopping with friends	事前学習	Read and practice the conversations						
		事後学習	Free talk about London and shopping						
第6回	A summer trip to London : Eating out	事前学習	Read and practice the conversations						
		事後学習	Do the exercises						
第7回	Watch a video on London	事前学習	Watch the video twice and answer questions						
		事後学習	Talk about the content pf the video						
第8回	Review(section1~7) Short test	事前学習	Repeat all we did in class						
		事後学習	Read the conversations						
第9回	Introduction Japan to overseas friends : Food	事前学習	Read the conversations						
		事後学習	Role pay and do the exercises						
第10回	Introduction Japan to overseas friends :	事前学習	Read and practice the conversations						

	Culture and customs	事後学習	Do all the exercises
第11回	Introduction Japan to overseas friends : Visiting historic sights	事前学習	Read the conversations
		事後学習	Do the exercises
第12回	Presentations about Japan	事前学習	Write your presentation
		事後学習	Do the presentation in class
第13回	Review about Japan	事前学習	Write about what movie you like
		事後学習	Read all the conversations
第14回	Review of all the units	事前学習	We do all the review in class
		事後学習	Review Go over all lessons
第15回	Oral communication check	事前学習	Test Listening
		事後学習	Test Speaking
期末試験 (Final exam)			
15.実務経験を有する教員 特記事項	教育リサーチ講師として英会話を教えていた知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	英米児童文学 (作品論) (2単位)	3. 科目番号	EDEN2317
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーション、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この授業では、英米児童文学の歴史を概観し、英米児童文学の主要作家と作品を考察するとともに、その時代的・文化的背景をも明らかにする。知識の習得に加え、作品に描かれた子ども像の変遷を辿る作業が、「子ども」という概念に対するこれまでの認識を改める契機をもたらし、新たな視点の獲得へとつながるようになることを目的としている。また、作品の名場面を原文で鑑賞することも、貴重な読書体験となるにちがいない。この授業を履修することによって得られた英米児童文学に関する様々な知識は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際にも必ず役立つ。		
8. 学習目標	1. 英米の児童文学の古典と新しい児童文学の主要作家とその主要作品について、使用されている英語表現も含め、理解している。 2. 英米以外の英語圏の児童文学の主要作家とその主要作品について、使用されている英語表現も含め、理解している。 3. 英米の絵本の主要作家とその主要作品について、使用されている英語表現も含め、理解している。 4. 英語圏の児童文学の時代的・文化的な背景を学習し、説明できるようになる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	1. 主体的に授業に取り組む姿勢を促し、リサーチや分析を通して論理的思考力や創造力を養い、さらに情報伝達力を高めるために、プレゼンテーションを取り入れるので、周到に準備しておくこと。 2. 学習したことを教育現場で活かすことのできる実践力とスキルが求められているので、指定された図書 (翻訳) リストより選んだ一作品に関するブックトークの原稿・読書感想画・マップ等を作成し、冬期休暇明けに提出すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 プリントを使用する 【参考書】 本多英明・桂宥子・小峰和子編著『たのしく読める 英米児童文学』ミネルヴァ書房。 定松正編『イギリス・アメリカ児童文学ガイド』荒地出版社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 英米の児童文学の主要作家とその主要作品について理解し、説明できるか。 2. 英米の児童文学の時代的・文化的な背景を理解し、説明できるか。 ○評定の方法 レポート課題・プレゼンテーション (50%)、小テスト (25%)、受講態度・参加姿勢 (25%) の結果を総合して判定する。		
12. 受講生へのメッセージ	発表の準備にあたっては、プリントに書かれている内容を熟読すること。表面的な理解に止まらず、作家の人物像や作品の作風の特徴をしっかりと捉えて、自分の言葉で語れるようになってほしい。また、他者の発表を熱心に聞き、適切な質問をするなど、傾聴力を高めること。自らの思考を深め、視野を広げることへとつながるであろう。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション 英米児童文学の概観 プレゼンテーションの方法と準備 「ブックトーク」の手法と準備	事前学習	英米児童文学に関して知っていることを発表できるようにまとめておく。
		事後学習	プレゼンテーションやブックトークの方法や準備等を確認し、計画を立てる。
第2回	第1章 英米児童文学の誕生 『ロビンソン・クルーソー』 『ガリバー旅行記』	事前学習	『ロビンソン』、『ガリバー』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第3回	第1章 英米児童文学の誕生 『クリスマス・キャロル』 『オックスフォード版ナーサリー・ライム集』	事前学習	『クリスマス』、『ナーサリー・ライム』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第4回	第2章 イギリス児童文学の古典 『不思議の国のアリス』、『宝島』	事前学習	『不思議の国のアリス』、『宝島』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第5回	第2章 イギリス児童文学の古典 『ピーター・パン』 『クマのプーさん』	事前学習	『ピーター・パン』、『クマのプーさん』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第6回	第3章 アメリカ児童文学の古典 『若草物語』 『小公子』	事前学習	『若草物語』、『小公子』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
		事前学習	『トム・ソーヤー』、『ハックルベリー・フィ

第7回	第3章 アメリカ児童文学の古典 『トム・ソーヤーの冒険』 『ハックルベリー・フィンの冒険』	事後学習	ン』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。 プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
		事前学習	『ナルニア国ものがたり』、『ムギと王さま』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
第8回	第4章 イギリス児童文学の発展 『ナルニア国ものがたり』 『ムギと王さま』	事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
		事前学習	『パディントン』、『チョコレート工場』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
第9回	第4章 イギリス児童文学の発展 『くまのパディントン』 『チョコレート工場の秘密』	事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
		事前学習	『大草原の小さな家』、『エルマーとりゅう』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
第10回	第5章 アメリカ児童文学の発展 『大草原の小さな家』 『エルマーとりゅう』	事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
		事前学習	『からすが池の魔女』、『ラスカル』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
第11回	第5章 アメリカ児童文学の発展 『からすが池の魔女』 『はるかなるわがラスカル』	事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
		事前学習	『赤毛のアン』、『ゲド戦記』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
第12回	第6章 英米以外の英語圏の児童文学 『赤毛のアン』 第7章 新しい児童文学 『ゲド戦記』	事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
		事前学習	『ピーターラビット』、『ちいさいおうち』、『あおくんときいろちゃん』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
第13回	第8章 英米絵本の収穫 『ピーターラビットのおはなし』 『ちいさいおうち』 『あおくんときいろちゃん』	事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
		事前学習	小テストの準備を十分に行う。鑑賞する映像作品についての章を復習し、内容を把握する。
第14回	小テスト DVD鑑賞 ディスカッション	事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
		事前学習	ブック・トークの練習を行う。
第15回	ブック・トークのデモンストレーション	事後学習	この授業で得た知識を、教育現場での読書指導に、どのように活かしたらよいか考えてみる。

1. 科目名 (単位数)	英米文学演習 (2単位)	3. 科目番号	EDEN3313
2. 授業担当教員	日下 洋右		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「英語講読Ⅰ」から「英語講読Ⅵ」までを履修しておくこと。		
7. 講義概要	本講義では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文からなる英文を読む力を身につけるため、文学的英語テキストを精確に読む。英語テキストを正しい語彙と正しい文法で読むことはもちろんのこと、小説であるがゆえに生じる「行間」の意味作用をも、正しく追及する。また、文学作品が何らかの形で言及するところの西洋的な価値基準について検討し、日本と対照的な英米の諸相を概観すると同時に、両文化に共通する生命への価値観を考察する。		
8. 学習目標	1: 英米文学作品における英語表現を精読することができる。 2: 英文法・構文の知識を確実に修得し、長文を読み通すことができる。 3: 英米文学作品の歴史的・文化的な背景を知悉し、説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 英語の読解力がどの程度向上したか確認するために、英語の実力テストを実施する。 2. 英語の長文を理解するために習熟していなければならない特殊構文 (倒置構文、強調構文、省略構文など) の練習問題を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 安永義夫編『Bitter & Sweet Love Stories 《英米珠玉短篇選》』金星堂、2014年。 【参考書】 適宜授業で指示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1: 英米文学作品における英語表現を精読することができたか。 2: 英文法・構文の知識を確実に修得し、長文を読み通すことができたか。 3: 英米文学作品の歴史的・文化的な背景を知悉し、説明することができたか。 ○評定の方法 期末テスト: 50% 小テスト・課題等: 25% 受講態度・その他: 25%		
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 授業の欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された場合には、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対に行わないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的や目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説、英米文学史概論	事前学習	本科目用学習ノートブックを準備し、講義に臨むこと。また、英語基礎演習Ⅰの総復習をしておく。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第2回	William Saroyan, "The First Day of School" pp. 1-3 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第3回	William Saroyan, "The First Day of School" pp. 4-6 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第4回	William Saroyan, "The First Day of School" pp. 7-9 読解練習&小テスト、W・サローヤンと子どもの心	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第5回	Erskine Caldwell, "The Strawberry Season" pp. 10-11 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
	Erskine Caldwell, "The Strawberry Season"	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、

第6回	pp. 12-14 読解練習		構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第7回	Erskine Caldwell, “The Strawberry Season” pp. 15-17 読解練習&小テスト、E・コールドウェルと農業労働者	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第8回	Ernest Hemingway, “Indian Camp” pp. 17-19 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第9回	Ernest Hemingway, “Indian Camp” pp. 20-22 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第10回	Ernest Hemingway, “Indian Camp” pp. 23-24 読解練習&小テスト、E・ヘミングウェイと北米先住民	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第11回	Sherwood Anderson, “Brothers” pp. 25-28 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第12回	Sherwood Anderson, “Brothers” pp. 29-33 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第13回	Sherwood Anderson, “Brothers” pp. 34-37 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第14回	Sherwood Anderson, “Brothers” pp. 38-39 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。
第15回	Sherwood Anderson, “Brothers” pp. 40-41 読解練習&小テスト、S・アンダーソンと牧歌的田舎と孤独	事前学習	前回まで読解練習した物語全体の内容を把握すること。
		事後学習	各自物語の人物像から自己の生き方を考えてみる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽 (小) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1325
2. 授業担当教員	高木 麻衣子		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校教育において必要とされる音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌い、器楽アンサンブル、音楽づくり (言葉、動き、音を媒体として) を学ぶ。特にアンサンブルはグループ・ディスカッションを重視した活動となる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによるアンサンブルに関心を持ち、演奏ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①ピアノ実技：毎回レベル毎に課題曲を提示するので、次週までに弾けるように練習をしてくること。 ②音楽理論：ほぼ毎回単元別の練習問題を提示するので、次週までに完成させ、疑問点や質問事項は次週に必ず聞くこと。 ③中間のまとめ (実技、筆記)、期末のまとめ (実技、筆記) を行う。 ④歌唱教材：1曲でも多くのレパートリーを持てるよう、「歌うこと」に積極的な姿勢で臨むこと。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 <ol style="list-style-type: none"> ① 全音楽譜出版部編『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社 ② 初等科音楽教育研究会編『最新 初等科音楽教育法[改訂版]小学校教員養成課程用』音楽之友社 【参考書】 川辺 真著『わかりやすい楽典』音楽之友社		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができるようになったか。 2. グループによる「アンサンブル」や、音楽づくりに積極的に取り組んだか。 3. 音楽の基礎理論 (楽典) を理解し、説明できるか。 ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への取り組み及び意欲 総合点の 40% 2. 実技発表 総合点の 40% 3. 音楽理論の理解 総合点の 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	「ピアノが弾けるようになる」ことは技術の習得です。したがって、日々の鍛錬を忘れずに積み重ね、努力すると必ず弾けるようになります。自分を信じて取り組み、出来る喜びを分かち合ひましょう。保育・教育に携わる皆さんが音楽の楽しさ、素晴らしさを次世代に伝えていける伝達者になって欲しいと思っています。熱心に取り組まれることを期待しています！ 弾き歌いでは、小学校共通教材の中より個々の技量にあった、より多くの曲に触れてほしいと思います。		
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示		

14. 授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、課題曲提示	事前学習	鍵盤で「ド」の位置を理解しておくこと。
		事後学習	各自の目標 (初級：音符と鍵盤の一体化、中級：楽譜に忠実に、上級：表現力のある演奏を目指して) を設定し、各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
第2回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論① (音部記号・楽譜について)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音部記号・楽譜について) に取り組み、活用できる。
第3回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論② (音名・変位記号)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音名・変位記号) に取り組み、音楽の働きと関わらせて理解する。
第4回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論③ (音符と休符)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音符と休符) に取り組み、音楽の働きと関わらせて活用できるようにする。
第5回	ピアノ弾き歌いレッスン	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示

	音楽理論④（拍子とリズム）		された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題（拍子とリズム）に取り組み、音楽の働きと関わらせて活用できるようにする。
第6回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑤（強弱記号、簡単な楽語）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題（強弱記号、簡単な楽語）に取り組み、音楽の働きと関わらせて活用できるようにする。
第7回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑧（反復記号、装飾音符） グループアンサンブル①（グループ決め、曲決め）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	中間のまとめに向けた各自の課題曲を練習する。 中間のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。
第8回	中間のまとめ（ピアノ弾き歌い実技発表・音楽理論に関する筆記試験）	事前学習	中間のまとめに向けた各自の課題曲を練習する。
		事後学習	各自、期末試験に向けての目標を設定し、それに応じて決めた各自の課題曲を練習する。
第9回	ピアノ弾き歌いレッスン グループアンサンブル②（合奏練習）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 グループアンサンブルの個人練習をする。
第10回	ピアノ弾き歌いレッスン グループアンサンブル③（合奏練習）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 グループアンサンブルの個人練習をする。
第11回	ピアノ弾き歌いレッスン グループアンサンブル④（合奏発表）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第12回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑨（長音階）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題（長音階）に取り組み、音楽の働きと関わらせて活用できるようにする。
第13回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑩（短音階）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題（短音階）に取り組み、音楽の働きと関わらせて活用できるようにする。
第14回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑪（簡単なコードネーム）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 期末のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。
第15回	期末のまとめ（ピアノ弾き歌い実技発表・音楽理論に関する筆記試験）	事前学習	期末のまとめに向けた課題曲を練習する。 期末のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。
		事後学習	実技の復習、これまでに学習した音楽理論について復習をし、音楽の働きと関わらせて活用できるようにする。

1. 科目名 (単位数)	音楽 (幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1140						
2. 授業担当教員	林 麻由美								
4. 授業形態	演習, 講義, 実技	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識, 技術を身につけ, 理解を深める。保育現場では歌唱指導はもちろん合奏指導, リズム活動など様々な音楽活動やその指導において鍵盤楽器が使用されるため, それなりの演奏技術を身につけなければならない。具体的には「音楽」では子どもの歌を歌うのに必要な発声法, ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力を習得する。また, これらの技術・能力の習得のために必要な読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても実践を通して学ぶ。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な音楽理論を理解し読譜ができる。 2. 弾き歌いをするための基本的な演奏力を身につける。 3. 歌うための発声を習得し, 歌うことができる。 4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノや弾き歌いの課題曲等を出します。 2. ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施します。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程『幼児のための音楽教育』教育芸術社 2018。 【参考書】高田美佐子著『CDでわかるみんなの楽典』ナツメ社 【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が3.5mmジャックの場合, ステレオ変換ジャックが必要)</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な音楽理論を理解し読譜ができるか。 2. 弾き歌いをするための基本的な演奏力を身につけたか。 3. 歌うための発声を習得し, 歌うことができるか。 4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができるか。1 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか, 本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%	2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%	3 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%								
2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%								
3 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)	総合点の20%								
12. 受講生へのメッセージ	まずは「歌うこと」の経験をたくさん積みましょう。また, 子どもの歌の「弾き歌い」の練習方法を細かく提示しますので, たとえばピアノ上級者であってもその通りに取り組んでみてください。								
13. オフィスアワー	授業内で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション 季節の歌を歌う, 弾き歌いの練習方法の提示。	事前学習	季節の歌をイメージする。						
		事後学習	弾き歌いの練習方法で課題曲を練習する。						
第2回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い① 弾き歌いの練習過程の確認	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第3回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い② 基本的な音楽理論の確認	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第4回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い③ 基本的な音楽理論の確認	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第5回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い④ 基本的な音楽理論の確認	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第6回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い⑤ 基本的な音楽理論の確認テスト	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第7回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い⑥ アンサンブルを楽しむ	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第8回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い⑦ アンサンブルを楽しむ	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第9回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い⑧ アンサンブルを楽しむ	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第10回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い⑨ 生活の歌の復習	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第11回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い⑩ 季節の歌の復習	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						
		事後学習	課題曲の練習, 弾き歌いの練習						
第12回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い□ ピアノ, 弾き歌い発表	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。						

	のリハーサル	事後学習	ピアノ及び弾き歌い発表曲の仕上げ
第13回	ピアノ演奏 歌唱 弾き歌い【2】 ピアノ、弾き歌い発表 のリハーサル	事前学習	歌詞を読む。歌詞を覚える。
		事後学習	ピアノ及び弾き歌い発表曲の仕上げ
第14回	ピアノ実技発表	事前学習	発表曲の練習
		事後学習	ピアノ及び弾き歌い発表曲の仕上げ
第15回	弾き歌い実技の発表	事前学習	弾き歌い発表曲の練習
		事後学習	これまで演奏した曲目の復習

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (小) (2単位)	3. 科目番号	EDEL2305
2. 授業担当教員	田口 雅夫		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	音楽 (小) を受講していることが望ましい。		
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 歌唱・ピアノ技術は個人差があるので、苦手な学生は出題された課題をよく練習しておくこと。 ② 高度な理論は必要ありませんが、基礎的な内容は理解しておくこと。 ③ 場慣れの意味で、人前での演奏には意欲的に取り組むこと。 ④ 既にピアノの技術を身に付けている経験者の学生には、その程度に合わせた課題を提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 1年生の時に使用していた『教員養成課程小学校音楽科教育法』又は『最新 初等科音楽教育法[改訂版]』 【参考書】 五線ノート等、必要な時に配布・提示します。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができるようになったか。 2. グループによる「アンサンブル」や、音楽づくりに積極的に取り組んだか。 3. 音楽の基礎理論 (楽典) を理解し、説明できるか。 ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への取り組み及び意欲 総合点の 40% 2. 実技発表 総合点の 40% 3. 音楽理論の理解 総合点の 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初心者でピアノ演奏技術向上のためには、一度に長い練習ではなく少しの時間でもこつこつ練習を積み上げることが大切です。焦らず努力することが必要です。 2. 少しピアノを弾ける学生は、その能力を上手く使う方法を習得しましょう。 3. 授業中に関して以下の事については厳しく注意します。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽室使用規定を守ること。(飲食・楽器の扱い方等) (2) スマートフォン等を使用しない。 (3) 授業中の私語は、真面目に受講している者にとって迷惑です。 		
13. オフィスアワー	最初の授業で説明します。授業の前後を活用して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要、音楽歴調査、演奏レベルチェック、課題曲提示)	事前学習	音楽Ⅰの最終授業で取り組んだ曲を練習しておく。
		事後学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
第2回	ピアノの演奏及び弾き歌い 音楽理論の復習Ⅰ	事前学習	課題曲を練習する。
		事後学習	復習した音楽理論を再確認しておく。
第3回	ピアノの演奏及び弾き歌い 音楽理論の復習Ⅱ	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	授業で学んだ音楽理論を、ピアノの楽譜にあてはめて確認してみる。
第4回	ピアノの演奏及び弾き歌い 音楽理論・和音の理解Ⅰ	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	弾き歌いの歌について、一番の歌詞は覚えるようにする。様々な和音を弾いて確認しておく。
第5回	ピアノの演奏及び弾き歌い 音楽理論・和音の理解Ⅱ	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	自分の弾いている楽譜から、音楽理論・和音の理解できていない記号等、意味の理解できないことを探してみる。
第6回	ピアノの演奏及び弾き歌いの実技発表 リズムを素材とした音楽づくり	事前学習	発表する曲を出来る限り暗譜してみる。 自分の知っている曲を、授業で説明のあった方法でリズム打ちをしてみる。
		事後学習	音楽づくりに関連して、どんなジャンルでも関係なく、自分の好きな音楽にはどんな曲が有るか、その曲の特徴を考えてみる。
第7回	ピアノの演奏及び弾き歌い 和音を素材とした音楽づくり	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	演奏技術に関して、どのようなことが苦手な

			あるか探してみる。
第 8 回	ピアノの演奏及び弾き歌い メロディーを素材とした音楽づくり	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	歌う声が小さくなっていないか、歌いやすい伴奏が弾けているかを確認してみよう。何が歌い易いか否かを考えておく。
第 9 回	ピアノの演奏及び弾き歌い 器楽合奏について（奏法）	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	合奏曲の伴奏にもチャレンジできるような選曲をしておく。
第 10 回	ピアノの演奏及び弾き歌い 器楽合奏について（グループによるアンサンブル体験）	事前学習	合奏曲の伴奏を練習する。
		事後学習	器楽合奏の伴奏はメロディーの入らない伴奏形なので、合奏の伴奏形に慣れておく。弾き歌いの発表曲を練習しておく。
第 11 回	ピアノの演奏及び弾き歌いの実技発表 器楽合奏について（編曲法の実践）	事前学習	合奏曲の伴奏を練習する。
		事後学習	合奏曲の選曲をする。ピアノ実技最終発表への取り組みを開始する。
第 12 回	ピアノの演奏及び弾き歌い グループによるアンサンブル発表	事前学習	合奏曲の伴奏を練習する。
		事後学習	合奏曲用の伴奏譜で合唱体験をする。
第 13 回	ピアノの演奏及び弾き歌い 楽譜を使用した簡易伴奏の作り方について	事前学習	自分が作りたい簡易伴奏曲を決定し、参考資料等の簡易伴奏と原曲伴奏の違いを確認しておく。
		事後学習	部分的でもよいので、自作による簡易伴奏を弾いてみる。
第 14 回	ピアノの演奏及び弾き歌い コードネームを使用した簡易伴奏の作り方について	事前学習	簡易伴奏曲のメロディーを暗譜しておく。
		事後学習	部分的でもよいので、自作による簡易伴奏を弾いてみる。
第 15 回	ピアノ実技発表 まとめ	事前学習	発表曲を練習しておく。
		事後学習	学習した内容・理解できたことに何があったかを振り返ってみる。更に次年度へ向けて出来る限り楽器に触れておくようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (幼) (2単位)	3. 科目番号	SJMP2140															
2. 授業担当教員	原 久美子																	
4. 授業形態	演習、講義、実技	5. 開講学期	秋期															
6. 履修条件・他科目との関係	音楽(幼)を終えていること。																	
7. 講義概要	「音楽Ⅱ」では主に保育現場で行われているリズム活動に対応できるリズム感とそれを身体表現できる力の育成、子どもの楽器活動に関する理解、手遊びの習得を目指す。保育現場で行われるリズム活動では、身体を使って音楽を感じ取り表現するので、活動にふさわしい楽曲の演奏や動きに合わせて即興的に演奏する方法を身につけなければならない。また、わらべうたが培う子どもの力を理解し、わらべうたを歌い遊べるようにする。さらに主にリズム楽器の正しい奏法、扱いに習熟し、子どもの歌や楽曲を楽器で楽しむ方法を学ぶ。1年次に培った弾き歌いの演奏技術を継続的に磨き、手遊び歌のレパートリーも増やす。手遊び歌はわらべうた同様、アカペラで歌うものなので、正しい音程で歌えるソルフェージュ力をつける。																	
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> リズム活動のためのピアノ演奏ができる。自身も音楽に合わせてリズムカルに動ける。 保育活動で使われる楽器に関する正しい知識を持つ。楽器遊びや合奏にアレンジできる。 手遊び歌、わらべうたのレパートリーを増やし、正しく歌い遊ぶことができる。 弾き歌いの演奏技術を高める。 																	
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 毎回楽典の練習問題とピアノの練習課題等を提示する。疑問点は必ず聞きに来ること。 ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施する。 																	
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてプリントを配布する。 ※初回授業時に、音楽(幼)や他の音楽科目で購入した楽典の教科書を持参すること。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木許隆・高橋一行・三縄公一・高倉秋子著『保育者のためのリズム遊び——幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社、2007。 <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘッドフォン 6.3mmステレオジャック (先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要) 																	
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> リズム活動のためのピアノ演奏ができ、自身も音楽に合わせてリズムカルに動けるか。 保育活動で使われる楽器に関する正しい知識を持ち、楽器遊びや合奏にアレンジできるか。 手遊び歌、わらべうたを正しく歌い遊ぶことができるか。 弾き歌いの演奏技術を高められたか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>リズム活動のためのピアノ演奏と動きの発表</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保育活動で使われる楽器を使った楽器遊びや合奏の発表</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>手遊び歌、わらべうたの発表</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>弾き歌いの発表</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1	リズム活動のためのピアノ演奏と動きの発表	総合点の20%	2	保育活動で使われる楽器を使った楽器遊びや合奏の発表	総合点の20%	3	手遊び歌、わらべうたの発表	総合点の20%	4	弾き歌いの発表	総合点の20%	5	授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1	リズム活動のためのピアノ演奏と動きの発表	総合点の20%																
2	保育活動で使われる楽器を使った楽器遊びや合奏の発表	総合点の20%																
3	手遊び歌、わらべうたの発表	総合点の20%																
4	弾き歌いの発表	総合点の20%																
5	授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%																
12. 受講生へのメッセージ	子ども達に音楽の魅力を伝えるためには、演奏技術に加え保育者自らが音楽を楽しむという姿勢が大切です。ピアノ演奏に関しても歌唱に関しても、出来るだけ多くの曲を学びましょう。様々な様式のレパートリーを作ることが技術面でも音楽的な面でも上達に繋がっていきます。豊かな音楽表現を目指し、積極的に授業へ取り組まれることを期待しています。																	
13. オフィスアワー	初回授業時に周知させる。																	
14. 授業展開及び授業内容																		
講義日程	授業内容	学習課題																
第1回	ピアノ演奏および課題説明 コードネーム①(メジャーコード)	事前学習	音楽(幼)で学んだことを復習しておくこと。															
		事後学習	課題曲の練習を始めること。メジャーコードについて復習しておくこと。															
第2回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン① コードネーム②(マイナーコード)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。															
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。マイナーコードについて復習しておくこと。															
第3回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン② コードネーム③(dimおよびaug)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。															
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム(dimおよびaug)の復習をしておくこと。															
第4回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン③ コードネーム④(6および7thコード、sus4)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。															
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム(6および7thコード、sus4)の復習をしておくこと。															
第5回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン④	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。															

	コードネーム⑤ (コードの転回形)	事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム (コードの転回形) の復習をしておくこと。
第6回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑤ コードネームを用いた簡易伴奏① (年少の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。
第7回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑥ コードネームを用いた簡易伴奏② (年中の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。
第8回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑦ コードネームを用いた簡易伴奏③ (年長の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。
第9回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑧ 発声の基礎① (姿勢や呼吸法を中心に)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声練習をしておくこと。
第10回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑨ 発声の基礎② (ブレス、高音域、音痴などについて)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声練習をしておくこと。
第11回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑩ 発声法および発声指導について	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声の指導法について復習しておくこと。
第12回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑪ 簡易楽器の取り扱いと奏法	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。簡易楽器について復習しておくこと。
第13回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑫ 簡易楽器による合奏	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。
第14回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑬ 簡易楽器合奏の指導法および指揮法	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。簡易楽器の指導法および指揮法について復習しておくこと。
第15回	弾き歌い発表およびまとめ	事前学習	弾き歌いは発表の準備をしておくこと。
		事後学習	授業において学んだことを総復習すること。

1. 科目名 (単位数)	音楽科指導法 (2単位)	3. 科目番号	EDEL2315
2. 授業担当教員	下出 美智子		
4. 授業形態	講義、演習 (全員、個人、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講義では、小学校教育における音楽科の役割、目標、指導内容、児童の音楽的発達について理解し、初等教育に従事する教育者として必要な指導法の基礎を身に付ける。</p> <p>具体的には、まず学習指導要領に記載されている音楽科の目標について理解する。次に、小学校音楽科の指導内容 (表現 [歌唱・器楽・音楽作り]・鑑賞指導の意義・留意点、共通事項) について理解する。それまでの学修内容を踏まえ、学習指導計画の意義、構成、内容の取扱い、音楽科の評価について理解し、指導案作成を行う。作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し実践感覚を高めるとともに、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初等教育における音楽科の役割、目標を理解する。 2. 初等音楽科の指導内容と指導上の留意点を理解し、それぞれの領域の指導法を身に付ける。 3. 音楽の基礎的知識・技能を身に付け、教材研究を行うことができるようになる。 4. 児童の音楽的発達段階について理解する。 5. 情報機器及び教材を音楽科の授業において効果的に活用することができるようになる。 6. 学習指導計画の意義、構成、内容の取扱い、音楽科の評価について理解する。 7. 実践的な学習指導案を作成することができるようになる。 8. 模擬授業を通して授業実践の感覚を養うとともに、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回の授業に向けての資料講読や調べ学習。各回で学んだ内容をレポートとして整理する。音楽技能の習得。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法 改訂版 - (2017年告示) 小学校学習指導要領準拠 小学校教員養成課程用-』</p> <p>【参考書】 河川道朗 編著『音楽教育入門 ― 基本理念の構築』音楽之友社 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規 文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。 山下薫子編著『平成29年度版 小学校新学習指導要領 ポイント総整理』東洋館出版社</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初等教育における音楽科の役割、目標を理解している。 2. 初等音楽科の指導内容と指導上の留意点を理解し、それぞれの領域の指導法を身に付けている。 3. 音楽の基礎的知識・技能を身に付け、教材研究を行うことができる。 4. 児童の音楽的発達段階について理解している。 5. 情報機器及び教材を音楽科の授業において効果的に活用することができる。 6. 学習指導計画の意義、構成、内容の取扱い、音楽科の評価について理解している。 7. 実践的な学習指導案を作成することができる。 8. 模擬授業を通して授業実践の感覚を養い、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の内容 20% ・模擬授業の内容 30% ・授業への積極的参加度 20% ・学期末試験 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	小学校教員として音楽科の授業ができるよう、課題意識を持って講義に臨んで下さい。また、表現することに苦手意識を持っている人も、心と身体で感じたことを、媒体 (言葉、動き、楽器) を使って外に表せるようになって下さい。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要、学習目標、授業の進め方、成績評価についての説明) 『音楽教育の哲学』の文献購読と内容についてディスカッション。	事前学習	音楽科指導法用のファイルとノートを準備し講義に臨むこと。
		事後学習	『音楽教育の哲学』を熟読する。
第2回	小学校音楽の指導目標と指導内容① 学習指導要領の解説とその内容についてのディスカッション。	事前学習	小学校学習指導要領「音楽」と教科書 (pp. 8-25) を読む。
		事後学習	学習指導要領「音楽」の要点についてノートにまとめる。
第3回	小学校音楽の指導目標と指導内容② 学習指導要領の解説とその内容についてのディスカッション。	事前学習	小学校学習指導要領「音楽」と教科書 (pp. 8-25) を読む。
		事後学習	学習指導要領「音楽」の要点についてノートにまとめる。
第4回	小学校音楽の教科書分析 教育出版社、教育芸術社の教科書を使用して。	事前学習	小学校音楽の教科書に関する情報を収集する。
		事後学習	分析したことをノートにまとめる。
第5回	諸外国の音楽教育① カール・オルフ、エミール・ジャック＝ダルクローズ等	事前学習	諸外国の音楽教育について情報を収集する。
		事後学習	ダルクローズ等の音楽教育の特徴をノートにまとめる。

第 6 回	諸外国の音楽教育② カール・オルフの音楽教育 (DVD ビデオ鑑賞と実演)。	事前学習	カール・オルフの音楽教育について情報を収集する。
		事後学習	カール・オルフの音楽教育の特徴をノートにまとめる。
第 7 回	子どもの音楽表現の実際① 小学校・特別支援学校の音楽授業の DVD 視聴と授業分析。	事前学習	音楽科の指導にあたり、教科書 (pp. 26-48、pp. 132-133) を熟読する。
		事後学習	DVD 視聴と授業分析の考察をノートにまとめる。
第 8 回	子どもの音楽表現の実際② 小学校・特別支援学校の音楽授業の DVD 視聴と授業分析。	事前学習	音楽科の指導にあたり、教科書 (pp. 26-48、pp. 132-133) を熟読する。
		事後学習	ビデオ視聴と授業分析の考察をノートにまとめる。
第 9 回	音楽科学習指導案の作成① 学習指導案の作成方法を学ぶ。	事前学習	学習指導案について教科書 (pp. 227-241) を読む
		事後学習	小学校音楽プログラム案 (プリント) を熟読する。
第 10 回	音楽科学習指導案の作成② グループで学習指導案を作成する。	事前学習	小学校音楽プログラム案 (プリント) を熟読する。
		事後学習	グループで学習指導案を作成する。
第 11 回	音楽科学習指導案の作成③ グループで学習指導案を作成する。	事前学習	グループで学習指導案を作成する。
		事後学習	グループで学習指導案を作成する。
第 12 回	模擬授業 (グループ) ① 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、その後全員でディスカッション。	事前学習	模擬授業に向けてグループで教材研究を行い、役割分担等を決めて、発表の準備を整える。
		事後学習	模擬授業の反省、指導案の修正を行い提出する。
第 13 回	模擬授業 (グループ) ②	事前学習	模擬授業に向けてグループで教材研究を行い、役割分担等を決めて、発表の準備を整える。
		事後学習	模擬授業の反省、指導案の修正を行い提出する。
第 14 回	模擬授業 (グループ) ③	事前学習	模擬授業に向けてグループで教材研究を行い、役割分担等を決めて、発表の準備を整える。
		事後学習	模擬授業の反省、指導案の修正を行い提出する。
第 15 回	模擬授業 (グループ) ④ これまでのまとめ	事前学習	模擬授業に向けてグループで教材研究を行い、役割分担等を決めて、発表の準備を整える。
		事後学習	模擬授業の反省、指導案の修正を行い提出する。 「小学校音楽教育のあり方」についてのレポートを提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽科指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJMP2294 SJMP2394
2. 授業担当教員	松本 岳志		
4. 授業形態	講義、演習 (全員、個人、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	音楽 (初等・小) 及びⅡを終えていること。		
7. 講義概要	<p>本講義では、小学校教育における音楽科の役割、目標、指導内容、児童の音楽的発達について理解し、初等教育に従事する教育者として必要な指導法の基礎を身に付ける。</p> <p>具体的には、まず学習指導要領に記載されている音楽科の目標について理解する。次に、小学校音楽科の指導内容 (表現 [歌唱・器楽・音楽作り]・鑑賞指導の意義・留意点、共通事項) について理解する。それまでの学修内容を踏まえ、学習指導計画の意義、構成、内容の取扱い、音楽科の評価について理解し、指導案作成を行う。作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し実践感覚を高めるとともに、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初等教育における音楽科の役割、目標を理解する。 2. 初等音楽科の指導内容と指導上の留意点を理解し、それぞれの領域の指導法を身に付ける。 3. 音楽の基礎的知識・技能を身に付け、教材研究を行うことができるようになる。 4. 児童の音楽的発達段階について理解する。 5. 情報機器及び教材を音楽科の授業において効果的に活用することができるようになる。 6. 学習指導計画の意義、構成、内容の取扱い、音楽科の評価について理解する。 7. 実践的な学習指導案を作成することができるようになる。 8. 模擬授業を通して授業実践の感覚を養うとともに、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導案を作成し提出する。これを元にして、模擬授業も行う。 2. 小学校音楽科教育に関する試験を課す。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 有本真紀・阪井恵・山下薫子編著『教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社</p> <p>【参考書】 河口道朗 編著『音楽教育入門 ― 基本理念の構築』音楽之友社 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規 文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。 山下薫子編著『平成 29 年度版 小学校新学習指導要領 ポイント総整理』東洋館出版社</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初等教育における音楽科の役割、目標を理解している。 2. 初等音楽科の指導内容と指導上の留意点を理解し、それぞれの領域の指導法を身に付けている。 3. 音楽の基礎的知識・技能を身に付け、教材研究を行うことができる。 4. 児童の音楽的発達段階について理解している。 5. 情報機器及び教材を音楽科の授業において効果的に活用することができる。 6. 学習指導計画の意義、構成、内容の取扱い、音楽科の評価について理解している。 7. 実践的な学習指導案を作成することができる。 8. 模擬授業を通して授業実践の感覚を養い、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の内容 20% ・模擬授業の内容 30% ・授業への積極的参加度 20% ・学期末試験 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>音楽科教育は、ただ単に子ども達と楽しく歌を歌っていれば済まされるような教科ではありません。その役割や意義、子どもの発達など教育の専門家として必要な知識を得よう努めて下さい。また、豊かな音楽経験を子ども達と共有しながら指導していくためには、音楽的知識や高い演奏技術も要求されます。これらを身に付けることは容易ではありませんが、日々地道な教材研究と練習を重ねていってください。そして、自らが音楽を愛好する心情を持って授業に臨むようにしましょう。</p> <p>※本授業では課題レポートの代わりに、試験を課します (9. 及び 11. を参照のこと)。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業のオリエンテーションにおいて通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	音楽科の役割・目標 各学年の目標 音楽科における「主体的・対話的で深い学び」、「音楽的な見方・考え方」について	事前学習	教科書 pp. 6～7、p. 10 を読んでおくこと。
		事後学習	音楽科の役割、目標について理解する。
第2回	小学校音楽科の主な指導内容について 「歌唱」指導の意義と指導上の留意点 歌唱教材 (低学年の歌唱共通教材)	事前学習	教科書 pp. 10～19 を読んでおくこと。歌唱共通教材 (低学年) の曲を譜読みしておくこと。
		事後学習	小学校音楽科の主な指導内容について、その全体構成を把握する。歌唱共通教材 (低学年) の曲を復習し、その指導法を身に付ける。
第3回	発声法とその指導 歌唱教材 (中学年の歌唱共通教材)	事前学習	歌唱共通教材 (中学年) の曲を譜読みしておくこと。
		事後学習	歌唱指導の意義と指導上の留意点、発声法とその指導について理解する。歌唱共通教材 (中学年) の曲を復習し、その指導法を身に付ける。
第4回	児童期の音楽的発達段階について 移動ドと固定ドについて 歌唱教材 (高学年の歌唱共通教材)	事前学習	教科書 pp. 8～9、pp. 17～18 を読んでおくこと。歌唱共通教材 (高学年) の曲を譜読みしておくこと。
		事後学習	児童期の音楽的発達について理解する。移動ドと固定ド

			について理解する。歌唱共通教材（高学年）の曲を復習し、その指導法を身に付ける。
第5回	「器楽」指導の意義と指導上の留意点 アコースティック楽器の取扱いと指導 リコーダーの指導法（運指、奏法）	事前学習	教科書 pp. 20～35 まで読んでおくこと。リコーダーの運指を確認しておくこと。
		事後学習	器楽指導の意義と指導上の留意点、児童が扱う楽器の取扱いと指導法について理解する。リコーダーの運指や奏法を復習しておくこと。
第6回	リコーダーの指導法（合奏）、 指揮法 和楽器の指導法	事前学習	教科書 pp. 29～31 を読んでおくこと。
		事後学習	リコーダーの指導法を身に付ける。指揮法の基礎を理解する。和楽器の知識を深め、その指導法を身に付ける。
第7回	創作活動の意義と指導上の留意点	事前学習	教科書 pp. 36～43 を読んでおくこと。
		事後学習	創作活動の意義と指導上の留意点について理解する。
第8回	「鑑賞」指導の意義と指導上の留意点 鑑賞教材について（西洋音楽を中心に）	事前学習	教科書 pp. 44～54 を読んでおくこと。
		事後学習	鑑賞指導の意義と指導上の留意点について理解する。教科書に記載されている鑑賞曲について、教材研究をする。
第9回	鑑賞教材について （我が国及び諸外国の音楽を中心に）	事前学習	教科書 pp. 148～157 まで読み、興味関心を持った楽曲について調べておくこと。
		事後学習	我が国及び諸外国の音楽について教材研究をする。
第10回	共通事項について 音楽科における ICT 機器及び教材活用について	事前学習	教科書 pp. 32～33、p. 55 を読んでおくこと。
		事後学習	共通事項について理解する。音楽科における ICT の効果的な活用法について理解する。
第11回	学習指導計画について 内容の取扱いについて 学習指導案について	事前学習	教科書 pp. 65～79、「学習指導要領 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」を読んでおくこと。
		事後学習	学習指導計画の意義、基本的な考え方について理解する。指導計画の作成において配慮すべき事項について理解する。学習指導案について理解する。
第12回	音楽科の評価について 学習指導案作成	事前学習	教科書 pp. 80～84 を読んでおくこと。題材構成について理解しておくこと。学習指導案作成にあたり各自で題材を設定するとともに、その題材に適した教材の教材研究をしておくこと。
		事後学習	音楽科の評価について理解する。学習指導案を完成させること。模擬授業に向けた準備をしておくこと。
第13回	模擬授業（歌唱指導）	事前学習	教材研究し、模擬授業の準備をしておくこと。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点をまとめる。
第14回	模擬授業（器楽指導）	事前学習	教材研究し、模擬授業の準備をしておくこと。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点をまとめる。
第15回	模擬授業（音楽づくり、鑑賞） まとめ	事前学習	教材研究し、模擬授業の準備をしておくこと。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点をまとめる。学期末試験に向け、これまで学修した内容を総復習する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽実践演習 (2単位)	3. 科目番号	SJMP1145						
2. 授業担当教員	高木 麻衣子								
4. 授業形態	演習、講義、実技	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」を終了していることが望ましい。								
7. 講義概要	「音楽」で学んだ基本的な音楽理論(楽典、和声法)、鍵盤楽器の基本的奏法を駆使して、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術を実践を通して学ぶが、「音楽実践演習」ではさらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。また、たとえ鍵盤楽器の経験があっても、子どもの歌を弾き歌いするなど保育実践に必要な演奏力の育成のために全学生が履修する必要がある。読譜力を養うと同時に歌を歌うための発声法を学ぶ。「音楽Ⅱ」で学ぶリズム活動など保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する、保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を理解し読譜ができる。 2. 弾き歌いをするための演奏力を身につける。 3. 歌うための発声を習得し、歌うことができる。 4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができる。 								
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①ピアノ実技：毎回レベル毎に課題曲を提示するので、次週までに弾けるように練習をしてくること。 ②音楽理論：ほぼ毎回単元別の練習問題を提示するので、次週までに完成させ、疑問点や質問事項は次週に必ず聞くこと。 ③中間のまとめ(実技、筆記)、期末のまとめ(実技、筆記)を行う。 ④歌唱教材：1曲でも多くのレパートリーを持てるよう、「歌うこと」に積極的な姿勢で臨むこと。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 「音楽」と同じ教科書を継続して使用する。</p> <p>【参考書】川辺 真著『わかりやすい楽典』音楽之友社</p> <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要) 								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を理解し読譜ができるか。 2. 弾き歌いをするための演奏力を身につけたか。 3. 歌うための発声を習得し、歌うことができるか。 4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができるか。1 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%	2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%	3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1 ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%								
2 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%								
3 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>「ピアノが弾けるようになる」ことは技術の習得です。したがって、日々の鍛錬を忘れずに積み重ね、努力すると必ず弾けるようになります。自分を信じて取り組み、出来る喜びを分かち合ひましょう。保育・教育に携わる皆さんが音楽の楽しさ、素晴らしさを次世代に伝えていける伝達者になって欲しいと思っています。弾き歌いでは、個々の技量にあった、より多くの曲に触れてほしいと思います。</p>								
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示								

14. 授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業ガイダンス(シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、課題曲提示	事前学習	音楽(幼)の最終授業で発表した曲を弾けるようにしておく。
		事後学習	各自の目標(初中級：できるだけ多くの曲に触れることを目指して、上級：実践力のある演奏を目指して)を設定し、各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
第2回	ピアノレッスン 音楽応用理論①(メジャーコード、マイナーコード)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題(メジャーコード、マイナーコード)に取り組む。
第3回	ピアノレッスン 音楽応用理論②(その他のコード、転回形)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題(その他のコード、転回形)に取り組む。
第4回	ピアノレッスン	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて

	音楽応用理論③ (コードで弾く歌)		提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (コードで弾く歌) に取り組む。
第5回	ピアノレッスン 音楽応用理論④ (リズムカードの創作)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論課題 (リズムカードの創作) を出来るようにする。
第6回	ピアノレッスン 音楽応用理論⑤ (リズムカードのグループワーク)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論課題 (リズムカードのグループワーク) を出来るようにする。
第7回	ピアノレッスン 音楽応用理論⑥ (リズムを使った音遊び)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	中間のまとめに向けた各自の課題曲を練習する。
第8回	中間のまとめ (ピアノ実技発表・音楽理論に関する筆記試験)	事前学習	中間のまとめに向けた各自の課題曲を練習する。
		事後学習	各自、期末試験に向けての目標を設定し、それに応じて決めた各自の課題曲を練習する。
第9回	ピアノレッスン 歌 (発声法・歌に親しむために)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第10回	ピアノレッスン 歌 (保育に必要な歌・輪唱)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第11回	ピアノレッスン アンサンブルの楽しみⅠ (簡易楽器による合奏 グループ・曲決め 楽器決め)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第12回	ピアノレッスン アンサンブルの楽しみⅡ (簡易楽器による合奏 グループ練習)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第13回	ピアノレッスン アンサンブルの楽しみⅢ (簡易楽器による合奏 グループ発表)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第14回	ピアノレッスン 演奏聴取時の感受性についてのトレーニング	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	期末のまとめに向けた課題曲を練習する。これまでに学習した音楽理論について復習をする。
第15回	期末のまとめ (ピアノ弾き歌い発表)	事前学習	期末のまとめに向けた課題曲を練習する。これまでに学習した音楽理論について復習をする。
		事後学習	実技の復習、これまでに学習した音楽理論について復習をする。

1. 科目名(単位数)	音楽実践演習 (2単位)	3. 科目番号	SJMP1145						
2. 授業担当教員	松本 岳志								
4. 授業形態	演習、講義, 実技	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」を終了していることが望ましい。								
7. 講義概要	「音楽」で学んだ基本的な音楽理論(楽典、和声法)、鍵盤楽器の基本的奏法を駆使して、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術を実践を通して学ぶが、「音楽実践演習」ではさらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。また、たとえ鍵盤楽器の経験があっても、子どもの歌を弾き歌いするなど保育実践に必要な演奏力の育成のために全学生が履修する必要がある。読譜力を養うと同時に歌を歌うための発声法を学ぶ。「音楽Ⅱ」で学ぶリズム活動など保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する、保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を理解し読譜ができる。 2. 弾き歌いをするための演奏力を身につける。 3. 歌うための発声を習得し、歌うことができる。 4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができる。 								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回ピアノの練習課題等を出します。 2. ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施します。 3. コードネームを参考にしながら、オリジナルの伴奏譜を作成する。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】「音楽」と同じ教科書を継続して使用する。</p> <p>【参考書】・小林美実・井戸秀和『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた100』チャイルド本社。 ・小林美実監修『こどものうた200』チャイルド本社。 ・小林美実監修『続こどものうた200』チャイルド本社。</p> <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を理解し読譜ができるか。 2. 弾き歌いをするための演奏力を身につけたか。 3. 歌うための発声を習得し、歌うことができるか。 4. 主にリズム活動に関わっていくマーチなどの演奏ができるか。1 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ピアノ伴奏による弾き歌いの発表</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2. 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3. 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1. ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%	2. 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%	3. 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1. ピアノ伴奏による弾き歌いの発表	総合点の50%								
2. 基本的な音楽理論の筆記テストまたはそれにかわるレポートなど	総合点の30%								
3. 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>ピアノ演奏や歌唱のような実技は、一夜漬けで習得できるようなものではなく毎日地道に練習を積み重ねていくことが重要です。必ず、短時間でも構わないので「毎日」ピアノに触れるよう心がけて下さい。短期間で基礎的技術を身に付けるためには、単調な指の訓練も必要となりますが、そうした練習は退屈なものに思われてしまいます。しかし、そうした練習も楽しんで弾くのが「音楽」であり、それを乗り越えた先に真に演奏することの楽しさがあると考えて下さい。</p>								
13. オフィスアワー	初回授業のオリエンテーションにおいて通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション コードネームの復習(メジャー、マイナー)	事前学習	メジャーコード、マイナーコードを復習しておく。「音楽」で練習した曲をすべて復習し、弾けるようにしておく。						
		事後学習	コードネームの復習。ピアノ課題曲を弾けるよう個人練習を開始する。						
第2回	ピアノ演奏および弾き歌い① コードネームの復習(その他のコード、転回形)	事前学習	コードネーム(メジャー、マイナー)について理解しておく。ピアノ課題曲①を弾けるよう毎日練習する。						
		事後学習	メジャー、マイナー以外のコードネーム及び転回形について理解する。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲①を完成させる。						
第3回	ピアノ演奏および弾き歌い② オリジナル伴奏譜の作成①(コードで弾く歌)	事前学習	コードネームについて理解しておく。ピアノ課題曲②を弾けるよう毎日練習する。						
		事後学習	オリジナル伴奏譜①を完成させ、弾けるようにする。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲②を完成させる。						
第4回	ピアノ演奏および弾き歌い③ オリジナル伴奏譜の作成②(生活の歌)	事前学習	ピアノ課題曲③を弾けるよう毎日練習する。						
		事後学習	オリジナル伴奏譜②を完成させ、弾けるようにする。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲③を完成させる。						
第5回	ピアノ演奏および弾き歌い④ オリジナル伴奏譜の作成③(季節の歌)	事前学習	ピアノ課題曲④を弾けるよう毎日練習する。						
		事後学習	オリジナル伴奏譜③を完成させ、弾けるようにする。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲④を完成させる。						

第 6 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑤ オリジナル伴奏譜の作成④（愛唱歌）	事前学習	ピアノ課題曲⑤を弾けるよう毎日練習する。
		事後学習	オリジナル伴奏譜④を完成させ、弾けるようにする。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲⑤を完成させる。
第 7 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑥ 発声の基礎①（姿勢と呼吸）	事前学習	ピアノ課題曲⑥を弾けるよう毎日練習する。
		事後学習	発声の基礎について理解し、実践できるよう身に付ける。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲⑥を完成させる。
第 8 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑦ 発声の基礎②（発音）	事前学習	ピアノ課題曲⑦を弾けるよう毎日練習する。
		事後学習	発声の基礎について理解し、実践できるよう身に付ける。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲⑦を完成させる。
第 9 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑧ 発声の基礎③（口の開け方）	事前学習	ピアノ課題曲⑧を弾けるよう毎日練習する。
		事後学習	発声の基礎について理解し、実践できるよう身に付ける。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲⑧を完成させる。
第 10 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑨ 発声の基礎④（響きのつけ方）	事前学習	ピアノ課題曲⑨を弾けるよう毎日練習する。
		事後学習	発声の基礎について理解し、実践できるよう身に付ける。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲⑨を完成させる。
第 11 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑩ 発声の基礎⑤（高音域の出し方）	事前学習	ピアノ課題曲⑩を弾けるよう毎日練習する。
		事後学習	発声の基礎について理解し、実践できるよう身に付ける。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲⑩を完成させる。
第 12 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑪ 歌唱時の表現力	事前学習	ピアノ課題曲⑪を弾けるよう毎日練習する。
		事後学習	歌唱時の表現力を高める。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲⑪を完成させる。
第 13 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑫ ICT を活用した音程チェック	事前学習	ピアノ課題曲⑫を弾けるよう毎日練習する。
		事後学習	歌唱時の音程について理解する。授業でのアドバイスを参考にピアノ課題曲⑫を完成させる。
第 14 回	バイエル（初心者）またはオリジナル伴奏譜による弾き歌い（経験者）の発表	事前学習	事前に指定された曲を発表できるよう毎日練習する。
		事後学習	ピアノ演奏技術向上のため、継続して練習を重ねる。
第 15 回	弾き歌いの発表	事前学習	事前に指定された弾き歌いの曲を発表できるよう毎日練習する。
		事後学習	「音楽Ⅱ」の受講に向けて、春休み中も毎日欠かさずことなくピアノの練習を継続する。

1. 科目名(単位数)	音楽実践演習Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SJMP2145										
2. 授業担当教員	岡村 弘												
4. 授業形態	演習、講義、実技	5. 開講学期	秋期										
6. 履修条件・他科目との関係													
7. 講義概要	「音楽実践演習Ⅱ」では「音楽Ⅱ」で学んだことを実践する力をさらに高めるための演習を行う。リズム活動で使用される楽曲の演奏や動きに合わせて即興的に演奏する方法を実践的に学ぶ。わらべうたに関する理解を深め、歌い遊べるわらべうたのレパートリーを増やす。リズム楽器をはじめとする、保育活動で 사용되는楽器の正しい奏法、扱いに習熟し、子どもの歌や楽曲を楽器で楽しむ方法を学ぶ。弾き歌いの演奏技術に関しては継続的に演奏力を磨く。手遊び歌のレパートリーを増やし手遊び歌はわらべうた同様、正しい音程で歌えるように演習を重ねる。												
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リズム活動のためのピアノ演奏ができ、自身も音楽に合わせてリズムカルに動ける。 2. 保育活動で使われる楽器に関する正しい知識を持つ。楽器遊びや合奏にアレンジできる力をつける。 3. 手遊び歌、わらべうたのレパートリーを増やし、正しく歌い遊ぶことができる。 4. 弾き歌いの演奏技術を高める。 												
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ② こどもの歌、手遊び歌のレパートリーを増やす。 リズム活動の時間は動きやすい服装で参加すること。 第9,14回に「弾き歌い」、第15回にグループでの「アンサンブル」発表を行う。												
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 音楽(幼)、音楽Ⅱで使用した教科書を継続使用。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 【参考書】 ・二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社、2014。 【教材】 ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック(先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)												
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. リズム活動のためのピアノ演奏ができ、自身も音楽に合わせてリズムカルに動けるか。 2. 保育活動で使われる楽器に関する正しい知識を持ち、楽器遊びや合奏にアレンジできるか。 3. 手遊び歌、わらべうたを正しく歌い遊ぶことができるか。 4. 弾き歌いの演奏技術を高められたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. リズム活動のためのピアノ演奏と動きの発表</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2. 保育活動で使われる楽器を使った楽器遊びや合奏の発表</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3. 手遊び歌、わらべうたの発表</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4. 弾き歌いの発表</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>5. 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> </table> 上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。			1. リズム活動のためのピアノ演奏と動きの発表	総合点の20%	2. 保育活動で使われる楽器を使った楽器遊びや合奏の発表	総合点の20%	3. 手遊び歌、わらべうたの発表	総合点の20%	4. 弾き歌いの発表	総合点の20%	5. 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1. リズム活動のためのピアノ演奏と動きの発表	総合点の20%												
2. 保育活動で使われる楽器を使った楽器遊びや合奏の発表	総合点の20%												
3. 手遊び歌、わらべうたの発表	総合点の20%												
4. 弾き歌いの発表	総合点の20%												
5. 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%												
12. 受講生へのメッセージ	「音楽(幼)」、「音楽実践演習Ⅰ」、「音楽Ⅱ」で学んだことを踏まえ、幼稚園・保育園の現場で実践できるようなピアノ演奏技能レベルの更なる向上を目指し、またリズム活動もまず皆さん自身が体を動かし、子どもたちと楽しく活動できるスキルを身に付けましょう。ピアノ演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大事です。また、手遊び歌、楽器遊び、アンサンブルなどを通じて幼稚園の現場で豊かな音楽活動が展開できるような力をつけていきましょう。												
13. オフィスアワー	授業時に通知												
14. 授業展開及び授業内容													
講義日程	授業内容	学習課題											
第1回	オリエンテーション シラバス説明、授業概要 経験値に応じた課題曲選曲 手遊び歌・パネルシアター・エブロンシアターなどの実践のための準備	事前学習	今まで学んだこどもの歌の復習。										
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことの復習。										
第2回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン① 手遊び歌・パネルシアター・エブロンシアターなどの実践①	事前学習	課題曲の練習。										
		事後学習	レッスンの復習。手遊び歌・パネルシアター・エブロンシアターなどの復習										
第3回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン② 手遊び歌・パネルシアター・エブロンシアターなどの実践②	事前学習	課題曲の練習。										
		事後学習	レッスンの復習。手遊び歌・パネルシアター・エブロンシアターなどの復習。										
第4回	リズム活動の実践①拍、拍子感、緩急と強弱	事前学習	課題曲の練習。										
		事後学習	課題曲の復習。拍、拍子感、緩急と強弱について復習。										
第5回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン③ いろいろな手遊び歌の実践①	事前学習	課題曲の練習。										
		事後学習	レッスンの復習。いろいろな手遊び歌について復習。										
第6回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン④	事前学習	課題曲の練習。										

	いろいろな手遊び歌の実践②	事後学習	レッスンの復習。いろいろな手遊び歌について復習。
第7回	リズム活動の実践③言葉とリズム	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	課題曲の復習。言葉とリズムについて復習。
第8回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑤ 身体を使った遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。課題発表曲の準備
第9回	ピアノ弾き歌い発表 発表の振り返り	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。手遊び歌発表に向けて準備。
第10回	リズム活動の実践⑤わらべうたを用いた活動 手遊び歌の発表①	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	課題曲の復習。わらべうたを用いた活動について復習。
第11回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑥ 手遊び歌の発表②	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。手遊び歌について復習。
第12回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑦ アンサンブルの実践①ボディパーカッション	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。ボディパーカッションについて復習
第13回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑧ アンサンブルの実践②楽器を用いたアンサンブル	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。グループごとにアンサンブル発表の練習。
第14回	ピアノ演奏及び弾き歌い課題曲発表 グループごとにアンサンブル発表の準備	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。グループごとにアンサンブル発表の練習。
第15回	アンサンブルの発表 発表の振り返り 今後の学びについて	事前学習	グループごとにアンサンブル発表の練習。
		事後学習	今後の学びについて授業で指導されたことを実践する。

1. 科目名 (単位数)	音楽実践演習Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SJMP2145
2. 授業担当教員	本野 洋子		
4. 授業形態	演習、講義, 実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽実践演習Ⅱ」では「音楽Ⅱ」で学んだことを実践する力をさらに高めるための演習を行う。リズム活動で使用される楽曲の演奏や動きに合わせて即興的に演奏する方法を実践的に学ぶ。わらべうたに関する理解を深め、歌い遊べるわらべうたのレパートリーを増やす。リズム楽器をはじめとする、保育活動で使用される楽器の正しい奏法、扱いに習熟し、子どもの歌や楽曲を楽器で楽しむ方法を学ぶ。弾き歌いの演奏技術に関しては継続的に演奏力を磨く。手遊び歌のレパートリーを増やし手遊び歌はわらべうた同様、正しい音程で歌えるように演習を重ねる。		
8. 学習目標	1. リズム活動のためのピアノ演奏ができ、自身も音楽に合わせてリズムカルに動ける。 2. 保育活動で使われる楽器に関する正しい知識を持つ。楽器遊びや合奏にアレンジできる力をつける。 3. 手遊び歌、わらべうたのレパートリーを増やし、正しく歌い遊ぶことができる。 4. 弾き歌いの演奏技術を高める。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	① ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ② こどもの歌、手遊び歌のレパートリーを増やす。 リズム活動の時間は動きやすい服装で参加すること。 第9,14回に「弾き歌い」、第15回にグループでの「アンサンブル」発表を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 音楽(幼)、音楽Ⅱで使用した教科書を継続使用。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 【参考書】 ・二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社、2014。 【教材】 ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. リズム活動のためのピアノ演奏ができ、自身も音楽に合わせてリズムカルに動けるか。 2. 保育活動で使われる楽器に関する正しい知識を持ち、楽器遊びや合奏にアレンジできるか。 3. 手遊び歌、わらべうたを正しく歌い遊ぶことができるか。 4. 弾き歌いの演奏技術を高められたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する。 1 リズム活動のためのピアノ演奏と動きの発表 総合点の20% 2 保育活動で使われる楽器を使った楽器遊びや合奏の発表 総合点の20% 3 手遊び歌、わらべうたの発表 総合点の20% 4 弾き歌いの発表 総合点の20% 5 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など) 総合点の20% 上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。		
12. 受講生へのメッセージ	「音楽(幼)」、「音楽実践演習Ⅰ」、「音楽Ⅱ」で学んだことを踏まえ、幼稚園・保育園の現場で実践できるようなピアノ演奏技能レベルの更なる向上を目指し、またリズム活動もまず皆さん自身が体を動かし、子どもたちと楽しく活動できるスキルを身に付けましょう。ピアノ演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大切です。また、手遊び歌、楽器遊び、アンサンブルなどを通じて幼稚園の現場で豊かな音楽活動が展開できるような力をつけていきましょう。		
13. オフィスアワー	授業時に通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション シラバス説明、授業概要 経験値に応じた課題曲選曲 手遊び歌・パネルシアター・エプロンシアターなどの実践のための準備	事前学習	今まで学んだこどもの歌の復習。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことの復習。
第2回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン① 手遊び歌・パネルシアター・エプロンシアターなどの実践①	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。手遊び歌・パネルシアター・エプロンシアターなどの復習
第3回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン② 手遊び歌・パネルシアター・エプロンシアターなどの実践②	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。手遊び歌・パネルシアター・エプロンシアターなどの復習。
第4回	リズム活動の実践①拍、拍子感、緩急と強弱	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	課題曲の復習。拍、拍子感、緩急と強弱について復習。
第5回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン③ いろいろな手遊び歌の実践①	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。いろいろな手遊び歌について復習。

第 6 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン④ いろいろな手遊び歌の実践②	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。いろいろな手遊び歌について復習。
第 7 回	リズム活動の実践③言葉とリズム	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	課題曲の復習。言葉とリズムについて復習。
第 8 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑤ 身体を使った遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。課題発表曲の準備
第 9 回	ピアノ弾き歌い発表 発表の振り返り	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。手遊び歌発表に向けて準備。
第 10 回	リズム活動の実践⑤わらべうたを用いた活動 手遊び歌の発表①	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	課題曲の復習。わらべうたを用いた活動について復習。
第 11 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑥ 手遊び歌の発表②	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。手遊び歌について復習。
第 12 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑦ アンサンブルの実践①ボディパーカッション	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。ボディパーカッションについて復習
第 13 回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑧ アンサンブルの実践②楽器を用いたアンサンブル	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。グループごとにアンサンブル発表の練習。
第 14 回	ピアノ演奏及び弾き歌い課題曲発表 グループごとにアンサンブル発表の準備	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。グループごとにアンサンブル発表の練習。
第 15 回	アンサンブルの発表 発表の振り返り 今後の学びについて	事前学習	グループごとにアンサンブル発表の練習。
		事後学習	今後の学びについて授業で指導されたことを実践する。

1. 科目名 (単位数)	音楽実践演習Ⅲ (2単位)	3. 科目番号	SJMP3145								
2. 授業担当教員	本野 洋子										
4. 授業形態	演習、講義、実技	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	「音楽実践演習Ⅲ」では「音楽Ⅲ」での学びを受け、より実践的な演習を積むことで、幼稚園実習や就職後の保育活動での実践力、指導力を磨く。具体的には、新しい子どもの歌はリズムも和声も難しいものが多いので、それらを理解し、指導する力を養う。保育者としての適切な指導を行えるよう、自身の音楽表現力を磨き、子どもの歌をアレンジし、楽器や身体表現する術を学ぶ。また、歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画実践することで、子どもとともに創作的な或いは即興的な音楽活動が行えるようになる。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの歌、子どもの発声についての理解を深め、自ら正しく演奏できる。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができる。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できる。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高める。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回学生各個人の進度に応じたピアノ演奏課題を出す。 保育士、幼稚園教諭など目標のある学生については、それらの資格に必要なレベルの課題を課す。 2. 第5回、第10回、第15回目の授業で、“弾き歌い”を発表演奏。 就職後、各現場で子どもたちの前で演奏するというに慣れるためと、課題を成し遂げるという目的のために実施する。 3. 音楽劇など総合的な活動の企画発表 現場での実践に即した、考える授業づくりのための演習とする。 										
10. 教科書・参考書・教材	1年から3年まで使用してきた楽譜 他に必要な資料を配布する。										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発声指導に関する知識を身につけ、自らも正しく演奏できるか。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができるか。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できるか。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高められたか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 弾き歌いの発表</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%	2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%	3 弾き歌いの発表	総合点の20%	4 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%										
2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%										
3 弾き歌いの発表	総合点の20%										
4 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など)	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、「音楽Ⅲ」での学びを受け、より実践的な演習を積む。新しい子どもの歌はリズムも和声も難しいものも多く、それらを理解、指導する力を養う。自身が保育者としての適切な指導力を持つため、自身の音楽表現力を磨き、子どもの歌をアレンジし、楽器や身体表現する術を学ぶ。従って自主的に積極的な授業への参加を望んでいます。										
13. オフィスアワー	最初の授業時に通知										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション：本科目の概要と学習目標 弾き歌い課題提示 それぞれの学生の進路および進度に見合った課題を課す。	事前学習	一年次から使用している、子どもの歌曲集の中から、自分が弾ける程度の曲で、まだ練習したことのない曲を選び、練習しておく。								
		事後学習	第1回目に指導された事柄を復習して練習する。								
第2回	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声についてのメカニズムを知り、正しい発声の仕方を体得する①。 個人指導を中心とした弾き歌い① 個別レッスンを次回課題を課す。 特に子どもの興味・関心・季節を考慮しながら各学生が希望する現場でよく使われている曲を選び順次レパートリーを増やしていくようにする	事前学習	第1回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。								
		事後学習	第2回目に指導された事柄を復習して練習する。発声の仕方について、復習する。								
第3回	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する②。 個人指導を中心とした弾き歌い② 個別レッスンを次回課題を課す。 特に子どもの興味・関心を考慮しながら各学生が希望する現場でよく使われている曲を選ぶ	事前学習	第2回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習する。								
		事後学習	第3回目に指導された事柄を復習して練習する。								
第4回	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する③。	事前学習	第3回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。								

	個人指導を中心とした弾き歌い③。 特に生活の中での歌を考える。 次回発表の課題について留意点などをポイントに練習する。	事後学習	第4回目に指導された事柄を復習して練習しておく。
第5回	ピアノ弾き歌い発表演奏 グランドピアノを使用し、他の学生を幼稚園児と仮定しロールプレイ形式で行う。 トーンチャイムの演奏① トーンチャイムについて、その仕組みと奏法について学習する	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
		事後学習	第5回目に指導された事柄を復習して練習する。特に、歌うという観点から、美しい発声、表現力あるいは美しい日本語での発声について復習しておく。
第6回	子どもの歌の歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する④ 特に園行事の歌について考える。 個人指導を中心とした弾き歌い④ レパートリーを増やすために新しい課題について練習する。その際子どもの発達や興味関心、歌わせる季節などを考えながら教材選択を行う。 トーンチャイムの演奏② グループ分けし、各グループのアンサンブル練習を行う。 トーンチャイムの演奏映像を鑑賞し、各自の感想・意見などをディスカッションする。	事前学習	第5回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第6回目に指導された事柄を復習して練習する。鑑賞した実践教育のVTRについて、感想や意見などをまとめておく。
第7回	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する⑤ 各季節の歌を考えさせる。 個人指導を中心とした弾き歌い⑤ 特に子どもにとって美しい発声で歌いながら伴奏をすることに重点を置く。 トーンチャイムの演奏③ 各グループのアンサンブル練習を行う。	事前学習	第6回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第7回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルで使う楽器についてその演奏の仕方を復習しておく。
第8回	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する⑥ 各季節の歌を考える 個人指導を中心とした弾き歌い⑥ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを徹底する。また、楽譜通りの伴奏が困難な学生はコードによる伴奏を試みる。 トーンチャイムの演奏④ 各グループのアンサンブル練習を行う。 その際、ただ単に音を出すだけでなく、美しく音楽作りができるよう考える	事前学習	第7回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第8回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルの記譜法について慣れる。
第9回	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する⑦ 各季節の歌を考える 個人指導を中心とした弾き歌い⑦ 次回発表の課題を課し、指導された注意点に気を付けて練習する。 トーンチャイムの演奏⑤。 グループごとの発表と、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表。	事前学習	第8回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第9回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
第10回	ピアノ弾き歌い発表演奏 グランドピアノを使用し、他の学生を幼稚園児と仮定しロールプレイ形式で行う。演奏発表していない学生が、子どもたちを演じうまく歌えるような演奏かどうかを評価し合う。 子どもの歌の歌唱を通し、どのように音楽的表現を行うか考える。 総合的活動の企画① 6~7人のグループ分けを行う。 子どもの歌を題材にして、各グループでどのようなパフォーマンスを行うか企画する。 具体的に、身体表現を中心としたもの、人形劇、影絵、ペープサート、マリオンネットまたはそれらの組み合わせなどを考える	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。特に美しく歌うことに重点を置いて学習することが求められる。
		事後学習	第10回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌いをしている最中に止まってしまう箇所、などには特に留意して、歌うことに重きを置いて練習する。
第11回	個人指導を中心とした弾き歌い⑧ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。 子どもの歌の歌唱を通し、どのように音楽的表現を行うか考	事前学習	第10回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第11回目に弾き歌いで指導された事柄

	える。 総合的活動の企画② 使用する楽器、役割、必要な材料などを考え、制作、練習に入る		を復習して練習する。止まらないよう、歌を中心にして、もしピアノが止まっても、歌を歌って続けて、入ってこられる部分から、ピアノ伴奏ができるよう練習する。
第 1 2 回	個人指導を中心とした弾き歌い⑨ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。 子どもの歌の歌唱を通し、より深く音楽的表現を考える。 総合的活動の企画③ 使用する楽器、役割、必要な材料などを考え、制作、練習を行う	事前学習	第 1 1 回目に練習した曲、または新しい曲を練習しておく。同じ曲を、完璧に弾けるようになるまですることよりも、ある程度弾ければ新しい曲に挑戦する気持ちを持つ。 手作り楽器のために必要な材料を準備しておく。
		事後学習	第 1 2 回目に指導された事柄を復習して練習する。特に弾き歌いに関しては、止まらない、美しく表現することを考えて歌う
第 1 3 回	個人指導を中心とした弾き歌い⑩ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。 総合的活動の企画④ 発表に向けての練習	事前学習	第 1 2 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第 1 5 回目の弾き歌い発表演奏のための曲ばかりを練習しないよう、できる限り多くのレパートリーが持てるようにしておく。
		事後学習	第 1 3 回目に指導された事柄を復習して練習する。手作り楽器の音の出る原理について復習しておく。
第 1 4 回	個人指導を中心とした弾き歌い⑪ 次回発表する曲について、指導を受けた箇所を注意し、特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出しながら、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意しながら練習する 総合的活動の企画⑤ グループごとの発表と学生同士の評価	事前学習	第 1 3 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第 1 5 回目の弾き歌い発表演奏の曲を決めて練習を始める。
		事後学習	第 1 4 回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。特に第 1 5 回目に演奏する曲で留意する点を考えておく。
第 1 5 回	弾き歌い発表 グランドピアノを使用し、実技課題から 1 曲を他の学生が歌えるようロールプレイのような形式で行う。 演奏発表していない学生が、子どもたちを演じうまく歌えるような演奏かどうかを評価し合う。 これからの音楽の学習、音楽と共にある人生について、学生へのメッセージを送る。 学生による授業評価	事前学習	今までに学習してきた弾き歌いの曲で、最も良く弾ける曲を仕上げる。
		事後学習	第 1 5 回目に指導された事柄を復習して練習する。今後の練習について、授業がなくなっても続けていけるよう今後の学習計画を立てる。

1. 科目名 (単位 数)	海外留学入門 (2単位)	3. 科目番号	EIJP2102
2. 授業担当教員	野口 芙美		
4. 授業形態	講義、演習、リサーチ、ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	海外留学を成功させるためにはどのような知識や準備が必要か。そして海外の人との交流や海外の大学での授業にはどのように事前準備をする必要があるのかなど、基礎的なスキルや知識を身に付ける学習を行う。そのなかで、国際社会における異文化理解と自国について実践学習し、将来的に各学生が国際社会の一員として必要な知識とスキルなどを習得し、自国の紹介や自己表現ができるように実践する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学に備えての実用的な自国の専門文化用語や説明方法の習得 2. 外国人への対応や交流方法の習得 3. 自分の意見を「言える・伝える・説明する」の口頭表現の向上 4. 自国文化や歴史などを再勉強し、国際ビジョンや交流スキルの向上 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業ごとにワークシートを配布し、それに沿ってペアワークやグループワークを行いながら授業を進める。ペアワーク・グループワークでの内容は授業後にワークシートにまとめ、授業の感想とともに次回の授業で提出する。 2. 日本に関するニュースを発表し、感想をシェアする (一人あたり発表4回)。 3. 留学先として希望する国・地域、あるいは興味のある国・地域を一つ選び、留学に必要な情報を収集する。収集した情報を整理し、授業で発表する (第5回)。 4. 実際に海外で日本文化を説明・紹介する練習として、授業で扱った内容を参考に紹介したい日本文化を一つ選び、簡単な英語での紹介に挑戦する (第14回)。 5. 授業で扱った内容を参考に、海外に伝えたい日本文化についてレポートをまとめる (最終レポート)。 		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】各講義で資料を配布する。</p> <p>【参考書】伊藤嘉一著『国際理解教育 母文化・異文化・比較文化』鷹書房弓プレス、2011年 独立行政法人日本学生支援機構『私がつくる 海外留学』、2019年ほか適宜紹介する</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準(学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学に必要な海外事情への理解が深まったか。 2. 自国の文化や歴史などを口頭で発表し説明できるスキルが上達したか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・積極的参加度 総合点の30% 2 課題 (レポート等) 総合点の30% 3 プレゼンテーション 総合点の40% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	「留学先で日本について質問されたけれどうまく答えられなかった」という話はよく聞く。日本独自の文化を世界の文化と比較することで改めて学び、知っているようで深くは知らなかった日本の文化について整理する機会となることを期待する。自分が面白いと思った日本文化について、外国人が正しく理解できるように紹介するためにはどうしたらよいのかも、実際のプレゼンテーションを通して学んでほしい。		
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、自分の留学について考える、留学準備のための情報収集	事前学習	自分はいつどこへなぜ留学したいのか、自分が思い描く留学について考えてくる。
		事後学習	留学先として興味のある国・地域を一つ選び、留学のために必要な情報を収集する (第5回で発表)
第2回	食文化	事前学習	日本の食文化について考えてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第3回	衣文化・住文化	事前学習	日本の衣文化・住文化について考えてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第4回	習慣・儀式	事前学習	日本の習慣・儀式について考えてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第5回	発表：留学希望先 (興味がある国・地域) における留学	事前学習	収集した情報をまとめ、発表の準備・練習をしておく。
		事後学習	発表内容をレポートにまとめる。
第6回	行事	事前学習	日本の季節ごとの行事について考えてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第7回	宗教	事前学習	日本の宗教、自分にとっての宗教について考えてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第8回	言語	事前学習	日本語の特徴について考えてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第9回	非言語コミュニケーション	事前学習	日本の非言語コミュニケーションにはどん

2020年度

			なものがあるか考えてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第10回	芸能：音楽、演劇、武道	事前学習	日本の独自の芸能について調べてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第11回	絵画・造形：茶道、華道、庭園など	事前学習	日本の絵画、造形について調べてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第12回	地理	事前学習	日本の地理について復習しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第13回	歴史	事前学習	日本の歴史について復習しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第14回	プレゼンテーション：英語で日本文化を紹介する	事前学習	日本独自の文化を1つ選び、英語で紹介・プレゼンテーションをするための準備・練習をしておく。
		事後学習	発表の感想を改善点とともにまとめる。
第15回	これまでの内容の振り返り 最終レポートの準備：「海外で紹介したい日本の文化」	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	これまでの学習内容を復習し、レポートの準備をする。

1. 科目名 (単位 数)	会計学 (2単位)	3. 科目番号	SBMP2131
2. 授業担当教員	番 雪水		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「簿記」履修後、「会計学」を履修すると理解力は増大する。		
7. 講義概要	近年の会計制度の状況を踏まえ、会計学の基礎的な理論を把握するのがこの授業の目的である。財務会計の目的は、会計の財務状況を投資家などの利害関係者に知らせるものであり、そのために、会計の基礎概念、財務諸表の作成ルール、現金、手形、商品取引、資金調達、収益と費用、決算手続等についても解説を加える。財務諸表の利用者 (債権者や株主などの利害関係者)、経営者の会計に関する行動などについても解説を加える。将来、就職した先や自分で立ち上げる事業所等の経営に役立てるようにする。		
8. 学習目標	1. 個人商店や会社について、その財政状態や経営成績を表す財務諸表の読み方を知り、説明できる。 2. 収益と費用と測定して利益を計上するという過程の基礎にある会計理論を学び、説明できる。 3. 資産項目、負債項目、資本項目の課題と評価について理解し、説明できる。 4. 会計情報を活用した経営改善について理解し、説明できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	アサインメントを課すことはないが、年末年始休暇中の課題レポートは授業内で指示する。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】小栗崇資著『コンパクト財務会計 クイズでつける読む力』中央経済社 2016年		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. テキストの輪読を通じて、会計学の基礎知識が理解できているか。 2. レポート課題に対して的確に検討し、会計情報を活用した経営判断ができるようになってきているか。 3. 期末試験を通じて、会計用語等を理解し、説明できるようになっているか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加 総合点の10% 2. レポート 総合点の30% 3. 期末試験 総合点の60%		
12. 受講生への メッセージ	会計は現代人必須の教養だ。会計学は、適正な利益とは何かを考える学問だ。会計学のことは「財務諸表論」ともいい、財務諸表の学習でめざすのは、「作る力」と「読む力」の修得だ。「作る力」をつけるには、複式簿記の学習が不可欠だ。一方、「読む力」は難解な専門知識がなくてもつけることができる。この講義は財務諸表を「読む力」をつける講義だ。		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス、利益とは何か	事前学習	教科書 p. 5 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 5～15 を読み返し復習する
第2回	会社と財務諸表	事前学習	教科書 p. 17 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 17～23 を読み返し復習する
第3回	会計ルール・会計制度	事前学習	教科書 p. 25 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 25～36 を読み返し復習する
第4回	利益の計算方法と企業会計の考え方	事前学習	教科書 p. 37 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 37～47 を読み返し復習する
第5回	貸借対照表の仕組みと見方	事前学習	教科書 p. 49 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 49～57 を読み返し復習する
第6回	資産の特徴と見方	事前学習	教科書 p. 59 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 59～73 を読み返し復習する
第7回	負債の特徴と見方	事前学習	教科書 p. 75 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 75～83 を読み返し復習する
第8回	純資産 (資本) の特徴と見方	事前学習	教科書 p. 85 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 85～95 を読み返し復習する
第9回	損益計算書の仕組みと見方	事前学習	教科書 p. 97 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 97～107 を読み返し復習する
第10回	キャッシュ・フロー計算書の仕組みと見方	事前学習	教科書 p. 109 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 109～114 を読み返し復習する
第11回	国際会計基準の導入と新しい会計基準	事前学習	教科書 p. 115 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 115～127 を読み返し復習する
第12回	資産会計の新たな変化	事前学習	教科書 p. 129 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 129～144 を読み返し復習する
第13回	負債会計の新たな変化	事前学習	教科書 p. 145 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 145～155 を読み返し復習する
第14回	企業グループの会計	事前学習	教科書 p. 157 「クイズで考えよう」を予習すること
		事後学習	教科書 pp. 157～167 を読み返し復習する
第15回	経営分析の方法	事前学習	教科書 p. 169 「クイズで考えよう」を予習すること

2020 年度

		事後学習	教科書 pp. 169～183 を読み返し復習する
期末試験（記述式の試験を実施する）			

1. 科目名 (単位数)	会計学入門 (2単位)	3. 科目番号	GELA1351 GELA1356
2. 授業担当教員	番 雪氷		
4. 授業形態	テキストの輪読とその解説が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「簿記」および「経営学」の関係が緊密です。		
7. 講義概要	簿記や会計学は、数学的で技術的な側面が強く、苦手意識を持つ学生も少なくない。そこで、この講座では、会計を素材としたビジネス書や小説を題材に、数字に頼ることなく会計的思考法を学習することを試みる。会計的思考は簿記上の仕訳を前提とするものではなく、ビジネスを行うすべての人に必要な思考法であり、数字はその根拠を示すものとして用いられているに過ぎない。この講座を通じて、数字への苦手意識を持つことなく、会計的思考法を会得してもらいたい。		
8. 学習目標	1. 会計に興味を持つことができる。 2. 会計的思考法を理解できるようになる。 3. 数字を根拠に経営を考えることができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントを課すことはないが、短いレポートを1回ほど課す。レポート課題は講義中に提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小栗崇資編『スタートガイド会計学』中央経済社、2017年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 会計的思考法で考えることができるか。 2. 会計上、問題となるのが何か、理解できているか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、期末試験、レポート等を総合して評価する。] 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 期末試験 総合点の30% 3 課題レポート 総合点の40%		
12. 受講生へのメッセージ	会計学は堅苦しく、専門性が強い科目だと考える学生が多いようです。会計の知識は社会に出てから大いに役立つ学問です。なるべくやさしい言葉を使い、受講生が日常生活の中でイメージしやすいように心がけています。時々、講義中ディスカッションを設け、議論によって理解を深めていきます。		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 簿記と会計について、会計の役割と会計学	事前学習	教科書の準備、(pp.1~8)を読んでくること
		事後学習	収入、支出、記録、報告の意味を理解する
第2回	簿記・会計の歴史	事前学習	教科書 (pp.9~20) を読んでくること
		事後学習	複式簿記と株式会社の関係を考えてみる
第3回	簿記と会計の仕組み	事前学習	教科書 (pp.21~29) を読んでくること
		事後学習	複式簿記と財務諸表の仕組みを理解する
第4回	会計の制度	事前学習	教科書 (pp.30~38) を読んでくること
		事後学習	日本の会計制度の概要を理解する
第5回	会計情報の活用	事前学習	教科書 (pp.39~45) を読んでくること
		事後学習	有価証券報告書をネットから入手してみる
第6回	貸借対照表の見方① 資産	事前学習	教科書 (pp.46~56) を読んでくること
		事後学習	資産とは何かを理解する
第7回	貸借対照表の見方② 負債・純資産	事前学習	教科書 (pp.57~64) を読んでくること
		事後学習	負債と純資産の本質を理解する
第8回	損益計算書の見方	事前学習	教科書 (pp.65~70) を読んでくること
		事後学習	損益計算書の仕組みを理解する
第9回	キャッシュ・フロー計算書の見方	事前学習	教科書 (pp.71~75) を読んでくること
		事後学習	キャッシュ・フロー計算書を理解する
第10回	経営分析の方法	事前学習	教科書 (pp.76~83) を読んでくること
		事後学習	安全性、収益性の意味を理解する
第11回	原価計算	事前学習	教科書 (pp.84~100) を読んでくること
		事後学習	原価計算の目的と種類を理解する
第12回	管理会計	事前学習	教科書 (pp.101~116) を読んでくること
		事後学習	管理会計の目的とコスト概念を理解する
第13回	監査	事前学習	教科書 (pp.117~143) を読んでくること
		事後学習	監査の必要性について考える
第14回	税務会計	事前学習	教科書 (pp.144~165) を読んでくること
		事後学習	税務会計と企業会計の違いを理解する
第15回	社会福祉法人に関する会計の仕組み	事前学習	事前に配布した資料を読んでくること
		事後学習	一般企業と非営利組織の会計の違いを理解する
期末試験 記述式の試験を実施する			

1. 科目名 (単位数)	介護家政・環境論 (2単位)	3. 科目番号	SNMP3105
2. 授業担当教員	杉山 憲江		
4. 授業形態	講義、聞き取り調査の発表、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>介護の現場においては、介護技術とともに、人間の欲求や人間生活の仕組みを理解し、すべての人が文化的で人間らしい生活を営むことができるよう支援できる力が必要となる。</p> <p>そこで本授業では生活支援の意義や目的の理解に重点を置き、家庭生活の意義・生活経営・家庭管理・家庭経済について知識を深めていく。</p> <p>さらに、介護の専門家の基礎として、食生活における課題として生活と食事・身体機能と栄養・食品の成分管理・安全性、衣生活における課題として被服の役割と機能・素材と品質表示・洗濯と管理・高齢者や障害者に適した被服、住生活では住居の役割と機能・生活空間・住居の安全・快適な室内環境などについて基本事項を習得し、要介護者とその家族にとって具体的にどんな支援が必要なのか考察しながら、具体的に身に付けていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 要介護者とその家族の家庭生活、要介護者と地域・社会のあり方、消費生活についての知識を獲得する。 2. 高齢者・要介護者の栄養摂取など食生活における支援を理解し説明できる。 3. 衣生活における被服の役割・管理方法、要介護者に必要とされる被服の機能・被服環境についての知識を獲得し、説明できる。 4. 要介護者の住生活について必要とされる住環境の要件について習得できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1 「高齢者の人生や生活について (衣生活・食生活・住まいの視点から) 昔の生活・今の生活」 高齢者理解を目的として、身近な高齢者の聞き取りを行いまとめ、レポートを作成し、考察し、発表しよう。</p> <p>課題2 各項 (家庭生活・食生活・衣生活・住生活) の学習後、確実な知識理解の定着を図るため確認テストを行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I』第4版 中央法規、2017年。</p> <p>【参考書】 1. 居宅・グループホームにおける簡単おいしい介護食—基礎知識とレシピ 200 (第2版) 第1出版 2015年 東京商工会議所編『福祉授環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト』2014年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護者とその家族の家族生活、要介護者と地域・社会のあり方、消費生活についての知識を獲得したか。 ・高齢者・要介護者の栄養摂取など食生活における支援を理解し説明できるか。 ・衣生活における被服の役割・管理方法、要介護者に必要とされる被服の機能・被服環境についての知識を獲得し、説明できるか。 ・要介護者の住生活について必要とされる住環境の要件について習得したか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極的参加 30% ・聞き取りレポート・発表内容 20% ・期末試験 (知識確認まとめテスト) 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>要介護者とその家族の生活を支援する上で必要とされる専門的知識や技術の獲得をめざす授業とともに創り上げたいと願っています。介護の専門家として人間性や自己研鑽に励み、積極的な態度での授業参加を期待します。さらに疑問点は随時質問し、出席面での自己管理、授業課題に対して積極的に取り組んでください。聞き取り学習ではテーマを明確にし、聞き取ったことから時代背景などを調べ考察して自分の言葉で原稿を作成し、発表することを通して学びあいを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明 (学習の目的・内容・評価など) 高齢者の生活理解と学びに対する思いを話し合う。課題提示 (課題目的・聞き取り方・テーマの決め方・発表法などの説明)	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見直しを持つ。
第2回	生活支援とは何かディスカッションを通してアプローチの仕方を考えていく。	事前学習	教科書第1章第1節を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント (生活の構成要素) について知識理解を図っておく。
第3回	生活支援の基本的な考え方について ICF の視点などからディスカッションを通して学びあう。	事前学習	教科書第1章第2節を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント (プロとしての生活支援) を掴み、知識理解を図っておく。
第4回	生活支援と介護予防、(高齢者・障害者の生活)	事前学習	教科書第1章第3節を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント (支援における予防) を掴み、知識理解を図っておく。
第5回	家庭生活の理解 (高齢者・要介護者のくらしの実際1) 高齢者の家庭生活・家庭経済の理解と必要な知識を学ぶ。	事前学習	教科書第3章第1節 pp.194 ~216 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	確認テスト「生活支援」を見直し間違っていたと

	「確認テスト1」生活支援		ころ再確認し、知識理解を図っておく。
第6回	家庭生活の営み(高齢者・要介護者のくらしの実際2) 食生活の基本知識の獲得1 栄養素と効果と高齢との関わりについての理解 「確認テスト2」家庭生活	事前学習	教科書第3章第2節 pp.217～281 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	家庭生活にかかわる基本知識を「生活支援技術・家政」の授業実習とあわせ、理解の確認を図る。
第7回	食生活の基本知識2 食品の保存・規格表示・安全性 家庭生活と食事 「確認テスト3」食生活	事前学習	参考書1も準備して介護食の基礎知識 pp.1～3 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	確認テスト「食生活」を見直し間違えていたところを再確認し、知識理解を図っておく。
第8回	衣生活の基本知識 被服の役割と機能 被服の素材、繊維製品の取り扱い、表示記号の理解、 高齢者・障害者の被服の特徴について学ぶ。 「確認テスト4」衣生活	事前学習	教科書第3章 pp.279～280 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	高齢者の被服にかかわる基本知識の理解の確認とポイント(繊維製品の取り扱いや表示記号)の知識理解を図っておく。
第9回	家事支援における介護技術1 家事支援の意義と目的についての理解を深める。	事前学習	教科書第4章第1節 pp.282～292 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通して家事支援のあり方を考え、まとめることができる。
第10回	家事支援における介護技術2 家事の介護 一般的な家事と介護職が行う家事の違いを考え、家事支援のあり方を学ぶ。	事前学習	教科書第4章第2節 pp.292～335 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	学習したことを踏まえ、介護職としての家事支援をまとめておく。
第11回	家事支援における介護技術3 調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て・買い物における支援技術について学ぶ。 「確認テスト5」家事支援	事前学習	前時の授業内容を基に家事支援における具体的な介護技術をワークシートにまとめ提出できる準備をする。
		事後学習	家事支援技術を具体的に理解し、自分の日常生活において習熟を図る。
第12回	居住環境の整備1(住まいの整備のための基本技術) 段差・スペースなどの確保について	事前学習	教科書第2章第1節居住環境の整備の意義と目的 pp.96～193に目を通して 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント(ユニバーサルデザインの原則)を掴み知識理解を図る。
第13回	居住環境の整備2(住居の役割と機能) 生活に即した安全快適な住まいについて	事前学習	教科書第2章第2節安心して快適な生活の場づくり pp.119～168を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント(住居の役割)を掴み知識理解を図る。
第14回	居住環境の整備3(福祉住環境について) 「確認テスト6」住生活	事前学習	参考資料・教科書第2章居住環境の整備を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	福祉住環境について基本知識の理解の確認と確認テストの復習をする。
第15回	高齢者・要介護者のくらしの実際3(衣・食・住生活環境の現状と課題)聞き取り・調べから発表	事前学習	課題1についてそれぞれの計画に基づいて聞き取りを実施しておく。誤字脱字などが無いか推敲して提出する。
		事後学習	発表会を通して知ったこと学んだことを基に高齢者理解を深める。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	介護過程 I (2 単位)	3. 科目番号	SNMP2121
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>介護過程の意義と目的を理解し、ICFの概念をふまえて生活支援活動における介護過程の展開が行えるように進めていく。さらに人間の尊厳、自立支援、心身機能・構造をふまえた展開が行えるようにその重要性を学ぶ。また、廃用症候群とリハビリテーションの考え方についてもふれて学習していく。</p> <p>介護過程において最も重要であるアセスメントについても概略的にふれる。その際に守らなくてはならない対象者の権利擁護についてもふれていく。介護過程の展開においては、他職種との連携が重要であることもふれながら進めていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程の意義と目的を理解し、説明することができる。 2. ICFの概念を理解し、介護過程の展開に活かすことができる。 3. 生活支援技術及びコミュニケーション技術における介護過程を理解し、説明することができる。 4. 人間の尊厳、自立支援、心身機能・構造をふまえた介護過程を理解し、説明することができる。 5. 介護過程におけるチームアプローチの重要性を理解し、説明することができる。 6. 介護過程におけるアセスメントの重要性を理解し、説明することができる。 7. 廃用症候群について理解し、説明することができる。 8. 介護過程におけるリハビリテーションの重要性について理解し、説明することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中のディスカッションを踏まえた発表、または課題レポート等を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 使用しない。 適宜資料を提示しながら進めていく。</p> <p>【参考書】 黒澤貞夫『ICFを取り入れた介護過程の展開』建帛社。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護過程の意義と目的を理解し、ICFの概念をふまえて生活支援活動における介護過程が理解できたか。 2) 人間の尊厳、自立支援、心身機能・構造をふまえた展開が行えるか。 3) 廃用症候群とリハビリテーションの考え方が理解できたか。 4) 介護過程におけるアセスメントについても概略的に理解できたか。 5) 対象者の権利擁護と他職種との連携についても理解ができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>[レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 40% 2. 授業態度 30% 3. 課題提出 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	領域「介護」、「こころとからだのしくみ」、「人間と社会」で学習してきたこと、学習していることを用いながら、介護実践を根拠に基づいて行えるよう、本科目での内容を十分理解して欲しい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<p>テーマ「介護過程の意義と目的」</p> <p>介護過程とは何か、介護過程の必要性を明確にし、具体的に介護過程が介護福祉士によって、展開され、活用されていくかを学習する。介護過程とはなにかグループで話し合い定義してもらい発表する。</p>	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。介護過程 I の振り返りを行なう。
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を説明できるようにする
第2回	<p>テーマ「ICFの概念とは」</p> <p>ICFとは何か、自らの生活に視点をおいて、ICFとの関連を具体的にしながら、ICFの概念を学習する。ICFの概念図に各人の生活の具体的な内容を当てはめて書いて整理してもらい、理解の内容を確認する。</p>	事前学習	ICFの概念を説明できる。
		事後学習	授業の内容を基にICFの概念を具体的に説明できるように整理する
第3回	<p>テーマ「ICFの概念と介護過程の展開①」</p> <p>介護実践を行う上で、介護過程の展開をどのようにICFの概念を用いて展開していくか具体的に学習する。</p>	事前学習	ICFと介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を展開する上でのICFの整理を行う
第4回	<p>テーマ「ICFの概念と介護過程の展開②」</p> <p>具体的な事例を用いて、ICFの概念を用いて介護過程の展開を行い学習する。介護が必要な人に対して、健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子の視点で整理してもらう。</p>	事前学習	介護過程を展開する上でのICFの具体的な活用を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を展開する上でのICFの具体的な活用を整理する
第5回	<p>テーマ「生活支援技術と介護過程」</p> <p>排泄・入浴・食事・着脱等の生活行為と移動・移乗・起居動作の基本動作との関連を含めて、生活支援技術における介護過程の考え方を学習する。</p>	事前学習	生活支援技術と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に生活支援技術の実践と介護過程の関連を整理する

第6回	テーマ「コミュニケーション技術と介護過程」 生活支援技術の提供において、介護過程の展開時のコミュニケーションは基本となることである。そのことから、介護過程の展開におけるコミュニケーション技術の活用を具体的に学習する。	事前学習	コミュニケーション技術と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるコミュニケーション技術の重要性を整理する
第7回	テーマ「人間の尊厳、自立支援と介護過程」 介護過程を展開する上で、人間の尊厳の理解、自立支援の理解を行い重要な視点である。介護過程を展開していく上でどのように取り入れていくか、考え方について具体的に学習する。	事前学習	人間の尊厳、自立支援を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における人間の尊厳、自立支援を整理する
第8回	テーマ「心身機能・構造と介護過程」 生活支援活動時には、こころとからだのしくみの理解が重要であることを認識して、介護過程の展開が行えるよう学習する。	事前学習	心身機能・構造と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における心身機能・構造を整理する
第9回	テーマ「廃用症候群について理解」 廃用症候群を理解し、廃用症候群の悪循環とその原因とメカニズムを学び、悪循環から良循環に変えていく支援について学ぶ。その中で生活における介護の視点を理解していく。	事前学習	廃用症候群について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における廃用症候群を整理する
第10回	テーマ「介護過程とリハビリテーション」 リハビリテーションに繋がる生活における介護福祉士が担う役割を理解し、介護過程におけるリハビリテーションの重要性を学習する。	事前学習	介護過程とリハビリテーションを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるリハビリテーションを整理する
第11回	テーマ「介護過程とアセスメント①」 介護過程に必要なアセスメントは何かを理解し、アセスメントの視点、必要な情報とは何か、情報収集の方法、収集した情報の整理の方法を学習する。	事前学習	アセスメントとは何かを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるアセスメントについて整理する
第12回	テーマ「介護過程とアセスメント②」 情報の収集と整理された中で、対象者が自分らしく生活するための課題・ニーズは何か、分析することが必要であり、その方法を概略的に学習する。	事前学習	課題・ニーズとは何かを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における課題・ニーズについて整理する
第13回	テーマ「介護過程における記録」 介護過程における記録は、展開を行う上でのアセスメント、課題分析、計画書であり、実施後には実施経過記録、評価等が全て重要であることを学習する。	事前学習	介護過程における記録について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における記録について整理する
第14回	テーマ「介護過程の展開とチームアプローチ」 介護過程を行うにあたり、アセスメント及びカンファレンス等において、他職種との情報の共有や連携が必要であり、実施においても同様であることを学習する。	事前学習	介護過程の展開とチームアプローチについて考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるチームアプローチについて整理する
第15回	テーマ「介護過程と権利擁護、法令順守」 介護過程を行うにあたり、個人情報収集することから、対象者の人権を守り、適正な方法で実施していくことを学習する。	事前学習	介護過程と権利擁護、法令順守について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における権利擁護・法令遵守について整理する

1. 科目名 (単位数)	介護過程Ⅱ (4単位)	3. 科目番号	SNMP3122
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義・演習・実技	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>本科目においては、ADL、IADLのそれぞれの生活支援の場面について、生活支援技術を振り返りながら介護過程を理解する。その上で紙上事例を通して、生活全般における視点の中でアセスメントを行い、個々の課題・ニーズを導きだし、計画書の作成、カンファレンスや評価の方法を身につけることを目的とする。</p> <p>実技・演習を通して、ADL、IADL等の生活支援の場面について、一つずつ活動の展開過程を行い、計画書を作成する。また、紙上事例を用いて、アセスメント、計画書の作成、カンファレンスの実施を行っていく。</p> <p>介護実習Ⅱで実施した介護過程の展開について振り返り、自らの介護過程の実践の課題を明らかにし、今後の学習目標を明確にできるように進めていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.ADL、IADLのそれぞれの生活支援の場面における活動過程を理解する。 2.認知症の症状や行動に対して支援過程の展開ができる。 3.生活支援全般における介護過程の展開を行うことができる。 4.紙上事例を通して、介護過程の展開を行うことができる。 5.カンファレンスを行うことができる。 6.自らの介護過程の実践の課題を明らかにし、今後の目標を明確にできる。 7.グループにおいて計画書の作成を行うことから、グループワークの方法と実際が行えるようにする。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各回とも授業の中でまとめて発表・レポート提出をする。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】「障害の理解Ⅰ」「心身機能と構造Ⅰ」で使用したテキストも使用する。</p> <p>【参考書】『ICFを取り入れた介護過程の展開』建帛社。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ADL、IADLのそれぞれの生活支援の場面における活動過程を理解できたか。 2. 自らの介護過程の実践の課題を明らかにし、今後の目標を明確にできたか。 3. グループワークの方法と実際が行えたか。 <p>○評定の方法</p> <p>[レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 50% 2. 授業態度 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>介護実習Ⅱに向けて、実践力が身につけられるように一回一回の授業を大切に授業に臨んで欲しい。また、授業ごとに展開が進んでいくために、一回の授業で学んだことを確実に身につけて欲しい。</p> <p>介護総合演習Ⅲの授業で行なわれる内容(すなわち実践)につなげていけるように学んで欲しい。</p> <p>グループワークへの積極的な参加とチームケアを意識したグループワークの実践が行えるように進めて欲しい。</p> <p>介護過程の理解が介護実習Ⅱ大きく影響することを念頭において授業に臨んでほしい。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の概要説明と進め方について テーマ「生活支援における介護過程の展開方法について①」 生活支援における介護過程の展開の方法(アセスメント、課題分析、課題・ニーズの把握、計画の立案、評価)について概略的に学習をする。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。介護過程の展開の具体的方法を考える。
		事後学習	介護過程の展開の方法を整理する。
第2回	テーマ「生活支援における介護過程の展開方法について②」 介護過程の展開を具体的に行えるよう、グループ演習を行いながら理解を深めていく。	事前学習	介護過程の展開の具体的方法を考える。
		事後学習	介護過程の展開の具体的方法授業の内容を踏まえて整理する。
第3回	テーマ「起居動作における活動過程」① 生活活動の起居における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの起居動作を振り返る。
		事後学習	起居動作の活動展開を整理する。
第4回	テーマ「起居動作における活動過程」② 生活活動の起居における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	起居動作の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第5回	テーマ「移乗・移動における活動過程」① 生活活動の移乗・移動における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの移乗・移動を振り返る。
		事後学習	移乗・移動の活動展開を整理する。
第6回	テーマ「移乗・移動における活動過程」② 生活活動の移乗・移動における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	移乗・移動の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。

第 7 回	テーマ「着脱衣における活動過程」① 生活活動の着脱衣における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの着脱衣を振り返る。
		事後学習	着脱衣の活動展開を整理する。
第 8 回	テーマ「着脱衣における活動過程」② 生活活動の着脱衣における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	着脱衣の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 9 回	テーマ「排泄における活動過程」① 生活活動の排泄における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの排泄を振り返る。
		事後学習	排泄の活動展開を整理する。
第 10 回	テーマ「排泄における活動過程」② 生活活動の排泄における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	排泄の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 11 回	テーマ「入浴・清潔における活動過程」① 生活活動の入浴・清拭における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの入浴・清潔を振り返る。
		事後学習	入浴・清潔の活動展開を整理する。
第 12 回	テーマ「入浴・清潔における活動過程」② 生活活動の入浴・清拭における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	入浴・清潔の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 13 回	テーマ「食事(摂取)における活動過程」① 生活活動の食事(摂取)における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの「食事(摂取)を振り返る。
		事後学習	「食事(摂取)の活動展開を整理する。
第 14 回	テーマ「食事(摂取)における活動過程」② 生活活動の食事(摂取)における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	「食事(摂取)の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 15 回	テーマ「整容・口腔ケアにおける活動過程」 生活活動の整容・口腔ケアにおける一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理し、グループで計画書を作成する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの整容・口腔ケアを振り返る。
		事後学習	整容・口腔ケアの活動展開を整理して計画書を作成し提出する。
第 16 回	テーマ「食事に関わる活動過程」 生活活動の食事に関わる調理、片付け等の一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理し、グループで計画書を作成する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの食事を振り返る。
		事後学習	食事の活動展開を整理して計画書を作成し提出する。
第 17 回	テーマ「衣・居に関わる活動過程」 生活活動の衣類の洗濯、掃除等の一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理し、グループで計画書を作成する。	事前学習	衣・居住環境について考える。
		事後学習	活動展開における生活活動の衣類の洗濯、掃除等の一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。
第 18 回	テーマ「認知症に関わる支援過程」① 認知症の症状や活動(行動)に対して、実技・演習を通して支援過程を整理する。	事前学習	認知症の症状・特性について考える。
		事後学習	認知症の症状について整理する。
第 19 回	テーマ「認知症に関わる支援過程」② 認知症の症状や活動(行動)に対して、実技・演習を通して支援過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	認知症の支援について考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 20 回	テーマ「その他の支援過程」 その他、服薬、金銭管理、外出等の生活の場面における活動(動作)について、実技・演習を通して支援過程を整理し、計画書を作成する。	事前学習	IADL等の活動展開を考える。
		事後学習	IADL等の活動展開を整理して計画書を作成し提出する。
第 21 回	テーマ「生活全般における介護過程の展開」紙上事例を通して① 事例を読む、事例内容を確認する。	事前学習	事例を読み内容について考える。
		事後学習	事例の内容の整理を行う。
第 22 回	テーマ「生活全般における介護過程の展開」紙上事例を通して② アセスメントを行う。情報の収集・整理を行う。	事前学習	事例アセスメントについて考える。
		事後学習	事例のアセスメントの整理を行う。
第 23 回	テーマ「生活全般における介護過程の展開」紙上事例を通して③ 課題分析を行う。	事前学習	事例の課題分析について考える。
		事後学習	事例の課題分析の整理を行う。
第 24 回	テーマ「生活全般における介護過程の展開」紙上事例を通して④ 課題・ニーズの抽出・整理を行う。	事前学習	事例の課題・ニーズについて考える。
		事後学習	事例の課題ニーズの整理を行う。
第 25 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」① 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズの抽出・整理までを発表する。	事前学習	自らが実践した介護過程の展開の発表の準備。
		事後学習	授業内で検討したものを整理する。
第 26 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」② グループにおいて見直しの検討を行うと共に自分自身の課題を明らかにする。	事前学習	課題を明確にする。
		事後学習	授業内で検討した課題を整理する。
第 27 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」③ グループにおいて見直しの検討を行うと共に自分自身	事前学習	目標を考える。
		事後学習	授業内で検討した目標を整理する。

2020年度

	の課題を明らかにする。自分自身の目標も明らかにする。		
第28回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」 ④ 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズについて明確にし、修正を行なう。	事前学習	他学生の展開について考える。
		事後学習	授業内で検討した課題・ニーズを修正する。
第29回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」 ⑤ 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズから支援の方法を検討する。	事前学習	自らが実践した介護過程の支援の方法を考える。
		事後学習	授業内で検討した支援の方法を整理する。
第30回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」 ⑥ 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズから支援の方法を検討した内容を発表する。	事前学習	支援の方法について発表の準備。
		事後学習	発表した内容についての修正を行なう。

1. 科目名(単位数)	介護過程Ⅲ (4単位)	3. 科目番号	SNMP3123
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義・演習・実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>本科目においては、介護実習で行ってきた利用者に対してのアセスメントをもとに計画書を作成し、カンファレンスにおいて検討を行い、よりよい計画書の作成を行えるようにする。さらに、障害に応じた介護過程の展開が行うことができるように学習する。また、終末期や居宅における介護過程の展開が行えるように学習する。</p> <p>実技・演習を通して、障害に応じた介護過程の視点を学んでいく。また、介護実習Ⅱで行ってきた利用者について、再度、介護過程の展開(課題分析、計画の作成、カンファレンス、実施)を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害に応じた介護過程の展開について理解する。 2. 実習の事例を通して、計画書の作成が行える。 3. 計画書について、カンファレンスを行うことができる。 4. 終末期における介護過程を理解できる。 5. 居宅における介護過程が理解できる。 6. 介護過程の展開が行える。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	各回とも授業の中でまとめて発表・レポート提出をする。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】「障害の理解Ⅰ」「身体機能と構造Ⅰ」で使用しているテキストを使用する。</p> <p>【参考書】『ICFを取り入れた介護過程の展開』建帛社。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができたか。 2) 介護実習で行ってきた利用者に対してのアセスメントをもとに計画書を作成し、カンファレンスにおいて検討を行い、よりよい計画書の作成を行えたか。 3) 障害に応じた介護過程の展開が行うことができる。また、終末期や居宅における介護過程の展開が行えたか。 <p>○評定の方法</p> <p>[レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 50% 2. 授業態度 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>介護実習Ⅲに向けて、実践力が身につけられるように一回一回の授業を大切に授業に臨んで欲しい。また、授業ごとに展開が進んでいくために、一回の授業で学んだことを確実に身につけて欲しい。</p> <p>介護総合演習Ⅲの授業で行なわれる内容(すなわち実践)につなげていけるように学んで欲しい。</p> <p>グループワークの実践がスムーズに行えるようにして欲しい。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の概要説明と進め方について テーマ「虚弱高齢者の介護過程」① 虚弱高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。虚弱高齢者の特性を理解する。
		事後学習	虚弱高齢者に対する介護過程を整理する。
第2回	テーマ「虚弱高齢者の介護過程」② 虚弱高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	虚弱高齢者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第3回	テーマ「寝たきり高齢者の介護過程」① 寝たきり高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	寝たきり高齢者の特性を理解する。
		事後学習	寝たきり高齢者に対する介護過程を整理する。
第4回	テーマ「寝たきり高齢者の介護過程」② 寝たきり高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	寝たきり高齢者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第5回	テーマ「認知症高齢者の介護過程」① 認知症高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	認知症高齢者の特性を理解する。
		事後学習	認知症高齢者に対する介護過程を整理する。
第6回	テーマ「認知症高齢者の介護過程」②	事前学習	認知症高齢者の生活支援を考える。

	認知症高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第7回	テーマ「視覚・聴覚障害者の介護過程」① 視覚・聴覚障害者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	視覚・聴覚障害者の特性を理解する。
		事後学習	視覚・聴覚障害者に対する介護過程を整理する。
第8回	テーマ「視覚・聴覚障害者の介護過程」② 視覚・聴覚障害者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	視覚・聴覚障害者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第9回	テーマ「身体障害者(児)の介護過程」① 身体障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	身体障害者(児)の特性を理解する。
		事後学習	身体障害者(児)に対する介護過程を整理する。
第10回	テーマ「身体障害者(児)の介護過程」② 身体障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	身体障害者(児)の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第11回	テーマ「肢体不自由者(児)の介護過程」① 肢体不自由者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	肢体不自由者(児)の特性を理解する。
		事後学習	肢体不自由者(児)に対する介護過程を整理する。
第12回	テーマ「肢体不自由者(児)の介護過程」② 肢体不自由者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	肢体不自由者(児)の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第13回	テーマ「知的障害者(児)の介護過程」① 知的障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	知的障害者(児)の特性を理解する。
		事後学習	知的障害者(児)に対する介護過程を整理する。
第14回	テーマ「知的障害者(児)の介護過程」② 知的障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	知的障害者(児)の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第15回	テーマ「精神障害者(児)の介護過程」① 精神障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	精神障害者(児)の特性を理解する。
		事後学習	精神障害者(児)に対する介護過程を整理する。
第16回	テーマ「精神障害者(児)の介護過程」② 精神障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	精神障害者(児)の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第17回	テーマ「内部障害者・重複障害者の介護過程」① 内部障害者、重複障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点を演習・実技を通して学習する。	事前学習	内部障害者・重複障害者の特性を理解する。
		事後学習	内部障害者・重複障害者に対する介護過程を整理する。
第18回	テーマ「内部障害者・重複障害者の介護過程」② 内部障害者、重複障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点を演習・実技を通して学習する。 学習したことをシートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	内部障害者・重複障害者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第19回	テーマ「終末期の介護過程」 終末期における本人・家族の心理を含め、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	終末期における本人・家族の心理を理解する。
		事後学習	終末期における本人・家族に対する介護過程を整理する。
第20回	テーマ「終末期の介護過程」 終末期における本人・家族の心理を含め、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	終末期における本人・家族に対する生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第21回	テーマ「居宅における介護過程」 居宅という環境面、家族等の違いの中での生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	居宅における介護支援を理解する。
		事後学習	居宅における介護支援の介護過程を考える。

第 2 2 回	テーマ「居宅における介護過程」 居宅という環境面、家族等の違いの中での生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	居宅における生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 2 3 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」① 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズの抽出・整理の見直しをグループで行う。	事前学習	介護実習Ⅱで行ったアセスメントの整理の見直しを行う。
		事後学習	授業内で検討されたものを整理する。
第 2 4 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」② 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズの抽出・整理の見直しを行う。グループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。	事前学習	介護実習Ⅱで行った課題分析、課題・ニーズの抽出・整理の見直しを行う。
		事後学習	授業内で検討されたものを整理する。
第 2 5 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」③ 介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画を立案する。	事前学習	介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画を考える。
		事後学習	授業内で検討されたものを修正する。
第 2 6 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」④ 介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画を立案する。立案したものを発表する。	事前学習	介護計画の発表の準備。
		事後学習	発表されたものを修正する。
第 2 7 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」⑤ 介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画についてカンファレンスを行う。	事前学習	カンファレンスのレジメ準備。
		事後学習	授業内でカンファレンスを行なったものを整理する。
第 2 8 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」⑥ 介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画についてカンファレンスを行う。カンファレンスのまとめを行なう。	事前学習	介護計画の修正。
		事後学習	カンファレンスを行なったまとめ提出。
第 2 9 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」⑦ 介護計画を実践してもらい、介護過程の展開における実施時の記録と評価について学ぶ。	事前学習	実践記録と評価を考える。
		事後学習	実践記録を書いてみる。
第 3 0 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」⑧ 介護過程の展開について全過程について振り返りを行う。介護過程の展開についてレポートにまとめて提出する	事前学習	介護過程の全過程を考える。
		事後学習	介護過程の展開を振り返る。

1. 科目名(単位数)	外国語活動の指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJEL2412
2. 授業担当教員	志手 和行		SJMP2301
4. 授業形態	講義、演習(ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	小学校教諭一種免許状取得希望の者が望ましい。		
7. 講義概要	今日、日本の英語教育は著しく進展し、2020年には、小学校3、4年生も外国語活動に参加する。そこでこの新しい動きに柔軟に対応し、より良い授業を目指すため、本講座では、まず、外国語活動の基礎となる外国語指導法や児童のための発音と語彙指導について学習する。次に、テーマを決めて実際に使用されている指導案を検討し、良い点や課題を皆でディスカッションする。その際、受講者自身が外国語活動を体験しつつ、指導法の学びを深め、指導技術に磨きをかける。その後、グループで模擬授業を体験することを通して、外国語活動への理解を深め、教育現場への応用を考えていく。		
8. 学習目標	教師の立場、学習者の立場の両面から、外国語活動の指導について多角的に学習し、オーセンティックな指導案の検討と外国語活動の体験を通して、外国語活動の学習と指導のあり方について理解を深め、模擬授業を通して、教育実践力を高めることができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の指定した範囲を読んでもらう。 2. 発音と語彙力を向上させるために発音と語彙に関するワークシートに取り組んでもらう。 3. 第10回目以降に、グループで外国語の授業の学習指導案を作成してもらおう。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】樋口忠彦(代表)『新編 小学校英語教育入門』研究社、2017年。 【参考書】各自英和辞書を持参のこと。他詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 外国語活動の目標と内容について理解を深めることができたか。 2. 外国語活動の指導法・発音・語彙指導に関する理解を深めることができたか。 3. 実際に使用されている指導案の検討と外国語活動の体験を通して、外国語活動の学習と指導の在り方について理解を深めることができたか。 4. 模擬授業の体験とクラスディスカッションを通して、教育実践力を高めることができたか。 ○評定の方法 復習テスト 30% レポート課題 40% コースワーク(授業中の態度、言語活動参加度、グループワークレポートを含む) 30%		
12. 受講生へのメッセージ	小学校の外国語教育は、児童に言語や文化への興味・関心を持たせることがとても大切である。外国語を教える立場として、まずは自身が英語をこぼとちとして捉え、その学びを楽しめるようにしましょう。英語力は高ければ高いほどよいが、それよりも英語という言語、それに伴う文化的要素について興味をもっと持てるようにするとよい。自身が英語を楽しめることが、児童への興味・関心を高めることに繋がっていく。		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 小学校外国語教育の目的と目標	事前学習	教科書の第1章を読み、小学校における外国語教育の目的と目標を把握する。
		事後学習	外国語教育の目的と目標について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第2回	I. 理論編：外国語教育のための指導法 ①Communicative Language Teaching (CLT) ②The Natural Approach	事前学習	教科書の第9章(pp.123-126)を読み、指導法①、②について理解する。
		事後学習	指導法①、②の特徴及び指導上の留意点について再度教科書の該当部分を熟読する。
第3回	③Content-Based Instruction (CBI, 内容中心教授法) ④Task-Based Language Teaching (TBLT, タスク中心教授法)	事前学習	教科書の第9章(pp.126-130)を読み、指導法③、④について理解する。
		事後学習	指導法③、④の特徴及び指導上の留意点について再度教科書の該当部分を熟読する。
第4回	⑤Total Physical Response (TPR, 全身反応法)	事前学習	教科書の第9章(pp.130-131)を読み、指導法⑤について理解する。
		事後学習	指導法⑤の特徴及び指導上の留意点について再度教科書の該当部分を熟読する。
第5回	⑥英語の発音と語彙指導	事前学習	ワークシートに提示された英単語を発音し、児童への発音指導について考察する。
		事後学習	児童への発音と語彙指導に役立つ指導方法をワークシートを基に振り返る。
第6回	II. 実践編：外国語体験を通して学ぶ指導技術 ①教師の役割 ②活動形態とクラスの雰囲気づくりの工夫	事前学習	教科書の第3章と指導案1(pp.173-183)を読み、教師の役割、指導上の工夫について考えてみる。
		事後学習	左記①、②の観点から学んだ事をワークシートに記入する。
第7回	③教材研究の視点	事前学習	教科書の第7章と第8章を読み、児童の活動を促す教材とはどのようなものであるべきか理解する。

		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第8回	④教材・教具・機器の活用法	事前学習	教科書の第10章を読み、外国語の授業に適した教材・教具・機器の活用法とは何かについて理解する。
		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第9回	⑤評価のあり方、進め方	事前学習	教科書の第11章を読み、外国語の授業における評価方法について理解する。
		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第10回	III. 模擬授業に向けて ①指導案の作成 (Group Work)	事前学習	指導案の原案を完成させる。
		事後学習	学習を振り返りながら指導案を修正する。
第11回	②模擬授業のリハーサル (Group Work)	事前学習	授業担当部分の事前準備をする。
		事後学習	指導案とワークシートを最終点検する。
第12回	③模擬授業 (授業観察・質疑応答・自己評価)	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入する。
第13回	③模擬授業 (授業観察・質疑応答・自己評価) 予備日 (模擬授業無い場合、授業実践を踏まえての教科書既習事項の振り返り)	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入する。
第14回	④模擬授業の評価・クラスディスカッション・総評	事前学習	模擬授業評価シートのポイントを確認する。
		事後学習	模擬授業評価シートを提出できるよう完成させる。
第15回	外国語活動の指導法に関する重要事項の総まとめ	事前学習	振り返りシートを見直し、重要事項をまとめておく。
		事後学習	外国語の授業を実施する上で必要なことを引き続き実践する。

1. 科目名 (単位 数)	外国語の指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL2412
2. 授業担当教員	井草 玲子		
4. 授業形態	講義、演習、ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	日本の英語教育が再び大きく変わる。2020年全面実施となる学習指導要領に従い、小学校においては中学年で「外国語活動」が前倒しとなり、高学年では「外国語」が教科化されることとなる。そこで本講義では、外国語活動・外国語の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることを目標とする。児童期の第二言語習得理論を始めとする外国語教育に必要な理論を扱った後に、グループで模擬授業を体験することを通して、外国語の指導への理解を深め、教育現場への実践へと繋げていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校外国語教育に関する背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。 2. 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。 3. 授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。 4. 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	宿題：事前学習と事後学習の欄を見て、丁寧に授業の予習と復習を行うこと。 レポート課題： ①授業振り返りシート15回分 ②ワークシート ③模擬授業評価シート ④グループによる指導案		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 樋口忠彦 (代表) 『新編 小学校英語教育入門』 研究社。 文部科学省『小学校学習指導要領外国語活動・外国語編』 開隆堂。 文部科学省『中学校学習指導要領外国語編』 開隆堂。 文部科学省『高等学校学習指導要領外国語編』 開隆堂。 【参考書】 菅正隆編著『平成 29 年改訂 小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語』 ぎょうせい。 【参考資料】 小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校外国語教育に関する背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができたか。 2. 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができたか。 3. 授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができたか。 4. 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができたか。 ○評定の方法 復習テスト 30% レポート課題 40% コースワーク (授業中の態度、言語活動参加度、模擬授業を含む。) 30%		
12. 受講生への メッセージ	・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得は基本的に認められません。 ・受講にあたっては、事前学習と事後学習を丁寧に言い、授業中は、受講者全員を思いやり、授業に集中し、多くの知識・技能を習得してください。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。	メール：reigusa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp	
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 小学校外国語活動・外国語の目標と特徴	事前学習	小学校学習指導要領外国語活動・外国語編 (文部科学省, 2017) を読み、外国語活動・外国語の目標と特徴を把握する。
		事後学習	外国語活動・外国語の目標と特徴について再度学習指導要領の該当部分を熟読し復習する。
第 2 回	英語教育における小・中・高等学校の連携と小学校の役割	事前学習	教科書第 1 章を読み、小・中・高等学校で一貫した英語教育の目標と小学校の役割について把握する。
		事後学習	小・中・高等学校で一貫した英語教育の目標と小学校の役割について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 3 回	指導者の役割 (児童や学校の多様性への対応)	事前学習	教科書第 3 章を読み、児童や学校の多様性への対応を含む指導者の役割について把握する。
		事後学習	指導者の役割について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 4 回	主教材の趣旨、構成、特徴	事前学習	教科書 4 章を読み、主教材の趣旨、構成、特徴について把握する。
		事後学習	主教材の趣旨、構成、特徴について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 5 回	児童期の第二言語習得 1 (受信と発信)	事前学習	教科書第 2 章と第 6 章を読み、第二言語習得において受信から発信へと進むプロセスに

			ついて把握する。
		事後学習	受信から発信へと進むプロセスについて再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 6 回	児童期の第二言語習得 2 (音声と文字)	事前学習	教科書第 2 章と第 6 章を読み、第二言語習得において音声から文字へと進むプロセスについて把握する。
		事後学習	音声から文字へと進むプロセスについて再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 7 回	指導技術 1 (英語での語りかけと発話の引き出し方)	事前学習	教科書第 6 章と第 9 章を読み、英語を介した児童とのコミュニケーションの仕方について把握する。
		事後学習	英語を介した児童とのコミュニケーションの仕方について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 8 回	指導技術 2 (文字言語への導き方)	事前学習	教科書第 6 章と第 9 章を読み、文字言語への導き方について把握する。
		事後学習	文字言語への導き方について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 9 回	授業づくり 1 (教材研究と指導計画の立て方)	事前学習	教科書第 5 章と第 12 章を読み、教材研究と指導計画について把握する。
		事後学習	教材研究と指導計画の立て方について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 10 回	授業づくり 2 (チーム・ティーチングと ICT 教材の活用方法)	事前学習	教科書第 9 章と第 10 章を読み、チーム・ティーチングと ICT 教材の活用方法について把握する。
		事後学習	チーム・ティーチングと ICT 教材の活用方法について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 11 回	授業づくり 3 (学習状況の評価)	事前学習	教科書第 11 章を読み、学習状況の評価について把握する。
		事後学習	学習状況の評価について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 12 回	模擬授業 Block 1 : グループ発表・評価・Discussion・総評	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入し今後の授業に活かす。
第 13 回	模擬授業 Block 2 : グループ発表・評価・Discussion・総評	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入し、今後の授業に活かす。
第 14 回	模擬授業 Block 3 : グループ発表・評価・Discussion・総評	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入し、今後の授業に活かす。
第 15 回	模擬授業 Block 4 : グループ発表・評価・Discussion・総評 まとめ	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	外国語活動・外国語を実施する上で必要なことを引き続き実践する。

1. 科目名 (単位 数)	外国語の指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3646 EDEL2323
2. 授業担当教員	澁井 とし子		
4. 授業形態	講義、演習、ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	日本の英語教育が再び大きく変わる。2020年全面実施となる学習指導要領に従い、小学校においては中学年で「外国語活動」が前倒しとなり、高学年では「外国語」が教科化されることとなる。そこで本講義では、外国語活動・外国語の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることを目標とする。児童期の第二言語習得理論を始めとする外国語教育に必要な理論を扱った後に、グループで模擬授業を体験することを通して、外国語の指導への理解を深め、教育現場への実践へと繋げていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校外国語教育に関する背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。 2. 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。 3. 授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。 4. 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	宿題：事前学習と事後学習の欄を見て、丁寧に授業の予習と復習を行うこと。 レポート課題： ①授業振り返りシート15回分 ②ワークシート ③児童期の第二言語習得の特徴に関するレポート ④模擬授業評価シート ⑤グループによる指導案		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 樋口忠彦 (代表) 『新編 小学校英語教育入門』 研究社。 小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 【参考書】 菅正隆編著『平成 29 年改訂 小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語』ぎょうせい。		
11. 成績評価の規 準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校外国語教育に関する背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができたか。 2. 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができたか。 3. 授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができたか。 4. 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができたか。 ○評定の方法 復習テスト 30% レポート課題 40% コースワーク (授業中の態度、言語活動参加度、模擬授業を含む。) 30%		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得は基本的に認められません。 ・受講にあたっては、事前学習と事後学習を丁寧にを行い、授業中は、受講者全員を思いやり、授業に集中し、多くの知識・技能を習得してください。 		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、 小学校外国語活動・外国語の目標と特徴、 授業観察	事前学習	小学校学習指導要領 (文部科学省, 2017) を読み、外国語活動・外国語の目標と特徴を把握する。
		事後学習	外国語活動・外国語の目標と特徴について再度学習指導要領の該当部分を熟読し復習する。
第 2 回	英語教育における小・中・高等学校の連携と小 学校の役割	事前学習	教科書第 1 章を読み、小・中・高等学校で一貫した英語教育の目標と小学校の役割について把握する。
		事後学習	小・中・高等学校で一貫した英語教育の目標と小学校の役割について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 3 回	指導者の役割 (児童や学校の多様性への対応)	事前学習	教科書第 3 章を読み、児童や学校の多様性への対応を含む指導者の役割について把握する。
		事後学習	指導者の役割について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 4 回	主教材の趣旨、構成、特徴	事前学習	教科書 4 章を読み、主教材の趣旨、構成、特徴について把握する。
		事後学習	主教材の趣旨、構成、特徴について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第 5 回	児童期の第二言語習得 1 (受信と発信)	事前学習	教科書第 2 章と第 6 章を読み、第二言語習得において受信から発信へと進むプロセスについて把握する。
		事後学習	受信から発信へと進むプロセスについて再度教科書の該当部分を熟読し復習する。

第6回	児童期の第二言語習得2（音声と文字）	事前学習	教科書第2章と第6章を読み、第二言語習得において音声から文字へと進むプロセスについて把握する。
		事後学習	音声から文字へと進むプロセスについて再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第7回	指導技術1（英語での語りかけと発話の引き出し方）	事前学習	教科書第6章と第9章を読み、英語を介した児童とのコミュニケーションの仕方について把握する。
		事後学習	英語を介した児童とのコミュニケーションの仕方について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第8回	指導技術2（文字言語への導き方）	事前学習	教科書第6章と第9章を読み、文字言語への導き方について把握する。
		事後学習	文字言語への導き方について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第9回	授業づくり1（教材研究と指導計画の立て方）	事前学習	教科書第5章と第12章を読み、教材研究と指導計画について把握する。
		事後学習	教材研究と指導計画の立て方について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第10回	授業づくり2（チーム・ティーチングとICT教材の活用方法）	事前学習	教科書第9章と第10章を読み、チーム・ティーチングとICT教材の活用方法について把握する。
		事後学習	チーム・ティーチングとICT教材の活用方法について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第11回	授業づくり3（学習状況の評価）	事前学習	教科書第11章を読み、学習状況の評価について把握する。
		事後学習	学習状況の評価について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。
第12回	模擬授業1－授業展開方法 （授業観察・質疑応答・自己評価）	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入する。
第13回	模擬授業2－本時の目標達成 （授業観察・質疑応答・自己評価）	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入する。
第14回	模擬授業の評価・クラスディスカッション・総評、振り返り・授業改善	事前学習	模擬授業評価シートのポイントを確認する。
		事後学習	模擬授業評価シートを提出できるよう完成させる。
第15回	第2回目～11回目までの重点総復習	事前学習	振り返りシートを見直し、重要事項をまとめておく。
		事後学習	外国語活動・外国語を実施する上で必要なことを引き続き実践する。

1. 科目名 (単位数)	介護総合演習Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SNMP2164
2. 授業担当教員	荻野 基行			
4. 授業形態	講義、演習(カンファレンス グループワーク ロールプレイング)	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「介護実習Ⅰ」を終えていること			
7. 講義概要	カンファレンスやグループ活動を通し、実習Ⅰの振り返りを行い、学生個々の学びや経験を共有化する。身近な高齢者の事例を通し、地域で生活する高齢者の生活や楽しみ、生きがい、地域とのかかわり、家族関係、その人らしさについて学び、さらにカンファレンスを行うことで、幅広い視点から理解を深めていく。その上で、それらを支える介護とは何かについて考えていく。カンファレンスでは、自分の役割を認識し、意見を発言し、有意義なカンファレンスが実践できるようにする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習Ⅰの学びと経験を共有する。 2. 高齢者の生活、楽しみ、生きがい、地域との関わり、家族関係、その人らしさを理解することができる。 3. カンファレンスの事前準備ができる。 4. カンファレンスでテーマに沿った意見が言える。 5. 「その人らしさ」を支える介護について、自分の考えをまとめられる。 			
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	レポート課題(40行×30文字で3枚以上) <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の機能、役割、課題について 2. 実習施設での利用者の生活について 3. その人らしい生活を支える介護福祉士の役割について 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『介護総合演習・介護実習』中央法規出版 「介護実習の手引き」			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習Ⅰの学びと経験を共有することができるか。 2. 高齢者の生活、楽しみ、生きがい、地域との関わり、家族関係、その人らしさを理解することができるか。 3. カンファレンスの事前準備ができるか。 4. カンファレンスでテーマに沿った意見が言えるか。 5. 「その人らしさ」を支える介護について、自分の考えをまとめられるか。 ○評定の方法 授業への参加度 40% 提出物・レポート 60%			
12. 受講生へのメッセージ	効果的な実習を行うために重要な科目である。授業には真剣にとりくむこと。授業中の私語、スマートフォン等の使用は禁止。わからないことはそのままにせず、必ず質問をして、理解すること。授業の理解度、参加態度、出席状況によっては、実習Ⅱの配属を見合わせることもある。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	実習Ⅰの振り返り① 実習Ⅰで感じたこと・考えたこと・学んだことを各自書き出し、グループでまとめ、発表する	事前学習	実習Ⅰの課題を整理し、提出	
		事後学習	発表を聞いて感じたことを整理する	
第2回	実習Ⅰの振り返り② グループで実習施設の機能、役割、課題、についてまとめる(グループホーム、通所介護、通所リハビリ、訪問介護、ケアハウス、老健、特養)	事前学習	実習施設の法的根拠を確認する	
		事後学習	次回発表の準備	
第3回	実習施設の機能、役割、課題、について発表①	事前学習	発表の準備、役割分担	
		事後学習	追加された情報を整理する	
第4回	実習施設の機能、役割、課題、について発表②	事前学習	発表の準備	
		事後学習	レポート課題1	
第5回	実習Ⅰの振り返り③ カンファレンス「実習先で気になったこと」発表	事前学習	実習の手引き及びテキストの該当箇所を読みカンファレンスの概要を理解しておく	
		事後学習	発表を聞いて感じ考え・学んだことを整理する	
第6回	実習Ⅰの振り返り④ 利用者とのコミュニケーションについて自分のプロセスレコードを振り返り、考察する。グループで検討	事前学習	実習での自分のコミュニケーションについて振り返っておく	
		事後学習	プロセスレコードを整理する	
第7回	実習Ⅰの振り返り⑤ 利用者とのコミュニケーションについて会話記録を基にグループでコミュニケーション場面の事例を作成する	事前学習	コミュニケーションの技法を復習しておく	
		事後学習	発表の準備	
第8回	利用者とのコミュニケーションについてロールプレイング 発表	事前学習	発表の準備	
		事後学習	発表を聞いて感じ・考え・学んだことを整理	

			する
第9回	実習Ⅰの振り返り⑥ 施設での利用者の生活、楽しみ、生きがい、地域との関わり、家族関係、その人らしさの理解。在宅生活者の生活も踏まえ、施設の課題を明確にする	事前学習	食事・排泄・入浴の意義を復習しておく
		事後学習	発表の準備
第10回	施設での利用者の生活について 発表①	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表内容の整理
第11回	施設での利用者の生活について 発表②	事前学習	発表の準備
		事後学習	レポート課題2
第12回	他職種の役割と協働	事前学習	実習先の他職種がどのような役割を担い協働していたか整理しておく
		事後学習	発表の準備
第13回	他職種の役割と協働（発表）	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表内容の整理
第14回	介護福祉士の役割	事前学習	実習先の介護職員がどのような役割を担っていたか整理しておく
		事後学習	授業内容の整理
第15回	カンファレンス；テーマ「その人らしさ」を支える介護について	事前学習	カンファレンスでの自分の役割を確認する
		事後学習	レポート課題3

1. 科目名 (単位数)	介護総合演習Ⅳ (2単位)	3. 科目番号	SNMP3166
2. 授業担当教員	山下 喜代美		
4. 授業形態	講義 演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「介護実習Ⅱ」を終えていること		
7. 講義概要	介護実習Ⅱでの学びと経験をもとに、カンファレンスを行い、利用者の思いやニーズ、介護の役割についての理解を深める。また、介護技術については、ロールプレイングを行い、利用者にあった手順を確認し、原理原則と個別性について考察する。介護過程の展開については、介護実習Ⅲの記録用紙に沿って、記入方法を具体的に学ぶ。実習中の登校日は、実習経過、実習内容についての確認と指導を行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅲの目的(介護家庭の展開能力を育成する)を理解し、説明することができる。 2. 介護実習Ⅲの実習目標、実習内容、実習計画が作成できる。 3. 利用者の思いやニーズを理解することができる。 4. 介護の役割を理解し、説明することができる。 5. 介護技術の原理原則と個別性について理解し、説明することができる。 6. 介護過程の展開についての記録用紙の書き方を理解し身につける。 7. カンファレンスでは、テーマについて、根拠ある意見が言える。 8. 事例レポートの書き方を理解し身につける。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	アサイメント <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事、排泄、入浴、移動 の意義、原則、介護の原則についてまとめる 2. 実習施設について調べ、「実習施設の概要」を記入する 3. 介護過程の展開①②③では、適宜提出を求める 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 介護実習の手引き 【参考書】 『介護支援技術Ⅱ』中央法規出版。 『介護過程』メヂカルフレンド社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅲの実習目標を理解し実習計画の具体化など、実習配属のための準備が整ったか 2. 介護技術の原則と個別性を理解し、介護技術を具体化できたか 3. 介護過程の展開に関する記録用紙の書き方を理解することができたか ○評定の方法 [授業への積極的参加度、課題を総合的に評価する] <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の50% 2 授業での課題(提出物) 総合点の50% 		
12. 受講生へのメッセージ	効果的な実習を行うために重要な科目です。授業には真剣に取り組んでください。 授業中の私語、スマートフォン等の使用は禁止します。 わからないことはそのままにせず、必ず質問をして、理解してください。 授業の理解度、参加態度、出席状況によっては、実習Ⅲの配属を見合わせる場合があります。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 授業概要説明 介護実習Ⅲの概要 実習Ⅱ 他職種の理解についてのまとめ	事前学習	実習の手引き pp.10~11 を読み、実習の概要をつかんでおく
		事後学習	アサイメント1
第2回	カンファレンスの資料準備 カンファレンスの進行計画書の作成と必要な資料の準備	事前学習	テーマの選定理由を考えておく
		事後学習	カンファレンスの役割を確認する
第3回	カンファレンス① テーマ:施設での生活における利用者の思いと介護の役割について アサイメント1	事前学習	テーマについての自分の考えを整理しておく
		事後学習	カンファレンスで感じ・考え・学んだことを整理する
第4回	介護技術(食事、排泄) 介護実習Ⅱでの事例をもとに、状況設定をした上で、介護技術の手順をまとめる。原則がどう具体化されているのかを確認する	事前学習	アサイメント1 提出
		事後学習	次回発表の準備
第5回	ロールプレイで発表① 介護技術の原則と個別性について考察する	事前学習	発表の準備
		事後学習	指摘箇所を整理
第6回	ロールプレイで発表② 介護技術の原則と個別性について考察する	事前学習	発表の準備
		事後学習	指摘箇所を整理
第7回	介護技術(入浴、移動・移乗) 介護実習Ⅱでの事例をもとに状況設定をして上で、介護技術の手順をまとめる。原則がどう具体化されているのかを確認する	事前学習	入浴、移動・移乗の意義を確認しておく
		事後学習	発表の準備
第8回	ロールプレイで発表③ 介護技術の原則と個別性について考察する	事前学習	発表の準備
		事後学習	指摘箇所を整理
第9回	ロールプレイで発表④	事前学習	発表の準備

	介護技術の原則と個別性について考察する	事後学習	介護技術の原則と個別性についてまとめる
第10回	実習目標、実習内容、実習計画の作成 介護実習Ⅲの目的、目標、を詳しく解説し、各自の実習 目標、実習内容、実習計画を作成する アサイメント2	事前学習	実習の手引き pp.10~11 を読み、実習内容 を確認しておく
		事後学習	アサイメント2
第11回	介護過程の展開① 実習で使用する記録用紙（計画書）の書き方を学ぶ 計画書の立案と作成の説明、目標、計画内容、留意点、観 察評価項目	事前学習	介護過程の展開を復習しておく
		事後学習	記録用紙の書き方のポイントをまとめる
第12回	介護過程の展開② 実習で使用する記録用紙（経過記録）の書き方を学ぶ。POS と SOAP について	事前学習	前回のプリントを復習しておく
		事後学習	記録用紙の書き方のポイントをまとめる
第13回	介護過程の展開③ 実習で使用する記録用紙に経過記録を記入する	事前学習	前回のプリントを復習しておく
		事後学習	記録用紙の書き方のポイントをまとめる
第14回	事例報告レポートについて 受け持ち利用者の事例報告レポートの書き方を学習する 実習直前オリエンテーション 実習の留意事項 諸注意の確認	事前学習	実習の手引き p.13 を読んでおく
		事後学習	介護過程、記録用紙の書き方を復習する
第15回	登校日 実習経過、実習内容の確認と指導	事前学習	アセスメントを整理しておく
		事後学習	指摘箇所の整理と修正

1. 科目名 (単位数)	介護福祉士養成演習Ⅰ (2単位)		3. 科目番号	GECD3223
2. 授業担当教員	岡田 稔・荻野 基行・山下 喜代美・櫻井 恵美			
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	領域「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」について、その関連性をふまえ、それぞれの科目についての要点の整理を行うと共に、科目ごとの要点について整理をしながら理解を深めていく。特に本科目においては、介護福祉士として必要な「人間の尊厳と自立」「こころとからだのしくみ」「認知症の理解」「介護の基本」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」について、本学期に行なわれる介護実習Ⅲの実践に必要な知識の復習を含め授業を進めていく。			
8. 学習目標	1. 領域「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」の関連性について理解し、説明することができる。 2. 介護福祉士として必要な知識・技術の要点が整理できる。 3. 介護実習Ⅲに向けて必要な知識・技術について理解を深められ、実践に結び付けられる。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に適宜発表の機会を設けて進めていく。グループ内での発表については、必ず予習をして資料を配布すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】既に終了した授業において、使用した教科書の中で必要なテキストを示しながら進めていく。必要に応じて資料を作成して配布する。 【参考書】授業の中で紹介していく。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 領域「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」の国家試験に対応できる知識を身につけることができたか。 2. 介護実習Ⅲに向けて必要な知識・技術について理解を深められ、実践に結び付けることができたか。 ○評定の方法 [レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する] 1 レポート 総合点の60% 2 授業態度 総合点の40%			
12. 受講生へのメッセージ	領域ごとの関連性と介護福祉士として必要な知識・技術の要点が整理でき、実践に向けて知識が深まるように積極的に学んで欲しい。解らないことは、そのままにせず理解できるようにして欲しい。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	テーマ「介護福祉士養成演習の意義と進め方について」 介護福祉士養成演習の必要性と国家試験の動向について理解をする。また、養成演習の進め方について理解をする。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する	
		事後学習	専門科目の習熟内容を振り返る	
第2回	テーマ「(領域)人間と社会」① 本学開講科目、社会福祉Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする	
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。	
第3回	テーマ「(領域)人間と社会」② 本学開講科目、社会福祉Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする	
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。	
第4回	テーマ「(領域)人間と社会」③ 本学開講科目、社会福祉Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする	
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。	
第5回	テーマ「(領域)人間と社会」④ 本学開講科目、社会福祉Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする	
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。	
第6回	テーマ「(領域)人間と社会」⑤ 本学開講科目、社会福祉Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする	
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。	
第7回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ・こころとからだのしくみ」① 本学開講科目、身体構造Ⅰ・Ⅱ、障害の理解Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする	
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。	
第8回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ・こころとからだのしくみ」② 本学開講科目、身体構造Ⅰ・Ⅱ、障害の理解Ⅰ・Ⅱで	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする	
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。	

	習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。		
第9回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ・こころとからだのしくみ」③ 本学開講科目、身体構造Ⅰ・Ⅱ、障害の理解Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。
第10回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ・こころとからだのしくみ」④ 本学開講科目、身体構造Ⅰ・Ⅱ、障害の理解Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。
第11回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ・こころとからだのしくみ」⑤ 本学開講科目、身体構造Ⅰ・Ⅱ、障害の理解Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。
第12回	テーマ「(領域)介護・生活支援技術」① 本学開講科目、介護概論・生活支援技術・基本Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術形態Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。
第13回	テーマ「(領域)介護・生活支援技術」② 本学開講科目、介護概論・生活支援技術・基本Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術形態Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。
第14回	テーマ「(領域)介護・生活支援技術」③ 本学開講科目、介護概論・生活支援技術・基本Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術形態Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。
第15回	テーマ「(領域)介護・生活支援技術」④ 本学開講科目、介護概論・生活支援技術・基本Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術形態Ⅰ・Ⅱで学習した内容を中心に指定されたテーマに沿って各自がグループ内で発表し、理解を深めながら進めていく。	事前学習	テーマについて調べ、発表の準備をする
		事後学習	授業の内容を踏まえてレポートを作成し、次授業で提出する。

1. 科目名 (単位数)	開発経済論 (2単位)	3. 科目番号	SBMP3118
2. 授業担当教員	谷口 彰一		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答などを併用する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	開発経済学は、一国が低開発段階から経済発展を遂げるために必要な要素・政策や成長の制約要因を、経済学的手法により探る学問である。本講義では低開発段階から経済発展を遂げるために必要な様々な経済的条件に着目して講義を進める。途上国の国々には、比較的大きな経済成長・経済発展がみられる国もあるが、発展のパスに乗れていない国も存在する。発展を遂げた国、未発展・低開発の国それぞれに共通する政策や問題点を実例を交えながら指摘し、経済発展のために今後どのような開発が必要かについて論ずる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発経済学の観点から発展途上国が抱えている問題を理解する。 2. 途上国諸国の経済発展の歴史と発展するための条件を理解する。 3. 経済発展の進んだ国と遅れている国の違いは何かを理解する。 4. 途上国間の地域統合やサブリージョナルの経済統合の動きを理解する。 5. わが国と途上国諸国との経済的な結びつきを理解する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	本授業で興味を持った開発経済学の議論のうち、興味を持った事項につき、具体的な事例も上げながら、まとめなさい。(1,200字程度)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 黒崎卓、栗田匡相著 『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣ストゥディア、2016年。 【参考書】 アマルティア・セン『貧困の克服ーアジア発展の鍵は何か』集英社新書。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 開発経済に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 経済学的な思考が身についたか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、期末試験、レポート等を総合して評価する。] <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の20% 2 期末試験 総合点の50% 3 課題レポート 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	受講者は、日ごろから経済関係の新聞記事や雑誌に目を通し、関心のある経済ニュースなどについて、その意味を自分でよく考えておいてください。受講生の高い問題意識と、積極的な参加を期待しています。		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 経済発展とは	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる
		事後学習	経済発展とは何かとその要件をまとめる
第2回	農業	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる
		事後学習	途上国における農業の低生産性をまとめる
第3回	マイクロファイナンス	事前学習	農村経済とは何かをまとめる
		事後学習	マイクロクレジットが機能した理由と限界を整理する
第4回	人的資本 (1) (教育の男女格差、信用制約、子供の健康問題)	事前学習	先進国と途上国の教育の違いを調べる
		事後学習	経済発展における教育の効果を学ぶ
第5回	人的資本 (2) (途上国における教育問題のディスカッション)	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる
		事後学習	教育は何故投資とみなすことができるのか具体的にまとめる
第6回	労働移動 (1) (ルイスモデル、ハリス＝トドロモデル)	事前学習	都市に住むメリットについて考える
		事後学習	偽装失業についてまとめる
第7回	労働移動 (2) (新しい移動の経済学、グローバル化した移動研究)	事前学習	空間経済学とは何かを確認する
		事後学習	頭脳流出と呼ばれる現象のメリット・デメリットをまとめる
第8回	経済成長と工業化 (1) (経済成長、キャッチアップ)	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる
		事後学習	東アジア発展の歴史を整理する
第9回	経済成長と工業化 (2) (経済発展の歴史と発展についてディスカッション)	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる
		事後学習	東アジアの奇跡が生じた理由をまとめる
第10回	技術移転	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる
		事後学習	技術移転と経済発展の関係をまとめる
第11回	開発金融	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる
		事後学習	開発金融と経済発展の関係をまとめる
第12回	開発援助 (1) (途上国への資金流入、RCT)	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる
		事後学習	開発援助と経済発展の関係をまとめる
第13回	開発援助 (2)	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる

	(日本と途上国との経済的結びつきについてディスカッション)	事後学習	日本の途上国への経済協力についてまとめる
第14回	持続可能な開発 (環境クズネツ曲線、地球温暖化問題と途上国)	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んできると
		事後学習	地球温暖化と経済発展の関係をまとめる
第15回	まとめ	事前学習	講義の要点を復習する
		事後学習	講義全体のまとめを行う
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	解剖生理学Ⅱ (2単位)		3. 科目番号							
2. 授業担当教員	萩原 治夫									
4. 授業形態	講義、ディスカッション、質疑応答、課題発表。簡単な実験も行う。		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「解剖生理学Ⅰ」を履修しておくこと									
7. 講義概要	解剖生理学Ⅱでは、解剖生理学Ⅰでの学習を基盤として、人体を構成している骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系の各器官系の成り立ちと生理機能について学習する。さらに各器官系を統合し、内部環境のホメオスタシスを維持している調節機構について学び、一生命体としての個体の営みはどのようになされているかについて考える。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を、自分の体で確認できるようにする。 2. 人体構造の発生、成長、老化について、動物進化の過程と関連付けて理解し、説明できるようになる。 3. 生体機能の調節機構、およびホメオスタシスの維持について理解し、説明できるようになる。 4. 脳機能の分化と発達について理解し、説明できるようになる。 5. ヒトの形態・生理機能と病気・ケガとの関連を理解し、基本的対応ができるようにする。 6. 病気の予防における基本的知識を深め、説明できるようになる。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント (宿題) : 授業ごとに習得した臓器をノートに模写し、その特徴を理解する。 レポート課題 : (1) 心血管系、(2) 呼吸器系、(3) 消化器系に関して、その機能と構造についてまとめる。レポート用紙1~2枚程度。イラスト可、文献を入れる									
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 渡辺修一・他訳：ネッター解剖生理学アトラス。南江堂、2014 【参考書】 澤口彰子・他；『人体のしくみとはたらき』朝倉書店、2015年 高橋長雄 (監修)：『からだの地図帳』講談社									
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体構造の特徴を踏まえて、各組織・器官・器官系機能の相互関連について理解しているか。 2. 簡単な実験から、生理機能について理解を深めたか。 ○評定の方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート・発表</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> </table>				1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%	2. 課題レポート・発表	30%	3. 期末試験	40%
1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%									
2. 課題レポート・発表	30%									
3. 期末試験	40%									
12. 受講生へのメッセージ	人体のしくみは神秘に満ちており、精巧にできています。授業中は、緊張感と集中力を保って受講し、質問して、人体のしくみを理解しましょう。 欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告してください。 また、私語、スマホの使用、無断退出、他の授業のレポート書きなど、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。									
13. オフィスアワー	講義時間の前後									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容		学習課題							
第1回	細胞	事前学習	教科書 pp. 2~10 を読んでおく。							
		事後学習	人体の構造のもととなる細胞の機能を理解する。							
第2回	神経系と感覚器Ⅰ：脳と神経系の機能	事前学習	pp. 12-25 を読んでおく。							
		事後学習	脳の構造、その構成、シナプス伝達、脳脊髄液、末梢神経系などを理解する、							
第3回	神経系と感覚器Ⅱ：脳神経系による制御機構	事前学習	pp. 26-33 を読んでおく。							
		事後学習	自律神経系、視床下部、大脳辺縁系、大脳皮質、運動性下行路、小脳求・遠進路を理解する。							
第4回	神経系と感覚器Ⅲ：感覚器	事前学習	pp. 34-52 を読んでおく							
		事後学習	皮膚感覚受容器、視・聴・味・嗅覚を理解する。							
第5回	筋系：筋の生理と役割	事前学習	pp. 54-63 を読んでおく。							
		事後学習	解剖図を通して、筋の生理と役割を復習して詳細に理解する。							
第6回	骨格系の役割	事前学習	プリント配布							
		事後学習	骨の構造と機能を理解する。							
第7回	心血管系Ⅰ：心臓	事前学習	pp. 90-118 を読んでおく。							

		事後学習	体液の区分、心臓の構造を理解する。
第8回	心血管系 II：血液循環	事前学習	pp. 90-118 読んでおく。
		事後学習	血圧の調節機構、出生前後の血液循環を理解する。
第9回	呼吸器系 I：肺における換気のみカニズム	事前学習	pp. 90-118 読んでおく。
		事後学習	肺、肺循環、呼吸の調節・換気のみカニズムなどを学ぶ
第10回	呼吸器系 II：気道と呼吸器疾患	事前学習	pp. 90-118 読んでおく。
		事後学習	鼻腔、咽頭鼻部、喉頭、気管と気管支、肺などの呼吸器系の疾患と予防
第11回	腎臓	事前学習	pp. 120-137 を読んでおく。
		事後学習	腎臓の解剖と排尿について詳しく理解する。
第12回	消化器系 I：消化管の機能	事前学習	pp. 140-178 を読んでおく。
		事後学習	食道、胃、小腸、大腸、結腸の構造と機能：運動、分泌、消化・吸収、排便などを理解する。
第13回	消化器系 II：肝臓・胆嚢・膵臓の機能	事前学習	pp. 140-178 を読んでおく。
		事後学習	膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能：運動、分泌、消化・吸収、排便などを理解する。
第14回	内分泌系	事前学習	pp. 180-208 を読んでおく。
		事後学習	ホルモン作用と分泌、各種ホルモンを学ぶ
第15回	まとめ	事前学習	ノートなどにまとめてきたことを整理する。
		事後学習	解剖生理学全般について質疑・応答の内容を含めてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (4単位)	3. 科目番号	SSMP3333 SNMP3333 SCMP3333 SBMP3333 SPMP3333 EDPS3306
2. 授業担当教員	鈴木 克也		
4. 授業形態	講義 (ディスカッション)、演習 (ロールプレイ)、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「カウンセリングの基礎」の単位を履修していることが望ましい(この科目は、心理学部であれば「カウンセリングの基礎」を履修させていくものですが、社会福祉学部や教育学部の学生は、ソーシャルワークや教育相談などで学習したものと関連します。)		
7. 講義概要	<p>カウンセリングの理論は、医療・教育・福祉の現場でも幅広く活用・実践されている。カウンセリングとは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、自己理解、環境理解と行動変容(レポートが遅れがちの人が日時を守る、悩みが解消する、性格が明るくなる、など)を通して人をエンパワーすることを目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする人間関係でありプロセスである。</p> <p>本講義では、カウンセリングの理論と技法の基礎を学びながら、単に頭で知識を学ぶのではなく、ロールプレイを通して、自分のコミュニケーションのあり方を振り返り、社会生活で健全な人間関係を形成するとともに問題を解決する能力を育てる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングが具体的にどのような環境・方法で、どんな人達を対象に行われ役立っているのかを理解する。 2. カウンセリングの基本的な態度・技法を習得し、実践できるようにする。 3. さまざまなケースを通してクライアント理解を深め、対応のポイントを理解し、実践できるようにする。 4. 社会生活で、人の生き方を尊重した支援ができるようになる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・演習内容により、プリント課題や、授業中に行うロールプレイの逐語記録等が課される。 ・学期末にはレポートが課される。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 福山清蔵著、日精研心理臨床センター編『[独習]入門カウンセリングワークブック』株式会社 日本・精神技術研究所</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 平木典子著『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <p>授業への参加(出席、態度、発言) 50%</p> <p>レポート・発表・確認テスト 50%</p> <p>以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>カウンセリングを学ぶことは、カウンセラーを目指す人にとって必須となるのはもちろんのこと、「人と人との関わり」について真剣に想いを巡らすという点において、対人援助職を志す人すべてに役立つものである。本講義では、今までの基礎的な学びに基づき、より実践的な内容を扱う。受講する学生は、以下の点を大切に、講義に参加していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為は慎むこと。 ・授業中の携帯電話(スマートフォン)の作動は厳禁である。 ・正当な理由がない限り、欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・カウンセリングとは何か	事前学習	教科書の目次と「はじめに」を読んでおく
		事後学習	配布資料の理解を深める
第2回	I クライアントの問題と問題へのアプローチ (講義と演習) 1. 障害除去のアプローチ	事前学習	教科書 pp. 8~12 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第3回	2. 内面へのアプローチ	事前学習	教科書 pp. 13~19 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第4回	第I章のまとめ	事前学習	教科書第I章の復習をしておく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める

第5回	Ⅱクライアントの語り（講義と演習） 1. 話のなかの3つの要素	事前学習	教科書 pp. 20～24 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第6回	2. クライアントの訴え	事前学習	教科書 pp. 25～26 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第7回	3. フィードバック	事前学習	教科書 pp. 27～31 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第8回	4. 感情の反射	事前学習	教科書 pp. 32～35 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第9回	第Ⅱ章のまとめ	事前学習	教科書第Ⅱ章を復習しておく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第10回	Ⅲクライアントの話の背景（講義と演習） 1. 話すことの意味	事前学習	教科書 p. 36 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第11回	2. 夢、願い、期待	事前学習	教科書 pp. 37～41 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第12回	3. 危機と悩み	事前学習	教科書 pp. 42～47 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第13回	第Ⅲ章のまとめ	事前学習	教科書第Ⅲ章の復習をしておく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第14回	Ⅳクライアントの心理（講義と演習） 1. クライアントの悩み	事前学習	教科書 pp. 48～52 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第15回	2. クライアントの準拠枠①	事前学習	教科書 pp. 53～54 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第16回	クライアントの準拠枠② 同化と調節	事前学習	教科書 pp. 55～61 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第17回	クライアントの準拠枠③ ものの見え方	事前学習	教科書 pp. 62～68 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第18回	3. クライアントの質問	事前学習	教科書 pp. 69～71 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第19回	4. カウンセラーの質問	事前学習	教科書 pp. 72～75 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第20回	第Ⅳ章のまとめ	事前学習	教科書第Ⅳ章の復習をしておく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第21回	Ⅴクライアントの理解（講義と演習） 1. 外側からの理解	事前学習	教科書 pp. 76～81 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第22回	内側からの理解	事前学習	教科書 pp. 82～84 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第23回	2. クライアントとの関わり	事前学習	教科書 pp. 85～91 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第24回	3. 言い換え	事前学習	教科書 pp. 92～97 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第25回	4. 対話と沈黙	事前学習	教科書 pp. 98～103 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第26回	第Ⅴ章のまとめ	事前学習	教科書第Ⅴ章の復習をしておく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第27回	Ⅵクライアントとカウンセラーの対話分析 （講義と演習） 1. 促進的会話と非促進的会話	事前学習	教科書 pp. 104～111 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第28回	2. 促進的な応答	事前学習	教科書 pp. 112～119 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第29回	3. 対話のプロセスレッスン	事前学習	教科書 pp. 120～125 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める
第30回	Ⅶカウンセリングのイメージ作り（講義と演習）	事前学習	教科書 p. 126 を読んでおく
		事後学習	当日配布された資料の理解を深める

1. 科目名 (単位数)	学校保健学 (学校安全を含む) (2単位)		3. 科目番号	EDHE2302
2. 授業担当教員	八重樫 節子			
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	学校保健は、児童、生徒、学生並びに幼児の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果に資するための学問である。教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の法令が、学校教育課程にある子どものよりよい成長と学校教育の円滑な実施を支援している。本講義では、学校保健の構造やその意義、法的な位置づけなど、基礎的かつ重要な事項について習得し、それぞれの領域での取り組みの実際について学ぶ。また、各自が目指す職種の立場からの参画の仕方について、主体的に考えることを目指す。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校保健の意義、構造、内容について理解し、説明することができるようになる。 2 保健教育の中の、保健学習と保健指導について、その位置づけや実践のあり方について理解し、説明することができるようになる。 3 保健管理の心身の管理、生活の管理、学校環境の管理について理解し、その実践のポイントを習得する。 4 児童生徒の現代的健康課題と、これに応じた学校保健活動の進め方について習得する。 5 学校保健推進にかかわる教員として、健康増進にとって不可欠な内容について具体的に学び身につける。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する小レポートを出題する。 ・中間課題レポート：保健指導案の作成 『歯 (その他) についての保健指導』 ・最終課題レポート：自らの目指す職種において、学校保健活動にどのように参画することが求められるのか、自らの考えを記述する。(800字程度) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】徳山美智子・竹花ゆかり編著『新版 学校保健 チーム学校で取り組むヘルスプロモーション』東山書房</p> <p>【参考書】学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第4次改訂版』第一法規</p> <p>【教材】テーマごとに文部科学省等から発行されている資料を配布</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健の意義、構造、内容について理解し、説明することができたか。 2. 保健教育の中の保健学習と保健指導について、その位置付けや実践の在り方について理解し、説明することができたか。 3. 保健管理の心身の管理、生活の管理、学校環境の管理について理解できたか。 4. 児童生徒の現代的健康課題と、これに応じた学校保健活動の進め方を修得できたか。 <p>○評定の方法 (下記を総合して成績評価をする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 (30%) 2. 授業ごとに提出する授業への振り返り (30%) 3. 小テスト・課題レポート (40%) <p>上記のほかに、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることをも配慮した。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	学校保健は、児童生徒の健康や発達を支援する上で、また学習の機会を保障する上で、大変重要な領域です。それぞれの目指す職種の立場から、また学校保健という視点から、どのように児童生徒を支援することができるのか、講義の中で主体的に考える姿勢を期待します。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 学校保健の構造領域 ・学校保健とは ・ヘルスプロモーション	事前学習	これまでの学校保健についての既習事項について、復習しておく。教科書 pp2~38/pp104~109 /pp. 152~162 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。	
		事後学習	学校保健の構造領域について理解したことを総括し、自分の考えをまとめる。	
第2回	学校保健の今 ・平成20年中央教育審議会答申を読み解く ・チームとしての学校と学校保健	事前学習	事前に配布する、中央教育審議会答申を熟読し、記載されている内容をまとめておく。教科書 pp. 62~73 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。	
		事後学習	講義時間内のディスカッションを総括し、現在の学校保健活動に求められている事項について、自分の考えをまとめる。	
第3回	保健教育 ① 保健学習 ・学習指導要領における保健学習	事前学習	学校保健実務必携の保健学習に関するページ (pp. 550~705) を参照。教科書 pp152~162 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。	
		事後学習	保健学習に関するディスカッションを総括し、自分の考えをまとめる。	
第4回	② 集団を対象とした保健指導 ・ライフスキル教育の体験	事前学習	学校保健実務必携の保健指導に関するページ (pp. 559~694) を参照。教科書 pp. 204~211 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。	
		事後学習	児童生徒の生活改善につながる保健指導のあり方について、自分の考えをまとめる。	
第5回	③児童生徒の現代的健康課題と保健教育 ・食育、性教育を進める際の留意点	事前学習	学校保健実務必携の食育・性教育に関するページ (pp. 1280~1329/774~804) を参照。教科書 pp39~60	

			/pp. 152～162/pp. 275～289/pp. 204～211 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	保健指導案作成の方法について、第3～5回の講義内容を復習し、保健指導案の作成にあたり資料準備を始める。
第6回	保健管理 ①児童生徒の健康診断 ・教育的活動としての健康診断 (事前指導を中心に)	事前学習	学校保健実務必携の健康診断に関するページ (pp. 183～325) を参照。教科書 pp174～188 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断における事前指導に関するディスカッションを総括し、自分の考えをまとめる。
第7回	②健康観察 ・健康観察の観点	事前学習	学校保健実務必携の健康観察に関するページ (pp. 435～452) を参照し。教科書 pp. 163～173 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康観察に関するディスカッションを総括し、その留意事項について自分の考えをまとめる。
第8回	③健康相談 ・健康相談の基礎と事例検討	事前学習	学校保健実務必携の健康相談に関するページ (pp. 397～434) を参照。教科書 pp189～209 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康相談に関するディスカッションを総括し、その留意事項について自分の考えをまとめる。
第9回	④学校救急処置 ・救急処置体制の重要性 ・学校事故における裁判の判例から	事前学習	学校保健実務必携の学校救急処置に関するページ (pp. 1076～1154) を参照。教科書 pp. 212～223 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	学校事故の事例に関するディスカッションを総括し、その留意点についてまとめる。
第10回	⑤学校環境衛生 ・定期検査、日常点検、臨時検査 ・日常点検の実践	事前学習	学校保健実務必携の学校環境衛生に関するページ (pp. 80～166) を参照。教科書 pp253～262 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	教室内の日常点検を実施して気づいたことや感じたことをまとめる。
第11回	学校安全 ・学校安全の基礎的事項 ・安全点検の実践	事前学習	学校保健実務必携の学校安全に関するページ (pp. 989～1020/pp. 1097～1129) を参照。教科書 pp263～274 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	教室内の安全点検を実施して気づいたことや感じたことをまとめる。
第12回	児童生徒の健康課題 ・児童のかかりやすい疾患 (感染症・アレルギーを含む) ・歯科疾患と学校保健 ・作成した保健指導案の振り返り	事前学習	学校保健実務必携の歯・口の健康づくり (pp. 453～504) (学校保健実務必携 pp. 719～722/pp. 723～773) を参照。教科書 pp. 39～38./240～252 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	事前に作成した歯についての指導案を再検討し、気づいた点、改善点をまとめる。
第13回	児童生徒の発育発達と体力 ・学校保健統計調査から ・体力・運動能力調査から	事前学習	最新の学校保健統計調査、体力運動能力調査に目を通し、児童生徒の特徴をつかんでおく。教科書 pp120～149 を熟読し。基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	児童の発育発達・体力の現状から、学校が推進することのできる対策をまとめる。
第14回	精神の健康・障害のある児童生徒への対応 ・いじめ問題への対応の在り方	事前学習	事前に配布するいじめに関する資料を熟読し、自分の考えをまとめておく。 学校保健実務必携の心のケア (pp. 414～434) を参照。教科書 pp. 224～239 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	児童のいじめに関する現状から、学校が推進することのできる対策をまとめる。
第15回	まとめ：「学校保健への参画のあり方」 ・最終課題レポートに記載した内容に基づいて、グループディスカッションを行う。 ・学校保健活動推進のポイントを共有する。	事前学習	最終課題レポートの作成
		事後学習	グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえ、全講義内容を振り返る。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	家庭科指導法 (2単位)	3. 科目番号	EDEL3319 SJEL3433
2. 授業担当教員	杉山 憲江		
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーションなど	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教科「家庭」と密接な関連性を持つ科目であることを理解し習得することが望ましい		
7. 講義概要	生活の営みに係る家庭科の教科としての意義や、小学校家庭科の目標、内容と全体構造、基礎的な学習指導理論に基づいた指導方法などについて、平成29年告示の最新版をもとに教授する。さらに実際の家庭科学習の在り方を、具体的な学習指導計画や学習指導案などの作成を通して、実践的に検討し提案する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の特質とその役割を知り、指導対象となる児童の生活実態や家庭科学習に関する背景的要因などを理解する。 2. 小学校家庭科の授業計画を構想し、具体的な学習指導計画や学習指導案、授業展開、評価などができるようになる。授業設計に際し、家庭科の特性を活かした情報機器及び教材の効果的な活用法を工夫する。		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	課題1 個々に題材構成を工夫し単元学習指導計画案を構想して、学習指導案を作成し発表する。 課題2 グループで学習指導案を基に模擬授業を行い、授業工夫について学びあう。 課題3 「社会変化に対応した小学校家庭科授業づくりについて」論文文を作成する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】長澤由喜子編著『小学校 新学習指導要領の展開 家庭編』明治図書 2017年 【参考書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社。H29年7月 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 小学校家庭科の特質とその役割を知り、指導対象となる児童の生活実態や家庭科学習に関する背景的要因などを理解しているか。 2. 小学校家庭科の授業計画を構想し、具体的な学習指導計画や学習指導案、授業展開、評価などができるか。授業設計に際し、パワーポイントなどの情報機器や教材の効果的な活用法を工夫しているか。 ○評定の方法 授業態度 30% 提出物(模擬授業など演習課題を含む) 70%		
12. 受講生へのメッセージ	変化の激しい今日の社会において「家庭科教育」を通し、子どもたちに生きる力を育てていくための指導法など専門的知識や技術の獲得をめざしながら、教師としての思考力・創造力・問題解決能力を高めるため、自己研鑽に励むことを望みます。模擬授業の構想・作成など授業への積極的な参加態度を期待します。特に、課題に対する意見やグループディスカッションでは意欲的な発言を心がけてください。		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)にて周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (学習日程や模擬授業の方法・評価などシラバスの説明) 社会変化に対応した小学校家庭科授業づくりについて 社会変化における子どもたちの実状や家庭生活変化について話し合いを通して把握する。	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。
		事後学習	現在の社会変化が家庭生活にどんな影響を与えているのか授業を通して理解したポイントをまとめておく。
第2回	小学校家庭科で培いたい資質・能力とは 小学校家庭科の基礎基本について現代社会の急速な変化部分に目を向けディスカッションを通して小学校家庭科教育で培いたい資質・能力を明らかにしていく。	事前学習	学習指導要領解説pp.1~10を再度読んで授業に臨む。
		事後学習	小学校家庭科の基礎基本とは何か、どのような資質を身につけさせたいかまとめておく。
第3回	小学校家庭科の教科の目標と学習内容1(指導計画のたて方) 小学校学習指導要領 H29年告示内容の理解と家庭科教育の変遷の概略を学ぶ。	事前学習	「新学習指導要領解説家庭」の小学校家庭科における資質と能力を読んで授業に臨む。
		事後学習	H29年告示学習指導要領における教科目標・学習内容項目について再度理解しておく。
第4回	題材構成の工夫について ・教科の目標と学習内容の工夫 ・学習指導案における教材観の書き方について実践例などを基に学ぶ。	事前学習	学習指導要領解説p.11の学習内容区分を基に題材構成を工夫した単元を構想しておく。
		事後学習	教科の目標や学習内容構成にあった単元を構想するところまで見直し、仕上げしておく。
第5回	単元指導計画・題材構成) ・家庭科における実践的な態度の育成 ・単元全体の計画の立て方を学び、自分なりの構想を表現する。	事前学習	単元指導計画を作成するための資料研究をする。
		事後学習	単元指導計画を構想するところまで見直し、仕上げしておく。
第6回	小学校の家庭科の学習方法と指導方法 授業例を基に指導計画の見方と書き方を理解する。	事前学習	教科書の家庭科指導の授業展開例について読んでおく。
		事後学習	単元指導計画の指導支援の留意点など推敲しておく。
第7回	本時の学習の作成	事前学習	道徳教育との関係性について読んで

	「家庭科」と総合的な学習の時間・道徳・他教科の関連などが組み込まれているか指導計画における配慮事項など適切に表現されているかなど見直し、仕上げていく。			授業に臨む。本時の展開について構想しておき、授業に臨む。	
			事後学習	個別の学習による家庭科学習指導案を仕上げる。	
第8回	学習指導案の作成方法と評価方法単元の目標と評価とのかかわりについて学び、指導案の中にどう生かすのか理解する。	個別学習指導案を仕上げる。	事前学習	個で仕上げた学習指導案の発表の準備をする。	
			事後学習	個で仕上げた学習指導案に対する題材構成・目標・指導計画・本時の学習の繋がりを見直しする。	
第9回	個別学習により作成した指導案を発表する。1 発表しあう中で質問や気づいたことなど発言し合い、学びあう。		事前学習	個で仕上げた学習指導案の発表の準備をする。	
			事後学習	個で仕上げた学習指導案を見直し提出する。	
第10回	個別学習により作成した指導案を発表する。2 自己評価相互評価を行い家庭科学習指導案について学びあう。		事前学習	グループの人に自分の作成した学習指導案の説明ができるよう準備する。	
			事後学習	グループの中でどの題材をとりあげるかを決める。	
第11回	学習指導案を作成 1 個別学習によって作成した指導案学習を基にグループで題材を構成し単元の学習指導案を作成する。	第11回～第15回 ・学習展開の作成 ・模擬授業準備 ・模擬授業 (グループ学習)	事前学習	グループでそれぞれの分担を決め、内容を理解しておく。	
			事後学習	グループで単元構想の作成を見直ししておく。	
第12回	学習指導案を作成 2 学習指導案を仕上げ見直し、提出するとともに発表の準備を行う。		事前学習	本時の学習展開の資料を準備する。	
			事後学習	模擬授業に対するグループ内の共通理解を図る。	
第13回	模擬授業1 模擬授業を振り返って講評するなど相互評価を行い、学びあう。・ 授業の工夫についてグループディスカッションする。(グループ学習)		事前学習	模擬授業をする場合は授業準備。受ける側の場合は指導案の内容理解をしておく。	
			事後学習	学習指導案と模擬授業について自分の考えや課題をまとめ、他グループについて評価をする。	
第14回	模擬授業2 模擬授業を振り返って講評するなど相互評価を行い、学びあう。・ 授業の工夫についてグループディスカッションする。(グループ学習)		事前学習	模擬授業をする場合は授業準備。受ける側の場合は指導案の内容理解をしておく。	
			事後学習	学習指導案と模擬授業について自分の考えや課題をまとめ、他グループについての感想を伝える。	
第15回	模擬授業3 模擬授業を振り返って講評するなど相互評価を行い、学びあう。・ 授業の工夫についてグループディスカッションする。(グループ学習)		事前学習	模擬授業をする場合は授業準備。受ける側の場合は指導案の内容理解をしておく。	
			事後学習	学習指導案と模擬授業について自分の考えや課題をまとめ、他グループについての感想を伝える。	
期末試験					

1. 科目名 (単位数)	家庭支援論 (2単位)	3. 科目番号	SSMP3328 SNMP3328 SCMP3328 SBMP3328 SJMP3120
2. 授業担当教員	堀 聡子		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、保育士として家庭、地域などを視野に入れた子育て家庭に対する支援のあり方や支援体制等について理解をする。さらに保育相談支援の意義や内容、方法など子育てを行う保護者支援の基本を理解する。		
8. 学習目標	1. 家庭支援に必要な考え方を理解し、実践で活かせるようにする。 2. 子育て支援に必要な支援に関連する福祉制度に規定された支援機関・体制を理解する。 3. 子育て支援に必要な支援方法、及び関連機関との連携を理解し、実践で活かせるようにする。 4. 保育相談に係る考え方と具体的な方策を理解し、実践で活かせるようにする。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	ミニレポートを課す予定である。ミニレポートでは、それまでの授業内容への理解を確認するとともに、家庭支援の具体例について、自分がどのような対応をすればよいかを考えてもらう。 また、毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。		
10. 教科書・参考書・教材	参考書 教科書は特に指定せず、授業の進行は配布資料を使用して行う。 ただし、主な参考文献として以下のものを挙げておく。 橋本真紀・山縣文治編『よくわかる家庭支援論 [第2版]』ミネルヴァ書房、2015。 大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編『よくわかる子育て支援・家族支援論』ミネルヴァ書房、2014。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 家庭支援に必要な考え方を理解出来たか。 2. 子育て支援に必要な支援に関連する福祉制度に規定された支援機関・体制を理解出来たか。 3. 子育て支援に必要な支援方法、及び関連機関との連携を理解出来たか。 4. 保育相談に係る考え方と具体的な方策を理解出来たか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への出席・レポート 総合点の45% 2 期末試験 総合点の40% 3 日常の学習状況 総合点の15%		
12. 受講生へのメッセージ	家庭支援の問題は、今後、保育者にとって大きなウェイトを占めることになると考えられます。実践の現場に身を置いてから困惑することがないように、自分が保育者、援助者になったらどうするかを考えながら受講してもらえればと思います。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス：授業の概要と進め方 家庭支援が必要とされる背景	事前学習	シラバスの確認
		事後学習	家庭支援論を学ぶ意味について振り返る
第2回	家庭支援の対象と役割	事前学習	家庭支援の意味を調べる
		事後学習	家庭支援の対象と役割について振り返る
第3回	現代社会における家族と子ども① 家族の多様性 ライフコースの変容	事前学習	現代の家族問題について調べる
		事後学習	家族の多様性、ライフコースの変容について振り返る
第4回	現代社会における家族と子ども② 家族の形態と機能の変化 現代日本の親子関係の特徴	事前学習	家族の形態と機能について調べる
		事後学習	家族の形態と機能の変化、現代の親子関係の特徴についての学習内容を振り返る
第5回	現代社会における家族と子ども③ 子育てに悩む母親の気持ちとは 3歳児神話	事前学習	子育ての悩みについて調べる
		事後学習	子育てに悩む母親の気持ち、3歳児神話について自分の意見をまとめる
第6回	離婚家庭の事例を通して家庭支援を考える① 離婚家庭の理解	事前学習	離婚について調べる
		事後学習	離婚事例についての学習内容を振り返る
第7回	離婚家庭の事例を通して家庭支援を考える② 支援方法の検討	事前学習	離婚家庭の子育てについて調べる
		事後学習	ミニレポートの作成
第8回	家庭支援の方法としての保育相談支援① 個別援助のための手段、集団援助のための手段	事前学習	保育相談支援について調べる
		事後学習	個別援助のための手段、集団援助のための手段についての学習内容を振り返る
第9回	家庭支援の方法としての保育相談支援② 保護者支援のツールとしての連絡帳	事前学習	連絡帳の役割について調べる
		事後学習	連絡帳の意義、書き方のポイントを振り返る
第10回	子どもの生活と遊び 子どもの対人経験	事前学習	自分の子ども時代の遊び、対人経験を振り返る
		事後学習	子どもの生活における第三者の関わりの重要性について振り返る

第11回	ジェンダーの視点で家庭支援を考える① ジェンダーの視点で家庭支援を捉える意義	事前学習	ジェンダーの視点とは何かについて調べる
		事後学習	女性をターゲットにした子育て支援政策の問題、リフレッシュ休暇が果たす役割と家庭支援のあり方について振り返る
第12回	ジェンダーの視点で家庭支援を考える② 男性保育士をめぐる実態、意識	事前学習	実習等における経験をもとに、保育現場における男性保育士のあり方を整理する
		事後学習	男性保育士をめぐる実態、意識について振り返る
第13回	ジェンダーの視点で家庭支援を考える③ 男性保育士が働きやすい職場づくり	事前学習	男性保育士をめぐる国内外の状況を調べる
		事後学習	男性保育士が働きやすい職場にするためにはどうしたらよいかを考える
第14回	海外の子ども・子育て支援	事前学習	海外の子ども・子育て支援について調べる
		事後学習	海外の子ども・子育て支援から日本が学べることを考える
第15回	まとめ	事前学習	これまでの配布資料を読み直して学習内容を振り返る
		事後学習	授業全体を振り返る

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	GECM1316 GECM1326
2. 授業担当教員	尹 文九		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	韓国の文化と言語Ⅰでは言語を中心に講義を行なったが、Ⅱでは言語と文化両方を学習する。言語については基本的な挨拶から日常会話をはじめ、漢数詞、固有数詞などを応用し、会話を深める。文化については一般的な理論講義と共にビデオや現地見学(コリアタウン、高麗神社)などを併行して講義を行ない、より深い韓国文化の理解を高めることも目的とする。したがって、本授業は基本的なハングル文字を理解し、韓国の文化に興味を持っている学生が授業の対象として望ましい。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの文字と単語を覚える 2. 基本的な日常会話ができるように学習する 3. 現代の韓国社会の政治・経済・社会・文化などについて理解する。 4. 韓国の伝統文化・名節について理解する。 5. 韓国の歴史や世界遺産などについて理解する。 6. 韓国の文化を直接的に体験し、より深い文化を理解する。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	1. 個人レポート: 韓国の文化の中、一つを選び、日本との相違点や類似点についてまとめる		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 李昌圭『韓国語を学ぼう(初級)』朝日出版社、2015。 【参考書】 斉藤明美『言葉と文化の日韓比較』世界思想社、2005。 韓国海外文化広報院『韓国のすべて』海外文化広報院、2011。 金真外『韓国文化を読む』朝日出版社、2011。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介と簡単な会話ができるのか 2. 韓国の文化について理解し、日本と比べ類似点や相違点について理解されているのか ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. ミニテスト及び授業への参加度(発表など): 40% 2. 課題レポート及び予習ノート: 20% 3. 総括テスト: 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加することや発音などの練習のときは大きな声を出すこと。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときはきちんと傾聴すること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバス説明と現代韓国社会の理解	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと
		事後学習	現代韓国社会について理解したことをノートにまとめる
第2回	ハングル文字(母音と子音)について	事前学習	テキストp.3の文字を10回ずつノートに書く
		事後学習	覚えたハングル文字を確認する
第3回	挨拶の言葉と教室の言葉に関する基本文章練習	事前学習	pp.34~38のハングルを10回ずつノートに書く
		事後学習	授業で学習した基本文章を覚える
第4回	自己紹介に関する基本的な会話の練習	事前学習	自己章の際、必要な言葉を調べてノートに10回書いて、覚える
		事後学習	授業で練習した文章を覚える
第5回	韓国の伝統文化について(DVD)	事前学習	韓国の伝統文化の中でお歳暮とお盆について調べる
		事後学習	DVDと授業、グループ討議から韓国の伝統文化について理解したことをノートにまとめる
第6回	基本会話と韓国の歴史について	事前学習	韓国の歴史について理解された内容についてノートにまとめる
		事後学習	授業で理解したことをノートにまとめる
第7回	基本会話と韓国の大衆文化について	事前学習	韓国の大衆文化について調べてまとめる
		事後学習	授業で理解したことをまとめる

第 8 回	儒教と韓国について	事前学習	韓国の儒教の特徴についてノートにまとめる
		事後学習	儒教が韓国社会に及ぼした影響についてノートにまとめる
第 9 回	基本会話と家族制度の日韓比較について	事前学習	韓国の家族制度の特徴についてまとめる
		事後学習	韓国と日本の家族制度の違いや類似点についてまとめる
第 10 回	基本会話と食文化の日韓比較について	事前学習	韓国の食文化の特徴についてノートにまとめる
		事後学習	授業で理解したことについてノートにまとめる
第 11 回	基本会話と韓国の教育制度 (学歴社会) について	事前学習	韓国の教育制度についてまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をノートにまとめる
第 12 回	基本会話と韓国の政治・経済・社会について	事前学習	韓国の社会について調べ、その内容をまとめる
		事後学習	授業で理解していることについてまとめる
第 13 回	基本会話と韓国の世界遺産について	事前学習	韓国の世界遺産にはどのようなものがあるかについてノートにまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
第 14 回	韓国の伝統文化の体験 (ユッノリゲーム)	事前学習	ユッノリのやり方 (ルール) について調べてルールを理解する
		事後学習	ゲームを通して分かったことについてまとめる
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	授業全体の感想をまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	看護臨床実習指導 (2単位)	3. 科目番号	EDHE3378
2. 授業担当教員	面川 幸子		
4. 授業形態	グループワーク・ディスカッションを中心に、講義・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す実習生が「看護学(救急処置を含む)」を中心とした既習の知識・技術等を活用して、主体的に看護臨床実習に臨む力を培うことを目指している。なお、養護教諭としての実践力を高めるためには、学校との連携が不可欠な、地域の医療を必要とする人々の理解や、医療現場、医療に携わる人々、専門性に基づいた看護業務に関する理解等が求められる。</p> <p>そして、看護は患者ではなく「その人」をみる。看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、看護臨床実習の場で実習生が学びを得るために必要となる、基礎的知識や技術、態度や心構えなどを学ぶ。また本科目は、学生が主体的に学習課題を見出した上で、グループでの学びを自己課題へとつなげていくことができるよう展開する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明することができるようになる。 2 養護教諭を志す実習生の心得と学び方や態度について学び、実践することができるようになる。 3 健康障害のある人々や、検査や治療を必要とする人々が体験している生活を想定し、看護の役割に関する自己の考えを記述することができるようになる。 4 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加・実習」をし、学びを得るための準備をすることができる。 5 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題の自覚をすることができる。 6 看護臨床実習において、場や状況の理解ができるようになるために、医療現場の組織や設備に関することを学び、医療現場にある人的・物的資源を調べる方法を見出すことができるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>【レポート課題1】「養護教諭を志す自己が看護臨床実習において学びたいこと」</p> <p>【レポート課題2】「看護臨床実習における自己目標と自己課題」</p> <p>※ 提出期限については、授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>中桐佐智子・岡田加奈子編著『養護教諭必携シリーズ No.5 改訂 養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック』東山書房。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房。 ・中桐佐智子・天野敦子・岡田加奈子編著『養護教諭必携シリーズ No.3 最新看護学』東山書房。 ・藤井寿美子・山口昭子・佐藤紀久榮・采女智津江編著『養護教諭のための看護学』大修館書店。 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明できるようになったか。 2. 養護教諭を志す実習生の心得と学び方への態度を理解し、実践することができたか。 3. 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加実習」をし、学び得るための準備をすることができているか。 4. 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題を自覚することができたか。 <p>○評定の方法(下記を総合して成績評価をする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 (30%) 2. 授業ごとに提出する授業への振り返り (30%) 3. 小テスト・課題レポート (40%) <p>上記のほかに、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることをも配慮した。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「臨床」とは? 「実習」とは? 養護教諭を志すあなた自身の人生の中で、「看護臨床実習」は、誰に、どのような意味があるのでしょうか。「臨床」には、その時、なぜ、どのような人々がいて、なぜ、養護教諭を志すあなたと出会うのでしょうか。そして現在、あなたは誰と共に、なぜ、何を学ぼうとしているのでしょうか。行為や動作の1つひとつには、どのような根拠や意味があったのでしょうか。本授業では、このようなことを考えながら本授業に臨んだ人としての学びを、授業への積極的参加度や受講態度・レポートの形で評価します。</p> <p>教員は、学生自身が学習目標を達成できるよう、知識や技術の伝達のみでなく、学生に向き合い、共に考え、悩み、学ぶ喜びを共に見出せるよう努めます。そして学生の中に、向き合う力・つなげる力・考える力・発見する力・表現する力が培われていくことを期待しています。</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・カリキュラムにおける本科目の位置づけ ・本科目の学習目標・学習内容・学習方法 ○「臨床」とは・「専門性」とは ○看護臨床実習の目的と意義 	事前学習	養護教諭取得を志す自分にとって、なぜ看護臨床実習に臨む必要があるのかを考え、発表できるようにしておく。(教科書 pp.8~14)
		事後学習	教科書を参考にしながら、自らが看護臨床実習に臨む目的について、まとめておく。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○看護臨床実習の方法 ・実習機関・実習内容・実習形態 	事前学習	教科書 pp.14-23を読み、どのように感じたかをまとめ、発表できるようにしておく。

	○「実習」とは・実習生の心得・学び方・態度 ○看護臨床実習に向けた自己課題	事後学習	養護教諭を志す自分が看護臨床実習において学びとりたいことについてまとめる。
第3回	○医療系施設の種類・病院の分類 ○病院の概要 ・病院の組織・医療従事者・看護部門の組織 ・病院内の施設・設備 ○病院において看護臨床実習に臨むことの意味	事前学習	教科書 pp. 26-32 を読み、わかったこと、わからなかったことを、発表できるようにしておく。
		事後学習	自分が病院実習で学ぶべきと考えることについて、まとめておく。
第4回	○看護過程・看護記録について ○各診療科に共通して見学・参加可能な実習内容について(本学の実習日誌を含む)	事前学習	教科書 pp. 36-42 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 43-45 を参照し、看護臨床実習に向けての自己学習課題をまとめておく。
第5回	○各診療科における看護臨床実習① ・グループ学習課題の決定 ・グループワーク：第8回・9回の講に向けての学習計画	事前学習	教科書 pp. 44-74 に目を通し、取り組みたいグループ学習課題を2つ決めておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己学習課題に関する学習をしておく。
第6回	○各診療科における看護臨床実習② (グループワーク) ・調べてきた知識や学びの共有 ・発表に向けた準備	事前学習	グループワークに向けて必要な資料を準備し、説明できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての、発表に向けた自己学習課題に関する学習をしておく。
第7回	○各診療科における看護臨床実習③ (グループワーク) ・調べてきた知識や学びの共有 ・発表に向けた準備	事前学習	グループ発表における質疑応答も踏まえた準備をしておく。
		事後学習	グループワークに向けて必要な資料を準備し、説明できるようにしておく。
第8回	○各診療科における看護臨床実習④ (グループ発表：「小児科」「精神科・心療内科」「内科」「整形外科」「眼科」「歯科口腔外科」「耳鼻咽喉科」「皮膚科」「産科・婦人科」「(その他)」などのグループごとに、次の学習内容を発表する。 ・当該診療科の特色・実習の目的と目標(外来と病棟) ・実習の内容(外来と病棟)・学校保健に関する症状・疾患、及び検査・治療について ・看護師が目指していると思われること ・養護教諭を目指す学生が学びとるべきと考えること	事前学習	グループ発表における質疑応答も踏まえた準備をしておく。
		事後学習	グループ発表での学びを想起しながら教科書 pp44～74 を読み、自己学習課題を明らかにしておく。 また、健康障害のある人々や検査や治療を必要とする人々の生活体験と看護の役割についてワークシートにまとめる。
第9回	○各診療科における看護臨床実⑤ (グループ発表：「小児科」「精神科・心療内科」「内科」「整形外科」「眼科」「歯科口腔外科」「耳鼻咽喉科」「皮膚科」「産科・婦人科」「(その他)」などのグループごとに、次の学習内容を発表する ・当該診療科の特色・実習の目的と目標(外来と病棟) ・実習の内容(外来と病棟)・学校保健に関する症状・疾患、及び検査・治療について ・看護師が目指していると思われること ・養護教諭を目指す学生が学びとるべきと考えること	事前学習	グループ発表における質疑応答も踏まえた準備をしておく。
		事後学習	グループ発表での学びを想起しながら教科書 pp44～74 を読み、自己学習課題を明らかにしておく。 また、健康障害のある人々や検査や治療を必要とする人々の生活体験と看護の役割についてワークシートにまとめる。
第10回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習① (ベッドメイキング・環境整備等を想定)	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。pp145～149
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第11回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習② (着脱する援助・移送・体位変換等を想定)	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。pp150～
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第12回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習③ (身体計測・フィジカルアセスメント・無菌操作・包帯法等を想定)	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第13回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習④ (看護の専門性・看護業務・医療用語・医療機器・医療設備等を想定)(本学の実習日誌を含む)	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第14回	○看護臨床実習の目標の明確化 ○看護臨床実習に向けての自己課題の明確化(本学に実習日誌を含む)	事前学習	現在の自分が考える看護臨床実習の自己目標および自己課題をまとめ、発表できるようにしておく。
		事後学習	授業での学びを踏まえて、看護臨床実習の自己目標および課題をまとめておく。
第15回	○看護臨床実習記録の書き方・評価の仕方 ○看護臨床実習に臨む上での心構え ○本科目全体を通しての学びの想起(まとめ)	事前学習	教科書 pp. 74-82 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業での学びを踏まえて、看護臨床実習の自己目標および自己課題を新たにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	感情・人格心理学／人格心理学 (2単位)		3. 科目番号	PSMP3333
2. 授業担当教員	若松 直樹			
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	対人支援にかかわる心理学科目を踏まえることによって理解が促進されるでしょう。			
7. 講義概要	人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお人格とは、性格とほぼ同じ意味で用いられるが、態度(認知・感情・行動)、興味、価値観並びに知的理解度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けない考え方に立ち、さまざまな観点から人格の特徴を明らかにしていく。			
8. 学習目標	人間とはなにか。人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することがこの授業の最大の目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学習目標の一つである。具体的には以下のとおりである。 1. 性格とは何か、その研究史からも理解できる。 2. 性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動をみることができる。 3. 性格の診断の仕方が理解できる。 4. 性格の形成のされ方が分かる。 5. 性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。 6. 感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できる。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	○評価のもとになるレポート課題 ①人格にかかわる自身の関心事や問題意識を示した上で、それ(ら)を教科書からの知見を用いながら説明や解釈を展開しなさい。 ②上記の関心事や問題意識を解決・支援・発展などさせるための心理士としての関与について述べなさい。 ○レポートの執筆量や提出期限などはおって示します。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】大山泰弘『人格心理学』(財)放送大学教育振興会, 2015			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 自己理解や他者理解を通して、人を見る目を養うことができているか。 2. 他者をみる時、さまざまなバイアスがかかるものであるが、そのメカニズムを理解できているか。 3. 感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できるか。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の30% 2. 課題レポート 総合点の35% 3. テーマ毎の理解度 総合点の35%			
12. 受講生へのメッセージ	臨床や対人支援の心理学を志向する皆さんにとって、人格や性格、感情の働きには大いに関心をもつ事柄のはずです。人はそれぞれ多彩ですが、その人をその人らしくする基礎となる人格・性格・感情という概念について、学問的な共通概念を理解することは大切です。それらを踏まえ、自身の体験なども含め、それぞれがもつ「人柄や個性」を重視しながら多様な人間理解に結びつけてください。			
13. オフィスアワー	初回講義時にお知らせします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション・人格心理学とは?	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第2回	人格を理解する観点と理論	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第3回	人格を映し出すー心理査定	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第4回	人格理論の多様性	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第5回	人格と集団の心理	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第6回	人格のはじまり	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第7回	人格の育ち	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第8回	人格が閉じるとき	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第9回	人格とかたり(語り)	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第10回	人格が病み傷つくということ	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第11回	人格の探求と文化	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。	
第12回	人格の変容と心理療法	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。	

2020年度

		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第13回	物語にみる人格の変容	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第14回	人格と存在	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第15回	人格心理学の展望	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。

1. 科目名 (単位数)	教育学概論 (初等・幼) (2単位)		3. 科目番号	SJMP1105
2. 授業担当教員	西田 太郎			
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目は教育という営みに深い関心を持ち、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育(学)の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、受講者一人ひとりが、教育(学)の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化をふまえた「よりよい保育・教育」のあり方を考える上で求められる基礎的知識の修得を目的とする。具体的には、主に保育士・幼稚園(または小学校教諭)になるための土台となる教育の基本的概念や理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかについて、受講者同士の対話をとおして理解を深めて行く。</p>			
8. 学習目標	<p>本講義は、本科目の目的を達成するために、以下の目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育のさまざまな側面に触れることで、各自のこれまでの教育概念を揺さぶり、それぞれが教育という営みを再考できるようになること。 2. 教育に関する代表的な論考やアプローチから教育の射程の広さを学び、教育理解に関する柔軟さ、そして教育実践における覚悟と責任と寛容さを培えるようになること。 3. ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること。 			
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	事前学習として、教科書に基づいたワークシートを自分なりに仕上げしてから授業に臨みましょう。レポート課題についての詳細は、授業の中で説明します。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新保育士養成講座編纂委員会『最新保育士養成講座 第2巻 教育原理』全国社会福祉協議会、2019年。</p> <p>【参考書】 今井康夫『教育思想史』有斐閣アルマ、2009年。 牛渡敦著『教育学原論』中央法規出版、2008年。 江原武一・山崎高哉著『基礎教育学』放送大学教育振興会、2010年。 小田豊・森眞理編著『新保育ライブラリー 教育原理』北大路書房、2009年。 広田照幸・塩崎美德編『保育・教育実践テキストシリーズ 教育原理 保育実践への教育学的アプローチ』樹村房、2010年。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 第4版』中央法規、2013年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学の基本的概念・教育に関する歴史・思想を理解し、自分の言葉で説明できる力を身につけたか。(知識・理解) 2. 教育理解に関する柔軟さ、保育・教育実践に求められる態度・姿勢を身につけることができたか。(関心・意欲・態度) 3. 教育学に関する基本的な理論を理解した上で、教育という営みを再考することができるようになり、ディスカッションや発表を通して自分の意見を伝える力を身につけることができたか。(判断力・表現力) <p>以上の観点をふまえ、下記の1～3によって評価する。</p> <p>○評定の方法</p> <p>【授業への取り組み姿勢、授業内での課題提出、期末レポート等を総合して評価する。】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への取り組み姿勢 (ディスカッションやグループワークへの積極的参加度) 総合点の30% 2. 授業内での課題提出 (小テスト・中間レポート等) 総合点の40% 3. 期末課題 総合点の30% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>この科目では、学生同士のグループ討議による学び合いを中心に授業を進めます。自分とは違う考えに出会うことで、一人一人がより思考を深めたり広げたりしていくことを期待しています。</p> <p>事前学習を入念に行い、自分の考えをしっかりと持っていることで、楽しく有意義に授業に参加することができます。事前学習課題、グループ討議の記録、学びの振り返りは、各回の授業ごとに提出します。少し大変ですが、これらの学びの記録は、皆さんの財産になるはずですよ。</p> <p>この授業を通して、学校教育(初等)・幼児教育(保育)についての理解を深め、教師・保育者としての基盤を固めましょう。</p>			
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス	事前学習	これまで受けてきた「教育」の意味を考える。教科書を概観する。	
		事後学習	教育学に関係のある教育分野について調べ、ワークシートにまとめる。	
第2回	教育の意義・目的	事前学習	教科書 pp. 8~35 を読み、教育の定義と意義・目的に関する予備知識を持つ。	
		事後学習	「教育の意義と目的」についてレポートにまとめる。	
第3回	教育と子ども家庭福祉	事前学習	教科書 pp. 38~53 を読み、教育と児童福祉との関連性に関する予備知識を持つ。	
		事後学習	「教育と福祉」についてレポートにまとめる。	
第4回	教育の思想と歴史(1)	事前学習	教科書 pp. 56~73 を読み、諸外国の教育思想と歴史に関	

2020年度

	-諸外国の教育思想と歴史-		する予備知識を持つ。
		事後学習	「諸外国の教育思想と歴史」についてレポートにまとめる。
第5回	教育の思想と歴史(2) -日本の教育の思想と歴史-	事前学習	教科書 pp. 73~85 を読み、「日本の教育の思想と歴史」についての予備知識を持つ。
		事後学習	「日本の教育の思想と歴史」についてレポートにまとめる。
第6回	教育の制度(1) -教育制度の基礎-	事前学習	教科書 pp. 88~101 を読み、「教育制度の基礎」についての予備知識を持つ。
		事後学習	「教育制度の基礎」についてレポートにまとめる。
第7回	教育の制度(2) -教育法規・教育行政の基礎-	事前学習	教科書 pp. 101~108 を読み、「教育法規・教育行政の基礎」についての予備知識を持つ。
		事後学習	「教育法規・教育行政の基礎」についてレポートにまとめる。
第8回	教育の実践と展開(1) -教育実践の基礎・教育の方法-	事前学習	教科書 pp. 110~119 を読み、「教育実践の基礎・教育の方法」についての予備知識を持つ。
		事後学習	「教育実践の基礎・教育の方法」についてレポートにまとめる。
第9回	教育の実践と展開(2) -教育の計画と評価-	事前学習	教科書 pp. 119~127 を読み、「教育の計画と評価」についての予備知識を持つ。
		事後学習	「教育の計画と評価」についてレポートにまとめる。
第10回	諸外国の教育制度と実践(1) -諸外国の教育制度-	事前学習	教科書 pp. 130~139 を読み、諸外国の教育のしくみを読み、関心のある国の教育制度の特徴についてレポートにまとめてくる。
		事後学習	国別グループ発表をふまえ、諸外国の教育制度からの学びをレポートにまとめる。
第11回	諸外国の教育制度と実践(2) -教育実践の多様な取り組み-	事前学習	教科書 pp. 140~153 を読み、「教育実践の多様な取り組み」についての予備知識を持つ。
		事後学習	「教育実践の多様な取り組み」についてレポートにまとめる。
第12回	生涯学習社会における教育の課題(1) -生涯学習社会と教育-	事前学習	教科書 pp. 156~162 を読み、「生涯学習社会と教育」についての予備知識を持つ。
		事後学習	「生涯学習社会と教育」についてレポートにまとめる。
第13回	生涯学習社会における教育の課題(2) -日本における生涯学習-	事前学習	教科書 pp. 162~172 を読み、「日本における生涯学習」についての予備知識を持つ。
		事後学習	「日本における生涯学習」についてレポートにまとめる。
第14回	生涯学習社会における教育の課題(3) -これからの生涯学習-	事前学習	教科書 pp. 173~184 を読み、「これからの生涯学習」について予備知識を持つ。
		事後学習	「これからの生涯学習」についてレポートにまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	教科書、配布資料を読みなおし、これまでの14回の授業内容を振り返る。
		事後学習	授業内容を踏まえたうえで、理解が不足していた点を再度学習する。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	教育課程論(初等) (2単位)	3. 科目番号	SJTC1411
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義、討議や発表学習を中心に	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「学校において編成する教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。」ことの意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。		
8. 学習目標	1. 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2. 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3. 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	【レポートⅠ】 「道徳」の学習指導案を作成する。 ※指定の様式で作成する。 【レポートⅡ】 「教育課程の歴史のなかより興味ある時期を選択し、考察する」 ※1,000字から1,200字でまとめる。 【期末テスト】 【振り返りシート作成】 毎授業のまとめを行い、定期的に提出し、添削を受ける。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説「総則」』東洋館出版。 【参考書】 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 教育課程の意義について理解し、説明できるか。 2 近代及び現代日本の教育課程の歩みと教育課程をめぐる現状と課題を理解し、説明できるか。 3 学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解、説明できる。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	学校教育が知・徳・体の調和のとれた子どもたちを育成し、地域社会・家庭から信頼を得るためには、適切で特色ある教育課程の編成が求められている。このため本科目では、教育課程の根拠となる幼稚園教育要領、小学校学習指導要領や教育課程の編成、実施、評価について学び、教育課程の望ましいあり方について考察する。このため、受講生は次の事柄を順守することを望む。 1 緊張感と集中力をもって受講する。 2 質問、発表を積極的に行い、主体的に取り組む。 3 欠席、遅刻、早退はしない。 4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作は慎む。 教員は次のことを実行する。 1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など受講生の立場に立って講義する。 3 討議など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。 4 受講者の質問には誠実に対応する。		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	○オリエンテーション ・「教育課程論」の目標及び学習内容と今後の予定、授業の進め方を確認する。	事前学習	シラバスを読み、講義概要を把握しておく。
		事後学習	学校での経験を振り返る
第2回	○教育課程とは何か ・教育課程の定義について考える。 ○「教育課程論」を学ぶ意義を考える	事前学習	学校生活で時間割があることを考えておく
		事後学習	「教育課程論」を学ぶ意義について復習する。
第3回	○学校教育の目的・目標は、どのようになっているか。 ・教育基本法・学校教育法など、目標に関する法規を基に学校教育の内容を考える。	事前学習	学校教育の目的・目標を調べる。
		事後学習	学校教育の目的・目標についてまとめる。
第4回	○学習内容はどのように決められているか ・学校教育法施行規則など教育内容にかかわる法規を調べる。	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	講義内容をふまえ、教育法規について、配布資料にまとめる。
第5回	○子供や家庭・地域の実態をどのように理解するか。 ・中教審答申の内容を読み取って、実態について考えあう。	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	国では、子供や家庭・地域の実態をどのようにとらえているのかまとめる。
第6回	○授業時数等はどのように決められているか。 ・学校教育法施行規則や教科書から授業時間の取扱いについて調べ、国語の時数が多い理由	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	授業時数の取扱、教科によって時数の違いをまとめ

	について考えあう。		る。
第7回	○教育課程の基準の改善の考え方 ・教育課程の基になる【生きる力】について総則の比較対照表を基に調べ、資質・能力について考えあう。	事前学習	新学習指導要領の総則を読んでおく。
		事後学習	「生きる力」の内容をまとめるとともに、見方・考え方の特徴をまとめる。
第8回	○教育課程の実施上の考え方 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善について、答申や総則を調べ、授業の質の向上を考える。	事前学習	学習指導要領の各教科・領域等の目標から、見方・考え方について調べておく。
		事後学習	主体的・対話的で深い学びと授業改善について整理する。
第9回	○言語活動の充実と体験活動の充実 ・言語活動の充実と各教科の基礎的・基本的知識技能と思考力育成の関係について学びあう。 ・教育課程における体験活動の意義について学び、学習指導にどのように生かすのか話し合う。	事前学習	学習指導要領解説（総則）の新しい方向性を読んで調べておく。
		事後学習	言語活動と思考力育成の関係や体験学習の充実と教科指導の関連をまとめる。
第10回	○児童の発達の支援 ・学級経営と生徒指導の関係から児童の発達の支援について学び、質を高めるための方策を考えあう。	事前学習	教育課程実施上の課題について、生徒指導の観点から調べておく。
		事後学習	学びの成立のためには学級経営が果たす役割が大きいことを整理する。
第11回	○教育課程と道徳教育の推進 ・教育課程における道徳教育の位置づけや意義について話し合い、まとめる。	事前学習	道徳教育について、教科書を読んでおく。
		事後学習	教科「道徳」の授業の進め方についてまとめる。
第12回	○教科「道徳」の学習指導案の作成 ・教科「道徳」の学習指導案を作成し、発表を行う。	事前学習	教科「道徳」の学習指導案を準備する。
		事後学習	教科「道徳」の授業の特質をまとめる。
第13回	○カリキュラム・マネジメントと学校評価 ・教育課程のPDCAサイクルの意義を学び、学校評価の方法について法規を基に教育課程の充実の仕方について話し合う。	事前学習	カリキュラム・マネジメントについて、教科書を読んでおく。
		事後学習	学校評価の方法についてまとめをしておく。
第14回	○近代の教育課程の歩み ・明治、大正の教育課程の歩みをまとめる	事前学習	教育課程の歩みを事前配布の資料をもとに調べておく。
		事後学習	各時代の教育課程の特色について整理する。
第15回	○現代の教育課程の歩み ・昭和、平成の教育課程の歩みをまとめる。	事前学習	教育課程の歩みを事前配布の資料をもとに調べておく。
		事後学習	各時代の教育課程の特色について整理し、まとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (初等) (2単位)	3. 科目番号	EDTE1103 EDTE3303
2. 授業担当教員	金子 康一		
4. 授業形態	講義、討議や発表学習を中心に	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	「学校において編成する教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。」ことの意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。		
8. 学習目標	1. 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2. 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3. 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1 中間レポート課題: 「生きる力」と「確かな学力」の育成について、今日的教育課題と関連させた考察 2 期末試験: 新学習指導要領と教育課程の意義と役割、教育課程改革の必要性。キーワードの理解と考察 ○中間レポートは2000字程度でまとめ、指定した期日迄に提出する。A4版横書き2枚、レポート形式で記述。 ○期末試験は、知識・理解問題と論述問題で実施する。書式等は授業中に通知する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説「総則」』東洋館出版。 【参考書】 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1 教育課程の意義について理解し、説明できるか。 2 近代及び現代日本の教育課程の歩みと教育課程をめぐる現状と課題を理解し、説明できるか。 3. 学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解、説明できる。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。		
12. 受講生への メッセージ	○ 学校教育の再生には、教育課程の現状と課題について考察し、改善に向けての方向性を明確にすることが重要である。教育課程の理論を学ぶと同時に、児童生徒の実態から具体的に理解を深めて欲しい。 ○ 受講生の皆さんの努力を通して、知識・理解力だけでなく、思考力・判断力・表現力や探求心の育成に寄与したいと考える。		
13. オフィスアワー	授業の前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	○オリエンテーション ・「教育課程論」の目標及び学習内容と今後の予定、授業の進め方を確認する。	事前学習	シラバスを読み、講義概要を把握しておく。
		事後学習	学校での経験を振り返る
第2回	○教育課程とは何か ・教育課程の定義について考える。 ○「教育課程論」を学ぶ意義を考える	事前学習	学校生活で時間割があることを考えておく
		事後学習	「教育課程論」を学ぶ意義について復習する。
第3回	○学校教育の目的・目標は、どのようになっているか。 ・教育基本法・学校教育法など、目標に関する法規を基に学校教育の内容を考える。	事前学習	学校教育の目的・目標を調べる。
		事後学習	学校教育の目的・目標についてまとめる。
第4回	○学習内容はどのように決められているか ・学校教育法施行規則など教育内容にかかわる法規を調べる。	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	講義内容をふまえ、教育法規について、配布資料にまとめる。
第5回	○子供や家庭・地域の実態をどのように理解するか。 ・中教審答申の内容を読み取って、実態について考えあう。	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	国では、子供や家庭・地域の実態をどのようにとらえているのかまとめる。
第6回	○授業時数等はどのように決められているか。 ・学校教育法施行規則や教科書から授業時間の取扱いについて調べ、国語の時数が多い理由について考えあう。	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	授業時数の取扱、教科によって時数の違いをまとめる。
第7回	○教育課程の基準の改善の考え方 ・教育課程の基になる【生きる力】について総則の比較対照表を基に調べ、資質・能力について考えあう。	事前学習	新学習指導要領の総則を読んでおく。
		事後学習	「生きる力」の内容をまとめるとともに、見方・考え方の特徴をまとめる。
第8回	○教育課程の実施上の考え方 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善について、答申や総則を調べ、授業の質の向上を考える。	事前学習	学習指導要領の各教科・領域等の目標から、見方・考え方について調べておく。
		事後学習	主体的・対話的で深い学びと授業改善について整理する。
第9回	○言語活動の充実と教科指導 ・言語活動の充実と各教科の基礎的・基本的知識技能と思考力育成の関係について学びあう。	事前学習	旧学習指導要領解説(総則)の資料をもとに、習得型の授業と探究型の授業について調べておく。
		事後学習	言語活動の充実と思考力育成の関係をまとめる。
第10回	○体験活動の充実と学習指導の充実	事前学習	学習指導要領の試案が出された、新しい教育の

2020 年度

	・教育課程における体験活動の意義について学び、学習指導にどのように生かすのか話し合う。		方向性の資料を読んでおく。
		事後学習	体験学習の充実と教科指導の関連をまとめる。
第 1 1 回	○児童の発達の支援 ・学級経営と生徒指導の関係から児童の発達の支援について学び、質を高めるための方策を考えあう。	事前学習	教育課程実施上の課題について、生徒指導の観点から調べておく。
		事後学習	学びの成立のためには学級経営が果たす役割が大きいことを整理する。
第 1 2 回	○学習評価の考え方と実施方法 ・学習評価について意義と役割を学び、実際にどのように実施されているのか、目標に準拠した評価を例に学ぶ。	事前学習	学習評価について教科書を読んでおく。
		事後学習	目標に準拠した評価の考え方を集団に準拠した評価と比べ、質を高める方法をまとめる。
第 1 3 回	○教育課程と道徳教育の推進 ・教育課程における道徳教育の位置づけや意義について話し合い、まとめる。	事前学習	道徳教育について、教科書を読んでおく。
		事後学習	教育課程上の道徳教育の役割をまとめる。
第 1 4 回	○カリキュラム・マネジメントと学校評価 ・教育課程の PDCA サイクルの意義を学び、学校評価の方法について法規を基に教育課程の充実の仕方について話し合う。	事前学習	カリキュラム・マネジメントについて、教科書を読んでおく。
		事後学習	学校評価の方法についてまとめをしておく。
第 1 5 回	○開かれた教育課程 ・開かれた教育課程の意味を調べ、学校と家庭や地域社会との連携の重要性について話し合う。	事前学習	学校で編成される教育課程について、その意義を教科書で調べておく。
		事後学習	開かれた教育課程を編成・実施・評価する方法について、レポートにまとめる。
期末試験			
15.実務経験を有する教員 特記事項	小学校教諭、中学校長及び教育委員会学校教育課での実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (中等) (2単位)	3. 科目番号	SJTC1411 EDTS1103 EDTS3303
2. 授業担当教員	深沢 和彦		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表、グループ学習等	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教育課程とは、教育機関(学校)がその教育目標(学校の教育目標)を達成するために児童・生徒に提供する教育内容と学習経験の組織である。本講義では教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを目的としている。</p> <p>まず教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程を編成する上で基本的な概念について学習する。そして学習指導要領における教育課程編成の目的について理解を深め、学習指導要領の変遷の歴史を辿り、各時代における主な改訂内容と社会的背景について学ぶ。さらに学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントについての意義や重要性を理解し、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握することの大切さについて学んでいく。</p> <p>これらの学習を通して、学習指導要領の基本的方向について理解し、教師として必要となる資質・能力の基礎を養う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の思想や理論、教育課程と教育評価の関係を学ぶことによって、教育課程編成の方法に関する基本的な用語や概念を理解し、説明することができる。 2. 学習指導要領における教育課程編成の目的や学習指導要領の変遷の歴史を辿り、各時代における主な改訂内容と社会的背景について学ぶことを通じて、教育課程の意義を理解することができる。 3. 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントについての意義や重要性を理解し、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握することを学び、学校の教育課程全体を評価し、マネジメントする上での基本的な知識を身に付け、活用することができる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>指示された予習課題や探究的課題に主体的に取り組むこと。対話型の学習により理解を確実にすることで問題解決に対する力量を養うように努めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業ごとに配付するワークシート(レポートを兼ねる)の提出 2) 最終レポートの作成と提出(テーマ及び様式等は最終回までに指示する) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程 第4版』有斐閣アルマ、2018年</p> <p>【参考資料】 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成に関する基本的な用語や概念を理解することができたか。 ・学習指導要領における教育課程の意義を理解することができたか。 ・学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントについての意義や重要性を理解することができたか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題(中間レポート・ワークシート等) 30% ・期末評価(レポート・試験等) 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>皆さんが中学校・高等学校の学校段階で積み重ねてきた「授業体験」を振り返ってください。皆さんが受けてきた授業の体験とこの授業での学びを結びつけ、地域や生徒の実態を反映させた「教育課程」について考えることができる教師をめざしてください。</p> <p>【学生に期待すること】</p> <p>受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高めます。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでください。 ② 授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないでください。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告してください。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格となります。) ③ 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られないと判断された場合、試験の答案内容の如何にかかわらず、不合格となります。 ④ 授業中、飲食、私語、居眠りはしないでください。 ⑤ 授業中は携帯電話等の携帯端末の電源を切ってカバンにしまってください。 		
13. オフィスアワー	初回講義時に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション - 教育課程を学ぶ意義について	事前学習	教科書「序章」(pp.1~18)を読んでおく
		事後学習	教育課程を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。
第2回	近代日本の教育課程の歩み(第1章)	事前学習	教科書「第1章」1~5(pp.19~46)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。

第3回	現代日本の教育課程の歩み - 戦後の教育改革から 1998年の改訂まで - (第2章)	事前学習	教科書「第2章」1～5 (pp.47～87) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	現代日本の教育課程の歩み - 脱ゆとり教育と学力観の転換 - (第2章)	事前学習	教科書「第2章」6、7 (pp.88～116) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第5回	教育課程開発の新しい動き (第3章)	事前学習	教科書「第3章」(pp.117～140) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第6回	教育課程の思想と構造 - 系統主義と経験主義 - (第4章)	事前学習	教科書「第4章」1 (pp.141～152) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第7回	教育課程の思想と構造 - 領域論・履修原理 - (第4章)	事前学習	教科書「第4章」2、3、4 (pp.153～169) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第8回	教育課程をどう編成するか - 編成の方法 - (第5章)	事前学習	教科書「第5章」1、2 (pp.172～184) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第9回	教育課程をどう編成するか - 編成の理論 - (第5章)	事前学習	教科書「第5章」3、4 (pp.184～202) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第10回	教育課程をどう評価するか - カリキュラム・マネジメントとは何か (第6章)	事前学習	教科書「第6章」1、2 (pp.203～219) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第11回	教育課程をどう評価するか - カリキュラム・マネジメントの進め方 (第6章)	事前学習	教科書「第6章」1、2 (pp.220～234) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第12回	社会における教育課程 - 近代学校批判 - (第7章)	事前学習	教科書「第7章」1、2 (pp.235～244) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第13回	社会における教育課程 - 隠れたカリキュラム - (第7章)	事前学習	教科書「第7章」3、4 (pp.245～260) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第14回	今日的課題への挑戦 (第8章)	事前学習	教科書「第8章」(pp.261～292) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第15回	諸外国の教育課程改革 (第9章) 及び学習の総括	事前学習	教科書「第9章」(pp.293～300) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	教育実習指導(初等) (1単位)	3. 科目番号	EDTE2371
2. 授業担当教員	安次嶺 隆幸		EDTE3371
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教育学概論(初等・小)・教師論(初等)・教育課程論(初等)の単位を取得してから履修することが望ましい。		
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。 2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。 3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。 4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>★ノート指定 ツバメノートA4品番A5008 JAN:4968796311105 一冊を準備しておくこと。毎回これが出席、課題レポートに使用します。毎回プリント課題を配布しますので、このノートに貼り、授業後に提出します。</p> <p>○道徳の学習指導案の作成・提出</p> <p>○模擬授業観察記録表の提出</p> <p>○教育実習で実習生に求められる義務・責任・倫理観とは何か、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>『教育実習の手引き 小学校教諭一種免許状』東京福祉大学編、『小学校 教育実習ガイド』(萌文書林)石橋裕子・梅澤実・林幸範 編著、『一瞬で授業に引き込むプロの技』(学陽書房)安次嶺隆幸著、『小学校学習指導要領解説 道徳編』</p> <p>【参考書】</p> <p>『教職科目要説(初等教育編)』東京福祉大学編</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校教諭としての資質を理解しているか。 2. 児童理解を通して授業研究に取り組もうとしているか。 <p>○受講に対し、次の内容を総合して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度(教科書の準備・私語・発表) 30% 2. 学習指導案の提出 30% 3. 模擬授業観察記録の提出 20% 4. 模擬授業 20% <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育実習は、実習期間中、実習校で指導を受ける立場と、児童に対しては教師である立場という両面を学ぶ場です。そこでは、教師としての義務・責任・倫理観が求められます。そこで、次のことを守って下さい。</p> <p>★授業の約束</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 座席は指定とする。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源は切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。(遅れた場合は減点です) 5 予習をするとともに、教育に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。 6 教員を目指す大学生としての自覚と覚悟をもち、その品位を保つこと。 <p>★メッセージ</p> <p>この授業では、実習へ向けての自分の【教育観】を積み重ねる【場面指導】を行います。また、課題に対して自分の考えを1分間で話す演習も行います。自分で考え、瞬時に児童に対峙し対応を迫られる教師としての【教育観】をしっかりと構築して児童の前に立ってください。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、ポストイットの席に男女で座る→班編制(班長・副班長)、指定ノート、場面指導、授業の説明をする。 (特に教育実習の意義・目的・概要について)	事前学習	教育実習の手引きを読んで要点を記録しておく。
		事後学習	教科書 pp. 8~10 を読んで、教育実習の意義や目的を理解すること。
第2回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』① 小学校の教育課程を理解するとともに、教師と児童との関係を理解する。(課題①教育実習で実習生に求められる義務・責任・倫理観とは何か、あなたとの考えを1,000字以内で記述せよ。)	事前学習	新学習指導要領と新学習指導要領道徳編を読んで、小学校の教育課程を学習しておくこと。
		事後学習	課題①を仕上げる。アサイメント次週提出。
第3回	アサイメント提出① 『一瞬で授業に引き込むプロの技』② 小学校教育の概要を学習する。(小学校の教育課程、学級経営、小学校教師の一日について)	事前学習	教科書 pp. 56~64 を読んで、学級経営・学級担任の役割を理解すること。
		事後学習	小学校の学習指導の基本を身に付けること。
第4回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』③ 小学校学習指導の基本の確認をする。(学習指導過程、学習指導形態、発問、板書、資料、教材の工夫等)そし	事前学習	教科書 pp. 76~85 を読んで、学習指導案の形式を学習し分からないところを記録しておく。

	て、学習指導案を作成する前に参観授業の記録の取り方を学習する。	事後学習	学習指導案の形式を覚えること。また、参観記録の取り方を身に付けること。
第5回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』④ 学習指導案の形式・内容・作成方法を学ぶ。	事前学習	教科書 pp.90～141 を読んで、自分なりの学習指導案を考えてくる。
		事後学習	教材観の書き方を覚えること。
第6回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑤ (細案の学習指導案の項目について) 文科省の資料を基に、学習指導案を作成し検討する。① グループ内発表①	事前学習	道徳の学習指導案を書いてみる。
		事後学習	道徳の学習指導案を推敲すること。
第7回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑥ (細案の学習指導案の内容について) 学習指導案を作成し検討する。② グループ内発表②	事前学習	道徳の学習指導案を校正すること。
		事後学習	道徳の学習指導案を仕上げること。
第8回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑦ 第1回模擬授業の実施(グループ内で導入～展開～まとめの模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	模擬授業の練習をしておくこと。 (道徳 1～6年生)
		事後学習	模擬授業後の反省点をまとめておく。
第9回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑧ 第2回模擬授業の実施(グループ内で導入～展開～まとめの模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	模擬授業の練習をしておくこと。 (道徳 1～6年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめておく。
第10回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑨ グループでの模擬授業の検討&役割分担①学年時期、テーマを決める	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (道徳 1～6年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめておく。
第11回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑩ グループでの模擬授業の仕上げ&役割分担②リハーサル	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (道徳 1～6年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめておく。
第12回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑪ 第3回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (道徳 1～6年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめておく。
第13回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑫ 第4回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (道徳 1～6年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第14回	『一瞬で授業に引き込むプロの技』⑬ 第5回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出) 教育実習直前の準備 (実習日誌の書き方・実習録の書き方、準備等)	事前学習	教科書 pp.176～184 を読んで、実習日誌の書き方をまとめて提出する。
		事後学習	実習指導の準備についてこの講義で学んだことを書き出す。
第15回	この講義で学んだこと、教育実習に向けての自分のこらからの生き方・決意について書く。 小学校教師の一日の学校での仕事について、学習のまとめをする。実習終了時の挨拶と礼状の書き方を学ぶ。	事前学習	教科書 p.40 と p.58 を読んで、教師の一日の仕事の覚えること。pp.186～194 を読んで記録しておく。
		事後学習	教師としての挨拶・礼状を書いておく。

*2019年度以降入学生より、教育実習にかかわる単位取得は、教職課程再課程認定に伴い「教育実習指導(事前指導)」、「教育実習(4週)」および「教育実習事後指導(1時間)」におけるすべての履修によって単位取得が認定されることとなった。

1. 科目名(単位数)	教育実習指導(初等) (1単位)		3. 科目番号	EDTE2372 EDTE3371
2. 授業担当教員	加藤 敏明			
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	教育学概論(初等・小)・教師論(初等)・教育課程論(初等)の単位を取得してから履修することが望ましい。			
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。 2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。 3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。 4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>○道徳の学習指導案の作成・提出</p> <p>○模擬授業観察記録表の提出</p> <p>○教育実習で実習生に求められる義務・責任・倫理観とは何か、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>東京福祉大学編『教育実習の手引き 小学校教諭一種免許状』2013年。</p> <p>石橋裕子・梅澤実・林幸範 編著『小学校 教育実習ガイド』萌文書林、2011年</p> <p>文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』、2018年</p> <p>【参考書】</p> <p>東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』2015年。</p> <p>群馬大学教育学部附属小学校教育研究会編『教師へのとびら(小学校教師の基礎・基本)』日本文教出版、2008年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校教諭としての資質を理解しているか。 2. 児童理解を通して授業研究に取り組もうとしているか。 <p>○受講に対し、次の内容を総合して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度(教科書の準備・私語・発表)30% 2. 学習指導案の提出30% 3. 模擬授業観察記録の提出20% 4. 模擬授業20% <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育実習は、実習期間中、実習校で指導を受ける立場と、児童に対しては教師である立場という両面を学ぶ場です。そこでは、教師としての義務・責任・倫理観が求められます。そこで、次のことを守って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師を目指す大学生としての自覚と品位を身に付ける努力をすること。(服装・身だしなみ・言葉遣い等) 2. 教育実習に行く学生が授業中してはいけないこと。(教科書忘れ・私語・飲食・居眠り・携帯電話・遅刻) 			
13. オフィスアワー	第1回の時に知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の説明をする。(特に教育実習の意義・目的・概要について)	事前学習	教育実習の手引きを読んで要点を記録しておく。	
		事後学習	教科書 pp.8~10 を読んで、教育実習の意義や目的を理解すること。	
第2回	小学校の教育課程を理解するとともに、教師と児童との関係を理解する。(課題①教育実習で実習生に求められる義務・責任・倫理観とは何か、あなたとの考えを1,000字以内で記述せよ。)	事前学習	新学習指導要領と新学習指導要領道徳編を読んで、小学校の教育課程を学習しておくこと。	
		事後学習	課題①を仕上げること。	
第3回	小学校教育の概要を学習する。(小学校の教育課程、学級経営、小学校教師の一日について)	事前学習	教科書 pp.56~64 を読んで、学級経営・学級担任の役割を理解すること。	
		事後学習	小学校の学習指導の基本を身に付けること。	
第4回	小学校学習指導の基本の確認をする。(学習指導過程、学習指導形態、発問、板書、資料、教材の工夫等)そして、学習指導案を作成する前に参観授業の記録の取り方を学習する。	事前学習	教科書 pp.76~85 を読んで、学習指導案の形式を学習し分からないところを記録しておく。	
		事後学習	学習指導案の形式を覚えること。また、参観記録の取り方を身に付けること。	
第5回	特別の教科道徳の学習指導案の形式・内容・作成方法を学ぶ。細案の例、主題名・主題設定の理由(児童の実態・教材感)・指導方針・本時のねらい・本時の展開を書く。	事前学習	教科書 pp.90~141 を読んで、自分なりの学習指導案を作って提出する。	
		事後学習	教材観の書き方を覚えること。	
第6回	文科省の特別の教科道徳の内容項目を基に、特別の教科道徳学習指導案を作成し検討する。①(細案の学習指導案)	事前学習	道徳の学習指導案を書いてみる。	
		事後学習	道徳の学習指導案を推敲すること。	

2020年度

第7回	特別の教科道徳学習指導案を作成し検討する。② (細案の学習指案)	事前学習	道徳の学習指導案を校正すること。
		事後学習	道徳の学習指導案を仕上げること。
第8回	第1回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (第1回・道徳 5年生)
		事後学習	模擬授業後の反省点をまとめて提出する。
第9回	第2回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (第2回・道徳 5年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第10回	第3回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (第3回・道徳 5年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第11回	第4回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (第4回・道徳 5年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第12回	第5回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (第5回・道徳 5年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第13回	第6回模擬授業の実施(グループごとに前に出て模擬授業行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 (第6回・道徳 5年生)
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第14回	教育実習直前の準備 (実習日誌の書き方・実習録の書き方、準備等)	事前学習	教科書 pp. 176～184 を読んで、実習日誌の書き方をまとめて提出する。
		事後学習	実習指導の準備についてまとめたものを提出する。
第15回	小学校教師の一日の学校での仕事について、学習のまとめをする。実習終了時の挨拶と礼状の書き方を学ぶ。	事前学習	教科書 p. 40 と p. 58 を読んで、教師の一日の仕事覚えること。pp. 186～194 を読んで記録しておく。
		事後学習	教師としての挨拶・礼状を書いておく。

*2019年度以降入学生より、教育実習にかかわる単位取得は、教職課程再課程認定に伴い「教育実習指導(事前指導)」、「教育実習(4週)」および「教育実習事後指導(1時間)」におけるすべての履修によって単位取得が認定されることとなった。

1. 科目名 (単位数)	教育実習指導 (初等) I (1単位)	3. 科目番号	SJTP3555
2. 授業担当教員	鈴木 美子		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実践することにより、幼稚園教育の理解を深め、教師の使命感と保育の実践力を身に付け、教育職としての資質を向上させることを目的とする。本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構え、実践方法を扱う。具体的には、指導計画作成、保育状況把握、教材研究、指導方法、記録の仕方などについて講義や事例検討を通して学ぶ。保育の具体的状況に応じた判断力、行動力を養うため、模擬保育や教材研究など活動を伴う授業を含める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の現場にかかわる人としての基本的な態度、マナー、言葉遣いを理解し、自然に振舞うことができる。 2. 保育実習者として現場から学ぶことの意味と学び方がわかる (子どもからの学び、保育者からの学び)。 3. 実習体験の段階 (観察、参加、実習) における実習目標と実習記録の方法はわかる。 4. 指導計画の作成—実践—反省の過程を体験的に学習し、実践の振り返りと計画の改善の方法がわかる。 5. 子どもの発達段階にふさわしい教材と子どもの興味関心、自発的遊びを生かした活動の展開がわかる。 6. 子どもの活動や遊びへの関わりかた、問題状況への対応をロールプレイなどを通して身に着ける。 7. 幼稚園生活の1日の流れ、保育環境の整備の仕方など、幼稚園の生活の全体について知っておく。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・演習における成果物 (記録や指導案) を提出します。 記録の意味とどのような観点を捉えて記録をすることが必要かを学びます。また、模擬保育を振り返って幼児に添った保育の指導案を作る力をつけてください。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『幼稚園教育実習指導』建帛社 『幼稚園教育実習の手引き』本学配付のもの 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1 決められた書類作成・提出 (計画表、課題レポートの記入の作成と提出) ができる 2 保育者としての言動 (態度、マナー) が取れる。 3 指導技術 (模擬保育等) が身に付いている。 4 保育の評価・反省 (記録作成、考察、反省分作成) ができる。 ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 グループ活動 (指導案作成、模擬保育実践・反省) 30% 2 模擬保育への積極的参加、記録の作成 40% 3 課題レポート及び最終レポート 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	就学後の学びの基盤は幼児期の保育の中で育まれます。子どもの学びが深いものになるかどうかは、保育者の資質にかかっています。幼児期は子どもが自ら直接環境にかかわりながら、試したり発見したり考えたりして心ゆくまで十分に遊ぶことによって、充実した生活を積み上げることができます。保育者は、保育者自身も幼児のモデルとなる重要な環境の構成者です。幼児教育にかかわる機関や関係者が連携し、相互理解を深めることができるよう、幼児教育の課題等にも視野を広げるよう意識しながら教育実習に向けて、しっかりと心構えができるよう願っております。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の概要、授業計画、教育実習にのぞむ姿勢について	事前学習	幼稚園教育実習の手引きに目を通し持参する
		事後学習	プリントをまとめる (部分保育の資料集め6回目まで)
第2回	幼稚園の一日における留意事項	事前学習	プリントを読みワークシートに記入する (留意事項)
		事後学習	実習の一日における留意事項をまとめる
第3回	教育実習の意義と内容	事前学習	プリントを読みワークシートに記入する
		事後学習	意義と内容についてまとめる
第4回	記録のとりかた (ビデオを見て演習)	事前学習	プリントを読んで必要事項を記入する (記録の内容)
		事後学習	記録を完成させる
第5回	記録のとりかた (一日の反省のまとめ方)	事前学習	プリントを読んで必要事項を記入する (反省について)
		事後学習	反省を完成させる
第6回	指導案について	事前学習	指導案のプリントに目を通す。
		事後学習	指導案作成における必要事項をまとめる (主活動の資料集め10回目まで)
第7回	教材研究 (部分保育を中心に) 手遊び・歌等	事前学習	プリントを見て必要事項を記入する
		事後学習	言葉かけ等の方法を具体的に考え、保育の流れ

2020年度

			れを把握できるようにする
第8回	教材研究（部分保育を中心に） 絵本・紙芝居等	事前学習	プリントを見て必要事項を記入する
		事後学習	言葉かけ等の方法を具体的に考え、保育の流れを把握できるようにする
第9回	シミュレーションと指導案作成 （部分保育の実際と指導案の関係）	事前学習	繰り返し行い、保育の流れを把握する
		事後学習	細案と指導案を完成させる
第10回	模擬保育の発表と反省	事前学習	模擬保育の練習と準備
		事後学習	発表者についての記録とまとめ
第11回	教材研究（主活動を中心に）身体を使った遊び	事前学習	案を考えて持ち寄り、検討できるようにする
		事後学習	指導案を作成する
第12回	教材研究（主活動を中心に）表現する遊び	事前学習	案を考えて持ち寄り、検討できるようにする
		事後学習	指導案を作成する
第13回	教材研究（主活動を中心に）制作	事前学習	案を考えて持ち寄り、検討できるようにする
		事後学習	指導案を作成する
第14回	模擬保育の発表	事前学習	模擬保育の練習と準備
		事後学習	発表者についての記録とまとめ
第15回	まとめ（今後の学びと課題、教育実習の目標設定）	事前学習	今までの学習を整理しておく
		事後学習	幼稚園教育実習の目標作成

*2019年度以降入学生より、教育実習にかかわる単位取得は、教職課程再課程認定に伴い「教育実習指導（事前指導）」、「教育実習（4週）」および「教育実習事後指導（1時間）」におけるすべての履修によって単位取得が認定されることとなった。

1. 科目名(単位数)	教育実習指導(初等)Ⅰ (1単位)	3. 科目番号	SJTP3555
2. 授業担当教員	山本 健志郎・未定		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実践することにより、幼稚園教育の理解を深め、教師の使命感と保育の実践力を身に付け、教育職としての資質を向上させることを目的とする。本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構え、実践方法を扱う。具体的には、指導計画作成、保育状況把握、教材研究、指導方法、記録の仕方などについて講義や事例検討を通して学ぶ。保育の具体的な状況に応じた判断力、行動力を養うため、模擬保育や教材研究など活動を伴う授業を含める。		
8. 学習目標	<p>7. 保育の現場にかかわる人としての基本的な態度、マナー、言葉遣いを理解し、自然に振舞うことができる。</p> <p>8. 保育実習者として現場から学ぶことの意味と学び方がわかる(子どもからの学び、保育者からの学び)。</p> <p>9. 実習体験の段階(観察、参加、実習)における実習目標と実習記録の方法はわかる。</p> <p>10. 指導計画の作成一実践一反省の過程を体験的に学習し、実践の振り返りと計画の改善の方法がわかる。</p> <p>11. 子どもの発達段階にふさわしい教材と子どもの興味関心、自発的遊びを生かした活動の展開がわかる。</p> <p>12. 子どもの活動や遊びへの関わりかた、問題状況への対応をロールプレイなどを通して身に着ける。</p> <p>7. 幼稚園生活の1日の流れ、保育環境の整備の仕方など、幼稚園の生活の全体について知っておく。</p>		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	毎回の予習、復習、授業時間内にて行う小グループによるグループ発表等を評価対象。その他、レポート等、詳細については、授業内にて提示。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】関口はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書出版、2012 東京福祉大学編『教育実習の手引き』 『幼稚園教育要領』フレーベル館</p> <p>【参考書】文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 原田留美『保育学生のための実践国語表現』おうふう 2008 関口はつ江監修太田節子編『Q&Aで学ぶ保育・教育実習～保育の専門性キャリアを目指して～』サンウェイ出版 その他、講義に応じてプリント等配布</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1 決められた書類作成・提出(計画表、課題レポートの記入の作成と提出)ができる</p> <p>2 保育者としての言動(態度、マナー)が取れる。</p> <p>3 指導技術(模擬保育等)が身に付いている。</p> <p>4 保育の評価・反省(記録作成、考察、反省分作成)が出来る。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1 グループ活動(指導案作成、模擬保育実践・反省) 30%</p> <p>2 模擬保育への積極的参加、記録の作成 40%</p> <p>3 課題レポート及び最終レポート 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	子どもの年齢による発達や、保育者に必要な専門性とは何かをしっかりと下調べし、教材研究、および指導案を作成するなど、実習に向けての事前学習を滞りなく進めていくこと。また、課題ごとの反省・評価に基づき、各々で次の課題を見出し、日々の生活や学習の仕方を自身で検討し実践につなげていくこと。		
13. オフィスアワー	別途通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の概要、授業計画、教育実習の目的、幼稚園の位置づけ、幼稚園現場の特徴など	事前学習	幼稚園教育要領、幼稚園教育の目的、方法を読む
		事後学習	自分の実習に向けての課題を確認する
第2回	実習に向けての基本的な心構えなど(自己理解と態度、礼儀、マナー、服装について)	事前学習	教科書第1～3章と第5章3節を読む
		事後学習	手引き p.3～p.8 を読み、大切な事項に下線を引く
第3回	実習における事前・事後指導(1)(実習オリエンテーションについて)	事前学習	教科書第4章1節、第5章1節を読む
		事後学習	手引き p.14～p.15 を読み、大切な事項に下線を引く
第4回	実習における事前・事後指導(2)実習中の留意点、実習後の活動について	事前学習	教科書第5章1節、4節、第6章を読む
		事後学習	手引き p.16～p.22 を読み、大切な事項に下線を引く
第5回	園生活の理解(幼稚園の1日の流れについて)	事前学習	幼稚園の1日の流れを下調べする
		事後学習	幼稚園の1日の流れを確認、実習生としての動きをノートにまとめる
第6回	実習日誌の記入について(1)	事前学習	教科書第4章2節を読む
		事後学習	日誌記入について、大切な事項をノートにま

2020 年度

			とめる
第 7 回	実習日誌の記入について (2)	事前学習	保育専門用語について配布プリントを読む
		事後学習	保育専門用語について配布プリントを復習する
第 8 回	教材研究 (1) 保育教材としての有効性について	事前学習	教科書第 4 章 4 節を読む
		事後学習	子どもの発達段階についての理解を深める
第 9 回	教材研究 (2) 調査した教材についての発表	事前学習	グループ発表の準備を整える
		事後学習	他グループの発表メモをまとめる
第 10 回	指導案の作成 (1) 指導案構成の理解と作成の仕方	事前学習	教科書第 4 章 3 節を読み、
		事後学習	指導計画作成のポイントをノートにまとめる
第 11 回	指導案の作成 (2) 模擬保育の指導案を作成する	事前学習	指導計画作成の留意点を確認する
		事後学習	指導計画を作成する
第 12 回	模擬保育 (1) 教材研究と練習	事前学習	保育活動内容の可能性について考える
		事後学習	グループごと模擬保育の練習をする
第 13 回	模擬保育 (2) 教材研究と発表	事前学習	グループごと模擬保育の練習をする
		事後学習	他の発表についてノートにまとめる
第 14 回	外部講師による特別講義：実習生とは (案)	事前学習	質問事項をあらかじめ準備する
		事後学習	講義内容をノートにまとめる
第 15 回	実習における自己課題の検討	事前学習	どのような実習にしたいか、実習に向けての抱負を考える
		事後学習	実習中、実習後の流れを確認する

*2019 年度以降入学生より、教育実習にかかわる単位取得は、教職課程再課程認定に伴い「教育実習指導 (事前指導)」、「教育実習 (4 週)」および「教育実習事後指導 (1 時間)」におけるすべての履修によって単位取得が認定されることとなった。

1. 科目名(単位数)	教育実習指導(初等)Ⅱ (1単位)	3. 科目番号	SJEL3456
2. 授業担当教員	福島 裕		
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	3年次に履修する。		
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。 2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。 3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。 4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>○それぞれの教科の指導法で学習した成果を生かし、さらに工夫・改善した学習指導案(道徳、算数)を作成し提出すること。</p> <p>○観察評価表や自己評価表・相互評価表を作成・提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>○東京福祉大学編「教育実習の手引き」(2015年版)</p> <p>○文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東洋館出版社</p> <p>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき</p> <p>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』東洋館出版社</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校教諭としての資質を理解しているか。 2. 児童理解を通して授業研究に取り組もうとしているか。 <p>○受講に対し、次の内容を総合して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度(教科書の準備・私語・発表) 30% 2. 学習指導案の提出 30% 3. 模擬授業観察記録の提出 20% 4. 模擬授業 20% <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>○充実した教育実習を行うために、児童の視点を大切に多面的な教材研究と多様な学習過程を理解し、実践できるようにします。そのためにも、受講生の皆さんに以下のことを望みます。</p> <p>ア 事前学習を重視し、十分に準備して授業に臨んでください。</p> <p>イ 言葉を大切に、豊かな表情、明確な言葉遣いを身につけるように努めましょう。</p> <p>ウ それぞれの教材が、児童にとってどのような意味を持っているかを常に考えてください。</p> <p>エ 教材作成、発問・板書等の指導方法や指導技術を生かし模擬授業に取り組んでください。</p> <p>オ 社会人としての教養や資質を高める努力をしてください。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、 教育実習の意義・目的、概要について 道徳・国語の模擬授業計画	事前学習	教科書、ノート、資料整理用ファイル等の準備をしておく。
		事後学習	「手引き」の実習の意義・目的、概要等の重要事項を整理しまとめる。
第2回	小学校教育の概要について 小学校の教育課程組織、教師の1日 学習指導案(細案)の項目、内容の確認、作成の手立て	事前学習	小学習指導要領解説「総則編」P99～P111を読み、内容を把握する。
		事後学習	配布資料を参考に学習指導案に記載する項目と内容を整理する。
第3回	模擬授業Ⅰ(道徳) 学習指導案の作成① 一般的な指導案形式 指導案「道徳」参考例の分析	事前学習	参考例の本時の部分をよく読み、一般的な指導案の書き方を理解しておく。
		事後学習	分析した内容について、重要点を確認しノートに整理しておく。
第4回	模擬授業Ⅰ(道徳) 学習指導案の作成② 指導案「道徳」展開案の作成	事前学習	展開案作成の要点を理解し、指導案に記載する必要項目をノートに整理しておく。
		事後学習	作成した部分の展開案をグループ毎に話し合い、改善点を修正する。
第5回	模擬授業Ⅰ(道徳) 学習指導案の作成③ 指導案「道徳」展開案の完成・提出	事前学習	展開案の未完成の部分について、一人一人の考えを整理しまとめておく。
		事後学習	完成した展開案を、グループで最終チェックを行い、模擬授業に備える。
第6回	道徳模擬授業の実施① 観察、相互評価	事前学習	授業のシナリオをつくり、学習資料の準備、主発問、補助発問、板書計画等を整理しておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や課題等をノートにまとめる。
第7回	道徳模擬授業の実施② 観察、相互評価	事前学習	先行実践の課題を生かしたシナリオをつく

			り、資料の準備、主発問、補助発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等をノートにまとめる。
第8回	道徳模擬授業の実施③ 観察、相互評価	事前学習	これまでの授業実践を生かしたシナリオをつくり、資料の準備、主発問、補助発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等をノートにまとめる。
第9回	模擬授業Ⅱ(国語) 学習指導案の作成① 指導案「国語」 展開案の作成	事前学習	国語科指導法で学習した指導案作成について、理解している事柄を再確認しておく
		事後学習	作成した部分の展開案について、グループで話し合ったことをもとに修正をしておく。
第10回	模擬授業Ⅱ(国語) 学習指導案の作成② 指導案「国語」 展開案の完成・提出	事前学習	展開案の未完成部分について、自分の考えや指導のアイデア等をノートにまとめる。
		事後学習	完成した展開案を、グループで最終チェックを行い模擬授業に備える。
第11回	模擬授業の実施① 観察、相互評価	事前学習	授業のシナリオをつくり、各種資料の準備、主発問、補助発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の改善点等をノートにまとめる。
第12回	模擬授業の実施② 観察、相互評価	事前学習	前回の実践上の課題を反映させた授業のシナリオをつくり、資料の準備、主発問、補助発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等をノートにまとめる。
第13回	模擬授業の実施③ 観察、相互評価	事前学習	これまで課題を解決するために講じた手立てを生かしたシナリオをつくり、資料の準備、主発問、補助発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題解決に向けて取り組むことをノートにまとめる。
第14回	教育実習直前の準備① 実習日誌の書き方、実習録の書き方、 参考例をもとに作成する	事前学習	教科書『教育実習の手引き』の該当箇所の概要を把握し、不明なことや疑問点を整理しておく。
		事後学習	実習日誌を記述するうえでの重要なポイントを理解し、記録できるようにする。
第15回	教育実習直前の準備② 礼儀・マナー、服装・持ち物、 実習最終日について等 学習のまとめ	事前学習	教科書『教育実習の手引き』の該当箇所の概要を把握し、不明な点や質問事項を整理しておく。
		事後学習	教育実習の重要な点である「礼儀・マナー、服装・持ち物、実習最終日のこと」等についてその意味を理解し、確実に身に付けるようにする。

*2019年度以降入学生より、教育実習にかかわる単位取得は、教職課程再課程認定に伴い「教育実習指導（事前指導）」、「教育実習（4週）」および「教育実習事後指導（1時間）」におけるすべての履修によって単位取得が認定されることとなった。

1. 科目名(単位数)	教育実習指導(中等) (1単位)		3. 科目番号	EDTS3373						
2. 授業担当教員	深沢 和彦									
4. 授業形態	講義や演習(学習指導案の作成や模擬授業の実施など)、事例研究についてグループディスカッションによる実践的な学びあいを重視します。		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えについて学習する。主な内容として、教育実習の意義や目的、実習内容の概要、教育実習生としての基本姿勢や生活態度、教科指導等にかかわる学習指導案の作成及び模擬授業の実施、教育実習日誌の作成等を取り扱い、教育実習に必要な事項のすべてについて学習する。</p> <p>教育実習を通じて、教育現場での実際を体験的に学び、教職への道をより確かなものとして進進できるようになるとともに、教育実習生としての社会性を身に付けることをねらいとする。</p>									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義・目的及び教育実習の概要について理解し、説明できるようになる。 2 教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等を理解し、実習を行えるようになる。 3 教材研究の重要性を理解し、教材研究に裏打ちされた教科・科目の学習指導案を作成できるようにする。 4 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実施し、教師の役割について理解し、説明できるようになる。 5 教育実習日誌の作成をはじめ、教育実習に必要とされるすべての事項について学び、実習を行えるようになる。 									
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートⅠ 私の教える専門教科について ・レポートⅡ 学習指導案(教育実習で担当する教科・科目)の作成 <p>*レポートⅠは1600字、A4で1枚にまとめ10月末日までに、レポートⅡは各自が教育実習で担当する教科・科目にかかわる学習指導案をVer.1とVer.2の2通り作成し、各々の指示された期限までにそれぞれ提出すること。</p>									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 東京福祉大編『教育実習の手引き』 文部科学省『中学校学習指導要領解説(保健体育編、外国語編)』2017年 文部科学省『高等学校学習指導要領解説(保健体育編、英語編、情報編、公民編、福祉編)』2018年 *上記学習指導要領解説のうち、教育実習において各自が担当する教科・科目に該当する最新の学習指導要領解説を用意すること。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房、2008年。 *必要に応じてプリント資料を配付する。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 教育実習の目的・概要を理解し、教科・科目の学習指導案を作成して、模擬授業等を計画・実施・改善を図り、教育実習を行えるようになる。</p> <p>○評定の方法</p> <table border="1"> <tr> <td>1 日常の授業態度(参加態度、発表、発言、学習状況等)</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート(学習指導案を含む)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3 模擬授業(プレゼン)</td> <td>30%</td> </tr> </table>				1 日常の授業態度(参加態度、発表、発言、学習状況等)	40%	2 課題レポート(学習指導案を含む)	30%	3 模擬授業(プレゼン)	30%
1 日常の授業態度(参加態度、発表、発言、学習状況等)	40%									
2 課題レポート(学習指導案を含む)	30%									
3 模擬授業(プレゼン)	30%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育実習は教員免許状を取得するために必要とされるもので、教育現場の緊張感をもって誠実に、そして着実にこなしていかなければならない。そのためには、実際に教育実習に行く前の準備として、教育実習の目的・目標を確認するとともに、教育実践の場において適切に対応しうる理論・知識・技術を身に付けておくことが大切である。</p> <p>この科目では担当予定の教科・科目にかかわる教科書(題材)に基づき、学習指導案の作成を通じて授業力の向上に取り組み、教職と自己に対する認識を深め、教職志望者としての自覚をもてるようになることが望まれる。毎回の授業には積極的な態度で臨み、皆さんが小学校・中学校・高等学校の学校段階で積み重ねてきた「授業体験」を原風景として振り返ってください。皆さんの授業の原風景とこの授業での学びを結びつけ、生徒の実態に寄り添える教師をめざしてください。</p> <p>【学生に期待すること】 受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してください。 ①教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高めます。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでください。 ②授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないでください。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告してください。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格となります。) ③明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られないと判断された場合、試験の答案内容の如何にかかわらず、不合格となります。 ④授業中、飲食、私語、居眠りはしないでください。 ⑤授業中は携帯電話等の携帯端末の電源を切ってカバンにしまってください。</p>									
13. オフィスアワー	初回講義時に通知する									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	科目のガイダンス 教育実習にかかわる事前調査の実施 教育実習の手引き	事前学習	教育実習などの実習記録に目を通し講義に臨む。							
		事後学習	教育実習に臨むアウトラインをまとめて手続きを確認する。							
第2回	教育実習に関するグループワーク① 教育実習生が身に付けておくべき資	事前学習	事前に配付した資料を熟読して、自分の意見をまとめておく。							
		事後学習	配付したワークシートに教育実習生としての資質・能力のポイ							

	質・能力		ントをグループ単位でまとめる。
第3回	中学校・高等学校の教育課程 (保健体育編、英語編、公民編、情報編、福祉編)	事前学習	実習教科・科目の指導要領解説を熟読し準備する。
		事後学習	各自で教科・科目について取り扱いの留意点や特性をまとめレポートⅠを作成し、期限までに提出する。
第4回	教育実習についてのグループワーク② 学習指導の方法・技術(発問・板書・教育機器の活用など)	事前学習	事前に配付した資料を熟読して、自分の意見をまとめておく。
		事後学習	配付したワークシートに教育実習生としての資質・能力のポイントをグループ単位でまとめる。
第5回	教育実習で担当する教科・科目別のグループ編成 学習指導案の作成準備 *模擬授業の教科・科目の単元の決定をする	事前学習	模擬授業をおこないたい教科・単元について検討する。
		事後学習	班ごとに授業教科の学習指導要領解説編をよく読んで、各自が実習をおこなう教科・科目の指導案作成の準備をする。
第6回	学習指導案の作成と検討① 単元目標・評価規準・指導計画・本時の目標と展開案 1. 日時 2. 対象学年・組(場所) 3. 教材・単元名 4. 単元の目標 5. 単元について(1)教材観(2)生徒観(3)指導観 6. 単元の指導計画 7. 本時の学習(1)本時の目標(2)評価基準(3)本時の展開(4)板書計画	事前学習	模擬授業をおこなう教科・科目の単元について、学習指導要領の位置付けを確認する。
		事後学習	各自の学習指導案 Ver. 1 を作成する。 *学習指導案 Ver. 1 は指示された期限までに完成させて提出する。
第7回	学習指導案の作成と検討② 個人で作成した学習指導案を班ごとに検討して、グループごとに代表の学習指導案の検討(単元目標・評価基準・指導計画・本時の目標と展開案)	事前学習	各自が作成した学習指導案 Ver. 1 について推敲する。
		事後学習	各グループで独自に集まり、模擬授業用の代表の学習指導案についてすり合わせを行っておく。
第8回	学習指導案の作成と検討③ グループごとに発表する代表の学習指導案の教材教具の検討(板書計画・配付ワークシート・配付資料など)	事前学習	代表の学習指導案のすり合わせをもとに学習指導案を検討する。
		事後学習	各グループで代表の学習指導案を推敲する。
第9回	模擬授業① 模擬授業の参観 模擬授業の振り返り	事前学習	配付する模擬授業の授業計画案を熟読しておく。
		事後学習	参観した模擬授業の評価票を参考にグループ毎に課題を整理する。それをもとに各グループの代表の学習指導案を推敲する。
第10回	模擬授業② 模擬授業の実践 模擬授業の振り返り	事前学習	模擬授業をおこなうグループは、発問・資料・板書計画等を検討し、学習指導案及び配付資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業をおこなったグループは、参観者からの評価票を参考に課題を整理する。それをもとに各自の学習指導案 Ver. 1 を推敲して学習指導案 Ver. 2 を完成させる。 *学習指導案 Ver. 2 の提出は次回の授業までとする。
第11回	模擬授業③ 模擬授業の実践 模擬授業の振り返り	事前学習	模擬授業をおこなうグループは、発問・資料・板書計画等を検討し、学習指導案及び配付資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業をおこなったグループは、参観者からの評価票を参考に課題を整理する。それをもとに各自の学習指導案 Ver. 1 を推敲して学習指導案 Ver. 2 を完成させる。 *学習指導案 Ver. 2 の提出は次回の授業までとする。
第12回	模擬授業④ 模擬授業の実践 模擬授業の振り返り	事前学習	模擬授業をおこなうグループは、発問・資料・板書計画等を検討し、学習指導案及び配付資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業をおこなったグループは、参観者からの評価票を参考に課題を整理する。それをもとに各自の学習指導案 Ver. 1 を推敲して学習指導案 Ver. 2 を完成させる。 *学習指導案 Ver. 2 の提出は次回の授業までとする。
第13回	模擬授業⑤ 模擬授業の実践 模擬授業の振り返り	事前学習	模擬授業をおこなうグループは、発問・資料・板書計画等を検討し、学習指導案及び配付資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業をおこなったグループは、参観者からの評価票を参考に課題を整理する。それをもとに各自の学習指導案 Ver. 1 を推敲して学習指導案 Ver. 2 を完成させる。 *学習指導案 Ver. 2 の提出は次回の授業までとする。
第14回	模擬授業⑤ 模擬授業の実践 模擬授業の振り返り	事前学習	模擬授業をおこなうグループは、発問・資料・板書計画等を検討し、学習指導案及び配付資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業をおこなったグループは、参観者からの評価票を参考に課題を整理する。それをもとに各自の学習指導案 Ver. 1 を推敲して学習指導案 Ver. 2 を完成させる。 *学習指導案 Ver. 2 の提出は次回の授業までとする。
第15回	教育実習日誌の書き方 教員採用試験について この授業のまとめ(ワークシートの記入)	事前学習	事前に配付した資料を熟読してくる。
		事後学習	この授業から学んだことを振り返り、総合的なまとめとする。

*2019年度以降入学生より、教育実習にかかわる単位取得は、教職課程再課程認定に伴い「教育実習指導(事前指導)」、「教育実習(4週)」および「教育実習事後指導(1時間)」におけるすべての履修によって単位取得が認定されることとなった。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2110 SJMP2111
2. 授業担当教員	長谷川 有香		
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	本講義では、人間の発達過程および特徴についての心理学の基礎理論を学ぶとともに、発達段階をふまえての主体的な学習を支える指導の在り方やクラス集団形成について学ぶ。また、保育や教育現場で生じるさまざまな現象に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処法を見つけ出す力を身につけることを目的に講義を行う。		
8. 学習目標	1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について理解し、説明することができる 2. 発達段階の心理的特性に基づき、主体的な学びを促す指導への応用する視点を持つことができる		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に小テスト・小レポートを実施します。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】使用しない 【資料・教材】授業にてプリントを配布します		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 子どもの発達を踏まえた教育心理学の基本的な知識について理解し、説明できるか。 2. 学んだ知識に基づいて子どもの行動を理解し、教育や保育の現場で応用する力がつきたか。 ○評定の方法 1 授業への参加態度 (グループワーク等) 総合点の 30% 2 試験 (小テストまたは期末試験) 総合点の 40% 3 課題 (レポート等) 総合点の 30%		
12. 受講生への メッセージ	教育心理学を学ぶことで、専門的知識に基づいた教育ができるようになることを目指します。どのように実践につなげられるかを考えながら受講してください。		
13. オフィスアワー	初回授業で指示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	教育心理学とは	事前学習	シラバスを確認する
		事後学習	今後の授業内容について理解し、準備する
第2回	記憶の分類	事前学習	自分の覚え方の工夫について書き出す
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第3回	記憶の理論を生かす	事前学習	効果的な記憶方法について考える
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第4回	学習のしくみ	事前学習	ほめることの効果について考える
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第5回	動機づけの基礎	事前学習	自分のやる気が出るときを想起し書き出す
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第6回	動機づけの応用	事前学習	子どもたちのやる気を高める工夫について考える
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第7回	児童・生徒をどのように評価するか	事前学習	効果的な評価について考える
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第8回	どのように教えるか	事前学習	自分がこれまで受けた授業で学びやすかった学習方法を思い出して書き出す
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第9回	教師の及ぼす影響	事前学習	自分の小中学校の時の先生を思い出してその特徴を書き出す
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第10回	学級という社会	事前学習	自分の小中学校の時のクラスの雰囲気や人間関係について思い出して書き出す
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第11回	いじめ	事前学習	いじめが発生・拡大する理由を自分なりに考える
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第12回	学校不適応	事前学習	学校において児童・生徒がストレスを感じると思われる場面を整理する
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第13回	困難を抱える子どもたち	事前学習	発達障害について調べる
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第14回	心理教育	事前学習	学校場面で必要とされる対人関係スキルについて書き出す
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第15回	まとめとテスト	事前学習	これまでのレジュメを整理する
		事後学習	これまでの授業で学んだことを、教育の現場でどのように生かせるか考える

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等・幼) (2単位)		3. 科目番号	SJMP3110
2. 授業担当教員	森 慶輔			
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、人間の発達過程および特徴についての心理学の基礎理論を学ぶとともに、発達段階をふまえての主体的な学習を支える指導の在り方やクラス集団形成について学ぶ。また、保育や教育現場で生じるさまざまな現象に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処法を見つけ出す力を身につけることを目的に講義を行う。			
8. 学習目標	1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について理解し、説明することができる 2. 発達段階の心理的特性に基づき、主体的な学びを促す指導への応用する視点を持つことができる			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	受講学生数によるが、少人数が予想されるため、受講学生によるプレゼンテーションやディスカッションを基に講義を進める予定である。よってアサインメントは教科書の該当箇所を精読することである。詳細は第1回の講義で説明する。(受講学生数が多い場合は変更の場合もあるが、事前に周知する。) レポート課題、試験は講義内で説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】石井正子・中村徳子 編『教職に生かす教育心理学』みらい 【参考書】授業内で紹介する			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 子どもの発達を踏まえた教育心理学の基本的な知識について理解し、説明できるか。 2. 学んだ知識に基づいて子どもの行動を理解し、教育や保育の現場で応用する力がついたか。 ○評定の方法 1 授業への参加態度 (グループワーク等) 総合点の 30% 2 試験 (小テスト・期末試験) 総合点の 40% 3 課題 (レポート等) 総合点の 30%			
12. 受講生へのメッセージ	①以下に示す授業展開は予定であり、学生の興味関心等により変更することもあり得ます。 ②授業中の私語など授業の進行の妨げとなる行為や他の受講生の迷惑となる行為は厳禁です。 ③幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目です。この科目は、皆さんが将来、教育領域、保育領域で働く際に、子どもや保護者を理解するために非常に重要な領域です。随時、キーワード等を見直し、理解を深めて下さい。			
13. オフィスアワー	第1回講義の際に指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業オリエンテーション 発達を学ぶ意義	事前学習	シラバスを確認し、授業準備をする	
		事後学習	授業に必要な教材をそろえる	
第2回	発達における遺伝と環境の相互作用	事前学習	「発達」の意味を調べる	
		事後学習	遺伝と環境の相互作用をまとめる	
第3回	身体・運動発達	事前学習	身体発達の特徴を調べる	
		事後学習	身体発達と運動発達の各時期をまとめる	
第4回	知覚の発達	事前学習	知覚とは何かを調べる	
		事後学習	知覚の発達をまとめる	
第5回	認知・思考の発達	事前学習	ピアジェの認知発達について調べる	
		事後学習	認知発達についてまとめる	
第6回	言語の発達	事前学習	言語の発達過程について調べる	
		事後学習	言語発達における遺伝と環境の影響をまとめる	
第7回	自己意識・対人関係の発達	事前学習	「自己意識」とは何かを調べる	
		事後学習	自己意識と社会性の発達の関連を考察する	
第8回	小テストとまとめ	事前学習	小テストの準備	
		事後学習	これまでの授業を振り返り、わからないところをまとめる	
第9回	学習理論①行動理論	事前学習	レスポナント・オペラント条件付けについて調べる	
		事後学習	条件付けについてまとめる	
第10回	学習理論②認知理論	事前学習	観察学習について調べる	
		事後学習	観察学習についてまとめる	
第11回	動機づけ	事前学習	「動機づけ」とは何かを調べる	
		事後学習	子どもの動機づけの方法を考える	
第12回	学習評価の方法	事前学習	平均値と標準偏差の考え方を見直してくる	
		事後学習	多様な学習評価の方法をまとめる	
第13回	主体的な学びを促す①教師の指導	事前学習	教授法について調べてくる	
		事後学習	主体的な学びを促す教師の指導について考察する	
第14回	主体的な学びを促す②集団づくり	事前学習	協働学習について調べる	
		事後学習	主体的な学びを促す集団作りについて考察する	
第15回	小テストとまとめ	事前学習	小テストの準備	
		事後学習	これまでの授業を振り返り、期末試験に備える	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (中等) (2単位)		3. 科目番号	SSMP3330
2. 授業担当教員	森 慶輔			SNMP3330
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	SCMP3330
6. 履修条件・他科目との関係				SBMP3330
7. 講義概要	教育心理学とは子どもを教育していく上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から解説する学問である。教育心理学の基礎とされる発達、学習、人格、測定・評価の4つの領域について基礎知識を深め、今日の教育の現場が必要としている問題解決のための諸要因を解説する。本講義では、以上のような基礎的知識の習得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている諸問題に対する支援の在り方についても考察する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学と心理学の深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 教育場面において生じる問題及びその背景について指摘できるようになる。 3. 子どもの発達と学習能力を高めるさまざまな要因について理解できるようになる。 4. 教育の目的から考える学校生活のあり方：理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 5. 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について考察できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメント：「14. 授業展開及び授業内容」に記載した事前学習、事後学習の通り。 レポート課題：第1回の講義で説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】石井正子・中村徳子 編『教職に生かす教育心理学』みらい 【参考書】必要に応じて、適宜資料を配付する。また、他に参考書がある場合はそのつど紹介する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基本的な知識を理解し、説明できるか。 2. 教育心理学の知識を教育の場で応用し、活用する力がついたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加態度 総合点の30% 2 試験 (小テスト・期末テスト等) 総合点の40% 3 課題 (レポート等) 総合点の30% 			
12. 受講生へのメッセージ	本科目は中学校教諭、高等学校教諭一種免許状を取得するための必修科目である。教壇に立つに当たっての必要な知識、技術を身につけることが要求される。真摯な態度で講義に臨んでほしい。			
13. オフィスアワー	第1回の授業で指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	教育心理学とは	事前学習	教科書 Lesson1 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第2回	発達と教育	事前学習	教科書 Lesson2 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第3回	知的発達の過程	事前学習	教科書 Lesson3 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第4回	記憶のしくみ	事前学習	教科書 Lesson4 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第5回	学習のしくみ	事前学習	教科書 Lesson6 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第6回	動機づけ	事前学習	教科書 Lesson7 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第7回	頭がよいとは	事前学習	教科書 Lesson8 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第8回	パーソナリティと教育	事前学習	教科書 Lesson9 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第9回	学級集団と学級経営	事前学習	教科書 Lesson11 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第10回	学校不応とカウンセリング	事前学習	教科書 Lesson12 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第11回	障害のある子どもたちと特別支援教育	事前学習	教科書 Lesson13 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第12回	学習指導の心理学 (1)	事前学習	教科書 Lesson10 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第13回	学習指導の心理学 (2)	事前学習	アクティブラーニングについて調べておく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第14回	教育評価の目的と方法	事前学習	教科書 Lesson14 を読んでおく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
第15回	まとめ	事前学習	今までの疑問点を整理しておく	
		事後学習	ワークシートを復習する	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・小) (2単位)	3. 科目番号	EDTE3106 EDTE3306
2. 授業担当教員	八重樫 節子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育相談とは、幼稚園・小学校や中学校・高等学校など教育現場において、幼児・児童・生徒のこころの問題を扱うだけでなく、幼児・児童・生徒を取り巻く家族や友人状況、地域・家庭の教育力の低下等、家庭や社会環境の変化なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本授業では、教師あるいはスクールカウンセラーが行う教育相談活動について、幼児・児童・生徒を理解するために必要な知識や方法およびカウンセリングを含めた実際の介入方法などについて、知識を深めロールプレイや討論も交えながら実践力を身につけることを目的とする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。 2. 教育現場における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明や討論 (事例検討も含める) をすることができるようになる。 3. 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明やロールプレイをすることができるようになる。 4. 教育相談の治療的、予防的、開発的側面や現代の諸課題について理解し、説明や討論をすることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談についての理解を円滑にするために、教科書の関連部分を読むことを第2回から第14回の事前学習とする。 ・レポート課題 「ある事例の解決に向けた支援の手立てについて論述する。」 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 春日井敏之・伊藤美奈子『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、2011。 ※必要に応じて授業内でプリントを配布する。</p> <p>【参考書】 石隈利紀・藤井英行・田中輝美『生涯発達の中のカウンセリングⅡ』サイエンス社、2013。 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2010。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の意義と理論を理解し、説明できるか。 2. カウンセリングに関する基礎的・基本的事項を理解し、説明やロールプレイをすることができるか。 3. 教育相談の具体的な進め方やポイントを理解し、組織的な取り組みや他機関との連携の必要性、現代の課題を把握して説明や討論 (事例検討も含める) をすることができるか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の学習状況、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的参加 (発言、討議、態度、シートの取り組み等) 総合点の50% 2. レポート (小論文、中間レポートを含む) 総合点の50% <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	学校現場ではいじめ・不登校対策、学級の気になる子への対応策、保護者対応などにかかわって、学校における教育相談が一層重視されています。学校現場の大変さをしっかり把握し、さまざまな問題を抱えている子ども及び保護者を含め、組織的にどのような対応をしていけるのか具体的事例をもとに演習やディスカッションをまじえながらカウンセリングマインドを持つ教師を目指して、取り組んでいきましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、教師に求められるカウンセリングマインドについて －カウンセリング演習 傾聴・繰り返し－	事前学習	教育相談の「意義」と「目的」について、自分なりの考えを持って講義に臨む。
		事後学習	授業内容について理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第2回	受容(共感)と指導(要求)、生徒指導と教育相談など －カウンセリング演習 傾聴・繰り返し－	事前学習	教科書の pp. 10～19 を熟読し、授業に生かす臨床的視点 pp. 18 の事例について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、子どもの心を聴くことの意味と意義を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第3回	子どもの発達課題と教育相談 －カウンセリング演習 明確化－	事前学習	教科書の pp. 22～35 子どもの発達と教育相談を熟読し、学童期の発達と教育相談について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、子どもの発達に合わせた教育相談について理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第4回	学校現場における「問題行動」と教育相談 ①不登校、いじめなど －事例によるカウンセリング演習 明確化 児童との面接 (不登校傾向) －	事前学習	教科書の pp. 42～47 学校現場における「問題行動」と教育相談を熟読し、不登校、いじめの指導・支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、不登校、いじめなどの問題行動のとりえ方と支援の視点などを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第5回	学校現場における「問題行動」と教育相談	事前学習	教科書の pp. 48～57 学校現場における「問題行動」と教

	②万引き、虐待など －事例によるカウンセリング演習 沈黙の処理 児童との面接（虐待）－		育相談を熟読し、万引き、虐待の指導・支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、万引き、虐待などの問題行動のとらえ方と支援の視点などを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第6回	特別支援教育と教育相談①発達障害とは －事例によるカウンセリング演習 保護者との面接（ADHD）－	事前学習	教科書の pp. 62～69 特別支援教育と教育相談を熟読し、発達障害のとらえ方と対応について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、特別支援教育の基本的な考え方や発達障害を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第7回	特別支援教育と教育相談②発達障害へのかかわりと組織的な取り組み －校内委員会の模擬演習－	事前学習	教科書の pp. 70～81 特別支援教育と教育相談を熟読し、気になる子どもへのかかわりと学級の取り組みについて予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、特別支援教育コーディネーターの意義と役割、校内委員会の実際について理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第8回	予防・開発的取り組みと教育相談①構成的グループ・エンカウンター、ブリーフ・カウンセリングなど	事前学習	教科書の pp. 82～87 予防・開発的取り組みと教育相談を熟読し、問題解決から予防・開発的な教育相談について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、さまざまな教育相談にかかわる技法を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第9回	予防・開発的取り組みと教育相談②アサーション・トレーニング、交流分析、ピアサポートなど	事前学習	教科書の pp. 88～97 予防・開発的取り組みと教育相談を熟読し、アサーション・トレーニングについて予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、交流分析、ピアサポートなどを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第10回	教師への支援と教育相談 －事例によるカウンセリング演習 教師との面接（悩む学級担任）－	事前学習	教科書の pp. 102～121 教師への支援と教育相談を熟読し、教師支援の必要性について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、教師へのメンタルヘルスを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第11回	保護者への支援と教育相談 －事例によるカウンセリング演習 保護者との面接（子育て不安）－	事前学習	教科書の pp. 122～141 保護者の支援と教育相談を熟読し、モンスターペアレント、若い保護者の子育て不安への支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、親が抱えている問題への対応を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第12回	校内の相談システムと教育相談（チーム学校としてのチーム支援） －チーム支援の模擬演習－	事前学習	教科書の pp. 142～159 校内の相談システムと教育相談を熟読し、ネットワーク支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、チーム学校としてチーム支援のシステムを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第13回	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教育相談 －実際に活用する模擬演習－	事前学習	教科書の pp. 162～181 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教育相談を熟読し、学校で役立つスクールカウンセラー（SC）の条件について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割と活用の実際を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第14回	専門機関との支援ネットワークと教育相談 －事例によるカウンセリング演習 保護者との面接（医療受診）－	事前学習	教科書の pp. 182～201 専門機関とのネットワークと教育相談について熟読し、医療機関との連携について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、教育福祉医療及びそのたの機関との連携を理解しワークシートにまとめファイリングする。
第15回	授業のまとめ グループワーク（発表）	事前学習	第14回までの授業で、教育相談について自分が理解した内容を整理しておく。
		事後学習	授業全体をふり返り、講義内容の理解を確認したことをワークシートにまとめファイリングする。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (初等・幼) (2単位)	3. 科目番号	SJTC1402
2. 授業担当教員	山本 豊		
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容の把握については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ双方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	法学や憲法などを事前に履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>本科目は、幼稚園・小学校・特別支援学校などの教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、幼小連携を踏まえた教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や幼児・児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、幼稚園・小学校や特別支援学校の幼稚部・小学部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠ある教育活動ができる教員となること。</p> <p>また、教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法規の基礎知識について知り、その内容について説明できるようになることを目的とする。 2. 教育関連法規の具体的な内容について学校(幼稚園・小学校及び特別支援学校の幼稚部・小学部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。 3. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめ、発表することができるようになる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習が欠かせない科目である。なぜならば予習することによって、課題意識をもって講義に臨むことができるからである。その結果、学習の理解度に大きな差が生じることになるからである。 ・ 予習とはシラバスに対応して、「有権解釈に重きを置いた 教育法規」を読み、「書いて理解する 教育法規」の空欄を埋めて講義に臨むこと。 ・ 講義内容に応じて、教員採用選考試験の過去問を配布するので、事前に解いて講義に臨むこと。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山本豊著『有権解釈に重きを置いた 教育法規 第四版』学校図書。(教科書と表示する)</p> <p>山本豊著『書いて理解する 教育法規 第三版』オフィス・サウス(サブノートと表示する)</p> <p>必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法学(憲法を含む)での学習を踏まえ、教育法規という学校教育に関する法規を理解できたか。 2. 各学校(幼稚園・小学校・特別支援学校の幼稚部・小学部)に応じた教育法規の内容について具体的事例を通して学び、身に付けることができたか。 3. 学んだ教育法規に関する知識を活用して教員採用選考試験問題を解き、選考試験に対応できる力を身に付けることができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への参加度(発表、授業態度) 40%</p> <p>事前・事後学習の内容、や理解度テストの結果、出席状況等 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。 2. 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなどの予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。 3. 自ら進んで発表したり、質問したりして講義内容の理解に努めること。 4. 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。 5. 授業中の着帽、私語、飲食(ガムを含む)等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等は机の上に置かずにバッグの中にしておくこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる声で話しをするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。 4. 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。 5. 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに来室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので(次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	

第1回	オリエンテーション、教育法規を学ぶ意義 教育法規の体系と構造— 教育法規、法体系と法の形式・形式的効力、 国の主な法令、地方の主な法規、法令間の矛盾 抵触を解決するための諸原理などについて理解する。	事前学習	教科書のはしがき及びp20～p29を熟読し、それに対応するサブノートの空欄を埋める。また、教科書の質問コーナーの解答を考えることで、教育法規に興味や関心をもつ。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第2回	日本国憲法の教育に関連する規定— 教育を受ける権利、義務教育、法の下での平等、 信教の自由、学問の自由などについて理解する。	事前学習	教科書のp30～p37を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第3回	教育基本法—① 教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、 学校教育、教員などについて理解する。	事前学習	教科書のp38～p50を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。また、教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第4回	教育基本法—② 家庭教育、社会教育、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力、政治教育、宗教教育、 教育行政などについて理解する。	事前学習	教科書のp50～p58を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。教育基本法の理解度テストに備える。
第5回	学校教育—① 学校教育法1条校、学校の設置と管理、組織編制、 学校の運営などについて理解する。 理解度テスト ①	事前学習	教科書のp60～p77を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問すること。
第6回	学校教育—② 学校教育の目的と目標、教育課程、学習指導要領などについて理解する。	事前学習	教科書のp77～p94を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第7回	学校教育—③ 教科書の使用義務と補助教材、備え付け表簿の内容とその保存期間、学年・学期・授業日・休業日などについて理解する。	事前学習	教科書のp94～p106を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。学校教育の理解度テストに備える。
第8回	児童・生徒—① 義務教育、義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業、懲戒・体罰（その1）などについて理解する。 理解度テスト ②	事前学習	教科書のp108～p119を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第9回	児童・生徒—② 懲戒・体罰（その2）、出席停止について理解する。	事前学習	教科書のp119～p147を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。理解度テストに備える。
第10回	学校保健・安全・給食—① 学校保健、学校安全、学校給食について理解する。	事前学習	教科書のp148～p174を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第11回	特別支援教育 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について理解する。	事前学習	教科書のp176～p187を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。

	教職員—① 教員、教育公務員の定義	事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第12回	教職員—② 学校に配置される教職員、配置職員と職務教職員の資格などについて理解する。	事前学習	教科書のp188～p200を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第13回	教職員—③ 免許状、任用、服務、分限処分と懲戒処分などについて理解する。	事前学習	教科書のp200～p250を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第14回	教職員—④ 研修、給与、勤務時間その他の勤務条件などについて理解する。 教育行財政— 国と地方の役割分担、教育委員会、学校の管理及び経費の負担などについて理解する。	事前学習	教科書のp251～p311を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第15回	その他の教育関連法規— 国家賠償、社会教育、学校図書館法、児童虐待の防止等に関する法律などについて理解する。 理解度テスト ③	事前学習	教科書のp312～p365を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	本授業を振り返り、学習目標を達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は、今後の学習や実習等で解決を図る。

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (初等・小) (2単位)		3. 科目番号	EDTE2104
2. 授業担当教員	藤原 寿幸			
4. 授業形態	講義、グループ討議を用いる。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	学校における教育活動の中核である授業を、児童・生徒が主体的・対話的で深い学びを実現し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学ぶことの意味を捉え直し、問いを持つことの大切さを理解するとともに、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習を確実に行うよう努力すること。 ・「あなたはどのような要素を特に大事にして授業を行うか」について、授業で学んだことを挙げながら、1000字程度でまとめなさい。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 岡田涼・中谷素之・伊藤崇達・塚野州一『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房、2016年</p> <p>【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社 生徒指導提要 (平成22年3月告示 文部科学省)</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「何をどのように教え・学ばせるのか」「何ができるようになるか」という観点から、教育方法を習得することが出来たか。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けることができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 2. レポートや課題の提出期限を守ってください。 3. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。 <p>近い将来に、自分が子ども達の前で教育活動を実践していくイメージをもちながら、学びの意味を再認識し、子どもの認識に応じた教育方法を考え、効果的な教育の仕方を身に付けてほしいです。</p>			
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション・児童生徒の学びを支える指導・学力の分類と指導	事前学習	教科書の序章、第1章 pp. 1～22を通読してくる。	
		事後学習	pp. 1～22の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第2回	教育における目標	事前学習	教科書の第2章 pp. 23～39を通読してくる。	
		事後学習	pp. 40～49の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。学習指導案を入手しておく。	
第3回	教室文化と学習規律・学習指導案の書き方	事前学習	教科書の第3章 pp. 40～49を通読してくる。	
		事後学習	pp. 40～49の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。学習指導案の書き方を確認しておく。	
第4回	授業における教授方法	事前学習	教科書の第4章 pp. 50～64を通読してくる。	
		事後学習	pp. 50～64の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第5回	授業における指導の技術・模擬授業	事前学習	教科書の第5章 pp. 65～81を通読してくる。	
		事後学習	pp. 65～81の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第6回	学習意欲を促す指導・模擬授業	事前学習	教科書の第6章 pp. 82～96を通読してくる。	
		事後学習	pp. 82～96の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第7回	仲間との協同による学習・模擬授業	事前学習	教科書の第7章 pp. 97～111を通読してくる。	
		事後学習	pp. 97～111の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第8回	自立的な問題解決を促す指導・模擬授業	事前学習	教科書の第8章 pp. 112～123を通読してくる。	
		事後学習	pp. 112～123の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第9回	ICTを用いた指導方法・模擬授業	事前学習	教科書の第9章 pp. 124～139を通読してくる。	
		事後学習	pp. 124～139の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第10回	授業外の学習の指導・模擬授業	事前学習	教科書の第10章 pp. 140～156を通読してくる。	
		事後学習	pp. 140～156の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第11回	教師の専門性を高める「子どものつまずき」	事前学習	教科書の第11章 pp. 157～177を通読してくる。	

2020年度

	に応じた指導・模擬授業	事後学習	pp. 157～177の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第12回	障害のある児童生徒の理解と支援・模擬授業	事前学習	教科書の第12章 pp. 178～193を通読してくる。
		事後学習	pp. 178～193の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第13回	教育における評価と学習	事前学習	教科書の第13章 pp. 194～209を通読してくる。
		事後学習	pp. 194～209の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第14回	テストの作成と運用・自ら学び続ける教師を目指して	事前学習	教科書の第14章、終章 pp. 210～230を通読してくる。
		事後学習	pp. 210～230の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第15回	教育方法論のまとめと発表 ・期末レポートを元にグループワーク、発表 ・授業評価	事前学習	教育方法論を振り返り概要を整理する。
		事後学習	教育方法論で学んだことを今後はどう生かすか、成果と課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (初等・小) (2単位)		3. 科目番号	EDTE2104
2. 授業担当教員	望月 之美			
4. 授業形態	講義、グループ討議を用いる。	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	教育学概論や教育課程論などを事前に履修していることが望ましい。			
7. 講義概要	学校における教育活動の中核である授業を、児童・生徒が主体的・対話的で深い学びを実現し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学ぶことの意味を捉え直し、問いを持つことの大切さを理解するとともに、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	事前に指定された教科書のページを読み、気になるところなどにアンダーラインをひいてくる。講義はじめには、前時の復習の小テストがあります。中間と後半に課題の提出があるので、それらにしっかり取り組み期限までに提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 佐藤学『教育の方法』放送大学叢書</p> <p>【参考書】 多田敏文著『教育の方法と技術』学芸図書株式会社 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。</p> <p>【参考資料】 生徒指導提要 (平成 22 年 3 月告示 文部科学省) 小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「何をどのように教え・学ばせるのか」「何が出来るようになるか」という観点から、教育方法を習得することが出来たか。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けることができたか。 <p>○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	「何をどのように学ばせるのか・・・」大体はわかっても、具体的にどんな授業構想を持ってやっていくべきかわからないでしょう、この授業では具体的な手法や方法をおりまぜて、その根拠となる背景の中に意味づけて学習します。また、授業の構造やそのリフレクションの方法、タブレットやデジタル教材についても学習します。			
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義でガイダンスします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業と学びの世界へ 教室の思い出・教室の風景	事前学習	良い学校とはどんな学校か書けるようにしてくる	
		事後学習	問題を共有している学校について考える	
第 2 回	変貌する教室 転換期の学校 21 世紀の教室	事前学習	pp. 21~24 を読んでくる	
		事後学習	PISA の結果と 21 世紀的な教育について復習する	
第 3 回	授業の様式 教えるという行為の二つの意味 模倣の様式と変容の様式	事前学習	pp. 44~46 を読んでくる	
		事後学習	日本の学校文化のこれからについて考える	
第 4 回	授業の歴史・・・フィンランド・欧米の例 近代以前の教育 「コメニウスの大教授学」一斉授業の成立 新教育による学校改革	事前学習	pp. 35~43 を読んでくる	
		事後学習	授業の中で見たフィンランドの授業や学校の様子と日本の授業や学校の違いをまとめて書き、自分の考えも述べる・提出	
第 5 回	授業の歴史・・・日本の例 近代学校と授業の成立 新教育の成立 戦後新教育	事前学習	pp. 75~85 を読んでくる	
		事後学習	今日までの教育の変遷についてまとめる	
第 6 回	学びの創造 行動主義の学びと認知主義の学び 活動主義の学び	事前学習	pp. 86~89 を読んでくる	
		事後学習	活動主義の学びの特色について考える	
第 7 回	協同的な学び 対話的实践 「協同」の意味 教室のコミュニケーション 互恵的な学び	事前学習	pp. 97~101 を読んでくる	
		事後学習	互恵的な学びの良さについてまとめる	
第 8 回	教室のジレンマ 教室の出来事 教室のジレンマ マネージングとコーピング	事前学習	配布プリントを読み、認知的な葛藤に線をひいてくる。	
		事後学習	マネージングとコーピングについて自分でまとめる	
第 9 回	授業のデザイン 授業の組織 授業の構造 学習指導案という道筋	事前学習	pp. 118~120 に図について周辺を読み、その違いや意味について考えてくる。	
		事後学習	課題プリントを分析し、展開例を作ってくる ・・・提出	
第 10 回	授業の評価 行動科学の方法 質的研究の方法 発問⇒発言	事前学習	自分の作った課題プリントについてその展開に関する意味づけをまとめて発表できるようにしてくる	
		事後学習	行動科学の方法 質的研究の方法で自分の作った授業を評価する	
第 11 回	授業の研究・・・分析の方法 見えないものを科学	事前学習	掛け算九九がわかるというのはどのような状態のこ	

2020年度

	する どの順番にどのような展開を考えるか		とか考えてくる(発表あり)
		事後学習	分析の方法を自分でできるようにする
第12回	授業の研究・言語と社会 脳という見えない思考過程を見えるものにする認知科学「課題の与え方」	事前学習	フランダースとベラックの方法をどちらか選び、説明できるようにする
		事後学習	認知科学を利用した授業のイメージをつかむ
第13回	カリキュラムと単元の構成 ナショナルカリキュラム 単元の様式 教科学習と総合学習①	事前学習	pp. 151~159 までを読んでくる
		事後学習	単元ということに関して考えを深める
第14回	カリキュラムと単元の構成 ナショナルカリキュラム 単元の様式 教科学習と総合学習②	事前学習	油性ネームペンを1本持ってくる
		事後学習	付箋紙による分析方法を覚え活用できるようにする
第15回	改革の展望 21世紀の学校論 IT時代 英語教育 道徳の教科化	事前学習	学校でのITを活用した授業のイメージを持ってくる
		事後学習	学校に求められる力とその方法について考えを持つ
期末試験 ミニテストのまとめと、記述による試験を行う			

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (初等・幼) (2単位)		3. 科目番号	SJMP2208
2. 授業担当教員	望月 之美			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	特に限定しませんが、教育学概論を受講していることが望ましい			
7. 講義概要	教育方法とは、一般的に、教授・学習の方法を意味しており、幼稚園を含む学校で行うすべての教育指導が含まれる。本科目では、教育方法の変遷、教育課程、授業の構造、教育の技術、教育評価などの基礎的事項について理解する。それらを踏まえて、幼児・児童の側に立った指導方法、教材の検討、地域の人材活用、コンピュータなどの情報機器を利用した教育方法等について学習する。さらに、今日の課題である幼・保・小の校種間の連携や、家庭との連携のあり方について考える。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の歴史の変遷を理解する。 2. 教育方法の理論と考え方を理解する。 3. 授業の概念や様式についての理解を深める。 4. 幼・保・小の連携や地域社会との連携のあり方について考え、自分の意見を言うことができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	学習前に教科書を読んでくれることが好ましい、最低限前時に配布した課題プリントはやってもらうこと。レポートについては、講義の中で説明を行うが夏季休暇の前に1000字程度、期末に1500字程度のレポートを提出してもらう予定です。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小田豊・榎沢良彦編『新しい時代の幼児教育』有斐閣アルマ 【参考書】 多田敏文著『教育の方法と技術』学芸図書株式会社			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育方法」に関する基礎的事項について概ね理解できたか。 2. 「教育方法」に対して、自分の考えや、疑問を持ち、討論などを通して深めることができたか。 ○評定方法 [日常の授業態度、提出物等を総合して評価する] <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業態度 (参加、実践、態度) 総合点の40% 2. 授業後の提出物・レポート・テストなど 総合点の60% 			
12. 受講生へのメッセージ	教育方法の歴史と理論を体系的に概観し、幼児教育の様々な方法とその意味についていっしょに考えましょう			
13. オフィスアワー	第1回目の講義の中でガイダンスします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーションー教育方法とは子どもの権利と幼児教育・小学校入門期教育	事前学習	シラバスを読んで、学修の概要を知る。	
		事後学習	「学び」について考えを整理する。	
第2回	西洋における教育思想と教育方法の歴史・カリキュラム研究の成立と展開	事前学習	教科書 pp. 1~20 を読んでくる	
		事後学習	コメニウス・フレーベル・ヘルバルト・デューイについてまとめ、構造的に覚える	
第3回	幼児教育の共同体を生かした学び合い。	事前学習	教科書 pp. 27~39 を読んでくる	
		事後学習	幼児にとっての共同体の意味と環境をまとめる。	
第4回	幼児教育の課題 現代の環境と幼児の育ち・道徳性の育成・生きる力の育成・多文化理解	事前学習	教科書 pp. 40~49 を読んでくる。	
		事後学習	現代の環境と幼児の育ち・道徳性の育成・生きる力の育成・多文化理解についてまとめる	
第5回	幼児の学び・発達と環境 幼児にとっての環境・学びと発達	事前学習	教科書 pp. 51~73 を読んでくる	
		事後学習	幼稚園教育要領を読み、「三つの資質と10の力についてまとめる。	
第6回	幼児の学び・発達と環境 環境と幼児の発達の姿・遊びを通しての学び・幼児期に必要な体験	事前学習	教科書 pp. 73~84 を読んでくる。	
		事後学習	幼児期に必要な体験についてまとめる	
第7回	幼児教育の方法① 与えられる「方法」と探りあてる「方法」	事前学習	教科書 pp.89~102 を読んでくる	
		事後学習	与えられる「方法」と探りあてる「方法」について具体的場面の適用をまとめる。	
第8回	幼児教育の方法②幼稚園教育要領に見る方法・遊びを通して指導するということ・子どもの主体性を生かすということ。	事前学習	教科書 pp. 116~137 を読んでくる	
		事後学習	子どもの主体性について考え、まとめる	
第9回	教育の道具・素材・環境を考える	事前学習	教科書 pp. 142~156 を読んでくる ハサミを持参すること	
		事後学習	体験活動の発達に合わせた提示と教師の言葉についてまとめる	

2020年度

第10回	教育実践を支える理解 教育実践と幼児理解・理解の内容・教える人の姿勢・実践研究	事前学習	教科書 pp.169~188 を読んでくる
		事後学習	幼児理解・理解の内容・教える人の姿勢についてまとめる
第11回	共同体づくりということ・幼稚園・保育所・認定子ども園の中でつけるべき資質	事前学習	教科書 pp.197~221 を読んでくる
		事後学習	幼稚園・保育所・認定子ども園の中でつけるべき資質についてその共通性とその後の初等教育への関連をつかむ
第12回	現代の保育内容・幼児期から児童期への教育	事前学習	配布物を読んでくる
		事後学習	具体的な授業づくりについてのプランニングをする
第13回	模擬授業の発表・協議	事前学習	学習成果を生かして5歳児での模擬授業について計画を作成して臨む
		事後学習	教材教具の活用と条件作りについて、まとめる。
第14回	模擬授業の発表・協議	事前学習	授業の評価の意義について、調べておく。
		事後学習	授業の構成要素について、自分の大切にしたいことを選びレポートを考える。
第15回	幼小連携ということ・子ども達の未来を考える授業のまとめ	事前学習	教科書 pp.222~238 を読んでくる
		事後学習	教育方法論で得た学びを整理する。

1. 科目名(単位数)	教職実践演習(小学校) (2単位)	3. 科目番号	SJTC4576
2. 授業担当教員	安次嶺 隆幸		
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい		
7. 講義概要	<p>教職実践演習(小学校)は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを期待して実施される科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>① 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。</p> <p>② 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。</p> <p>③ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。</p> <p>④ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	★ノート指定 ツバメノートA4品番A5008 JAN:4968796311105 一冊を準備しておくこと。毎回これを出席、課題レポートに使用します。毎回プリント課題を配布しますので、このノートに貼り、授業後に提出します。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>「礼儀でまとめる学級づくり」(東洋館出版) 安次嶺隆幸著、「一瞬で授業に引き込むプロの技」(学陽書房) 安次嶺隆幸著、「世界一の授業をつくる100の格言」(明治図書出版) 安次嶺隆幸著</p> <p>参考書:「1年生のクラスをまとめる51のコツ」(東洋館出版) 安次嶺隆幸著、「2年生のクラスをまとめる51のコツ」(東洋館出版) 安次嶺隆幸著</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学習目標の実現度において評価する。</p> <p>○評定の方法 日々の授業態度、参加度 30% レポート課題 40% 日常の学習状況 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>★プロの教師を目指そう!</p> <p>この授業を受けることによって、受講者は、次の3点ができるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の学校現場の問題点を理解し、教職として生きる自分の夢を実現する基本姿勢を養うことができる。 ・教師として、児童理解、指導、学級づくり&授業づくりの理論と方法を理解し、実践することができる。 ・現場に教職として就いた時、問題解決ができる様々な方法を学びとることができる。 <p>また、この授業では、教職を目指す人材を育成します。第1単元:授業づくり理論と方法、第2単元:学級づくり理論と方法、第3単元:児童・生徒指導の理論と方法、第4単元:教職の実務、第5単元:教職への道という5つの単元で構成されています。各単元は、模擬授業形式で行い、基本レクチャー→グループディスカッション→発表→課題提示→次回への展望、というサイクルになっています。講義のまとめとして、自分格言を発表します。</p> <p>★授業の約束</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 座席は指定とする。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源は切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。(遅れた場合は減点です) 5 予習をするとともに、教育に関連する図書や新聞記事に関心を持ち読むこと。 6 教員を目指す大学生としての自覚と覚悟をもち、その品位を保つこと。 <p>★メッセージ</p> <p>授業は、導入がとても大切です。子ども達の眼をしっかりとこちらに引きつけるプロの教師を目指しましょう!私が教職33年間で培った技術、想いを授業でお伝えします。皆さんが教壇に立たれる為に、今何をすべきか、どう生きるか、子どもをどう観るか、伝授します。教職はとても素晴らしい場所です。プロの教師になりましょう!</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<p>教員・受講者の自己紹介、授業の進め方、シラバスの説明</p> <p>第1単元:授業づくり理論と方法</p> <p>◆授業でわかるプロの指導技術!</p> <p>・ハイダーの人間関係理論と学級~教室の入った瞬間に授業の空気をつくる~</p>	事前学習	教科書「世界一の授業をつくる100の格言」1~20を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第2回	<p>第1単元:授業づくり理論と方法</p> <p>◆授業でわかるプロの指導技術!</p> <p>・子どもの視線・空気づくり理論~授業導入の工夫で子どもを集中させる</p>	事前学習	教科書「世界一の授業をつくる100の格言」21~40を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第3回	<p>第1単元:授業づくり理論と方法</p> <p>◆授業でわかるプロの指導技術!</p> <p>・導入&まとめ理論~クラス全員でつくりあげる授業の工夫</p>	事前学習	教科書「世界一の授業をつくる100の格言」41~60を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。

第4回	第2単元：学級づくり理論と方法 ◆子どもの姿でわかるプロの指導！ ・教室環境理論と実際～子どもが足音をたてていない	事前学習	教科書「世界一の授業をつくる100の格言」61～80を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第5回	第2単元：学級づくり理論と方法 ◆子どもの姿でわかるプロの指導！ ・学級環境の底辺～テストの間違えを消していない	事前学習	教科書「世界一の授業をつくる100の格言」81～100を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第6回	第2単元：学級づくり理論と方法 ◆子どもの姿でわかるプロの指導！ ・余韻授業理論で学級が動く～子どもが授業のまとめをしている	事前学習	教科書「一瞬で授業に引き込むプロの技」序章～第1章を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第7回	第3単元：児童・生徒指導の理論と方法◆保護者対応でわかるプロの対処術！ ・保護者会理論と実際～「おまかせください」で心をつかむ	事前学習	教科書「一瞬で授業に引き込むプロの技」第2章～第3章を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第8回	第3単元：児童・生徒指導の理論と方法◆保護者対応でわかるプロの対処術！ ・参観日理論と実際～家庭へのメッセージを子どもにわたす	事前学習	教科書「一瞬で授業に引き込むプロの技」第4章～最後まで読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第9回	第3単元：児童・生徒指導の理論と方法◆保護者対応でわかるプロの対処術！ ・児童・生徒指導の実際と方法～教育観をうまく伝え協力体制つくる	事前学習	教科書「礼儀でまとめる学級づくり」序章～第1章を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第10回	第4単元：教職の実務◆時間のつかい方でわかるプロの仕事術！ ・教職の実際と工夫～採点は細切れ時間に問題別でする	事前学習	教科書「礼儀でまとめる学級づくり」第2章～第3章を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第11回	第4単元：教職の実務◆時間のつかい方でわかるプロの仕事術！ ・教師の時間管理法～仕事の始めと終わりを決める	事前学習	教科書「礼儀でまとめる学級づくり」第4章～第5章を読んでくる。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第12回	第4単元：教職の実務◆時間のつかい方でわかるプロの仕事術！ ・教職の学び～わからないことに時間をかけない	事前学習	自分の格言を書いて、プレゼン出来るようにしておく1。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第13回	第5単元：教職への道◆教師力を常にアップするプロの上達法！ ・プロ教師への道①～朝一番で教室のぞうきんがけをする	事前学習	自分の格言を書いて、プレゼン出来るようにしておく2。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第14回	第5単元：教職への道◆教師力を常にアップするプロの上達法！ ・プロ教師への道②～「世界一のクラス」を目標にする	事前学習	自分の格言を書いて、プレゼン出来るようにしておく3。
		事後学習	ノートに自分格言を書いてみる。
第15回	第5単元：教職への道◆教師力を常にアップするプロの上達法！ ・プロ教師への道③～新しいことに興味を示し実践する	事前学習	自分が教職についた時に、どんな教師になりたいかを書いて、プレゼン出来るようにしておく。
		事後学習	15回のまとめ。教師の道について自分の夢を描く。

1. 科目名(単位数)	教職実践演習(小学校) (2単位)		3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	加藤 敏明			
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい。			
7. 講義概要	<p>教職実践演習(小学校)は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを期待して実施される科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>④ 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。</p> <p>⑤ 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。</p> <p>⑥ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方に関する事項の再確認をする。</p> <p>④ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>			
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1: 学級経営案を作成し提出する。</p> <p>課題2: 学級の中に、障害(LD, ADHD, 身体障害者等)のある児童がいた場合の対応について、1つ例を挙げて自分の考えを1,000字以内で記述せよ。</p> <p>課題3: 保護者が、自分の子どもがクラスでいじめられていると訴えてきたときの対応について、自分の考えを1,000字以内で記述せよ。</p> <p>課題4: 学級通信を作成する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】教科書は使用しない。</p> <p>【参考書】『小学校学習指導要領解説 総則編』2018年。</p> <p>梨木昭平著『教職実践演習 ロールプレイ・ロールレタリング対応』大学教育出版、2013年。</p> <p>梨木昭平著『最新教職概論 生徒指導論 教職実践演習対応』大学教育出版、2015年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>学習目標の実現度において評価する。</p> <p>○評定の方法</p> <p>日々の授業態度、参加度 30%</p> <p>レポート課題 40%</p> <p>日常の学習状況 30%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>○受講生に期待すること</p> <p>1. 授業中は真剣に取り組む、分からないところは質問すること。</p> <p>2. 授業中は、他人に迷惑をかけないよう、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。</p> <p>3. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得すること。</p> <p>4. レポートや副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。</p> <p>5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは理由を書面にて提出すること。</p>			
13. オフィスアワー	第1回目の時に知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。教育実習や指導法の授業を受けてきて、教師になったときの不安について発表する。	事前学習	教師になったときの不安について自分の考えを持っておく。	
		事後学習	新学習指導要領解説総則編を読んでおく。	
第2回	新学期を迎え、クラスの座席・係・当番等の決定について留意することを学習する。 課題1: 学級経営案の見本を見て作成する。	事前学習	座席・係・当番等のように決めるか自分の考えを持っておく。	
		事後学習	教室環境を考えた学級経営案を考えておく。	
第3回	学級経営案の書き方を学習する。 学級経営案の提出。(各自の経営案をグループで討論し、発表する)	事前学習	各自の学級経営案を作成する。	
		事後学習	授業後に、学級経営案を修正しておく。	
第4回	組織の一員としての報告・連絡・相談の在り方について、事例として学習する。	事前学習	保護者との対応について自分の考えを持っておく。	
		事後学習	報告・連絡・相談の在り方をまとめておく。	
第5回	家庭訪問・保護者会の持ち方について学習する。 担任としての学校経営方針について、グループで討論し発表する。 課題2: クラスに障害者がいるときの対応について、1つ事例を挙げて1,000字以内にまとめる。	事前学習	家庭訪問や保護者会の持ち方を考えておく。	
		事後学習	課題2のレポートの事例を考えておく。	
第6回	クラスに障害者がいるときの対応について学習する。 提出されたレポートの事例ごとにグループを作り、討論し発表する。(事例研究)	事前学習	自分の考えた事例のレポートを作成する。	
		事後学習	レポートを修正しておく。	
第7回	事例研究(わがままで教師の言うことを聞かない児童の対応)を通して、グループで討論し発表をする。	事前学習	個々の児童の対応について考えておく。	
		事後学習	個に応じた指導の在り方をまとめておく。	
第8回	事例研究(不登校児童に対する対応)を通して、グループで討論し発表をする。	事前学習	教師や専門家との連携を考えておく。	
		事後学習	児童の実態や保護者の願いもまとめておく。	

2020年度

第9回	ロールプレイ（いじめへの対応）を通して、グループで討論し発表をする。	事前学習	組織人としての対応を考えておく。
		事後学習	各自、いじめの対応をまとめておく。
第10回	ロールプレイ（いじめられている子の保護者の訴えに対する対応）を通して、グループで討論し発表する。 課題3：保護者が、子どもがいじめられていると訴えてきたときの対応について、1,000字以内に自分の考えをまとめる。	事前学習	いじめられている子の保護者への対応をまとめておく。
		事後学習	課題3のレポートについて、自分の考えをまとめておく。
第11回	個に応じた指導のあり方について、事例ごとにグループで討論し発表する。 課題3を提出する。	事前学習	課題3のレポートを作る。
		事後学習	組織としての取り組みを考える。
第12回	子どもの力を引き出す手立てと児童理解を学習する。 （学級活動の事例を通してグループで討論し発表する）	事前学習	まとまりのある学級作りを考えておく。
		事後学習	色々な事例を考えておく。
第13回	指導力を高める教材研究の仕方について学習する。 （児童の実態把握と個に応じた指導の在り方について、討論し発表する）	事前学習	児童の実態把握の仕方を考えておく。
		事後学習	学習の遅れている児童の対応について考えておく。
第14回	学年会・職員会議・校務分掌での組織人としての協力について討論し発表する。 課題4：学級通信を作成する。	事前学習	校務分掌での提案の仕方を考えておく。
		事後学習	会議での提案の仕方をまとめておくとともに、学級通信の内容を考えておく。
第15回	教師に求められる資質について、討論し発表する。 自己の教育指導の考え方について討論し発表する。 課題4を提出する。	事前学習	教師の資質について考えてくるとともに、学級通信を作成する。
		事後学習	各自で目指す教師像を考えておく。

1. 科目名(単位数)	教職実践演習(小学校) (2単位)	3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	古俣 龍一		
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	小学校教員資格に関わる全ての授業を既習していることが望ましい		
7. 講義概要	<p>教職実践演習(小学校)は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを期待して実施される科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>⑦ 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。 ⑧ 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。 ⑨ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。 ④ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>・教科指導等の内容、生活指導に関する諸課題、学級経営に関する留意点等にかかわる講義に関して、指示のあった課題についてレポートを提出する。締切日は厳守すること。</p> <p>・模擬授業については、指導案の作成および振り返りをし、レポートとして提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社(現行および新解説書)</p> <p>・その他の資料は必要に応じて適宜準備する</p> <p>【参考書】</p> <p>・古俣龍一『トラベジウム』佳文社(適宜資料は配布)</p> <p>・各自の「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」(第1回目の授業の際に回収する)</p> <p>・必要に応じて適宜提示する</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>学習目標の実現度において評価する。</p> <p>○評定の方法</p> <p>日々の授業態度、参加度 30%</p> <p>レポート課題 40%</p> <p>日常の学習状況 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業はこれから教育現場へ赴くみなさんに対して、教員として必要となる資質を身につけるにはどのようなことが重要なかを学習します。おもな学習目標は以下の項目に示します。みなさんはこれらの目標を達成することが目的となります。</p> <p>①職務に対して使命感や責任感をもち、児童に対する愛情を豊かにもち続けるには</p> <p>②教科や領域などの指導力に関して実践力を身につけるには</p> <p>③社会性や対人関係能力に関する資質を身につけるには</p> <p>④児童理解や学級経営などに関する基礎的な能力を身につけるには</p> <p>⑤学校組織の一員として有用な力を発揮できるような能力を身につけるには</p> <p>これらの学習目標を達成するために事例検討やディスカッション、ロールプレイなどを通してみなさんで学び合い、即戦力としての力を身につけていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	・オリエンテーション時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	○オリエンテーション(講義・ディスカッション) ・本授業の内容と流れの確認 ・「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」から各自の成果と課題を明確にし、課題解決のために何を行うかを発表する	事前学習	本授業のシラバスの確認 教職履修カルテと教育実習日誌の通読と自己課題の把握
		事後学習	自己課題解決のための今後の取り組みのまとめ
第2回	○教育実習における課題(講義・ディスカッション) ・各自の課題についての発表とその解決に向けてのディスカッション	事前学習	教育実習における成果と課題の確認
		事後学習	教育実習での成果と課題の再確認および今後の展望
第3回	○学習指導要領の変遷および現行の学習指導要領について(講義・ディスカッション) ・「新学力観」の考え方 ディスカッション	事前学習	現行の学習指導要領のポイントの把握
		事後学習	学習指導要領の変遷と現行の学習指導要領における重要点の理解
第4回	○学級指導の実際1(講義・ディスカッション) ・学校、学年経営案の提示および学級経営案の書き方演習	事前学習	学級経営にかかわる留意点の把握
		事後学習	校務分掌の理解と組織の一員としての自覚およびその中での学級経営の実際についての理解
第5回	○学級指導の実際2(講義・ディスカッション) ・事例1 トラベジウム ディスカッション	事前学習	pp. 67-68, pp. 246-248 および関連したページの講読
		事後学習	個に応じた指導の重要性への理解
第6回	○学級指導の実際3(講義・ディスカッション) ・事例2 トラベジウム ディスカッション	事前学習	pp. 111-112 および関連したページの講読
		事後学習	具体的な学級経営の実際例の理解とその応用の構想

2020年度

第7回	○第1回ディベートオリエンテーション	事前学習	1回目となるディベートのテーマを考える
		事後学習	決定したテーマについての考えをまとめる
第8回	○第1回ディベート大会	事前学習	自分の立場と関連する意見をまとめる
		事後学習	第1回目のディベートを振り返り、2回目に向けて準備する
第9回	○子供の力を引き出す教師2(講義・ディスカッション) ・現場教師もしくは指導主事等による実践報告・意見交換	事前学習	「学習指導要領解説」総則編の指導計画作成の配慮事項を読み直す
		事後学習	先輩教師の実践やアドバイスを元に自己課題をまとめる
第10回	○指導力を高めるための教材研究と授業のあり方 ・学習指導案の書き方の確認 演習・ディスカッション	事前学習	学習指導案の作成の再確認
		事後学習	指定された形式での学習指導案の作成、模擬授業の準備
第11回	○代表者による模擬授業1 ・振り返り グループディスカッションと発表	事前学習	模擬授業に向けての諸準備
		事後学習	模擬授業における指摘箇所の確認と今後に向けてのまとめ
第12回	○代表者による模擬授業2 ・振り返り グループディスカッションと発表	事前学習	模擬授業に向けての諸準備
		事後学習	模擬授業における指摘箇所の確認と今後に向けてのまとめ
第13回	○第2回ディベートオリエンテーション	事前学習	2回目となるディベートのテーマを考える
		事後学習	決定したテーマについての考えをまとめる
第14回	○第2回ディベート大会	事前学習	自分の立場と関連する意見をまとめる
		事後学習	第2回目のディベートを振り返る
第15回	○本授業の振り返りとまとめ ・履修カルテを見ながら4年間を振り返る ・まとめのレポート 発表およびディスカッション	事前学習	「教育実践演習」を通しての成果と課題の整理
		事後学習	教員としての力量向上のための自己課題の整理と教師に向けての意志確認

1. 科目名(単位数)	教職実践演習(小学校) (2単位)		3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	沼澤 清一			
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい。			
7. 講義概要	<p>教職実践演習(小学校)は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを期待して実施される科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>⑩ 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。 ⑪ 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関する事項の再確認をする。 ⑫ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。 ④ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>【課題レポート】</p> <p>・次の1～3を課題レポートとする。</p> <p>課題1：学級経営案を作成し提出する。</p> <p>課題2：事例研究①～③の後、講義内容に関連した1つの事例をあげて自分の考えを1000字以内で記述し提出する。</p> <p>課題3：研究授業での指導案(本時)と修正指導案(本時)、修正における学び(600字以内で記述)を提出する。</p> <p>【振り返りシート】「日常の学習状況」に加味する。</p> <p>指定された講義の終了後、講義によって何が解決され、何が解決されなかったのか、また、自分自身はどのような考えを持ったのかなどについてまとめ、講義終了の3日後までに提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】教科書は使用しない。</p> <p>【参考書】文部科学省編『学習指導要領解説 総則編』2018年</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>学習目標の実現度において評価する。</p> <p>○評定の方法</p> <p>日々の授業態度、参加度 30%</p> <p>レポート課題 40%</p> <p>日常の学習状況 30%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>今、大きく変わろうとしている教育界。新学習指導要領の根底には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善があり、特に、探究を中心とした総合的な学習の時間の位置づけがあります。「主体的」「対話的」が求められる授業改善を行うには、まず、教師となる皆さんがそうした姿勢、そうした学びの楽しさを実感していなければなりません。そこから生まれる「深い学び」を楽しみましょう。</p> <p>子どもの前で、「失敗していいよ」「失敗から学ぶんだよ」と言える教師になるために、講義は、自分から「失敗を超えて学ぶ姿勢」で取り組んでください。</p>			
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ・本講義の内容と流れの確認 教職履修カルテと教育実習日誌から各自の成果と課題を明確にし、課題解決のために何を行うかを発表する。	事前学習	本授業のシラバスの確認 教職履修カルテと教育実習日誌の通読と自己課題の把握をしておく	
		事後学習	自己課題解決のための今後の取り組みをまとめる	
第2回	新旧学習指導要領の考え方 比較を通して新旧学習指導要領の要点をまとめ、新学力観に基づく指導方法を学ぶ。	事前学習	事前に配布された「新旧学習指導要領の比較」をもとに、今必要とされている学力観について考えておく。	
		事後学習	新旧学習指導要領における重要点をまとめる。	
第3回	学級担任としての願い・学級目標 「学級担任となったら何をしたいか」について発表する。 活動を導き、認め合う場の設定について事例から学ぶ。	事前学習	「学級担任となったら何をしたいか」について考えてくる。	
		事後学習	教師の願いをどのように表現し伝えていくかを具体的な活動で考え、まとめる。	
第4回	学級経営案の作成 学校経営案・学年経営案の提示を受け、学級経営案の書き方を演習する。	事前学習	学級目標(教師の願い)を短い言葉でまとめたものを作成してくる。	
		事後学習	学級経営案を修正し、提出する。	
第5回	家庭訪問・保護者会の持ち方 担任として何をするか・何をしないかについて、グループ討論後、発表する。	事前学習	家庭訪問・保護者会において教師が注意すべきことについて考えてくる。	
		事後学習	家庭訪問・保護者会の持ち方についてまとめておく。	
第6回	保護者との関わり方 共に子どもの成長を見守る保護者との関わり方について、グループ討論後、発表する。	事前学習	保護者会などの行事以外での保護者との関わりについて考えてくる。	
		事後学習	保護者とのどのように協力していくか、その具体的な方法についてまとめる。	

2020年度

第7回	子どもの姿から学ぶ① 給食・清掃・休み時間・居残り学習の指導のあり方と教師の立ち位置について考える。	事前学習	授業時間以外で、子どもが楽しいと思う時間・嫌だと思いう時間についてまとめる。
		事後学習	教科外の時間の指導について、具体的な方法をあげてまとめる。
第8回	子どもの姿から学ぶ② 朝の会・帰りの会の映像を見て、いくつかの視点を設定した後、グループ討論を行い、その意義について検討する。	事前学習	自分が児童として行った朝の会・帰りの会の活動を振り返り、その意義について教師の視点で考えてくる。
		事後学習	毎日の何気ない活動時間を、教師が目的意識を持つことによって有効な時間に変えていくことを通して、教師の視点から子どもの一日の学校生活を捉え直していく。
第9回	事例研究① わがままで教師の言うことを聞かない児童への対応を、グループ討論後、発表する。	事前学習	事前に配布された資料をもとに対応の仕方を考えておく。
		事後学習	個に応じた対応の仕方についてまとめる。
第10回	事例研究② クラスに障がいを持つ子がいるときの対応について、グループ討論後、発表する。	事前学習	事前に配布された資料をもとに対応の仕方を考えておく。
		事後学習	個に応じた対応の仕方についてまとめる。
第11回	事例研究③ 親子の絆をもとにした「いじめ防止の授業」の実践記録を参考に、いじめ防止の対応方法について考える。	事前学習	自分の経験を振り返りながら、いじめの防止についての指導法について考えてくる。
		事後学習	保護者と共に集団意識を築く指導法について、個別指導との比較を通してまとめる。
第12回	指導・実践力を高める教材研究のあり方① ・学習指導案の書き方の確認 ・中心発問と板書の意義の再考	事前学習	研究授業の指導案を振り返る。
		事後学習	指導案の書き方について、自分の作成したものをもとに再考する。
第13回	指導・実践力を高める教材研究のあり方② 教材解釈・授業構成・中心発問・板書計画の4つの視点から研究授業の指導案をディスカッションを通して再考・修正する。	事前学習	自分の作成した指導案の修正箇所を考える。
		事後学習	ディスカッションを通して、指導案の書き方を再考し、自分の指導案を修正する。
第14回	指導・実践力を高める教材研究のあり方③ 研究授業での指導案と修正した指導案を提示して、その意図を発表する。	事前学習	修正指導案を作成し、発表の準備をする。
		事後学習	発表での意見を参考に、修正指導案をまとめる。
第15回	教師に求められる資質について、討論し発表する。 本授業の振り返りとまとめ	事前学習	講義を振り返り、教師に求められる資質について考えてくる。
		事後学習	各自で、目指す教師像を考えておく。

1. 科目名(単位数)	教職実践演習(小学校) (2単位)	3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	深沢 和彦	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する		
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>教職実践演習(小学校)は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを期待して実施される科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>⑬ 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。</p> <p>⑭ 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。</p> <p>⑮ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。</p> <p>⑯ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>・課題Ⅰ(レポート) 教育実習の成果と課題について1600字A4で1枚にまとめる。</p> <p>・課題Ⅱ(構成的グループエンカウンターの実践) 2人ずつ担当を決め、授業の初めに構成的グループエンカウンター(SGE)のリーダーを担当し、エクササイズの実行を行う。</p> <p>・課題Ⅲ(教師の話) 各回の担当を決め、各自が選定した資料(新聞記事、写真、映像、絵本)を使って、児童に向けた15分程度の話をし、</p> <p>・課題Ⅳ(レポート) 「学級内の気になる生徒の対応について」 *教科・科目を例示してその対応について1600字A4で1枚にまとめる</p> <p>・課題Ⅴ(修了レポート) 「学級経営案の作成」 *様式に従いA4で1枚にまとめる ※レポートの提出期限はその都度指示する</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 河村茂雄編著、深沢和彦、浅川早苗、藤原和政、川俣理恵『イラスト版教師のためのソーシャルスキルトレーニング』合同出版、2013年 配布資料を整理し蓄積するファイルを準備すること <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自の「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」 構成的グループエンカウンター事典、國分康孝・國分久子、図書文化2004年 その他、必要に応じて紹介する。 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学習目標の実現度において評価する。</p> <p>○評定の方法 日々の授業態度、参加度 30% レポート課題 40% 日常の学習状況 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>大学生活を締めくくることが自覚して取り組むこと。教育実習での貴重な体験をそれぞれに振り返り、その成果(成功や失敗)を全体のものとするのがこの授業です。皆さんの教育実習での体験に磨きをかけ、体験を共有し、英知を出し合い、課題を克服することによって、一人ひとりの学生が教員になることの現実性・可能性が増し、教職そのものを改めて考える機会となることを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	第1回の授業時に説明する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(教員・受講者の自己紹介、授業の進め方、シラバスの説明、グループ編成) ・構成的グループエンカウンター(SGE)の理論と実際 ・子どもたちと良好な関係をつくるには①	事前学習	教科書第1章「子どもたちと良好な関係をつくる」1～5までを読んでくる
		事後学習	SGE及び子どもたちとの二者関係づくりについてまとめる
第2回	教育実習の成果と課題 ・SGEの実践・教師の話の実践① ・子どもたちと良好な関係をつくるには② ・今後教師に求められる資質・能力とは	事前学習	教科書第1章「子どもたちと良好な関係をつくる」6～10までを読んでくる。
		事後学習	教育実習の成果と課題をレポートにまとめ、提出する。 *レポートⅠの作成をして指示された期限までに提出する
第3回	事例研究① ・いじめに関する事例 ・SGEの実践・教師の話の実践②	事前学習	教科書第2章「子どもたちから信頼を得る」1～5までを読んでくる。
		事後学習	いじめ対応の仕方について整理しておく。

	・子どもたちから信頼を得る①		
第4回	事例研究② ・学級崩壊に関する事例 ・SGEの実践・教師の話の実践③ ・子どもたちから信頼を得る②	事前学習	教科書第2章「子どもたちから信頼を得る6～10までを読んでくる。
		事後学習	予防開発的な集団育成についてまとめておく。
第5回	事例研究③ ・不登校に関する事例 ・子どもたちにクラスのルールを定着・共有化させる① ・SGEの実践・教師の話の実践④	事前学習	教科書第3章「子どもたちにクラスのルールを定着・共有化させる」1～5までを読んでくる。
		事後学習	不登校児童への対応についてまとめておく。
第6回	事例研究④ ・保護者対応に関する事例 ・子どもたちにクラスのルールを定着・共有化させる② ・SGEの実践・教師の話の実践⑤	事前学習	教科書第3章「子どもたちにクラスのルールを定着・共有化させる」6～10までを読んでくる。
		事後学習	保護者対応について学んだことをまとめ
第7回	事例研究⑤ ・問題行動を繰り返す児童の対応についての事例 ・子どもたち同士の関係づくりをサポートする① ・SGEの実践・教師の話の実践⑥	事前学習	教科書第4章「子どもたち同士の関係づくりをサポートする」1～5までを読んでくる。
		事後学習	虐待や問題行動について学んだことをまとめておく。
第8回	事例研究⑥ ・通常学級における特別な支援を必要とする児童への対応について ・子どもたち同士の関係づくりをサポートする② ・SGEの実践・教師の話の実践⑦	事前学習	教科書第4章「子どもたち同士の関係づくりをサポートする」6～10までを読んでくる
		事後学習	通常学級でのインクルーシブ教育のポイントをまとめる。気になる児童の対応について考え、レポートを作成する。 *レポートIVの作成をして指示された期限までに提出する
第9回	学級経営に関する理論① ・学級集団アセスメントQUについて ・SGEの実践・教師の話の実践⑧	事前学習	事前に配付した学級づくりに関する資料について、読んでおく。
		事後学習	学級集団づくりの理論にてまとめ、整理しておく
第10回	学級経営に関する理論② ・QUの分析と活用について ・SGEの実践・教師の話の実践⑨	事前学習	事前に配付した学級づくりに関する資料について、読んでおく。
		事後学習	学級集団アセスメントの分析と活用についてまとめておく。
第11回	SGE実践の実際 ・DVD「鹿島真弓の仕事」視聴 ・子どもたちを注意叱責する時①	事前学習	教科書第5章「子どもたちを注意叱責する時」1～5までを読んでくる。
		事後学習	SGEの現場での実践について、視聴の感想をまとめておく。
第12回	学級経営の実際 ・DVD「菊池省三の仕事」視聴 ・子どもたちを注意叱責する時②	事前学習	教科書第5章「子どもたちを注意叱責する時」6～10までを読んでくる。
		事後学習	学級経営に関する現場実践について、視聴の感想をまとめておく。
第13回	学級経営案の作成 ・どんな学級をつくるか ・学級経営案の書き方	事前学習	これまで学んできた内容をもとに、どんな学級をつくりたいのか自分の考えを準備しておく。
		事後学習	学級経営案を仕上げ、レポートを作成する。 *レポートVの作成をして指示された期限までに提出する。
第14回	学級経営案の発表① ・教師に求められる資質・能力 ・自己の教育指導観 ・自己のめざす教師像	事前学習	作成した学級経営案をもとに、自己がめざす教師像について発表できるようにしておく。
		事後学習	他者の考えを聞き、よいと思ったところを整理しておく
第15回	学級経営案の発表② ・教師に求められる資質・能力 ・自己の教育指導観 ・自己のめざす教師像 ・授業の総括	事前学習	作成した学級経営案をもとに、自己がめざす教師像について発表できるようにしておく。
		事後学習	他者の考えを聞き、よいと思ったところを整理しておく。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (中学・高校) (2単位)	3. 科目番号	EDTS4393
2. 授業担当教員	深沢 和彦	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、模擬授業など		
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい		
7. 講義概要	<p>大学でこれまで学んできた理論や学習知と教育実習等で獲得してきた実践知との関連や統合を図る。特に、教育実習成果・課題を踏まえて、生徒の実態に即した授業設計の在り方、教材の準備など、作業や演習をする。具体的には</p> <p>①これまでの講義や実習で積み重ねた「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」、および資料等を基に、教員として必要な資質・能力に関する自己課題を明確にする。</p> <p>②教育実習の体験を基に、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。</p> <p>③教育に対する使命感、責任感、生徒・保護者とのコミュニケーションやよい授業を実施するための様々な準備について、実践的に学ぶ。</p> <p>更に、生徒への指導場面で、生徒理解や個に応じること、生徒の多様性に対応することなど実習で、実感した現場の実態と教員が配慮していること、身に付けたい能力などについて深める。</p> <p>また、学校という職場で組織の一員として働くことと、一人の教員として自己実現を図ることを仕事の仕方として掘り下げ、学校の教員として働くことの現実性を増し、実践力を高める。</p>		
8. 学習目標	<p>中学校、高等学校の教員として必要な基礎的資質・能力の形成に関して、以下の4項目をテーマおよび到達目標とする。</p> <p>① 職務に対して使命感や責任感を持ち、生徒に対する愛情が豊かであること。</p> <p>② 学校で働く組織人として、社会性や対人関係能力が適切であること。</p> <p>③ 生徒理解や学級経営等に関する基礎的な能力が身につけていること。</p> <p>④ 教科内容等の実践的な指導力が習得されていること。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題Ⅰ (レポート) 「教育実習の成果と課題について」 *1600字A4で1枚にまとめる ・課題Ⅱ (模擬授業の実践) 数名のグループで1つ模擬授業の実践を行い、授業後の検討会を行う ・課題Ⅲ (指導案の改善) 教育実習で自分が行った研究授業の指導案の改善点を整理し、改善点を反映させた指導案を提出する。 *改善点をA4で1枚にまとめたものに、改善した指導案を添付する。 ・課題Ⅳ (レポート) 「学級内の気になる生徒の対応について」 *教科・科目を例示してその対応について1600字A4で1枚にまとめる <p>※レポートの提出期限はその都度指示する</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配布する。 ・配布された資料を整理、蓄積しておくファイルを準備すること。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」 ・その他、必要に応じて紹介する。 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職務に対する使命感や責任感を自覚することができたか。 ・教員として必要な社会性や対人関係能力を身につけることができたか。 ・生徒理解や学級経営等に関する基礎的な知識・能力を身につけることができたか。 ・教科内容等の実践的な指導力を習得したか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題 (中間レポート・学習指導案等) 30% ・期末評価 (レポート・試験等) 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>大学生活を締めくくることが自覚して取り組むこと。教育実習での貴重な体験をそれぞれに振り返り、その成果(成功や失敗)を全体のものとするのがこの授業です。皆さんの教育実習での体験に磨きをかけ、体験を共有し、英知を出し合い、課題を克服することによって、一人ひとりの学生が教員になることの現実性・可能性が増し、教職そのものを改めて考える機会となることを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	初回講義時に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (本演習のねらいと内容・方法・グループ決め) 「教職履修カルテ」「教育実習日誌」を基に、各自の課題を明確にし、課題解決の見通しを立てる。	事前学習	教職履修カルテ「教育実習日誌」を通読して授業に臨む。その際、教育実習時のよかった点や反省点について考える。
		事後学習	教育実習の課題を整理する。 *レポート課題Ⅰの作成をして指示された期限までに提出する。
第2回	グループワーク① (教育実習での課題解決の方法の討議)	事前学習	作成したレポートの教科指導の課題点について考え、箇条書きで書き出す。

2020年度

	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導について ・生徒指導について 	事後学習	教育の現場における自らの諸課題をまとめる。
第3回	事例研究① ・いじめへの対応について	事前学習	事前に配布したいじめに関する資料を読んでおく。
		事後学習	いじめを防止する方法、組織や体制づくりについてまとめる。
第4回	事例研究② ・不登校生徒の対応について	事前学習	事前に配布した不登校に関する資料を読んでおく。
		事後学習	不登校の生徒への対応についてまとめる。
第5回	事例研究③ ・問題行動を繰り返す生徒の対応について	事前学習	事前に配布した問題行動に関する資料を読んでおく。
		事後学習	非行や暴力などの問題行動への対応についてまとめる。
第6回	やる気を引き出す授業づくり ・授業映像を見て討議 ・よい授業とは	事前学習	教育実習の経験からよい授業の要件を簡単にまとめ準備する。
		事後学習	・良い授業の条件についてまとめる。
第7回	模擬授業の指導案づくり) ・新学習指導要領が求める学力観について	事前学習	事前に配付した資料「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」を読んでおく。
		事後学習	新しい学力観に基づく授業の在り方についてまとめる。
第8回	模擬授業① ・授業と授業後検討会	事前学習	グループごとに授業準備をして模擬授業に臨む。
		事後学習	授業後の成果と課題をまとめる。
第9回	模擬授業② ・授業と授業後検討会	事前学習	グループごとに授業準備をして模擬授業に臨む。
		事後学習	授業後の成果と課題をまとめる。
第10回	模擬授業③ ・授業と授業後検討会	事前学習	グループごとに授業準備をして模擬授業に臨む。
		事後学習	授業後の成果と課題をまとめる。 *レポート課題Ⅲの作成をして指示された期限までに提出する。
第11回	中学校現場の実際① ・映像を見て討議	事前学習	事前に配布した資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議後の自分の考えをまとめる。
第12回	中学校現場の実際② ・映像を見て討議	事前学習	事前に配布した資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議後の自分の考えをまとめる。
第13回	中学校現場の実際③ ・映像を見て討議	事前学習	事前に配布した資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議後の自分の考えをまとめる。
第14回	インクルーシブ教育 ・通常学級における特別な支援を必要とする生徒への対応について	事前学習	事前に配布した通常学級における特別な支援を必要とする生徒に関する資料を読んでおく。
		事後学習	通常学級でのインクルーシブ教育のポイントをまとめる。*レポート課題Ⅳの作成をして指示された期限までに提出する。
第15回	まとめの発表 ・教師に求められる資質・能力 ・自己の教育指導観 ・自己のめざす教師像	事前学習	自己がめざす教師像について発表できるようにしておく。
		事後学習	他者の考えを聞き、よいと思ったところを整理しておく。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (養護) (2単位)		3. 科目番号	EDHE4395
2. 授業担当教員	八重樫 節子			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい			
7. 講義概要	<p>養護実習の振り返り、実習日誌を基に自分の課題を明確にし、近年の子ども達の抱える健康課題を自主的にテーマ設定し、課題発表をする。発表から見える子どもの健康課題から実際の実習中の子どもの捉え方を検討し、養護教諭としての実践的な関わりについて理解を深める。</p> <p>この学習を通して、社会性や対人関係、コミュニケーション、コーティネットの能力を培い、養護教諭としての意識や使命感を高めるとともに、保健教育教材研究において実習中実施した保健指導、保健学習の指導案について、現場での指導講評を踏まえディスカッションを取り入れ、指導案改定案を作成しプレゼンテーションの力も養い、実践的な指導力や向上につながる課題解決のための能力の伸長をめざす。</p>			
8. 学習目標	<p>養護実習の振り返りを活かし、養護教育に関する自己課題を見出すことができる。</p> <p>教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、子どもに対する愛情) を身につけることができる。</p> <p>養護活動に必要な能力や保健室経営等に関する基礎的な能力を身につけることができる。</p> <p>保健室経営におけるコミュニケーション力を高め、自らの目指す養護教諭像を明らかにできる。</p> <p>健康教育に必要な指導力の基礎を形成することができる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する小レポートを出題する。 中間課題レポート：保健室経営案の作成 最終課題レポート：「あなたが目指す養護教諭像」について自分の考えを記述する。(800字程度) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】</p> <p>学校保健・安全実務研究会編著『学校保健実務必携 新訂版』第一法規。(購入済み)</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 養護実習の振り返りを活かし、養護教育に関する自己課題を見出すことができたか。 2) 教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、子どもに対する愛情) を身につけることができたか。 3) 養護活動に必要な能力や保健室経営等に関する基礎的な能力を身につけることができたか。 4) 保健室経営におけるコミュニケーション力を高め、自らの目指す養護教諭像を明らかにできたか。 5) 健康教育に必要な指導力の基礎を形成することができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業中の発言等の積極的な活動 (総合点の60%)、中間課題レポート (同20%)、最終課題レポート (同20%) の結果から総合的に判断する。また、本学の規定に定められている、15回中12回以上の出席が単位修得の条件であることを加味する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>養護実習の振り返りを活かし、お互いがそれぞれの現地実習で学んだことや、気づいたことをディスカッションし、抱えた問題ケースを出し合い、学びの幅を広げていきましょう。より子どもを理解し、より学校を理解し、より地域を理解してどのように専門性を発揮していくかを一緒に学びより高めていきましょう。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知いたします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ・「教職実践演習」の目的、意義、授業運営の説明	事前学習	各自の実習後の目的や意義を振り返りまとめておく。	
		事後学習	授業の目的、意義について理解したことを小レポートにまとめる。	
第2回	養護実習の振り返りと今後の課題 ・各自の実習についての振り返り ・養護実習体験の共有	事前学習	各自の実習の振り返りから自分の課題を考えまとめておく。	
		事後学習	他者の実習経験を聞いて感じたこと、わかったことを小レポートにまとめる。	
第3回	実習校の児童生徒の健康課題① ・養護実習中にとらえた児童生徒の健康に関する実態を振り返る	事前学習	養護実習日誌等に目を通し、実習校の児童生徒の健康上の特徴が説明できるよう整理しておく。	
		事後学習	ディスカッションを通して共有した子どもの健康課題について総括し、小レポートにまとめる。	
第4回	実習校の児童生徒の健康課題② ・実習校の学校保健計画、保健室経営計画を振り返る	事前学習	実習校の学校保健計画と保健室経営計画に目を通し、その特徴が説明できるよう整理しておく。	
		事後学習	ディスカッションを通して理解した、子どもたちの健康課題と養護教諭の活動の関連性について総括し、小レポートにまとめる。	
第5回	保健室経営計画の検討と作成の実際 ・保健室経営計画作成上の留意事項 ・保健室経営目標と具体策の案出	事前学習	実習校の児童生徒に特徴的な健康課題を整理し、保健室経営上の具体策の例を調べておく。	
		事後学習	第3～5回までの講義内容を踏まえ、独自の保健室経営計画を作成する。	

第 6 回	健康診断 ・計画立案から実施、事後措置における留意点の整理	事前学習	実習校での健康診断の実践を振り返り、反省点や改善点を説明できるよう、整理しておく。
		事後学習	ディスカッションを通して理解した健康診断実施上の留意点について、小レポートにまとめる。
第 7 回	外科的救急処置事例検討① ・学校における外科的救急処置の留意点の整理	事前学習	実習中に経験した外科的救急処置から学んだことを説明できるよう、整理しておく。
		事後学習	ディスカッションを通して理解した外科的救急処置の留意点について、小レポートにまとめる。
第 8 回	外科的救急処置事例検討② ・困難事例等に関するディスカッション	事前学習	前時にあげられた救急処置に関する疑問や困難事例への対応について、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	事例に対する討論を総括し、外科的救急処置における養護教諭の対応のあり方について、小レポートにまとめる。
第 9 回	内科的救急処置事例検討① ・学校における内科的救急処置の留意点の整理	事前学習	実習中に経験した内科的救急処置から学んだことを説明できるよう、整理しておく。
		事後学習	ディスカッションを通して理解した内科的救急処置の留意点について、小レポートにまとめる。
第 10 回	内科的救急処置事例検討② ・困難事例等に関するディスカッション	事前学習	前時にあげられた救急処置に関する疑問や困難事例への対応について、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	事例に対する討論を総括し、内科的救急処置における養護教諭の対応のあり方について、小レポートにまとめる。
第 11 回	保健教育 ・保健指導、保健学習実践上の留意点の整理 ・養護実習中に指導を受けた内容の総括	事前学習	実習中の保健教育の実践と、指導講評の内容を説明できるよう、整理しておく。
		事後学習	ディスカッションを通して理解した保健教育実施上の留意点について、小レポートにまとめる。
第 12 回	学校保健組織活動・特別活動 ・養護実習中に経験した保健行事等について ・各種行事における養護教諭の役割の整理	事前学習	実習中の保健行事の実践と、指導講評の内容を説明できるよう、整理しておく。
		事後学習	ディスカッションを通して理解した保健行事等における養護教諭の役割やその留意点について、小レポートにまとめる。
第 13 回	健康相談事例検討① ・学校における健康相談の留意点の整理	事前学習	実習中に経験した健康相談の事例から学んだことを説明できるよう、整理しておく。
		事後学習	ディスカッションを通して理解した健康相談実践上の留意点について、小レポートにまとめる。
第 14 回	健康相談事例検討② ・困難事例等に関するディスカッション	事前学習	前時にあげられた健康相談に関する疑問や困難事例への対応について、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	事例に対する討論を総括し、健康相談における養護教諭の対応のあり方について、小レポートにまとめる。
第 15 回	これからの時代に求められる養護教諭 ・大学での学びや養護実習を総括し、自らの目指す養護教諭像を明らかにする。 ・本演習を通して明確化された、今後の研鑽を積むべき事項について整理する。	事前学習	養護実習、本演習を総括し、自ら目指す養護教諭像をまとめておく。
		事後学習	本授業から明確化された自分自身の今後の研鑽事項についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (幼稚園) (2単位)	3. 科目番号	SJTC4575								
2. 授業担当教員	関 容子										
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい										
7. 講義概要	教員に求められる事項として、中教審答申では次の4つを挙げている。すなわち、①使命感や責任感・教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児理解や学級経営に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項である。本科目では、これらについて履修カルテを見直すとともに教育実習での自分自身の実践を振り返って自己課題を見出し、課題解決の方策を自分たちで検討する学習のプロセスを経て、実践的指導力を身に付けるようにする。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習を通して、幼児教育に関する自己課題を見出すことができる。 2. 教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、幼児に対する愛情) を理解し、自ら振り返る。 3. 幼児理解や学級経営に関する基礎的な能力を身に付ける。 4. 社会性や対人関係能力を身に付ける。 5. 保育内容や指導力に関する実践力を身に付ける。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題を課します。 実習をとおして学んだことを振り返ります。園での具体的な取り組みや求められる視点、留意点、記録など、子どもの育ちや保育者の意図、保護者の願いなど、幼児教育の現場における諸問題とともに考え、深めます。そして、自分はどんな保育を实践したいのか、そのために専門家としてどのような力を付けたいのかを具体的にイメージし、レポートを作成します。										
10. 教科書・参考書・教材	必要に応じてプリントを配布します。 参考書は、適宜授業の中で提示します。										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、幼児に対する愛情) を理解し、ふるまえるか。 2 幼児理解やクラス経営に関する基礎的な能力を身に付け、説明でき、ふるまえるか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度およびレポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 期末レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の30%	2 期末レポート	総合点の30%	3 課題レポート	総合点の20%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の30%										
2 期末レポート	総合点の30%										
3 課題レポート	総合点の20%										
4 日常の学習状況	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	実習を振り返り、履修カルテを活用しながら、自分の得意分野を自覚するとともに、自己の課題を明確にし、その解決方途を具体的に策定してください。現場での実践をイメージしながら、保育者に求められる資質能力や現場の状況に応じた実践的指導力を意識し、授業に臨んでください。										
13. オフィスアワー	別途通知します。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	イントロダクション: 本演習の目的と展開方法について履修カルテの意義	事前学習	幼児教育の専門性の内容の復習								
		事後学習	履修カルテの活用法。これまでの実習の反省からの自己課題を整理する。								
第2回	自己課題の克服に向けて	事前学習	履修カルテや教育実習を振り返り、自己課題を明確にする。								
		事後学習	各自で期日を設定し、学習方法の計画を策定する。								
第3回	養成課程における学びの総括① (使命感・責任感)	事前学習	学びの総括①の意味することについての予習。								
		事後学習	実践の具体例、およびその手順について文章化する。								
第4回	養成課程における学びの総括② (幼児理解・状況に応じた対応)	事前学習	学びの総括②の意味することについての予習。								
		事後学習	実践の具体例、およびその手順について文章化する。								
第5回	養成課程における学びの総括③ (社会人としての基本・保護者、地域との連携協力)	事前学習	学びの総括③の意味することについての予習。								
		事後学習	自己反省と改善の内容、実践の具体例とその手順を文章化する。								
第6回	養成課程における学びの総括④ (生活場面に即したコミュニケーション)	事前学習	学びの総括④の意味することについての予習。								
		事後学習	実践の具体例、およびその手順について文章化する。								
第7回	養成課程における学びの総括⑤ (保育者間の人間関係、保護者対応の基本)	事前学習	保育において保育者間の協力の必要性と保護者対応について予習。								
		事後学習	実習における職場の人間関係の体験について振り返る。保護者対応における保育者の基本的役割について整理する。								

2020年度

第8回	養成課程における学びの総括⑥ (保護者との望ましい関係)	事前学習	保護者の抱える問題を調べる。
		事後学習	保護者との望ましい関係について、実践の具体例をあげてみる。
第9回	養成課程における学びの総括⑦ (教育課程の理解と基礎知識・技能)	事前学習	学びの総括⑦の意味することについての予習。
		事後学習	計画作成の留意点を整理する。
第10回	養成課程における学びの総括⑧ (保育環境・保育内容・教材分析・評価改善)	事前学習	学びの総括⑧の視点から自身の責任実習を振り返り整理しておく。
		事後学習	子どもたちの興味、関心、発達に応じたねらい、内容であったか。その過程を整理する。
第11回	養成課程における学びの総括⑨ (音楽・造形・身体・言語など表現方法の観点から)	事前学習	責任実習での展開方法の問題点を整理しておく。
		事後学習	責任実習での保育展開(一日の流れ、今後の活動のつながり)のポイントについて確認するとともに、基本的な技術の習得について自覚する。
第12回	保育場面における具体的な対応とその意味①	事前学習	実習中、印象に残った場面を振り返り、子ども、保護者、保育者の動き、疑問点を書きだす。
		事後学習	保育実践の意味、根拠、必要な知識についてまとめる。
第13回	保育場面における具体的な対応とその意味②	事前学習	具体事例をあげ、その時の保育者の対応について振り返る
		事後学習	保育の実際を具体的に記録する。
第14回	保育場面における具体的な対応とその意味③	事前学習	現場に求められる記録には、どのようなものがあるか書き出す。
		事後学習	各記録に求められる重要な項目、視点について、その意味を考えまとめる。
第15回	幼稚園教諭としての成長と専門性の習得 まとめレポート	事前学習	履修カルテと本授業の学びをもとに、専門性の修得についての自己評価をする。
		事後学習	これまでの学びを振り返り、保育現場での働きをイメージする。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (幼稚園) (2単位)	3. 科目番号	SJTC4575								
2. 授業担当教員	鈴木 美子										
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	教員に求められる事項として、中教審答申では次の4つを挙げている。すなわち、①使命感や責任感・教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児理解や学級経営に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項である。本科目では、これらについて履修カルテを見直すとともに教育実習での自分自身の実践を振り返って自己課題を見出し、課題解決の方策を自分たちで検討する学習のプロセスを経て、実践的指導力を身に付けるようにする。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習を通して、幼児教育に関する自己課題を見出すことができる。 2. 教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、幼児に対する愛情) を理解し、自ら振り返る。 3. 幼児理解や学級経営に関する基礎的な能力を身に付ける。 4. 社会性や対人関係能力を身に付ける。 5. 保育内容や指導力に関する実践力を身に付ける。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題を課します。 実習を通してどのようなことが幼児教育を巡る課題と考えられるか、その他、具体的なテーマを設けてレポートを作成します。作成を通して自己課題を捉え自分で考えながら進めていく力を培ってください。										
10. 教科書・参考書・教材	必要に応じてプリントを配布します。 参考書は、適宜授業の中で提示します。										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、幼児に対する愛情) を理解し、ふるまえるか。 2 幼児理解やクラス経営に関する基礎的な能力を身に付け、説明でき、ふるまえるか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度およびレポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 期末レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の30%	2 期末レポート	総合点の30%	3 課題レポート	総合点の20%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の30%										
2 期末レポート	総合点の30%										
3 課題レポート	総合点の20%										
4 日常の学習状況	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育実習での自分自身の実践がどうであったか、振り返りを基に自己課題を見出していきます。 実習での自分の実践を評価して、実践的指導力を身につけるための自己課題を捉えて自分でどのような力をつけようとするかを常に意識しながら授業に臨むようにしてください。										
13. オフィスアワー	別途通知します。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	イントロダクション:本演習の目的と展開方法について	事前学習	幼児教育の専門性の内容の復習								
		事後学習	これまでの実習の反省からの自己課題を整理する。								
第2回	幼児教育における今日的課題	事前学習	「幼稚園教育要領」のキーワードから幼児教育が目指すものについて確認しておく。								
		事後学習	保育の理想の実現化における多様な実態について整理する。								
第3回	教員に求められる資質① (使命感・責任感)	事前学習	資質①の意味することについての予習								
		事後学習	自己反省と改善のための方法を文章化する。								
第4回	教員に求められる資質② (幼児理解 グループ協議)	事前学習	資質②の意味することについての予習								
		事後学習	自己反省と改善の内容を文章化する。								
第5回	教員に求められる資質② (幼児理解 グループ発表)	事前学習	学級経営①の意味することについての予習								
		事後学習	自己反省と改善の内容を文章化する。								
第6回	主体性を育むために (日々の保育の在り方を考える)	事前学習	学級経営②の意味することについての予習								
		事後学習	自己反省と改善の内容を文章化する。								
第7回	日々の保育をつなげる① (翌日の保育を考える グループ協議)	事前学習	保育において保育者間の協力の必要性について確認する。								
		事後学習	実習における職場の人間関係の体験について振り返る。								
第8回	日々の保育をつなげる② (翌日の保育を考える グループ発表)	事前学習	発表資料を準備しておく								
		事後学習	他グループの発表を含めて学んだことをまとめる。								
第9回	協同性を育む保育 (資料から幼児期に育まれる協同性について学ぶ)	事前学習	協同性に関する資料を読みワークシートに記入してくる								
		事後学習	協同性について整理し理解する。								
第10回	協同性を育む保育 (実践事例から子どもの育ちと保育者の指導の意味を捉える) グループ協議① 映像前半から	事前学習	実践事例前半について考察をまとめてくる。								
		事後学習	グループで捉えた大切だと思われる場面について考察を深める。								
第11回	協同性を育む保育 (実践事例から子どもの育ちと保育者の指導の意味を捉える) グループ協議② 映像後半から	事前学習	自分の責任実習の展開方法の問題点を整理しておく。								
		事後学習	保育展開 (一日の流れ、課題活動) のポイント								

2020年度

			トについて確認する。
第12回	グループ研究に向けて 研究課題についてのグループ協議	事前学習	研究を行いたい内容を考え、教科書を見直したり資料を探して持ち寄る。
		事後学習	研究内容や役割を分担して進められるようにする。
第13回	研究課題 グループ協議・発表資料作成	事前学習	調べたり整理したものを持ち寄って協議をする。
		事後学習	研究発表資料を完成させる。
第14回	研究課題発表	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	自己の学びと他グループの発表からの学びをまとめる。
第15回	幼稚園教諭としての成長と専門性の習得	事前学習	自分の実習カルテから、専門性修得についての自己評価をする。
		事後学習	専門性向上のための方策をまとめ、レポートを作成する。

1. 科目名(単位数)	教師論(初等) (2単位)	3. 科目番号	SJTC1401 EDTE1302 EDTE1102
2. 授業担当教員	深沢 和彦		
4. 授業形態	講義、事例研究(グループワーク)、演習(論作文)、発表	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	今日の学校教育が抱える様々な課題を解決する上で、その主たる担い手である教員の役割や責任は極めて大きい。これからの教員は、教科・科目に関する知識を教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもたちを育成することが求められている。現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。		
8. 学習目標	1. 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、説明が出来るようになる。 2. 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解し、態度化できる。 3. 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解し、説明できる。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	指示された予習課題や探究的課題に主体的に取り組むこと。対話型の学習により理解を確実にすることで問題解決に対する力量を養うように努めること。 1)授業ごとに配付するワークシート(レポートを兼ねる)の提出 2)後日指示する課題レポートの作成と提出		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 佐藤晴雄著『教職概論-教職を目指す人のために- (第5次改訂版)』学陽書房、2018年。 【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説』ミネルヴァ書房 【教材】 必要に応じて授業内でプリントを配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 教職の意義や教員の役割・職務内容に関心を持ち、教員に求められる資質・能力、教育を支える法律上の規定などを理解し、説明ができる。 ○評定の方法 ・学習記録・演習課題60%、レポート20%、受講態度20%とする。		
12. 受講生へのメッセージ	「教師論」は教職に就くことを目指す人たちの科目です。皆さんが小学校・中学校・高等学校の学校段階で積み重ねてきた体験を、各学校段階の教師について、児童生徒の立場からだけでなく教員として立場に置き換えて考えてください。皆さんのこれまでの学校体験とこの授業での学びを結びつけ、教員として身につけるべき資質と能力を磨いてください。 【学生に期待すること】 受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してください。 ①教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高めます。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでください。 ②授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないでください。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告してください。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格となります。) ③明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られないと判断された場合、試験の答案内容の如何にかかわらず、不合格となります。 ④授業中、飲食、私語、居眠りはしないでください。 ⑤授業中は携帯電話等の携帯端末の電源を切ってカバンにしまってください。		
13. オフィスアワー	初回講義時に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 「教職の魅力・やりがい」についてディスカッションする。	事前学習	教科書「序章」を読んで、自己の考えをまとめておく。教職を目指したきっかけや理由と過去にお世話になった教員のイメージと心に残る教員の姿について整理しておく。
		事後学習	過去の経験から教員の職務を整理し、自分はどのような教員になりたいかを話し合いを参考にまとめてみる。
第2回	教職の意義①(第1章) 教職とは何か 教員の仕事と他の職業の違いについて比較し、教員の仕事の特徴を知る	事前学習	教科書1章「教職とは何か」を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第3回	教職の意義②(第1章) 教職の意義 教職の意義について知り、大きな責任と崇高な使命があることを理解する。	事前学習	教科書1章「教職の意義」を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第4回	教職観と理想の教師像(第2章) 様々な立場から見た理想の教師像を考える。	事前学習	教科書2章を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第5回	教師と教員養成の歴史(第3章) 教員養成に歴史について知り、今後、目指される教師像について考える。	事前学習	教科書3章を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第6回	教員の任用と服務①(第4章) 地方公務員法や教育公務員特例法などをしらべ、教員には服務上・身分上の義務があること	事前学習	教科書4章「教員の任用・服務」を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシ

	を理解する。		一トにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第7回	教員の任用と服務②(第4章) 教員の身分保障と勤務条件について知り、教員の特長性について理解する。	事前学習	教科書4章「教員の身分保障・勤務条件」を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第8回	教師の役割と仕事①(第5章) 学校の仕事は、教育課程に示されるとともに、校務分掌にも示されていることを調べ、学級担任の仕事のほかにも様々な職務があることを知る。	事前学習	教科書5章「教師の役・仕事」を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第9回	教師の役割と仕事②(第5章) 学級担任の職務には、学習指導や生徒指導など多くの仕事があることを学級経営案を基に調べ、どのような姿勢で職務に取り組むことが大切か話し合い、発表する。	事前学習	教科書5章「教師の仕事の実際」を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第10回	教師の職場環境(第7章) 労働者としての側面から、労働時間、メンタルヘルスの維持等について考え、働き方改革について議論する。	事前学習	教科書7章を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第11回	教師の資質向上と研修(第8章) 教員が学び続けることができるための研修の権利と義務が与えられていることを調べ、その制度を有効に使うための自らの資質・能力の向上を目指す努力をどのように進めるかについて話し合う。	事前学習	教科書8章を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第12回	教育実習の意義と心得(第9章) 教育実習の意義と方法について知り、実習に臨むにあたって準備すべきことについて考え、話し合う。	事前学習	教科書9章を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第13回	教職への進路選択と教員採用選考(第10章) 国や各都道府県が求める教員の資質や能力を調べ、自分たちが描いていた教師像との違いや共通性について話し合い、発表を通して教員の役割について新たな知識を持つ。	事前学習	教科書10章を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第14回	面接・模擬授業にどう臨むか(第11章) 教員採用選考試験について知り、実際に面接のロールプレイを行い、今後、どのような準備が必要なのかを話し合う。	事前学習	教科書11章を読んで、自己の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第15回	教職への進路選択 これまでの学習を振り返りまとめ、今後の進路選択に当たり、大学生活をどのように送っていくのかについて話し合い、発表する。	事前学習	教員免許法や教育学部のカリキュラム、都道府県の教員採用選考の資料に目を通して、自分の進路を考えておく。国や各都道府県教育委員会が求める教師像の資料を見て、教員に求められる資質や能力について読んでおく。
		事後学習	授業全体をふり返り、教育者にふさわしい資質能力を高めるために自分に必要なことが何かを考え、レポートをまとめる。教員に求められる資質・能力を通して、自分たちがもってきた教師像の修正を行う。教職に対する知識を整理する。教員に求められる資質・能力から、大学生活をどのように送ればよいか考える。

1. 科目名 (単位数)	教師論 (中等) (2単位)	3. 科目番号	SSMP1320 SNMP1320 SCMP1320 SBMP1320 SPMP1320 EDTS1102 EDTS1302
2. 授業担当教員	池野 正晴		
4. 授業形態	講義・グループ討議・ワークシート・レポート・試験	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「教育学概論」や「教育課程論」, 「教育法規」とも関連		
7. 講義概要	国際化・情報化・科学技術の発展・環境問題など変化の激しい今日の社会において、学校教育の場においても様々な課題が生じている。この課題を解決するためには、学校教育の主たる担い手である教員の役割や責任が今まで以上に大きくなっている。これからの教員は、教科に関する知識を単に教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもを育成することが求められている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事と役割とはどのようなものか、教員の権利や義務(服務・研修・身分保障などを含む)は、法律上、どのように規定されているのかなど教職を志す学生があらかじめ教職について知っておく必要がある事項を考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職観の変遷について理解するとともに、教師に求められる資質・能力について考察することができるようになる。 2. 教員養成の歴史の変遷について理解するとともに、現在の教員養成の現状について考察することができるようになる。 3. 教員の役割と仕事について理解するとともに、現在、教員に期待されている役割について考察することができるようになる。 4. 教員の養成・採用・研修について理解し、教師のライフコースについて考察することができるようになる。 5. 自分の適性を理解し、なりたい教師像について考察することができるようになる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>【アサインメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎回、テキストの指定部分については、読んでおくとともに、自分なりにノートにまとめておくようにする。(ラインマーカー、ノートまとめ等) ○ 「講義用冊子」(PPT用レジュメ)の空欄箇所について、自分で調べたり、考えたりしながら、事前に該当すると思われる語句を入れておく。 ○ 意味不明の言葉についても自分で調べておく。 <p>【中間レポート】(各班でまとめる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ レポート・プレゼン担当箇所のまとめを作成し、パワーポイント等でプレゼンをする。 ※6~8人1組のグループを編成し、協力してレポート箇所についてまとめ、プレゼンする。 ※発表用資料については、各班で印刷することが望ましいが、印刷事情により困難な場合には、講義担当者への印刷依頼も受け付ける。その場合は、事前提出(事前送付、2日前までに)のこと。(メールアドレスは下記13を参照)(印刷、ホチキスとめ、穴あけ等可能) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 池野作成『教師論』(講義用印刷テキスト, PPT資料等, 全員に配付) ② 秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門 [改定版]』, 有斐閣, 2015年 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 佐藤晴雄『教職概論』(第5次改定版), 学陽書房(※「教師論(初等)」の教科書) <p>※ テキスト内で紹介されている図書については、可能な範囲で読んでまとめておく。 ※ その他のものについても、授業時に紹介する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職観の変遷について理解するとともに教師に求められる資質・能力について考察することができたか。 2. 教員養成の歴史の変遷について理解するとともに教員養成の現状について考察することができたか。 3. 教員の役割と仕事について理解し、教員に期待されている役割について考察することができたか。 4. 教員の養成・採用・研修について理解し、教師のライフコースについて考察することができたか。 5. 自分の適性を理解し、なりたい教師像について考察することができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、課題ワークシート、課題レポート、期末試験、期末レポート等を総合して評価する。]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の40% 2 課題ワークシート・課題レポート 総合点の30% 3 期末試験または期末レポート 総合点の30% <p>また、本学の規定に定められている3/4以上の出席が成績付与の条件となることとした。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 履修者名簿が確定した段階で、座席指定をし、チームを編成する。(座席は、ローテーションとする) 2 5~7人で班を編成し、担当箇所について協力して研究を深め、発表用資料を作成し、プレゼンする。 3 授業は、前向きに積極的に受講すること。(教師になるという当事者意識をもって参加・参画し、各班の発表に対して積極的に質問やコメントを行うこと。毎回、指定コメンテーターとして班に対しての割り振 		

	りも行う。) 4 社会人及び学生としてのマナーは守ること。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間※メールでのアポイントも可能		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	プロローグ （「教師論〇×チェック」を解きながら、本授業の概要を把握する） 学ぶ学生として新しく求められる資質・能力とプレゼンの重要性 教員採用試験の状況 座席指定、チーム編成、分担箇所の決定	事前学習	テキスト②を早めに入手し、全体を概観しておく。
		事後学習	班としての担当箇所の全体の全体を読み、班の中での役割分担を決める。また、その他の関連・参考資料についても探してみる。授業を振り返り、理解を深める。
第2回	教育観、子ども観について、どう考えたらよいか（教育とは何か、人間モデルにおける子ども観・教育観等）	事前学習	テキスト①を読み、空欄（穴空き）部分に入る言葉を考えておく。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第3回	教師の日常世界へ（1章） （専門家としての教師、教職という仕事の性格、情動的実践としての教職）	事前学習	テキスト②pp. 1-20を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第4回	授業をつくる（2章） （授業の構成、授業のデザイン、授業デザインを支える教師の知識と思考）	事前学習	テキスト②pp. 21-47を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第5回	授業から学ぶ（3章） （評価する主体としての教師、ともに学び続ける教師）	事前学習	テキスト②pp. 50-69を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第6回	カリキュラムをデザインする（4章） （「カリキュラム」の概念、学びのビジョンとその実践、学びのデザイン、開発と評価）	事前学習	テキスト②pp. 71-83を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第7回	子どもを育む（5章） （子どもの心に寄り添う、子どもの言葉を受け取る、教師-子ども関係が陥りやすい落とし穴、守りの器をつくる）	事前学習	テキスト②pp. 85-106を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第8回	生涯を教師として生きる（6章） （教育実習から新任の教師へ、教師としてのアイデンティティの模索、中年期の危機、ベテラン教師として）	事前学習	テキスト②pp. 107-131を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第9回	同僚とともに学校を創る（7章） （学校での授業の探究—一人の教師の事例から、学校における同僚性、教師文化を形成するもの）	事前学習	テキスト②pp. 133-152を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第10回	教職の専門性（8章） （教職の専門性とは、教職に対する国際的認識、教師の養成・成長、日本における教職の専門性開発に見られる特徴）	事前学習	テキスト②pp. 153-178を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第11回	時代の中の教師（9章） （近代学校成立以前の教師—寺子屋の「師匠」、日本における教育の風景の転換—「先生」の出現、定型的教師像の誕生—臣民教育の教師と国民教育の教師、植民地ならびにファシズム期の教師像—子弟同行、戦後の教師像、現在の教師像を再考する）	事前学習	テキスト②pp. 179-200を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第12回	教師の仕事とジェンダー（10章） （教職におけるジェンダー、歴史の中の女性教師、教師の仕事と母親業）	事前学習	テキスト②pp. 201-226を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第13回	教育改革と教師の未来（11章） （転換期の学校、改革の推移、教師の使命、未来への希望）	事前学習	テキスト②pp. 227-241を読み、自分なりにまとめておく。担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。

第14回	教師研究へのアプローチ（資料） （教師研究の広がり，教師についての情報を収集する，教師をめざして－教員免許状を取得する，教職の今を探る－統計資料から，教職関連法規）	事前学習	テキスト②pp.243－276を読み，自分なりにまとめておく。担当班は，まとめの資料を作成し，プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り，理解を深める。
第15回	教員の服務（※教科書①を参照） （教員の身分，職務と権利，服務等） 社会福祉的な視点からの教育（社会福祉科の学生のチームができた場合） エピローグ （まとめと今後の課題）	事前学習	「服務」について調べ，自分なりにまとめておく。担当班は，まとめの資料を作成し，プレゼンの準備をする。（事前に資料提供の予定）
		事後学習	学習内容を振り返り，整理しておく。合わせて，期末テストに備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	金融論 (2単位)	3. 科目番号	SBMP2135						
2. 授業担当教員	岡田 高明								
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループワーク	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	暮らしと経済や経済学を受講してあるとより望ましい。会計学を併せて受講することをお勧めする。								
7. 講義概要	<p>金融論の場合は、入門であっても、講師によって扱う内容が様々に異なっている。それだけ金融という現象が幅広い経済分野にまたがっているからである。本講義は、金融論の基礎について体系的・包括的に全体像を学ぶだけでなく、そうした知識・理論を用いて、基礎的な個人の金融行動選択の方法を学ぶことに特徴がある。予備知識が少ない学生でも理解できるようになるべく平易に解説する。</p> <p>前半では、金融論の基礎知識・理論として、金融の役割、金融の方法、金融取引を行う場である金融市場、貨幣、金融機関、金融政策を解説する。後半は、個々の経済主体の意思決定に必要な基礎知識として、お金を融通することの対価である利子率、家計や企業等の金融行動に関する基本的な理論や方法を解説する。</p> <p>講義の進行方法については、受講者の理解を深めるため項目ごとに問題演習を行う。また課題として提出するレポートをもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の金融経済の現状を把握し、説明できるようになる。 2. 金融の基礎理論を理解し、説明できるようになる。 3. 預金や株式、社債などの金融商品の取引や、その結果である利益と損失の発生を理解し、説明できるようになる。 4. 家計や個人の金融行動の選択に関する考え方と方法を習得し、日常生活で実践できるようになる。 5. 金融の理論や方法を企業や社会福祉関連施設等の運営・管理において応用できるようになる。 								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントは特に課さないが、前半部分で議論したことが後半部分でわかっていることを前提として授業が進んでいきますので、必ず事後学習を行い、知識を定着させておくこと。 また、年末年始休暇に向けてレポート課題を課します。その詳細は講義中に追って指示する。								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 家森信善『金融論ベーシックプラス』中央経済社、2019年。</p> <p>【参考書】 代田純『誰でもわかる金融論』学文社、2016年。 森澤龍也『レクチャー&エクササイズ金融論』新世社、2015年。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストの輪読を通じて、金融論の基礎知識が理解できているか。 2. (中間) レポート課題に対して的確に検討し、説明できるようになっているか。 3. 期末試験 (又はレポート) を通じて、専門用語等を理解し、説明できるようになっているか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の10%</td> </tr> <tr> <td>2. (中間) レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験 (又はレポート)</td> <td>総合点の60%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加	総合点の10%	2. (中間) レポート	総合点の30%	3. 期末試験 (又はレポート)	総合点の60%
1. 授業への積極的参加	総合点の10%								
2. (中間) レポート	総合点の30%								
3. 期末試験 (又はレポート)	総合点の60%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>金融は経済の血液と呼ばれています。お金が回らないビジネスは死んでしまうからであり、これは営利を目的としない福祉事業等も同様です。日本では、お金に関して学ぶことは「金儲け」を学ぶことであるとの誤解が広がっていますが、お金に関する正しい知識を学ぶことは、お金の使い方を学ぶことになるのです。</p> <p>この講義は、このお金、つまり金融について、経済学的思考法により、その役割や機能を学びます。そのため、若干数学的な議論も出てきますので、事後学習による知識の定着を図り、自己の意思決定を合理的に行えるようになるよう、頑張ってください。</p> <p>また、課題レポートを踏まえてのグループディスカッションでは、テキストでは取り上げていない銀行実務を想定した演習を行う予定ですので、将来、自ら事業運営にかかわることになった場合に関わってくる融資の申し込みに当たって注意すべき点を理解してもらいたいと考えています。</p>								
13. オフィスアワー	別途通知する								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明等)	事前学習	シラバスを読んで授業の概要を確認しておく。						
		事後学習	講義内容の確認まとめを行う。						
第2回	第1章 金融論で何を学ぶか	事前学習	テキスト pp.13~28 を読んでくること						
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる						
第3回	第2章 貨幣	事前学習	テキスト pp.29~44 を読んでくること						
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる						
第4回	第3章 金利	事前学習	テキスト pp.45~62 を読んでくること						
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる						
第5回	第4章 金融政策のためのマクロ経済学	事前学習	テキスト pp.63~75 を読んでくること						
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる						
第6回	第5章 金融政策の課題と日本銀行 年末年始休暇中の課題レポートのテーマの発表	事前学習	テキスト pp.77~92 を読んでくること						
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる						
第7回	第6章 金融政策の基本手段と新しい展開	事前学習	テキスト pp.93~110 を読んでくること						
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる						

第8回	第7章 金融システムと金融仲介機関の役割	事前学習	テキスト pp.111～127 を読んでくること
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる
第9回	第8章 銀行以外の金融機関	事前学習	テキスト pp.129～144 を読んでくること
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる
第10回	第9章 金融システムの安定化のための政策	事前学習	テキスト pp.145～160 を読んでくること
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる
第11回	第10章 金融機関の破綻への対応策	事前学習	テキスト pp.161～173 を読んでくること
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる
第12回	第11章 金融市場に関する規制	事前学習	テキスト pp.175～192 を読んでくること
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる
第13回	第12章 間接金融型の金融商品	事前学習	テキスト pp.193～208 を読んでくること
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる
第14回	第13章 直接金融型の金融商品	事前学習	テキスト pp.209～225 を読んでくること
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる
第15回	第14章 ファイナンスの基礎理論	事前学習	テキスト pp.227～242 を読んでくること
		事後学習	授業内容を振り返り、知識を定着させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ケアマネジメント演習 (2単位)	3. 科目番号	SSMP3325 SNMP3325 SCMP3325 SBMP3325 SPMP3325
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「ケアマネジメント論」を併せて履修することが望ましい。		
7. 講義概要	ケアマネジメントは社会福祉援助技術の1手法として、わが国の社会福祉の現場で幅広く活用されており、特に、介護保険制度や自立支援法の中で位置づけられている。本講義では、ケアマネジメント論で学んだ知識を活かしながら、実際にケアマネジメントの事例を通じ展開し、ケアマネジメントを理解していく。		
8. 学習目標	1) ケアマネジメントの実際を理解し、説明できる。 2) ケアマネジメントの過程を実践し、実践現場で行えるようにする。 3) 事例検討・ロールプレイ等を通じて、様々な分野におけるケアマネジメントについて理解ができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題(1ページ40行×30文字で3枚以上) 1) ケアマネジャーに求められる専門性と姿勢について 2) ケアマネジメントの展開過程について		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】太田貞司・國光登志子編『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning10』(株)みらい。 【参考書】NPO 法人千葉県介護支援専門院協議会編『基礎から学べる「ケアマネジメント実践力」ワークブック』中央法規出版		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・事例を用いてアセスメントを行い、ケアプランの作成ができたか。 ・カンファレンスを実施し、ケアプランの検討が行えたか。 ・各事例検討における話し合いが適切にできたか。 ・ケアプランの実際についてレポートにまとめることができたか。 ○評定の方法 授業への積極性・発表 50% レポート提出 50%		
12. 受講生へのメッセージ	受講生は以下のことを守って下さい。 1) 対人援助の専門職を目指す人材として、他者理解ができる事を自ら講義中の態度で示すこと。 2) 講義内容の事前の確認と、振り返りをしっかりとすること。 3) 欠席・遅刻・早退をしないこと。(やむを得ない場合は必ず連絡すること) 4) 理解できないことはそのままにしておかないで、積極的に質問すること。 レポートの提出期限は厳守すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・多様性と多角的視点	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。
		事後学習	ケアマネジメントを実践する上で必要な多様性と多角的視点を整理する。
第2回	インテーク面接	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認し多様性と多角的視点を整理する。
		事後学習	ケアマネジメントにおけるインテーク面接を整理する。
第3回	コンピテンスと専門的技術	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しインテーク面接を整理する。
		事後学習	ケアマネジメントを実践する上で必要なコンピテンスと専門的技術を整理する。
第4回	医学モデルと社会モデル	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しコンピテンスと専門的技術を整理する。
		事後学習	ケアマネジメントを実践する上で必要な医学モデルと社会モデルの視点を整理する。
第5回	サービス担当者会議・カンファレンス	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認し医学モデルと社会モデルを整理する。
		事後学習	ケアマネジメントにおけるサービス担当者会議を整理する。
第6回	ケアマネジャーの姿勢と守秘義務	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しサービス担当者会議を整理する。
		事後学習	ケアマネジメントを実践する上で必要なケアマネジャーの姿勢と守秘義務について整理する。
第7回	モニタリング	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しケ

			アマネジャーの姿勢と守秘義務を整理する。
		事後学習	ケアマネジメントを実践する上で必要な多様性と多角的視点を整理する。
第8回	個人情報保護	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しモニタリングを整理する。
		事後学習	ケアマネジメントにおける個人情報保護を整理する。【レポート1】
第9回	ジェノグラムと ICF	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認し個人情報保護を整理する。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返りジェノグラムと ICF を整理する。
第10回	ファミリーヒストリーとエコマップ	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しジェノグラムと ICF を整理する。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返りファミリーヒストリーとエコマップを整理する。
第11回	アセスメント	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しファミリーヒストリーとエコマップを整理する。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返りアセスメントを整理する。
第12回	ケアプランの作成①	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しインテーク面接を整理する。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返りアセスメントを整理する。
第13回	ケアプランの作成②	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しケアプランを整理する。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返りケアプランを整理する。
第14回	チームケアとモニタリング	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しケアプランを整理する。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返りチームケアとモニタリングについて整理する。
第15回	まとめ	事前学習	前回の授業で使用した資料を再度確認しチームケアとモニタリングを整理する。
		事後学習	これまでのケアマネジメントの展開過程をまとめる。【レポート2】

1. 科目名 (単位数)	ケアマネジメント論 (2単位)	3. 科目番号	SSMP3321 SNMP3321 SCMP3321 SBMP3321 SPMP3321
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「ケアマネジメント演習」を併せて履修することが望ましい。		
7. 講義概要	ケアマネジメントは社会福祉援助技術の1手法として、わが国の社会福祉の現場で幅広く活用されている。特に、介護保険制度や自立支援法の中で位置づけられている。本講義では、ケアマネジメントの概要を理解し、実際の活用に必要な知識を学べるように講義を進めていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ケアマネジメントの概要を理解し、説明できる。 2) ケアマネジメントの活用について理解し、説明できる。 3) ケアマネジメントの機能について理解し、説明できる。 4) 対象別ケアマネジメントの実際について理解し、説明できる。 5) 在宅・施設におけるケアマネジメントについて理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート(1ページ40行×30文字で3枚以上) <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分が住んでいる地域の社会資源を調べる。 (2) ケアマネジメントの重要な視点についてまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning10』(株)みらい。 太田貞司・國光登志子 編集 【参考書】『初めて学ぶ ケアマネジメントテキスト』中央法規。 池上直己・訳『日本版 MDS-HC 2.0 在宅ケアアセスメントマニュアル』医学書院。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1) ケアマネジメントの実際を理解し、説明できたか。 2) ケアマネジメントの過程を実践し、実践現場で行えたか。 3) 事例検討・ロールプレイ等を通じて、様々な分野におけるケアマネジメントについて理解ができたか。 ○評定の方法 授業への積極性・発表 50% レポート提出 50%		
12. 受講生へのメッセージ	受講生は以下のことを守って下さい。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 対人援助の専門職を目指す人材として、他者理解ができる事を自ら講義中の態度で示すこと。 (2) 講義内容の事前の確認と、振り返りをしっかりすること。 (3) 欠席・遅刻・早退をしないこと。(やむを得ない場合は必ず連絡すること) (4) 理解できないことはそのままにしておかないで、積極的に質問すること。 (5) レポートの提出期限は厳守すること。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	テーマ「オリエンテーション/ケアマネジメントの意義及び概要」 授業の進め方とケアマネジメントの意義及び概要について理解する。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの意義を整理する。
第2回	テーマ「ケアマネジメントの目的」 ケアマネジメントの誕生の背景を理解し、ケアマネジメントの考え方と日本におけるケアマネジメントの実際を学び、ソーシャルワーク技術の手法としての目的を理解する。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの目的」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの目的を整理する。
第3回	テーマ「ケアマネジメントの機能」 ケアマネジメントを活用する場面を具体的に理解することで、ケアマネジメントの機能について理解する。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの機能」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの機能を整理する。
第4回	テーマ「ケアマネジメントの展開過程」 ケースの発見(インテーク)、アセスメント、課題分析、ケアプランの作成、カンファレンス、実践、評価・モニタリングといった展開過程を概略的に理解する。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの展開過程」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの展開過程について整理する。
第5回	テーマ「アセスメントの方法」 対象者の個別の情報を収集し、整理する方法について理解する。また演習を通してその際に必要な視点についても理解しケアマネジメントにおけるアセスメントの重要性について理解する。	事前学習	テキストの「アセスメントの方法」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてアセスメントの方法について整理する。
第6回	テーマ「ニーズの把握と課題分析」 ケアマネジメントにおける支援を行う上で、ニーズの把握	事前学習	テキストの「ニーズの把握と課題分析」を読む。

	握と課題分析は、ケアプランの作成や実践をする上で目標設定や評価につながる重要な課程であることを具体的に理解し、演習につなげていく。	事後学習	授業の内容を踏まえてニーズの把握と課題分析について整理する。
第7回	テーマ「ケアプランの作成」 ケアプラン作成の視点と留意点について理解し、演習につなげていく。	事前学習	テキストの「ケアプランの作成」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアプランの作成について整理する。
第8回	テーマ「カンファレンスの開催」 演習を通してカンファレンスの意義やその方法について理解する。	事前学習	テキストの「カンファレンスの開催」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてカンファレンスについて整理する。
第9回	テーマ「ケアマネジメントにおけるケアマネジャーの役割と視点」 自立支援、エンパワメント、ストレングス等の視点からみたケアマネジャーの役割について理解する。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントにおけるケアマネジャーの役割と視点」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジャーの役割を整理する。
第10回	テーマ「ケアマネジメントの利用者と社会資源の活用」 ケアマネジメントの対象者とケースにあわせた社会資源の活用について理解する。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの利用者と社会資源の活用」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントにおける社会資源について整理する。【レポート(1)】
第11回	テーマ「介護保険におけるケアマネジメント」 介護保険制度におけるケアマネジメントの導入背景と現状について事例を通して理解する。またロールプレイ等を通して実践にふれ、その方法について理解する。	事前学習	テキストの「介護保険におけるケアマネジメント」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえて介護保険制度におけるケアマネジメントについて整理する。
第12回	テーマ「障害者におけるケアマネジメント」 障害者支援におけるケアマネジメントの実際を、事例を通して理解する。またロールプレイ等を通して実践にふれ、その方法について理解する。	事前学習	テキストの「障害者におけるケアマネジメント」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえて障害者におけるケアマネジメントの意義を整理する。
第13回	テーマ「児童福祉におけるケアマネジメント」 児童福祉におけるケアマネジメントの実際を、事例を通して理解する。またロールプレイ等を通して実践にふれ、その方法について理解する。	事前学習	テキストの「児童福祉におけるケアマネジメント」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえて児童福祉におけるケアマネジメントの意義を整理する。
第14回	テーマ「その他の分野におけるケアマネジメント」 生活保護におけるケアマネジメントの必要性を、事例を通して理解する。介護保険施設や在宅でもケアマネジメントが行われなければならないことから、ロールプレイ等を通してその実際にもふれて理解する。	事前学習	テキストの「その他の分野におけるケアマネジメント」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえて生活保護におけるケアマネジメントの意義を整理する。
第15回	テーマ「ケアマネジメントについてまとめ」 ソーシャルワークにおける1手法としてのケアマネジメントの重要な視点について、振り返りを行い、授業内でレポートとしてまとめる。	事前学習	1回～14回までの授業を振り返る。
		事後学習	ケアマネジメントの考え方と方法について整理する。【レポート(2)】

1. 科目名(単位数)	経営管理論 (2単位)	3. 科目番号	SBMP3112						
2. 授業担当教員	美藤 信也	5. 開講学期	秋期						
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答など								
6. 履修条件・他科目との関係	「経営戦略論」も履修することが望ましい								
7. 講義概要	<p>本講義では組織の管理についての解説を行い、経営管理の理論的な部分に関して初歩的な理解を促すことが目的である。そのために、まずは、代表的な経営学説を学ぶことから始める。</p> <p>講義の流れとしては、経営管理の全体を把握するため、経営学の誕生、近代組織における経営管理の登場とその発展について学習する。変革する経営管理について、組織の活性化、モチベーション及び経営のリーダーシップについて学習を進める。</p> <p>また、経営の創始者としてのテイラーや管理原則を展開したファヨールの議論などを紹介する。最終的には人事労務管理論や財務管理論へと議論を展開して、経営管理の全体像を把握できるようにする。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業はもちろん病院・学校・公共団体などをはじめ家庭・個人にいたるまで経営管理能力が必要とされている。組織の経営管理活動の過去・現在・未来を理解できるようにする。 2. 社会で要求される管理能力の基礎を身に付けると共に、行動案を立案できるようにする。 3. 自分自身のマネジメント、即ちセルフマネジメントを理解し、実践力をつけることを目的とする。 								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	次の授業で学ぶ内容の予習と各授業で学んだ内容の復習をしっかりと行ってください。レポート課題は、授業内で告知及び説明します。								
10. 教科書・参考書・教材	教科書は、使用しません。 必要に応じ、プリント及び資料を配布します。参考書は、講義の際に紹介します。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の経営を実践と理論の両面から平易な資料を用意して授業を進めたため、組織経営の基本的仕組みを理解できたか。 2. 組織の管理能力の基礎的な考え方を身に付けることで、グローバルな視点で経営管理を考えるような力が付いたか。 3. 企業の経営管理の理解だけでなく、病院や公共施設などの経営管理の違いを理解できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、課題レポート、期末試験等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の30%	2 課題レポート	総合点の30%	3 期末試験	総合点の40%
1 授業への積極的参加	総合点の30%								
2 課題レポート	総合点の30%								
3 期末試験	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	日本経済新聞を主とする新聞及びニュース等で取り扱われる経営管理に関する記事をできる限り読み、現在のトピックスや現実の動きに注視してください。								
13. オフィスアワー	授業内で通知します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	ガイダンス (①本講義の進め方・評価の仕方、②経営管理論で何を学ぶか。)	事前学習	授業用のノートやファイルを準備しておく						
		事後学習	経営管理論で学ぶ全体像を把握する						
第2回	経営者の役割 (経営学の誕生と経営管理の成立)	事前学習	経営者の役割を調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第3回	テイラーの科学的管理	事前学習	テイラーの科学的管理を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第4回	ファヨールの管理過程論	事前学習	ファヨールの管理過程論を調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第5回	人間関係論	事前学習	人間関係論を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第6回	モチベーション理論	事前学習	モチベーション理論を調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第7回	リーダーシップ論	事前学習	リーダーシップとは何かを調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第8回	経営組織の活性化と変革	事前学習	経営組織の活性化と変革を調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第9回	経営戦略	事前学習	経営戦略を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第10回	競争戦略	事前学習	競争戦略とは何かを調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第11回	グローバル戦略	事前学習	グローバル戦略について調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第12回	人事管理	事前学習	人事管理について調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第13回	労務管理	事前学習	労務管理を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第14回	財務管理とコーポレート・ガバナンス	事前学習	財務管理について調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第15回	全体のまとめ	事前学習	今までの授業の内容を確認する						
		事後学習	プリントの総復習をする						
期末試験									

1. 科目名 (単位数)	経営組織論 (2単位)		3. 科目番号	SBMP3114						
2. 授業担当教員	谷口 彰一									
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>企業・学校・病院など、多数の人間から構成される組織を運営するためには、これらの組織を合理的、効率的な「一つの組織」として運営する必要がある。経営組織論は、社会の基礎的構成要素としての組織を対象として、その行動やメカニズムの解明を基礎的課題とした学問領域である。</p> <p>私たちは常に組織との相互作用の中にあり、そして取り巻く組織は常に変化しながら、行動の制約や発展・成長を私たちに与えたり、逆に私たちがより良い組織や機能を提供したりしている。この講義では、この組織の機能に着目して、組織論的課題解決手法を探索する。そして、効率的に運営される組織とは何かという観点から課題を提起し、ディスカッションを通じて課題解決に取り組む。</p> <p>この講義は、科目の性質上、経営管理論や経営戦略論等の関連科目の基礎的知識も必要となる応用科目となるので、これまで学習してきた経営学に関する知識をしっかりと復習しておくことが必要である。また、必要に応じて、適宜解説を加える。</p>									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営組織論を構成する理論の概要と具体的事例の内容を理解し、説明することができる。 2. 経営組織を取り巻く経営環境を理解し、その環境への適方法及び戦略を考察し、立案できるようになる。 3. 経営戦略を実行するのに最適な経営組織のあり方を提起し、戦略的思考を理解し、説明することができる。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	定期的なアサイメントについては、特に課さない。しかし、授業展開の中で特に重要となる授業内容の予備知識を調べてくるように提示する。また、前回の授業とのつながりを解説しながら授業を進めるが、特に重要となる授業内容については、その都度、各自でその要点をまとめてくるよう提示する。									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 稲葉祐之他著『キャリアで語る経営組織』有斐閣アルマ、2012。</p> <p>【参考書】 岡田広司編著『戦略的イノベーション経営の潮流 現代経営学講座II』あるむ、2008。 岡田広司著『商品開発とビジネス戦略 現代経営学基礎講座II』あるむ、2009。 桑田耕太郎・田尾雅夫著『組織論』有斐閣アルマ、2012。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の経営を実践と理論の両面から、平易な資料を用意して授業を進めたため、組織の基本的仕組は理解できたか。 2. 企業だけでなく学校、病院などの多くの人間から構成組織を運営するための、社会で要求される組織経営の基礎的な考え方を身に付け、留学生にとっても日本と母国を含めたグローバルな視点で組織のあり方を考えるような力が付いたか。 3. 企業の経営組織の理解だけでなく、病院や公共施設などの組織及び組織運営の違いを理解できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、課題レポート、期末試験等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>				1 授業への積極的参加	総合点の30%	2 課題レポート	総合点の30%	3 期末試験	総合点の40%
1 授業への積極的参加	総合点の30%									
2 課題レポート	総合点の30%									
3 期末試験	総合点の40%									
12. 受講生へのメッセージ	あらゆる人は何らかの組織に所属する。組織の活動には、経営戦略、経営管理の知識が必要である。また、経営組織の学習は、変化する社会のあり方を考察し、未来の自分の人生の目標を定めその生き方を方向付ける試みができ、セルフマネジメント手法を学ぶことにもつながる。医療・福祉・介護などの経営組織論の学習を皆さんと共に討議を重ねながら追究していく。									
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 経営組織論の概念	事前学習	テキストの著者の考え方を知る上で、「はしがき」(pp. 1~7) を読み、理解する。参考書などを調べて、経営組織論の持つ意味をまとめる。							
		事後学習	オリエンテーションによって得た、経営組織論についての自分の考えをまとめ提出する。							
第2回	個人の欲求と組織の目的	事前学習	テキスト第1章 pp. 7~13 を読んでまとめる。また、							

	人間の欲求と行動 組織・企業のあり方と価値		関心のある企業を取り上げ、事業内容会社組織体制などについてまとめる。
		事後学習	テキストを通して学んだ人間の欲求と組織の行動との関係についてまとめる。
第3回	付加価値を生むプロセス 経営資源 組織で働くことと個人で働くこと	事前学習	テキスト第1章の pp. 13~26 を熟読し、内容をまとめる。
		事後学習	当該学習を通して、付加価値とは何か、それを生むプロセス、人的資源の重要性、組織で働くことの意義をまとめる。
第4回	組織社会科と組織社会プロセス 組織社会化 組織文化とは何か 組織文化の機能	事前学習	テキスト第2章 pp. 27~57 を読んで、組織社会化とは何かについて考察しまとめる。
		事後学習	組織文化が企業活動のなかでどう機能するのかまとめ、企業の実態と比較考察する。
第5回	組織と仕事への順応化 モチベーションと規則 人材教育 仕事に対する欲求 内発的動機付け	事前学習	テキスト第3章 pp. 59~88 を読み、モチベーション、人材育成などを中心にまとめる。
		事後学習	仕事に対する意欲、モチベーションと組織とのつながりを中心に内容をまとめる。
第6回	人事異動 会社のなかでのキャリア開発 組織の人事管理 個人のキャリアマネジメント	事前学習	テキスト第4章 pp. 89~114 を読んで、自分なりに適材適所に関する考え方をまとめる。
		事後学習	この学習を通して、組織と個人の関係についてまとめ、経営組織について理解を深める。
第7回	リーダーシップ リーダーシップの意義 優れたリーダー行動と権限委譲 状況適応理論	事前学習	テキスト第5章の pp. 117~143 を読み、リーダーシップの重要性についてまとめる。
		事後学習	優れたリーダーシップとはどういうものかという視点から、事前学習での考察を再度見直し、まとめる。
第8回	集団組織のダイナミズム 意思決定のプロセス 集団組織の意思決定と個人の意思決定のメリット	事前学習	テキスト第6章 pp. 145~163 を熟読し、内容をまとめる。
		事後学習	組織活動のなかで最も重要なテーマの一つである意思決定について、過去の事例を加えながらまとめる。
第9回	意思決定のごみ箱モデル 集団の失敗 グループ・シンク グループシフト	事前学習	テキスト第6章 pp. 163~174 を熟読するとともに、集団の圧力について考察する。
		事後学習	学習をもとに、集団が誤った意思決定をした事例をまとめ、考察力を深める。
第10回	コンフリクト・マネジメント コンフリクトのプロセス ダイバシティ・マネジメント	事前学習	テキスト第7章 pp. 177~208 を熟読しまとめ、コンフリクトについての予備知識を得る。
		事後学習	学習成果を応用して、コンフリクトの無い集団はあるのか、という視点からまとめる。
第11回	組織デザイン 組織における分業 分業されたタスクの調整方法	事前学習	テキスト第8章 pp. 211~240 を熟読し、組織デザインについての内容をまとめる。
		事後学習	組織における分業について、事例を取り上げ適応・考察してまとめ、理解を深める。
第12回	ヒエラルキーの設計 機能性組織と事業部制組織 グルーピングの基本	事前学習	テキスト第8章 pp. 241~255 を読み、企業の伝統的なヒエラルキーをまとめる。
		事後学習	機能別組織から事業部制組織に発展した企業事例を取り上げて、まとめることで理解を深める。
第13回	環境のマネジメント 制度・市場・利害者集団と組織 利害者集団との関係	事前学習	テキスト第9章 pp. 256~270 を読み、利害者集団を中心にまとめる。
		事後学習	利害者集団とのつながりがいかに重要かという視点を中心に学習内容をまとめ、企業活動への理解を深める。
第14回	組織変革とトップの役割 経営理念とビジネスシステム 企業の社会的責任	事前学習	テキスト第10章 pp. 273~305 を読みまとめる。組織の変革という概念を理解する。
		事後学習	明確なる経営理念とリーダーシップのもとで変革

			するビジネスシステムという視点で学習内容をまとめ、創造・思考力を高める。
第15回	授業のまとめ	事前学習	会社という組織を通してキャリアの育成からはじまった当該学習の内容を再確認し、疑問点や問題点などをまとめる。
		事後学習	この学習で理解した経営組織のあり方をまとめると共に、関心ある企業などを取り上げて理論と実践との差異などを比較・考察する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	健康・医療心理学／健康心理学 (2単位)		3. 科目番号	SPMP3337 PSMP3337						
2. 授業担当教員	齋藤 瞳									
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期							
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>行動変容を大きなテーマに、より健康な生活を送ることができるよう心理学的観点から学ぶことを目的とする。そして、人間の「心と体」の健康の維持・増進、疾病の予防のために、心や体の健康を阻害する危険因子(risk factor)を、bio-psycho-socioの3つの観点から発見し、それを防除することを目指し、保健医療の現場で役立つ基礎を学ぶ。</p> <p>また、災害などに遭遇したときの人間の心理と行動を理解し、緊急事態や災害を体験した人々に見られる心理的反応と行動の特徴を知ると同時に、これらに基づき災害への備えや対応を含む方略を考える。</p>									
8. 学習目標	新しい学問としての、健康・医療心理学の本質を理解し、人間の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、どのような支援が可能か自分の考えを述べるようになる。									
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康増進を目指した行動変容プログラムに取り組むことを課題とする。 ・自身の生活習慣を振り返ると同時に、プログラム実施結果についてレポートにまとめる。 									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】野口京子『新版健康心理学』金子書房。</p> <p>【参考書】金政祐司・大竹恵子(編著)『健康とくらしに役立つ心理学』北樹出版。 島井哲志・長田久雄・小玉正博(編著)『健康心理学・入門-健康なこころ・身体・社会づくり』有斐閣アルマ。 日本健康心理学会(編集)『健康心理学概論(健康心理学基礎シリーズ)』実務教育出版。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 健康・医療心理学の本質を理解し、人間の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、どのような支援が可能かについて、自分の考えを述べ、実践することが出来るようになったか。</p> <p>○評定の方法 授業への積極的参加、日常の受講態度、課題レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への参加態度(授業態度、積極的参加)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>				1 授業への参加態度(授業態度、積極的参加)	総合点の30%	2 課題レポート	総合点の30%	3 期末レポート	総合点の40%
1 授業への参加態度(授業態度、積極的参加)	総合点の30%									
2 課題レポート	総合点の30%									
3 期末レポート	総合点の40%									
12. 受講生へのメッセージ	健康心理学の授業で学んだことを日常生活・現場で生かすことができるよう、質疑応答・議論を積極的に行い、主体的に学ぼうとする姿勢で授業参加することを期待します。 人に迷惑をかける行為を慎むことは受講する上での基本事項ですが、実りある授業時間となるよう学生自身の積極的な協力をお願いいたします。									
13. オフィスアワー	初回授業時にお伝えします。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーション 健康心理学とは?	事前学習	健康心理学のテキストを購入し、概要を確認							
		事後学習	自身の発表担当章の確認と、発表に向けての見通しを立てる							
第2回	ITを用いた健康増進プログラムの施行	事前学習	健康増進プログラムへの登録							
		事後学習	日常における健康増進プログラムへの取り組み							
第3回	健康増進プログラムの実施状況の確認	事前学習	生活習慣と健康について、テキスト第6章・第12章を予習							
		事後学習	自身の生活習慣に関する振り返り							
第4回	健康心理学の基盤となる心理学の概念	事前学習	第2章に関して学習促進レポートを作成							
		事後学習	第2章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施							
第5回	健康行動の理解	事前学習	第3章に関して学習促進レポートを作成							
		事後学習	第3章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施							
第6回	ストレスと健康	事前学習	第4章に関して学習促進レポートを作成							
		事後学習	第4章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施							
第7回	パーソナリティと健康	事前学習	第5章に関して学習促進レポートを作成							
		事後学習	第5章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施							
第8回	ソーシャルサポート	事前学習	第7章に関して学習促進レポートを作成							
		事後学習	第7章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施							
第9回	健康増進プログラム実施状況の確認	事前学習	健康増進プログラムの実施状況についての振り返り							
		事後学習	ディスカッションを踏まえプログラムへの取り組みを再開							

第10回	ヘルスケアシステム	事前学習	第8章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第8章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第11回	健康教育	事前学習	第9章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第9章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第12回	健康心理学で用いるアセスメント	事前学習	第10章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第10章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第13回	健康心理カウンセリング	事前学習	第11章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第11章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第14回	災害時における心理的支援	事前学習	緊急事態等における心理的反応と行動について考える
		事後学習	災害等への備えや対応について日常に活かす
第15回	学習到達度チェック	事前学習	これまでの授業に関する内容全てに関する復習
		事後学習	健康増進プログラム課題レポートの作成

1. 科目名(単位数)	健康・スポーツ (2単位)	3. 科目番号	GEHL1101
2. 授業担当教員	古俣 龍一		
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技(現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しむながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1 現場において他者にも説得力のある説明が出来るように、まず、体力テストで得られた自身の体力の結果を総合的に分析・考察する。(レポート)</p> <p>課題2 現代っ子の体力面の問題点や課題を探り、将来に向けてどのような手立てを講じていけばよいのかを探る。(ディスカッション)</p> <p>課題3 人が健康に生きることとはどのようなことなのか、その本質を追求できるようにさまざまな要素を挙げながら探る。(ディスカッションおよびレポート)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】文部省(文部科学省)『新体力テスト 有意義な活用のために』ぎょうせい、2016年。 『トラベジウム』圭文社、2009年。 参考文献を適宜配布し、ディスカッションする。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力や運動レベルの差が大きいので、自己への挑戦・前向きな姿勢(出席状況含む)を評価規準とする。 2. 実技試験への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、健康への考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 60%(出席状況や意見発表を含む) 2. 実技試験・課題レポート 30% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>近年、児童生徒の基礎体力の低下や基本的な生活習慣の乱れが各方面から叫ばれています。持久力、巧緻性などといった基礎体力は1985年あたりから低下の一途をたどり、現在においても依然として低下、停滞の傾向を認める項目が少なくありません。また、基本的な生活習慣においては、それを構成する要素として「適正な睡眠」、「バランスの取れた栄養」、「適度な運動」、「必要に応じた休養」および「身のまわりの環境」などを挙げることができますが、社会構造の複雑化、ライフスタイルの多様化に伴い、人々の生活の夜型現象は確実に進行し、この余波は児童生徒にも及んできていることは周知の事実です。</p> <p>このような状況下において今、将来の子どもたちの「健康」と「スポーツ」を考えていくことはとても重要な意味をもちます。そしてそのことから我々が今後においてどのように現場で「健康教育」や「スポーツ」を推進していくかが大きな課題となります。また、このことから自身への健康感の認識の構築にも重要な役目を担うことになるはずで。</p> <p>本講義(実技や演習も含む)では、現代っ子の体力的現状をわかりやすく解説するとともに実践的な実技をおりませながら、これを発展させてこれからのあるべき自身の「健康・スポーツ」を展望し、真の健康を勝ち取るためには何が必要で何が重要なのかを探っていきます。</p> <p>本授業は実技や演習もありますので、その際には必ず体育着で臨んでください。ジーパンは禁止です。また、体育館での運動は体育館シューズが必要です。これは運動をするに当たったの最も基本的な事項であることをおさえてください。</p>		
13. オフィスアワー	春期、秋期とも授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（本講義の必要性と重要性） *資料や教科書を確認しながらこれから何を学習していくのかを知り、自分なりに授業の展望を掴む。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	次時から行なうスポーツテストの意義や特性を押さえる。
第2回	スポーツテスト① 各項目の測定 <実技> *実際にスポーツテストを体験しどの年代でどのような項目が求められているのかを知る。	事前学習	各測定種目の実施方法の把握。①
		事後学習	数値化した測定項目を記録し、その結果のもつ意味を理解する。①
第3回	スポーツテスト② 各項目の測定 <実技> *実際にスポーツテストを体験しどの年代でどのような項目が求められているのかを知る。	事前学習	各測定種目の実施方法の把握。①
		事後学習	数値化した測定項目を記録し、その結果のもつ意味を理解する。②
第4回	スポーツテスト③ 各項目の測定 シャトルランの測定方法とその実際 <実技> *実際にスポーツテストを体験しどの年代でどのような項目が求められているのかを知る。	事前学習	シャトルランの実施方法の把握。
		事後学習	シャトルランの特性をしっかりと把握するとともにすべてのテスト種目において自分なりの感想をもてるようにする。
第5回	スポーツテストの統計処理① <講義・演習・ディスカッション> *得られたテスト結果をどのようにしてまとめると分析しやすくなるのか、その方法の概要を知る。	事前学習	測定項目を統計処理する必要性を考える。①
		事後学習	Tスコアのもつ意味を理解する。①
第6回	スポーツテストの統計処理② <演習・ディスカッション> *実際に得られた結果を分析し、それをグラフ化する技法を身に付けることができることを知る。	事前学習	測定項目を統計処理する必要性を考える。②
		事後学習	Tスコアのもつ意味を理解する。②
第7回	スポーツテストの分析① 現代っ子の体面における問題点 <講義・ディスカッション 課題Ⅰの提示> *スポーツテストにおける各項目の特性を理解し、基礎体力や基本的運動能力との関連性を知る。	事前学習	現代っ子の体面的特性を自分なりに理解する。
		事後学習	課題Ⅰを講義やディスカッションを参考にして取り組む。
第8回	スポーツテストの分析② 現代っ子の基本的な生活習慣における問題点 <講義・ディスカッション 課題Ⅱの提示> *健康な生活を送るためには基本的な生活習慣が大きな役割を果たしていることを知る。	事前学習	基本的な生活習慣の重要性について調べる。
		事後学習	課題Ⅱを講義やディスカッションを参考にして取り組む。
第9回	ウェルネスの重要性 <講義・ディスカッション> *ウェルネスの概要を理解し、健康に生きるためにはスポーツのみならずその他さまざまな要素が絡まりあって構成されていることを知り、再度、健康観について論じることが出来るようにする。 ・グループごとのディスカッション <課題Ⅲの提示>	事前学習	健康に生きるための条件をいくつか考える。
		事後学習	ウェルネスの基本的な考え方を理解し、課題Ⅲに取り組む。
第10回	これまでの授業で学んだことを生かして「スポーツ大会」を計画しよう（ディスカッション） *「スポーツ大会」の計画に当たっては、これまで学んできた各事項を生かしつつ、教育現場や当該現場に即した運動内容が的確かつ明確に目的として盛り込むことが出来るようにする。	事前学習	これまで学習してきたことを生かすどのようなスポーツ大会を計画することが可能かを考える。
		事後学習	ディスカッションを通して理想的なスポーツ大会ができたか考える。
第11回	スポーツ大会① *教師の評価の観点および学生の自己評価： ア、運動を行うのにふさわしい服装で臨んでいるか イ、大会を盛り上げようと自分なりに努力しているか ウ、運営を円滑に行えるように協力しているか エ、実際に現場に即した状況を適宜想定しているか オ、本時の大会運営が目的に即して行われたか	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。①
		事後学習	左記の5項目の自己評価について個々で振り返りをする。①
第12回	スポーツ大会② *教師の評価の観点および学生の自己評価： ア、運動を行うのにふさわしい服装で臨んでいるか イ、大会を盛り上げようと自分なりに努力しているか ウ、運営を円滑に行えるように協力しているか エ、実際に現場に即した状況を適宜想定しているか オ、本時の大会運営が目的に即して行われたか	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。②
		事後学習	左記の5項目の自己評価について個々で振り返りをする。②
第13回	スポーツ大会③ *教師の評価の観点および学生の自己評価：	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。③

	<p>ア、運動を行うのにふさわしい服装で臨んでいるか イ、大会を盛り上げようと自分なりに努力しているか ウ、運営を円滑に行えるように協力しているか エ、実際に現場に即した状況を適宜想定しているか オ、本時の大会運営が目的に即して行われたか</p>	事後学習	左記の5項目の自己評価について個々で振り返りをする。③
第14回	<p>スポーツ大会④ *教師の評価の観点および学生の自己評価： ア、運動を行うのにふさわしい服装で臨んでいるか イ、大会を盛り上げようと自分なりに努力しているか ウ、運営を円滑に行えるように協力しているか エ、実際に現場に即した状況を適宜想定しているか オ、本時の大会運営が目的に即して行われたか</p>	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。④
		事後学習	左記の5項目の自己評価について個々で振り返りをする。④
第15回	<p>まとめ・評価 *これまで学んできた ①スポーツテストの項目とその意義 ②データを使っての簡単な統計処理の仕方 ③得られた結果をもとにした相応な分析 ④基本的習慣の重要性 ⑤ウェルネスの基本的な考え方 ⑥対象者に合ったスポーツ大会の計画</p> <p>などの項目が理解できているかのまとめと評価を行う。</p>	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。⑤
		事後学習	これまで学んできた左記の6項目について改めて振り返り、健康で活力のある生活を送るためにはどのようなことに留意していけばよいかを考える。また、本授業で培った体験を今後の生活に生かせるようにすることを確認する。

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2単位)	3. 科目番号	GEHL1301 JNGL2103
2. 授業担当教員	山内 健次		
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しむながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツデイは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合っており成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題レポート：健康であるために今後どのようなスポーツ、運動を実践していきたいか		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 使用しません (授業内で配布したプリントを使用します)</p> <p>【参考書】 神戸大学大学院人間発達環境学研究科健康科学研究会編「基礎としての健康科学」大修館書店 茨城大学健康スポーツ教育専門部会編「健康スポーツの科学」大修館書店 出村慎一 監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院 黒川隆志 他「健康スポーツ科学」技法堂出版</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力や運動レベルの差が大きいので、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価規準とする。 2. 実技試験への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、健康への考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 60% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技試験・課題レポート 30% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	現代社会における健康に対しての問題点をしっかり理解し、自分自身の健康増進に役立てましょう。		
13. オフィスアワー	授業内でお知らせいたします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (受講にあたっての服装や態度と注意点、授業内容の確認、成績評価方法) 現代社会と健康① (平均寿命と健康寿命 少子化 老年化指数)	事前学習	日本の2019年度国民医療費について調べてくる。
		事後学習	他の国の老年化指数を調べてみる。
第2回	現代社会と健康② (日本人の死亡原因 子どもの死亡原因)	事前学習	近年の日本人の死亡三大要因について調べてくる。
		事後学習	30代、40代、それ以上の成人の死亡原因は何か調べてみる。
第3回	現代社会と健康③ ((健康に対する定義 病気の一次予防・二次予防・三次予防 健康を作る社会づくり 国民健康づくり対策))	事前学習	健康とは何かについて考えてくる。
		事後学習	健康の維持増進のために自分にできることを実践する。
第4回	からだと栄養	事前学習	自分自身の体脂肪量を確認してくる。自分の一日の消費カロリー量を考えてくる。
		事後学習	食品に含まれる栄養素をまとめる。
第5回	生活習慣と健康① 食事バランスガイド	事前学習	身近な食品のカロリー量を調べる。
		事後学習	自身の食事の摂り方について見直す。
第6回	生活習慣と健康② 健康づくりのための身体活動基準 2013 健康づくりのための睡眠指針 2014))	事前学習	自分の一日の身体活動を書き留めておく。
		事後学習	身体活動量が増す生活を実践する。

2020年度

第7回	生活習慣と健康③ 飲酒・喫煙がからだに及ぼす影響	事前学習	日本人の喫煙率を調べてくる。
		事後学習	飲酒・喫煙以外の嗜好品によって、健康を害するものがあるのか調べてみる。
第8回	メタボリック症候群と生活習慣病① 高血圧 脂質異常症	事前学習	生活習慣病を予防するには、どのように生活を送ればよいのか考えてくる。
		事後学習	生活習慣病を予防するために、自分で実践できることを決める。
第9回	メタボリック症候群と生活習慣病② 心疾患 脳血管疾患	事前学習	生活習慣病の罹患率を調べてくる。
		事後学習	自分の生活習慣で修正する点をまとめる。
第10回	メタボリック症候群と生活習慣病③ 糖尿病 生活習慣病と運動の関係 健康診断書の数値の読み方)	事前学習	自分自身の健康診断結果について確認してくる。
		事後学習	何か生涯スポーツとして活動できるものを考える。
第11回	体力の科学① (生活変化に伴う体力の衰え 体力の定義 体力の分類 発育と発達 子どもの体力)	事前学習	自分自身の体力測定結果を確認してくる。
		事後学習	子どもの発育発達に応じた運動をまとめる。
第12回	体力の科学② (青年期 壮年期 高齢者の体力 ロコモティブシンドローム)	事前学習	高齢者が日常生活を送る上での、問題点を考えてくる。
		事後学習	高齢者に優しい社会づくりを実践する。
第13回	身体(からだ)のしくみ① (骨=頭部・体幹・上肢・下肢 関節 歯)	事前学習	おおまかなからだのしくみについて調べてくる。
		事後学習	学習した骨の名称を自分の身体で確認する。
第14回	身体(からだ)のしくみを知る② (筋肉の種類と構造 神経系の分類 自律神経系のはたらき ストレスと自律神経 ストレスの対処法))	事前学習	自分自身のストレスは何か考えてくる。
		事後学習	学習したストレス対処法を実践してみる。
第15回	救急手当(心肺蘇生法 気道内異物除去)と応急手当(創裂刺傷 骨折・捻挫の固定法 熱傷 鼻血等)の実際	事前学習	これまで習ってきた心肺蘇生法について復習してくる。
		事後学習	傷の手当てや熱傷の手当てなどを復習する。
期末試験			
15.実務経験を有する教員特記事項	陸上競技世界選手権出場およびオリンピックの代表選手としての知見を活かし、「7」に示した講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2単位)	3. 科目番号	GEHL1301
2. 授業担当教員	飯田 昌男		GEHL1112
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しむながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツデイは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合っており成り立っていることを理解し、自ら実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1, 現代社会におけるスポーツの必要性について私見をまとめる。 2, これからの私と運動 (スポーツ) (1, 2, のどちらかを800字以内で、書式及び提出については授業内にて説明する)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】必要に応じて資料を配布する。 【参考書】東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力や運動レベルの差が大きいので、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価規準とする。 2. 実技試験への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、健康への考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 60% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技試験・課題レポート 30% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技中心の授業のため、それにふさわしい服装 (髪型、靴、爪等も含む) で参加してください。体育館シューズも用意してください。 2. 欠席は学則に則り3回までです。出席を取っている間の入室は出席とし、それ以降の入室は欠席とします。ただし、授業は受けられます。理由は、時間を守ることはとても重要であると考えています。また、ケガ防止のため準備運動をしていただくためです。また、無断で早退した場合は欠席とします。 3. 自ら進んで授業に取り組み、スポーツの楽しさを大いに味わってください。 4. わからないことや疑問に思ったことは、その場で質問・意見をしてください。 		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、体育概論① (運動の勧め)	事前学習	軽く運動をしておく。
		事後学習	配布した資料に振り返りを記録する。
第2回	ジョギング、ストレッチ実践論、フライングディスク	事前学習	実技に入るので軽く運動をしておく。
		事後学習	ストレッチを復習する。
第3回	団体競技 (フライングディスク)	事前学習	「アルティメット」のルールを調べておく。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第4回	団体競技 (フライングディスク)	事前学習	ルールを調べて確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第5回	個人競技 (バドミントン)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第6回	個人競技 (バドミントン)	事前学習	ルールを調べて確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第7回	団体競技 (ソフトバレーボール)	事前学習	ルールを調べてくる。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。

2020年度

第8回	団体競技（ソフトバレーボール）	事前学習	ルールを調べて確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第9回	団体競技（ソフトバレーボール）	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第10回	団体競技（バスケットボール）	事前学習	ルールを調べておく。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第11回	団体競技（バスケットボール）	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第12回	体育概論②（体力について）	事前学習	「体力の分類」を調べてくる。
		事後学習	「体力の分類」をまとめる。
第13回	体育概論③（身体の骨格や筋肉について）	事前学習	骨格や筋肉の名前を調べてくる。
		事後学習	骨格や筋肉の名前を覚える。
第14回	体育概論④（各種トレーニングについて）	事前学習	トレーニングの種類や内容を調べてくる。
		事後学習	トレーニングの種類をまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	今までの種目や振り返りを読んでくる。
		事後学習	今後の自分への課題を見つけ、健康な生活を送れるように考えをまとめ実践すること。
6月	赤城山宿泊研修		
10月	合同スポーツデイ		
15.実務経験を有する教員特記事項	高等学校教諭(体育)、また専門学校においてレクリエーション・インストラクターの資格申請にかかわってきた知見を活かし、「7」に示した講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	健康管理学 (健康相談活動を含む) (2単位)	3. 科目番号	SSMP2345 SNMP2345 SCMP2345 SBMP2345 SPMP2345
2. 授業担当教員	山内 健次		
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本講義は衛生管理者資格取得に関する科目である		
7. 講義概要	健康は、人がより豊かで充実した人生を過ごすという目的を達成するための手段であるという観点から、自分の視点や考え方を盛り込んだ健康観を確立することをねらい、健康とは何かを理解し、健康増進のための生活習慣の知識および実践方法を学習する。また人間の健康を保持増進するための社会や環境はどうあるべきかなど社会や環境と健康とのかかわりについて理解し習得する。 身体の構造や仕組みについても併行して理解する。		
8. 学習目標	1. 健康の捉え方、健康観を確立することができるようになる。 2. 生活習慣と健康との関係性を理解し、健康行動に結びつける意識を高めることができるようになる。 3. 健康阻害要因の排除と健康行動の実践を日常生活に導入できる動機づけとすることができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題：自分の中で興味のある、健康に関する何らかテーマを決め、それに基づいたレポート作成をする、		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】使用しない (授業内で配布したプリントを使用する) 【参考書】木村康一 他著『学生のための健康管理学』南山堂 梶川洋 他『基礎から学ぶ健康管理概論』南江堂 郡司篤晃 編著『健康管理概論』医歯薬出版 東あかね 他著『健康管理概論 社会・環境と健康』講談社 中村榮太郎 編著『健康運動指導のための健康管理総論』杏林書院 健康・体力づくり事業財団編『健康運動指導士養成講習会テキスト 上』 健康・体力づくり事業財団編『健康運動実践指導者養成テキスト』		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 健康の捉え方、健康観を確立することができたか。 2. 生活習慣と健康との関係性を理解し、健康行動に結びつける意識を高めることができたか。 3. 健康阻害要因の排除と健康行動の実践を日常生活に導入できる動機づけとすることができたか。 ○評定の方法 授業への参加度……………70% 発表(グループワーク等)……10% 課題レポート (提出物) ……20% 計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	・受講生は下記の条件を厳守し授業に臨んでもらうことを期待しています。 1. 積極的な態度で授業に参加する。 2. 課題レポートの提出日を厳守する。 3. 授業中の私語は絶対しないようにする。 4. 授業中に居眠りをしないようにする。 5. 携帯電話の授業中の作動は厳禁とする。 健康管理は、健康の維持・増進と疾病の早期発見及び治療を目的として、個人や集団に対して行う幅広い活動であり、一生涯続くものですのでその実践に努めましょう。 健康管理学では、学校、職場、地域の健康増進の取り組みについて学習し、WHO で掲げる健康の定義を軸として、健康管理のあり方を学びます。また健康状態についての歴史的流れ及び国際的視点から、現状の日本の姿を把握するようにし、個人の健康管理の必要性から集団の健康管理の必要性を取り上げ、国の施策を織り込みながら疾病の予防、更には健康増進を取り上げて健康生活の基本が理解できるようにします。		
13. オフィスアワー	授業内でお知らせします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、成績評価方法) 健康のとらえ方 (健康の定義、健康観、予防医学)	事前学習	現在の自分が健康の維持増進に対し、どのような行動をとっているかを考えてくる。
		事後学習	健康とは何かについて改めて考え直し、特に不健康な行動を見直す。
第2回	健康の現状① 人口静態調査 (国勢調査による結果) と人口動態調査 (出生・死産・婚姻・離婚者数、平均寿命と健康寿命)、	事前学習	平均寿命の推移について調べてくる。
		事後学習	平均寿命の推移について復習する。
第3回	健康の現状② 人口動態調査 (乳児死亡率と周産期死亡率、死因順位と年齢調整死亡率、) と国民生活基礎調査 (有訴者率と通院者率)	事前学習	子どもの死因の現状について調べてくる。
		事後学習	日本の健康の現状について復習する。
第4回	健康づくりの施策 (国民健康づくり対策、国民健康づくり運動と健康増進法、エンゼルプラン、新エンゼルプラン、健やか親子 21、ゴールドプランなど)	事前学習	戦後の国民健康づくりの施策について調べてくる。
		事後学習	学んだ健康づくり施策について
第5回	健康づくりのための指針 (食生活指針、運動指針、睡	事前学習	様々な食品のカロリーを書き留めてくる。

2020 年度

	眠指針、休養指針)	事後学習	今回の学びから自分の生活の中での運動・栄養・休養について見直す。
第 6 回	生活習慣と健康① (栄養・食生活)	事前学習	栄養・食生活と健康の関係についてまとめる。
		事後学習	栄養・食生活と健康の関係について復習する。
第 7 回	生活習慣と健康② (運動と身体活動、ストレス)	事前学習	自分の一日の身体活動量はどの程度なのか考えてくる。
		事後学習	身体活動・運動、休養・ストレスと健康の関係について復習する
第 8 回	生活習慣と健康③ (喫煙と飲酒、環境要因)	事前学習	喫煙者と飲酒者の年次推移について調べてくる。
		事後学習	喫煙と飲酒がどのように健康に関係するのかをまとめる。
第 9 回	疾病の予防① (メタボリックシンドローム、がん、高血圧、心疾患)	事前学習	生活習慣病の現状について調べてくる。
		事後学習	生活習慣病の予防策について復習する。
第 10 回	疾病の予防② (脳血管疾患、糖尿病、脂質異常症)	事前学習	脳血管疾患、糖尿病、脂質異常症の罹患者数を調べてくる
		事後学習	高齢者と口腔疾患の関係についてまとめる。
第 11 回	疾病の予防③ (歯科・口腔疾患、感染症、精神疾患)	事前学習	精神疾患にはどのようなものがあるか調べてくる。
		事後学習	世界における感染症も調べてみる。
第 12 回	健康管理の進め方 (健康管理の体系、手段、評価)、健康相談の方法	事前学習	自分の健康管理はどのように行っているのかを考えてくる。
		事後学習	健康管理の方法についてまとめる。
第 13 回	地域の健康管理 (保健所、市町村保健センター、健康増進施設)	事前学習	自分の住んでいる街の保健センターについて調べてくる。
		事後学習	保健所と保健センターの役割についてまとめる。
第 14 回	母子の健康管理 (母子保健制度、乳幼児の健康診査、予防接種) と学校の健康管理 (保健教育、保健管理、学校給食)	事前学習	学校の健康管理について調べてくる。
		事後学習	母子手帳などで自分の乳幼児期の健康状態を振り返る
第 15 回	職場の健康管理 (労働災害の現状、労働衛生の 3 管理)	事前学習	労働災害にはどのようなものがあるのか調べてくる。
		事後学習	集団の健康管理について復習する。

1. 科目名 (単位数)	言語学概論 (2単位)	3. 科目番号	EIJP1141
2. 授業担当教員	野口 芙美		
4. 授業形態	講義・演習・討論・発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	言語には日本語も英語もあるが、どの言語にも共通したなんらかの性質がある。この講座は言語体系、言語能力、言語運用などといった言語学の分野でよく使われる用語を紹介したうえで、音、単語、文、意味、文化について考察を進め、ことばの普遍性と多様性を学習していく。		
8. 学習目標	1. どの言語にも応用できる言語学の基礎知識について説明できるようになる。 2. 言語学の基礎知識を日本語 (や母国語) に当てはめ、自分で用例を挙げながら解釈できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎授業ごとにワークシートを配布し、それに沿ってペアワークやグループワークを行いながら授業を進める。ペアワーク・グループワークでの内容は授業後ワークシートにまとめ、授業の感想とともに次回の授業で提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】黒田龍之介著『はじめての言語学』講談社現代新書、2004 【参考書】星浩司著『言語学への扉』慶応義塾大学出版会、2010		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1) 言語学の基礎知識について説明できるようになったか。 2) 言語学の基礎知識を日本語 (と母国語) に当てはめ、自分で用例を挙げながら解釈できるようになったか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する 1 授業への参加態度 総合点の30% 2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の30% 3 提出課題 (レポート等) 総合点の40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は、言語学の基礎知識を学びながら、身近な言語を捉え直す場となることを目指す。言語学で使われる用語は難しくとっつきにくいという印象を持つ人もいるかもしれない。しかし、日常的に使用している言語や学習している言語を様々な視点から捉えることによって、普段何気なく使っていることばにも新しい発見や面白さを見出すことができるはずである。自分や周りの「ことば」に興味を持って、授業に積極的に参加してほしい。		
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、第1章「言語学をはじめる前に」言語学とは	事前学習	言語学とは何か、考えておく。
		事後学習	教科書 pp. 16~47 に目を通しておく。
第2回	第2章「言語学の考え方」目的、体系	事前学習	教科書 pp. 50~63 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第3回	第2章「言語学の考え方」二重分節性と恣意性	事前学習	教科書 pp. 63~86 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第4回	第3章「言語学の聴き方」音声学 (母音と子音、音節とモーラ)	事前学習	教科書 pp. 88~113 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第5回	第3章「言語学の聴き方」音声学 (アクセント)	事前学習	教科書 pp. 113~118 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第6回	第3章「言語学の聴き方」音韻論	事前学習	教科書 pp. 118~124 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第7回	第4章「言語学の捉え方」形態論	事前学習	教科書 pp. 126~150 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第8回	第4章「言語学の捉え方」統語論	事前学習	統語論についての予習ワークシート問題をしてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第9回	第4章「言語学の捉え方」意味論	事前学習	教科書 pp. 151~165 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。
第10回	第4章「言語学の捉え方」語用論	事前学習	語用論についての予習ワークシート問題をしてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。

2020年度

第11回	第5章「言語学の分け方」比較言語学	事前学習	教科書 pp. 168～187 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）
第12回	第5章「言語学の分け方」語族、言語の変化	事前学習	教科書 pp. 187～207 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）
第13回	第5章「言語学の分け方」方言	事前学習	教科書 pp. 207～220 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）
第14回	第6章「言語学の使い方」言葉の評価	事前学習	教科書 pp. 222～241 を熟読しておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）
第15回	これまでの内容の振り返り、期末試験の準備	事前学習	教科書、学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	教科書、ワークシートを復習し、期末試験の準備をする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	権利擁護と成年後見 (2単位)		3. 科目番号	SSMP3101 SCMP3101
2. 授業担当教員	梶原 洋生			
4. 授業形態	講義・討議	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	1 権利擁護の基本的な考え方・成年後見制度の概要・成年後見人の活動の実際について、実務の動向も含めて学ぶとともに、成年後見制度と関わりのある諸制度や専門職の役割について学ぶ。 2 権利擁護・成年後見制度の理解の前提となる憲法と民法の基本的な考え方を学ぶ。			
8. 学習目標	1 権利擁護相談援助と日本国憲法、民法、行政法とのかかわりを理解、習得し、説明できる。 2 成年後見制度の概要及び成年後見人等の役割、実務について理解、習得し、説明できる。 3 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解し、説明できる。 4 成年後見活動の実際及び権利擁護活動の実際について考察し、理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。 2 課題レポート(レポート用紙4枚程度)の提出を義務付ける。テーマ：「成年後見制度と日常生活自立支援事業の連携について」			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業を通じて、権利擁護の基本的な考え方、成年後見制度の概要、成年後見人の活動等を理解し、説明できるようになっているか。 2. レポート課題を通じて、授業で学んだ知識を活用して、説明できるようになっているか。 3. 期末試験を通じて、専門用語等を理解し、説明できるようになっているか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加 総合点の40% 2. レポート 総合点の30% 3. 期末試験 総合点の30%			
12. 受講生へのメッセージ	専門職を目指す人として、鋭い人権感覚を身に付けておくことは大切です。 近年、成年後見制度や日常生活自立支援事業の需要も増加しています。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	はじめに	事前学習	第1章について概要を200字以内でまとめる。	
		事後学習	第1章の導入について授業内の説明を整理して200字以内でまとめる。	
第2回	基礎法学の知見から考える —概念整理を用いて—	事前学習	第1章第1節から基礎法学の考え方について200字以内でまとめる。	
		事後学習	第1章第1節の事例について200字以内でまとめる。	
第3回	憲法の世界 —権利擁護に必要な憲法原理—	事前学習	第1章第2節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	第1章第2節の参考文献について憲法原理を中心に200字以内でまとめる。	
第4回	行政法の世界 —権利擁護に必要な行政法の原則—	事前学習	第1章第3節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	第1章第3節の参考文献について行政法を中心に200字以内でまとめる。	
第5回	民法の世界 —権利擁護に向けた民法の運用—	事前学習	第1章第3節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	第1章第3節の参考文献について民法の運用を中心に200字以内でまとめる。	
第6回	成年後見制度①(成年後見・保佐・補助の概要、申立の流れ)について	事前学習	第2章第1-5節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	第2章第1-5節の参考文献について3類型の分類を中心に200字以内でまとめる。	
第7回	成年後見制度②(任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の動向)について	事前学習	第2章第6-7節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	第2章第6-7節の参考文献について成年後見制度を中心に200字以内でまとめる。	
第8回	日常生活自立支援事業 (日常生活自立支援事業の概要、日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携)について	事前学習	第3章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	第3章の参考文献について日常生活自立支援事業を中心に200字以内でまとめる。	
第9回	成年後見制度利用支援事業(成年後見制度利用支援事業の概要、その他の財政支援の活用)について	事前学習	第4章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	第4章の参考文献について成年後見制度利用支援事業を中心に200字以内でまとめる。	
第10回	権利擁護にかかわる組織・団体(家庭裁判所・	事前学習	第5章第1-3節について200字以内でまとめる。	

2020年度

	法務局・市町村の役割) について①	事後学習	第5章第1-3節の参考文献について関連組織と関連団体を整理しながら200字以内でまとめる。
第11回	権利擁護にかかわる組織・団体(社会福祉協議会・児童相談所の役割) について②	事前学習	第5章第4-5節について200字以内でまとめる。
		事後学習	第5章第4-5節の参考文献について事例を中心に200字以内でまとめる。
第12回	権利擁護にかかわる専門職(弁護士・司法書士・公証人・医師等の役割と連携) について	事前学習	第6章について200字以内でまとめる。
		事後学習	第6章の参考文献について権利擁護に関わる各種の専門職の立場を整理しながら200字以内でまとめる。
第13回	成年後見活動の実際	事前学習	第7章について200字以内でまとめる。
		事後学習	第7章の参考文献について授業内の事例を整理しながら200字以内でまとめる。
第14回	権利擁護活動の実際	事前学習	第8章について200字以内でまとめる。
		事後学習	第8章の参考文献について授業内の事例を整理しながら200字以内でまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	教科書全般について200字以上でまとめる。
		事後学習	参考資料全般をノートに整理してまとめなおす。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	権利擁護と成年後見 (2単位)		3. 科目番号	SNMP3301 SBMP3301 SSMP3101 PSMP3401
2. 授業担当教員	上野 義光			
4. 授業形態	講義・討議	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	1 権利擁護の基本的な考え方・成年後見制度の概要・成年後見人の活動の実際について、実務の動向も含めて学ぶとともに、成年後見制度と関わりのある諸制度や専門職の役割について学ぶ。 2 権利擁護・成年後見制度の理解の前提となる憲法と民法の基本的な考え方を学ぶ。			
8. 学習目標	1 権利擁護相談援助と日本国憲法、民法、行政法とのかかわりを理解、習得し、説明できる。 2 成年後見制度の概要及び成年後見人等の役割、実務について理解、習得し、説明できる。 3 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解し、説明できる。 4 成年後見活動の実際及び権利擁護活動の実際について考察し、理解する。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	レポート設題:「成年後見制度と日常生活自立支援事業についておよびその両制度の違いについて」 3000字程度にまとめて、12月中旬までに提出。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業を通じて、権利擁護の基本的な考え方、成年後見制度の概要、成年後見人の活動等を理解し、説明できるようになっているか。 2. レポート課題を通じて、授業で学んだ知識を活用して、説明できるようになっているか。 3. 期末試験を通じて、専門用語等を理解し、説明できるようになっているか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加 総合点の40% 2. レポート 総合点の30% 3. 期末試験 総合点の30%			
12. 受講生へのメッセージ	日常生活に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身に付けておくことは大切です。年々、成年後見制度や日常生活自立支援事業の需要が増加しており、援助の専門職として法制度と実際の知識が必要です。法律は難解な用語が多いので分りやすく説明します。 授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。学生としてのマナーを守ってください。			
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる(4号館2階非常勤講師室)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション、相談援助活動において想定される法律問題	事前学習	教科書第1章第1節(pp.2~6)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	相談援助活動における法律問題について、その内容をまとめる。	
第2回	日本国憲法(近代憲法の基本原理、憲法上の権利と基本的人権、自由権と社会権)の理解	事前学習	教科書第1章第2節(pp.7~16)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	特に基本的人権、社会権に関する理解を深め、その内容をまとめる。	
第3回	日本国憲法(外国人と法人の人権、統治機構、地方自治、財政の原理等)の理解	事前学習	教科書第1章第2節(pp.16~27)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	統治機構、地方自治、財政について、その内容をまとめる。	
第4回	行政法(行政法とは何か、行政行為、行政事件訴訟、行政不服申立制度、国家賠償法等)の理解	事前学習	教科書第1章第3節(pp.28~47)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	行政行為、行政事件訴訟、行政不服申立制度、国家賠償法について、その内容をまとめる。	
第5回	民法(総則・自己決定と代理、物権と債権、契約と消費者保護)の理解	事前学習	教科書第1章第4節(pp.48~62)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	民法総則、物権と債権、契約と消費者保護についての理解を深め、その内容をまとめる。	
第6回	民法(不法行為と損害賠償、親族法、相続法)の理解	事前学習	教科書第1章(pp.62~78)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	不法行為と損害賠償、親族法、相続法について、その内容をまとめる。	
第7回	成年後見制度(成年後見・保佐・補助の概要、申立の流れ)について	事前学習	教科書第2章(pp.82~106)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	成年後見制度について理解し、その内容をまとめる。	
第8回	成年後見制度(任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の動向)について	事前学習	教科書第2章(pp.107~127)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	任意後見制度、成年後見人等の義務と責任について理解し、その内容をまとめる。	
第9回	日常生活自立支援事業(日常生活自立支援事業の概要、日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携)について	事前学習	教科書第3章(pp.130~138)を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	日常生活自立支援事業について理解を深め、その内容をまとめる。	

2020年度

第10回	成年後見制度利用支援事業（成年後見制度利用支援事業の概要、その他の財政支援の活用）について	事前学習	教科書第4章（pp.140~145）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	成年後見制度利用支援事業について、その内容をまとめる。
第11回	権利擁護にかかわる組織・団体（家庭裁判所・法務局・市町村の役割）について	事前学習	教科書第5章（pp.148~161）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	特に家庭裁判所、法務局の役割について理解を深め、その内容をまとめる。
第12回	権利擁護にかかわる組織・団体（社会福祉協議会・児童相談所の役割）について	事前学習	教科書第5章（pp.162~171）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	社会福祉協議会と児童相談所の役割について、その内容をまとめる。
第13回	権利擁護にかかわる専門職（弁護士・司法書士・公証人・医師の役割等）について	事前学習	教科書第6章（pp.174~196）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	弁護士・司法書士等の役割について、その内容をまとめる。
第14回	成年後見活動の実際（事例検討）	事前学習	教科書第7章（pp.198~214）を吟味し、その要点をまとめる。
		事後学習	グループで検討したことを、もう一度振り返ってみる。
第15回	権利擁護活動の実際（事例検討）	事前学習	教科書第8章（pp.216~243）を吟味し、その要点をまとめる。
		事後学習	グループで検討したことを、もう一度振り返ってみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2単位)		3. 科目番号	SNMP2306 SSMP2106 SPMP2106 PSMP2406
2. 授業担当教員	梶原 洋生			
4. 授業形態	講義、グループ学習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートは「現在の生活保護制度が抱えている課題について」というテーマを予定している。(レポート用紙4枚程度)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第16巻 低所得者に対する支援と生活保護制度 (第5版)』中央法規出版。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・生活保護制度、低所得者に対する制度の内容や、これらの制度をとりまく問題について理解できたか。 ・国家試験に対応できる知識を、身につけられたかどうか。 ○評定の方法 授業への参加度 30% 試験・レポート 70%			
12. 受講生へのメッセージ	分からないことについては、積極的に調べ、考えて、授業の内容を習得できるよう努めて欲しい。公的扶助の大切さが理解できるように、現場意識を大切にしながら前向きに努力してほしい。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	はじめに (イントロダクション) — 貧困とは何か —	事前学習	テキスト2章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	参考文献について貧困を整理しながら200字以内でまとめる。	
第2回	公的扶助の概念	事前学習	テキスト1章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	参考文献について公的扶助の概念に関する諸説を200字以内でまとめる。	
第3回	公的扶助制度の歴史	事前学習	テキスト3章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	公的扶助制度の時代性について200字以内でまとめる。	
第4回	生活保護制度の目的と原理、原則	事前学習	テキスト4章1節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	生活保護制度の目的・原理・原則について200字以内でまとめる。	
第5回	生活保護の種類	事前学習	テキスト4章2節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	生活扶助の第1類費、第2類費について200字以内でまとめる。	
第6回	生活保護の内容と方法	事前学習	テキスト4章2・3節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	各扶助について500字程度で説明できるようにする。	
第7回	被保護者の権利と義務・不服申し立て・財源	事前学習	テキスト4章後半について200字以内でまとめる。	
		事後学習	被保護者の権利と義務について200字以内でまとめる。	
第8回	生活保護の動向	事前学習	テキスト6章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	生活保護の動向について200字以内でまとめる。	
第9回	低所得者対策の概要	事前学習	テキスト7章1・4節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	低所得者対策の中で貸付が果たす役割について200字以内でまとめる。	
第10回	ホームレス支援	事前学習	テキスト7章3節について200字以内でまとめる。	
		事後学習	支援の実際例について200字以内でまとめる。	
第11回	生活保護の運営実施体制	事前学習	テキスト8章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	福祉事務所の役割について200字以内でまとめる。	
第12回	生活保護における相談援助活動	事前学習	テキスト9章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	生活保護に係る相談援助活動について200字以内でまとめる。	
第13回	生活保護における自立支援—概念の整理—	事前学習	テキスト10章について200字以内でまとめる。	
		事後学習	自立支援の実際について200字以内でまとめる。	
第14回	生活保護における自立支援—プログラムの策定—	事前学習	テキスト全体について200字以上でまとめる。	
		事後学習	自立支援の実際について200字以上でまとめる。	
第15回	まとめ	事前学習	テキスト全体・配布物について200字以上でまとめ、定義の説明ができるようにする。	
		事後学習	テキスト全体・配布物を再読してノートにまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2単位)	3. 科目番号	SSMP2106
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄		SCMP2106
4. 授業形態	講義、グループ学習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートの課題は以下のものを予定している。 ・現在の生活保護制度が抱えている課題について(1200字程度)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第16巻 低所得者に対する支援と生活保護制度 (第5版)』中央法規出版。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活保護制度、低所得者に対する制度の内容や、これらの制度をとりまく問題について理解できたか。 ・国家試験に対応できる知識を、身につけられたかどうか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への参加度 30%</p> <p>試験・レポート 70%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	近年、貧困が非常に大きな問題として取り上げられている。公的扶助はそのような貧困問題に対処するための仕組みのひとつである。制度はなかなか複雑であり、難しい分野かもしれないが、クライアントのために学ぶという高い問題意識を持って学んでほしい。授業の進行については下に示しているのので、予めテキストを読んでおく程度の予習は最低限してもらいたい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション 貧困とは何か (テキスト第2章)	事前学習	テキスト2章を読んでおくこと。
		事後学習	貧困の基準について考えること。
第2回	公的扶助の概念と範囲 (第1章)	事前学習	テキスト1章を読んでおくこと。
		事後学習	公的扶助とは何かについて説明できるようにしておくこと。
第3回	公的扶助の歴史 (第3章)	事前学習	テキスト3章を読んでおくこと。
		事後学習	日本の公的扶助制度がどのように変わってきたのかを説明できるようにしておくこと。
第4回	生活保護制度の目的・原理・原則 (第4章第2節)	事前学習	テキスト4章2節を読んでおくこと。
		事後学習	生活保護制度の二つの目的について説明できるようにしておくこと。
第5回	生活保護の種類と内容① 生活扶助 (第4章第3節) (第5章)	事前学習	テキスト4章3節を読んでおくこと。
		事後学習	生活扶助の第1類費、第2類費、加算のそれぞれの機能について説明できるようにしておくこと。
第6回	生活保護の種類と内容② その他の扶助 (第4章第3節) 保護施設 (第4章第4節)	事前学習	テキスト4章3・4節を読んでおくこと。
		事後学習	特に、医療扶助と介護扶助の受給プロセスについて説明できるようにしておくこと。
第7回	被保護者の権利と義務・不服申し立て・財源等 (第4章第5～8節)	事前学習	テキスト4章後半を読んでおくこと。
		事後学習	被保護者の権利と義務について説明できるようにしておくこと。
第8回	生活保護の動向 (第6章)	事前学習	テキスト6章を読んでおくこと。
		事後学習	近年の生活保護の動向について説明できるようにしておくこと。
第9回	低所得者支援の制度① 生活困窮者自立支援制度など (第7章第1節、第2節、第5節)	事前学習	テキスト7章1・2・5節を読んでおくこと。
		事後学習	貸付の手順について説明できるようにしておくこと。
第10回	低所得者支援の制度② ホームレス支援 (第7章第4節)	事前学習	テキスト7章4節を読んでおくこと。
		事後学習	ビデオを見て考えたことをまとめること。

第11回	生活保護の運営実施体制（第8章）	事前学習	テキスト8章を読んでおくこと。
		事後学習	福祉事務所の役割について説明できるようにしておくこと。
第12回	貧困・低所得者に対する相談援助活動（第9章）	事前学習	テキスト9章を読んでおくこと。
		事後学習	生活保護における相談援助のプロセスについて説明できるようにしておくこと。
第13回	生活保護における自立支援① 就労自立（第10章）	事前学習	テキスト10章を読んでおくこと。
		事後学習	ビデオを見て考えたことをまとめること。
第14回	生活保護における自立支援② 社会生活自立（第10章）	事前学習	前週のビデオの内容を振り返っておくこと。
		事後学習	ビデオを見て考えたことをまとめること。
第15回	まとめ+社会生活自立の続き	事前学習	前週のビデオの内容を振り返っておくこと。
		事後学習	生活保護における自立支援の意義について説明できるようにしておくこと。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	公認心理師の職責 (2単位)	3. 科目番号	PSMP3356
2. 授業担当教員	若松 直樹		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。</p> <p>(1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析 (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助 (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助 (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供</p> <p>このような職務を適切に遂行するために必要な知識と倫理を身につけるために、①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保、④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧他職種連携及び地域連携について学びます。</p>		
8. 学習目標	①公認心理師の役割について理解し、説明できるようになる。 ②公認心理師の法的義務及び倫理について理解する。 ③心理に関する支援を要する者等の安全確保の方法を身につける。 ④情報の適切な取扱い方について理解する。 ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務を理解し、説明できるようになる。 ⑥公認心理師として求められる資質、技能、倫理について理解し、自己に求められる課題把握ができるようになる。 ⑦生涯学習への準備の必要性を理解する。 ⑧他職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	事前・事後学習はきちんとやってください。 2つのレポートを書いてもらいます。テーマと内容は授業で知らせます。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 野島一彦・繁枘算男監修『公認心理師の職責』遠見書房		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 ①公認心理師の役割について理解し、説明することができる。 ②公認心理師の法的義務及び倫理について理解している。 ③心理に関する支援を要する者等の安全確保の方法を身につけている。 ④情報の適切な取扱い方について理解している。 ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務を理解し、説明できる。 ⑥公認心理師として求められる資質、技能、倫理について理解し、自己に求められる課題把握ができる。 ⑦生涯学習への準備の必要性を理解している。 ⑧他職種連携及び地域連携について理解し、説明できる。 ○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢20%、試験40%、課題レポート40%で判断する。		
12. 受講生への メッセージ	公認心理師になるためには長い道のりがあり、その途上で自分の公認心理師としての適性を確認する作業が必要となる。実習に出るまでには、自分の適性を見極めておこう。		
13. オフィスアワー	授業で知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション なぜ公認心理師を目指すのか?	事前学習	公認心理師を目指す場合の動機をまとめておく。
		事後学習	他の受講生の意見を自らの場合と比較検討する。
第2回	公認心理師の役割	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第3回	公認心理師の法的義務・倫理	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第4回	クライアント/患者らの安全の確保のために	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第5回	情報の適切な取り扱いについて	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第6回	保健医療分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第7回	福祉分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第8回	教育分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。

第9回	司法・犯罪分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第10回	産業・労働分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第11回	支援者としての自己課題発見・解決能力	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第12回	生涯学習への準備	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第13回	多職種連携・地域連携	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第14回	公認心理師の今後の展開	事前学習	教科書の事前確認から問題意識を創出する。
		事後学習	関心事項の情報を追加検索する。
第15回	公認心理師とは何か（全体のまとめ）	事前学習	公認心理師に求められる要件のために何を学修（経験・体験）する必要があるかまとめておく。
		事後学習	公認心理師に必要な要件を日常生活で実践する。

1. 科目名 (単位数)	高齢者介護論 I (2単位)	3. 科目番号	SNMP1110
2. 授業担当教員	岡田 稔、		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>高齢者の生活に視点を当て、「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。また、生活を支援する上で必要な制度、サービスの現状を理解し、他職種との連携を図りながら高齢者の生活を支えていくことの必要性を理解することを目的とする。</p> <p>高齢者の生活に視点をあて、事例を通して「人間と社会」「こころとからだのしくみ」で学習したことを具体的に反復しながら、生活支援技術を行う上で必要な考え方や支援の視点について習得できるよう授業を展開する。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について理解し、援助が行えるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者像を理解し、説明できる。 2. 高齢者の生活の実際を理解し、説明できる。 3. 介護福祉士の役割と支援の視点及び方法を理解し、説明できる。 4. 高齢者や介護を必要とする高齢者を支える社会的背景を理解し、説明できる。 5. 高齢者や介護を必要とする高齢者を支える仕組みや現状を理解し、説明できる。 6. 高齢者に対する尊厳、自立の考え方を理解、説明できる。 7. 高齢者の終末期について理解し、説明できる。 8. 高齢者に対する権利擁護について理解し、説明できる。 9. 高齢者介護における介護福祉士の実践の内容とその際の重要な視点を理解し、説明できる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業内でまとめられなかったレポートやディスカッションのまとめは、次の授業で提出すること。 ② 自分が目指す介護福祉士像と、それに向けて今後何をしていくかについてレポート (指定用紙) にまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護概論で使用した『介護の基本 I』・『介護の基本 II』を使用するため、新たに購入する必要はありません。その他適宜、資料を配布する。</p> <p>【参考書】 授業の中で適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者像や高齢者の生活の実際を理解することができる。 2. 高齢者や介護を必要とする高齢者を支える社会的背景を理解し説明できる。 3. 高齢者に対する尊厳、自立の考え方を理解し説明できる。 4. 高齢者の終末期について理解し説明できる。 5. 高齢者に対する権利擁護について理解し説明できる。 6. 上記のことについて、適切な内容でレポートを作成する。 <p>○評定の方法 [レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 70% 2. 授業態度 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	「人間と社会」「こころとからだのしくみ」との関連をふまえて、学習していくようにしてください。「介護概論」や「生活支援技術・基本 I」の学習を参考に、高齢者についての理解を深めてください。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の授業で説明します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義の概要説明戸進め方について テーマ「高齢者」 高齢者の加齢による変化を「こころとからだのしくみ」から理解を深めていく。ICF の概念にそって、健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加においてどのような変化があるかについてグループ討議を行い、表に整理して発表してもらう。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。高齢者に関わる全体像を幅広い視点でとらえて考える。
		事後学習	グループ討議で作成した表に、他のグループの発表から参考となるものを追記し、理解しておく。
第 2 回	テーマ「高齢者の生活」 高齢者の理解から、高齢者の個性や様々な生活様式、習慣、価値観の多様性を理解し、その人らしさを尊重して、支援していくことの重要性を具体的に理解できるように進めていく。	事前学習	前回作成された内容について、具体的に高齢者の暮らしについて調べておく。
		事後学習	高齢者のその人らしい暮らし方について説明できるよう整理する。
第 3 回	テーマ「高齢者の健康」 WHO の概念から健康とは何かを理解する。また、高齢者の健康と健康ではない状態において、どのような状態が起こるか、介護福祉士が支援していく人はどのような健康状態にある人であるかについて理解できるように進めていく。	事前学習	WHO の健康の概念を確認しておく。
		事後学習	心身の健康、社会的な健康について説明できるよう整理する。

第4回	テーマ「高齢者の活動性の向上」 ICFの概念より、生活の不活発から生じる機能低下から、高齢者の活動性の向上の必要性について、ICFの概念図を用いて、生活の不活発な悪循環と生活の活発な良循環について理解できるように進めていく。	事前学習	サクセスフルエイジングについて調べておく。
		事後学習	高齢者の活動性の向上を目指した具体的なプログラムを考え、レポートを作成する。
第5回	テーマ「高齢者に起こりやすい疾病」 「こころとからだのしくみ」から、高齢者に起こりやすい主な疾病について示し、介護福祉士が行う対応について、また、医療との連携の必要性について概略的に理解できるように進めていく。	事前学習	高齢者に多い疾患について、統計をもとに調べておく。
		事後学習	高齢者が健康な状態で生活するために、保健・医療との連携について整理する。
第6回	テーマ「高齢者介護の社会的背景」 少子高齢社会の現状と将来の状況についてデータを用いて説明し、そのことを踏まえて高齢者介護の置かれている問題を理解し、介護福祉士の役割や専門職として求められる介護福祉士像についての理解ができるように進めていく。	事前学習	現在の社会における高齢者の介護問題について調べる。第6回授業時に、調べた新聞等の記事を持参する。
		事後学習	求められる介護福祉士像について整理する。
第7回	テーマ「高齢者への対応」 加齢により重複するさまざまな障害とその対応について、事例を通して考えながら、介護福祉士として求められる対応について理解が深められるように進めていく。	事前学習	事前に配布された事例を読み、課題について考える。
		事後学習	事前学習の内容について授業を受けて介護福祉士の役割を整理する。
第8回	テーマ「高齢者の尊厳の保持」 高齢者の支援において重要な視点「尊厳」について理解を深めていくとともに、事例を通して「高齢者の尊厳の保持」について考え、介護福祉士として実践していく上で、どのような視点で望んでいかなければならないかを理解できるようにすすめていく。	事前学習	尊厳について考える。
		事後学習	人権について考えるとともに、「自分らしさ」について考える。
第9回	テーマ「高齢者の自立」 高齢者の支援における重要な視点である「自立」について理解を深めていくとともに、事例を通して「高齢者の自立支援」について考え、介護福祉士として実践していく上で、どのような視点で望んでいかなければならないかを理解できるようにすすめていく。	事前学習	自立とは何かについて考える。
		事後学習	自立と依存の関係について整理し、自立支援に向けた介護の在り方について整理する。授業の中で提示する課題についてレポートを作成し、次回授業時まで提出する。
第10回	テーマ「高齢者の終末期」 「こころとからだのしくみ」の学習と関連づけ、「死」「終末期」とは何かについて理解を深め、介護福祉士の「介護福祉士の役割」の理解と考え方について理解ができるように進めていく。	事前学習	人間の死について考える。
		事後学習	死と向き合うための心構え、介護福祉士としての役割について整理する。
第11回	テーマ「高齢者の権利擁護」 現代社会の高齢者が置かれている状況の中で、高齢者の権利擁護、プライバシーの保護、説明と同意、個人情報保護についての重要性を理解すると共に、具体的にどのような対応が必要であるかについて、事例を通して理解できるように進めていく。	事前学習	第8回の授業内容を振り返り、人権について整理しておく。
		事後学習	介護福祉士の倫理綱領、行動規範について確認する。
第12回	テーマ「高齢者を支える基盤」 社会保障とは何かの振り返りを行いながら、高齢者の生活を支える社会保障(年金制度、後期高齢者医療制度、市町村施策など)について理解できるように進めていく。	事前学習	わが国の社会保障制度について調べておく。
		事後学習	専門職として必要な社会保障制度等の知識について、授業を通じて整理する。
第13回	テーマ「高齢者を支えるサービス」 介護保険制度における在宅福祉、施設福祉サービスを理解するとともに、その他の高齢者の生活を支えるサービスについて理解を深めていく。また、介護福祉士としてどのようなサービスに携わっていくことができるのかについても理解できるように進めていく。	事前学習	高齢者に関わる社会資源を考える。
		事後学習	インフォーマル、フォーマルな社会資源について整理する。
第14回	テーマ「高齢者を支える民間活動」 社会資源のインフォーマルな支援として、ボランティア、非営利民間活動、高齢者向けサービスの現状を理解し、介護福祉士としてインフォーマルな社会資源の理解と活用ができるように具体的な活動を示しながら、進めていく。	事前学習	認知症カフェについて調べる。
		事後学習	インフォーマル、フォーマルな社会資源の活用を検討する。
第15回	テーマ「高齢者を支える介護福祉士の役割」 1回～14回までの授業を通して、介護福祉士の役割を整理するとともに、自分が目指す介護福祉士像と、それに向けて今後何をしていくかについてレポートをまとめる。	事前学習	1～14回までの授業を振り返る。
		事後学習	高齢者を支える介護福祉士として、自分の目指す姿を整理する。

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (幼) (2単位)		3. 科目番号	SJMP2381
2. 授業担当教員	手計 茂			
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	特になし			
7. 講義概要	国語 (日本語) 能力の養成・強化を主とする。発音・アクセント・方言等の日本語の特質や語法・表現技法に至るまで、日本語の基礎的知識を習得するとともに、語彙力や文章表現力の養成に努める。また幼児の発達段階を踏まえ、実際の絵本等児童文化教材の分析から、国語 (日本語) の使用方法を実感的に理解する。どのような指導を行えば言語能力を向上させていくことができるのか、具体的な教材を用いることで言語能力を高める。			
8. 学習目標	1, 国語科教育の歴史や意義を踏まえ、国語 (日本語) 能力を高める。 2, 言葉の機能や教科としての国語の特質を理解し、説明できるようになる。 3, 話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと的能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につける。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	(1) アサインメント 適宜指示する。 書写用の筆、下敷き、墨汁、半紙を用意しておく。(小・中・高等学校で用いた筆でもよい。講義4回目以降で使用。使用前には連絡する) (2) レポート課題 各授業における「振り返りカード」や、その他の課題を毎回提出する。 課題は期日を守って提出する。遅れは減点対象。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】① 『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社。 ② 文部科学省『幼稚園教育要領』 【その他の教材】 授業において適宜配付する。保存や整理を確実にしておくこと			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 国語 (日本語) 能力を高め、言葉の機能や教科としての国語の特質を理解したか。 2 話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと的能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につけることができたか。 ○評定の方法 授業態度 50% 提出物等 30% 期末試験 20% 上記のほか、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の条件である。			
12. 受講生へのメッセージ	「教育は人なり」。保育者・教育者の言動、特に発する言語は、幼児や児童にとってお手本そのものです。言語技術の低い保育者と出会った子どもたちは、恵まれない環境に置かれたと言わざるをえません。まず保育者・教育者自身がわかりやすく論理的な話し方ができるようになり、その上で児童や幼児の書く力や読む力、話す力、聞く力、そして情緒力を育てていくのです。テキストを読むときは音読をし、演習や話し合いをたくさん行います。座席は指定です。目の前にいる子どもたちにとって、かけがえのない保育者になるという自覚をもって、積極的に授業に臨んでください。			
13. オフィスアワー	別途通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 保育・教育の現場で求められる言語	事前学習	自分が受けてきた国語の授業について、経験をまとめておく。	
		事後学習	幼稚園教育要領と国語科教育の関連についてまとめておく。	
第2回	言葉を磨き、学ぶということ	事前学習	読む・書く・話すがどのようにして整理されたか想起しまとめておく。	
		事後学習	折々の言葉について、考える時間をつくる。	
第3回	学習指導要領以前の国語科教育 「国語科の歴史」	事前学習	自分が受けてきた国語科の授業を整理しておく。	
		事後学習	現行の学習指導要領のポイントをまとめ、暗記する。	
第4回	書写の役割と目的①「硬筆」実技	事前学習	小・中学校時代の書写の授業における自らの経験を想起し、まとめておく。鉛筆の準備。	
		事後学習	姿勢と鉛筆の持ち方・運び方を練習する。	
第5回	書写の役割と目的②「毛筆」実技	事前学習	毛筆で何が苦手かを明確にしておく。用具の準備。	
		事後学習	姿勢と毛筆の持ち方・運び方を練習する。	
第6回	表現力① 絵本読み聞かせとスピーチ 解説と準備	事前学習	スピーチの話題について探しておく。	
		事後学習	紹介する絵本の選択とスピーチ原稿の推敲。	
第7回	表現力① 絵本読み聞かせとスピーチ 発表会 感想と評価	事前学習	時間内に効率的に発表できるよう練習しておく	
		事後学習	多くの絵本を読む。	
第8回	伝統的な言語文化 ことわざ・慣用句	事前学習	日本に古来から伝わることわざ・慣用句について想起しておく。	
		事後学習	文化庁の資料をもとに、正しい使い方ができるようにする。	
第9回	伝統的な言語文化 文法	事前学習	小・中学校時代の文法の授業における自らの経験を想起し、まとめておく	
		事後学習	文法の重要性についてまとめておく	
第10回	伝統的な言語文化 発音・アクセント・方言	事前学習	日頃どんな言葉を使っているか調べる	

		事後学習	日常に使われている例を調べる。
第11回	論理的な表現 具体と抽象	事前学習	最近の若者言葉について想起する
		事後学習	若者言葉について考察のまとめをする
第12回	文学的な文章の読解と演習①	事前学習	印象に残っている作品を想起する。
		事後学習	感想の視点を多く持つ。
第13回	文学的な文章の読解と演習②	事前学習	題名から、内容を想起する。
		事後学習	感想の視点を多く持つ。
第14回	絵本の発表会 劇 演習	事前学習	発表の準備をしておく
		事後学習	多くの絵本を読む
第15回	演習 言葉と私 言語感覚を磨く	事前学習	言葉の持つ力について、まとめておく。
		事後学習	「学ぶということ」の考察をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	国語科指導法 (書写を含む) (2単位)	3. 科目番号	SJMP2391
2. 授業担当教員	新井 美也子		SJMP2291
4. 授業形態	講義 演習 グループ討議 発表 実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>国語科は全教科の基礎基本であり、中心的教科である。そのため、人間形成や社会力及び創造力の基礎となる国語科の指導者として必須の知識への理解と実践力の基礎を育てるのがねらいである。そこで本講義では、学習指導要領に示された「A話すこと・聞くこと」領域、「B書くこと」領域、「C読むこと」領域に基づき、各学年に応じた目標、内容及び指導法についての理解と実践力を育てるようにする。</p> <p>特に、指導法に関しては単なる理解ではなく、発表や討論、模擬授業等を通して指導技術の習得を図る。また、教材や学習活動の開発創造を大切にす意欲的態度を育てる。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 小学校学習指導要領国語について概観し、目標や内容について説明できるようになる。</p> <p>2. 各領域に関する指導事項を理解し、言語活動を通してそれらを指導していくことについて説明できるようになる。</p> <p>3. 小学校の具体的な国語教材を基に、教材研究、指導案作成、模擬授業などを行い、小学校国語科の学習指導の実際を体験的に身に付ける。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1、アサシメント 適宜指示する。(筆ペンを用意しておく。)</p> <p>2、レポート課題</p> <p>(1) 「B書くこと」に関する学習指導案</p> <p>(2) 「C読むこと」に関する学習指導案</p> <p>3、その他の課題</p> <p>(1) 書写の作品</p> <p>課題は締め切りを守って提出する。遅れは減点の対象。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版</p> <p>【参考書】 三省堂編集所編『あたらしい国語表記ハンドブック 第6版』三省堂</p>		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 小学校国語科の目標や内容について説明できるようになったか。</p> <p>2. 各領域に関する指導事項を理解し、言語活動を通してそれらを指導していくことについて説明できるようになったか。</p> <p>3. 小学校国語科の学習指導を行う上で必要な教材研究、指導案作成、授業実践等の知識・技能を体験的に身に付けることができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業態度 50%</p> <p>模擬授業等 30%</p> <p>期末試験 20%</p> <p>上記のほか、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の条件である。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>児童に言語の力を育成するためには、言語環境の整備が重要です。教師は最大の言語環境ですから、教師や保育士を目指す皆さん自身が言語能力に磨きをかけねばなりません。そのための授業です。目の前にいる児童に信頼され尊敬される指導者になるという自覚をもって、授業に臨んでください。授業は指導者・学習者に役割分担し、模擬授業形式で言語活動を展開する中で、読む力、聞く・話す力、書く力を向上させます。また、グループワークを通して、社会が新規採用者に最も要求している豊かな人間関係を醸成できるコミュニケーション能力も身に付けていきます。国語好きな児童を育成できる力を付けていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途指示		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・小学校国語科の目指すもの ・小学校国語科の内容と骨組み ・初等教育指導者に望まれること	事前学習	国語科教育の課題についてまとめておく。
		事後学習	シラバスを読み、授業の概要をつかみ見通しを持つ。
第2回	「B書くこと」の理論と授業の実際 ・学習指導要領「B書くこと」の分析	事前学習	改訂小学校学習指導要領「B書くこと」についてのプリントを概観しておく。
		事後学習	「書くこと」の授業の在り方についてまとめる。
第3回	「B書くこと」の理論と授業の実際 ・「B書くこと」第2学年国語科学習指導案の書き方	事前学習	学習指導案作成に関する教材研究を十分にしておく。
		事後学習	国語科学習指導案の書き方、学習内容、学習活動、留意事項等まとめる。
第4回	「B書くこと」の理論と授業の実際 ・「B書くこと」第2学年国語科学習指導案作成	事前学習	学習指導案作成に関する教材研究を十分にし、学習指導案を事前作成しておく。
		事後学習	授業内容を活かし教科書P. 80～85「こんなもの、見つけたよ」の学習指導案を改善する。
第5回	「B書くこと」の理論と授業の実際 ・「B書くこと」第2学年国語科学習指導案作成・授業準備	事前学習	学習指導案作成に関する教材研究を十分にし、学習指導案を充実したものにしておく。
		事後学習	教科書P. 80～85「こんなもの、見つけたよ」の学習指導案を完成する。

第6回	「B書くこと」の理論と授業の実際 ・「B書くこと」第2学年国語科学習指導案 をもとにした模擬授業	事前学習	模擬授業が展開できるように発問・指示・板書等の準備を 十分しておく。
		事後学習	自分や友人の模擬授業を振り返り、改善点などを整理する。
第7回	「C読むこと」の理論と授業の実際 ・学習指導要領「C読むこと」の分析	事前学習	改訂小学校学習指導要領「C読むこと」についてのプリン トを概観しておく。
		事後学習	「読むこと」の授業の在り方についてまとめる。
第8回	「C読むこと」の理論と授業の実際 ・「C読むこと」第2学年国語科学習指導案 の書き方	事前学習	学習指導案作成に関する教材研究を十分しておく。
		事後学習	国語科学習指導案の書き方、学習内容、学習活動、留意事 項等まとめる。
第9回	「C読むこと」の理論と授業の実際 ・「C読むこと」第2学年国語科学習指導案 作成 ・高学年説明的な文章を読む指導の実際	事前学習	学習指導案作成に関する教材研究を十分にし、学習指導案 を事前作成しておく。
		事後学習	教科書 P. 100～115 「わにのおじいさんのたからも の」の学習指導案を改善する。
第10回	「C読むこと」の理論と授業の実際 ・「C読むこと」第2学年国語科学習指導案 作成・授業準備	事前学習	学習指導案作成に関する教材研究を十分にし、学習指導案 を充実したものにしておく。
		事後学習	教科書 P. 100～115 「わにのおじいさんのたからも の」の学習指導案を完成する。
第11回	「C読むこと」の理論と授業の実際 ・「C読むこと」第2学年国語科学習指導案 をもとにした模擬授業	事前学習	模擬授業が展開できるように発問・指示・板書等の準備を 十分しておく。
		事後学習	自分や友人の模擬授業を振り返り、改善点などを整理する。
第12回	「C読むこと」の理論と授業の実際 ・「C読むこと」第2学年国語科学習指導案 をもとにした模擬授業	事前学習	模擬授業が展開できるように発問・指示・板書等の準備を 十分しておく
		事後学習	自分や友人の模擬授業を振り返り、改善点などを整理する
第13回	6学年を通した系統的な指導の実際 ・話すこと・聞くことと伝統的な言語事項 の指導	事前学習	小学校学習指導要領「A話すこと・聞くこと」について概 観しておく。
		事後学習	二つの国語科学習指導案を修正し提出の準備をする。
第14回	書写に関する授業の理論と実際	事前学習	小学校学習指導要領「書写に関する事項」について概観し ておく。
		事後学習	二つの国語科学習指導案を修正し提出する。
第15回	学習指導要領改定が目指す国語教育・総括	事前学習	単元ノートとして「今日の学習」を整理しておく。
		事後学習	自己評価し、自らの言語技術の向上に取り組む。

1. 科目名 (単位数)	国語科指導法 (書写を含む) (2単位)		3. 科目番号	EDEL2311
2. 授業担当教員	西田 太郎			
4. 授業形態	講義 演習 グループ討議 発表 実技		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>国語科は全教科の基礎基本であり、中心的教科である。そのため、人間形成や社会力及び創造力の基礎となる国語科の指導者として必須の知識と実践力の基礎を育てるのがねらいである。そこで本講義では、学習指導要領に示された「A話すこと・聞くこと」領域、「B書くこと」領域、「C読むこと」領域に基づき、各学年に応じた目標、内容及び指導法についての理解と実践力を育てるようにする。</p> <p>特に、指導法に関しては単なる理解ではなく、発表や討論、模擬授業等を通して指導技術の習得を図る。また、教材や学習活動の開発創造を大切にする意欲的態度を育てる。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 小学校学習指導要領国語について概観し、目標や内容について説明できるようになる。</p> <p>2. 各領域に関する指導事項を理解し、言語活動を通してそれらを指導していくことについて説明できるようになる。</p> <p>3. 小学校の具体的な国語教材を基に、教材研究、指導案作成、模擬授業などを行い、小学校国語科の学習指導の実際を体験的に身に付ける。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・レポート課題 「小学校の国語科の教師は、子どもたちに①何を、②どのように指導すればよいのか」について、授業での学習内容を踏まえ、1200字程度でまとめる。このレポートの内容を踏まえた期末試験を行う。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版</p> <p>【参考書】 文部科学省『【小学校版】言語活動の充実に関する指導事例集』教育出版 小学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 小学校国語科の目標や内容について説明できるようになったか。</p> <p>2. 各領域に関する指導事項を理解し、言語活動を通してそれらを指導していくことについて説明できるようになったか。</p> <p>3. 小学校国語科の学習指導を行う上で必要な教材研究、指導案作成、授業実践等の知識・技能を体験的に身に付けることができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業態度 50%</p> <p>模擬授業等 30%</p> <p>期末試験 20%</p> <p>上記のほか、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の条件である。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>国語科の授業では、他の教科と比較して子どもに指導する内容が曖昧になりがちです。この科目では、子どもたちに国語の力をつける授業とはどのようなものかを考え、どう指導すればよいのかを探ります。講義内では、学生同士の討議により理解を深め、模擬授業等により実践力を身に付けていきます。毎回の事前学習を踏まえた積極的な授業参加により、力のある国語科教師を目指しましょう。</p>			
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 国語科の目標(教科、学年)及び内容の構成について理解する。	事前学習	自分が受けた国語科教育について振り返り、まとめる。	
		事後学習	教科書を熟読し、国語科の目標及び内容について理解を深める。	
第2回	学習指導案の作成の仕方を理解する。	事前学習	配付された学習指導案例を読み、どのような内容が書かれているのかを考える。	
		事後学習	学習指導案を作成する手順や書くべき内容について整理し、理解する。	
第3回	「A話すこと・聞くこと」領域の指導について、具体的な教材を基に、学年目標、指導事項、言語活動等の関連を考え、単元の指導計画を構想する。	事前学習	教科書を読み、「A話すこと・聞くこと」領域の指導事項や言語活動例について知る。	
		事後学習	具体的な教材を基に、単元全体を見通した指導の在り方について理解する。	
第4回	「A話すこと・聞くこと」領域の指導について、指定された教材を基に、一時間の学習目標と評価を構想し、学習指導案を作成する。また、教材の工夫、情報機器の活用等を踏まえた授業展開を構想する。	事前学習	指定された教材について、単元全体を見通し、そのうちの一時分の授業の展開(本時の展開)を構想する。	
		事後学習	学習指導案(本時の展開)の作成方法を理解する。	
第5回	「A話すこと・聞くこと」領域の指導について、第4回で作成した学習指導案を基に模擬授業を実践し、検討(評価)する。	事前学習	作成した学習指導案を基に、授業実践を構想する。	
		事後学習	模擬授業を振り返り、自身で作成した学習指導案の不足部分を補う。	
第6回	「B書くこと」領域の指導について、具体的な教材を基に、学年目標、指導事項、言語活動等の関連を考え、単元の指導計画を構想する。	事前学習	教科書を読み、「B書くこと」領域の指導事項や言語活動例について知る。	
		事後学習	具体的な教材を基に、単元全体を見通した指導の在り方について理解する。	
第7回	「B書くこと」領域の指導について、指定された教材を基に、一時間の学習目標と評価を構想し、学習指導案を作成する。また、教材の工夫、情報機器の活用等を踏まえた授業展開を構想する。	事前学習	指定された教材について、単元全体を見通し、そのうちの一時分の授業の展開(本時の展開)を構想する。	
		事後学習	学習指導案(本時の展開)の作成方法を理解する。	

第8回	「B書くこと」領域の指導について、第7回で作成した学習指導案を基に模擬授業を実践し、検討(評価)する。	事前学習	作成した学習指導案を基に、授業実践を構想する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、自身で作成した学習指導案の不足部分を補う。
第9回	「C読むこと」領域(説明的な文章)の指導について、具体的な教材を基に、学年目標、指導事項、言語活動等の関連を考え、単元の指導計画を構想する。	事前学習	教科書を読み、「C読むこと」領域(説明的な文章)の指導事項や言語活動例について知る。
		事後学習	具体的な教材を基に、単元全体を見通した指導の在り方について理解する。
第10回	「C読むこと」領域(説明的な文章)の指導について、指定された教材を基に、一時間の学習目標と評価を構想し、学習指導案を作成する。また、教材の工夫、情報機器の活用等を踏まえた授業展開を構想する。	事前学習	指定された教材について、単元全体を見通し、そのうちの一時分の授業の展開(本時の展開)を構想する。
		事後学習	学習指導案(本時の展開)の作成方法を理解する。
第11回	「C読むこと」領域(説明的な文章)の指導について、第10回で作成した学習指導案を基に模擬授業を実践し、検討(評価)する。	事前学習	作成した学習指導案を基に、授業実践を構想する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、自身で作成した学習指導案の不足部分を補う。
第12回	「C読むこと」領域(文学的な文章)の指導について、具体的な教材を基に、学年目標、指導事項、言語活動等の関連を考え、単元の指導計画を構想する。	事前学習	教科書を読み、「C読むこと」領域(文学的な文章)の指導事項や言語活動例について知る。
		事後学習	具体的な教材を基に、単元全体を見通した指導の在り方について理解する。
第13回	C読むこと領域(文学的な文章)の指導について、指定された教材を基に、一時間の学習目標と評価を構想し、学習指導案を作成する。また、教材の工夫、情報機器の活用等を踏まえた授業展開を構想する。	事前学習	指定された教材について、単元全体を見通し、そのうちの一時分の授業の展開(本時の展開)を構想する。
		事後学習	学習指導案(本時の展開)の作成方法を理解する。
第14回	C読むこと領域(文学的な文章)の指導について、第13回で作成した学習指導案を基に模擬授業を実践し、検討(評価)する。	事前学習	作成した学習指導案を基に、授業実践を構想する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、自身で作成した学習指導案の不足部分を補う。
第15回	領域ごとに[知識及び技能]の内容と関連させた指導の在り方について振り返り具体的な教材を基に確認する。また、書写指導について、基本点画を中心に指導の実際を学習し、実践意欲を高める。	事前学習	教科書を読み、[知識及び技能]の内容を確認する。
		事後学習	具体的な教材を基に、[知識及び技能]の内容と関連させた指導の方法を整理し、理解する。また、硬筆、毛筆による書写を實踐し、児童にとっての難しさを理解した上で、指導の在り方を構想する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国際社会と日本 (2単位)	3. 科目番号	GELA1334 GELA1354 GELA1134
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループプレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目履修にあたっては事前に以下に挙げる科目の事前・事後履修を推奨します。履修可能な範囲で意欲的に取り組んで下さい。 事前・事後履修を推奨する科目：「政治学」「経済学」「国際関係論」「世界史」「日本史」		
7. 講義概要	「グローバル化」という言葉を頻繁に耳にするようになりましたが、それは一体何を意味するのでしょうか。この授業では、国際社会の状況に関する事例を使用教材(教科書、随筆記事、映像等)を適宜用いて紹介し、それを基にグループ討議を行い、「グローバル化」が世界の人々に及ぼしている影響を多角的に学び、理解を深めます。また、学期を通して、世界各地で起こっている出来事と日本との関わりについても考察を深めていきます。		
8. 学習目標	1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	授業の内容に関する1000～1200字程度のレポートを学期中に課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 眞順平著『岩波ジュニア新書 世界の国 1位と最下位』岩波書店、2010年。 【参考書】 1) 原康著『岩波ジュニア新書 国際関係がわかる本』岩波書店、1999年。 高橋和志ほか『岩波ジュニア新書 国際協力ってなんだろう』岩波書店、2010年。 2) 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』。有斐閣ブックス、2004年。 国際政治、国際経済の分野の専門用語、トピック163項目を解説しています。「集団安全保障」「開発主義」といった本科目でも取り扱う概念について更に理解を深めたいときに有益です。 3) 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007年。 「新・社会福祉要説」東京福祉大学編 ミネルヴァ書房、2005年。 「保育児童福祉要説」東京福祉大学編 中央法規、2013年。 4) 羽場久美子・増田正人編『21世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。 ○評定の方法 成績評価の規準1～3についての達成度を以下の方法により評価する。 ・各受講生の参加意欲・態度(課題の提出状況も含む)について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業(ディスカッションなど)の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、試験・レポートから評価する。(40%)		
12. 受講生へのメッセージ	シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げることも可能である。「国際社会と日本」について関心あるテーマがあれば授業時に提案すること。 また、異文化間コミュニケーションによって知見を拡張させるために、外部研究会主催のシンポジウムや学生主体で企画するシンポジウムに参加する機会も設定しますので、積極的にさまざまな考えと交流してください。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくはe-mailにて対応。toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 国際社会と日本を学ぶための基礎知識(シラバス確認しますので準備してください。コピーなど可。)	事前学習	※オリエンテーションのため次回より
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第2回	地勢と人口① 国土の面積および地政学の初歩	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第3回	地勢と人口② 人口および地政学の初歩	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第4回	経済と政治① GDPと世界経済の動向	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第5回	ミニシンポジウム テーマ: いじめは世界共通の問題? 日本だけの問題? — 学外研究団体の主催するシンポジウムに参加して多様な見方考え方に出会う。または、学生主体でシンポジウムを企画し実践する。	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第6回	経済と政治② 税金から国家の経済活動規模について考える	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。

		事後学習	指示された課題について取り組む。
第7回	レポート①テーマ設定・資料収集・考察	事前学習	国際社会と日本をテーマとしてレポートで調べたいトピックを見つけておく。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第8回	経済と政治③ 軍事力はなぜ必要なのかーリアリズムとリベラリズム	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第9回	経済と政治④ 天然資源の生産と輸出から見える世界	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第10回	開発教育の考え方 世界をどのように学ばせたらよいか考える	事前学習	収集した資料を基にわかったこと、疑問に思ったことを整理する。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第11回	社会① 貧困率の実態から世界を考える	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第12回	社会② 食料自給率の実態から世界を考える	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第13回	社会③ 進学率の実態から世界を考える	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第14回	レポート②発表	事前学習	完成したレポートを発表し意見交換を行う。
		事後学習	指示された課題について取り組む。
第15回	これからの世界と日本 まとめ	事前学習	前回授業で配布された資料を読み疑問点をチェックする。
		事後学習	指示された課題について取り組む。

1. 科目名 (単位数)	子育て支援／保育相談支援演習 (2単位)		3. 科目番号	SJMP3135 SSOT3418 SCOT3418								
2. 授業担当教員	岡野 雅子											
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング		5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	保育士の行う子育て支援の特性として、子どもの保育とともに行う保護者の支援、保護者との相互関係や信頼関係の形成、支援のニーズについての気づきと多面的理解、子どもと保護者が多様な他者とのかかわる機会や場を提供することなどを理解する。支援の展開として、子どもと保護者の状況・状態の把握、支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンス、職員間、関係機関との連携・協働を学ぶ。多様な支援ニーズを抱える子どもと家族への支援の実際(内容・方法・技術)を学ぶ。											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士による子育て支援が求められる社会的状況について理解する。 2. 子育て支援の意義と原則について理解する。 3. 保護者支援の基本を理解する。 4. 子育て支援の実際について学び、内容や方法を理解する。 5. 保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 											
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の社会状況の中で子どもを育てている保護者の立場に立った様々な課題があるが、その中から任意の課題を選んでレポートにまとめる。 ・小課題として、授業中に事例についてグループ討論を行い、考察したことについて提出する。 											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】大嶋恭二他著『保育相談支援』建帛社、2011年</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規</p> <p>岡野雅子他著『新保育学 改訂5版』南山堂、2011年</p>											
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者支援の基本を理解し、説明できるか。 2. 子育て支援の実際について、内容や方法を理解し、説明できるか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験(または期末レポート)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>				1 授業への積極的参加	総合点の20%	2 期末試験(または期末レポート)	総合点の30%	3 課題レポート	総合点の30%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の20%											
2 期末試験(または期末レポート)	総合点の30%											
3 課題レポート	総合点の30%											
4 日常の学習状況	総合点の20%											
12. 受講生へのメッセージ	<p>日常生活の中で親と子どもがかかわる場面に出会う機会をもつように努め、親子の相互作用についてよく観察して、学ぶ姿勢をもってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のルールを守ること(欠席、遅刻をしない)。 2. 私語は慎むこと。 											
13. オフィスアワー	別途通知します。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第1回	オリエンテーション、子育て支援とは	事前学習	子育て支援に関する新聞やニュースについて集めておく。									
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)									
第2回	子育て支援の意義	事前学習	いまなぜ子育て支援が必要かについて考えておく。									
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)									
第3回	子育て支援の基本① 子どもの最善の利益	事前学習	子どもの人権と権利についてまとめておく。									
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)									
第4回	子育て支援の基本② 保護者との共感	事前学習	保護者との信頼関係を築くことについて考えておく。									
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)									
第5回	子育て支援の基本③ 信頼関係の形成	事前学習	信頼関係形成のための姿勢と技術について考えておく。									
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)									
第6回	子育て支援の基本④ 関係機関との連携・協力	事前学習	関係機関にはどのようなものがあるかについて調べておく。									
		事後学習	6回分のふり返り小テストで出来なかった所を見直す。									
第7回	子育て支援の実際① 保育に関する保護者に対する支援	事前学習	保育所の子育て支援について新聞等で事例を集めておく。									
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)									
第8回	子育て支援の実際② 保護者支援の内容	事前学習	保護者支援のポイントや難しさについて調べておく。									
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)									
第9回	子育て支援の実際③ 保護者支援の方法と技術	事前学習	保護者支援の具体的な方法について調べておく。									
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)									
第10回	子育て支援の実際④	事前学習	保護者支援にあたり、計画や記録の重要性に									

	保護者支援の計画、記録、評価、ケースカンファレンス		ついて考えておく。
		事後学習	4回分のふり返り小テストで出来なかった所を見直す。
第11回	児童福祉施設における子育て支援① 保育所における保育相談支援の実際	事前学習	保育実習での経験も参考に保育所における子育て支援の例を調べておく。
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)
第12回	児童福祉施設における子育て支援② 保育所における特別な対応を要する家庭への支援	事前学習	特別な支援を要する家庭について調べておく。
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)
第13回	児童福祉施設における子育て支援③ 児童養護施設等における要保護児童の家庭に対する支援	事前学習	施設における子育て支援の目標について考えておく。
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)
第14回	児童福祉施設における子育て支援④ 障害児施設・母子生活支援施設における支援	事前学習	障害児施設や母子生活支援施設の支援の目標について考えておく。
		事後学習	4回分のふり返り小テストで出来なかった所を見直す。
第15回	保育者に求められる子育て支援	事前学習	全体について確認事項・質問事項を拾い出しておく。
		事後学習	全体をよく振り返ること。

1. 科目名 (単位数)	子ども家庭支援の心理学 (2単位)	3. 科目番号	SJMP3126
2. 授業担当教員	瑞穂 優		
4. 授業形態	講義, ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	子ども家庭支援の心理学では、まず、乳幼児期から老年期までの人の生涯発達のプロセスや、各時期の課題について学ぶ。さらに、家族・家庭の意義や機能を学び、親子関係や家族関係等について、子どもとその家族を、発達の視点や、包括的に捉える視点を習得する。また、現代の子育て家庭に関する社会的状況や、家庭の多様性、特別な配慮を必要とする家庭などについて学び、子どもがうける生育環境からの影響、子どもの心や健康に関わる問題について学ぶ。		
8. 学習目標	① 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題に等について理解する。 ② 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ③ 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 ④ 子どもの精神保健とその課題について理解する		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。 2. テスト		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学 白川 佳子 福丸 由佳 中央法規 2019 【参考書】 平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 生涯発達に関する基礎的な知識を有し、初期経験の重要性について理解できているか 2. 家族・家庭の意義や機能を理解し、家族がどのように発達していくか理解できているか。 3. 子育て家庭を取り巻く社会状況について十分な知識を有しているか 4. 子どもの精神保健に関する基本的な知識を有しているか ○評定の方法 1. 授業への積極的参加態度 総合点の 30% 2. 課題発表もしくはレポート 総合点の 30% 3. 小テスト 総合点の 40%		
12. 受講生へのメッセージ	児童福祉法には、保育士とは、「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう」とあるように、保育者は子どもを保育するだけでなく、保護者の子育て支援をすることが求められています。この授業を通して、人の生涯発達や家族の機能について学び、保育者として子どもにも保護者にも寄り添えるようになってほしいと思います。 そのために、1. 授業にきちんと出席する、2. 私語は慎む、3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にする、の3つは守ってください。また、授業に必要なものの準備が不十分ということがないようにしてください。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	乳児期の発達	事前学習	シラバスと第1講を読んでくる。
		事後学習	乳児期の発達をまとめる。
第2回	幼児期の発達	事前学習	第2講を読んでくる。
		事後学習	幼児期の発達をまとめる
第3回	学童期・青年期の発達	事前学習	第3・4講を読んでくる。
		事後学習	学童期・青年期の発達をまとめる。
第4回	成人期～高齢期の発達	事前学習	第5・6講を読んでくる
		事後学習	成人期～高齢期の発達をまとめる
第5回	家族・家庭の意義と機能	事前学習	第7講を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる。
第6回	家族関係・親子関係の理解	事前学習	第8講を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる。
第7回	子育ての経験と親としての育ち	事前学習	第9講を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる。
第8回	子育てを取り巻く社会的状況	事前学習	第10講を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる。
第9回	ライフコースと仕事・子育て	事前学習	第11講を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる。

第10回	多様な家庭とその理解	事前学習	第12講を読んでくる。
		事後学習	事例を読み、まとめる。
第11回	特別な配慮を要する家庭	事前学習	第13講を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる。
第12回	子どもの生活・生育環境とその影響	事前学習	第14講を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる。
第13回	子どもの生活・生育環境とその影響・・・事例研究	事前学習	事例を読んでくる。
		事後学習	事例研究をまとめる。
第14回	子どものこころの健康にかかわる問題	事前学習	第15講を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	これまでのワークシートを読み返してくる。
		事後学習	全授業を振り返る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	こどもの健康と安全 (2単位)	3. 科目番号	SSOT2414
2. 授業担当教員	橋本 由利子・佐野 葉子		SCOT2414 SJMP2123
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育環境を踏まえ、こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理の具体的な方法を学ぶ。衛生管理、事故の予防及び安全対策、危機管理、防災への備えについて理解する。こどもが体調不良になった場合の対処方法、救急処置と救急蘇生法などを身に付ける。また保育における保健的対応の基本的考え方や3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別的な配慮を必要とするこどもへの対応を学ぶ。保護者や地域との連携を図る方法、保育における保健活動の計画と評価についても学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの健康管理、健康観察の方法について理解し、実施できるようになる。 2. 衛生管理の方法（感染症対策も含む）について理解し、実施できるようになる。 3. 子どもに体調不良が発生した場合の対応について理解し、実施できるようになる。 4. 救急処置および救急蘇生法について理解し、実施できるようになる。 5. こどもの事故の特徴と事故防止の方法、危機管理について理解し、説明できるようになる。 6. 3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別な配慮を要する子どもへの対応を理解し、説明できるようになる。 7. 保護者や地域との連携方法、保健活動の計画と評価について理解し、説明できるようになる。 8. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	子どもの一次救命処置の重要性と手順についてまとめなさい。(1600字程度)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小林美由紀編著『子どもの健康と安全 演習ノート』診断と治療社 【参考書】 中根淳子・佐藤直子編著『子どもの保健』ななみ書房 小林美由紀編著『子どもの保健テキスト』診断と治療社 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの保健に関する個別対応について理解し実施できる。 2. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し説明できる。 ○評定の方法 成績評価については、ミニテスト20%、レポート30%、日常の授業態度50%とし総合的に評価を行う。		
12. 受講生へのメッセージ	こどもの健康と安全は、保育中の乳幼児の命と健康を守るための技術を学ぶ重要な科目です。保育者は乳幼児の普段の状態をよく把握し、普段と少しでも異なる症状があった場合にはそれをいち早く察知し、適切に対処しなくてはなりません。また、乳幼児の養護や看護を行う場合には愛情を持って温かく接する事が大切です。一つ一つの実技を誠心誠意、真剣に行ってください。 受講生は以下のことを必ず守ること。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業は、常に高い緊張感と集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2) 理解できないことはそのまましておかないで、積極的に質問すること。 3) 欠席・遅刻・早退をしないこと（やむを得ない場合は必ず文書で申し出ること）。 4) 授業中の私語、携帯電話の作動は絶対にしないこと。守れない場合は退出してもらいます。 5) 実技・演習は、事故のないように気を引き締めて行うこと。 6) 実習機材の準備・後片付けを積極的に行うこと。 講師は以下のことを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生が積極的に授業に参加（発言、発表）できるように双方向対話型の学習環境を作る。 2) 明らかに授業態度が悪いと判断された場合は厳格に対処する。（その場合、たとえすべて出席していてもF評価になることもあるので注意すること。） 		
13. オフィスアワー	授業内で周知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 妊娠、胎児期の発育、染色体異常	事前学習	シラバスを読んでくる。
		事後学習	妊娠の成立、胎児期の発育と染色体異常について整理する。
第2回	子どもの発育の観察と評価 演習：身体測定	事前学習	子どもの発育状態の把握について調べてくる。
		事後学習	身体測定の方法について整理する。
第3回	子どもの健康状態の観察方法 演習：バイタルサインの測定	事前学習	子どもの健康状態の観察について調べてくる。
		事後学習	バイタルサインの測定について整理する。
第4回	保育における保健的対応：母乳、人工栄養、離乳食 演習：人工乳のつくり方、手洗い方法	事前学習	母乳、人工栄養、離乳食について読んでくる。
		事後学習	人工乳の作り方、手洗い方法を整理する。
第5回	保育における保健的対応：口腔機能の発達と衛生 演習：口腔衛生	事前学習	口腔機能の発達と衛生について調べてくる。
		事後学習	口腔衛生の方法について整理する。
第6回	衛生管理 演習：施設環境・嘔吐物の処理	事前学習	衛生管理について読んでくる。
		事後学習	施設環境・嘔吐物の処理について整理する。

第7回	子どもの体調不良に対する適切な対応 演習：薬の与え方、おむつの処理	事前学習	子どもの体調不良に対する適切な対応について読んでくる。
		事後学習	薬の与え方・おむつの処理について整理する。
第8回	傷害時の応急処置 演習：出血と止血法、骨折の手当て	事前学習	傷害時の応急処置について読んでくる。
		事後学習	止血法、骨折の手当てについて整理する。
第9回	救急処置および心肺蘇生法 演習：気道異物除去・エピペンの使用方法・心肺蘇生法	事前学習	気道異物除去・心肺蘇生法について読んでくる。
		事後学習	気道異物除去・エピペンの使用方法・心肺蘇生法について整理する。
第10回	救急処置および心肺蘇生法 演習：心肺蘇生法・AED	事前学習	AEDの使用法について読んでくる。
		事後学習	AEDの使用法について整理する。
第11回	子どもの事故の特徴と事故防止の方法、危機管理	事前学習	子どもに多い事故について読んでくる。
		事後学習	事故防止と安全教育、危機管理について整理する。
第12回	集団保育における健康管理・健康教育 グループワーク：安全衛生教材作り	事前学習	安全衛生教育について確認し、授業内で教材が作成できるように準備する。
		事後学習	次回教材が完成するように準備する。
第13回	集団保育における健康管理・健康教育 グループワーク：安全衛生教材作り	事前学習	授業内で教材が完成できるように準備する。
		事後学習	教材を完成させ発表に向けて準備する。
第14回	安全衛生教育発表	事前学習	教材を完成させ発表に向けて準備する。
		事後学習	各グループの発表から安全衛生教育に必要なことを整理する。
第15回	まとめ、内容の振り返り（ミニテスト）	事前学習	授業内の疑問や質問を考えてくる。
		事後学習	この科目で学習したことを振り返る。

1. 科目名 (単位数)	子どもの食と栄養 (2単位)	3. 科目番号	SSMP3358 SJMP3121 EDHE3334
2. 授業担当教員	小坂谷 典子	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、演習 (課題作成および発表含む)、調理実習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	小児期の栄養と食生活の重要性を理解し、一生涯の食生活の意義を理解する。また保育者として、小児の発育と発達の特徴を踏まえた栄養と食のあり方を理解し、保育所における望ましい食のあり方について理解を深める。さらに最近の食にまつわる様々な問題にふれながら、保護者と子どもの総合的な食育や保育所における食の実践について理解する。		
8. 学習目標	1) 栄養、食生活の基礎知識を身につける。 2) 小児期各期の栄養と食生活について学び、説明することができる。 ①妊娠期 (胎児期) ②新生児期 ③乳児期 ④幼児期 ⑤学童期・思春期 3) 保育士としての食の援助の役割について学び、説明することができる。 4) 疾患をもつ小児の栄養・食生活について学び、説明することができる。 5) 小児の食の問題について学び、説明することができる。 6) 子どもとその家族に対する栄養教育・食教育について学び、知識を身につける。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	アサシメント：・毎回、授業前にテキスト該当ページに目を通し、重要箇所や不明箇所をチェックしておく。 ・授業後は要点を整理し、自分の言葉でノートにまとめる。 ・既習関連科目を復習しておく (子どもの成長、発達の特徴等)。 課題：・調乳レポート (指定用紙)。提出期限は講義内で提示。期限厳守。 ・子どもの食の問題に関する事例レポート (テキスト内)。詳細は講義内で指示。期限厳守。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 上田玲子/編著『新版 子どもの食生活—栄養・食育・保育—』ななみ書房 2017 【配布資料】 ほぼ毎回配布。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1) 栄養、食生活の基礎知識を身につける。 2) 小児期各期の栄養と食生活について学び、説明することができる。 ①妊娠期 (胎児期) ②新生児期 ③乳児期 ④幼児期 ⑤学童期・思春期 3) 保育士としての食の援助の役割について学び、説明することができる。 4) 疾患をもつ小児の栄養・食生活について学び、説明することができる。 5) 小児の食の問題について学び、説明することができる。 6) 子どもとその家族に対する栄養教育・食教育について学び、知識を身につける ○評定の方法 総合的に評価する期末試験 50%、提出課題 20%、受講態度 30%		
12. 受講生への メッセージ	子どもの食生活は、生涯の健康維持につながる大切なものです。食育を実践する立場として、まずは自分の食生活を見直し、改善する努力から始めましょう。 子どもの食事を考える上で、栄養素の機能、消化吸収、代謝、食べ方の基本を理解することは必須です。また、成長に見合った栄養の必要量については、食事摂取基準の理解も必要となります。健全な成長を促す食事をサポートするために、どんな知識やスキルが必要かを常に考えながら授業に臨みましょう。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス、子どもの食生活と栄養	事前学習	テキスト pp.1~34、246~247、272~275
		事後学習	食生活自己チェック1をリストアップ。
第2回	栄養素の基礎知識① 糖質、脂質、たんぱく質の栄養、消化吸収、代謝	事前学習	テキスト pp.35~47
		事後学習	エネルギー産生栄養素の要点整理。
第3回	栄養素の基礎知識② ビタミン、ミネラル、食物繊維、水の役割	事前学習	テキスト pp.42、43、47~49
		事後学習	子どもに要注意のビタミン、ミネラル、食物繊維源、水分についてまとめる。
第4回	食生活の基本 (食べ方、栄養バランス、食品、衛生管理)	事前学習	テキスト pp.53~64、259、260
		事後学習	食生活自己チェック2を記入。食品群の意義、衛生管理の要点をまとめる。
第5回	わが国の栄養基準 (日本人の食事摂取基準 2015年版、食生活指針、食事バランスガイド)	事前学習	テキスト pp.50~53、248~258、270~271
		事後学習	食事摂取基準の指標と意味を整理する。その上で基準値一覧表を再読する。
第6回	妊娠期 (胎児期)、産褥期の食生活と栄養 (母性栄養)	事前学習	テキスト pp.121~129
		事後学習	妊婦、授乳婦の食生活ポイントを、子どもの健全な成長、発達の面から整理する。
第7回	新生児期、乳児期前半の食生活と栄養 (乳汁栄養)	事前学習	テキスト pp.65~79、261
		事後学習	母乳の利点、ミルクの種類を整理する。
第8回	乳児期後半の食生活と栄養、離乳	事前学習	テキスト pp.65~66、80~94、205~224
		事後学習	GW 資料で総復習。離乳の進め方について要点整理。

第9回	調乳実習（実習、レポート作成）	事前学習	テキスト pp.74～79、261。調乳、消毒のポイントを整理する。衛生管理を復習しておく。
		事後学習	調乳レポートの完成。
第10回	離乳食実習（実習、レポート作成）	事前学習	テキスト pp.80～92、離乳の進め方、ベビーフードを復習しておく。
		事後学習	離乳食レポートの完成。
第11回	幼児期の食生活と栄養	事前学習	テキスト pp.95～108、226～239
		事後学習	GW 資料で総復習。幼児の間食、問題点について要点整理。
第12回	家庭や児童福祉施設における食生活	事前学習	テキスト pp.155～168、239～240
		事後学習	GW 資料で総復習。保育所の給食、家庭との連携についてポイントを整理する。
第13回	学齢期、思春期の食生活と栄養	事前学習	テキスト pp.109～120
		事後学習	GW 資料で総復習。学校給食、摂食障害と栄養について要点整理。
第14回	特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養	事前学習	テキスト pp.131～154、224～226
		事後学習	GW 資料で総復習。体調不良時の食事、子どもの病気と留意すべき栄養、障がい児と食事について、それぞれ要点整理。
第15回	食育一食を通して子育てと子育てを支援する	事前学習	テキスト pp.169～192、241～243、262～269
		事後学習	食育の実践と食生活サポートの要点を自分の言葉でまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	子どもの保健Ⅱ (1単位)	3. 科目番号	SSOT2407 SCOT2407
2. 授業担当教員	橋本 由利子・佐野 葉子		
4. 授業形態	技術演習、講義、グループワーク、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育者として子どもの健康と安全を守るために必要な基礎的知識や実践力を身に付けることをねらいとしている。「子どもの保健Ⅰ」で学んだ知識を基礎とし、子どもが健康的に生活するうえで必要な生活環境要因について理解し、総合的な援助技術の習得を目指す。</p> <p>技術演習では、子どもの発育の観察と評価、日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、一般的な症状に対する看護の方法、応急手当（一次救命処置を含む）など、保育現場で必要とされる技術をモデル人形を対象として実践する。</p> <p>グループワークでは、事故防止対策と安全教育、歯磨きや手洗いなどの健康教育について検討し、発表することで集団保育における事故防止や健康管理・健康教育の実践力を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育や健康状態の観察について理解し評価と支援を行うことができる。 2. 子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができる。 3. 子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができる。 4. 応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができる。 5. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができる。 6. 子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回の授業で学習した内容について教科書のワークを用いて復習する。 2) 日赤幼児安全法について、学習した内容と感想を書く（1000字程度）。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】榊原洋一監修・小林美由紀著『子どもの保健演習ノート』改訂第2版、診断と治療社。</p> <p>【参考書】今井七重編『演習 子どもの保健Ⅱ』（株）みらい。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育や健康状態の観察について理解し、評価と支援を行うことができる。 2. 子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができる。 3. 子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができる。 4. 子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができる。 5. 応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができる。 6. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができる。 7. 子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができる。 <p>○評定の方法</p> <p>期末テスト 50%、レポート 20%、授業態度 30%</p> <p>上記のほか、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位修得の条件である。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもの保健Ⅱは保育中の乳幼児の命と健康を守るための技術を学ぶ重要な科目です。保育者は乳幼児の普段の状態をよく把握し、普段と少しでも異なる症状があった場合にはそれをいち早く察知し、適切に対処しなくてはなりません。また、乳幼児の養護や看護を行う場合には愛情を持って温かく接する事が大切です。一つ一つの実習を誠心誠意、真剣に行ってください。受講生は以下のことを必ず守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業は、常に高い緊張感と集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2) 理解できないことはそのままにしておかないで、積極的に質問すること。 3) 欠席・遅刻・早退をしないこと（やむを得ない場合は必ず文書で申し出ること）。 4) 授業中の私語、携帯電話の作動は絶対にしないこと。守れない場合は退出してもらいます。 5) 実技・演習は、事故のないように気を引き締めて行うこと。 6) 実習機材の準備・後片付けを積極的に行うこと。 <p>講師は以下のことを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生が積極的に授業に参加（発言、発表）できるように双方向対話型の学習環境を作る。 2) 明らかに授業態度が悪いと判断された場合は厳格に対処する。（その場合、たとえすべて出席していてもF評価になることもあるので注意すること。） 		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（子どもの保健Ⅱを学ぶにあたって）	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	自己紹介用紙を記載する。
第2回	胎児期の発育について（受精してから出生するまで）	事前学習	胎児期の発育について考えてくる。
		事後学習	自分の母子健康手帳を見て必要事項を自己紹介用紙に記載する。
第3回	第1章 子どもの発育を知ろう（身体発育の観察と評価）	事前学習	テキスト pp2～17 を読んでおく。
		事後学習	第1章おさらいテスト問1・問2
第4回	第1章 子どもの発育を知ろう（身体発育の測定方法と評価）	事前学習	テキスト pp. 4～7 を読んでおく。
		事後学習	第1章おさらいテスト問3

第5回	第2章 子どもの発達を知ろう (運動機能の発達とその評価について)	事前学習	テキスト pp.26～36 を読んでおく。
		事後学習	第2章おさらいテスト問1・問2
第6回	第3章 子どもの健康状態を知ろう (子どもの生理機能の発達を理解する)	事前学習	テキスト pp.40～42 を読んでおく。
		事後学習	第3章おさらいテスト問1①～⑦、⑨問2①～⑤、問3
第7回	第5章 子どもの保育環境づくり (屋内の衛生管理など)	事前学習	テキスト pp.74～78 を読んでおく。
		事後学習	第5章おさらいテスト問①②⑩⑪⑫
第8回	第4章 日常における養護の方法 (抱き方・おんぶの仕方・寝かせ方・外気浴における留意点)	事前学習	テキスト pp.52～53、pp.62～64 を読んでおく。
		事後学習	第4章おさらいテスト問1④、問3⑩～⑮
第9回	第4章 日常における養護の方法 (母乳と人工栄養、離乳食の進め方)	事前学習	テキスト pp.53～55 を読んでおく。
		事後学習	第4章おさらいテスト問1①②、問2①～③
第10回	第4章 日常における養護の方法 (調乳の実際、手洗いの基本)	事前学習	テキスト pp.53～55、p61 を読んでおく
		事後学習	調乳の方法と留意点について復習する。
第11回	第4章 日常における養護の方法 (衣服の着せ方、排泄のさせ方)	事前学習	テキスト pp.56～59 を読んでおく。
		事後学習	衣服の着せ方について復習する。
第12回	第4章 日常における養護の方法 (沐浴・入浴のさせ方)	事前学習	テキスト pp.59～61 を読んでおく。
		事後学習	入浴のさせ方について復習する。
第13回	第4章 日常における養護の方法 (口腔内の衛生)	事前学習	テキスト pp.56～57 を読んでおく。
		事後学習	第4章おさらいテスト問2④⑤
第14回	第4章 日常における養護の方法 (口腔機能の発達)	事前学習	自分の歯がいつ頃生えてきたか考える。
		事後学習	歯と口の健康の重要性について復習する。
第15回	第8章 いざというときの応急処置 (傷害時の応急処置、エビペンについて)	事前学習	テキスト pp.126～130 を読んでおく。
		事後学習	第8章おさらいテスト問1、問2
第16回	第6章 よくかかる病気について知ろう (冷却用具の種類と作り方、薬の与え方、嘔吐物の処理)	事前学習	テキスト pp.82～86 を読んでおく。
		事後学習	第6章おさらいテスト問1、問2、問3、問4
第17回	救急蘇生法(乳幼児の救急救命処置)	事前学習	テキスト pp.122～128 を読んでおく。
		事後学習	第8章おさらいテスト問4
第18回	救急蘇生法(乳幼児の救急救命処置)	事前学習	テキスト pp.122～128 を読んでおく。
		事後学習	アサイメント2
第19回	第7章 よく起こる事故について知ろう (乳幼児に起こりやすい事故とその特徴)	事前学習	テキスト pp.106～109 を読んでおく。
		事後学習	第7章おさらいテスト問1～問3
第20回	第7章 よく起こる事故について知ろう (安全への配慮・安全管理・安全教育)	事前学習	テキスト pp.109～118 を読んでおく。
		事後学習	グループで製作する教材の準備をする。
第21回	安全衛生に関する教育と教材の作成(グループワーク)	事前学習	グループで製作する教材の準備をする。
		事後学習	時間内で教材ができあがるように準備する。
第22回	安全衛生に関する教育と教材の作成(グループワーク)	事前学習	時間内で教材ができあがるように準備する。
		事後学習	来週の発表に向けて発表の準備をする。
第23回	安全衛生教育のプレゼンテーション	事前学習	発表ができるようにグループ内で打ち合わせをする。
		事後学習	グループワークと発表の振り返り。
第24回	まとめ	事前学習	授業で配付されたプリントを整理する。
		事後学習	この科目で学んだことを振り返る。

1. 科目名 (単位数)	コミュニケーション技術 I (2単位)	3. 科目番号	SNMP1112
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義 演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「コミュニケーション論」の単位を修得していること		
7. 講義概要	人間関係形成のためのコミュニケーション技術について、講義で基本的な技法を理解し、さらに演習を通し、実践できるように授業を進めていく。また利用者との援助的関係のみならず、他職種との連携や協働の場面、記録についても具体的に理解し、実践できるように授業を進めていく。演習による実践的なコミュニケーションでは、プロセスレコードを使用し、コミュニケーションを振り返ることで学びを深めていく。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者・家族の思いを引き出すコミュニケーションを実践できる。 2. コミュニケーションの基本的な技法を活用できる。 3. 利用者のところにゆとりが生まれるコミュニケーションのための知識を身につける。 4. 利用者のコミュニケーションの障害に応じたコミュニケーションの方法を選択できる。 5. 他職種との連携・協働の場面におけるコミュニケーションを理解する。 6. 他職種との連携・協働の場面におけるコミュニケーションを実践できる。 7. プロセスレコードを記入し、自己のコミュニケーションの振り返りができる。 8. 情報を共有するための記録の書き方、管理について理解する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題(1ページ40行×30文字で3枚以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護場面におけるコミュニケーションの基本と技術について 2. 対象者の特性に応じたコミュニケーションについて 3. 介護におけるチームのコミュニケーションについて 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会『コミュニケーション技術』中央法規出版。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基本的な技法を活用できるか。 2. 利用者のところにゆとりが生まれるコミュニケーションのための知識を身につけられたか。 3. 利用者のコミュニケーションの障害に応じたコミュニケーションの方法を選択できるか。 4. 他職種との連携・協働の場面におけるコミュニケーションを理解できたか。 5. プロセスレコードを記入し、自己のコミュニケーションの振り返りができる。 6. 情報を共有するための記録の書き方、管理について理解できたか。 <p>○評定の方法 日常の授業態度 25% レポート 75%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	授業中の私語や居眠り、携帯電話の使用は禁止します。授業には積極的に参加し、理解を深めてください。わからないことはそのままにせず、質問をしてください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	介護におけるコミュニケーションの基本 利用者のところにゆとりが生まれるコミュニケーションのための知識	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「介護におけるコミュニケーションの基本」についてまとめる。
第2回	コミュニケーション態度に関する基本技術 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 利用者の思いを引き出すコミュニケーション	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「コミュニケーション態度に関する基本技術」についてまとめる。
第3回	目的別のコミュニケーション技術	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「目的別のコミュニケーション技術」についてまとめる。
第4回	集団におけるコミュニケーション	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「集団におけるコミュニケーション」についてまとめる。【レポート1】
第5回	コミュニケーション障害への対応の基本 視覚障害のある人への支援	事前学習	テキストの該当箇所を読み、納得と同意の概要をつかんでおく
		事後学習	重要語句をおぼえ、「コミュニケーション障害への対応の基本と視覚障害のある人への支援」についてまとめる。
第6回	聴覚障害のある人への支援 構音障害のある人への支援	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「聴覚障害のある人への

			支援と構音障害のある人への支援」についてまとめる。
第7回	失語症の人への支援 認知症の人への支援	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「失語症の人への支援と認知症の人への支援」についてまとめる。
第8回	うつ・抑うつ状態の人への支援 統合失調症の人への支援	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「うつ・抑うつ状態の人への支援と統合失調症の人への支援」についてまとめる。
第9回	知的障害のある人への支援 発達障害のある人への支援	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「知的障害のある人への支援と発達障害のある人への支援」についてまとめる。
第10回	高次脳機能障害のある人への支援 重症心身障害のある人への支援	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「高次脳機能障害のある人への支援と重症心身障害のある人への支援」についてまとめる。【レポート2】
第11回	家族とのコミュニケーション 家族の思いを引き出すコミュニケーション	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「コミュニケーション障害のある利用者への対応」についてまとめる。
第12回	チームのコミュニケーション 他職種との連携・協働の場面におけるコミュニケーションの理解と実践 報告・連絡・相談の技術	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「チームのコミュニケーション」についてまとめる。
第13回	記録の技術 プロセスレコード	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「記録の技術とプロセスレコード」についてまとめる。
第14回	会議・議事進行・説明の技術	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「会議・議事進行・説明の技術」についてまとめる。
第15回	事例検討に関する技術 情報の活用と管理のための技術 まとめ	事前学習	テキストの該当箇所を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	重要語句をおぼえ、「事例検討に関する技術と情報の活用と管理のための技術」についてまとめる。【レポート3】

1. 科目名 (単位数)	コンピュータサイエンスⅡ (2単位)	3. 科目番号	EDIT1312
2. 授業担当教員	森 正人		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「コンピュータサイエンスI」を履修していなければ、講義内容を理解することが難しい。高等学校の数学II程度の知識を使用する内容である。		
7. 講義概要	試験結果を点数順に並べ替える問題や、選挙結果の集計など、具体的な問題の処理手順をアルゴリズムという。同じコンピュータを使って同じ問題を扱っても、アルゴリズムが異なれば、問題解決に要する処理時間は大幅に異なる。本講義では、アルゴリズムの善し悪しの評価方法である「オーダ」という概念について学び、具体的な問題に対する複数のアルゴリズムを開発し、そのオーダの違いを調べる。また、これらのアルゴリズムを、C++言語を用いてコンピュータ上で実行することにより、オーダの違いと処理時間の関係を実感する。		
8. 学習目標	アルゴリズムは、ハードウェアの進歩に左右されない概念である。現在の情報化社会を支えているコンピュータの底に潜む、技術の進歩に左右されない科学としての見方・考え方・方法論を学ぶ。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、講義の後半に演習を行う。特に、アルゴリズムのプログラム実装の部分は宿題とし、次回の講義までに提出してもらう。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 広瀬貞樹『あるごりずむ』近代科学社。 【参考書】 藤原暁宏『情報工学レクチャーシリーズ アルゴリズムとデータ構造』森北出版。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. アルゴリズムとデータ構造の基本的概念を理解しているか。 2. 代表的なアルゴリズムの学習を通じ、コンピュータにおけるデータ処理の基本概念を理解できたか。 ○評定の方法 試験 50%、提出物 (レポート等) 30%、受講姿勢 20%で評価。 ※試験を総合演習課題提出にかえて実施する場合がある。		
12. 受講生へのメッセージ	科学技術とは、物事を非常に精密にとらえ、分析していく学問という印象があります。事実、多くの場面ではそのような態度がとられてきました。しかし、アルゴリズムの善し悪しを評価するときのように、問題によっては、全体の性質を大きくとらえ、特性を理解することも大切です。この講義を通じて、そのような見方を味わってください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義概要 (アルゴリズムとプログラムの基本要素：最大値検索)	事前学習	クラスの生徒の成績を集計するプログラムを作成するとき、どのような手順で作業を進めればよいか、考えをまとめておくこと。
		事後学習	フローチャートの書き方、読み方に慣れること。
第2回	アルゴリズムの例 (配列、総和、文字列の接続、選挙結果の集計)	事前学習	配付資料 1.2 節、1.3 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 1.2 節、1.3 節の問題を完全に解けるようにすること。
第3回	アルゴリズムの良さの評価 (1: 計算量・オーダ、偽小判発見アルゴリズム)	事前学習	配付資料 2.1 節、2.2 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 2.1 節、2.2 節の問題を完全に解けるようにすること。
第4回	アルゴリズムの良さの評価 (2: オーダの性質)	事前学習	配付資料 2.3 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 2.3 節の問題を完全に解けるようにすること。
第5回	プログラミング言語 C++ (1: プログラミングの基礎)	事前学習	配付資料 6.1 節～6.3 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。
第6回	プログラミング言語 C++ (2: C++の基本構文、データ型と変数)	事前学習	配付資料 6.4 節～6.8 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。
第7回	プログラミング言語 C++ (3: 処理の3構造とC++の構文 - if文)	事前学習	配付資料 7.1 節、7.2 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。
第8回	プログラミング言語 C++ (4: 処理の3構造とC++の構文 - for文)	事前学習	配付資料 7.3.1 節～7.3.4 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。
第9回	プログラミング言語 C++ (5: 処理の3構造とC++の構文 - while文)	事前学習	配付資料 7.3.5 節、7.3.6 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。
第10回	探索問題のアルゴリズムとその計算量 (1: 逐次探索)	事前学習	配付資料 3.1 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 3.1 節の問題を完全に解けるようにすること。
第11回	探索問題のアルゴリズムとその計算量 (2: 2分探索)	事前学習	配付資料 3.2 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 3.2 節の問題を完全に解けるようにすること。
第12回	整列問題のアルゴリズムとその計算量 (1: 選択ソート)	事前学習	配付資料 4.1 節、4.2 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 4.2 節の問題を完全に解けるようにすること。
第13回	整列問題のアルゴリズムとその計算量 (2: マージソート)	事前学習	配付資料 4.3 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	再帰的考え方によく慣れること。
第14回	整列問題のアルゴリズムとその計算量 (3: マージソートの実装)	事前学習	配付資料 4.3 節を再度よく読んでおくこと。
		事後学習	マージソートのプログラムを完成させること。
第15回	グラフアルゴリズム	事前学習	事前に配布する資料をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料に載っている問題を完全に解けるようにすること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	コンピュータネットワークⅡ (2単位)		3. 科目番号	EDIT2322
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータネットワークⅠ」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	現代のインターネットの通信手段の基礎であるTCP/IPの仕組みを演習を通して学ぶ。また、ネットワーク上のサービス形態として、クライアントサーバモデルとP2Pモデルについて学ぶ。			
8. 学習目標	プロトコルの観点から、世界的情報ネットワークであるインターネットの仕組みを理解することを目標とする。特にIPプロトコル、ルーティングアルゴリズム、TCPプロトコルをマスターする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	IT系の科目では、スキルを身につけるのは一番大切なので、3回に1回程度、今まで勉強した内容について教科書や配布プリントをもって演習問題を提示し、それを授業中に解ける(例: ネットの構造: IXとISP、ARPの仕組み、IPプロトコル: マスクとサブネット、アドレス取得と変換: DHCPとNAT、TCPの仕組み)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】小林 活・江崎 浩(共同著)『インターネット総論』共立出版、2001年。 【参考書】A.S. タネンバウム(著)『コンピュータネットワーク第4版』日経BP社。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 プロトコルの観点から、世界的情報ネットワークであるインターネットの仕組みを理解することができたか。 ○評定の方法 1. 授業ごとに提出されるレポート、課題など70% 2. 授業への積極的参加と受講態度30%			
12. 受講生へのメッセージ	本科目は専門用語が多く、それを覚えることは特に大切である。また数学的概念も若干使うが、ゆっくり説明していきますので、出された演習問題を丁寧に解いてください、また、たくさん質問してください。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	復習: LANとOSIの低層(1~4)・インターネットの歴史・インターネットの構造(ドメインの概念、アドレス形態)	事前学習	教科書pp.5~64を読んでおく	
		事後学習	教科書p.2の図を覚える	
第2回	インターネットの歴史と運営組織	事前学習	教科書pp.14~15を読む	
		事後学習	配布プリントを熟読する	
第3回	インターネット層(1) IPパケットの構造	事前学習	教科書p.27を読む	
		事後学習	配布プリントを熟読する	
第4回	インターネット層(2) IPアドレスの仕組み、サブネット、サブネットマスク	事前学習	教科書p.31を読む	
		事後学習	配布プリントを熟読する	
第5回	インターネット層(3) 演習問題1, 2 IPアドレスとサブネットマスク	事前学習	教科書p.32を読む	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第6回	インターネット層(4) 演習問題3 IPアドレスとサブネットマスク	事前学習	教科書p.33の図をよく理解する	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第7回	インターネット層(5) 公的アドレスとプライベートアドレスの仕組み・ルーティングの基礎演習	事前学習	教科書p.34の表を覚える	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第8回	インターネット層(6) 演習 ルーティングの基礎	事前学習	教科書p.15の図をよく理解する	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第9回	インターネット層(7) DHCP、NATの仕組み	事前学習	教科書pp.46~48を読む	
		事後学習	配布プリントを熟読する	
第10回	インターネット用語・演習	事前学習	今回まで教科書に線を引いた専門用語(pp.1~48;六十語程度)の意味を再確認	
		事後学習	演習問題の回答例を熟読する	
第11回	現在のインターネットの構造	事前学習	教科書p.66の図をよく理解する	
		事後学習	ICANNの最新の組織図を調べる	
第12回	トランスポート層(1) TCPとUDP	事前学習	教科書p.82の図を見ておく	
		事後学習	配布プリントを熟読する	
第13回	インターネットのアプリケーション 電子メールの仕組み(MUAとMTA)、ウェブ(http)	事前学習	教科書pp.112~113を読む	
		事後学習	配布プリントを熟読する	
第14回	総合演習(1)	事前学習	配布プリントを全部読んでおく	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第15回	総合演習(2) 総合演習1と同じ内容、ただし提示するデータは違う	事前学習	前回解いた演習問題を復習	
		事後学習	本学のIPアドレス範囲とプロバイダを検索する	

1. 科目名(単位数)	算数(初等・幼) (2単位)	3. 科目番号	SJMP2382 SJMP1382 SJMP1282
2. 授業担当教員	土屋 修		
4. 授業形態	講義・演習・実習等	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校算数科の目標「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」を踏まえて、指導する4つの領域、指導する学年の指導内容や指導方法についての講義・演習や今後求められる算数教育のあり方についての講義・演習。		
8. 学習目標	(1)算数科の目標や学習指導要領の内容を理解する。 (2)各学年の指導内容について理解し、説明することができる。 (3)算数科の授業づくりを理解し、自分なりの授業構想を考え説明することができる。 (4)指導計画作成の意義やその方法のポイントについて理解し、説明することができる。 (5)算数指導における課題を理解し、その改善のための方法について具体的な方法を踏まえて自らの考えを説明することができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	【アサイメント】 ・自分のこれまでの学習経験を想起し、算数に対するイメージを具体的にまとめておく 【レポート課題】 ・期末レポートとは、講義及び学習内容をまとめたノートである。このノートは期末試験当日に提出する。 ・担当部分の発表を行うために自分でまとめた資料は、授業に対する積極性ととともに、日常の授業における評価に組み込む。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』日本文教出版「算数科指導法」でも使用。 土屋修・佐々木隆宏編著『算数科教育の基礎が分かる本』学術図書 「算数科指導法」でも使用。 必要に応じて資料を配付する。 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 講義の中で、適宜参考図書に関して紹介する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・学習内容に関し自ら課題を見つけ、授業中はその解決に向け意欲的に取り組んでいたか。 ・講義内容をまとめるとともに、必要に応じて自ら調べ学習を行うなど、到達目標の達成に向けたレポートが作成できたか。 ・到達目標にある内容について正しく理解し、説明することができたか。 ○評定の方法 ・日常の授業における評価・・・総合点の20%(必要に応じて講義の中で小テストを行う場合がある。) ・期末レポートにおける評価・・・総合点の30% ・期末テストにおける評価・・・総合点の50% なお、授業には必ず出席をすること。		
12. 受講生へのメッセージ	・自らが算数のよさや楽しさを感じて身に付けていなければ、子供にそれを身に付けさせることはできない。自分の経験を生かしながら、算数のよさや楽しさを感じ身に付けられるよう教員と学生、学生相互の熱い議論を期待する。 ・算数を学ぶことは、小学校教諭のみが必要なことではない。子供は小学校に入学する前から、日常生活の中で数量や図形等に関心をもっている。子供がどのような段階を踏んで数量や図形などの概念を身に付けていくのかを理解することは、幼児期の教育や保育に関わる者にとっても、意味があり非常に重要である。小学校と中学校の連携についても同様である。		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (班編制、発表領域・内容、発表日の決定) 算数科の目的・目標の変遷	事前学習	算数の授業を想起し、楽しかったことやそうでなかったこと等を具体的にまとめておく。
		事後学習	算数科の目的・目標の変遷をまとめる。 発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第2回	数学的な見方・考え方と数学的活動 全国学力・学習状況調査	事前学習	数学的な見方・考え方と数学的活動の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。 全国学力学習状況調査問題を解く。
		事後学習	数学的な見方・考え方と数学的活動及び全国学力・学習状況調査をまとめる。 発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第3回	数と計算(1) ・「数と計算」領域の概要 ・数とその表し方	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、数と計算(1)を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、数と計算(1)をまとめる。 発表者は発表領域・内容の調べを進める。

第4回	数と計算(2) ・加法と減法 ・乗法と除法	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、数と計算(2)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、数と計算(2)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第5回	数と計算(3) ・小数の意味と表し方 ・小数の計算	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、数と計算(3)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、数と計算(3)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第6回	数と計算(4) ・分数の意味と表し方 ・分数の計算 ・式による表現	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、数と計算(4)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、数と計算(4)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第7回	図形(1) ・「図形」領域の概要 ・図形を説明することば	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、図形(1)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、図形(1)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第8回	図形(2) ・かたち(平面図形) ・かたち(空間図形) ・量(面積、体積)	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、図形(2)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、図形(2)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第9回	測定(1) ・「測定」領域の概要 ・量と測定の基礎	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、測定(1)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、測定(1)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第10回	測定(2) ・長さ、広さ、かさ、重さの測定と単位 ・時刻と時間	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、測定(2)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、測定(2)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第11回	変化と関係(1) ・「変化と関係」領域の概要 ・関数の考え方	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、変化と関係(1)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、変化と関係(1)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第12回	変化と関係(2) ・割合、百分率、単位量あたりの大きさ ・比、比例、反比例	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、変化と関係(2)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返り、変化と関係(2)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第13回	データの活用(1) ・「データの活用」領域の概要 ・代表値	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、データの活用(1)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返りデータの活用(1)をまとめる。発表者は発表領域・内容の調べを進める。
第14回	データの活用(2) ・統計的な表やグラフ ・起こり得る場合、統計的な問題解決	事前学習	発表者は発表の準備をし、発表者以外は、データの活用(2)の部分を読み、内容を把握し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	講義を振り返りデータの活用(2)をまとめる。
第15回	まとめと今後の課題	事前学習	講義全体を振り返り、これまでの学習をまとめておく。
		事後学習	学習内容を整理し、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	算数科指導法 (2単位)	3. 科目番号	EDEL2312
2. 授業担当教員	池野 正晴		
4. 授業形態	講義・演習・実習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	○ 「算数 (初等・小)」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	小学校算数の目標を踏まえて、算数の授業づくりのための具体的な方法を学び、実際学習指導案を作成する。作成した指導案を活用し、模擬授業を行い指導の実際を体験することで、さらにより良い授業作りのための方法について学んでいくとともに、授業を見る視点や授業の改善点を明らかにする手法などを学ぶ。		
8. 学習目標	(1) 今求められる算数の授業に関して、現状を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。 (2) 求められる算数の授業を踏まえ、自らが理想とする算数の授業づくりのための学習指導案を作成することができる。 (3) 模擬授業等を通して、配慮の必要な児童への対処方法や授業実践上の方法について理解し、説明することができる。 (4) 算数の授業の評価の方法について理解し、説明することができる。 (5) 模擬授業を通して、算数の授業の実践ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	【中間レポートの課題】 ○ 1年～6年の学年・単元を選択・特定し、児童が主体的・協働的に取り組む学習指導案 (問題解決型・アクティブラーニング型の授業) を作成する。 ※2～3人1組のグループを編成し、協力して学習指導案を作成し、模擬授業をする。 ※学習指導案及び資料等については、各班で印刷することが望ましいが、印刷事情により困難な場合には、講義担当者への印刷依頼も可能。その場合は、事前提出 (事前送付、2日前までに) のこと。(メールアドレスは下記13を参照) (印刷、ホチキスとめ、穴あけ等可能) 【期末レポートの課題】 (「期末レポート試験」※各自で) ○ 「模擬授業から学んだこと、算数科の授業づくりでたいせつなこと『授業づくり』で今後どのように活かしていくか」について、レポートにまとめる。(毎回のノートのメモを生かす) (観点・項目ごとにまとめるー小見出しの工夫・設定)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ① 池野作成『算数科指導法』(池野特製の印刷冊子/授業用資料集) (配付) ② 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』, 日本文教出版, 2018年 (「算数」(初等・小) で使用のもの継続使用) ③ 池野正晴『自ら考えみんなで創り上げる算数学習ー新しい時代の授業づくりと授業研究ー』, 東洋館出版社, 2018年 (改訂第3版) (「算数」(初等・小) で使用のもの継続使用) ④ 池野作成『算数』(池野特製の印刷冊子/授業用資料) (「算数」(初等・小) で使用のもの継続使用) ⑤ 池野他『文部科学省検定算数教科書』(文部科学省検定済教科書, 模擬授業実施学年の教科書をチームごとに貸し出す予定/希望学年の教科書購入斡旋も可) ⑥ 教科書会社作成冊子『年間指導計画作成資料』(貸し出し) ⑦ 池野作成『算数科指導法/授業通信』(連絡・確認等用) (配付) 【参考書】 ○ 池野正晴『新しい時代の授業づくり』, 東洋館出版社, 2019年 (第6版) ○ 金本・池野他『算数科深い学びを実現させる理論と実践』, 東洋館出版社, 2017年 ○ 古藤・池野他『豊かな発想をはぐくむ新しい算数学習ーDo Mathの指導ー』, 東洋館出版社, 2010年 ○ 坪田耕三『算数的思考法』, 岩波書店 (岩波新書), 2014年		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (1) 教員に必要な幅広い教養を身につけようとし、4領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容について、「算数的活動」を通してよりよい授業を行おうとするようになったか。(関心・意欲・態度) (2) 算数の学習内容の学年・領域間の系統性や児童の実態を十分に考慮して指導計画・評価計画を立案し、ほぼ国際共通である数学的思考・表現に関する授業の進行・展開等のコミュニケーション能力を高めることができたか。(数学的思考・表現) (3) 算数科の問題解決型の指導案を作成し、学習指導に必要な様々な技能を中心とする教育実践力の基礎を習得することができたか。(技能) (4) 数学教育史や今日的課題、子供の発達段階・指導内容毎の特徴等に関する知識を得て、算数科の教材研究の方法や指導案の作成方法を知り、ICTを活用した授業への理解を深め、算数科の指導者として必要な専門的知識を習得することができたか。(知識・理解) ○評定の方法 本授業の4つの学習 (到達) 目標への達成度について、下記の評価対象・方法により総合的に評価を行う。 上記 (1) の関心・意欲・態度について …… 授業への積極的参加度 …… 10% 上記 (2) の数学的思考・表現について …… 講義の課題または期末試験 …… 30% 上記 (3) の技能について …… 講義の課題または期末試験 …… 30% 上記 (4) の知識・理解について …… 講義の課題または期末試験 …… 30% なお、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の最低条件である。		
12. 受講生へのメッセージ	*受講生に期待すること 1 授業は前向きに積極的に受講すること。(教師になるという当事者意識をもって参加・参画する) 2 授業中、進んで質問したり、発言したりすること。(話し合いの場に参加し、ともに考え、コメントする) 3 グループ討論にも積極的に参加すること。 4 学習指導案などの提出期限を厳守すること。(無断欠席は厳禁) 5 模擬授業を受ける際は、児童役での参加 (「子ども目線」で/児童役に徹する) と「教師目線」での記録・検討ができるようにすること。その学年の児童になりきり、発言するようちすること。(授業記録ノートやメモの作成・活用) 6 模擬授業実施者・チーム (学習指導案の作成者・チーム) は、(教え込み型・練習問題解決型の学習場面ではなく) できるだけ問題解決型 (アクティブ・ラーニング型) の授業展開ができる部分を選択し、そのような授業づくりを心がけ、授業計画を立てること。		

	<p>7 児童役（子ども目線）兼授業参観・検討役（教師目線）の受講生（すなわち、授業実施者・チーム以外の受講生）は、模擬授業終了後に、模擬授業の長所や改善点（できれば代案も）について指摘できるようにすること。</p> <p>8 代表コメンテーターは、授業記録をとり、それに基づいてコメントをするようにする。（座席は、一番後ろとする。また、児童役の受講生も、進んで自主コメントを言えるようにする。（意見は、降ってくるのを待っているのではなく、自分で創るもの）</p> <p>9 指摘された点については、模擬授業実施者・チームはもとより、児童役の受講生も、各自、自分への指摘として受けとめ、次に活かせるようにすること。（よりよい授業づくりのために、喜んで聴き、引き受ける素養を身につける）</p> <p>10 「失敗こそ成功のもとであり、みんなの財産となる」をモットーに、授業検討をすること。</p> <p>11 模擬授業の際は、授業の検討を、グループ討論（学んだこと、課題と改善点（対策・代案の提案）をし、全体でシェアすること。（残り時間による）</p> <p>12 小学校の教室を想定し、チームごとに座席を指定し、前につめて座ること。（チームごとの座席指定／ただし、毎回ローテーションで移動）</p> <p>13 模擬授業の学習指導案・資料及び講義用資料、「授業通信」等は、まとめてファイリングしておくこと。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間※メールでのアポイントも可能		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	プロログ（本授業の概要を把握する） チーム・班編成 模擬授業の計画・立案（指導学年、指導単元の決定等） 算数の授業づくりⅠ ・算数科における資質・能力 ・問題解決型・アクティブラーニング型の授業過程など	事前学習	「算数」で使用したテキスト②の既習部分について読み直し、自分なりに復習しておく。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。 班で、模擬授業で扱う単元の教材研究をする。（単元の目標、単元の設定理由等の検討、本時部分の決定等）
第2回	学習指導案の作成の仕方 ・仮説としての学習指導案 ・学習指導案の構成・項目・内容（全体構造） ・本時の指導（ねらいの構造的な記述、及び展開案の記述の仕方、発問・指示・説明等） ・指導計画の立て方 ・教科書比較 ・板書計画の立て方など 授業観察・分析の視点 ・授業の見方フォーカス術 ・指名・机間指導など	事前学習	「算数」で使用したテキスト③について読み直し、自分なりに復習しておく。 また、第Ⅲ部1－3章（pp.215－236）も読み、自分なりにまとめておく。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。 班で、模擬授業で扱う単元の教材研究をする。（指導内容の検討、教科書比較等）
第3回	算数の授業づくりⅡ ・授業づくりの基本（問題解決型・アクティブ・ラーニング型の学習の進め方） ・問いへの気づかせ方 ・多様な考えのまとめ方・生かし方 ・練り合い・練り上げ指導の改善 ・言語活動の充実など	事前学習	「算数」で使用したテキスト③の第Ⅰ部を読み、自分なりにまとめておく。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。 班で、模擬授業で扱う単元の教材研究をする。
第4回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える （小学校1年生の教材） 学習指導要領の書き方 （目標、単元設定の理由、単元の構想、指導計画等）	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
第5回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える （小学校1年生の教材） 本時の展開の書き方 （本時のねらい、導入題から追究題への展開、問題解決的な展開、多様な考えの生かし方・まとめ方）	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第6回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校2年生の教材] 本時の展開の書き方	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第7回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校2年生の教材]	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第8回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校3年生の教材]	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第9回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校3年生の教材]	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第10回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校4年生の教材]	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第11回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校4年生の教材]	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第12回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校5年生の教材]	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第13回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その後は該

2020年度

	[小学校5年生の教材]		当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第14回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校6年生の教材]	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その他は該 当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第15回	模擬授業（問題解決的な展開）を通して考える [小学校6年生の教材] [再挑戦の模擬授業（チーム or 単独で実施）]（複数授 業も可能） グループ討論／発表 ・「算数科授業づくりでたいせつなこと」 エピソード（まとめと今後の課題等）	事前学習	担当チームは学習指導案を作成し、その他は該 当単元の教材研究をしてくる。 模擬授業に再挑戦する班 or 個人は、学習指導 案を作成し、その他は該当単元の教材研究をし てくる。
		事後学習	算数科の授業づくりで自分なりにたいせつに したいことや学んだこと、考えたこと、活かし たいこと等についてレポートにまとめ、試験日 にミニ発表（主要部の発表）し、提出する。 （9のレポート課題を参照のこと）
期末試験（期末レポート試験／発表等）			

1. 科目名 (単位数)	算数科指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJMP2392 SJMP3293 SJMP2292 EDEL2312
2. 授業担当教員	土屋 修		
4. 授業形態	講義・演習・実習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「算数」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	小学校算数の目標を踏まえて、算数の授業づくりのための具体的な方法を学び、実際に学習指導案を作成する。作成した指導案を活用し、模擬授業を行い指導の実際を体験することで、さらにより良い授業作りのための方法について学んでいくとともに、授業を見る視点や授業の改善点を明らかにする手法などを学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今求められる算数の授業に関して、現状を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。 2. 求められる算数の授業を踏まえ、自らが理想とする算数の授業づくりのための学習指導案を作成することができる。 3. 模擬授業等を通して、配慮の必要な児童への対処方法や授業実践上の方法について理解し、説明することができる。 4. 算数の授業の評価の方法について理解し、説明することができる。 5. 模擬授業を通して、算数の授業の実践ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【アサイメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の小中学校時代を振り返り、自分にとって算数数学に対する興味関心を高めてくれた良い授業についてなるべく具体的にまとめておく。 <p>【レポート課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業学習指導案・・・模擬授業を行う部分の学習指導案を作成し、模擬授業前日までに提出する。 ・模擬授業いいところみつけ・・・模擬授業を受けた者は、模擬授業終了後速やかに提出する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文部科学省『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 算数編』日本文教出版「算数」で使用したもの。 ②土屋修・佐々木隆宏編著『算数科教育の基礎が分かる本』学術図書「算数」で使用したもの。 <p>必要に応じて資料を配付する。</p> <p>【参考書】</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』東洋館出版社 講義の中で、適宜参考図書に関しては紹介。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教員に必要な幅広い教養を身につけようとし、領域ごとの内容について、「算数的活動」を通してよりよい授業を行おうとするようになったか。(関心・意欲・態度) (2) 算数の学習内容の学年・領域間の系統性や児童の実態を十分に考慮して指導計画・評価計画を立案し、ほぼ国際共通である数学的思考・表現に関する授業の進行・展開等のコミュニケーション能力を高めることができたか。(数学的思考・表現) (3) 算数科の問題解決型の指導案を作成し、学習指導に必要な様々な技能を中心とする教育実践力の基礎を習得することができたか。(技能) (4) 数学教育史や今日的課題、子供の発達段階・指導内容毎の特徴等に関する知識を得て、算数科の教材研究の方法や指導案の作成方法を知り、ICT を活用した授業への理解を深め、算数科の指導者として必要な専門的知識を習得することができたか。(知識・理解) <p>○評定の方法</p> <p>本授業の4つの学習(到達)目標への達成度について、下記の評価対象・方法により総合的に評価を行う。</p> <p>上記(1)の関心・意欲・態度について …… 授業への積極的参加度 …… 10%</p> <p>上記(2)の数学的思考・表現について …… 講義の課題または期末試験 …… 30%</p> <p>上記(3)の技能について …… 講義の課題または期末試験 …… 30%</p> <p>上記(4)の知識・理解について …… 講義の課題または期末試験 …… 30%</p> <p>なお、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の最低条件である。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本講座の目的は、子供たちに「数学的な見方・考え方」を身に付けさせることのできる「主体的・対話的で深い学びのある算数科の授業」を創り上げる力を身に付けることである。学習指導案の作成ができるようになることも、目的を達成するための手段である。その目的に向け講義を進めていく中で、算数の指導法を深く理解してもらいたい。算数が得意だった者が、算数の教え方が上手いとは限らないところに、算数の奥深さがある。そのためにも、算数の指導法のみでなく子供を真に理解するために、教員と学生あるいは学生相互の熱い議論を期待する。 		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・これからの算数数学科教育で求められているもの (目標と内容、数学的活動、数学的な見方・考え方)	事前学習	教科書①の該当部分を読み、算数科の目標と内容、数学的活動、数学的な見方・考え方についてまとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、算数科の目標と内容、数学的活動、数学的な見方・考え方に関して疑問に感じたことや分からないことをまとめる。
第2回	・算数科の学習内容の概観 (子どものつまずきとそれを踏まえた指導上の留意点)	事前学習	教科書①の該当部分を読み、各学年の学習内容の概観についてまとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、各学年の学習内容に関して疑問に感じたことや分からないことをまとめる。
第3回	・算数科の学習評価に関する基本的な考え	事前学習	教科書②の該当部分を読み、学習評価における留意事項等についてまとめる。

	方 (評価の観点等及びその趣旨と方法)	事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、学習評価における留意事項に関して疑問に感じたことや分からないことをまとめる。
第4回	・算数科の教材の捉え方 (教材研究の意義とその方法)	事前学習	教科書②の該当部分を読み、教材研究の意義や方法についてまとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、教材研究の意義や方法に関して疑問に感じたことや分からないことをまとめる。
第5回	・算数科の基本的な授業展開 (子どもの実態を捉えた学習指導のポイント)	事前学習	教科書②の該当部分を読み、学習指導のポイントについてまとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、学習指導のポイントに関して疑問に感じたことや分からないことをまとめる。
第6回	・算数科における学びの質を向上させる授業展開 (主体的・対話的で深い学びの在り方)	事前学習	教科書②の該当部分を読み、主体的・対話的で深い学びについてまとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、主体的・対話的で深い学びに関して疑問に感じたことや分からないことをまとめる。
第7回	・算数科の学習指導の技術 (教育効果を高める ICT の活用法と教材づくり)	事前学習	教科書②の該当部分を読み、教材、教育環境・教育機器の充実についてまとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、教材、教育環境・教育機器の充実に関して疑問に感じたことや分からないことをまとめる。
第8回	・算数科の学習指導案の作成(1) (単元の目標、評価規準、考察(教材観、児童の実態、指導方針))	事前学習	教科書②の該当部分を読み、単元の目標、評価規準、考察についてまとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、学習指導案について指定されたところまで作成する。
第9回	・算数科の学習指導案の作成(2) (単元の指導及び評価計画、本時の展開と板書計画)	事前学習	教科書②の該当部分を読み、単元の指導及び評価計画、本時の展開と板書計画についてまとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り理解を深めるとともに、学習指導案について指定されたところまで作成する。
第10回	・模擬授業と模擬授業研究会(1) (A「数と計算」領域の指導のポイント)	事前学習	模擬授業担当者は、授業が充実したものとなるよう、授業を行う部分の学習指導案を作成するとともに、教材教具等の準備をする。 担当者以外は、授業が受け身とならないよう、模擬授業が行われる部分について教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業及び模擬授業研究会を振り返り、参考になった点や改善点を踏まえ、「もし、自分が授業を行うとしたら」という建設的な視点でまとめる。
第11回	・模擬授業と模擬授業研究会(2) (B「図形」領域の指導のポイント)	事前学習	模擬授業担当者は、授業が充実したものとなるよう、授業を行う部分の学習指導案を作成するとともに、教材教具等の準備をする。 担当者以外は、授業が受け身とならないよう、模擬授業が行われる部分について教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業及び模擬授業研究会を振り返り、参考になった点や改善点を踏まえ、「もし、自分が授業を行うとしたら」という建設的な視点でまとめる。
第12回	・模擬授業と模擬授業研究会(3) (C「測定」領域(1~3年)の指導のポイント)	事前学習	模擬授業担当者は、授業が充実したものとなるよう、授業を行う部分の学習指導案を作成するとともに、教材教具等の準備をする。 担当者以外は、授業が受け身とならないよう、模擬授業が行われる部分について教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業及び模擬授業研究会を振り返り、参考になった点や改善点を踏まえ、「もし、自分が授業を行うとしたら」という建設的な視点でまとめる。
第13回	・模擬授業と模擬授業研究会(4) (C「変化と関係」領域(4~6年)の指導のポイント)	事前学習	模擬授業担当者は、授業が充実したものとなるよう、授業を行う部分の学習指導案を作成するとともに、教材教具等の準備をする。 担当者以外は、授業が受け身とならないよう、模擬授業が行われる部分について教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業及び模擬授業研究会を振り返り、参考になった点や改善点を踏まえ、「もし、自分が授業を行うとしたら」という建設的な視点でまとめる。
第14回	・模擬授業と模擬授業研究会(5) (D「データの活用」領域の指導のポイント)	事前学習	模擬授業担当者は、授業が充実したものとなるよう、授業を行う部分の学習指導案を作成するとともに、教材教具等の準備をする。 担当者以外は、授業が受け身とならないよう、模擬授業が行われる部分について教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業及び模擬授業研究会を振り返り、参考になった点や改善点を踏まえ、「もし、自分が授業を行うとしたら」という建設的な視点でまとめる。
第15回	・より良い授業づくりのための授業改善の視点 (模擬授業と模擬授業研究会のまとめ)	事前学習	これまでの模擬授業について、事後学習で取り組んできた参考になった点や改善すべき点をまとめる。
		事後学習	学習指導案の作成の意義とその方法について、また、模擬授業や模擬授業検討会から学んだことについて整理し、より良い授業をつくるためのポイントをまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	システム設計演習 (2単位)	3. 科目番号	EDIT3316
2. 授業担当教員	ロベス ルイス ミゲル		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータサイエンスⅡ」と「システム設計」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	ソフトウェア開発において、UML 図は主流だといえるが、いかに優れた設計ツールを使っても、それを実現する方法を知らなければあまり意味を成さない。 本科目では、UML で記述された図を元に、クラスやインターフェースを JAVA プログラミング言語で記述し、実際のプログラムの実装法を行う。		
8. 学習目標	JAVA言語を学習し、開発環境としてEclipseを使って簡単なシステムを設計する。また、JAVA言語とUMLとの関係をよく理解する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	設計ツールUMLと非常に関連をもったJAVAを使って少しずつプログラムを組んで行く。順番に次の技術を学習し、それを使って応用問題を解く：クラスとオブジェクト・コンストラクタ、数値の取り扱い、文字列の取り扱い、オブジェクトの配列、ジェネリックプログラミングの練習、汎化と継承、抽象クラス、インターフェース。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 加藤 暢・樋口 昌宏・高田 司郎『オブジェクト指向 JAVA プログラミング入門 第2判』近代科学社、2018年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 学修目標に掲げた点①、②、③は達成できたか。 ○評定の方法 1. 授業ごとに提出された課題 70% 2. 授業への積極的参加と受講態度 30%		
12. 受講生へのメッセージ	プログラミングは難しいが、ほとんどの場合はチームワークなので、グループ作業という形式で授業を進めることが多いです。グループ内はよくディスカッションし、グループのメンバーが一人ひとり内容をよく理解したことを確認し合いながらこの作業を受けて下さい。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Eclipseの使い方 プログラム“Hello World!” 教科書第2章	事前学習	教科書 pp.2~4 を読んでおく
		事後学習	オブジェクトの概念を復習する
第2回	プロジェクト“Rectangle”(1) 教科書第2章・最初の JAVA プログラム	事前学習	教科書 pp.18~21 を読んで、p.21 の図をよく理解する
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第3回	プロジェクト“Rectangle”(2) 教科書第2章・メソッドの追加	事前学習	教科書 pp.33~34 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第4回	プロジェクト“Rectangle”(3) 教科書第3章	事前学習	教科書 p.40 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第5回	変数と型、IEEE754 の話 教科書第3章	事前学習	教科書 p.50 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第6回	キーボード入力と出力表示 (1) 教科書第3章	事前学習	教科書 p.53 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第7回	キーボード入力と出力表示 (2) 教科書第3章	事前学習	教科書 p.54 の表を理解する
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第8回	型の変換 教科書第3章	事前学習	教科書 pp.57~58 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第9回	色々な演算子 教科書第3章	事前学習	教科書 p.61 の表を理解する
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第10回	配列の組み込み方 (1) 教科書第4章	事前学習	教科書 p.94 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第11回	配列の組み込み方 (2) 教科書第5章	事前学習	教科書 pp.107~108 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第12回	パッケージ、アクセス修飾子、カプセル化 教科書第7章	事前学習	教科書 p.139 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第13回	継承とポリモーフィズム プロジェクト“Rectangle”(4) 教科書第8章	事前学習	教科書 p.173 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第14回	抽象化 プロジェクト“Rectangle”(5) 教科書第8章	事前学習	教科書 p.190 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第15回	総合演習	事前学習	前回の演習問題を復習する
		事後学習	教科書 pp.218~219 のプログラムを自分で組み実行する (指定されたフォルダに保存のこと)。提出日は授業で伝える

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由教育 I (2単位)		3. 科目番号	SSMP2452 SCMP2452 SBMP2452 SNMP2452 SPMP2452 SSMP2352
2. 授業担当教員	柳本 雄次			
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本科目では、肢体不自由児の特徴を理解するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた支援や教育のあり方、指導計画の立て方、指導の実際、評価など、それぞれの留意点について論じる。また、重度重複障害や医療的ケアを要する児童生徒への医療との連携による教育のあり方、肢体不自由児の自立を目指した教育を実践していくうえで、将来的展望に立って、教師に求められる役割や、指導、支援のあり方について考察する。			
8. 学習目標	【期待される効果】以下に関して理解し、説明することができる。 ① 肢体不自由児の発育・発達・健康特性に関する基礎知識 ② 肢体不自由児教育の歴史と今日的な課題 ③ 重度重複障害児のニーズに応じた指導と医療的ケア ④ 自立活動の意義や肢体不自由児の具体的な指導のあり方			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・アサイメント 事前・事後学習でまとめた成果 ・グループ課題 自立活動指導の授業案の作成・発表 ・レポート課題(A4 1～2枚 1200字～1500字程度) 肢体不自由教育の特徴について論述			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】特に指定しない。 【参考書】安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』ミネルヴァ書房、2015 篠田達明監修『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』金芳堂、2010			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 肢体不自由教育における自立活動を理解し、説明できるか。 2. 自立活動の個別の指導計画や指導案づくりを理解し、現場に対処できるようになっているか。 ○評定の方法 以下を総合的に検討し、判断する。 1 積極的参加 (発言、討議、態度、シートの取り組み等) 総合点の40% 2 レポート (模擬授業、テストを含む) 総合点の60% *なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。			
12. 受講生へのメッセージ	毎回事前学習として配付資料を読んで疑問や意見を基に積極的に討議に参加することを期待する。事後にはその整理と自分の意見をまとめる。			
13. オフィスアワー	別途通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 肢体不自由の定義・原因・分類・発達特性	事前学習	肢体不自由(児)とは何か、知識と経験をまとめる。	
		事後学習	肢体不自由と他の身体障害の用語上の異同を理解する。	
第2回	肢体不自由児教育の歴史的展開～先進国ドイツにおける光と影～	事前学習	欧米諸国の肢体不自由児教育の発達を読んでおく。	
		事後学習	光と影について整理し、意見をまとめる。	
第3回	肢体不自由児教育の歴史的展開～日本における草創期～	事前学習	日本の肢体不自由児教育のパイオニアについて、資料を読み調べておく。	
		事後学習	高木憲次と柏倉松蔵の思想の比較、光明学校の教育の特徴をまとめる。	
第4回	肢体不自由児教育における教育課程の特徴～学習指導要領の変遷からみた～	事前学習	障害の重度・重複化と教育課程の変遷を調べておく。	
		事後学習	学習指導要領の各改訂における変更、多様な教育課程の類型の特徴をまとめる。	
第5回	肢体不自由児教育における自立活動の指導	事前学習	自立活動とは何か、他の各教科等との違いを考える。	
		事後学習	自立活動の目標、区分についてまとめる	
第6回	肢体不自由児教育の授業づくり～個別の指導計画・個別の支援計画との関係～	事前学習	学習指導要領の規定、個別の指導計画、個別の教育支援計画について調べる。	
		事後学習	授業づくりにおける要領と個別の計画との関係を理解する。	
第7回	肢体不自由児の専門的な指導法①運動の発達と運動機能の改善	事前学習	運動機能の発達法則と脳性まひの発達特性を知る。	
		事後学習	運動機能の障害改善の方法について理解する。	
第8回	肢体不自由児の専門的な指導法②感覚・知覚の発達と障害改善	事前学習	感覚・知覚機能の発達過程を調べる。	
		事後学習	感覚・知覚機能の障害改善の方法を理解する。	
第9回	肢体不自由児の専門的な指導法③言語・コ	事前学習	言語・コミュニケーションの発達過程を調べる。	

	コミュニケーションの発達と AAC 支援	事後学習	言語・コミュニケーションの発達を促進する指導法を理解し、説明できる。
第10回	重度・重複障害児の発達特性と健康保持～摂食・呼吸指導と医療的ケア～	事前学習	資料を読み、重度・重複障害児の発達特性を調べる。
		事後学習	呼吸及び摂食障害と学校における医療的ケアの状況を理解する。
第11回	肢体不自由児の家族への支援～障害の心理的受容～	事前学習	家族の養育負担、障害の受容過程について調べる。
		事後学習	家族の養育負担の軽減や障害受容の促進のための支援についてまとめる。
第12回	通常学校における肢体不自由児への対応～通常学校受入れと合理的配慮～	事前学習	肢体不自由児の通常学校の受入れについて考える。
		事後学習	通常学校で肢体不自由児支援に必要な対応について施設設備、教育内容、人的環境から検討しまとめる。
第13回	自立活動指導の授業案づくり①	事前学習	個別の指導計画に基づく授業案づくりの構想を練る。
		事後学習	作成した授業案を再検討する。
第14回	自立活動指導の授業案づくり②発表・討議	事前学習	授業案発表を準備する。
		事後学習	発表した授業案の改善についてまとめる。
第15回	ライフステージ、関係機関の連携からみた肢体不自由児教育の現状と今日的課題	事前学習	ライフステージ、関係機関連携からみた肢体不自由児の現状を調べる。
		事後学習	肢体不自由教育の今日的課題について考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP1101						
2. 授業担当教員	田中 良幸								
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>日常の学習姿勢が大切です。日ごろから新聞やテレビニュース等のマスコミを通して、今、子どもの生活と家庭にどのようなことが起きていることに関心を持つことが期待されます。課題図書購読レポートを学期初めから長期休みをはさんで求めます。各課題図書についてレポート提出が必要です。感想文とは違います。その他、適宜、レポートの提出を求めます。レポート形式で書くことに慣れていきましょう。必要なスタイルを習得できるようにしてください。随時、講義課題についての発言やグループディスカッションを求めます。「授業への貢献度」を重視するので、積極的な関わりを期待します。</p> <p>授業計画は進度等によって変更があります。レポートは所定の書式や形式、説明に従って作成されることが期待されます。締切を厳守しての提出、独自性や考察の適切さ等で加点されます。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』第7版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉の全体像を、講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。 2. グループ活動を通じて、思考力を高め、問題発見・問題解決力などの能力を培う。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%	2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%	3 課題レポート	総合点の40%
1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%								
2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%								
3 課題レポート	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>「児童福祉論」は「子ども家庭福祉論」という科目名で最近では呼ばれることがある。なぜ、「子ども」となり、そこに「家庭」が付くようになったのだろうか、また、グローバル時代の今日、どのような視点から子どもと家族を理解する必要があるのだろうか。国や家庭によって子どもの養育や社会の役割等の課題は変わることがあります。日本の子育て環境の長所や改善点等を探求をしてみましょう。学びのきっかけは、こうした素朴な疑問から出発します。必要に応じて、映像を活用したり、レジュメを用意しますが、欠席した回のレジュメが欲しい場合など、気軽に研究室に入室してください。</p>								
13. オフィスアワー	別途研究室に掲示する								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	ガイダンス：授業の概要と進めかた	事前学習	シラバスを熟読しておく。						
	【課題図書提示1】グループ活動導入	事後学習	「子育て」と「子育て」に対するイメージを言語化し、書き出す。						
第2回	子どもの権利と人権：今、世界で子どもに何が起きているのか グループ討議	事前学習	「人身売買」「子ども兵士」「代理出産」という言葉について調べておく。						
		事後学習	「子どもの権利条約」を確認し、現代社会における国や地域での子どもの置かれた立場の違いをまとめておく。						
第3回	子どもの歴史①：世界史にみる子どもの生活状況 (虐殺・虐待・誘拐等)	事前学習	「エリザベス救貧法」「ワークハウス」「子どもの誕生」「ナチ・ホロコースト」「人身売買」「子ども兵士」等を調べる。						
		事後学習	「子ども」「青少年」「成人」の定義、世界史						

			に見る子どもが置かれた状況を考察する。
第4回	子どもの歴史②：日本史にみる子どもの生活状況 古代、中世までの日本 グループ討議	事前学習	日本の古代、中世の子どもの生活を調べてみよう 昔話の中の子ども等を自分で調べておく。
		事後学習	日本の近世以前の子どもの生活の様子を考察し、整理する。
第5回	子どもの歴史③：日本史にみる子どもの生活状況 近代以降の子どもの置かれた社会的状況	事前学習	明治以降の日本の子どもの生活を調べてみよう
		事後学習	昭和時代までの子どもの歴史を考察し、整理する。
第6回	現代社会と子ども・家庭 グループ討議	事前学習	現代の子どもの生活の特徴をチェックする。
		事後学習	現代までの子どもの置かれた歴史をまとめ、考察する⇒課題をレポートにまとめる
第7回	障害のある子どもと家庭支援 グループ討議	事前学習	「ヒルコ」「福助」という言葉について意味を調べる。
		事後学習	「障害」のある子どもとその保護者の生活とその課題を理解し、どのような支援が必要となるかを考察する。
第8回	子ども福祉関連法・制度1 現代社会の特徴と子育て支援：保健所の関り、公的支援、民間支援	事前学習	社会福祉小六法で児童福祉法の概要を読み、児童相談所に関連する資料を検索しておく。
		事後学習	「子どもの貧困」に関する資料を集めて読んでおく
第9回	子ども福祉関連法・制度2 児童虐待防止法の変遷と課題 ビデオ鑑賞1	事前学習	児童虐待について調べてみる。
		事後学習	児童虐待防止法と児童福祉法の関連をまとめる。
第10回	子ども福祉関連法・制度と関連機関；福祉・保健1 児童虐待の実態と対応する法律：児童虐待防止法・民法・配偶者暴力防止法 ビデオ鑑賞2	事前学習	児童福祉法を読んで、項目を理解しておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスについて理解する。
第11回	子ども福祉関連法・制度と関連機関：福祉・保健2 子どもらしい生活を支援する：子ども食堂・多様な子どもの居場所づくり	事前学習	社会福祉六法体制の内訳は何か、書き出しておく。
		事後学習	課題図書の提示
第12回	援助活動の実際1 子どもへの様々な在宅支援	事前学習	就学前の子どもの養育制度の概要を調べておく。
		事後学習	学生前の子どもの養育困難の支援と効果をまとめる。
第13回	援助活動の実際2 社会的養護の制度を中心に ビデオ鑑賞3	事前学習	社会的養護について事前に自分で概要を調べておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスを整理する
第14回	グループによる課題報告発表 ビデオ鑑賞4	事前学習	テーマについて各グループで発表準備をしておく。
		事後学習	他グループの発表を含めて要点を確認する。
第15回	まとめ グループ討議により一番重要な課題を確認する	事前学習	全授業を通してのキーワードの確認と不明点の整理。
		事後学習	全15回を振り返り、学習目標が達成できたかどうかを確認し、児童・家庭福祉論Ⅱに向けて準備をする。

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SSMP2303 SNMP2303 SCMP2303 SBMP2303 SPMP2303 SJMP3101
2. 授業担当教員	鈴木 雄司		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーションなどを取り入れた形態を重視する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年以上		
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、児童・家庭福祉論で学んだ、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動などを復習した上で、児童・家庭福祉論Ⅱでは、子ども家庭にかかわる福祉・保健政策について、とりわけ子どもの貧困など、グループでテーマを設定した上で、学習を進め、成果を発表する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。授業の進め方は、授業開始時に分けたグループでの研究が基本となる。また、学生が授業運営に参画する度合いを増やす。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 ・グループでの研究を通じて、文献の読み方、資料の集め方、調査の方法を理解し、活用できるようにする。 ・グループでの研究を通じて、研究の目的、方法、結論、考察をいった手順を活用できるようにする。 ・グループでの発表を通じてプレゼンテーションの方法を身につける。 ・その他、文章の要約方法、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容ごとにグループでの討議内容をまとめて提出する。 2. グループごとに研究テーマを設定する。テーマに基づき調査を行い、まとめをした上で発表する。 3. レポートの課題(A4 2枚程度)は、グループで研究した内容に自己の見解を加え、要約したものとする。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】特に必要としない。</p> <p>【参考書】</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第6版 中央法規出版。</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 2. グループでの研究を通じて、研究のスタイルを理解し、活用することができる。 3. 発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につけ、活用することができる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 (調査・ディスカッション・発表) 総合点の40% 2. 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査・提出物) 総合点の30% 3. 課題レポート 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	講義・グループ討議の形態から、グループを単位とした調査・研究・発表といった授業方式になります。各自の研究姿勢が大事です。また、全員での取り組みが求められますので、欠席、遅刻には注意してください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	◎オリエンテーション、授業の進め方についての説明、グループ分け	事前学習	シラバスに目を通し、講義概要、学習目標等について理解を深めておく。講義用のノートと資料を綴じるファイルを用意する。
		事後学習	オリエンテーションで説明された内容を確認しておく。配布された資料をファイルに綴じる。
第2回	少子高齢社会と次世代育成支援について 事例研究 グループで研究分野を検討	事前学習	教科書の第1章「現代社会と子ども家庭」で学んだところを復習し、児童家庭福祉に関連する事例について用意しておく
		事後学習	事例研究を復習するとともに、グループで検討する研究分野を準備しておく。
第3回	現代社会と子ども家庭の問題 事例研究 グループで研究テーマを検討	事前学習	子どもをめぐる問題について、自己の体験を基に整理しておく。子どもの発達について理解を確認しておく。
		事後学習	事例研究を復習するとともに、グループで検討するテーマを準備しておく。

第4回	子どもの育ち、子育てのニーズ 事例研究 グループで研究テーマについて決定	事前学習	子どもの発達の特徴から生まれるニーズについて理解を深めておく。児童家庭福祉論で学んだ資料を読み直しておく。
		事後学習	事例研究を復習するとともに、グループで決定したテーマについて関係する資料を集めておく。
第5回	児童の権利に関する条約 条項の検討 グループで研究テーマについて発表	事前学習	児童の権利に関する条約について事前に学習し、大学生活における“権利”の具体化について考察する。 グループでの発表の準備に備える。
		事後学習	児童の権利に関する条約について、各条項の意味について確認をしておく。グループでの研究について準備を進める。
第6回	グループでの交流及び討議	事前学習	グループでの発表と意見交換に備えて、グループで資料を準備し、確認を取っておく。
		事後学習	各グループでの発表を整理してまとめておく。他のグループとの違いについてノートにまとめておく。他のグループから学んだこともメモしておく。
第7回	事例研究① 情報のまとめ方 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。
		事後学習	事例研究と情報のまとめ方について復習をする。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第8回	事例研究② 情報の構造化 マインドマップの学習 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。
		事後学習	事例研究と情報の構造化、マインドマップについて復習をする。実際にマインドマップを作り、学習に生かせるようにする。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第9回	事例研究③ プレゼンテーションの方法 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。
		事後学習	事例研究とプレゼンテーションの方法について復習する。実際にパワーポイントを作成して、自宅で練習をしてみる。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第10回	事例研究④ 3分間スピーチ グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。3分間スピーチの原稿を作成し、練習をしておく。
		事後学習	事例研究とプレゼンテーションの方法について復習する。3分間スピーチの内容を分析しておく。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第11回	事例研究⑤ レポートの書き方 確認 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。レポートの書き方について2年生の時の復習を行う。
		事後学習	事例研究とレポートの書き方を復習する。実際に1000字のレポートを作成してみる。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第12回	事例研究⑥ 授業論集の作成準備 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。授業論集の作成にむけて各グループの意見をまとめておく。
		事後学習	事例研究について復習する。授業論集の原稿作成を開始する。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第13回	事例研究⑦ 最終発表	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめ

2020年度

	グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)		めを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。最終発表にむけて意見を準備しておく。
		事後学習	各グループが発表した内容を整理して、知識を確認しておく。翌週の授業で全体討議する内容をまとめておく。
第14回	グループによる研究授業論集の作成	事前学習	課題レポートとは別に授業論集の原稿を作成しておく。
		事後学習	授業論集を読み、授業全体で学んだことを確認する。 特に、グループで作業した内容については、今後に生かせるように分析を加えておく。
第15回	まとめ	事前学習	これまで学習してきたことを振り返り、最後のまとめの討議に備える。
		事後学習	講義内容、発表内容を整理して、ノートにまとめ、資料はすべてファイリングしておく。

1. 科目名(単位数)	児童生徒指導論(進路指導を含む)(初等) (2単位)	3. 科目番号	SJMP3215 SJMP2215 SJMP2315
2. 授業担当教員	金子 康一		
4. 授業形態	講義、グループ討議、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むキャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。		
8. 学習目標	1. ガイダンスとカウンセリング機能の充実による生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や、原理を理解する。 2. 学級・学年・学校における生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する 3. 生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート: いじめや不登校を減少させるための対応策を、予防と指導の観点から、自分の体験を踏まえて論述する。 ・期末テスト: 現在の学校教育が抱える生徒指導上の今日的課題を取り上げ、その対応策について、キャリア教育の視点や学級経営の視点から論述する。 ・各講義のレジュメのまとめをする。 ・レポートの詳細(内容、形式、分量、提出締め切り等)は、授業中に説明する。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『生徒指導提要』教育図書 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社 【参考資料】 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 児童生徒指導の意義や役割が説明でき、諸問題への対応や改善策が考えられる。 ○評定の方法 演習課題40%、学習記録・レスポンスシート30%、受講態度30%とする。		
12. 受講生へのメッセージ	児童・生徒の「生きる力」を育成するための学校教育において、教科等による「学習指導」と、全教育活動を通じての「生徒指導」は車の両輪であると言えます。後者の「生徒指導」は、社会情勢や家庭環境の変化に伴い児童・生徒の変容と課題が山積しています。教師を目指す皆さんにとって、生徒指導の理論と方法の理解と習得は欠くことの出来ない内容です。常に課題意識を持ち、積極的・意欲的に授業に臨むよう期待します。		
13. オフィスアワー	無し		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・学校生活を顧みて、生徒指導の先生や生徒指導の内容について思いだし、どのようなことを指導されたのか、自分たちにとって意義があったことについて話し合い、生徒指導の目指したものは何か、発表する。	事前学習	シラバスを読み、これまでの学校生活での、生徒指導の思い出を整理しておく。
		事後学習	生徒指導でどのような内容について指導されたのか、指導された内容は今の自分にどのように生かされているのか整理する。
第2回	生徒指導の意義と目的 ・これまで指導されたことや考えた目的と教科書に書かれている意義目的を比較し、グループで話し合い、児童生徒にどのような指導をすれば、効果的な生徒指導になるか発表する。	事前学習	生徒指導の目的について、教科書を読んでおく。
		事後学習	生徒指導提要に示されている生徒指導の意義とこれまでの指導の結果を比べ、生徒指導の課題についてまとめる。
第3回	日常の生徒指導と自己指導能力の育成 ・生きる力を育てる生徒指導と日頃の生活習慣、規範意識を育てる指導との関連について資料で調べ、どうすれば一貫性のある生徒指導になるかグループで話し合い、発表する。	事前学習	生徒指導提要「教育課程における生徒指導の位置づけ」を読んでおく。
		事後学習	教育課程は、教育の目的を実現するために計画された教育計画であることから、学習指導・生徒指導・特別活動など一貫した考えで進めることが大切であることをまとめる。
第4回	教育課程と生徒指導 ・各教科指導における資質・能力の育成と生徒指導との関連を考え、それぞれの教科の特色と生徒指導の関連を考え、教科横断的な資質能力の育成について話し合い、発表する。	事前学習	生徒指導提要「教育課程と生徒指導」を読んで、そのポイントを整理しておく。
		事後学習	各教科で育成すべき資質・能力と現代に求められる資質・能力を考察した資質能力について発表されたことを基に、自分なりにまとめる。
第5回	生徒指導と児童生徒理解 ・指導に欠かせない児童生徒の理解の仕方や考え方を学び、児童の発達を支える指導の充実について、グループで話し合い、要点を発表し合う。	事前学習	生徒指導提要「児童生徒の心理と児童生徒理解」を読んでポイントを整理する。
		事後学習	児童生徒の発達に関する知識を身に付けるとともに、児童生徒理解のポイントについて話し合った内容を整理する。
第6回	学級経営と生徒指導	事前学習	学級経営と生徒指導について「学習指導要領解説総則編」

	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の学校生活を豊かなものにするために、学級担任が努力すべきこと、児童生徒に指導すべき事を資料で調べ、支持的風土をもつ学級にするために工夫することについて話し合い、発表する。 	事後学習	第4節児童の発達の支援を読んで、学級経営と生徒指導について、整理しておく。 様々な生徒指導に関するところは、学級担任の働きによるところが大きいことを整理し、支持的風土を作るために自分だったらどうするのかについてまとめる。
第7回	集団指導と個別指導の方法原理 <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の目的により、指導の在り方には多様な方法があることを教科書から学び、どの場面で、どのような指導が必要かグループで考え、発表し合う。 	事前学習	生徒指導提要の「集団指導と個別指導の方法原理」を読み、生徒指導の方法を理解しておく。
		事後学習	集団指導と個別指導の方法、指導の内容等の知識を整理し、TPOを踏まえた生徒指導をどのように行うか、まとめる。
第8回	集団指導と場面指導 <ul style="list-style-type: none"> 学校でよくある事例を基にグループで事例を解決するための指導の在り方を、実際に教師の立場で児童生徒の発達段階を踏まえ、指導の実技を行う。相互に指導について評価し合う。 	事前学習	学校生活の中で、学級担任から指導された事柄について思いだし、先生がどのような指導をしてくれたか、振り返る。
		事後学習	学校行事や当番活動、委員会活動等の場面を切り取り、5分間でどのように指導したらよいかグループで考え、全体指導したことを整理する。
第9回	生徒指導と教育相談 <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導による個別指導と教育相談との違いや共通性を相互に学び合い、個別指導の意義や教育相談における意義について学び合う。教育相談がしやすい体制をどう作るか考え、発表し合う。 	事前学習	教育相談と生徒指導の違いについて、生徒指導提要を基に調べておく。
		事後学習	生徒指導と教育相談の違いを理解し、双方の意義についてまとめる。過去の経験から、相談しやすい態勢をどう作るか自分の考えをまとめる。
第10回	教育相談とその進め方 <ul style="list-style-type: none"> 教育相談に大事な考え方やクライアントへの接し方など、様々な技法を調べ、どのように活用したらよいか、グループで話し合い、発表する。 	事前学習	生徒指導提要「教育相談の進め方」を読み、教育相談の考え方や技法を知る。
		事後学習	教育相談の技法とカウンセリングマインドについて学んだことを整理しておく。
第11回	教育相談の実際 <ul style="list-style-type: none"> グループを組んで、カウンセラー、クライアント、記録者を決めて、教育相談の実習を行う。役割意識を持ちどのような相談ができたのか発表し、よりよい相談について話し合う。 	事前学習	自己の大学生生活を振り返って、悩みや問題、他に相談したいことを考えておく。
		事後学習	グループでの相談活動、全体での話し合いを踏まえて相談活動をどう進めるかまとめる。
第12回	生徒指導上の諸課題への対応 <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導上の諸課題を知り、その現状を文科省のデータで確認し、問題解決にはどのような対応が必要かグループで考え、発表し合う。 	事前学習	生徒指導提要の「個別の課題を抱える児童生徒への指導」を読み、生徒指導上の課題にはどのようなものがあるのか調べておく。
		事後学習	いじめ、不登校、暴力行為、インターネット等の特徴を整理し、みんながまとめた対策について有効な方法について考える。
第13回	生徒指導に関する法制度 <ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校を防いだり、校則などの決まりを作ったりするための国としての対策について法制度を調べ、それらを有効にするための教員としての役割を考え、話し合う。 	事前学習	生徒指導に関わる法律について、教科書を基に調べておく。
		事後学習	青少年の健全育成に関する国の施策等に関心を持ち、その対応について整理まとめる。
第14回	キャリア教育の進め方 ガイダンスとしての指導 <ul style="list-style-type: none"> 生きる力を育む教育を有効に進めるために、生徒指導同様キャリア教育が重要になっていることを、中教審答申を踏まえ、ガイダンスの機能を生かした全体指導や意義について話し合い、重要性をまとめる。 	事前学習	生き方教育としての生徒指導に加え、キャリア教育の理念等について小学校キャリア教育の手引き(改訂版)(平成22年1月)等を読み関心を持つ。
		事後学習	生き方教育としての指導には、様々な内容が含まれるが、キャリア教育と職業教育の違いについて知るとともに、生きていくための汎用的な資質・能力について理解し、自己実現に向けた指導ができるようまとめる。
第15回	教育課程における生徒指導とキャリア教育 <ul style="list-style-type: none"> 自己指導能力を育み自己実現を目指す生徒指導とよりよく生きるための資質能力を育むためのキャリア教育の共通性をとらえ、どのような指導が望ましいのか、話し合い発表する。 児童生徒指導論のまとめをする。 	事前学習	児童生徒指導論で学んだ事柄を整理し、大切なことを振り返る。
		事後学習	自己指導能力を育成するために、どのように生徒指導を進めればよいか、自己の考え方についてレポートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	児童生徒指導論(進路指導を含む)(初等) (2単位)		3. 科目番号	EDTE2306 EDTE2106
2. 授業担当教員	藤原 寿幸			
4. 授業形態	講義、グループ討議、演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むキャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。			
8. 学習目標	1. ガイダンスとカウンセリング機能の充実による生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や、原理を理解する。 2. 学級・学年・学校における生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する 3. 生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 授業の最後に小レポートを書いてもらい、理解度の確認をする。 中間レポート：いじめや不登校を減少させるための様々な実践を紹介し、自分の考察を加えてまとめる。 期末レポート：現在の学校教育が抱える生徒指導上の今日的課題を取り上げ、その対応策について、学級経営の視点から記述する。 ※レポートの詳細(内容、形式、分量、提出締め切り等)は、授業中に説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 河村茂雄『生徒指導・進路指導の理論と実際—改訂版—』図書文化、2019年 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説(総則編)』 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2010年			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 児童生徒指導の意義や役割が説明でき、諸問題への対応や改善策が考えられる。 ○評定の方法 演習課題40%、学習記録・レスポンスシート30%、受講態度30%とする。			
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 2. レポートや課題の提出期限を守ってください。 3. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。 生徒指導は学習指導とともに学校教育の基本的な機能である。近年、価値観や児童生徒が多様化し、生徒指導は複雑化、かつ困難の度を増してきている。生徒指導の理論を理解するとともに、教育現場の具体的な事例を学びながら生徒指導の基礎を身につけ、生徒指導が実践できる資質、能力を培ってほしい。そして積極的な生徒指導を行うことで、児童生徒の生きる力を支援できるような教師になってほしい。			
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション・生徒指導とは	事前学習	教科書の第1章 pp. 10～21 を通読してくる。	
		事後学習	pp. 10～21 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第2回	現代の子どもとこれからの生徒指導	事前学習	教科書の第2章 pp. 22～35 を通読してくる。	
		事後学習	pp. 22～35 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第3回	教育活動における生徒指導	事前学習	教科書の第3章 pp. 36～61 を通読してくる。	
		事後学習	pp. 36～61 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第4回	生徒指導体制と組織的な取り組み 生徒指導に関する主な法令	事前学習	教科書の第4章、第5章 pp. 62～81 を通読してくる。	
		事後学習	pp. 62～81 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第5回	教師に必要とされる指導行動	事前学習	教師のリーダーシップについて、自分の経験や調べ学習により、考えをまとめておく。	
		事後学習	配布資料の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第6回	進路指導・キャリア教育とは	事前学習	教科書の第6章 pp. 82～97 を通読してくる。	
		事後学習	pp. 82～97 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第7回	現代の子どもを取り巻く問題	事前学習	教科書の第7章 pp. 100～113 を通読してくる。	
		事後学習	pp. 100～113 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第8回	不登校の理解と対応	事前学習	教科書の第8章 pp. 114～125 を通読してくる。	
		事後学習	pp. 114～125 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第9回	いじめの理解と対応・中間レポート課題提示	事前学習	教科書の第9章 pp. 126～141 を通読してくる。	
		事後学習	pp. 126～141 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。中間レポートに取り組む。	

2020年度

第10回	非行問題の理解と対応	事前学習	教科書の第10章 pp. 142～159 を通読してくる。
		事後学習	pp. 142～159 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第11回	学級崩壊・授業崩壊の理解と対応	事前学習	教科書の第11章 pp. 160～173 を通読してくる。
		事後学習	pp. 160～173 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第12回	特別支援教育と生徒指導	事前学習	教科書の第13章 pp. 184～197 を通読してくる。
		事後学習	pp. 184～197 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第13回	家庭・地域・関係機関との連携	事前学習	教科書の第12章 pp. 174～183 を通読してくる。
		事後学習	pp. 174～183 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第14回	進路指導・キャリア教育の展開	事前学習	教科書の第14章 pp. 198～209 を通読してくる。
		事後学習	pp. 198～209 の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第15回	児童生徒指導論のまとめと発表 ・期末レポートを元にグループワーク、発表・授業評価	事前学習	児童生徒指導論で学んだ事柄を整理し、大切なことを振り返る。
		事後学習	児童生徒指導論で学んだことを今後はどう生かすか、成果と課題をまとめる。

1. 科目名(単位数)	児童生徒指導論(進路指導を含む)(初等) (2単位)	3. 科目番号	EDTE2106
2. 授業担当教員	望月 之美		
4. 授業形態	講義、グループ討議、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むキャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとカウンセリング機能の充実による生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や、原理を理解する。 2. 学級・学年・学校における生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する 3. 生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート：いじめや不登校を減少させるための様々な実践を紹介し、自分の考察を加えてまとめる。 ・期末レポート：現在の学校教育が抱える生徒指導上の今日的課題を取り上げ、その対応策について、キャリア教育の視点や学級経営の視点から記述する。 ・小テストを実施する。レポートの詳細(内容、形式、分量、提出締め切り等)は、授業中に説明する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『生徒指導提要』教育図書</p> <p>【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社</p> <p>【参考資料】 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 児童生徒指導の意義や役割が説明でき、諸問題への対応や改善策が考えられる。</p> <p>○評定の方法 演習課題40%、学習記録・レスポンスシート30%、受講態度30%とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教科を中心にした「学習指導」と、全教育活動を通じての「生徒指導」はどちらも大切です。後者の「生徒指導」は、社会情勢や家庭環境の変化に伴い「いじめ・不登校・児童・生徒の変容と課題」が山積しています。教師を目指す皆さんにとって、生徒指導の理論と方法の理解と習得は欠くことの出来ない内容です。常に課題意識を持ち、積極的・意欲的に授業に臨むよう期待します。</p>		
13. オフィスアワー	第1回授業時に周知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・学校生活を顧みて、生徒指導の先生や生徒指導の内容について思いだし、どのようなことを指導されたのか、自分たちにとって意義があったことについて話し合い、生徒指導の目指したものは何か、発表する。	事前学習	シラバスを読み、これまでの学校生活での、生徒指導の思い出を整理しておく。
		事後学習	生徒指導でどのような内容について指導されたのか、指導された内容は今の自分にどのように生かされているのか整理する。
第2回	生徒指導の意義と目的 ・これまで指導されたことや考えた目的と教科書に書かれている意義目的を比較し、グループで話し合い、児童生徒にどのような指導をすれば、効果的な生徒指導になるか発表する。	事前学習	生徒指導の目的について、教科書を読んでおく。
		事後学習	生徒指導提要に示されている生徒指導の意義とこれまでの指導の結果を比べ、生徒指導の課題についてまとめる。
第3回	日常の生徒指導と自己指導能力の育成 ・生きる力を育てる生徒指導と日頃の生活習慣、規範意識を育てる指導との関連について資料で調べ、どうすれば一貫性のある生徒指導になるかグループで考え合い、発表する。	事前学習	生徒指導提要「教育課程における生徒指導の位置づけ」を読んでおく。
		事後学習	教育課程は、教育の目的を実現するために計画された教育計画であることから、学習指導・生徒指導・特別活動など一貫した考えで進めることが大切であることをまとめる。
第4回	教育課程と生徒指導 ・各教科指導における資質・能力の育成と生徒指導との関連を考え、それぞれの教科の特色と生徒指導の関連を考え、教科横断的な資質能力の育成について話し合い、発表する。	事前学習	生徒指導提要「教育課程と生徒指導」を読んで、そのポイントを整理しておく。
		事後学習	各教科で育成すべき資質・能力と現代に求められる資質・能力とを考察した資質能力について発表されたことを基に、自分なりにまとめる。
第5回	生徒指導と児童生徒理解 ・指導に欠かせない児童生徒の理解の仕方や考え方を学び、児童の発達を支える指導の充実について、グループで話し合い、要点を発表し合う。	事前学習	生徒指導提要「児童生徒の心理と児童生徒理解」を読んでポイントを整理する。
		事後学習	児童生徒の発達に関する知識を身に付けるとともに、児童生徒理解のポイントについて話し合った内容を整理する。

第6回	学級経営と生徒指導 ・児童生徒の学校生活を豊かなものにするために、学級担任が努力すべきこと、児童生徒に指導すべき事を資料で調べ、支持的風土をもつ学級にするために工夫することについて話し合い、発表する。	事前学習	学級経営と生徒指導について「学習指導要領解説総則編」第4節児童の発達の支援を読んで、学級経営と生徒指導について、整理しておく。
		事後学習	様々な生徒指導に関するところは、学級担任の働きによるところが大きいことを整理し、支持的風土を作るために自分だったらどうするのかについてまとめる。
第7回	集団指導と個別指導の方法原理 ・生徒指導の目的により、指導の在り方には多様な方法があることを教科書から学び、どの場面で、どのような指導が必要かグループで考え、発表し合う。	事前学習	生徒指導提要の「集団指導と個別指導の方法原理」を読み、生徒指導の方法を理解しておく。
		事後学習	集団指導と個別指導の方法、指導の内容等の知識を整理し、TPOを踏まえた生徒指導をどのように行うか、まとめる。
第8回	集団指導と場面指導 ・学校でよくある事例を基にグループで事例を解決するための指導の在り方を、実際に教師の立場で児童生徒の発達段階を踏まえ、指導の実技を行う。相互に指導について評価し合う。	事前学習	学校生活の中で、学級担任から指導された事柄について思いだし、先生がどのような指導をしてくれたか、振り返る。
		事後学習	学校行事や当番活動、委員会活動等の場面を切り取り、5分間でどのように指導したらよいかグループで考え、全体指導したことを整理する。
第9回	生徒指導と教育相談 ・生徒指導による個別指導と教育相談との違いや共通性を相互に学び合い、個別指導の意義や教育相談における意義について学び合う。教育相談がしやすい体制をどう作るか考え、発表し合う。	事前学習	教育相談と生徒指導の違いについて、生徒指導提要を基に調べておく。
		事後学習	生徒指導と教育相談の違いを理解し、双方の意義についてまとめる。過去の経験から、相談しやすい態勢をどう作るか自分の考えをまとめる。
第10回	教育相談とその進め方 ・教育相談に大事な考え方やクライアントへの接し方など、様々な技法を調べ、どのように活用したらよいか、グループで話し合い、発表する。	事前学習	生徒指導提要「教育相談の進め方」を読み、教育相談の考え方や技法を知る。
		事後学習	教育相談の技法とカウンセリングマインドについて学んだことを整理しておく。
第11回	教育相談の実際 ・グループを組んで、カウンセラー、クライアント、記録者を決めて、教育相談の実習を行う。役割意識を持ちどのような相談ができたのか発表し、よりよい相談について話し合う。	事前学習	自己の大学生生活を振り返って、悩みや問題、他に相談したいことを考えておく。
		事後学習	グループでの相談活動、全体での話し合いを踏まえて相談活動をどう進めるかまとめる。
第12回	生徒指導上の諸課題への対応 ・生徒指導上の諸課題を知り、その現状を文科省のデータで確認し、問題解決にはどのような対応が必要かグループで考え、発表し合う。	事前学習	生徒指導提要の「個別の課題を抱える児童生徒への指導」を読み、生徒指導上の課題にはどのようなものがあるのか調べておく。
		事後学習	いじめ、不登校。暴力行為、インターネット等の特徴を整理し、みんながまとめた対策について有効な方法について考える。
第13回	生徒指導に関する法制度 ・いじめや不登校を防いだり、校則などの決まりを作ったりするための国としての対策について法制度を調べ、それらを有効にするための教員としての役割を考え、話し合う。	事前学習	生徒指導に関わる法律について、教科書を基に調べておく。
		事後学習	青少年の健全育成に関する国の施策等に関心を持ち、その対応について整理まとめる。
第14回	キャリア教育の進め方 ガイダンスとしての指導 ・生きる力を育む教育を有効に進めるために、生徒指導同様キャリア教育が重要になっていることを、中教審答申を踏まえ、ガイダンスの機能を生かした全体指導や意義について話し合い、重要性をまとめる。	事前学習	生き方教育としての生徒指導に加え、キャリア教育の理念等について小学校キャリア教育の手引き(改訂版)(平成22年1月)等を読み関心を持つ。
		事後学習	生き方教育としての指導には、様々な内容が含まれるが、キャリア教育と職業教育の違いについて知るとともに、生きていくための汎用的な資質・能力について理解し、自己実現に向けた指導ができるようまとめる。
第15回	教育課程における生徒指導とキャリア教育 ・自己指導能力を育み自己実現を目指す生徒指導とよりよく生きるための資質能力を育むためのキャリア教育の共通性をとらえ、どのような指導が望ましいのか、話し合い発表する。 ・児童生徒指導論のまとめをする。	事前学習	児童生徒指導論で学んだ事柄を整理し、大切なことを振り返る。
		事後学習	自己指導能力を育成するために、どのように生徒指導を進めればよいか、自己の考え方についてレポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	児童文化論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP3239 GELA2326
2. 授業担当教員	柳 辰男		
4. 授業形態	講義、演習、製作、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	健全な子育て及び保育、教育に欠くことが出来ない児童文化について、歴史的変遷を整理し、子どもを取り巻く環境をメディアや遊び空間・時間・仲間などの視点から捉える視点を育て、その意義や課題を理解する。また、子どもの遊びについて伝承遊びやわらべうたなどの実際を学び、保育者が遊びの伝承者としての役割を持つことを理解するとともに、その指導力を育てる。さらに、子どもの豊かな想像性を育む児童文化財(素話、絵本、紙芝居、エプロンシアター、パネルシアター、ペープサートなど)について理解し、製作と発表を通して、技法の基礎を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育、教育における児童文化の意義、価値についての認識理解を図る。 2. 児童文化の種類とそれぞれの価値及び今日的課題についての知識理解と関心を深める。 3. 伝承遊びとその意義の理解とその指導力を育てる。 4. 実技を通して、素話、ストーリーテリング、紙芝居、絵本の読み聞かせ等の共通点と相違点を考え、その価値の理解と実際の技法の基礎を習得する。 5. エプロンシアター、パネルシアター、ペープサートなどについて、製作と実技を通して、実践力を高める。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>アサイメント(宿題)は、各授業毎に提示する。</p> <p><期末課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期及び児童期に経験させたい遊び等の児童文化を具体的に示し、その理由、意義及び具体的な経験のさせ方、指導法を2000字以上の文章に書いて提出する。 2. 絵本、紙芝居、エプロンシアター・パネルシアターづくり及び遊園地の設計のうちの一つを選び、実際に制作し提出すると共に、その製作過程の簡単な説明と制作した児童文化に対するあなたの思いを1000字以上の文章に書いて提出する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>川勝泰介他編著『ことばと表現力を育む「児童文化」』萌文書林、2018年。</p> <p>【参考書】</p> <p>原昌・片岡輝『児童文化 第2版』建帛社、2008年。</p> <p>武田京子編著『子どもの生活と文化』樹村房、2000年。</p> <p>仙田満『子どもと遊び』岩波新書、1992年。</p> <p>野上暁『子ども文化の現代史—遊び・メディア・サブカルチャーの文化の奔流—』大月書店、2015年。</p> <p>かこさとし『子どもと遊び』大月書店、1983年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準(学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育、教育における児童文化の意義、価値についての認識理解を図れたか。 2. 児童文化の種類とそれぞれの価値及び今日的課題についての知識理解と関心を深めることができたか。 3. 伝承遊びとその意義の理解とその指導力を育てられたか。 4. 実技を通して、素話、ストーリーテリング、紙芝居、絵本の読み聞かせ等の共通点と相違点を考え、その価値の理解と実際の技法の基礎を習得できたか。 5. エプロンシアター、パネルシアター、ペープサートなどについて、製作と実技を通して、実践力を高めることができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加態度(積極的・発表・事前課題含む) 総合点の30% 2 提出課題(小レポート、制作物などの提出と内容) 総合点の30% 3 期末課題(レポート等) 総合点の40% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもの文化である児童文化は、子どもの誕生から乳幼児、児童期を通して子どもの健全な成長にとって欠くことのできない栄養源であり環境である。即ち、肉体的生理的な成長、言葉、情緒、知能および社会性や表現力を育てるのに欠くことのできない栄養源的材料なのである。また、保育者の視点からは、養護保育における素材であり管理材として機能を果たすのである。</p> <p>しかし、大人社会はその重要性を十分認識せず、軽視したりしてしまう。その結果、大切な子どもの文化体験が欠落したり貧弱になったりして、その結果が、その後の児童期や前思春期の成長に、さらにその後の人間性に影を落として指摘されている。さらに、子どもの文化があまりにも、商品経済や情報メディアの対象となり、健全な子ども文化を蝕んでいる現象が問題になっている。</p> <p>それだけに、保育、教育を志す諸君には、豊かな子ども文化の理解者、提供者として、さらに、創作、創造者としての資質、知識技能の基礎を持った人になってほしいと願っている。この授業では、単なる知識の理解にとどまることなく、喜びを感じて児童文化を体現し指導できる人になるように、実演、制作を大切に予定である。そのためにも、以下のことをお互いを守るように努力しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前事後課題及び提出課題には誠実に取り組み、授業に積極的に参加すること。 2. 将来保育や教育に関わる仕事を志す学生として、私語や不適切な眼差し等によって他の学習者の邪魔をしたり、人権や人格を傷つけたりすることのないように努めること。 3. 質問、話し合い、共同制作、感想・作品・宿題等の発表を通して積極的に授業に参加し、自分のためだけでなく他の人に役立つ役割を果たすこと。 4. 指導者の私は、授業の準備に努め、授業の開始終了時刻を厳守し、学生の質問や考えを誠実に受け止め答えるように努力するので積極的に話しかけてください。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの確認。特に受講生へのメッセージと成績評価の仕方及び期末提出課題を確認する。 自分の幼児、児童期の記憶に残る児童文化体験を整理しその意味価値を検討する。	事前学習	・教科書の確認。参考文献の確認。 各自の持つ子ども文化のイメージ及び思い出を思い出し発表できるようにすると共に今後の学習に対する希望や夢が語れるようにする。
		事後学習	乳幼児期の児童文化の種類や体験を表に整理して価値や意義を考えておく。
第2回	教科書第4章「子どもの育ちと児童文化」の説明、論述文を通して乳幼児の成長発達過程における児童文化環境の概括的な理解を自分の体験と照らして考察する。	事前学習	教科書 pp. 52～61 を読み重要な箇所や疑問箇所にアンダーライン引いておく。
		事後学習	現在の乳幼児の児童文化の具体的な活用の様子を調べたり観察したりして報告できるようにする。
第3回	保育所保育指針、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領等に見られる児童文化の活用や意義に関して概観して、これからの学習課題や研究課題を考える。	事前学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領を通読したり小学校学習指導要領や劇等の活動を思い出したりして報告できるようにしておく。
		事後学習	児童文化の乳幼児に限らず児童期における存在や価値について見通して文章化する。
第4回	教科書「児童文化財を保育に生かそう」の第1章「わらべ歌・あそびうた」を実演したり、身についている「わらべうた」や「あそびうた」紹介したりする共に、オリジナルの「絵描き歌」や「あそびうた」を創作する。	事前学習	知っている「わらべうた」や「あそびうた」を報告、実演できるようにしておく。
		事後学習	実演した「わらべうた」「あそびうた」に習熟するように練習する。
第5回	第2章「ことばあそび」の教材を通して小学校への接続となる言葉学習の基本教材を理解し親しむようにする。色々な「いろはカルタ」作りを通してオリジナルの「いろはカルタ」作る体験をする。	事前学習	教科書 pp. 93～101 を通読し感想意見が言えるようにしておく。
		事後学習	テーマを決めて、幼児用、又は、児童用の「いろはカルタ」を完成させて後日提出する。
第6回	教科書の第5章「紙芝居」、第6章「シアタースタイルの児童文化財」を参考にして、保育園及び幼稚園等でよく使用され、活用されている、用具、教材制作の目標を決定し計画書を作る。	事前学習	教科書 pp. 144～181 通読してこれから制作したい児童文化用具を見通しておく。
		事後学習	制作したい用具に関する、文献、図書、情報及び材料を集め始め、制作の計画書を作る。
第7回	用具制作の計画の中間発表をし、励まし合う。 第3章「おはなし」を通読して、「おはなし」の乳幼児への与え方、その意義価値を理解し、語りや「素話」の練習をする。	事前学習	制作の計画書を書いて発表できるようにしておく。教科書 pp. 106～114 を通読し感想意見が言えるようにしておく。
		事後学習	作品を決めて「素話」が出来るように練習をしておく。
第8回	全員が練習してきた「素話」みんなの前で実演し感想を述べ合う。	事前学習	「素話」を練習して発表できるようにする。
		事後学習	「素話」の保育教育上の価値や意義に関して自分なりの考えを文章化する。
第9回	「ストーリーテリング」に関する説明文を読みその具体的な姿の概略を知り、保育教育上の価値意義を話し合う。事前に用意した物語の暗唱、ストーリーテリングの練習を始める。	事前学習	「ストーリーテリング」や「おはなしのローソク」等に関する知識や体験が発表できるようにしておく。
		事後学習	選んだ作品のストーリーテリングの練習をして発表できるようにしておく。
第10回	ストーリーテリングの発表会をする。	事前学習	ストーリーテリングの練習をしておく。
		事後学習	自分のストーリーテリングに関して反省評価すると共に今後の課題に関して文章化。
第11回	発達段階にあった絵本のリスト作りをグループで行う計画を立てる。	事前学習	様々な絵本のリストを収集しリスト作りの準備をする。
		事後学習	分担した発達段階の絵本のリスト作りのために出来るだけ多くの絵本を読み検討する。
第12回	現在の乳幼児が見ているテレビ、映画、ビデオ及び雑誌を調べてその傾向と問題点を検討する。	事前学習	乳幼児が見ているテレビ番組、雑誌等実際を見て内容や感想が発表できるようにしておく。
		事後学習	子どもたちの見ているテレビや雑誌に関して保護者や保育者及び一般社会の人たちの感想意見を集め検討し文章化する。
第13回	現在乳幼児用に作られている玩具の様子を知ると共に玩具の歴史的の視点から比較して検討する。	事前学習	自分の乳幼児の頃に使った玩具を思い出したり現在の乳幼児が使っている玩具を観察したりして報告できるようにする。
		事後学習	保育所や幼稚園での玩具の実態や活用の考えを調べ文章化する。
第14回	子供向けの公園や保育園及び幼稚園の園庭の構成や遊具を調べ、子供たちのための園庭や公園の設計つくりをする。	事前学習	自分の経験で好きだった公園や園庭の構成や遊具を思い出して文章化しておく。
		事後学習	園庭や公園の構成や遊具の基本を知ると共に自分の考える設計図を作成する。
第15回	期末課題2の制作物の発表。 *授業評価	事前学習	期末課題2の制作を完成させ提出できるようにすると共に演じる練習をしておく。
		事後学習	ボランティア等で制作物を活用して児童文化(財)の意義価値を体験する。

1. 科目名 (単位数)	社会・集団・家族心理学 (家族) / 家族心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3336
2. 授業担当教員	石川 清子			
4. 授業形態	講義および演習・ディスカッション・グループ発表	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	人間は生涯を通じて他者との中で生きて行く。その最も身近な人間関係の中の一つに「家族」がある。本講義では、家族システム理論を始めとする家族を理解するための鍵概念を解説し、①家族のライフコースと発達、②家族内 (夫婦、親子、兄弟姉妹など) の心理構造、③家族療法の概要、④家族・集団及び文化が個人に及ぼす影響について学びます。講義による解説とディスカッション・グループ発表を通じ、人が成長していくうえで重要な役割を持つ家族の心理に関して理解を深め、日常生活の場で起きている家族の諸問題を考察し、受講生にとっての家族観の再考を促すことを目的としています。			
8. 学習目標	家族心理学が終了した時点で下記の目標達成をすることが期待されます。 1. 家族の在り方と家族メンバーの心理的ウェルビーイングとの深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 家族の発達とともに起こりうる諸問題について指摘できるようになる。 3. 家族心理学の理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 4. 家族臨床の歴史と近年の主たる理論とアプローチについて、説明できるようになる。 5. 家族・集団・文化が相互作用的に個人に及ぼす影響を具体的に説明できるようになる。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	1. アサシメント：各単元の教科書の範囲をグループでまとめ、概要を発表する。 2. レポート課題は次の2つのテーマについて先行研究をもとに考察する。 課題1：家族の発達段階には家族の成立期から老年期の発達段階までであるが、その一段階を取り上げ、家族の健康な発達を妨げる諸要因に関して、先行研究をもとに考察しなさい。 課題2：現代の一般的家族の各メンバーが彼らの家族はうまく機能していると感じる背景にはどのような要因があるか。また、今後の家族の価値観はどの様に変化していくのか。先行研究等をもとに考えをまとめなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子著『家族心理学』有斐閣ブックス、2019年。 【参考書】柏木恵子著『家族心理学』東京大学出版会、2003年。 秋山邦久著『臨床家族心理学』福村出版、2003年。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 家族心理学の主要な理論に関する哲学的背景・歴史的背景を理解し、家族の発達過程を説明できるか。 2. 家族療法の概念・理論を分かり易い言葉で具体的に説明ができ、問題解決法を提示することができるか。 3. 家族・集団・文化が相互作用的に個人に及ぼす影響を具体的に説明できるか。 ○評定の方法 授業への積極的参加度 (ディスカッション、課題、発表)、日常の受講態度等を総合して評価する。 1 平常点 (授業への積極的参加・日常の学習状況) 総合点の50% 2 まとめの課題 (期末試験・課題レポート・テスト) 総合点の50%			
12. 受講生へのメッセージ	本講義の目的を達成する為に、日常生活の中で、近年起きている家族に関係する様々な問題に目を向け、多くの疑問を講義の中で議論していただきたいと思います。また、学習意欲を高める教育環境づくりとして次のことに注意してください。 1. シラバスに示される学習範囲は、授業前に必ず予習して来てください。 2. アサシメント・レポートの提出期日は厳守してください。			
13. オフィスアワー	第一回講義にて提示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション：シラバスの説明と教科目標に関して 家族とは何か：家族システム理論	事前学習	テキスト第1章 (pp. 3~20) の内容をまとめる	
		事後学習	課題1の作成とレポート1の準備。	
第2回	家族とは何か：家族を理解するための鍵概念；家族・集団・文化の相互作用	事前学習	テキスト第2章 (pp. 21~38) の内容をまとめる	
		事後学習	課題2の作成とレポート1の準備。	
第3回	家族の発達：独身の若い成人期	事前学習	テキスト第3章 (pp. 41~59) の内容をまとめる	
		事後学習	課題3の作成とレポート1の準備。	
第4回	家族の発達：結婚による家族の成立期	事前学習	テキスト第4章 (pp. 61~78) の内容をまとめる	
		事後学習	課題4の作成と提出	
第5回	家族の発達：乳幼児を育てる段階	事前学習	テキスト第5章 (pp. 79~96) の内容をまとめる	
		事後学習	課題5の作成とレポート1の準備。	
第6回	家族の発達：小学生の子どもとその家族	事前学習	テキスト第6章 (pp. 97~112) の内容をまとめる	
		事後学習	課題6の作成とレポート1の準備。	
第7回	家族の発達：若者世代とその家族	事前学習	テキスト第7章 (pp. 113~130) の内容をまとめる	
		事後学習	課題7の作成とレポート1の準備。	
第8回	家族の発達：老年期の家族：老いを迎える家族	事前学習	テキスト第8章 (pp. 131~153) の内容をまとめる	
		事後学習	レポート1の作成と提出	
第9回	家族と臨床的諸問題：家族への臨床的アプローチ	事前学習	テキスト第9章 (pp. 157~172) の内容をまとめる	
		事後学習	課題9の作成とレポート2の準備。	

2020 年度

第 1 0 回	家族と臨床的諸問題：夫婦関係の危機と援助	事前学習	テキスト第 10 章 (pp. 173~191) の内容をまとめる
		事後学習	課題 10 の作成とレポート 2 の準備。
第 1 1 回	家族と臨床的諸問題：子育てをめぐる問題と援助	事前学習	テキスト第 11 章 (pp. 193~214) の内容をまとめる
		事後学習	課題 11 の作成とレポート 2 の準備。
第 1 2 回	家族と臨床的諸問題：発達障害と家族支援	事前学習	テキスト第 12 章 (pp. 215~230) の内容をまとめる
		事後学習	課題 12 の作成とレポート 2 の準備。
第 1 3 回	家族と臨床的諸問題：家族が経験するストレスと援助	事前学習	テキスト第 13 章 (pp. 231~249) の内容をまとめる
		事後学習	課題 13 の作成とレポート 2 の準備。
第 1 4 回	家族と臨床的諸問題：家族の中のコミュニケーション	事前学習	テキスト第 14 章 (pp. 251~275) の内容をまとめる
		事後学習	課題 14 の作成とレポート 2 の準備。
第 1 5 回	家族と臨床的諸問題：女性と家族；家族・集団・文化の相互作用	事前学習	テキスト第 15-16 章 (pp. 277~292) の内容をまとめる
	家族と臨床的諸問題：男性と家族；家族・集団・文化の相互作用	事後学習	レポート 2 の作成と提出
期末試験			
15.実務経験を有する教員 特記事項	小学校教諭経験、及び海外のインターナショナルアカデミーにて、多動症児童・自閉症児への親と教師の教育的関わりへの介入とサポートを行った実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	社会科指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJEL3431 EDEL3316
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義、討議、レポート、模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校社会科の指導法に焦点化して、実践的な指導力を身に付ける。そのために、まず小学校社会科及び各学年(3年生以上)の目標と内容について、確実に理解する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に検討する。さらに、これらの指導計画の学習をもとにして1単位時間の指導案づくりと模擬授業を行う。そして、これらの学習を通して、児童が社会的事象に興味・関心をもって、主体的に社会科授業に取り組み、確かな学力を身に付ける指導法について学修する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>【課題1】 講義中に作成した「学習指導案」と「模擬授業」及び「評価表」※指導案は指定の用紙にて作成</p> <p>【課題2】 講義中に作成した「単元計画」と「知識の構造図」※指定の用紙にて作成</p> <p>【課題3】 期末テスト</p> <p>【振り返りシート作成】 毎授業のまとめを行い、定期的に提出し、添削を受ける。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版。</p> <p>【参考書】 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)比較対照表 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決的学習について理解し、説明できるか。 2 社会科の学習指導案の形式・内容について理解し、学習指導案を作成できるか。 3 問題解決的学習を導入し、指導法を工夫して模擬授業を行うことができるか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 課題レポート・作成した資料・討論 総合点の70% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>小学校の社会科は、地域社会や我が国の国土、歴史などに対する学習を通して、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、社会との望ましいかかわり方、社会のなかでどう生きるのかを学ぶ教科である。しかし、いま子どもたちの「公意識」の欠如が指摘され、主体的な社会参画の必要性が大きな課題となっている。そこで教科の役割について改めて考え、社会科指導の充実を図ることができるよう本科目では、次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緊張感と集中力をもって受講する。 2 質問、発表は積極的に行い、主体的に取り組む。 3 欠席、遅刻、早退はしない。 4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などは慎む。 <p>教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など受講者の立場に立って講義する。 3 模擬授業、発表など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 社会科とは何か～社会科の歴史と領域 これまでの社会科学習の経験を踏まえ、社会科教育の目標を理解し、望ましい社会科指導法について考える。	事前学習	これまで経験した社会科の授業を想起し、教科書「社会編」の目標等を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り、社会科教育の在り方を整理する。
第2回	楽しい社会科授業とは(問題解決的学習を中心に)社会科の指導法の課題について学び、意欲的で楽しい授業づくりを考える。	事前学習	社会科教育の重要概念を調べる。
		事後学習	問題解決的学習を中心とする社会科指導の在り方を整理する。
第3回	授業はどのようにしてできるか～教育内容と教材教材の役割が大きいことを理解し、資料をもとに考えを深めることができる学習過程を学びあう。	事前学習	社会科の学習指導案を調べておく。
		事後学習	教材分析の仕方を整理する。
第4回	知識の構造図について	事前学習	知識の構造図について調べておく。

2020年度

	知識の構造図とは何か、その意義と作り方について考える。	事後学習	知識の構造図はどのように作るか整理する。
第5回	知識の構造図の作成と発表 各自選択した単元をもとに知識の構造図の作成を行い、発表を行う。	事前学習	知識の構造図の作成を準備する。
		事後学習	知識の構造図作成の意義について再確認する。
第6回	社会科授業の事例①（地域資料の活用） 地域資料を活用したすぐれた社会科授業の事例を全員で検討し、気付いたことを発表する。	事前学習	すぐれた事例を事前によく目を通しておく
		事後学習	どの点が参考になったかまとめる。
第7回	社会科授業の事例②（問題解決的学習） 問題解決的学習のすぐれた社会科授業の事例を全員で検討し、気付いたことを発表する。	事前学習	すぐれた事例を事前によく目を通しておく
		事後学習	どの点が参考になったかまとめる。
第8回	模擬授業の準備① 地理・産業単元を生かした模擬授業の準備を行う。	事前学習	地理・産業単元より授業箇所を考える。
		事後学習	模擬授業を構想する。
第9回	模擬授業の準備② 歴史単元を生かした模擬授業の準備を行う。	事前学習	歴史単元より授業箇所を考える。
		事後学習	模擬授業を構想する。
第10回	模擬授業の準備③ 公民単元を生かした模擬授業の準備を行う。	事前学習	公民単元より授業箇所を考える。
		事後学習	模擬授業を構想する。
第11回	模擬授業の実践①（問題解決的学習） 小単元の構想と本時が問題解決的な学習過程となっているかを踏まえた模擬授業を行い、相互評価を行う。	事前学習	必要な資料の準備と分析を行っておく。
		事後学習	模擬授業から相互評価を行う。
第12回	模擬授業の実践②（教材の役割） 教材分析を行い、子どもに何を学ばせるのか明らかにし、教材の適切な選択を行った模擬授業を行い、相互評価を行う。	事前学習	必要な資料の準備と分析を行っておく。
		事後学習	模擬授業から相互評価を行う。
第13回	模擬授業の実践③（指導と発問） 指導上の留意点を理解し、本時の展開を構想し、主発問や補助発問を考え模擬授業を行い、相互評価を行う。	事前学習	必要な資料の準備と分析を行っておく。
		事後学習	模擬授業から相互評価を行う。
第14回	模擬授業の実践④（情報機器の活用） 情報機器の効果的活用を含めた指導案をもとに、模擬授業を行い、相互評価を行う。	事前学習	必要な資料の準備と分析を行っておく。
		事後学習	模擬授業から相互評価を行う。
第15回	社会科指導法のまとめを行う。 新学習指導要領が目指す社会科指導のあり方を考える。	事前学習	模擬授業から得られたことを整理してくる。
		事後学習	社会科指導法で学んだことを今後どう生かすか、レポートを書く。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会科指導法 (2単位)	3. 科目番号	EDEL3316
2. 授業担当教員	福島 裕		
4. 授業形態	講義、討議、レポート、模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教育実習前に履修しておくことが望ましい。		
7. 講義概要	小学校社会科の指導法に焦点化して、実践的な指導力を身に付ける。そのために、まず小学校社会科及び各学年(3年生以上)の目標と内容について、確実に理解する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に検討する。さらに、これらの指導計画の学習をもとにして1単位時間の指導案づくりと模擬授業を行う。そして、これらの学習を通して、児童が社会的事象に興味・関心をもって、主体的に社会科授業に取り組み、確かな学力を身に付ける指導法について学修する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>○事前に「小学校学習指導要領社会編」等の目標と内容に応じた教科書教材(単元)との整合性を確かめておく。</p> <p>○模擬授業前に学習指導案を作成し提出する。</p> <p>○協力して教材等を作成し、問題解決的な学習過程を導入し、発問・板書等を工夫した学習指導案を作成し、模擬授業を実施できるようにすること。</p> <p>○レポート課題：テーマについては後日指定する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版</p> <p>【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決的学習について理解し、説明できるか。 2 社会科の学習指導案の形式・内容について理解し、学習指導案を作成できるか。 3 問題解決的学習を導入し、指導法を工夫して模擬授業を行うことができるか。 <p>○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 課題レポート・作成した資料・討論 総合点の70% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>○本科目は、小学校教諭の資格取得のために学ぶ教科です。教師としての熱意や実践的な指導力を高めるために、以下の点に留意して授業に取り組んでほしい。</p> <p>ア 事前・事後の学習は必ず行い、課題を明確にして授業に臨む。</p> <p>イ それぞれの教材が、児童にとってどのような意味を持っているのか、常に考える習慣を身につける。</p> <p>ウ 社会的事象への関心を高め、社会人として必要な知識や教養を身につける。</p> <p>例 日本や世界の現状を理解し、豊かな知識と深い考え方ができるようにするとともに、教材を多面的にとらえ、児童の発達段階に即した教材づくりができるようにする。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 社会科とは何か～社会科の歴史と領域 これまでの社会科学習の経験を踏まえ、社会科教育の目標を理解し、望ましい社会科指導法について考える。	事前学習	これまで経験した社会科の授業を想起し、教科書「社会編」の目標等を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り、社会科教育の在り方を整理する。
第2回	楽しい社会科授業とは(問題解決的学習を中心に)社会科の指導法の課題について学び、意欲的で楽しい授業づくりを考える。	事前学習	社会科教育の重要概念を調べる。
		事後学習	問題解決的学習を中心とする社会科指導の在り方を整理する。
第3回	授業はどのようにしてできるか～教育内容と教材教材の役割が大きいことを理解し、資料をもとに考えを深めることができる学習過程を学びあう。	事前学習	社会科の学習指導案を調べておく。
		事後学習	教材分析の仕方を整理する。
第4回	社会科学習の学習過程の累型(探究学習を中心に)指導計画の作成の仕方を知り、その視点から社会科指導の実際を記録から学び、話し合う。	事前学習	社会科学習の指導計画の在り方を調べておく。
		事後学習	問題設定場面をどのように作るか整理する。
第5回	地域素材を活用した模擬授業の計画 児童の実態を想定し、地域を教材とした授業計画を立てる。資料収集のための役割分担をする。	事前学習	指導案作成のため、授業記録を読んでくる。
		事後学習	子どもの活動を保障する展開の在り方をまとめる。
第6回	地域調査に基づき資料の整理をする 授業計画に基づき、現地調査や情報機器を活用した教材化を図り、模擬授業の指導案を作成する。	事前学習	現地を訪れ、地域素材の資料を収集する。
		事後学習	不足している資料を分担して収集する。
第7回	模擬授業の実践① 地域素材を活かした模擬授業を行う。授業後、相互評価を行う。	事前学習	指導案、学習資料を完成させておく。
		事後学習	グループの模擬授業の感想を書く。
第8回	教材・授業分析の方法	事前学習	過去の研究論文から教材分析の方法を調べておく。

2020年度

	社会科の教材分析について、これまでの研究の成果を学び、自分なりの考えを持てる。	事後学習	教材分析の方法を整理する。
第9回	模擬授業の実践②（単元指導計画と本時案） 単元全体の指導計画と本時の指導案の位置付けやねらいを明確にした指導案を作成する	事前学習	小単元計画と本時の展開を構想しておく。
		事後学習	基本的な形式を整えた学習指導案を作成する。
第10回	模擬授業の実践③（評価の具体的な手立て） 評価規準を確定し、学習目標を明確にするとともに、学習指導案に評価の観点、評価内容、評価の手立てを明示する。	事前学習	目標及び評価規準について調べてくる。
		事後学習	目標、指導上の配慮事項における評価の場面と手立て、評価規準の整合性を確かめ修正しておく。
第11回	模擬授業の実践④（社会科指導と教材の役割） 教材分析を行い、子どもに何を学ばせるのか明らかにし、教材の適切な選択を行う。	事前学習	必要な資料の準備と分析を行っておく。
		事後学習	教材の意義について、話し合ったことをまとめておく。
第12回	模擬授業の実践⑤（指導と発問） 指導上の留意点を理解し、本時の展開を構想し、主発問や補助発問を考え模擬授業の指導案を作成する。	事前学習	発問の意義について調べる。
		事後学習	模擬授業の具体的な発問を整理し、まとめておく。
第13回	模擬授業の実践⑥（「わたしたちの国土」の授業展開） 情報機器や教材の活用を含めた指導案をもとに、模擬授業を行い、授業後は相互評価を行う。	事前学習	地理・産業分野の授業展開を考えてくる。
		事後学習	地理・産業分野の模擬授業を行い、相互評価したことを整理する。
第14回	模擬授業の実践⑦（「武士による政治のはじまり」の授業展開） 情報機器の活用を含めた指導案をもとに、模擬授業を行い、授業後は相互評価を行う。	事前学習	歴史分野の授業展開を考えてくる。
		事後学習	歴史・公民分野の模擬授業を行い、相互評価したことを整理する。
第15回	社会科指導法のまとめを行う。 新学習指導要領が目指す社会科教育のあり方を考える。	事前学習	模擬授業から得られたことを整理してくる。
		事後学習	社会科指導法で学んだことを今後どう生かすか、レポートを書く。

1. 科目名 (単位数)	社会教育計画 (2単位)		3. 科目番号	SSMP3444 SNMP3444 SCMP3444 SBMP3444 SSMP3344
2. 授業担当教員	植原 孝行			
4. 授業形態	講義と討議、演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	この科目は、社会教育主事資格取得のための必修科目である。他の必修科目と関連付けて履修すること。			
7. 講義概要	<p>急速な社会の変化に伴い、人々の生活や価値観も多様化し、生涯学習の振興や社会教育支援の在り方も大きく様変わりしている。地域における住民の学習や活動の拠点である社会教育施設も、指定管理者制度の導入など民間の活力を導入した施設へと移行している。社会教育を推進する中心的な役割を負っている社会教育主事は、生涯学習、社会教育に関する基礎知識を身につけるとともに、時代の変化に柔軟に対応できる問題解決能力や先見性、創造性、コミュニケーション能力等が求められるようになってきている。</p> <p>そこで、本科目では社会教育計画（個別事業計画）の策定を通して、社会教育主事としての資質を育成するとともに、社会教育事業の推進計画である社会教育計画及び社会教育行政の役割について理解を深める。</p>			
8. 学習目標	<p>次の目標を達成できることを目的とする。</p> <p>①社会教育の現状把握を通して、社会が抱える今日の課題について理解することができるようになる。</p> <p>②社会教育計画を策定する意義を理解し、策定の必要性を述べることができるようになる。</p> <p>③社会教育計画の種類、内容の学習を通して、策定に当たっての手順・方法を理解することができるようになる。</p> <p>④社会教育における施設や職員の専門性、及び対象となる学習者の特性を理解することができるようになる。</p> <p>⑤今日的課題の特徴を理解し、課題解決のための社会教育計画（個別事業計画）を策定することができるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	その都度、宿題を出すので、必ず次回に発表する。あるいは、期限までに文書（小レポート）を提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>教科書：○講師作成の印刷物（講義要旨）。</p> <p>参考書：○鈴木真理・山本珠美・熊谷慎之輔編著『社会教育計画の基礎』[新版]、学文社、2012年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 社会教育に関する政策及び計画プロセスについて深く理解し、説明できる力を身につけたか。（知識・理解）</p> <p>2. 社会教育に関する現代的課題について関心を持ち、地域の実情をふまえた社会教育計画の立案・策定ができる力を身につけたか。（思考力・判断力・表現力）</p> <p>○評定の方法</p> <p>【授業への取り組み姿勢、授業内での課題提出、期末レポート等を総合して評価する。】</p> <p>1. 授業への取り組み姿勢 総合点の30%</p> <p>2. 授業内での課題提出（課題レポート・企画書作成等） 総合点の40%</p> <p>3. 期末課題（計画の立案・策定及び発表） 総合点の30%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>ドイツの学生たちの間では、「大学は学問の工場である」と言われているそうです。工場で物を造り出すように、大学は学問によって、質の高い、そして人類に役立つ知を創り出すところ、という意味のようです。そして、それは教師ではなく学生自身が取り組むこととされています。</p> <p>この授業では次の点に留意して、学びに取り組んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席は必要条件であって、十分条件ではありません。 ・授業中の私語、飲食、携帯電話・スマートフォン等の操作は禁止です。 ・授業に集中し、必ず復習すること。 ・社会教育施設が主催する講座などに参加して、社会教育体験をすることを勧めます。 ・この科目は社会教育主事となるための授業であり、専門職となるための授業です。自分が社会教育主事になったときのことをイメージして学習することを望みます。 			
13. オフィスアワー	個別の相談等は、授業後の休憩時間に応じる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・導入：授業の概要、教材、成績評価等について ・授業：社会教育主事の職務とは、いかなる職務か 	事前学習	シラバスにて、この授業の目的や内容を理解する。	
		事後学習	導入の説明をふまえ、授業のねらいや課題を確認する。	
第2回	社会教育計画とは 1（法的根拠とその種類）	事前学習	講義要旨を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。	
		事後学習	授業内容をノートに整理する。	
第3回	社会教育計画とは 2（社会教育行政における計画。計画作成に伴う住民参加方式）	事前学習	講義要旨を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。	
		事後学習	授業内容をノートに整理する。	
第4回	社会教育施設計画と運営 1	事前学習	講義要旨・参考資料を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。	
		事後学習	授業内容をノートに整理する。	
第5回	社会教育施設計画と運営 2	事前学習	講義要旨・参考資料を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。	
		事後学習	授業内容をノートに整理する。	

2020年度

第6回	社会教育施設計画と運営 3	事前学習	講義要旨・参考資料を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第7回	社会教育事業計画と展開 1	事前学習	講義要旨・参考資料を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第8回	社会教育事業計画と展開 2	事前学習	講義要旨・参考資料を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第9回	社会教育事業計画と展開 3	事前学習	講義要旨・参考資料を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第10回	社会教育評価 1 (教育における評価)	事前学習	講義要旨・参考資料を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第11回	社会教育評価 2 (社会教育評価の特徴)	事前学習	講義要旨・参考資料を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第12回	社会教育調査	事前学習	講義要旨を読み、あらかじめ授業の概要を確認する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第13回	ある自治体における具体的な社会教育計画に学ぶ 1	事前学習	自治体における社会教育計画を具体的に精査する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第14回	ある自治体における具体的な社会教育計画に学ぶ 2	事前学習	自治体における社会教育計画を具体的に精査する。
		事後学習	授業内容をノートに整理する。
第15回	ふりかえり (これまでの学びをまとめ整理する)	事前学習	14回の学びを知的に整理して授業に臨む。
		事後学習	全15回の学びをノートに整理し確認する。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	社会心理学 / 社会心理学(中等) (2単位)		3. 科目番号	SBMP2343 SSMP2343 SCMP2343 SNMP2343 SPMP2343 EDPS2303
2. 授業担当教員	岡本 香			
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッション・フィールドワークを含む)	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」、「心理学概論」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	<p>人は他者と関わり、集団に所属しながら生活している。そして人は、他者や集団や社会から様々な影響を受けると同時に、自らも対人関係や集団に影響を及ぼしている。社会心理学は、社会学と心理学の境界領域にあたる学問領域であり、人と他者・集団との関係の中で、人の態度や認知に表れるさまざまな変化を明らかにすることを主なねらいとしている。</p> <p>本科目では、社会心理学の主要な研究分野である自己、対人認知、対人関係、集団等の心理について、基礎的な知見を学習するとともに、現代社会における諸現象について、社会心理学的視点から読み解いていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学における社会心理学の位置づけについて理解し、説明することができるようになる。 2. 社会心理学における主要トピックスの要点を理解し、説明することができるようになる。 3. 日常生活や社会現象について、社会心理学で提唱されている理論を用いて考察できるようになる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>教科書の該当箇所を事前に読んでくることをアサインメントとします。</p> <p>また授業内で行う課題について、時間内に終わらなかった場合は、その課題を宿題とします。</p> <p>レポート課題については、第8回および第14回の授業時に提示するテーマに関して、調べ学習した成果をまとめることとします。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】安藤香織・杉浦淳吉(編著)『暮らしの中の社会心理学』ナカニシヤ出版。</p> <p>【参考書】山岸俊男(編)『社会心理学キーワード』有斐閣。</p> <p>池上知子・遠藤由美(共著)『グラフィック社会心理学 第2版』サイエンス社。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学における社会心理学の位置づけに理解し説明できる 2. 社会心理学における狩猟トピックスの要点を理解し説明できる 3. 日常生活や社会現象について社会心理学で提唱されている理論を用いて考察できる <p>○評定の方法</p> <p>学則で決められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度点(授業への積極的参加)30%、試験(小テスト、課題レポート)70%の合計得点により、成績を評価する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	社会心理学は、私たちの日常生活と密接した、とても身近な学問です。内容を理解するとおもしろく学べると思っていますので、「やる気!」を持って臨むことを期待します。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	導入:社会心理学とは	事前学習	社会心理学のイメージを考える	
		事後学習	社会心理学の特徴をまとめる	
第2回	社会心理学の研究手法	事前学習	社会心理学の研究手法についての配付資料を読むこと	
		事後学習	事前学習時の配付資料を読んで復習すること	
第3回	好き・嫌いの心理1 好き・嫌いとは	事前学習	教科書の第1章 pp. 3~14を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第4回	好き・嫌いの心理2 心理・社会的要因の影響	事前学習	教科書の第1章 pp. 3~14を読むこと	
		事後学習	教科書の第1章 pp. 3~14を読んで復習すること	
第5回	集団関係の心理1 集団とは	事前学習	教科書の第2章 pp. 15~24を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第6回	集団関係の心理2 同調	事前学習	教科書の第2章 pp. 15~24を読むこと	
		事後学習	教科書の第2章 pp. 15~24を読んで復習すること	
第7回	コミュニケーションの心理1 コミュニケーションとは	事前学習	教科書の第5章 pp. 51~66を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第8回	コミュニケーションの心理2 パーバルとノンバーバル	事前学習	教科書の第5章 pp. 51~66を読むこと	
		事後学習	教科書の第5章 pp. 51~66を読んで復習すること	
第9回	まとめ1:人間関係の心理について	事前学習	第1回から第8回までの復習をしてくること	
		事後学習	まとめ1の配付資料を読んで復習し、レポートを作成すること	
第10回	意思決定と合意形成の心理1 意思決定	事前学習	教科書の第6章 pp. 67~78を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第11回	意思決定と合意形成の心理2 合意形成	事前学習	教科書の第6章 pp. 67~78を読むこと	
		事後学習	教科書の第6章 pp. 67~78を読んで復習すること	
第12回	リーダーシップの心理1	事前学習	教科書の第10章 pp. 121~134を読むこと	

2020年度

	リーダーシップとは	事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること
第13回	リーダーシップの心理2 リーダーの気質・特性	事前学習	教科書の第10章 pp. 121~134を読むこと
		事後学習	教科書の第10章 pp. 121~134を読んで復習すること
第14回	インターネットの心理	事前学習	教科書の第12章 pp. 147~158を読むこと
		事後学習	教科書の第12章 pp. 147~158を読んで復習すること
第15回	まとめ2：社会の中で生きるための心理学について	事前学習	第10回から第14回までの復習をしてくること
		事後学習	まとめ2の配付資料を読んで復習し、レポートを作成すること

1. 科目名 (単位数)	社会政策論 / 社会政策 (2単位)	3. 科目番号	SBMP2134 PSMP3308
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄		
4. 授業形態	講義、学生による発表とディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	現代社会は、様々な社会問題を抱えている。その問題群に対応する政策が社会政策であり、労働・人口変動・生活保障など幅広い分野をカバーしている。一方で、社会政策が十分に機能しているかという点、不十分な点も多くあり、さらには政策自体が逆に問題を大きくしている場合もある。 この授業では、そのような社会問題や、社会政策について勉強し、少しでも良い方向に向かわせるためにはどうすればいいかを、自分の住んでいる社会のこととしてとらえ、一緒に考えてもらいたい。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の様々な社会問題について、様々な視点からとらえられるようになる。 ・社会問題に対する社会政策について調べ、その概要を理解できるようになる。 ・新聞等で取り上げられている社会問題について考え、自らの意見が発表できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教科書に基づき、授業での発表を分担してもらう。 詳細は、1回目の授業時に説明するので、教科書を購入の上、必ず出席されたい。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 石畑良太郎・牧野富夫編『よくわかる社会政策 第3版』ミネルヴァ書房、2019年。 【参考書】 玉井金五、大森真紀編『三訂 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2007年。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 ・現代の様々な社会問題や、それに対する社会政策の内容について、理解できるようになったか。 ・社会問題について根拠を基に考え、それに対する自らの意見が発表できるようになる。 ○評定の方法 授業態度および積極的参加度 (授業への取り組み・発言) 等 20% レポート・発表・コメントペーパー等 30% 小テスト・期末試験等 50%		
12. 受講生への メッセージ	日頃から新聞等のマスメディアに触れ、社会の動きについて考えておいてほしい。受講生の高い問題意識と、積極的な参加を期待する。期末試験は受講者数によっては行わないことがある。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション 社会政策の考え方とその課題	事前学習	教科書の全体像を理解しておくこと
		事後学習	自分の発表の担当について確認しておくこと
第2回	賃金 (教科書: I) 最低賃金、年功賃金と成果主義	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第3回	労働時間 (教科書: II) 生活のなかの労働、労働時間のルール	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第4回	労働時間 (教科書: II) 休暇と休業、時間外労働	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第5回	雇用・失業 (教科書: III) 失業の原因、雇用形態の多様化	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第6回	雇用・失業 (教科書: III) 若者の雇用、失業者への社会政策	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第7回	労使関係 (教科書: IV) 労使関係と労働組合	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第8回	労使関係 (教科書: IV) 労働規制と雇用問題	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第9回	高齢社会 (教科書: V) 人口高齢化と高齢者福祉	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えを

2020 年度

			まとめておくこと。
第 10 回	高齢社会（教科書：V） 高齢者雇用と社会的企業	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第 11 回	社会保障（教科書：VI） 医療・介護保障	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第 12 回	社会保障（教科書：VI） 年金と最低生活保障	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第 13 回	男女平等（教科書：VII） 男女平等政策と労働の場における男女間格差	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第 14 回	男女平等（教科書：VII） ワークライフバランスと女性のライフコース	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第 15 回	外国人労働者（教科書：VIII） 外国人労働者と外国人住民	事前学習	教科書の該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2単位)	3. 科目番号	SSMP2107 SBMP2107 SNMP2307 SCMP2307 SPMP2107 PSMP2407						
2. 授業担当教員	金 貞任								
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い（積極的に数値を利用して正しく測定する）、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとするものである。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査（面接調査）の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。 2. 社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。 3. 社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。 4. 量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。 5. グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。 6. 分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。 7. 社会福祉士国家試験受験に必要な基礎知識について説明できるようになる（受験予定学生の場合）。 								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎回、次回勉強する内容についてまとめるなど事前学習が必要である。 2. グループごとに先行研究を集め、仮説と質問項目を作成する。 3. グループごとに面接調査を実施する。 4. グループごとに統計分析とレポートを作成し、発表・提出する。 5. 小テストは、随時実施する（持ち込み禁止）。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 潮谷有二ほか、『社会調査の基礎』ミネルヴァ書房 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深めることができたか。 2. 社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解することができたか。 3. 社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握することができたか。 4. 量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習することができたか。 5. グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付けることができたか。 6. 分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践することができたか。 <p>○評定の方法</p> <table> <tr> <td>小テストの評価基準</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業の態度や内容の把握など</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート・課題提出と発表</td> <td>30%</td> </tr> </table>			小テストの評価基準	40%	授業の態度や内容の把握など	30%	レポート・課題提出と発表	30%
小テストの評価基準	40%								
授業の態度や内容の把握など	30%								
レポート・課題提出と発表	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>公的サービスを提供する社会福祉施設などでは、長期的な計画に基づき収益の確保のために利用者に対するサービスの質と満足度を高める必要があります。そのためには、利用者などを対象にサービス・ニーズやサービス質・満足度などに関する意識調査が必要です。本講義を受講することにより、社会調査の方法を身につけ、社会福祉に関する様々な事象を科学的根拠に基づき評価することが可能であり、就職活動の際に高く評価されます。</p> <p><受講生に期待される学習態度></p>								

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で参加することを望みます。 2. 授業のための予習は必ず行い、ノートを整理してください。 3. 理解できないことや疑問点がある場合は、必ず質問してください。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではありません。 4. 人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴してください。 5. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないでください。 6. レポート等の提出期限を厳守してください。提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点の対象となります。 7. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等の学習活動を妨げる行為は厳禁とします。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義概要についてシラバスを中心に説明	事前学習	社会調査法の学習ノートを準備し、講義に臨むこと。
		事後学習	社会調査をしなければならない理由について吟味する。
第2回	1. 社会調査の定義、 2. 信頼性と妥当性について学習	事前学習	1、2をノートにまとめる。(pp. 1-6、84-91)
		事後学習	社会調査の種類の短所と長所の内容を復習する。
第3回	1. データ収集の方法について学習 2. 社会調査における倫理と個人情報保護	事前学習	測定と尺度の種類の内容をノートにまとめる。(pp. 62-72, 119-121, 13-16)
		事後学習	測定と社個人情報の保護が必要な理由について考える。
第4回	1. 概念の理解と仮説を作成する：グループ作業 2. 調査対象者の選定：母集団について理解する	事前学習	概念を理解し、仮説と母集団に関する内容をまとめる。 高齢者に関して関心がある資料を集める。 (pp. 63-68)
		事後学習	仮説を作成しないとどのような問題が生じるかについて考える。仮説を精査する。
第5回	1. 質問文と選択肢を作成する：グループ作業 2. 測定の尺度の種類について学習	事前学習	高齢者を対象に仮説を3つ作成する。質問文の作成と選択肢の内容をまとめる。 (pp. 72-81)
		事後学習	仮説に関連する質問項目になっているかどうかを確認する。
第6回	1. 調査対象者の選定：標本調査とは何か、標本の選び方について学習 2. ミニテスト	事前学習	調査対象者の選定方法の内容をまとめる。 (pp. 37-53)
		事後学習	標本調査の必要性について考える。 エディティングとコーディングの内容を理解する。
第7回	面接調査（インタビュー調査）：現地における面接調査	事前学習	調査対象者に調査の依頼をする。調査対象者とラポール（信頼関係）を作るための工夫をする。面接調査のための筆記用具を用意する。
		事後学習	高齢者を対象に量的調査を実施するエディティング、クリーニング、データ、変数などの統計用語を理解する。データの入力を完成する。
第8回	データ入力：グループ作業（情報室にて授業）TA 必要	事前学習	データ入力のために必要な作業とは何かについて学習する
		事後学習	データ入力を完成する
第9回	データ分析：度数分布、データ入力ミス発見とデータクリーニング（情報室にて授業）TA 必要	事前学習	データクリーニングとは何かを学習する。
		事後学習	調査対象者の特徴について表を作成する
第10回	1. データ入力ミス発見とデータクリーニング 2. 調査対象者の特徴について発表	事前学習	カイ2乗検定を理解する
		事後学習	仮説に基づきクロス分析と有意差を検定し、表をまとめる。
第11回	クロス集計、カイ2乗検定、変数の加工、値の変換（情報室にて授業）TA レポート作成：グループ作業	事前学習	値の変換を練習する。
		事後学習	レポートを完成する。（グループ作業）
第12回	1. 仮説に基づきクロス分析結果の発表（情報室にて授業）TA	事前学習	ダミー変数とは何かを学習する
		事後学習	ダミー変数を用いて相関関係分析を行う。

	レポート作成：グループ作業		レポートを完成する
第13回	1. 相関関係分析 2. ダミー変数作成（情報室にて授業）TA レポート作成：グループ作業	事前学習	重回帰分析とは何か学習する（配布資料）。
		事後学習	発表レポートを作成する。（グループ作業）
第14回	1. 仮説に基づき相関関係分析結果の発表（情報室にて授業）TA レポート作成：グループ作業	事前学習	発表レジュメを完成する、発表レジュメをコピーする。（グループ作業）
		事後学習	グループごとに反省会を開く。グループの長所と短所について確認し、提出レジュメを精査する。
第15回	1. 調査結果の発表、レポート提出：グループ 2. ミニテスト	事前学習	発表レジュメを完成する、発表レジュメをコピーする。（グループ作業）
		事後学習	社会福祉のニーズの発見とニーズを解決するために、社会調査をどのように活用すればいいか考える。

1. 科目名 (単位数)	社会的養護Ⅱ／社会的養護内容 (2単位)		3. 科目番号	JENT2417 JNNT2417
2. 授業担当教員	中嶋 一郎			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「社会的養護」を履修してから履修することが望ましい。			
7. 講義概要	社会的養護の基本的内容として、子どもの理解を踏まえた日常生活支援、治療的支援、自立支援を理解する。施設養護と家庭養護それぞれの生活特性と実際を学び、アセスメントと個別支援計画の作成、記録、自己評価ができるようになる。社会的養護に関わる専門技術として、保育の専門性と社会的養護に関わる相談援助の知識と技術とその実践を身に付ける。社会的養護における子ども虐待と家庭支援について学び、今後の課題と展望を理解する。			
8. 学習目標	1. 児童福祉施設における養護の意義を理解し、専門的な支援者としての保育士に必要な認識を身につける。 2. 子どもの成長・発達に果たす養護の意義について学習し、保育士としての役割感覚を身につける。 3. 子どもの最善の利益を意識した支援の実践方法を身につける。 3. 社会的養護に関わる施設の事例分析を行い、利用者理解と事例への洞察力、支援の視点を身につける。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	15回の授業内で、社会福祉への問題意識を高め、主体的な学習ができるように予習を兼ねたアサイメントと、問題へ及び考察を表現するためのレポート課題を行う。 第1回の授業開始までに「児童の有する権利」についてまとめたレポートを作成しておくことを強く望む。(字数は任意)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 吉田眞理(編著)『児童の福祉を支える 演習 社会的養護内容』萌文書林			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 児童福祉施設における養護の意義を理解し、支援者としての保育士に必要な認識力を身につけられたか。 2. 子どもの成長・発達に果たす養護の意義について学習し、保育士としての役割感覚を身につけられたか。 3. 子どもの最善の利益を意識した支援の実践方法を身につけられたか。 4. 社会的養護に関わる各施設における事例分析を行い、利用者理解と支援方法、及び支援に関する具体的な方策を考察出来たか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への出席・レポート 総合点の45% 2 期末試験 総合点の40% 3 日常の学習状況 総合点の15%			
12. 受講生へのメッセージ	携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) 授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 (以下、加点の対象) 他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務① 児童の権利擁護(1)	事前学習	児童の有する権利についてまとめたレポートを作成しておく。テキスト p.11、p.20 の事例を熟読しておく。	
		事後学習	子どもの最善の利益を踏まえた支援の具体例を考察し、自分の意見を説明することが出来る。	
第2回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務② 児童の権利擁護(2)	事前学習	テキスト p.23、p.32、p.37、p.44 の事例を熟読しておく。	
		事後学習	子どもの最善の利益を踏まえた支援の具体例を考察し、自分の意見を説明することが出来る。	
第3回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務③ 保育士等の倫理及び責務	事前学習	テキスト p.56「全国児童養護施設協議会倫理綱領」をまとめたレポートを作成しておく。テキスト p.47、p.57 の事例を熟読しておく。	
		事後学習	保育士としての資質と倫理について理解し、バーンアウトを起こさないための職員間の支援について考察し、自分の意見を説明することが出来る。	
第4回	施設養護の特性及び実際① 児童養護の体系と児童福祉施設の概要	事前学習	児童養護施設の体系と概要についてまとめたレポートを作成しておく。	
		事後学習	児童養護にかかるサービスの種類、及び連携、利用までの手続きを理解し、説明することが出来る。	

第5回	施設養護の特性及び実際② 日常生活支援と諸施設の暮らし(1)	事前学習	テキスト p.67、p.72、p.75、p.81、p.84 の事例を熟読しておく。
		事後学習	児童養護施設、乳児院、母子支援施設での支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第6回	施設養護の特性及び実際③ 日常生活支援と諸施設の暮らし(2)	事前学習	テキスト p.87、p.94、p.97、p.100、p.107、p.110 の事例を熟読しておく。
		事後学習	医療型障害児入所施設、児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設での支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第7回	施設養護の特性及び実際④ 日常生活支援と諸施設の暮らし(3)	事前学習	テキスト p.113、p.120、p.128 の事例を熟読しておく。
		事後学習	福祉型障害児入所施設、里親制度に係る支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第8回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向① 保育士の業務、虐待された子どもへの支援	事前学習	入所型社会的養護施設のうち、任意で選択した一つの施設についての業務内容をまとめたレポートを作成しておく。 テキスト p.141 の事例を熟読しておく。
		事後学習	虐待を受けてきた子どもの支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第9回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向② 虐待への対応、子どもと家族への支援	事前学習	テキスト p.151、p.154 の事例を熟読しておく。
		事後学習	施設内の体罰に係る支援、子どもと家庭への支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第10回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向③ 児童相談所の連携、虐待した家族への支援	事前学習	テキスト p.164、p.167 の事例を熟読しておく。
		事後学習	児童相談所との連携に係る支援、虐待した家族への支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第11回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向④ ソーシャルワークの技術活用、アドミッションケア	事前学習	テキスト p.167、p.175 の事例を熟読しておく。
		事後学習	入所から退所後に至る支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第12回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向⑤ リビングケア、アフターケア	事前学習	テキスト p.188、p.197 の事例を熟読しておく。
		事後学習	入所から退所後に至る支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第13回	今後の課題と展望① 施設の小規模化と地域連携	事前学習	テキスト p.208 の事例を熟読しておく。
		事後学習	グループホームにおける個別ケアに関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第14回	今後の課題と展望② 施設の小規模化と地域連携	事前学習	テキスト p.211、p.220 の事例を熟読しておく。
		事後学習	地域とのかかわり、地域と施設の関係に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第15回	まとめ 社会的養護の施設で働くということ	事前学習	今までの授業で印象に残った事例の一つあげて、なぜ印象に残ったのかという理由をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育士として働いてみたい施設に関する知識とそこでの支援に関する留意点をまとめて説明出来る。
期末試験			
内容については、15回の授業で行った内容から記述形式で問題を作成する。 資料の持ち込みに関しては、授業で使用したコマシラバスと配布資料に関しては可。			

1. 科目名 (単位数)	社会病理 (2単位)	3. 科目番号	PSMP2306
2. 授業担当教員	高木 俊彦		
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究、同結果プレゼンテーション、学生との応答	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。(1) 社会病理とは何か、(2) 社会病理の発生・形成過程、(3) 社会生活に及ぼす影響等について、具体的には、犯罪や非行の問題、いじめや自殺(自死)の問題、格差社会の進展とワーキングプアの問題、青少年のモラトリアムや引き籠もりの問題、児童虐待や男女間のDVの問題、少子・高齢化がもたらす問題、福祉の施設化の問題、性の商品化の問題、カルト集団の問題など、新旧さまざまな「社会病理現象」を、主として社会学、さらに心理学や社会心理学の知見を踏まえて解説していく。</p> <p>これらの問題、病理の内容に応じてグループ研究などを実施し、受講生自らが主体的にそれらの社会病理現象を調査・考察、その打開策を模索していくという参加型の授業形態を採る。</p> <p>個々の病理現象の臨床的考察から、その社会的背景の分析、実践的対応の提示まで、社会病理学への要請に応える授業内容とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな社会病理について理解し、説明することができるようになる。 2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明することができるようになる。 3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになる。 4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機能について理解し、説明することが説明できるようになる。 5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 予め個人又はグループ毎にテーマを与え、調査研究をし、発表の準備作業をする。 2 調査研究の結果をレポートにまとめ、資料として配付或いはパワーポイントを用いるなどして、各個人又はグループごとにプレゼンテーションをする。 3 第14回の授業において、各自が自ら選んだ病理についてレポートを作成する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 日本社会病理学会監修 高原正興・矢島正見編著『関係性の社会病理』学文社、2016年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな社会病理について理解し、説明することができるようになったか。 2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明することができるようになったか。 3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになったか。 4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機能について理解し、説明することが説明できるようになったか。 5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・授業(個人又はグループ研究・発表)への参加度(40%)、2 レポート提出・小テスト(60%)を総合して行う。受講生が多い場合は期末試験を行い、その結果を加味する 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に新聞・テレビ・インターネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会病理現象と思われる問題について、その社会的、心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的な態度で受講されたいこと。 2 授業に集中すること。私語、携帯・スマホのON、ゲーム、飲食、中抜けなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。 		
13. オフィスアワー	初回の授業開始時(初回授業)に担当教員からお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション —社会病理とは何か(受講生の所感等も踏まえグループ討議)—	事前学習	各受講生1例ずつ現在の「社会病理」について調べる。
		事後学習	個人又はグループごとに、担当する社会病理の各テーマにつき、調査・研究・取りまとめの計画を立てる。
第2回	犯罪と非行、犯罪集団の社会病理 (講師によるモデル発表と講義)	事前学習	テーマ発表の仕方について、関係知識を得、その結果を学習ノートにまとめる。(テキスト第3章参照)
		事後学習	「犯罪と非行、犯罪集団の社会病理」についての講師の発表から—学んだものを学習ノートにまとめ、各グループの準備作業に役立てる。
第3回	自殺(自死)の社会病理	事前学習	「自殺(自死)の社会病理」の担当希望者がある場合はその発表準備。その他のメンバー

			は本テーマに関する情報の事前収集。(テキスト第10章参照)
		事後学習	担当個人又はグループによる発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第4回	モラトリアムと引き篋もりをめぐる社会病理	事前学習	「モラトリアムと引き篋もりをめぐる社会病理」の担当希望者がある場合はその発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。(テキスト第1章参照)
		事後学習	担当個人又はグループによる発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第5回	児童虐待といじめの社会病理	事前学習	「児童虐待といじめの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。(テキスト第2章、第7章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第6回	男女間DV、ストーカーの社会病理	事前学習	「男女間DV、ストーカーの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。(テキスト第5章、第6章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第7回	性の商品化をめぐる社会病理	事前学習	「性の商品化をめぐる社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第8回	カルト集団をめぐる社会病理	事前学習	「カルト集団をめぐる社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第9回	格差社会とワーキング・プアの社会病理	事前学習	「格差社会とワーキング・プアの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。(テキスト第8章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第10回	少子・高齢化がもたらす社会病理	事前学習	「少子高齢化がもたらす社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。(テキスト第4章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第11回	情報化社会、IT社会の社会病理	事前学習	「情報化社会、IT社会の社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。(テキスト第8章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。

2020年度

第12回	都市化がもたらす社会病理	事前学習	「都市化がもたらす社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。(テキスト第9章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第13回	民主主義とポピュリズムの社会病理	事前学習	「民主主義とポピュリズムの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第14回	まとめ(グループ討議及びレポート作成)	事前学習	取り上げた各病理の改善・解決策等について話し合えるよう、授業を通し作成した学習ノートやレジュメを整理しておく。
		事後学習	グループ討議の結果を踏まえ、レポートを作成する。
第15回	まとめ(社会病理の改善・解決策)	事前学習	グループ討議の結果及び作成したレポートの内容をまとめておく。
		事後学習	社会病理の改善・解決策について話し合い、その結果を発表する。
期末試験(受講生が多い場合)			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SNMP1105
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践を展開する際、支援の対象としての人間の生活を理解することが、基本的かつ重要なことであるということ念頭においた上で、人間の生活について具体的な出来事と概念を結びつけて授業を展開する。 ・人間と社会(家族・近隣・地域・社会)の関わりが、生活の質にどのような影響を与えているか、また学生が、自身の生活と利用者の生活とを別々の次元で理解するのではなく、同じ時代の社会の中で共に生活しているという視点で授業を展開する。 ・生活の理解において、経済的困窮に伴う生活問題への対応が、社会福祉を生み出す一つの歴史的原点となっているということをもふまえて授業を展開する。 ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、及びその実現のための制度や施策について理解する授業を展開する。 		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解し、説明できるようになることを目標とする。 ・個人と家族、個人と地域、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」の内容を明らかにすることができる。 ・「公助」は、社会システムを維持するための施策によって自立を実現するものであるということを理解していく中で、人として社会的存在であり続けることの意義を理解し、説明することができる。 ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方と、その実現にむけた制度や施策について、説明することができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	レポート課題 1. 「生活とライフスタイル」について 2. 「家族・社会・組織・地域・地域社会」について 3. 「地域共生社会の実現にむけた制度や施策」について レポートは1ページ40行×30文字で3枚以上とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会『社会の理解』中央法規出版。 【参考書】 授業中随時紹介		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ul style="list-style-type: none"> ・個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解し、説明できるか。 ・個人と家族、個人と地域、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」の内容を明らかにすることができるか。 ・「公助」は、社会システムを維持するための施策によって自立を実現するものであるということを理解していく中で、人として社会的存在であり続けることの意義を理解し、説明することができるか。 ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方と、それに関する制度や施策について、説明することができるか。 ○評定の方法 レポート60% 授業態度20% 期末試験20%		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に目的意識をもち、積極的に参加すること。 ・授業内容と関係のない私語や居眠り、携帯電話の使用などは禁止する。 ・新聞を読むことをすすめる。 		
13. オフィスアワー	授業の中で提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 生活を幅広く捉える①(人間を捉える総合的視点・生活の質・総合的視点に関する代表的な学説)	事前学習	テキストを通読しこの授業の目的や内容等を予習する。
		事後学習	講義を受け人間を捉える総合的視点・生活の質・総合的視点に関する代表的な学説を説明できるようにする。
第2回	生活を幅広く捉える②(社会生活のメカニズム)	事前学習	テキストを精読し社会生活のメカニズムを予習する。
		事後学習	講義を受け社会生活のメカニズムを説明できるようにする。
第3回	生活の基本機能①(生活の多様性を捉える視点・個人の暮らしと生活のあり方・家族と家庭の違い)	事前学習	テキストを精読し生活の多様性を捉える視点・個人の暮らしと生活のあり方・家族と家庭の違いを予習する。
		事後学習	講義を受け生活の多様性を捉える視点・個人の暮らしと生活のあり方・家族と家庭の違いを説明できるようにする。
第4回	生活の基本機能②(家庭機能の特徴)	事前学習	テキストを精読し家庭機能の特徴を予習する。
		事後学習	講義を受け家庭機能の特徴を説明できるようにする。

第 5 回	ライフスタイルの変化① (生活と働き方の変化・経済的困窮に伴う生活問題への対応)	事前学習	テキストを精読し生活と働き方の変化・経済的困窮に伴う生活問題への対応を予習する。
		事後学習	講義を受け生活と働き方の変化・経済的困窮に伴う生活問題への対応を説明できるようにする。
第 6 回	ライフスタイルの変化② (少子高齢化と健康寿命)	事前学習	テキストを精読し少子高齢化と健康寿命を予習する。
		事後学習	講義を受け少子高齢化と健康寿命を説明できるようにする。【レポート 1】
第 7 回	家族の機能と役割・個人と家族の関係性	事前学習	テキストを精読し家族の機能と役割・個人と家族の関係性を予習する。
		事後学習	講義を受け家族の機能と役割・個人と家族の関係性を説明できるようにする。
第 8 回	社会・組織の機能と役割	事前学習	テキストを精読し社会・組織の機能と役割を予習する。
		事後学習	講義を受け社会・組織の機能と役割を説明できるようにする。
第 9 回	地域・地域社会、個人と地域、個人と社会の関係	事前学習	テキストを精読し地域・地域社会、個人と地域、個人と社会の関係を予習する。
		事後学習	講義を受け地域・地域社会、個人と地域、個人と社会の関係を説明できるようにする。
第 10 回	地域社会における生活支援	事前学習	テキストを精読し地域社会における生活支援を予習する。
		事後学習	講義を受け地域社会における生活支援を説明できるようにする。【レポート 2】
第 11 回	地域福祉の発展① (地域福祉の理念と歴史的展開・自助、互助、共助)	事前学習	テキストを精読し地域福祉の理念と歴史的展開・自助、互助、共助を予習する。
		事後学習	講義を受け地域福祉の理念と歴史的展開・自助、互助、共助を説明できるようにする。
第 12 回	地域福祉の発展② (地域福祉の充実・災害と地域社会)	事前学習	テキストを精読し地域福祉の充実・災害と地域社会を予習する。
		事後学習	講義を受け地域福祉の充実・災害と地域社会を説明できるようにする。
第 13 回	地域共生社会① (地域共生社会をめざす社会的背景とその理念)	事前学習	テキストを精読し地域共生社会をめざす社会的背景とその理念を予習する。
		事後学習	講義を受け地域共生社会をめざす社会的背景とその理念について説明できるようにする。
第 14 回	地域共生社会② (地域共生社会の実現にむけたとりくみ)	事前学習	テキストを精読し地域共生社会の実現にむけたとりくみをする。
		事後学習	講義を受け地域共生社会の実現にむけたとりくみについて説明できるようにする。
第 15 回	地域包括ケアシステム まとめ	事前学習	テキストを精読し地域包括ケアシステムを予習する。
		事後学習	これまでの講義を受け地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方とそれに関する制度や施策について説明できるようにする。また講義全体を通し個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を説明できるようにする。【レポート 3】
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉経営論 (2単位)		3. 科目番号	SBMP1117						
2. 授業担当教員	岡田 高明									
4. 授業形態	演習形式で授業を行う。集団討議、個人発表、レポート作成。場合によっては現地視察も行う。		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	経営学関連科目の履修が望まれる。									
7. 講義概要	本講義では、非営利法人の経営について学習をする。非営利法人には財団法人、社団法人、NPO、医療法人などがあり、それぞれの特徴について理解する。非営利法人の共通する問題点としては、財源や人材の確保、社会的評価などがある。これらについて具体的な問題点を学習していき、どのように問題を解決するのが良いのかなどについて学習を進める。また、現代社会で重要視されている、コンプライアンスと非営利法人との関係についても学習をする。									
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉経営に関する広い知識を身につけ、理解する。 ・まず社会福祉を取り巻く経済の実情を知り将来を展望する。 ・福祉法人の目標を考え、経営の本質について考察し、就職等で実践する。 									
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントは課さない。授業内で長期休暇中の課題レポートを提示する									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 宇山勝儀・小林理編著『社会福祉事業経営論－福祉事業の経営と管理』光生館、2011年。</p> <p>【参考書】 平林亮子・高橋知寿『やさしくわかる社会福祉法人の経営と運営』税務経理協会、2018年。 中島明彦著『医療福祉経営入門』同友館出版、2017年。 柳在相編著『医療福祉の経営戦略』中央経済社、2013年。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の運営管理に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 経営学的な思考が身についたか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、期末試験、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> </table>				1 授業への積極的参加	総合点の30%	2 期末試験	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の30%
1 授業への積極的参加	総合点の30%									
2 期末試験	総合点の40%									
3 課題レポート	総合点の30%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業はディスカッションやプレゼンテーションを中心に行われるので積極的に参加してほしい。また、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力の育成という、本学の基本方針の達成に向けて、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①正当な理由なく授業を欠席、遅刻、早退しないこと。とくに、3/4以上の出席が確認できない場合、本学規定により単位の修得が認められないので注意すること。 ②理解できない部分は質問する等、積極的な態度で授業に参加すること。 ③授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話等、電子機器の電源を切っておくこと。 ④課題の提出期限を厳守すること。 <p>なお、受講生の興味関心、理解度に応じて、講義の順序や内容を変更することがある。</p>									
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	イントロダクション	事前学習	シラバスを読んで授業の概要を確認しておく。							
		事後学習	講義内容の確認まとめを行う。							
第2回	第1章社会福祉事業の意義と経営構造	事前学習	教科書のpp3～19を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第3回	第2章社会福祉事業の歴史	事前学習	教科書のpp21～48を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第4回	第3章社会福祉事業をめぐる関連法制度	事前学習	教科書のpp51～71を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第5回	第4章社会福祉事業の経営と管理	事前学習	教科書のpp73～83を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第6回	第5章社会福祉事業の組織管理	事前学習	教科書のpp87～104を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第7回	第6章社会福祉サービスの人事管理	事前学習	教科書のpp107～120を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第8回	第7章社会福祉事業の労務管理	事前学習	教科書のpp121～150を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第9回	第8章社会福祉事業の財務・会計管理	事前学習	教科書のpp151～184を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第10回	第9章社会福祉事業の建物・設備管理	事前学習	教科書のpp187～194を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							
第11回	第10章社会福祉事業のサービス管理	事前学習	教科書のpp195～209を読んでくる。							
		事後学習	上記部分の復習をする。							

2020年度

第12回	第11章社会福祉事業の情報管理	事前学習	教科書の pp211～218 を読んでくる。
		事後学習	上記部分の復習をする。
第13回	第12章社会福祉事業の危機・安全管理	事前学習	教科書の pp219～233 を読んでくる。
		事後学習	上記部分の復習をする。
第14回	第13章社会福祉事業の戦略管理	事前学習	教科書の pp235～252 を読んでくる。
		事後学習	上記部分の復習をする。
第15回	総括—まとめ	事前学習	これまでの講義概要を理解しておく。
		事後学習	講義内容の確認まとめを行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4単位)	3. 科目番号	SSMP1103 SBMP1103
2. 授業担当教員	青木 正		

4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉の基礎となる理念と福祉政策との関係について理解し、歴史の変遷や現代における課題についても考察を深める。その上で各国における福祉ニーズを踏まえた福祉政策の構成要素（政府・市場・個人の役割等）について理解し、関連政策（教育政策・住宅政策・労働政策等）との関係性についても考察を深める。		
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	前半期と後半期にそれぞれ1回ずつ（計2回）レポートを課す。レポートの題目及び執筆規定については授業の中で指示する。 予習や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的な学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第4版 ー現代社会と福祉ー』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 6つの目標について関心を高め、意欲的に取り組むことができたか。（関心・意欲・態度） 6つの目標について理解し、説明することができたか。（知識・理解） 6つの目標について思考し、考察を深めることができたか。（思考・判断・実践） ○評定の方法 （1）平常点（授業態度・発表・発言・学習課題など）40%、 （2）課題レポート 30% （3）試験 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目は、社会福祉を学ぶ上で必要な社会福祉の考え方、歴史、諸理論、福祉ニーズ、援助技術などの基本的な知識を整理しながら、一緒に学んでいきます。 1. 遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する（した）場合は書面で教員に届け出ること。 2. レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。 3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。		
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（講義概要、講師紹介等） 社会福祉とは何か① 理念としての社会福祉	事前学習	教科書を準備し、シラバスを確認して講義へ臨むこと。教科書 pp. 1～6 を読む
		事後学習	社会福祉とは何か考える
第2回	社会福祉とは何か② 制度政策としての社会福祉 実践としての社会福祉	事前学習	教科書 pp. 6～15 を読む
		事後学習	社会福祉を4つの側面から理解する
第3回	わが国の社会福祉の歩み① 戦前	事前学習	教科書 pp. 17～21 を読む
		事後学習	戦前の社会福祉の歩みを理解する
第4回	わが国の社会福祉の歩み② 戦後	事前学習	教科書 pp. 21～27 を読む
		事後学習	戦後の社会福祉の歩みを理解する
第5回	わが国の社会福祉の歩み③ 社会福祉基礎構造改革	事前学習	教科書 pp. 28～33 を読む
		事後学習	社会福祉基礎構造改革を理解する
第6回	イギリスの社会福祉の歩み	事前学習	教科書 pp. 33～46 を読む
		事後学習	イギリスの社会福祉の歩みを理解する
第7回	アメリカの社会福祉の歩み	事前学習	教科書 pp. 46～54 を読む
		事後学習	アメリカの社会福祉の歩みを理解する
第8回	諸外国の社会福祉の歩み	事前学習	教科書 pp. 55～65 を読む
		事後学習	ドイツとスウェーデンの社会福祉の歩みを理解する
第9回	現代における社会福祉① 社会福祉の考え方	事前学習	教科書 pp. 69～73 を読む
		事後学習	社会福祉の考え方を整理する
第10回	現代における社会福祉② 社会福祉の理論	事前学習	教科書 pp. 73～79 を読む
		事後学習	社会福祉の理論を理解する
第11回	社会福祉政策と福祉ニーズ① 福祉サービス利用者のとらえ方	事前学習	教科書 pp. 81～86 を読む
		事後学習	福祉サービス利用者のとらえ方を理解する
第12回	社会福祉政策と福祉ニーズ② 福祉ニーズと社会福祉問題	事前学習	教科書 pp. 87～92 を読む
		事後学習	福祉ニーズと社会福祉問題を理解する
第13回	社会福祉関係法制と運営① 法源としての憲法	事前学習	教科書 pp. 93～98 を読む
		事後学習	法源としての憲法を理解する

2020年度

第14回	社会福祉関係法制と運営② 国際的条約と社会福祉	事前学習	教科書 pp. 99～106 を読む
		事後学習	国際的条約と社会福祉を理解する
第15回	社会福祉関係法制と運営③ 社会福祉法	事前学習	教科書 pp. 107～114 を読む
		事後学習	社会福祉法を理解する
第16回	社会福祉関係法制と運営④ 社会福祉六法	事前学習	教科書 pp. 114～121 を読む
		事後学習	社会福祉六法を理解する
第17回	社会福祉行財政と民間福祉活動① 社会福祉行政	事前学習	教科書 pp. 123～129 を読む
		事後学習	社会福祉行政を理解する
第18回	社会福祉行財政と民間福祉活動② 社会福祉財政と費用徴収	事前学習	教科書 pp. 129～134 を読む
		事後学習	社会福祉財政と費用徴収を理解する
第19回	社会福祉行財政と民間福祉活動③ 民間福祉活動	事前学習	教科書 pp. 134～142 を読む
		事後学習	民間福祉活動を理解する
第20回	社会福祉援助の体系と担い手① ハード福祉とソフト福祉、社会福祉援助技術の体系	事前学習	教科書 pp. 145～156 を読む
		事後学習	ハード福祉とソフト福祉、社会福祉援助技術の体系を理解する
第21回	社会福祉援助の体系と担い手② 直接援助技術、間接援助技術	事前学習	教科書 pp. 156～172 を読む
		事後学習	直接援助技術、間接援助技術を理解する
第22回	社会福祉援助の体系と担い手③ 関連援助技術	事前学習	教科書 pp. 172～181 を読む
		事後学習	関連援助技術を理解する
第23回	社会福祉援助の体系と担い手④ 社会福祉援助の担い手	事前学習	教科書 pp. 181～192 を読む
		事後学習	社会福祉援助の担い手を理解する
第24回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題① 所得保障	事前学習	教科書 pp. 195～204 を読む
		事後学習	所得保障を理解する
第25回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題② 児童家庭福祉	事前学習	教科書 pp. 205～213 を読む
		事後学習	児童家庭福祉を理解する
第26回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題③ 障害者福祉	事前学習	教科書 pp. 213～224 を読む
		事後学習	障害者福祉を理解する
第27回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題④ 高齢者福祉と介護保険	事前学習	教科書 pp. 225～237 を読む
		事後学習	高齢者福祉と介護保険を理解する
第28回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題⑤ 母子及び父子並びに寡婦福祉	事前学習	教科書 pp. 238～249 を読む
		事後学習	母子及び父子並びに寡婦福祉を理解する
第29回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題⑥ 地域福祉	事前学習	教科書 pp. 249～258 を読む
		事後学習	地域福祉を理解する
第30回	まとめと振り返り	事前学習	これまで行われた確認テストのファイルをもってくる
		事後学習	自己評価し、理解不足のところは知識を補い、期末試験に備える。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4単位)		3. 科目番号	SCMP1103 SSMP1103 SPMP11303 PSMP1403
2. 授業担当教員	田代 幹康			
4. 授業形態	講義・ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	社会福祉の基礎となる理念と福祉政策との関係について理解し、歴史の変遷や現代における課題についても考察を深める。その上で各国における福祉ニーズを踏まえた福祉政策の構成要素(政府・市場・個人の役割等)について理解し、関連政策(教育政策・住宅政策・労働政策等)との関係性についても考察を深める。			
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題 「あなたの住む市区町村の福祉に関連する計画について資料を収集し、その概要と特徴について考察せよ」 レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。また、各章、節終了時に授業の内容に関する確認テストを行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第4版 ー現代社会と福祉ー』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 6つの目標について関心を高め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) 6つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) 6つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ○評定の方法 (1) 平常点(授業態度・発表・発言・学習課題など) 40%、 (2) 課題レポート 30% (3) 試験 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生への メッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。 1. 授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的な態度で授業に参加することが期待されている。 2. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4. レポートの提出日を厳守すること。 * 教科書のページについては、新版が出る予定なので変わります。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、試験・レポートについての説明等、グループ分け、その他) 「社会福祉とは何か」	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。	
		事後学習	社会福祉とは何かについてノートにまとめる。	
第2回	現代社会における福祉制度と福祉政策① (福祉制度の概念と理念、福祉政策の概念と理念) 「理念としての社会福祉、社会政策としての社会福祉、その他」	事前学習	教科書 pp. 1~6 を読んでくること。	
		事後学習	理念としての社会福祉についてノートにまとめる。	
第3回	現代社会における福祉制度と福祉政策② (福祉制度と福祉政策の関係、福祉政策と政治の関係) 「制度としての社会福祉、実践としての社会福祉、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 9~15 を読んでくること。	
		事後学習	制度、実践としての社会福祉についてノートにまとめる。	
第4回	現代社会における福祉制度と福祉政策③ (福祉政策の主体と対象) 「福祉サービス利用者のとらえ方、福祉ニーズと社会福祉問題、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 83~94 を読んでくること。	
		事後学習	ニーズの類型についてノートにまとめる。	
第5回	福祉の原理をめぐる理論と哲学① (福祉の原理をめぐる理論) 「社会福祉の諸理論、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 69~82 を読んでくること。	
		事後学習	講義で示された社会福祉の各理論についてノートにまとめる。	

第 6 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学② (福祉の原理をめぐる哲学と倫理) 「倫理綱領、その他」	事前学習	事前にソーシャルワークの倫理綱領、行動規範の資料を配るのでよく読んでくること。
		事後学習	提示された倫理綱領の事例のポイントについてノートにまとめる。
第 7 回	福祉制度の発展過程① (前近代社会と福祉) 「社会福祉の歴史－救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 17～23 を読んでくること。
		事後学習	前近代社会における福祉の発展過程についてノートにまとめる。
第 8 回	福祉制度の発展過程② (近代社会と福祉) 「社会福祉の歴史－第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 23～33 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 9 回	福祉制度の発展過程③ (現代社会と福祉) 「社会福祉の歴史－新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義、その他」	事前学習	新自由主義、福祉多元主義、福祉ミックス、ポスト産業化社会、グローバル化、各用語について調べてくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 10 回	福祉政策におけるニーズと資源① (需要とニーズの概念) 「社会福祉問題と福祉ニーズ、その他」	事前学習	教員より資料を配布するので第 4 回に行った授業内容について復習しておくこと。
		事後学習	教員から配布された資料についてノートにまとめる。
第 11 回	福祉政策におけるニーズと資源② (資源の概念) 「資源の定義、福祉ニーズと社会福祉問題、その他」	事前学習	教員より資料を配布するので第 10 回に行った授業内容について復習しておくこと。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 12 回	福祉政策の課題① (社会福祉及び関連する分野の現状と課題) 「所得保障、児童家庭福祉」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 199～217 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 13 回	福祉政策の課題② (社会福祉及び関連する分野の現状と課題) 「障害者福祉、高齢者福祉と介護保険」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 217～240 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 14 回	福祉政策の課題③ (社会福祉及び関連する分野の現状と課題) 「母子及び父子並びに寡婦福祉」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 241～251 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 15 回	福祉政策の課題④ (社会福祉及び関連する分野の現状と課題) 「地域福祉」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 251～260 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 16 回	福祉政策の課題⑤ (福祉政策の現代的課題) 「ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、社会連帯、セーフティネット、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生についてはこれまでノーマライゼーションという用語が教科書に出てきた部分についてまとめておくこと。
		事後学習	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについてノートにまとめる。
第 17 回	福祉政策の課題と国際比較① (イギリス)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 33～46 を読んでくること。
		事後学習	イギリスの社会福祉の歩みについてノートにまとめる。
第 18 回	福祉政策の課題と国際比較② (アメリカ)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 46～54 を読んでくること。
		事後学習	アメリカの社会福祉の歩みについてノートにまとめる。
第 19 回	福祉政策の課題と国際比較③ (ドイツ、スウェーデン)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生につ

		事後学習	いては教科書 pp. 55～65 を読んでくること。 スウェーデン、ドイツの社会福祉の歩みについてノートにまとめる。
第20回	福祉政策の構成要素① (福祉政策の論点) 「効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自立と依存、自己選択とパターナリズム、参加とエンパワメント、ジェンダー、福祉政策の視座、その他」	事前学習	普遍主義、選別主義、パターナリズム、ジェンダー、各用語など事前に調べておくこと。
		事後学習	講義をうけて福祉国家の類型についてノートにまとめる。
第21回	福祉政策の構成要素② (福祉政策における政府の役割) 「社会福祉行政、国・地方自治体の行政組織、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 127～133 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第22回	福祉政策の構成要素③ (福祉政策における市場の役割) 「民間福祉活動、社会福祉法人、NPO 法人、民間営利活動、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 138～147 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉法人とは何か、についてノートにまとめる。
第23回	福祉政策の構成要素④ (福祉政策における国民の役割) 「社会福祉行政と費用徴収、当事者組織、ボランティアと住民参加、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 133～138、pp. 142～147 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べノートにまとめる。
第24回	福祉政策の構成要素⑤ (福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価)	事前学習	福祉に関する政策評価について事前に調べておくこと。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べノートにまとめる。
第25回	福祉政策の構成要素⑥ (福祉供給部門) 「政府部門、民間営利・非営利部門、ボランティア部門、インフォーマル部門、その他」	事前学習	教員より資料を配布するのでわからない用語など事前に調べておくこと。
		事後学習	第一種・第二種社会福祉事業の要点についてノートにまとめる。
第26回	福祉政策の構成要素⑦ (福祉供給過程、福祉利用過程)	事前学習	教員より資料を配布するのでわからない用語など事前に調べておくこと。
		事後学習	介護保険制度におけるサービス利用過程についてまとめる。
第27回	福祉政策と関連政策① (福祉政策と教育・住宅政策)	事前学習	自らがこれまで受けた福祉教育について考えてくること。
		事後学習	わが国の福祉住宅政策・関連する法律・制度についてノートにまとめる。
第28回	福祉政策と関連政策② (福祉政策と労働政策)	事前学習	法学、労働法関係の授業を受けていたら該当部分を復習しておくこと。
		事後学習	生活保護政策における就労促進事業についてノートにまとめる。
第29回	相談援助活動と福祉政策の関係 (福祉供給の政策過程と実施過程) 社会福祉援助の体系と担い手	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 150～185 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第30回	まとめ (これまでの講義内容のまとめを行う)	事前学習	これまで行われた確認テストのファイルをもってくること。
		事後学習	これまで行われた確認テストと教科書を通じて理解が不十分な部分についてチェックしノートにまとめること。
期末試験			
15.実務経験を有する教員 特記事項	障害者支援施設や児童養護施設などの社会福祉法人での指導員としての勤務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

2020年度

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習Ⅱ (4単位)		3. 科目番号	GECD4221 GECD4222
2. 授業担当教員	堀 肇・荒野 多門・河野 等・佐藤 広崇・ 小西 洋平・崔 允姫			
4. 授業形態	演習 (指定座席による問題演習)		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として施設や地域で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、社会福祉士養成演習Ⅰで身に付けた基本的知識の定着を図るとともに、実際の試験に対応できる応用力を身につけていきます。過去の試験において出題が多くみられる項目を中心について問題演習を行い、最新の福祉の動向も踏まえながら、社会福祉士国家試験合格に必要な力を養成していきます。			
8. 学習目標	社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。 (Ⅰ) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。 (Ⅱ) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる) これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対策講座、夏期講習への出席 ・ 過去4年間分の過去問の徹底 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『2020 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規。(3年生の養成演習Ⅰで購入したテキストです。3年次に養成演習Ⅰを受講していなかった学生は、事前に購入しておくこと) 『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2021』、中央法規。(秋期の開始時に購入します) 【参考文献】 『2021 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規。 『社会福祉士国家試験模擬問題集 2021』中央法規。 『社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック 共通科目編 2021』中央法規。 『社会福祉士受験ワークブック 専門科目編 2021』中央法規。 『社会福祉士の合格教科書 2021』医学評論社。			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 国家試験の過去問題に関する基礎的知識を理解し、正解ができる。 2. 国家試験合格に必要とされる力 (学習目標(Ⅰ)(Ⅱ)) を身につけた。 3. 資格を取得する明確な意思を持ち、卒業後の進路に役立てる準備をしている。 ○評定の方法 授業内に行う確認テスト、春期定期試験 60% 授業への積極的参加度 40%			
12. 受講生への メッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題」にどれだけ真剣に取り組み、どれだけ暗記できたかかかっています。本講義を受講する学生は、試験に絶対にかかるという決意をもって、1問1問真剣に取り組んでください。授業の内容や進行順は変更することがあります。			
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス (春期) (試験の概要・傾向等) 【社会理論と社会システム①】【現代社会と福祉①】	事前学習	3年次に学んだ過去問演習を各自行っておく	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習	
第2回	【現代社会と福祉②】【地域福祉の理論と方法①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習	
第3回	【福祉行財政と福祉計画①】【社会保障①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習	
第4回	【低所得者に対する支援と生活保護制度①】【人体の構造と機能及び疾病①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習	
第5回	【心理学理論と心理的支援①】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習	
第6回	【保健医療サービス①】【権利擁護と成年後見制度①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習	
第7回	【社会調査の基礎①】【相談援助の基盤と専門職①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習	
第8回	【相談援助の理論と方法①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習	

第9回	【相談援助の理論と方法②】【福祉サービスの組織と経営①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第10回	【高齢者に対する支援と介護保険制度①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第11回	【児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度①】【就労支援サービス①】【更生保護制度①】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第12回	【社会理論と社会システム②】【現代社会と福祉③】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第13回	【現代社会と福祉④】【地域福祉の理論と方法②】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第14回	【福祉行財政と福祉計画②】【社会保障②】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第15回	【低所得者に対する支援と生活保護制度②】【人体の構造と機能及び疾病②】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第16回	【心理学理論と心理的支援②】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度②】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第17回	【保健医療サービス②】【権利擁護と成年後見制度②】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第18回	【共通科目復習模試】【社会調査の基礎②】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第19回	相談援助の基盤と専門職②【相談援助の理論と方法③】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第20回	【相談援助の理論と方法④】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第21回	【高齢者に対する支援と介護保険制度③】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第22回	【児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度③】【福祉サービスの組織と経営②】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第23回	【就労支援サービス②】【更生保護制度②】【専門科目復習模試】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連過去問演習
第24回	試験演習	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	間違えた問題をしっかりと復習する
第25回	試験演習	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	間違えた問題をしっかりと復習する
第26回	試験演習	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	間違えた問題をしっかりと復習する
第27回	試験演習	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	間違えた問題をしっかりと復習する
第28回	試験演習	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	間違えた問題をしっかりと復習する
第29回	総復習	事前学習	ここまで授業で取り上げた問題を総復習する
		事後学習	ポイントの総復習を行う
第30回	総復習	事前学習	今まで苦手とした問題をしっかりと見直す
		事後学習	体調を万全な状態にするため睡眠時間を確保
		事後学習	最後まで、合格を信じて本試に臨むこと

期末試験(実力確認テスト)(共通・専門):第15回授業終了後の春期末試験週間に実施

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2単位)	3. 科目番号	GEBS1101 GELA1301
2. 授業担当教員	北爪 克洋		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域で必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉とは何か、なぜ学ぶのかについて理解し、考察することができる。 2. 様々な領域の状況(問題や政策、制度、サービス等)について理解し、考察することができる。 3. 各自の国の状況も踏まえ、今後の課題やあり方について考察することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	アサイメントは講義の中で指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 東京福祉大学編『レポート・試験はこう書く 新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房 【参考書】 必要な参考書等は講義の中で指示する。また、必要に応じて、プリント等補助教材を配布する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の基準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉とは何か、なぜ学ぶのかについて理解し、考察することができるか。 2. 様々な領域の状況(問題や政策、制度、サービス等)について理解し、考察することができるか。 3. 各自の国や地域の状況比較も踏まえ、今後の課題やあり方について考察することができるか。 ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加(提出物等含む) 30% 2. 課題レポート 30% 3. 期末試験 40% 		
12. 受講生への メッセージ	本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	初回の講義において提示する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義オリエンテーション：これからの講義の内容と進行についての確認	事前学習	「社会福祉」について学ぶとう考えた動機について言語化できるようにする。
		事後学習	講義で学んだ事柄をノートにまとめる。
第2回	「社会福祉」とは？：「社会福祉」についてテキストを用いてレジюмеを作成する	事前学習	テキスト p6 を熟読し、不明な点を明らかにしておく。
		事後学習	グループで作成したレジюме内容を推敲する。
第3回	「社会福祉」とは？：レジюмеの説明(発表) 「ノーマライゼーション」について：テキストの確認とプリントの説明	事前学習	発表用レジюмеの確認とテキスト p55 を熟読し、不明な点を明らかにしておく。
		事後学習	講義で学んだ事項をノートにまとめる。
第4回	社会保障の概要①：社会保障の意義について	事前学習	「社会保障」について自身が理解している事柄をまとめる。
		事後学習	講義で学んだ事柄をノートにまとめる。
第5回	社会保障の概要②：社会保障に関するレジюмеの作成	事前学習	テキスト p85 を熟読し、不明な点を明らかにしておく。
		事後学習	グループで社会保障に関するレジюмеを完成させる。
第6回	社会保障の概要③：レジюмеの発表と解説	事前学習	作成したレジюмеの内容を確認する。

		事後学習	講義で学んだ事柄をノートにまとめる。
第7回	「社会福祉サービス」について：社会福祉施設・機関の理解	事前学習	テキスト
		事後学習	講義で学んだ事柄をノートにまとめる。
第8回	社会福祉の専門職（社会福祉士）について：社会福祉に関わる専門職について知るとともに社会福祉士の専門性について理解を深める	事前学習	テキスト p13 を熟読し、社会福祉士の社会的役割について自身の意見をまとめる。
		事後学習	講義で学んだ事柄をノートにまとめる。
第9回	社会福祉の専門技術について：社会福祉士が行う相談援助についてその概要を理解する	事前学習	テキスト p138 を熟読し、支援の方法についてその体系を調べておく。
		事後学習	講義で学んだ事柄をノートにまとめる。
第10回	実践者の話①：卒業生等から実践活動に関する話を聞き、社会福祉実践に関する理解を深める	事前学習	事前に示された講話者の専門領域について、その概要を調べておく。
		事後学習	講話内容についてまとめる。
第11回	実践者の話②：卒業生等から実践活動に関する話を聞き、社会福祉実践に関する理解を深める	事前学習	事前に示された講話者の専門領域について、その概要を調べておく。
		事後学習	講話内容についてまとめる。
第12回	「社会福祉」に関する説明資料の作成：「福祉教育」に使用する教材を想定し、グループ毎に資料を作成する	事前学習	これまでの学習内容、資料等をまとめ、教材作成に必要な情報を整理する。
		事後学習	発表用資料の作成
第13回	「福祉教育」教材発表①：グループ毎に作成した教材を用いてプレゼンテーションを行う	事前学習	グループ発表の準備及び他グループの資料に目を通す。
		事後学習	グループ発表に対する他グループからのフィードバックを受ける。
第14回	「福祉教育」教材発表②：グループ毎に作成した教材を用いてプレゼンテーションを行う	事前学習	グループ発表の準備及び他グループの資料に目を通す。
		事後学習	グループ発表に対する他グループからのフィードバックを受ける。
第15回	まとめ	事前学習	個人レポートの作成
		事後学習	社会福祉入門において理解が促進した事項についてまとめ、言語化できるようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会保障制度 I (2単位)	3. 科目番号	SNMP1107
2. 授業担当教員	尹 文九		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	今日、高齢者をめぐる諸問題は社会全領域において重要なテーマのひとつである。したがって、本授業では高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護（高齢者虐待や就労の実態を含む）について理解する。また、高齢者保健福祉制度の発展過程について、特に介護保険制度の仕組みやサービスの内容などについて詳しく検討すると同時に、その制度が持つ社会的な意味や残された課題について学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障と関連したさまざまな専門用語についての知識を身につける。 2. 社会保障の基本理念や制度の歩みについて理解し、説明することができる。 3. 社会保障制度が国民の生活と関連し、どのような役割や機能を担当しているのかについて理解し、説明することができる。 4. 社会保障の機能及び役割について理解し、説明することができる。 5. 社会保障制度の財政状況や問題点について学び、説明することができる。 6. 社会保険制度(医療保険制度、介護保険制度、年金制度)について理解し、説明することができる。 7. 公的扶助制度について理解し、説明することができる。 8. 日本の社会保障制度が抱える基本問題について、その解決策を自分で考える能力を身につけられる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	課題1：社会保障の仕組みについて(1200字)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 椋野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障7版』有斐閣、2009年。 【参考書】 坂口正之 岡田忠克編『よくわかる社会保障 第3版』ミネルヴァ書房、2009年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度の理念や目的など基本的なことについて理解されているのか 2. 社会保障制度の仕組みとサービスの内容について理解されているのか 3. 社会保障の財政や課題などについて理解されているのか ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的な参加度（討議や発表など）：40% 2. 課題レポート及び予習ノート：30% 3. 総括テスト：30% 		
12. 受講生へのメッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと(減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときにはきちんと傾聴すること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション シラバス説明と社会保障を学ぶ意義について	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと
		事後学習	社会保障を学ぶ意義についてまとめる
第2回	社会保障の概念と理念 社会保障制度の全体的な仕組み	事前学習	pp. 4～6を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保障制度の全体的な仕組みについてまとめる
第3回	社会保障を取り巻く状況 1、人口の変化 2、家族の変化 3、地域の変化 4、国民生活構造の変化	事前学習	現在日本の社会保障を取り巻く状況についてまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第4回	社会保障の歴史 世界と日本の社会保障制度の歩みについて	事前学習	pp. 254～264を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	日本の社会保障制度の歩みの特徴についてまとめる
第5回	社会保障の意義や機能	事前学習	pp. 264～269を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保障の機能についてまとめる
第6回	社会保障の実施体系 措置制度、契約、公的扶助の違いについて	事前学習	pp. 85～97を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	実施体系の中ひとつを選び、それについてまとめる
第7回	社会保障の財源 社会保障給付費の現状と今後の課題	事前学習	pp. 270～278を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保障財政の課題についてまとめる
第8回	社会保障と社会福祉 社会保障と社会福祉の機能や役割について違いや類似点とは	事前学習	pp. 81～85を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保障と社会福祉の違いや類似点についてまとめる
第9回	社会保障と公的扶助(生活保護制度) 社会保障と公的扶助の機能や役割について違いや類似点とは	事前学習	pp. 72～80を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	公的扶助と社会福祉の相違点についてまとめる
第10回	社会保障と社会保険 社会保障と社会保険の機能や役割について違い	事前学習	社会保険医の種類についてまとめる
		事後学習	社会保険の中ひとつを選び、それについてまとめる

	や類似点とは		
第11回	社会保障と民間保険制度 社会保障と民間保険制度の機能や役割について 違いや類似点とは	事前学習	pp. 229～245 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保険と民間保険の相違点についてまとめる
第12回	社会保障と介護保険制度（1） 介護保険制度 の仕組みと社会保障制度との関係	事前学習	pp. 108～121 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	介護保険制度の仕組みについてまとめる
第13回	社会保障と介護保険制度（2） 介護保険制度 改正とサービスについて(ビデオ)	事前学習	pp. 122～137 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	ビデオを見て改正された内容をまとめる
第14回	介護認定プロセス	事前学習	介護サービス認定のプロセスについてまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第15回	介護提供体制と権利保護	事前学習	pp. 137～142 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	成年後見制度についてまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	授業研究 (総合学習を含む) (2単位)	3. 科目番号	EDEL2320						
2. 授業担当教員	沼澤 清一								
4. 授業形態	講義・グループ協議・発表・レポート作成など	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>この講義は、「小学校で実践されている授業についての研究」と「総合的な学習の時間」の内容について学習を深める。</p> <p>小学校での教育が目指す方向性について学習指導要領の趣旨や目指すべき学力観について正しく理解するとともに良い授業を目指すために「評価」という観点から考察検討していく。</p> <p>小学校教育の基本は「授業」であり、授業にかかわる児童の姿や教師の教材研究などについて授業実践例を基にして考えを深めたいと考えている。</p> <p>さらに「総合的な学習の時間」に関しても、その内容や具体的な事例などを踏まえて、「総合的な学習の時間」の進め方などを踏まえて実践する。</p>								
8. 学習目標	<p>(1)学習指導要領の趣旨や内容を理解する。</p> <p>(2)目指すべき学力観について理解する。</p> <p>(3)授業の評価の実際について理解する。</p> <p>(4)「総合的な学習の時間」の趣旨、内容を理解し、主体的に学ぶ総合的な学習の時間の流れを、実践を通して理解する。</p>								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【課題レポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の①と②を課題レポートとする。 ① 第8回の講義後に提出する「指導演」 ② 第15回の講義で提出する発表原稿 <p>・振り返りシート・・毎回の講義終了後、講義によって何が解決され、何が解決されなかったのか、また、自分自身はどのような考えを持ったのかなどについてまとめ、講義終了の3日後までに提出する。</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】沼澤清一『有田式“発問・板書”が身につく！社会科指導演の書き方入門』学芸みらい社、2017。								
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業研究の理論や方法について理解し、授業の改善・充実について自らの考えを深めることができる。 2 教材研究や模擬授業等を通して、実践的に授業研究を進める基礎を身に付けることができる。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加 (模擬授業を含む)</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 期末テスト</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加 (模擬授業を含む)	総合点の40%	2 課題レポート	総合点の40%	3 期末テスト	総合点の20%
1 授業への積極的参加 (模擬授業を含む)	総合点の40%								
2 課題レポート	総合点の40%								
3 期末テスト	総合点の20%								
12. 受講生への メッセージ	・小学校教育の基本である「授業」について、できるかぎり、実践例を基にして考えを深めていきたいと 思います。								
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション 新学習指導要領の趣旨と目指すべき学力観について 現代の子どもの置かれた環境と教育について理解し、 「良い授業」についての考察検討を行う。	事前学習	自分の受けてきた授業の中で、良い授業について、具体的に発表できるようにまとめておく。						
		事後学習	模擬授業の内容を振り返り、良い授業についての自分なりの考えをまとめる。						
第2回	授業のあり方Ⅰ 授業の見方の視点について 授業ビデオから、教師の役割を捉える。	事前学習	これまで自分の受けてきた授業の中での教師の役割についてまとめておく。						
		事後学習	教師の役割についての自分の考えを深める。						
第3回	授業のあり方Ⅱ 教材編成の仕方について 子どもを動かす教材・板書の仕方 模擬授業①：6年社会科・歴史	事前学習	平安時代の学習の導入をどのように行うかについて考えておく。						
		事後学習	模擬授業を通して学んだこと・気づいたことをまとめる。						
第4回	授業の構成Ⅰ 発問・指示・説明 中心発問の位置づけについて 同一教材をもとにして、中心発問の設定の違いによる 学びの違いをグループ検討を通して具体的に考える。	事前学習	「発問」「指示」「説明」の違いについて考えておく。						
		事後学習	「発問」「指示」「説明」の視点から教師のことばについてまとめておく。						
第5回	授業における評価のあり方 学習指導要領・教科書(指導演)・指導要録・通知表・ 教師の日々の記録の繋がりから評価の実際を学ぶ。	事前学習	評価について、これまで学んだことを振り返って おく。						
		事後学習	授業で取り扱った内容を振り返り、評価のあり方についてまとめる。						
第6回	授業の構成Ⅱ 発問・指示・説明 自作発問構成の位置づけについて	事前学習	中心発問について確認しておく。						
		事後学習	自作発問作成時の考え方についてまとめて						

	同一指導案でも発問の順番を変えることにより、学びの違いが生じることをグループ検討で理解し、自分なりの発問の流れを指導案の本時形式にまとめる。 指導案の書き方Ⅰ 単元の目標・評価規準・指導計画について、具体的に資料を探して書く。		おく
第7回	授業の構成Ⅲ 発問・指示・説明 発問の位置づけについて 前時に作成した指導案の検討を行う。 指導案の書き方Ⅱ 単元の目標・評価規準・指導計画について、具体的に資料を探して書く。	事前学習	前時の発問構成について確認しておく。 ★テーマ（第6回終了時に伝える）をもとに自分の考えをまとめておく。
		事後学習	グループ学習で確認した指導案の形式で参考となるものをまとめておく。
第8回	指導案の書き方Ⅲ 本時の学習について、教科書・資料をもとにまとめる。	事前学習	本時の学習の構成を練っておく。
		事後学習	指導案の完成。
第9回	総合的な学習の時間① 新旧学習指導要領の比較を通して、総合的な学習の時間の改訂のポイントを押える。	事前学習	配付された資料（新旧学習指導要領の比較）をもとに、疑問点などを抜き出しておく。
		事後学習	授業で取り扱った内容を振り返り、改訂のポイントをまとめる。
第10回	総合的な学習の時間② 小学校学習指導要領解説の総合的な学習の時間編、目標の構成と趣旨から ・探究的な見方・考え方 ・横断的・総合的な学習について学ぶ。	事前学習	事前配布した資料を読み、概要についてまとめ、疑問点などを抜き出しておく。
		事後学習	授業で取り扱った内容を振り返り、目標の構成と趣旨についてまとめる。
第11回	総合的な学習の時間③ 総合的な学習の時間の実際 探究を導く課題設定について、 実践記録をもとに、意見の交流を通して検討する。 「東根市のさくらんぼ」	事前学習	総合で自分の受けてきた授業を振り返っておく。
		事後学習	授業で取り扱った内容を振り返り、教材化のポイントをまとめる。
第12回	総合的な学習の時間④ 総合的な学習の時間の実際 総合的な学習について 実践記録をもとに、意見の交流を通して検討する。 「燃料電池自動車」とこれからのエネルギー教育	事前学習	エネルギー学習の視点から教材化できるものについて考えてくる。
		事後学習	授業で取り扱った内容を振り返り、総合的な学習の視点についてまとめる。
第13回	総合的な学習の時間⑤ 総合的な学習の時間の実際 横断的学習について 実践記録をもとに、意見の交流を通して検討する。 「水の流れ」	事前学習	既習の水を使った学習をまとめておく。
		事後学習	授業で取り扱った内容を振り返り、横断的学習の視点についてまとめる。
第14回	総合的な学習の時間⑥ 探究課題の作成・指導計画（発表準備）	事前学習	探究課題作成の準備を行う。
		事後学習	発表の準備を行う。
第15回	総合的な学習の時間⑦ 探究課題の作成・指導計画（発表会）	事前学習	これまでの授業のポイントについて整理しまとめておく。
		事後学習	発表について振り返りを行う。発表原稿を提出する。授業で取り扱った内容を振り返るとともに不十分だった内容を復習し理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	生涯学習概論 (4単位)	3. 科目番号	GELA2329 EDTC2308
2. 授業担当教員	手打 明敏		
4. 授業形態	講義、演習 (調査研究、グループワーク含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は、文部科学省令で定められた社会教育主事科目の必修科目であり、社会教育・生涯学習入門とし位置づけられる。社会教育、生涯学習に関する基本的事項について平易に解説する。		
7. 講義概要	「生涯教育・生涯学習」という考え方は、1960年代以降にわが国に導入され、教育改革の原理として成人継続教育としてキャリア教育、リカレント教育などに反映されている。また、地域住民の学習活動支援の充実が図られている。本科目は、「生涯学習」の基本的な考え方と実際の生涯学習活動について概説することを通して、受講者一人ひとりが、「生涯学習」の意義を理解し、自己の充実・キャリア形成に役立てることを目的とする。同時に、生涯学習社会の実現に向けた学習活動を支える専門職員である「社会教育主事」「司書」「学芸員」の役割について学び、学校と地域との連携や行政・民間レベルでの様々な取り組みについて理解を深めるとともに、生涯学習の国際的動向についても理解を深めることを目指す。		
8. 学習目標	この授業では、国際的動向をふまえて「生涯教育・生涯学習」の考え方を理解するとともに、学校教育、社会教育との関係について理解することを目標とする。 そのために次の5つの到達目標を設定する。 1) 「生涯学習」を支える理念・思想について理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 「生涯学習」の現代的意義を理解した上で、生涯学習社会に向けた学校と地域との連携や行政・民間レベルでの諸活動の役割について、わかりやすく説明することができる。 3) 「社会教育主事」に求められる役割を理解した上で、学校教育とは異なる学習者支援の方法を理解する。 4) 地域の生涯学習・社会教育の実践に関心をもち、研究課題を設定できる。 5) 「生涯学習」の国際的動向について説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「期末レポート」の課題 本授業を受講することで、生涯学習についての認識がどのように変化したかをまとめていただく。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 手打明敏・上田孝典『社会教育・生涯学習』(MINERVA はじめて学ぶ教職7) ミネルヴァ書房、2019年		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 現代社会を生きていく上での生涯学習の意義とともに生涯学習に関する内外の多様な考え方を理解し、具体的に説明できる力を身につけたか。(知識・理解) 2. 我が国の生涯学習政策の動向、とくに地域創生や学校教育支援に果たす生涯学習関連職員の役割について理解した上で、生涯学習の課題について自身の見解をまとめ、表現できる力を身につけたか。(思考力・判断力・表現力) ○評定の方法 【授業への取り組み姿勢、授業内での課題提出、期末レポート等を総合して評価する。】 1. 授業への取り組み姿勢 総合点の20% 2. 授業内での課題提出 (小テスト・課題レポート等) 総合点の30% 3. 期末試験またはレポート 総合点の50%		
12. 受講生へのメッセージ	生涯学習の考え方は現代の学校教育改革とも深く関連しているので、教職を目指す学生は受講していただきたい。本授業は教科書を使用するとともに視聴覚教材等を適時活用し、分かりやすい授業をおこないたい。受講生との対話を重視して授業をおこなう。授業内での質疑を行うとともに、毎時間「質問紙」を配布し、学生の疑問、質問には、次回授業時に回答する。		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション シラバスの説明 (授業の進め方)	事前学習	シラバスを調べ、その内容や構成、進め方を理解する。
		事後学習	生涯学習社会の実現、その考え方、意義について整理し、まとめる。
第2回	社会教育・生涯学習と学校1	事前学習	序章 (pp. 1~5) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	社会教育・生涯学習政策と学校の関係を整理する。
第3回	社会教育・生涯学習と学校2	事前学習	教科書 (pp. 5~8) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	生涯学習政策における学校の役割を整理する。
第4回	社会教育・生涯学習と学校3	事前学習	教科書 (pp. 9~11) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	地域と連携・協働する学校について整理する。
第5回	社会教育・生涯学習の思想と歴史1	事前学習	教科書 (pp. 17~22) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	社会教育法の理念について整理する。
第6回	社会教育・生涯学習の思想と歴史2	事前学習	教科書 (pp. 23~28) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	ユネスコの生涯教育・生涯学習論を整理する。
第7回	社会教育・生涯学習の法制と行政	事前学習	教科書 (pp. 31~43) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	社会教育行政を支える法制度を整理する。
第8回	社会教育・生涯学習の施設と職員1	事前学習	教科書 (pp. 45~50) を読み、分からない部分を

			チェックしておく。
		事後学習	公民館の機能、役割について整理する。
第9回	社会教育・生涯学習の施設と職員2	事前学習	教科書 (pp. 50～57) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	図書館・博物館の機能、役割について整理する。
第10回	社会教育・生涯学習の対象と方法	事前学習	教科書 (pp. 59～69) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	社会教育・生涯学習の対象である青少年・成人の学習の特性、学習支援の方法を整理する。
第11回	世界の生涯学習政策1	事前学習	教科書 (pp. 73～78) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	ユネスコの生涯学習論を整理する。
第12回	世界の生涯学習政策2	事前学習	教科書 (pp. 79～84) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	ヨーロッパ、アジア・太平洋地域の生涯学習の取り組みを整理する。
第13回	第1部のまとめ	事前学習	序章から第5章までの中で関心をもった事項、疑問点をチェックしておく。
		事後学習	質疑応答で理解したことをまとめる。
第14回	「開かれた学校」にみる社会教育1	事前学習	教科書 (pp. 89～96) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	「開かれた学校」が求められる社会的背景を整理する。
第15回	「開かれた学校」にみる社会教育2	事前学習	教科書 (pp. 96～99) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	地域と学校の連携・協働を具体化する仕組みについて整理する。
第16回	地域文化の継承	事前学習	教科書 (pp. 103～115) を読み、分からない点をチェックしておく。
		事後学習	地域の伝統芸能等を継承する学びを整理する。
第17回	地域防災教育の展開1	事前学習	教科書 (pp. 117～121) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	大規模災害と社会教育の課題を整理する。
第18回	地域防災教育の展開2	事前学習	教科書 (pp. 122～126) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	地域防災教育の実践事例を整理する。
第19回	第II部のまとめ	事前学習	第6章から第8章までの中で関心を持った事項、疑問点を整理する。
		事後学習	質疑応答で理解したことをまとめる。
第20回	貧困・格差社会を生きる子どもの暮らしと社会教育1	事前学習	教科書 (pp. 131～135) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	「子どもの貧困」について整理する。
第21回	貧困・格差社会を生きる子どもの暮らしと社会教育2	事前学習	教科書 (pp. 135～142) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	「子どもの貧困」解決に向けた教育の可能性を整理する。
第22回	若者支援と居場所づくり1	事前学習	教科書 (pp. 145～150) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	戦後社会教育における若者支援を整理する。
第23回	若者支援と居場所づくり2	事前学習	教科書 (pp. 150～156) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	若者支援の現状と課題について整理する。
第24回	地域スポーツの推進と生涯学習1	事前学習	教科書 (pp. 159～164) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	地域スポーツ振興の法制度を整理する。
第25回	地域スポーツの推進と生涯学習2	事前学習	教科書 (pp. 164～171) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	地域スポーツを支える施設・人材等について整理する。
第26回	地域で生きる障害者1	事前学習	教科書 (pp. 175～179) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	ノーマライゼーションの考え方を整理する。
第27回	地域で生きる障害者2	事前学習	教科書 (pp. 179～186) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	ノーマライゼーションの実現に果たす教育の役割を整理する。
第28回	多様性を包摂する社会教育を目指して1	事前学習	教科書 (pp. 189～193) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	戦後日本における多文化・多民族社会の様相を整理する。
第29回	多様性を包摂する社会教育を目指して2	事前学習	教科書 (pp. 193～200) を読み、分からない部分をチェックしておく。

2020 年度

		事後学習	国際化の進展と多文化共生の諸相を整理する。
第30回	第Ⅲ部のまとめ	事前学習	第9章～第13章までの中で関心を持った事項、疑問点を整理する。
		事後学習	質疑応答で理解したことをまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害者・障害児心理学／障害児・者の心理 (2単位)		3. 科目番号	SSMP3332 SBMP3332 SCMP3332 SNMP3332 EDPS3304 PSMP3117
2. 授業担当教員	野口 理英子			
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	身体障害、知的障害及び精神障害の概要とその特性を理解し、その心理的影響と併せて、それぞれの障害を持つことで発達段階に応じた心理的影響を理解する。また、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援とその人を取り巻く家族や社会のあり方や制度を学ぶ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害、知的障害及び精神障害の概要を理解し、一般的な心理的傾向を把握し、説明することができる。 2. 障害児・者を持った家族の心理を理解し、説明することができる。 3. 障害受容の一般的な過程とその実態について理解し、説明することができる。 4. 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援や制度を理解し、自分の考えを述べることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小グループを編成し、テーマごとに発表を行う。 2. 課題シートを作成する (毎回を予定)。 3. レポートを作成する (1200字程度) 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】指定しない。授業内で資料を配布する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 次の1～4について理解し説明できるか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害、知的障害及び精神障害の概要と一般的な心理的傾向 2. 障害児・者を持った家族の心理 3. 障害受容の一般的な過程とその実態 4. 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援や制度 <p>○評定の方法 平常点 (授業態度・授業への参加・授業内諸活動) 40% まとめの課題 (テスト・レポート・発表などの活動) 60%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>以下のことを心がけて下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には積極的な態度で参加して下さい (意見を述べる、質問する、等)。 2. 事前・事後学習を通して、理解を深めて下さい。 3. 他の受講生に迷惑をかけないで下さい (発表時に欠席する、私語、等)。 			
13. オフィスアワー	授業内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 講義の概要について説明する。 テーマごとに行われる発表のグループ編成を行う。	事前学習	シラバスの内容を確認する。	
		事後学習	グループで発表の打合せをする。	
第2回	障害児・者をめぐる動向 障害の捉え方 障害児・者への教育と福祉	事前学習	障害分類について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第3回	発達障害児・者の心理と支援 (1) LD・ADHDを中心に	事前学習	LD・ADHDについて調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第4回	発達障害児・者の心理と支援 (2) 自閉スペクトラム症を中心に	事前学習	自閉スペクトラム症について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第5回	発達障害児・者の心理と支援 (3) 発達障害児・者への教育的支援	事前学習	特別支援教育について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第6回	情緒障害の心理と支援	事前学習	情緒障害について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第7回	精神障害者の心理と支援 (1) 心因性の問題を中心に	事前学習	精神障害 (心因性) について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第8回	精神障害者の心理と支援 (2) 内因性の問題を中心に	事前学習	精神障害 (内因性) について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第9回	精神障害者の心理と支援 (3) 外因性の問題を中心に	事前学習	精神障害 (外因性) について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第10回	視覚障害児・者の心理と支援	事前学習	視覚障害について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第11回	聴覚障害児・者の心理と支援	事前学習	聴覚障害について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	

2020年度

第12回	肢体不自由児・者の心理と支援	事前学習	肢体不自由について調べ、まとめる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第13回	障害児・者を持つ家族の心理と支援 障害受容と価値観の変容	事前学習	障害受容について調べ、まとめる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第14回	障害者の職業と生活の質の向上	事前学習	障害者の雇用について調べ、まとめる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第15回	まとめ	事前学習	授業の内容について整理する。
		事後学習	レポートを作成し、提出する。

1. 科目名 (単位数)	障害者介護論 (2単位)	3. 科目番号	SNMP2118
2. 授業担当教員	櫻井 恵美		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	障害の種類や程度及び原因(医学的を含め)を理解し、それぞれの障害のある人の生活について、事例を通して理解していく。その中で生活支援を介護福祉士がどのように担っていくのかを具体的に事例を通して学んでいけるように展開していく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の種類や程度及び原因(医学的を含む)症状を理解し、生活への影響を考えることができる。 2. 障害のある人の生活を理解し、介護の視点を考えることができる。 3. 障害のある人の生活とICFの概念を理解し生活環境の改善を考えることができる。 4. 介護福祉士の役割と支援の方法を理解し、幅広い連携を考えることができる。 5. 障害のある人の生活を支える社会的取り組み、及び現状を理解し、自立に向けた支援の方法を考えることができる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内でまとめられなかったレポート、演習シート等は、次回の授業までに整理して提出して下さい。 ・授業の進行具合や、学生の理解度に応じて、課題を提示する場合があります。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新・介護福祉士養成講座8『生活支援技術Ⅲ』中央法規出版2019</p> <p>【参考書】 授業中に資料を配布する。その他参考書等については適宜授業内で紹介する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の種類や程度及び原因(医学的を含む)症状を理解し、生活への影響を考え、介護の視点を考えることができたか。 2. 障害のある人の生活とICFの概念を理解し生活環境の改善を考えることができたか。 3. 障害のある人の生活を支える社会的取り組み、及び現状を理解し、自立に向けた支援の方法を考えることができたか。 <p>○評定の方法 [レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 20% 2. 授業態度 20% 3. 小テスト 60% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころとからだのしくみ」と関連付けて学習してください。 ・授業に積極的に取り組み、提出物は必ず期限内に提出してください。評定に反映されます。 ・授業内容の理解度を確認する小テストを行います。(第5、9、13、15回)テストの結果は評定に反映されます。 ・机の上に携帯電話など教材以外のものを置くこと、他者の学習の迷惑になる行為は慎むこと。 ・不明な点は質問し、解決できるようにしてください。 ・授業には、グループディスカッションを取り入れます。他者の意見をよく聴き、自分の意見をしっかりと述べてください。 ・やむを得ず遅刻・早退・欠席をする場合は、必ずその理由を申し出て、授業内容やプリント等を確認すること。 		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。その他については、第1回で説明します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 障害の基礎的理解① 障害の概念、障害者福祉の基本理念	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	障害とはどういうものなのかについて考える。
第2回	障害の基礎的理解② 障害の種類 ICFの考え方 障害について考える グループディスカッション	事前学習	障害のある人の暮らしについて、自らの体験を通して学ぶ。
		事後学習	体験、グループディスカッションをとおして障害とはどういうものなのかを整理する。(A4レポート用紙1枚)
第3回	障害のある人の生活の理解① 視覚・聴覚障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	視覚障害のある人の活動制限や参加制約について、考えておく。
		事後学習	視覚障害のある人の介護の留意点を整理する。
第4回	障害のある人の生活の理解② 言語障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	聴覚・言語障害のある人とのコミュニケーション手段について調べておく。
		事後学習	聴覚・言語障害のある人の介護の留意点を整理する。
第5回	障害のある人の生活の理解③ 肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活と介護の	事前学習	肢体不自由の原因疾患について調べておく。
		事後学習	肢体不自由(運動機能障害)のある人の介護

	視点		の留意点を整理する。
第6回	障害のある人の生活の理解④ 内部障害のある人の生活と介護の視点 心臓機能障害、腎機能障害、呼吸機能障害	事前学習	内部障害の種類と原因疾患について、調べておく。
		事後学習	内部障害のある人の介護に必要な知識について整理する。
第7回	障害のある人の生活の理解⑤ 内部障害のある人の生活と介護の視点 膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害、肝臓機能障害	事前学習	ストマについて調べ、ストマのある人の活動制限や参加制約について考えておく。
		事後学習	内部障害のある人の介護に必要な知識について整理する。
第8回	障害のある人の生活の理解⑥ 高次機能障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	高次脳機能障害の種類について調べておく。
		事後学習	高次脳機能障害のある人の介護の留意点について整理する。
第9回	障害のある人の生活の理解⑦ 知的機能障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	知的障害の程度について、調べておく。
		事後学習	知的障害のある人との関わり方について整理する。
第10回	障害のある人の生活の理解⑧ 精神障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	精神疾患の種類について調べておく。
		事後学習	精神疾患のある人との関わり方について整理する。
第11回	障害のある人の生活の理解⑨ 発達障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	発達障害の種類について、調べておく。
		事後学習	知的障害と発達障害の違いについて整理する。
第12回	障害のある人の生活の理解⑩ 重症心身障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	大島分類について調べておく。
		事後学習	重症心身障害のある人の介護の留意点について整理する。
第13回	障害のある人の生活の理解⑪ 難病のある人の生活と介護の視点	事前学習	難病の定義について、調べておく。
		事後学習	難病のある人の介護における医療との連携について整理する。
第14回	障害のある人に対する支援① 介護の基本視点、家族への支援	事前学習	障害のある人を介護する家族の苦悩について考える。
		事後学習	レスパイトケアについて整理する。
第15回	障害のある人に対する支援② 社会資源の利用と開発、連携と協働	事前学習	障害のある人が活用できる社会資源について調べておく。
		事後学習	障害のある人が地域で安心して暮らし続けるために、地域においてどのような支援体制が整えられるか整理する。

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉論 (2単位)	3. 科目番号	SBMP2301 SSMP2101 SCMP2101 SNMP2301 PSMP2401
2. 授業担当教員	立松 英子		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>障害者を取り巻く福祉制度・政策は、日々、劇的な変化を遂げている。そして、障害者のニーズも複雑・多様化している。実践現場では、これに適切に対処することができるソーシャルワーカーが求められている。本講義においては、激しく移り変わる障害福祉制度や情勢、さらには障害者の実情について学び、ソーシャルワーカーが主体的に問題解決に取り組むことができるように知識を身につけていく。</p> <p>また、ソーシャルワーカーは多面的な視点を必要とすることから、新聞記事等、資料も用いて障害者問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ、福祉問題について共に考えていく。</p> <p>そして、障害者福祉論は、社会福祉士国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目となる。同国家試験の合格を目指すためには、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」が得点源となるような受験対策が必要となる。そのため、本講義においては、過去の国家試験を分析・検討し、それに沿った内容も講義する。</p>		
8. 学習目標	<p>障害者福祉論が終了した時点で、具的に以下の点を理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 ・障害者福祉制度の発展過程 ・障害者自立支援制度と近年における改正状況 ・障害者福祉に関連する法令の概要 ・相談支援事業所の役割と実際 ・障害者福祉の専門職の役割と実際 ・障害者福祉の多職種連携・ネットワーク ・障害者自立支援制度と介護保険制度の関係 ・障害者権利条約の批准 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教科書のキーワードから興味ある語を4つ選び、書式にしたがって1000字程度でレポートする。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第6版)』中央法規。 参考図書等については随時提示する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 9つの学習目標を理解することが出来たか。</p> <p>○評定の方法 ①中間試験 40% ②期末試験 40% ③平常点 (授業への積極的参加度及びレポート) 20% 尚、本学の規定に定められている3/4以上の出席が確認できない場合には単位の修得は認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>障害者の支援については、理念や制度についての知識、障害そのものに関する専門的知識、カウンセリングの知識、医療や教育・心理など周辺分野の役割など多方面にわたる知識・技能が必要とされる。法制度も、措置制度から支援費制度、障害者自立法へと変遷を経て、さらに障害者総合支援法へと激しく変化している。福祉現場での相談業務や作業支援や介護支援、また、活動への具体的支援を通して障害当事者や家族に直接関わる専門職種としての専門職倫理を身につけながら学んでください。</p> <p>① 授業中に私語、居眠り、飲食しないこと。 ② 教室を散らかしたり、机を汚したりしないこと。 ③ マナーを守り大学生としての自覚的学習態勢を確立すること。 ④ 社会人としての必要な自立姿勢を確立すること。</p>		
13. オフィスアワー	授業で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	1. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 ・障害の概念 ・障害者の実態(障害種類・年齢・原因・疾患別生活実態) ・障害者の福祉・介護需要の実態(福祉・介護に関わるニーズ等) ・障害者の地域移行や就労の実態	事前学習	教科書の第1章「障害者を取り巻く社会情勢と生活実態」を通読しておくこと
		事後学習	「国際障害分類 (ICIDH)」と「国際生活機能分類 (ICF)」の考え方の違いを自分なりに整理しておくこと。
第2回	2. 障害者福祉制度の発展過程 ・障害者福祉とは ・国際的動向(リハビリテーション、ノーマライゼーション、当事者運動や参加等)と今日における世界の到達点 ・日本の障害者福祉の動向	事前学習	教科書第1章第1節「障害者を取り巻く社会情勢」を通読しておくこと。
		事後学習	授業で得られた知見、気づきを学習ノートにまとめ、理解を深める。
第3回	3. 障害者総合支援法 ・障害者総合支援法の目的と手続き	事前学習	教科書第3章第1節「障害者総合支援法の理念・考え方」を通読しておくこと。

	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の種類と内容 ・権利擁護と苦情解決 	事後学習	「障害者総合支援法」とそれまでの法制度との相違をまとめておく。
第4回	4 組織及び団体の役割と実際 <ul style="list-style-type: none"> ・国や地方公共団体と民間福祉団体（社会福祉施設や事業所）との役割分担 ・労働関係機関や教育機関とのつながり ＊外部講師による講話	事前学習	教科書第5章「組織・機関の役割」を通読しておくこと。／群馬県下にどのような社会福祉施設や事業所があるか調べておく
		事後学習	組織間の連携の視点について、自分なりの考えをまとめる
第5回	5. 専門職の役割と実際 <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門職の役割 ・サービス管理責任者の役割 ・居宅介護従事者の役割 	事前学習	教科書第6章「専門職の役割と実際」を通読しておくこと。
		事後学習	相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達管理責任者、生活支援員などの役割について、学習ノートにまとめる。
第6回	6 多職種連携、ネットワーキングと実際 <ul style="list-style-type: none"> ・医療関係者との連携 ・労働関係者との連携 ・教育関係者との連携 ・連携の方法と実際 	事前学習	教科書第7章「多職種連携・ネットワーキング」について通読しておく／連携先にはどのような専門職がいるか調べておく。
		事後学習	多職種連携、ネットワーキングにおける留意点について自分なりの考えをまとめておく
第7回	7. 相談支援事業所の役割と実際 <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所の組織体系 ・相談支援事業所の活動の実際 	事前学習	教科書第3章第6節「地域生活支援事業」を通読しておくこと。
		事後学習	相談支援事業所の組織体系や活動について学習ノートにまとめておく
第8回	8. 身体障害者福祉法 <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者福祉法概要 ・身体障害者手帳と関連制度 	事前学習	教科書第2章第2節「身体障害者福祉法」を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく
第9回	9. 知的障害者福祉法 <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者福祉法の概要 ・療育手帳と関連制度 	事前学習	教科書第2章第3節「知的障害者福祉法」を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく
第10回	10. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の概要 ・精神保健福祉手帳と関連制度 	事前学習	教科書第2章第4節「精神保健福祉法」を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく
第11回	11. 発達障害者支援法 <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者支援法の概要 ・発達障害者支援センターの役割 	事前学習	教科書第2章第5節「発達障害者支援法」を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく
第12回	12. 障害者基本法 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者基本法の概要 ・2004年6月の改正とその経緯 ・その他の障害や難病の附帯決議（参議院内閣委員会）について 	事前学習	教科書第2章第1節「障害者基本法」を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく
第13回	13. 心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律の概要と課題	事前学習	教科書第2章第7節「医療観察法」を読んで、わからない言葉を抽出しておく
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく
第14回	14. 障害者へのテクノロジー支援	事前学習	障害者へのテクノロジー支援（ICT）にはどのようなものがあるかWebで調べておく
		事後学習	ICTの現場への導入における課題を挙げる
第15回	15. 障害者の雇用の促進等に関する法律 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の雇用の促進等に関する法律の概要 ・障害者の雇用・就労に関する課題／まとめ 	事前学習	これまでに学習したことをまとめておく
		事後学習	理解が足りなかった部分で授業により明らかになったことをノートにまとめておく
期末試験			
15.実務経験を有する教員 特記事項	養護学校（現 特別支援学校）の教諭経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	障害児療育 (2単位)		3. 科目番号	SSMP2341 SNMP2341 SCMP2341 SBMP2341 SPMP2341 SJMP2119						
2. 授業担当教員	立松 英子									
4. 授業形態	講義、DVD視聴、演習	5. 開講学期	秋期							
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>「療育」という用語は、狭義には障害の早期発見から就学までの取り組みの意味で使われ、広義には成人の生活支援も含み、医療・福祉・教育にまたがる分野で使われている。近年、明確な診断のない「気になる」子どもや被虐待児もその対象となり、ノーマライゼーションの理念の理解とともに発達や障害についての幅広い知識が必要となるばかりか、親支援や地域の子育て支援も保育士の重要な役割となっている。</p> <p>本科目では、知的障害、肢体不自由、視覚障害や聴覚障害、自閉スペクトラム症を含む発達障害や、診断はないが「気になる」子どもを対象に、年齢は乳幼児から成人まで、場所は一般の保育所のみならず、病院内保育、施設内保育等、幅広い視野で「療育」を捉え、保育士としての専門性を培う。</p>									
8. 学習目標	<p>インクルーシブ保育の場では、障害のある子どもやその子を支える家族の生活・心情をふまえた支援とともに、障害のない子どもへの配慮や共生社会の形成を念頭に教育もできるようになる。また、専門機関においても、医療・福祉と連携しながら保育士としての専門性を発揮して、適切な支援ができるようになる。</p> <p>① 幅広い対象、場、形態に及ぶ「療育」の理念や概念について知る。 ② 障害に関する医療・社会福祉・教育の制度についての基礎知識が身に付く。 ③ 障害のある子どものいる家族の生活や心情について共感できるようになる。 ④ 定型発達についての基礎知識を基盤に、障害のある子どもの育ちに見通しをつけられるようになる。 ⑤ 様々な専門家の役割を知って、障害のある子どもや保護者を中心とした連携・協働ができるようになる。</p>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題：与えられた事例について、書式にしたがってレポートしてください。 ・小テスト：用語の理解について小テストを実施します。 ・期末レポート課題：事例についての論文課題：「あなたが考えるよりよい療育実践について、事例にもとづいて論説しなさい」本課題により、障害児保育の理論と実践がどこまで身に付いたか確認します。 									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林保子・立松英子共著『保育者のための「障害児療育」-理論と実践をつなぐ-』改訂 2 版, 学術出版会, 2017。</p> <p>【参考書】 厚生労働省 『保育所保育指針解説』(平成 30 年 2 月) 厚生労働省 2018 その他、実践場面の DVD や関連ウェブサイトを授業で紹介します。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児者に関する自分なりの課題意識をもち、最新の理念を積極的に学んだか。 2. 本人や家族への支援について正しい知識を身につけたか。 3. 定型発達の順序性について理解し、実践場面で応用できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下を総合的に検討し、判断する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業態度</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2 小テスト</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> </table> <p>*なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。</p>				1 授業態度	総合点の 40%	2 小テスト	総合点の 20%	3 課題レポート	総合点の 40%
1 授業態度	総合点の 40%									
2 小テスト	総合点の 20%									
3 課題レポート	総合点の 40%									
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害がある子どもやその家族の理解は、ふれあうこと、接することから始まります。地域のボランティア活動や療育・教育活動に積極的に参加することをお勧めします。 ・授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作、飲食等は禁止します。 ・休憩時間と授業の区別をしましょう。大学生として節度ある態度で授業に臨んでください。 									
13. オフィスアワー	別途通知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーション 障害の理解①	事前学習	教科書第1章 (pp. 11~23) を読んで、わからない言葉を抽出しておく。							
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく。							
第2回	障害の理解② 子どもの生活を支える福祉や医療、各種法制度	事前学習	教科書第2章 (pp. 25~36) を読んで、わからない言葉を抽出しておく。							
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく							
第3回	障害のある子の発達	事前学習	教科書第3章 (pp. 37~46) を読んで、わからない言葉を抽出しておく。							
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく							
第4回	療育期における家庭への子育て支援	事前学習	教科書第4章 (pp. 47~58) を読み、親の障害の受容について確認しておく。							
		事後学習	親の障害受容とその変遷について重要点を学習ノートにまとめておく							

第5回	療育の種類、早期療育・相談事業	事前学習	教科書第5章(pp.59~68)を読んで、インクルーシブ保育から就学までの流れを確認しておく。
		事後学習	療育の種類、早期療育の重要性について自分なりにまとめておく。
第6回	地域における専門機関の役割とサービス	事前学習	教科書第6章(pp.69~76)を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく。
第7回	発達及び障害に関する用語の理解	事前学習	これまでの学習で分からなかった用語を確認しておく。
		事後学習	小テストに向けて用語の確認をする。
第8回	小テスト	事前学習	用語の関連事項について調べ、理解を深めておく。
		事後学習	解答できなかった用語について復習をする。
第9回	グループ演習1, 2 知的障害を伴う子ども保育援助	事前学習	教科書第9章(pp.111~117)を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく。
第10回	グループ演習3, 4 自閉スペクトラム症を伴う子どもと保育援助	事前学習	教科書第11章(pp.135~144)を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく。
第11回	グループ演習5, 6 肢体不自由や重症心身障害を伴う子どもと保育援助	事前学習	教科書第10章(pp.119~134)を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく。
第12回	グループ演習7, 8 視覚障害・聴覚障害を伴う子どもと保育援助	事前学習	視覚障害とは、聴覚障害とは何か事前に調べ、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく。
第13回	「気になる子」と保育援助	事前学習	教科書12章(pp.145~152)を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく。
第14回	就学への移行と特別支援教育	事前学習	教科書第7章(pp.77~91)を読んで、わからない言葉を抽出しておく。
		事後学習	授業で明らかになった専門用語の意味について学習ノートにまとめておく。
第15回	論文課題「あなたが考えるよりよい療育実践について、事例にもとづいて論説しなさい」	事前学習	これまでに学んだことを振り返り、時間内に論文課題を終えられるよう考えをまとえておく。
		事後学習	第1回の時の理解と現在の理解度の違いを確認してみる。
15.実務経験を有する教員 特記事項	養護学校(現 特別支援学校)の教諭経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	障害の理解 I (2単位)	3. 科目番号	SNMP2114 SSMP2314 SCMP2314 SBMP2314				
2. 授業担当教員	櫻井 恵美						
4. 授業形態	講義、グループワーク	5. 開講学期	秋期				
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は介護福祉士養成と教員養成(福祉科)の必修科目であることから、本科目を履修する場合は、「身体構造と機能Ⅰ」を履修していること、また、「発達と老化の理解Ⅱ」、「認知症の理解Ⅰ」を合わせて履修すること。						
7. 講義概要	<p>障害の基礎的理解として、障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解する。また、障害のある人の日常生活に及ぼす影響を理解した上で、障害のある人やその家族への生活支援を行うための根拠となる知識を習得することを目的とする。</p> <p>事例や視聴覚教材等を通して、具体的に障害を理解できるような授業を展開する。</p>						
8. 学習目標	<p>障害の理解Ⅰが終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念や障害の基本的理念が理解でき、その人らしい生活を考えることができる。 2. 生活モデル、ICFの概念が理解でき、環境改善のあり方を考えることができる。 3. 身体的、精神的障害について理解でき、ノーマライゼーションの考え方を明らかにすることができる。 4. 障害が及ぼす日常生活への影響やバリアが理解でき、その対応を考えることができる。 5. 障害のある人に対する介護の基本的視点が理解でき、生活ニーズを把握することができる。 6. 障害のある人だけでなく、その家族とどう関わるか理解でき、専門職としての役割を考えることができる。 7. 障害の種類や特性に応じた保健・医療・福祉との連携と地域におけるサポート体制を理解した上で、地域で普通に暮らすことのできる社会づくりを考えていくことができる。 						
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①授業中に提示し、ミニレポートを作成して提出する。(第2, 11, 15回) ②第9回 バリアとなっている現状と対策について演習シートにまとめる。 ③障害の種類によって多様な保健・医療・福祉との連携における福祉専門職等の役割について、指定用紙にまとめる。 						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新・介護福祉士養成講座8『生活支援技術Ⅲ』中央法規出版 2019</p> <p>【参考書】 授業内で適宜紹介する。</p> <p>【教材】 DVDなどの視聴覚教材を必要に応じて使用する。</p>						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念や基本的理念が理解できたか。 2. 障害による日常生活への影響やバリアを理解し対応等を考えることができたか。 3. 障害のある人に対する介護の基本的視点を理解し、本人や家族も含めた対応を理解できたか <p>○評定の方法</p> <p>[レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 レポート</td> <td>総合点の70%</td> </tr> <tr> <td>2 授業態度</td> <td>総合点の30%</td> </tr> </table>			1 レポート	総合点の70%	2 授業態度	総合点の30%
1 レポート	総合点の70%						
2 授業態度	総合点の30%						
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習とも積極的に取り組み、提出物は必ず期限内に提出してください。 ・机上に携帯電話など教材以外のものを置くこと、私語や居眠り等、他学生の学習の妨げになるようなことは慎むこと。 ・テレビ番組などを通じて、障害者について知る機会を積極的につくってください。 ・不明な点は質問し、解決できるようにしてください。 ・授業には、グループディスカッションを取り入れます。他者の意見をよく聴き、自分の意見をしっかりと述べてください。 ・やむを得ず遅刻・早退・欠席をする場合は、必ずその理由を申し出るとともに、授業内で配布されたプリントを取りに来て下さい。 						
13. オフィスアワー	第1回の授業で説明します。						
14. 授業展開及び授業内容							
講義日程	授業内容	学習課題					
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・テーマ「わが国の障害者の実態」 <p>わが国における障害者の分類のもと、身体障害者、知的障害者、精神障害者の数について、数値的データを基に実態について理解していく。また、専門職として支援していく上で障害者が持つニーズの把握を概略的に理</p>	事前学習	シラバスを読んでおく。				
		事後学習	わが国の障害者の実態を理解し、障害者支援の必要性を整理する。				

	解できるように進めていく。		
第2回	テーマ「「障害」ということばについて考える」 ・医学的側面から、身体、感覚、内部機能、精神、知的、高次脳機能、難病などの障害の定義を理解する。 ・障害の考え方	事前学習	プリントを読み、障害について考える。
		事後学習	障害の捉え方、考え方について整理し、自己の考えをレポート（A41枚）にまとめる。次回の授業で提出。
第3回	テーマ「ノーマライゼーション」 障害者とノーマライゼーションについて理解すると共に、わが国におけるノーマライゼーションの理念について、具体的にどのような形で実現されているかについて理解を深めていく。また、ノーマライゼーションの具体例についてもふれながら、専門職として実践につなげられるように進めていく。	事前学習	ノーマライゼーションの考え方を確認しておく。
		事後学習	ノーマライゼーションの理念に基づく障害者支援について整理する。
第4回	テーマ「リハビリテーションの概念」 リハビリテーションの目標としての全人間的復権、社会的自立について理解する。	事前学習	リハビリテーションの言葉の意味を確認しておく。
		事後学習	障害者におけるリハビリテーションの必要性を整理する
第5回	テーマ「障害とは何か」（ゲストスピーカー） 医学モデルと社会モデル、ICIDHとICFを理解する。	事前学習	障害とは何かを考え、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	ICIDHとICFの違いをまとめ、障害の捉え方について再考する。
第6回	テーマ「身体的障害について①」 身体、感覚、などの障害について、障害が及ぼす日常生活への影響を理解する。	事前学習	テキストをよく読み、身体障害、難病について確認しておく。
		事後学習	身体的障害の内容及び特性について整理する。
第7回	テーマ「身体的障害について②」 内部障害と障害が及ぼす日常生活への影響を理解する。	事前学習	テキストをよく読み、内部障害について確認し、ノートに整理しておく。
		事後学習	内部障害のある人に対する支援の在り方についてノートにまとめる。
第8回	テーマ「身体的障害について③」 高次脳機能障害と障害が及ぼす日常生活への影響を理解する。	事前学習	テキストをよく読み、高次脳機能障害について確認し、ノートに整理しておく。
		事後学習	高次脳機能障害のある人に対する支援の在り方についてノートにまとめる。
第9回	テーマ「バリアはどこ？」 障害者を取り巻く障壁について調査し、環境(人的、物的、地域、社会)が及ぼす影響を考えていく。多様なニーズに対応していく為に環境の重要性と多様性について理解できるよう、障害者が生活していくうえで、適切な支援ができるように、具体的な改善策を考える。	事前学習	障害者の生活におけるバリア、日常生活における支援のあり方を考える。
		事後学習	障害者が生活を行なう上で、バリアとなっている現状と対応について演習シートに整理する。
第10回	テーマ「精神的障害について」 精神障害と障害が及ぼす日常生活への影響を理解する。	事前学習	精神障害について確認し、ノートにまとめる。
		事後学習	精神障害の特性、関りの基本をノートに整理する。
第11回	テーマ「障害のある人に対する介護の基本的視点①」 尊厳の保持、エンパワメント、ストレングスモデルなどを介護の基本的視点とすることを理解する。本授業の中で学んだ内容から課題を提示し、授業内でミニレポートを作成し、提出してもらう。	事前学習	第6～10回の授業内容を振り返り、尊厳とは何かを考える。
		事後学習	障害のある人に対する支援の基本視点について整理し、ミニレポートにまとめる。
第12回	テーマ「障害のある人に対する介護の基本的視点②」 障害のある人に対する介護の基本的視点について事例を通して理解を深める。	事前学習	ALSについて調べておく。
		事後学習	事例についての支援の視点を整理する。
第13回	テーマ「障害のある人の家族への支援」 障害者を支援する最も身近な家族について焦点をあて、障害者を抱える家族の心理的な視点や社会における立場等について理解すると共に、家族への支援が障害者の自立支援に与える影響について具体的な例をあげながら学べるように進めていく。	事前学習	障害のある人を介護する家族の苦悩について考える。
		事後学習	家族との連携、家族への支援の重要性を整理する。
第14回	テーマ「連携と協働」 地域における障害者及び家族に対してのサポート体制、特に機関や職種について理解すると共に、専門職として	事前学習	テキストの第6章「連携と協働」を読んでおく。 障害者の保健・福祉サービスについて調べておく。

	連携をどのようにとっていく必要があるか、実践につなげられるように進めていく。	事後学習	障害者を支える機関や専門職について整理する。
第15回	まとめ 障害の理解Ⅰの概略的まとめとして考え、「障害のある人がいきいきと自立して暮らすためには」について、レポートを作成する。	事前学習	第1～14回までの授業、ミニレポートを振り返り、障害のある人への支援のあり方について考えをまとめておく。
		事後学習	自己の障害に対する考え方、障害のある人への介護観、介護福祉士としての役割を整理し、実践できるようにする。

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2単位)	3. 科目番号	GELA1333								
2. 授業担当教員	梶原 洋生										
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。 犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。 非行少年にかかる刑事司法機関、少年保護機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。 事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。 以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。 										
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。 課題レポートの提出を義務付ける。テーマ:「少年事件における家庭裁判所の役割について」 										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】藤原正範『少年事件に取り組む一家裁調査官の現場から』岩波新書。</p> <p>【参考書】鮎川潤『新版 少年非行の社会学』世界思想社。</p> <p>日本弁護士連合会『子どもの権利 ガイドブック』明石書店。</p> <p>松嶋秀明『関係性のなかの非行少年』新曜社。</p>										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験又は小テスト</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の20%	2 期末試験又は小テスト	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の20%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の20%										
2 期末試験又は小テスト	総合点の40%										
3 課題レポート	総合点の20%										
4 日常の学習状況	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	社会事象である非行・犯罪問題について考える習慣を身に付けたい。										
13. オフィスアワー	授業の前後										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	はじめに	事前学習	教科書の第1章について200字以内でまとめる。								
		事後学習	配布資料について200字以内でまとめる。								
第2回	子ども・児童・少年の権利という考え方	事前学習	第1章内の事例について200字以内でまとめる。								
		事後学習	「成長権」について参考文献を図書館で調べ、200字以内にまとめる。								
第3回	社会と法の視点から① —出生の権利論—	事前学習	「出生」の定義について調べる。								
		事後学習	「出生」について200字以内でまとめる。								
第4回	社会と法の視点から② —発達の権利論—	事前学習	「発達」の定義について図書館で参考文献を探してみる。								
		事後学習	「発達」について200字以内でまとめる。								
第5回	社会と法の視点から③ —子どもの権利論—	事前学習	「子ども」のルールについて『権利』の視点で取り上げた文献を探してみる。								
		事後学習	「子どもと条例」について200字以内でまとめる。								
第6回	少年と司法 —権利に関する世界の動き—	事前学習	「権利条約」について調べる。								
		事後学習	「権利条約」について200字以内でまとめる。								
第7回	少年司法における保護と処遇	事前学習	「健全育成」について200字以内でまとめる。								
		事後学習	「健全育成」の参考文献について200字以内でまとめる。								

第8回	家庭裁判所の現場と少年の司法福祉	事前学習	「家庭裁判所」について200字以内でまとめる。
		事後学習	「司法福祉」について200字以内でまとめる。
第9回	刑事司法と少年司法	事前学習	第2章について200字以内でまとめる。
		事後学習	第2章について、参考文献を踏まえて200字以内でまとめる。
第10回	少年事件のむずかしさ	事前学習	第3章について200字以内でまとめる。
		事後学習	第3章内の事例を中心に200字以内でまとめる。
第11回	修復的司法① —年齢という課題—	事前学習	第4章について200字以内でまとめる。
		事後学習	第4章内の事例を中心に200字以内でまとめなおす。
第12回	修復的司法② —少年事件のむずかしさ—	事前学習	第5章内の裁判例を熟読する。
		事後学習	第5章について200字以内でまとめる。
第13回	「被害者」から少年の非行・犯罪を考える	事前学習	第6章内の事例を整理してまとめる。
		事後学習	第6章について200字以内でまとめる。
第14回	非行の科学とソーシャルワーク	事前学習	第7章について200字以内でまとめる。
		事後学習	配布資料の内容について200字以内でまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	教科書全般（第1章—第7章）の熟読。
		事後学習	参考資料全般を再度読み直して200字以上でノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	情報科指導法Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	EDIT3345
2. 授業担当教員	森 正人		
4. 授業形態	講義、演習および実習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、高等学校教諭免許状「情報」を取得しようとする学生を対象とし、高等学校・教科「情報」の指導法の基本的事項について学習する。「情報科指導法Ⅱ」では、「情報科指導法Ⅰ」で学習したことを基礎として、教材作成や指導案の作成、模擬授業の実施、評価の仕方等について実習を通して実践的に学習する。		
8. 学習目標	情報科指導法Ⅰで学習したことを踏まえ、実際に授業計画立案や教材・教具開発に必要な知識・技能を身に付けられる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	授業案や構想等をレポートとして提出を求める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』2010年。 山極隆監修『最新社会と情報』実教出版、2015年。 山極隆監修『最新情報の科学』実教出版、2015年。 【参考資料】 高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 教材作成や指導案の作成ができるか。 2. 模擬授業を実施し、生徒を評価できるか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 平常点(模擬授業、授業への積極的な参加・小テスト・レポート等) 50% 最終考課(テストもしくは最終課題) 50%		
12. 受講生へのメッセージ	これまでに学習した内容を各専門分野も含めて総動員してもらいますので、適宜、復習をしながらの学習となるはずで。覚悟して下さい。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション 高等学校・教科「情報」について	事前学習	「高等学校学習指導要領解説情報編」を読む。
		事後学習	教科「情報」の目的は何か、他人に説明できるようになるまで学習する。
第2回	「社会と情報」の分担決定・教材作成、指導案の作成についておさらい	事前学習	「最新社会と情報」を読み、模擬授業をしてみたい単元を探す
		事後学習	「社会と情報」の担当する単元について、授業の大まかな計画を練る
第3回	「社会と情報」の授業構想練り、アイデア発表とディスカッション 情報機器と電子教材の活用法について紹介する。	事前学習	「社会と情報」の担当する単元について、どのような授業を展開したいのか、大まかなアイデアを簡単なメモにする
		事後学習	ディスカッションに基づき、「社会と情報」の担当する単元について、どのような授業展開のアイデアを修正する
第4回	「社会と情報」の指導案作成とディスカッション	事前学習	「社会と情報」の担当する単元について、指導案の概要を簡単なメモにする
		事後学習	ディスカッションに基づき、「社会と情報」の担当する単元について、指導案を修正する
第5回	「社会と情報」の教材作成とディスカッション	事前学習	「社会と情報」の担当する単元について、作成する教材の概要を簡単なメモにする
		事後学習	ディスカッションに基づき、「社会と情報」の担当する単元について、教材を修正する
第6回	「社会と情報」の生徒の評価基準・テストの作成とディスカッション	事前学習	「社会と情報」生徒の評価基準とテストについて、概要を簡単なメモにする
		事後学習	ディスカッションに基づき、「社会と情報」の担当する単元について、生徒の評価基準とテストを修正する
第7回	「社会と情報」模擬授業の準備	事前学習	模擬授業のリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業後のディスカッションや講評から、自分の模擬授業を反省する。
第8回	「社会と情報」模擬授業 情報機器と電子教材を積極的に利用する模擬授業を推奨する。	事前学習	模擬授業のリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業後のディスカッションや講評から、自分の模擬授業を反省する。
第9回	「情報の科学」の分担決定・教材作成、指導案の作成についておさらい	事前学習	「最新情報の科学」を読み、模擬授業をしてみたい単元を探す
		事後学習	「情報の科学」の担当する単元について、授業の大まかな計画を練る
第10回	「情報の科学」の授業構想練り、アイデア発表とデ	事前学習	「情報の科学」の担当する単元について、どのよ

	ディスカッション 情報機器と電子教材の活用法について紹介する。		うな授業を展開したいのか、大まかなアイデアを簡単なメモにする
		事後学習	ディスカッションに基づき、「情報の科学」の担当する単元について、どのような授業展開のアイデアを修正する
第11回	「情報の科学」の指導案作成とディスカッション	事前学習	「情報の科学」の担当する単元について、指導案の概要を簡単なメモにする
		事後学習	ディスカッションに基づき、「情報の科学」の担当する単元について、指導案を修正する
第12回	「情報の科学」の教材作成とディスカッション	事前学習	「情報の科学」の担当する単元について、作成する教材の概要を簡単なメモにする
		事後学習	ディスカッションに基づき、「情報の科学」の担当する単元について、教材を修正する
第13回	「情報の科学」の生徒の評価基準・テストの作成とディスカッション	事前学習	「情報の科学」生徒の評価基準とテストについて、概要を簡単なメモにする
		事後学習	「情報の科学」生徒の評価基準とテストについて、概要を簡単なメモにする
第14回	「情報の科学」模擬授業の準備	事前学習	模擬授業のリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業後のディスカッションや講評から、自分の模擬授業を反省する。
第15回	「情報の科学」模擬授業 情報機器と電子教材を積極的に利用する模擬授業を推奨する。	事前学習	模擬授業のリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業後のディスカッションや講評から、自分の模擬授業を反省する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	情報と職業 (2単位)	3. 科目番号	EDIT1302
2. 授業担当教員	柴田 隆史		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータやインターネットの利用は、現代の生活において必要不可欠である。それは、日常生活のみならず、ビジネス環境にも大きな変化をもたらしている。情報に関する学習において、コンピュータやネットワークの仕組みや操作を理解することも重要であるが、それらが社会やビジネスでどのように使われているのかを理解することも重要である。本講義では、情報化により、私たちの生活がどう変わったのか、また、どのようにビジネスに活用されているのかを、事例を通して考えていく。		
8. 学習目標	コンピュータやインターネットを活用することで、どんなビジネスが可能になったのかを理解して、情報社会で生きるための知識と考え方を身につけることが本講義の目標である。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習テーマごとの課題に対して、調べたり考えたりして内容をまとめる。また、プレゼンテーションの準備あるいはレポートの作成を行う。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】廣石良雄『情報と職業 第2版』エスシーシー、2018年。 【参考書】駒谷昇一、辰己丈夫 共著『情報と職業(改訂2版)』オーム社、2015年。 近藤勲編著『情報と職業』丸善、2002年。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業で扱う情報と職業に関する内容について理解しているか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章で、自分の考えを述べられるか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。] 1. 授業への積極的参加、受講態度 30% 2. 授業ごとに課されるレポートや課題 70%		
12. 受講生への メッセージ	普段から、積極的にコンピュータやインターネットを利用することを心がけて下さい。また、社会でのニュースにも関心を持つと良いです。それにより、講義内容の理解をより一層深めることができます。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション：講義内容の確認、履修者の知識と技術の確認、質問・相談	事前学習	ビジネスにおけるインターネット利用の利点について考える。
		事後学習	授業の中で出てきたキーワードを理解する。
第2回	コンピュータの歴史1 インターネット、インターフェース	事前学習	インターネットの仕組みを調べる。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第3回	コンピュータの歴史2 クラウド、Web	事前学習	クラウドコンピューティングの活用について考える。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第4回	情報産業の現状と将来1 ビジネスモデル	事前学習	ビジネスモデルの意味を調べ、その事例を調べる。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第5回	情報産業の現状と将来2 ビッグデータ	事前学習	ビッグデータとは何か調べ、その例を挙げる。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第6回	ITの業種1 情報に関わる資格	事前学習	IT人材に求められることは何かを考える。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第7回	ITの業種2 マルチメディア、コンテンツ制作	事前学習	マルチメディア系の職種について調べる。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第8回	情報モラル1 SNS、ツイッター	事前学習	SNSの使い方について、倫理の観点から考える。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第9回	情報モラル2 ハイテク犯罪、セキュリティ	事前学習	近年におけるハイテク犯罪の例を調べる。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第10回	情報モラル3 マルウェア、コンピュータウイルス	事前学習	マルウェアについて調べ、普段のパソコン利用における対応策について考える。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。

2020年度

第11回	情報産業における業務の把握	事前学習	あるソフトウェアを開発するために、どんな業務プロセスが必要となるのかを考える。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第12回	IT技術者の勤労観	事前学習	IT技術者の労働環境について調べ、自分の考えをまとめる。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第13回	総合演習1 教育における情報化	事前学習	教育現場における情報化について、ディスプレイなどの機器を例にあげて考える。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第14回	総合演習2 日常生活における情報化	事前学習	社会で話題となったインターネットに関わる事例を取り上げ、それに対する意見をまとめる。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。
第15回	総合演習3 情報化のこれから	事前学習	これからの社会におけるIT活用について考え、それに対する意見をまとめる。
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	神経・生理心理学/生理心理学 (2単位)		3. 科目番号	PSMP3335
2. 授業担当教員	末永 叔子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	生理心理学とは、生体の生理的反応と心的過程との対応関係について研究する分野である。心的反応によって生じる生理的变化は、脳内活動によって制御されている。本講義では脳の構造と働きについて体系的な知識を身につけるとともに、知覚、記憶、感情といった心的過程と脳の生理的反応の関係について学ぶ。さらに、精神疾患や高次脳機能障害との関連についても学び、「心」の問題と脳の活動について理解を深める。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と働きについて基本的な知識を身につける。 ・心的過程や精神疾患に脳がどのように関わっているのか学ぶ。 ・上記の応用として、臨床事例や高次脳機能障害と脳の活動について説明出来るようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	理解度確認のため、小テストを課します。事後学習を忘れずに行ってください。まとめとして、授業で学んだテーマのうち、一つを選んでレポートを作成します。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特に指定しない。 【参考書】 ピネル『バイオサイコロジー』西村書店。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と働きについて基本的な知識を身につけ、説明できること。 ・心的過程や精神疾患に脳がどのように関わっているかを理解し、説明できること。 ・臨床事例や高次脳機能障害と脳の活動の関係について説明できること。 ○評定の方法 授業への積極的参加度 10%、小テスト (3回) 70%、レポート課題 20%として総合的に評価を行う。			
12. 受講生へのメッセージ	本授業では、こころの働きを脳の神経活動の側面から理解することを目的としています。少し視点を変えて心理現象を見ることで自己理解、他者理解を深めることを期待します。なじみの無い専門用語がたくさん紹介されますが、ひとつひとつを確実に理解するよう努力しましょう。 学生の理解度、興味によってシラバスを変更することがあります。疑問点やわからないことがあれば、積極的に質問してください。			
13. オフィスアワー	授業内で周知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業ガイダンス：心理学の成立と生理心理学との関係	事前学習	シラバスをよく読み、これから学習する内容を把握する。	
		事後学習	配布資料を再読み、心理学の成立の過程を再確認する。	
第2回	脳、神経系のなりたち	事前学習	配布資料を読み、講義に備える。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、脳の全体的な構造を理解する。	
第3回	神経細胞の情報伝達 (1)：神経細胞の構造	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、神経細胞の各場所の名前と働きを理解する。	
第4回	神経細胞の情報伝達 (2)：情報伝達のメカニズム	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、脳内の情報の流れを理解する。	
第5回	ここまでのまとめ：小テスト1	事前学習	これまでの授業を振り返り、脳の構造と脳内の情報伝達の仕組みをまとめ、小テストに備える。	
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。	
第6回	生理心理学研究法	事前学習	事前に配布した資料に目を通し、講義に備える。	
		事後学習	配布資料を復習し、さまざまな脳の研究法の特徴と、それぞれの方法の違いを理解する。	
第7回	神経障害と生理心理学：統合失調症・感情障害・不安障害	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、精神障害の症状と脳内での生理的現象との関連を理解する。	
第8回	ここまでのまとめ：小テスト2	事前学習	これまでの授業を振り返り、内容をまとめる。	
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。	
第9回	認知・意識・注意の機構 (1)：脳が世界をつくる	事前学習	事前に配布した資料に目を通し、講義に備える。	
		事後学習	配布資料を復習し、私たちの感覚器官 (目や耳など) が知覚した世界を脳がどのように処理しているのかを理解する。	
第10回	認知・意識・注意の機構 (2)：妻を帽子と間違えた男	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、なぜ妻を帽子と間違えたのかを理解することを通して、私たちの世界の認識の仕方を学ぶ。	
第11回	学習・記憶・健忘 (1)：様々な原因で生じる健忘	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、健忘が生じる原因を理解する。	
第12回	学習・記憶・健忘 (2)：脳はどのようにして情報を蓄積するのか	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、学習や記憶の脳内メカニズムを理解する。	
第13回	感情・ストレスの生理心理学：感情の暗部である恐怖	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、なぜ私たちが恐怖を抱くのかを考察することを通じ、感情やストレスについての理解を深める。	
第14回	総括：小テスト3	事前学習	これまでの授業を振り返り、神経活動の仕組みと、心理現象との関連をまとめる。	
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。	
第15回	まとめ：脳の可能性	事前学習	これまでの授業で学んだことをふまえ、第7回から第13回の授業で学んだ心理現象のうち、自分が最も興味をもったテーマについて本や論文を探して、その内容をレポートにまとめる。	
		事後学習	授業を振り返り、脳と心理現象の関わりについて考察を深める。	

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2単位)	3. 科目番号	GELA1305 GEBS1105						
2. 授業担当教員	藤原 寿幸								
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、日本及び海外の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>								
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性について、積極的に授業に参加し、理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>								
9. アサイメント (宿題)及びレポート課題	<p>○授業の最後に小レポートを書いてもらい(小課題)、理解度の確認をする。</p> <p>○レポート課題は決められた期限までに提出すること。課題については授業時に提示する。</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】法務省・文部科学省編令和二年度版『人権教育・啓発白書』勝美印刷株式会社。講義レジュメや補助教材を授業時に適宜配布</p> <p>【参考書】 中野光・小笠毅編著『ハンドブック子どもの権利条約』岩波書店。</p>								
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権教育の意義及び基礎を理解しているか。 2. 人権問題の現状や解決・改善の取り組みについて自らの問題として理解を深めているか。 <p>○評定の方法</p> <p>グループでの活動、授業への積極的参加度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 グループでの活動</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 積極的態度(発言、討議、取り組み等)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3 レポート等(小課題、試験を含む)</td> <td>総合点の50%</td> </tr> </table> <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>			1 グループでの活動	総合点の30%	2 積極的態度(発言、討議、取り組み等)	総合点の20%	3 レポート等(小課題、試験を含む)	総合点の50%
1 グループでの活動	総合点の30%								
2 積極的態度(発言、討議、取り組み等)	総合点の20%								
3 レポート等(小課題、試験を含む)	総合点の50%								
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目で目指す「人間尊重の精神の涵養」は、人間性育成の根幹にかかわるものです。人間尊重の精神を涵養し人権感覚を磨くことは大学を卒業する学生の皆さんが、人間として身に付けるべき最も基本的な教養であり品格です。このことを踏まえて、以下の事柄を守るようお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループや全体の話し合いに積極的に参加し、人権についての考え方を深められるようにすること。 ・新聞記事によく目を通し、日常的に人権問題に関する世の中の動きをつかんでおくこと。又、国際人権規約、日本国憲法、子どもの人権条約等にも目を通しておいってください。 								
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション 「人権」とは何か 学習内容 学習予定表 授業形態の説明	事前学習	アムネスティ・インターナショナルのHPから「世界人権宣言」を読んでおく。						
		事後学習	オリエンテーションの内容を振り返り、学習の仕方を理解する。						
第2回	ジェンダーと人権	事前学習	第1章2節「1女性」を通読してくる。						
		事後学習	第1章2節「1女性」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。						
第3回	子どもと人権	事前学習	第1章2節「2子ども」を通読してくる。						
		事後学習	第1章2節「2子ども」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。						
第4回	高齢者と人権	事前学習	第1章2節「3高齢者」を通読してくる。						
		事後学習	第1章2節「3高齢者」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。						
第5回	障害のある人と人権	事前学習	第1章2節「4障害のある人」を通読してくる。						

		事後学習	第1章2節「4 障害のある人」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第6回	同和問題	事前学習	第1章2節「5 同和問題」を通読してくる。
		事後学習	第1章2節「5 同和問題」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第7回	アイヌの人々と人権	事前学習	第1章2節「6 アイヌの人々」を通読してくる。
		事後学習	第1章2節「6 アイヌの人々」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第8回	外国人と人権	事前学習	第1章2節「7 外国人」を通読してくる。
		事後学習	第1章2節「7 外国人」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第9回	HIV感染者・ハンセン病患者と人権	事前学習	第1章2節「8HIV感染者・ハンセン病患者等」を通読してくる。
		事後学習	第1章2節「8HIV感染者・ハンセン病患者等」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第10回	刑を終えて出所した人や犯罪被害者と人権	事前学習	第1章2節「9 刑を終えて出所した人」「10 犯罪被害者等」を通読してくる。
		事後学習	第1章2節の「9 刑を終えて出所した人」「10 犯罪被害者等」重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第11回	インターネットと人権	事前学習	第1章2節「11 インターネットによる人権侵害」を通読してくる。
		事後学習	第1章2節「11 インターネットによる人権侵害」の重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第12回	様々な人権課題	事前学習	第1章2節「12 北朝鮮当局によって拉致された被害者等」「13 その他の人権課題」を通読してくる。
		事後学習	第1章2節の「12 北朝鮮当局によって拉致された被害者等」「13 その他の人権課題」重要点をまとめ、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第13回	自己の人権課題は何かをまとめる	事前学習	ここまでの学びを整理し、自己の人権課題についてまとめておく。
		事後学習	自己の人権課題をレポートにまとめる。
第14回	自己の人権課題についてのレポートを交流し、ここまでの学びをまとめる	事前学習	人権課題に関する自分のレポートを推敲しておく。
		事後学習	レポートを交流した感想をまとめておく。
第15回	幸福追求権 人権教育論まとめ 幸福とは何か。幸福感とは千差万別であり、自分の幸福を追求しながら生きていくこと	事前学習	幸福とは何か。「幸福追求権」について調べておく。
		事後学習	自己の人権課題は何かをまとめ、これからの生活に生かしていく方策を考える。

1. 科目名 (単位数)	身体構造と機能Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SNMP2117
2. 授業担当教員	山下 喜代美	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義 演習		
6. 履修条件・他科目との関係	「身体構造と機能Ⅰ」の単位を修得していること		
7. 講義概要	<p>「身体構造と機能Ⅰ」で学んだことをもとに、授業を展開する。こころとからだの機能の低下が及ぼす日常生活行動への影響を学び、さらに日常生活行動の能力が低下した時のこころとからだへの影響について授業を展開する。また、異常の早期発見や緊急時の対処方法、医療職との連携について学んでいく。</p> <p>この科目を履修することで、利用者の現在の状態の原因がわかり、またこのままの状態が続いた時の予測される弊害等について理解することができる。利用者をアセスメントする上で、必要な知識となる。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について理解し、援助が行えるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身支度に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 2. 日常生活の活動に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 3. 食事に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 4. 入浴・清潔保持に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 5. 排泄に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 6. 睡眠に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 7. コミュニケーションに関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 8. 死にゆく人のこころとからだの変化を理解する。 9. 看取りに関する家族、医療職との連携について理解する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1. 「フレイルの指標とエンドオブライフ・ケア」について(レポート1200字にまとめる)</p> <p>※ 毎回しっかり復習し、筆記試験に臨んでください</p>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の変化や機能低下による生活行動への影響を理解できたか 2. 生活行動の能力低下によるこころと身体への影響を理解できたか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、授業で行う豆テスト、期末試験を総合的に評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の10% 2 豆テスト 総合点の10% 3 期末試験 総合点の80% <p>知識の定着が必要な科目であるため、期末試験に重点を置く。またそのことで知識を身に付ける必要性を認識させ、学ぶ意欲を高めていく。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。</p> <p>わからないところは、積極的に質問してください。</p> <p>身体構造と機能Ⅰの関連箇所を復習しながら、毎回の授業に臨んでください。</p> <p>また授業内容を理解し、復習をして筆記試験や期末試験に臨んでください</p>		
13. オフィスアワー	時間割確定後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業概要の説明 ICF の概念図と本科目の関連について	事前学習	身体構造と機能Ⅰを復習しておく
		事後学習	身体構造 心身機能を整理する
第2回	こころとからだの機能低下が及ぼす身支度への影響について 身支度を阻害する因子について学習する	事前学習	身体構造と機能Ⅰ 身支度を復習
		事後学習	プリントを復習する
第3回	身支度の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 豆テスト①	事前学習	身支度の意義を復習する
		事後学習	観察のポイントを見直す
第4回	こころとからだの機能低下が及ぼす日常生活の活動への影響について 活動を阻害する因子について学習する 豆テスト②	事前学習	身体構造と機能Ⅰ 活動を復習
		事後学習	プリントを復習する
第5回	日常生活の活動の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 豆テスト③	事前学習	活動の意義を復習する
		事後学習	観察のポイントを見直す
第6回	こころとからだの機能低下が及ぼす食事への影響について 食事を阻害する因子について学習する。 豆テスト④	事前学習	身体構造と機能Ⅰ 食事を復習
		事後学習	プリントを復習する
第7回	食事の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 豆テスト⑤	事前学習	食事の意義を復習する
		事後学習	観察のポイントを見直す
第8回	こころとからだの機能低下が及ぼす入浴・清潔保持への影響について 入浴・清潔保持を阻害する因子について学習する 豆テスト⑥	事前学習	身体構造と機能Ⅰ 入浴・清潔を復習
		事後学習	プリントを復習する

第 9 回	入浴・清潔保持の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 豆テスト⑦	事前学習	入浴の意義を復習する
		事後学習	観察のポイントを見直す
第 10 回	こころとからだの機能低下が及ぼす排泄への影響について 排泄を阻害する因子について学習する 豆テスト⑧	事前学習	身体構造と機能 I 排泄を復習
		事後学習	プリントを復習する
第 11 回	排泄の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 豆テスト⑨	事前学習	排泄の意義を復習する
		事後学習	観察のポイントを見直す
第 12 回	こころとからだの機能低下が及ぼす睡眠への影響について 睡眠の低下が及ぼすこころとからだへの影響について 豆テスト⑩	事前学習	損体構造と機能 I 睡眠を復習
		事後学習	プリントを復習する
第 13 回	こころとからだの機能低下が及ぼすコミュニケーションへの影響について コミュニケーション能力の低下が及ぼすこころとからだへの影響について	事前学習	身体構造と機能 I コミュニケーションを復習
		事後学習	プリントを復習する
第 14 回	死にゆく人のこころとからだの変化について 看取りに関する家族、医療職との連携について	事前学習	テキスト pp. 264～269 を読み、死のとらえ方を考えておく
		事後学習	プリントを復習する
第 15 回	食べられなくなったらどうしますか？ ディスカッション	事前学習	テーマについて自分の考えをまとめておく
		事後学習	ディスカッションを踏まえ、自分の考えをまとめる
期末試験			

01. 科目名(単位数)	人体の構造と機能及び疾病/医学概論 (2単位)	3. 科目番号	GELA1112 GELA1333 GELA1312
2. 授業担当教員	大島一成		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	原則として、「解剖生理学」履修後、または履修中であること。		
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質(QOL)を豊かにする保健・医療・福祉・心理のあり方についても学び、福祉専門職者・心理専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について理解できるようになる。 3. リハビリテーションの概要について理解し、説明できるようになる。 4. 生活習慣病とその予防につき、健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	新聞等のマスメディアに出てきた疾患に関するニュースの中からグループで興味を持ったものをひとつ選び、福祉、養護、保健、保育、心理などのそれぞれの立場から、支援をどう構築すればよいか検討を加える(発表およびレポート)。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病-医学一般』中央法規。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造を自分の体と日常生活に照らし合わせてできるようになったか。 2. 生活習慣病の理解と予防を考察できるようになったか。 3. 少子高齢社会におけるリハビリテーションを理解し、必要性を説明できるようになったか。 4. 厚労省が推進の高齢者のQOLの基本的な考えを理解できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度や学習状況、レポート、期末テスト等を総合して評価する。授業への参加度30%、レポート30%、期末テスト20%、発表能力20%]</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>少子高齢社会において、養護、保健、福祉専門職者は無論のこと、また教育、保育や臨床心理専門職者においても、保健・医療専門職者等と連携して地域社会の人々が健康で質の高い豊かな生活を送れるように支援することが求められます。そのためには、健康をむしばみ、生活の質を低下させる病気、特に生活習慣病・メタボリックシンドローム、高齢者特有の疾患及び精神疾患などの知識を自ら学ぶことが必要です。メディアが報じるニュースの中でも日常的に取り上げられているので、将来の専門職者の立場からの問題を自ら発見し、自ら解決する目で見ようにしましょう。</p> <p>現場にあっては、ヘルスケアプロフェッショナルチームの一員としての能力を開発する練習を授業でのグループディスカッション及びレポート作成・発表を通して出来る様にしましょう。又、ターミナルケアや健康寿命と介護予防の問題にも目を向けられるようになりましょう。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業で通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 人の身体と精神の成長・発達及び老化	事前学習	学習ノートを準備し、シラバスを熟読してくる。
		事後学習	教科書の人の身体と精神の成長・発達を身体と精神に分けてノートにまとめる。
第2回	人体部位の名称と各臓器の構造及び機能	事前学習	人体部位と骨の名称をノートに記載しておく。
		事後学習	心臓、腎臓、呼吸器、大脳をノートに図示し、それぞれの機能を5行以内で記載する。
第3回	疾病の概要 脳血管循環器系統	事前学習	教科書の生活習慣病とその予防をノートにまとめておく。
		事後学習	教科書の悪性腫瘍、脳血管障害、心疾患、高血圧について、各5行でまとめ発表出来る様にしておく
第4回	内分泌系、呼吸器系統	事前学習	内分泌とは？ノートに調べておく。
		事後学習	糖尿病と慢性閉塞性肺疾患との類似点について、400字にまとめて提出。
第5回	消化器系統、腎・尿路系統	事前学習	逆流性食道炎、肝硬変、膠原病を教科書で調べて、

			ノートに記載しておく。
		事後学習	教科書の腎不全、排尿障害、尿路感染症、前立腺障害の要点をノートに各5行でまとめる。
第6回	骨、関節及び感覚器の疾患系統	事前学習	易骨折性について調べノートに記載しておく。
		事後学習	関節リウマチと変形性膝関節症の違いを、関節のイラストを加えて1200字にまとめて提出。
第7回	感染症、神経疾患と難病	事前学習	感染症のうち、特に結核について、歴史的な発症経過を踏まえて調べ、発表する。
		事後学習	教科書の介護保険の特定疾病について、難病との関係についても言及して、まとめる。
第8回	先天性疾患、高齢者に多い疾患	事前学習	教科書の先天性疾患を一つノートにまとめておく。
		事後学習	高齢者に多い疾患の特徴を発表できる
第9回	障害概要 1. 視覚・聴覚・平衡機能障害、肢体不自由障害 2. 内部・知的・発達障害	事前学習	障害と疾病の違いはあるか？ ノートに要点を書いておく。
		事後学習	知的障害と発達障害について、400字にまとめて提出。
第10回	認知症、高次機能障害、精神障害	事前学習	認知症の人にあったことはありますか。症状をノートにまとめておきましょう。
		事後学習	教科書を読み、高次脳機能障害について5行以内にまとめておきましょう
第11回	リハビリテーションとは、対象の疾病と障害、担当専門職種	事前学習	リハビリテーションの対象となる疾病や障害をロールプレイで演じることが出来る様にしておく
		事後学習	リハビリテーションにおける専門職やチームアプローチをノートにまとめる。
第12回	国際生活機能分類の考え方；環境因子と個人因子、健康とは？ 日本人の健康、職業との関係	事前学習	教科書の国際生活機能分類の考え方をノートにまとめておく。
		事後学習	あなたにとっての健康の概念を400字にまとめて提出。
第13回	課題調査の発表会	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う。資料の精査及び発表手順の確認。
		事後学習	各グループの発表についての評価を400字にまとめて提出。
第14回	課題調査の発表会	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う。資料の精査及び発表手順の確認。
		事後学習	各グループの発表についての評価を400字にまとめて提出。
第15回	総合まとめ	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察から期末試験用の予備問題を作成する。
		事後学習	期末試験の予備問題を解く

期末試験

1. 科目名 (単位数)	心理演習 (2単位)	3. 科目番号	PSMP3355
2. 授業担当教員	新井 雅人・武内 智弥・野口 理英子		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学概論、心理学的支援法(基礎、演習)、精神疾患とその治療、心理的アセスメント、関係行政論のすべてを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>本科目は、公認心理師国家試験受験資格の要件となる心理実習を行うための準備として、具体的場面を想定した心理支援に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。そのために、次の(ア)から(オ)について、基本的な知識を修得し、また具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)、事例検討を行う。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
8. 学習目標	<p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能を修得する (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握について基本的な知識を修得し、支援の計画の作成について架空事例の検討を通して学ぶ。 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解する。 (エ) 多職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解ができる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 傾聴は重要なものである。それを阻害する要因について述べよ。 認知行動療法による支援について、ロールプレイした内容とその語について方向性について考察せよ。 公認心理士のあり方について倫理の立場からまとめよ。 心理専門職を目指す動機について振り返ってまとめよ。 対人関係上の得意なところをどのように伸ばすか、苦手なところをどのように補完するか、それぞれについてまとめよ。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 指定なし 【参考書】 福山 清蔵 著『入門カウンセリング ワークブック』日本・精神技術研究所</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学習目標にあげた(ア)～(オ)の5項目について、基本的な知識の修得、ならびにロールプレイングや事例検討への積極的な参加を評価する。 ○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢 50%、課題レポート 50%で判断する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	本教科は体験的に実際に身につけるところにその意味がある。従って、知的学習とは異なった受講態度が求められる。すなわち積極的なかわりである。他者の姿も見ながら学ぶこと。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理支援とは何か。 障害除去のアプローチと内面アプローチの観点	事前学習	心理支援の目指すものについて復習しておく
		事後学習	感情的混乱とこだわりの処理の仕方について検討し、実際に確かめてみる
第2回	コミュニケーション①傾聴 話を正しく聴き取る→事実・感情・価値観 情動に耳を傾ける 非言語的コミュニケーション	事前学習	カウンセリングにおける傾聴についてこれまで学んだことを見直しておく
		事後学習	5つの技法について確認し、実生活でその効果を確かめてみる
第3回	コミュニケーション②アサーション DESC アイメッセージ 非言語的メッセージ	事前学習	自分のコミュニケーションについてその特徴について考えておく。
		事後学習	難しい問題についてDESCの考え方で表現し、その結果を見直してみる。
第4回	心理アセスメント①心理検査の実施 行動観察を含む心理アセスメント 正しく記録して、総合的な解釈をする	事前学習	自分でできる心理テストとなかなかできないものを選んでおく。
		事後学習	YGをやってみて自分の特徴を知ってみる。
第5回	心理アセスメント②心理検査結果の伝え方 心理アセスメントのフィードバックについて 本人並びに関係者にわかりやすい説明	事前学習	他者への説明の仕方について復習しておく。
		事後学習	5因子性格検査の結果を他者に説明してみ、気持ちよく聞けたか確かめてみる。
第6回	心理面接①認知行動療法の実施	事前学習	なぜ今の時代は認知行動療法が使われることが多

	ロールプレイにて学ぶ 録音する、逐語をつくる		いのか、調べておく。
		事後学習	友人相手にストレスと心の4つの面との関係について確認してみる。
第7回	心理面接②認知行動療法の振り返り いくつかの注意点を上げたワーク	事前学習	実際に自分がやった認知行動療法についてみなおしておく。
		事後学習	授業の中で指摘されたことをもう一度やってみる
第8回	地域支援 いじめの事件を取り上げ、問題点を検討する	事前学習	いじめの歴史的な変遷について調べておく。
		事後学習	事例についてもっと詳しく学んでみる。
第9回	クライアントの理解と支援計画 DSM-5を学ぶ	事前学習	DSM-5を読んでみる。
		事後学習	統合失調症とウツについて DSM-5 の見解を確認してみる。
第10回	医師との連携（医師の指示に関する法的義務の実際）	事前学習	心理師の役割と医師の役割の違いについて整理しておく
		事後学習	精神医学の言語や連携の取り方について復習し、まとめる
第11回	チームアプローチ① 産業・労働におけるメンタルヘルスを検討する	事前学習	産業界での今のメンタルヘルスの実体について考えておく。
		事後学習	メンタルヘルスを健全にする職場になるためには、どのような対策が必要か考えてみる。
第12回	チームアプローチ② 復職支援や従業員支援プログラムにおける公認心理師の役割	事前学習	復職支援や従業員支援プログラムとはどのようなものか調べておく。
		事後学習	産業界での公認心理師の役割について復習しておく。
第13回	他職種連携及び地域連携 学校と児童相談所、地域との関係を考える	事前学習	他職種と共働していく必要があるとはどういうことか考えておく。
		事後学習	連携がうまくいくための条件について考えてみる
第14回	職業倫理及び法的義務への理解 インフォームドコンセント・人権擁護・守秘義務など。 倫理ジレンマの乗り越え方を考える	事前学習	公認心理師が留意すべきことは何か、考えておく。
		事後学習	倫理ジレンマにはどのようなものがあるか、更に考えてみる。
第15回	改めて心理的な支援のあり方を振り返る 学んだことのチェックをする	事前学習	これまでに学んだことを全体として見直しておく。
		事後学習	アセスメントが正しくでき、心理面接がうまくいっても改善されない時には、どういうことを考えたらよいか、考察してみる。

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2単位)	3. 科目番号	GELA1111
2. 授業担当教員	岡本 香		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」を履修済みであること。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学び、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。また、心理学の基礎理論の理解を通して、心理学的思考方法の習得を促す。		
8. 学習目標	1. 科学としての心理学の基本的な考え方を身につける。 2. 心理学の成り立ちを理解したうえで心理学の主要な分野における代表的な研究知見に基づいた人の心の基本的な仕組み及び働きについて説明できるようになる。 3. 心理学の考え方や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 4. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	教科書の該当箇所を事前に読んでくることをアサインメントとします。また授業内で行う課題について、時間内に終わらなかった場合は、その課題をアサインメントとします。 小テストおよびレポート試験については、第7回、第14回の授業時に提示するテーマに関して、調べ学習した成果をまとめることとします。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 松原達哉 (編) 『臨床心理学シリーズ①心理学概論』培風館。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し説明することができる。 2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎となる人の心の基本的な仕組み及び働きについて説明できる。 3. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができる。 ○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4 以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度 (授業への積極的参加) 30%、試験(小テスト等を含む)70%として算出した合計得点により成績評価を行う。		
12. 受講生へのメッセージ	15回という限られた講義期間の中で、幅広い領域について触れることになるため、毎回の講義は、密度の濃いものになります。したがって、不用意な欠席、遅刻、早退、私語、居眠り等があると、授業内容の理解が困難になることが予想されます。そのような態度の学生については、授業態度点において減点します。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	導入：心理学とは何か、心理学の歴史	事前学習	教科書第1章を読み、心理学の歴史を復習すること
		事後学習	心理学とはについての配付資料を読み復習すること
第2回	心の仕組み1：認知心理学1 知覚	事前学習	教科書第2章を読むこと
		事後学習	心の仕組み1についての配付資料を読んで復習すること
第3回	心の仕組み2：認知心理学2 記憶	事前学習	教科書第3章を読むこと
		事後学習	心の仕組み2についての配付資料を読んで復習すること
第4回	心の仕組み3：認知心理学3 思考	事前学習	教科書第4章を読むこと
		事後学習	心の仕組み3についての配付資料を読んで復習すること
第5回	心の仕組み4：発達心理学	事前学習	教科書第9章を読むこと
		事後学習	心の仕組み4についての配付資料を読んで復習すること
第6回	心の仕組み5：社会心理学1 対人関係	事前学習	教科書第11章第1節第2節を読むこと
		事後学習	心の仕組み5についての配付資料を読んで復習すること
第7回	心の仕組み6：社会心理学2 集団	事前学習	教科書第11章第3節を読むこと
		事後学習	心の仕組み6についての配付資料を読んで復習すること
第8回	心の仕組み7：こころの仕組みまとめ	事前学習	教科書第1章から第4章と第9章、第11章と配布資料を読み直して復習すること
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること
第9回	心の問題を紐解く1：人格心理学	事前学習	教科書第10章を読むこと
		事後学習	心の問題を紐解く1の配付資料を読んで復習すること

第10回	心の問題を紐解く2：学習心理学	事前学習	教科書第5章を読むこと
		事後学習	心の問題を紐解く2の配付資料を読んで復習すること
第11回	心のケアと支援1：臨床心理学1 心のケアとは	事前学習	心のケアと支援1の配付資料を読むこと
		事後学習	心のケアと支援1の配付資料を読んで復習すること
第12回	心のケアと支援2：臨床心理学2 心理療法	事前学習	心のケアと支援2の配付資料を読むこと
		事後学習	心のケアと支援2の配付資料を読んで復習すること
第13回	心のケアと支援3：健康心理学	事前学習	教科書第8章を読むこと
		事後学習	心のケアと支援3の配付資料を読んで復習すること
第14回	心理学の応用	事前学習	教科書第12章を読むこと
		事後学習	心理学の応用の配付資料を読んで復習すること
第15回	総括	事前学習	教科書第5章、第10章、第12章と配布資料を読み直して復習すること
		事後学習	総括の配付資料を読んで復習すること

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2単位)	3. 科目番号	GELA1332 GELA1311
2. 授業担当教員	後藤 進吾		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	教育学部生は、先に「心理学入門」を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。 本科目は、心理学という学問の歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学ぶことを通して、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識、心理学的視点を身につける。 3. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 4. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 5. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各講義ごとに、講義のまとめや小レポートを提出する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】坂上裕子・繁樹江里・薬師神玲子ほか『大学1・2年生のためのすぐわかる心理学』東京図書 【参考書】必要に応じて、適宜紹介する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し説明することができる 2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識と心理学的視点を身につける 3. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができる <p>○評定の方法</p> <p>学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度(授業への積極的参加、授業のまとめ等のアサインメント)50%、試験(小テスト等を含む)50%として算出した合計得点により成績評価を行う。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>日常に散らばっているさまざまな事柄を心理学的な観点から考えます。講義を通して、心理学的な思考力と日常のさまざまなことがらに目を向けられるようになることを目指します。</p> <p>講義内での注意事項や禁止事項に関しては、講義にてお伝えします。</p>		
13. オフィスアワー	授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理学とは？：概要／諸領域／研究法	事前学習	テキストの準備
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」の作成
第2回	心理学史	事前学習	テキスト pp. 2 ~ 13 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第3回	認知心理学：知覚	事前学習	テキスト pp. 16 ~ 25 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第4回	認知心理学：記憶	事前学習	テキスト pp. 26 ~ 33 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第5回	認知心理学：思考と意識	事前学習	テキスト pp. 34 ~ 45 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第6回	ここまでの学習のまとめと小テスト	事前学習	テキストの学習内容を再読する
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第7回	発達心理学：「生涯発達」という考え方について	事前学習	テキスト pp. 48 ~ 51 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第8回	発達心理学：発達段階と発達課題	事前学習	テキスト pp. 52 ~ 55 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第9回	発達心理学：発達障害とは？	事前学習	テキスト pp. 70 ~ 71 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第10回	社会心理学：自己認知と他者認知	事前学習	テキスト pp. 84 ~ 87, pp. 94 ~ 97 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第11回	社会心理学：集団や社会との関わり	事前学習	テキスト pp. 106 ~ 113 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第12回	ここまでの学習のまとめと小テスト	事前学習	テキストの学習内容を再読する
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第13回	臨床心理学：成り立ちと考え方	事前学習	テキスト pp. 116 ~ 121 を読む

		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第14回	臨床心理学：それぞれの発達段階における心の危機	事前学習	テキスト pp.122 ~ 128 を読む
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成
第15回	ここまでの学習のまとめと小テスト	事前学習	テキストの学習内容を再読する
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法演習 I (2単位)	3. 科目番号	PSMP3370
2. 授業担当教員	石川 清子、岡本 香、加藤 宏一、新井 雅人、齋藤 瞳、 武内 智弥、野口 理英子、鈴木 克也、他 *指導教員を一人選び、論文作成のための指導を受ける授業です		
4. 授業形態	演習 (一部講義)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	心理学の基礎・応用分野における講義にて学習した内容を踏まえながら、心理学における主要文献の講読を行うとともに、文献内における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身につける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どの様な心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。演習形式により、最終的には、心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解する。		
8. 学習目標	研究論文を作成するための文献研究を中心に学習し、自らの課題を発見し、研究計画を立てる。詳細については、担当教員が授業の中で提示する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	担当教員が授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	担当教員が授業の中で提示する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 研究論文を作成するための文献研究ができる 2. 文献研究の結果を元に、研究テーマを発見することができる 3. 研究計画を立てることができる ○評定の方法 学則で決められた単位取得の条件を満たしていること(3/4以上の出席)を前提として、担当教員の課した課題(先行研究レビューのレポート、卒業論文のための研究計画書等)の提出(100%)をもって成績を評価する。		
12. 受講生への メッセージ	担当教員が授業の中で提示する。		
13. オフィスアワー	担当教員が授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
担当教員	授業内容		
石川 清子	<p>【授業概要】子どもを取り巻く環境に視野を向けた研究論文を丁寧に検証していく。従い、心理学における主要文献の講読を行うとともに、文献内容における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身につける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どのような心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。基本的には演習形式により心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解することを目指し、心理学研究法の新しいかたちとは何かを学習する。</p> <p>【研究領域】学校臨床心理学・自己価値・本来性・家族心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 日常生活の環境の中から、当たり前のように疑問を持てるような感覚を大切にしていきたいと思えます。自己や他者の内面的な心の動きに耳を傾け、見つめる研究に興味のある人、量的研究のみならず質的研究に強い関心がある人に、参加していただきたいと思えます。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回講義にてお知らせします。</p>		
齋藤 瞳	<p>【授業概要】心身医学や臨床心理学に関連した学術論文を講読し討論を行うことにより、研究論文の読み方、研究デザイン、研究方法に関する基礎知識を得る。その中で、自らの関心を絞り、学術的に新しい知見をもつオリジナルな論文作成を目指し、研究計画の立案を行う。</p> <p>【研究領域】心身医学、臨床心理学</p> <p>【受講生へのメッセージ】研究をする上で重要となる客観性や論理性は、日常生活における問題解決能力や自己管理能力につながります。授業で学んだことを日常生活にも応用し役立てることを目指しましょう。</p> <p>【オフィスアワー】 初回授業でお知らせします。</p>		
加藤 宏一	<p>【授業目的】認知心理学または学習心理学の研究領域について学習します。また、こうした領域で実際に研究を行うために必要な実験心理学的手法やデータ分析法について学びます。</p> <p>【授業方法】認知心理学または学習心理学の様々な研究領域の中から興味のある書籍や論文を読み、レジюме(要約)を作成してもらいます。また、周囲の人々を対象に簡単な実験を行い、演習を通して、研究計画の設定、データ解析、小レポート作成などを体験します。</p> <p>【授業目標】研究計画の設定。文献購読を通して発見した課題を、実験的手法を用いて検証するための研究計画書の作成を目標とします。</p> <p>【研究領域】認知心理学または学習心理学の領域における実験的手法を用いた研究。(私自身は、感情と記憶、記憶の符号化(覚えること)と検索(思い出すこと)のメカニズム、メタ認知、忘却などのテーマに特に興味を持っています。)</p> <p>【受講者へのメッセージ】まずは、いろいろな文献を読み、興味を持てるテーマを発見してください。そして、授業外でも自ら積極的に学習し、研究の楽しさ・難しさを知ってもらいたいと思えます。文献購読に</p>		

	<p>基づいて設定した仮説を客観的データによって検証するという科学的研究の一連の流れを理解すること、卒業研究に必要なスキルを獲得することを目指します。</p> <p>【オフィスアワー】 授業にて通知する。</p>
岡本 香	<p>【授業目的】 社会心理学領域の研究について学ぶことを目的とします。具体的には、社会心理学の研究領域の中で受講生の興味のあるテーマに関する専門書および論文を講読することを通して、社会心理学の研究に必要な基礎知識と研究方法を学びます。</p> <p>【授業方法】 毎回、受講生の興味のあるテーマに関する専門書および論文（以下、文献とする）について、受講生自ら検索した文献を熟読し、その内容をレジュメにまとめます。また、授業時に、先にまとめたレジュメをもとに、読んだ文献の内容について発表をし、他のゼミ生と議論することで、テーマに関する理解を深めます。</p> <p>【授業目標】 受講生自身の研究テーマを決定し、研究計画書を作成することを目指します。</p> <p>【研究領域】 社会心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 授業に参加する前に、あらかじめ社会心理学の教科書等を読んだり、周囲の人々を観察したりして、自分の気になるテーマについて目途をつけておいてください。ここでいう“目途”とは、「この領域の研究に興味がある」、「この理論について気になった」、「日常にみられるこの行動に違和感を感じる」というようなもので構いません。なお、研究を進めるのは受講生自身です。教員に教えてもらうことを待つ姿勢ではなく、自らが積極的に学ぶ姿勢で研究に取り組むことを求めます。</p> <p>【オフィスアワー】 第1回の授業内にて通知します。</p>
新井 雅人	<p>【授業概要】 各自が興味のあるテーマを持ち寄り、それが臨床心理学の研究分野においてどのように扱われているのか、論文検索とブレインストーミングを通して探っていきます。まったく新しい発想でも構いませんが、おそらくは先人が近い内容を研究していると思います。キーワードと論文が見つければ、それを手がかりに、自分自身の卒業研究を組み立てていきます。私のところでは、臨床心理学のテーマを扱った実験研究をして欲しいと思っています。臨床のテーマをどのように実験研究に落とし込むかについては、一緒に話し合っていきます。</p> <p>【研究領域】 臨床心理学（イメージ体験や、発話語彙の研究）</p> <p>【受講者へのメッセージ】 実験法の魅力は、本人が意識していない自分がデータとして測定できる可能性があることです。卒業研究をするからには、その特定の領域には自分が一番詳しくなる！というくらいの気持ちでいきましょう。それぞれの進度に合わせてサポートしていくつもりです。</p> <p>【オフィスアワー】 授業にて通知します。</p>
武内 智弥	<p>【授業概要】 自分の気になっているテーマの学術論文を探し、まとめて、それについて発表をする演習形式の授業です。その際には、論文を要約するだけでなく、その研究の特徴や問題点なども合わせて検討することで、卒業論文作成のための先行研究を概観すると共に心理学における研究法を学びます。他のメンバーとのディスカッションも行いますので、それも理解を深めることに役立つと思います。</p> <p>【研究領域】 心理臨床学、臨床動作学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 科学的な視点や態度、また多くの情報を理解しまとめることは、研究を行うためだけのものではなく、心理臨床という実践にも必須なものだと思います。いろいろな論文を読んでこれらを鍛えましょう。またそれでも自分で選ぶものだけでは偏るので、他の人の発表も聞きながら、広く学びましょう。心理学研究法演習 II のシラバスも読んでおいてください。</p> <p>【オフィスアワー】 初回の授業にてお知らせします</p>
野口 理英子	<p>【授業概要】 臨床心理学の研究について学びます。具体的には、各自が選んだテーマに関する専門書や学術論文を読み、まとめ、発表します。発表と討議を中心に進め、卒業研究のテーマを絞り、研究計画書を作成します。</p> <p>【研究領域】 臨床心理学、認知行動療法</p> <p>【受講者へのメッセージ】 これまでに受講してきた授業で触れたこと、日常生活で経験したことなどから、関心のあることをみつけて下さい。そのテーマについて論理的に考え、分析し、まとめていくことが目標です。</p> <p>【オフィスアワー】 別途通知します。</p>
鈴木 克也	<p>【授業概要】 受講生が興味を持っている領域の専門書や研究論文をまとめて発表していくかたちで授業を進めます。専門書や研究論文をじっくり読む体験を通じて、自分が専門にしたい領域の知識や研究方法が少しずつ自分のなかに蓄積されていくことを実感していただきたいと考えています。</p> <p>【研究領域】 臨床心理学、保育施設における保護者支援</p> <p>【受講者へのメッセージ】 卒業研究に取り組むためには、自ら進んで学ぶことが必要になります。それは決して楽なことではありませんが、とても大切なことです。「心理学研究法演習 I」を通じて、その第一歩を踏み出していただきたいと思っています。</p> <p>【オフィスアワー】 別途連絡します。</p>

1. 科目名 (単位数)	心理学実験／心理学基礎実験 (4単位)	3. 科目番号	PSMP2121
2. 授業担当教員	新井 雅人・岡本 香・加藤 宏一		
4. 授業形態	講義・実習(グループ活動)・演習(グループ活動)・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	統計学ならびに心理統計法を履修済みであることが望ましい		
7. 講義概要	心理学を研究するための基礎となる各手法をとり上げ、生理、記憶、学習、認知、人格、社会等、心理学の主要な分野の知識を身につけながら、それらの知識や考え方に基づく科学的レポートの書き方を学ぶ。実験等の体験を通して、心理学の理論を机上に終わらせることなく、身近なものとして体得することができる。 なお本科目は認定心理士の資格科目であり、受講生は規定数以上の実験等に参加し、レポートを提出することが義務付けられている。		
8. 学習目標	1. 実験等の演習を通して、心理学を含む社会科学全般に必要な不可欠である各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し、身につける。 2. 実験等の演習によって、実験や調査の計画立案の仕方を理解する。 3. 実験等の演習によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理することができるようになる。 4. 目的、方法、結果、考察から成る心理学研究レポートの記述の仕方を習得し、心理学的事象について、統計処理の結果を用いて、説明、解釈できるようになる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. 授業時間外に、実験テーマに関する資料を探す、データを収集するなどの活動が必要となる。 2. 全ての実験(含む心理検査)それぞれの終了時にレポート作成が求められる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 指定の教科書はないが、教材として実験材料の購入が求められる。授業内で指示する。 【参考書】 B. フィンドレイ『心理学 実験・研究レポートの書き方』北大路書房。 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。 岸学(著)『SPSSによるやさしい統計学』オーム社。 石村貞夫(著)『SPSSによる分散分析と多重比較の手順』東京図書。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 実験等の演習を通して、各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し身につけていること 2. 実験等の演習によって、実験や調査の計画立案の仕方を理解していること 3. 実験等の演習によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理できること 4. 目的、方法、結果、考察から成る標準的な心理学研究レポートの記述の仕方を習得していること ○成績評価の評定方法 学則で決められた単位取得の条件を満たしていること(3/4以上の出席)を前提として、授業態度(授業およびグループ発表への積極的参加)30%、課題レポート70%として算出した合計得点により成績評価を行う。		
12. 受講生へのメッセージ	「心」は誰もが持っているものですが、客観的に「心」について考えることは意外と少ないものです。本授業を通して身近な「心」を「心理学」という視点で捉え直してみましょ。また、この授業は受講者自らが主体的に考えること、さらに考えたことを適切に記述し、伝える訓練でもあります。授業中はもちろんのこと、授業外でも疑問に思ったことは進んで質問してください。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、また積極的な態度で参加することが求められる。 2. 授業中は、私語、居眠りは絶対にしないこと。 3. 授業のための準備を欠かさずする。本授業では授業時間外の活動が必須となる。 4. 理解できないことがあれば、授業中、授業外(オフィスアワー等)に自ら進んで教員に質問する。 5. レポートの提出期限を厳守する。レポートの提出期限が守られない場合は、正当な理由がない限り、1日につき1点ずつ減点される。 6. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず書面をもって教員に報告する。 7. 授業中の携帯電話の作動は厳禁とする。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	岡本担当①：イントロダクション	事前学習	心理統計法のおさらい
		事後学習	実験法、観察法、調査法のまとめ
第2回	岡本担当②：レポートの書き方について	事前学習	基礎演習ⅠⅡのおさらいを行う
		事後学習	配付資料再読
第3回	岡本担当③：「アクションスリップ」概要説明、実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成準備
第4回	岡本担当④：実験結果の整理、レポート作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成

第5回	岡本担当⑤：「判断に及ぼす他者からの情報的影響」概要説明、実験の実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成準備
第6回	岡本担当⑥：実験結果の整理、レポート作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成
第7回	岡本担当⑦：「SD法調査」概要説明、調査の準備	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	質問紙作成
第8回	岡本担当⑧：調査の実施、収集データの整理	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	収集データの整理
第9回	岡本担当⑨：収集データの分析、考察	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成準備
第10回	岡本担当⑩：レポート作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成
第11回	加藤担当①：「鏡映描写：学習の転移」概要説明、実験の実施	事前学習	実験法及びデータ解析の復習
		事後学習	「鏡映描写・学習の転移」に関する配付資料を読み、研究概要について理解を深める
第12回	加藤担当②：実験結果の整理、仮説・分析計画の検討	事前学習	実験法及びデータ解析の復習
		事後学習	「鏡映描写・学習の転移」に関する配付資料を読み、研究概要について理解を深める
第13回	加藤担当③：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成（1）	事前学習	実験結果の整理とデータ解析の準備
		事後学習	実験レポートの作成
第14回	加藤担当④：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成（2）	事前学習	実験結果の整理とデータ解析の準備
		事後学習	実験レポートの作成
第15回	加藤担当⑤：「パーソナル・スペース」概要説明、実験の実施	事前学習	「パーソナル・スペース」に関する配付資料を読み、研究概要について理解する
		事後学習	収集データの整理
第16回	加藤担当⑥：実験結果の整理、仮説・分析計画の検討	事前学習	「パーソナル・スペース」に関する配付資料を読み、研究概要について理解する
		事後学習	収集データの整理
第17回	加藤担当⑦：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成（1）	事前学習	配布資料の再読、データ解析の準備
		事後学習	実験レポートの作成
第18回	加藤担当⑧：実験データの整理・データ解析・レポートの作成（2）	事前学習	配布資料の再読、データ解析の準備
		事後学習	実験レポートの作成
第19回	加藤担当⑨：「ストループ効果」概要説明、実験の実施	事前学習	「ストループ効果」に関する配付資料を読み、研究概要について理解する
		事後学習	配布資料の再読、実験レポートの作成
第20回	加藤担当⑩：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成	事前学習	「ストループ効果」に関する配付資料を読み、研究概要について理解する
		事後学習	配布資料の再読、実験レポートの作成
第21回	新井担当①：「概念達成」概要説明、刺激図形の製作	事前学習	実験法の復習
		事後学習	配付資料の理解を深める
第22回	新井担当②：予備実験、本実験の実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	実験結果の整理・データ解析
第23回	新井担当③：実験結果の整理、データ分析①	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート提出
第24回	新井担当④：データ分析②、研究レポートの作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第25回	新井担当⑤：「主観的確率観」概要説明、実験の実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第26回	新井担当⑥：実験結果の整理、データ分析①	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	実験結果の整理・データ解析
第27回	新井担当⑦：データ分析②、研究レポートの作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート提出
第28回	新井担当⑧：「エンメルトの法則」概要説明、実験の実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第29回	新井担当⑨：実験結果の整理、データ分析①	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第30回	新井担当⑩：データ分析②、研究レポートの作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	実験結果の整理・データ解析・レポート提出

1. 科目名 (単位数)	心理学的支援法 (演習)	3. 科目番号	PSMP3151
2. 授業担当教員	若松 直樹		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習 (ロールプレイなど)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学や心理学支援法(基礎)の授業を踏まえることで学習が深まります。		
7. 講義概要	心理学的支援法とは、何らかの援助を求め人(クライアント)に対して、行動変容を目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことであると考えられがちである。しかし現代社会においては、心理援助を行う者の心構えは(カウンセリング・マインドと言われる)、対クライアントのみならず、地域支援やクライアント関係者、また大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。そこで、本演習では、カウンセリングの理論と技法を学ぶと共に、より広く訪問支援や地域支援、クライアント関係者支援などの援助についても学び、自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。また、守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮も学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めているのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>○評価のもとになるレポート課題 演習振り返り(複数回)および、期末レポート。 期末レポート: 演習で体験したカウンセリングという関わり(人間関係)を通して、自身の行動やものの見方に変化があったか、なかったかほか、カウンセリングに対する意見をまとめなさい。 ○レポートの執筆量や提出期限などはおって示します。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】福島脩美『カウンセリング演習』金子書房, 2017		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めているのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 <p>○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 授業への参加(出席、態度、発言) 50% レポート・発表・確認テスト 50% 以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	カウンセリングという他者との関わりや態度を、授業としての演習(実習)のみで身につけられないことは理解できるはずですが、カウンセリングに限らず、心の支援者としてどのように行動し対処すべきかをいつも自身に問う必要があります。それは学生である現在も学びを積み重ねた将来も同じです。自身のあり方と社会への関わりをいつも意識していきましょう。		
13. オフィスアワー	初回講義時にお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第2回	カウンセリングの外観(1)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第3回	カウンセリングの外観(2)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第4回	かかわり技法	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる

第5回	応答技法1	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第6回	応答技法2	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第7回	対決技法1	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第8回	対決技法2	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第9回	行動支援技法(1)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第10回	行動支援技法(2)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第11回	終結への技法と記録の整理(1)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第12回	終結への技法と記録の整理(2)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第13回	カウンセリング実地演習	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第14回	カウンセリングの展開(1)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第15回	カウンセリングの展開(2)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
期末試験			

1. 科目名(単位数)	心理学的支援法(演習)	3. 科目番号	PSMP3151
2. 授業担当教員	武内 智弥		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習(ロールプレイなど)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学やカウンセリング関連の授業を履修していること		
7. 講義概要	心理学的支援法とは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、行動変容を目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことであると考えられがちである。しかし現代社会においては、心理援助を行う者の心構えは(カウンセリング・マインドと言われる)、対クライアントのみならず、地域支援やクライアント関係者、また大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。そこで、本演習では、カウンセリングの理論と技法を学ぶと共に、より広く訪問支援や地域支援、クライアント関係者支援などの援助についても学び、自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。また、守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮も学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	各回の授業の事前学習・事後学習に指定した内容や、学習目標の1~4の内容に関する発表もしくはレポートを課す。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】なし</p> <p>【参考書】小俣和義(編)『こころのケアの基本―初学者のための心理臨床』北樹出版、2013。 下山晴彦(監修)『面白いほどよくわかる!臨床心理学』西東社、2012。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>授業への参加(出席、態度、発言) 50%</p> <p>レポート・発表・確認テスト 50%</p> <p>以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>学生による発表を多く採り入れた授業形式となっています。</p> <p>心理学的支援法のさまざまな発想を学ぶことで、物の見方を広げ、より開かれた態度を身につけることを目指して下さい</p>		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理療法やカウンセリングの発想と歴史	事前学習	心理療法やカウンセリングの歴史について調べておく
		事後学習	それぞれの心理療法やカウンセリングの歴史的つながりや発想の流れをまとめる
第2回	心理療法の特徴と適用範囲	事前学習	心理学的支援法と他の専門職や援助法との違いを調べておく
		事後学習	心理職としての基本的な態度や、心理学的支

			援法の特徴をまとめる
第3回	力動的理解にもとづく心理療法①基本概念	事前学習	局所論、構造論、防衛機制など基本的な概念を復習しておく
		事後学習	精神分析の基本的な概念と日常とをつなげて理解し、それらを整理すること
第4回	力動的理解にもとづく心理療法②理解と働きかけ	事前学習	力動的心理療法における面接技法について復習しておく
		事後学習	クライアントの言動をどのように力動的に理解するのかの視点を整理する
第5回	来談者中心療法	事前学習	来談者中心療法におけるセラピストの3つの態度について復習しておく
		事後学習	来談者中心療法で具体的に何をを行っているか、「想像」をテーマにまとめる
第6回	認知行動療法①—行動アプローチを中心に—	事前学習	学習心理学について復習しておく
		事後学習	行動療法のアプローチについてまとめる
第7回	認知行動療法②—認知アプローチを中心に—	事前学習	認知療法・論理療法について調べておく
		事後学習	日常のことを題材にして、認知療法の枠組みでの内面の整理の仕方を復習しておく
第8回	臨床動作法	事前学習	言語ではなく、からだを使った心理学的支援法について調べる
		事後学習	動作を扱うことの特徴や意味を整理する
第9回	ブリーフセラピー	事前学習	ブリーフセラピーに特徴的な質問や働きかけについて調べておく
		事後学習	ブリーフセラピーに特徴的な質問や働きかけの狙いや意味や使い方について整理する
第10回	現場による心理学的支援の特徴と違い	事前学習	心理学的支援法の違いを整理する。医療、教育、福祉などの現場の特徴を調べる
		事後学習	現場やクライアントのニーズに合わせた心理職の役割についてまとめる
第11回	コミュニティでの心理学的支援（地域援助）	事前学習	教育現場や福祉現場の特徴を復習しておく。コンサルテーションについて調べておく
		事後学習	個人面接中心の心理学的支援とコミュニティでの心理学的支援の相違をまとめる
第12回	心の健康教育と予防教育	事前学習	心の健康とはどのようなものか、予防とは何を意味するかをまとめる
		事後学習	主な現場において、心理職として心の健康増進のために出来ることを整理しておく
第13回	災害時・危機介入の心理学的支援	事前学習	災害や危機が起きた時の個人や集団の反応について調べる
		事後学習	それぞれの場面で、心理職として出来ること、また、すべきでないことをまとめること
第14回	心理師の義務・倫理①：情報の適切な取り扱い	事前学習	守秘義務とその例外、インフォームドコンセントについて調べておく
		事後学習	心理職として、情報の取り扱いに関して、現場で起こりうる影響や問題を整理する
第15回	心理師の義務・倫理②：研修・スーパーヴィジョン	事前学習	心理職の自己研鑽の場や方法について調べておく
		事後学習	心理職の責務・役割と研修・スーパーヴィジョンの関係を整理・理解すること

1. 科目名 (単位数)	心理学的支援法 (心理療法) / 心理療法概説 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3353						
2. 授業担当教員	野口 理英子								
4. 授業形態	講義、演習、討議	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	様々な心理療法の中から、クライアント中心療法、精神分析療法、行動療法、家族療法、芸術療法等の代表的な心理療法を取り上げ、その理論の成り立ちの歴史から概要と意義を学び、それぞれの技法を体験的に学習する。また、それぞれのアプローチにおける適応と限界についての理解を深めることで、クライアント自身や問題に適した心理療法を学ぶ。ブライバシーへの配慮を含めた心理療法における倫理を学ぶ。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理療法の諸理論・諸技法について、その背景となる考え方を理解し、それぞれの治療・援助の方法を具体的に知ること、その考え方や方法を日常生活に応用できるようになる。 2. 対人援助の場で、利用者の抱える問題に応じた心理的側面の援助方法を選ぶことができるようになる。 3. 訪問による支援や、地域支援の意義について理解している。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマごとに課題シートを作成する (8回程度を予定)。 2. レポートを作成する (2000字程度) 								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】指定しない。授業内で資料を配布する。</p> <p>【参考書】窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館、2003。</p>								
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業に対して、学生自身の書いたものを通して、基本的事項の理解度を評価する。 2. 授業への参加度として、教員からの質問への応答の頻度と根拠を持った発言かどうかを評価する。 3. 課題レポート (または、期末試験) の文章が論理的であるかどうか、および基本的事項が盛り込まれているかどうかを評価する。 <p>○評定の方法</p> <p>授業内の課題シート・学習ノート、授業態度・参加姿勢、課題レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業内の課題シート・学習ノート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2. 授業態度・参加姿勢</td> <td>総合点の10%</td> </tr> <tr> <td>3. 課題レポート(期末試験)</td> <td>総合点の60%</td> </tr> </table>			1. 授業内の課題シート・学習ノート	総合点の30%	2. 授業態度・参加姿勢	総合点の10%	3. 課題レポート(期末試験)	総合点の60%
1. 授業内の課題シート・学習ノート	総合点の30%								
2. 授業態度・参加姿勢	総合点の10%								
3. 課題レポート(期末試験)	総合点の60%								
12. 受講生への メッセージ	<p>以下のことを心がけて下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には積極的な態度で参加して下さい (意見を述べる、質問する、等)。 2. 事前・事後学習を通して、理解を深めて下さい。 3. 他の受講生に迷惑をかけないで下さい (私語、等)。 								
13. オフィスアワー	授業内で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション 講義の概要について説明する。	事前学習	教科書を購入する。シラバスの内容を確認する。						
		事後学習	家族や知人との間で行われる相談と心理療法において行われる相談との違いを考え、まとめる。						
第2回	心理療法の成り立ちから現在までの経緯、各理論の位置づけについて学ぶ。	事前学習	次の用語の意味について調べる。 「心理療法」「カウンセリング」「臨床心理学」「精神療法」						
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。						
第3回	心理療法の目的と進め方、適用と限界、他職種との連携について学ぶ。	事前学習	心理療法の適用と限界について調べる。						
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。						
第4回	精神力動的心理療法の理論について学ぶ。	事前学習	精神力動的心理療法について調べる。						
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。						
第5回	精神力動的心理療法の技法について学ぶ。	事前学習	精神力動的心理療法の技法について調べる。						
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。						
第6回	クライアント中心療法の理論について学ぶ。	事前学習	クライアント中心療法について調べる。						
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。						
第7回	クライアント中心療法の技法について学ぶ。	事前学習	クライアント中心療法の技法について調べる。						
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。						
第8回	行動療法の理論・技法について学ぶ。	事前学習	行動療法について調べる。						
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。						
第9回	認知行動療法の理論について学ぶ。	事前学習	認知行動療法について調べる。						
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。						
第10回	認知行動療法の技法について学ぶ。	事前学習	自分はどんな「イラショナル・ビリーフ」を持						

			っているか考え、書き出す。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第11回	ゲシュタルト療法の理論・技法について学ぶ。	事前学習	ゲシュタルト療法について調べる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第12回	交流分析の理論・技法について学ぶ。	事前学習	交流分析について調べる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第13回	芸術・表現療法の理論について学ぶ。	事前学習	芸術・表現療法について調べる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第14回	芸術・表現療法の技法について学ぶ。	事前学習	コラージュ療法について調べる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第15回	授業のまとめ	事前学習	これまでの授業の内容について整理する。
		事後学習	期末レポートを作成し、提出する。
15.実務経験を有する教員 特記事項	病院での臨床心理士、及び県のスクールカウンセラーとしての実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	心理学統計法/心理統計法 (2単位)	3. 科目番号	SPMP1120
2. 授業担当教員	三好 一英		PSMP1120
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	統計学を履修していること		
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト (SPSS) を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト (SPSS) を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業内および授業外に、データ解析に関する課題を、適宜行うことがある。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 2004 (※統計学と同じものを使用します。持参してください)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができるか ②データに合った解析法を選択できるか ③選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができるか ④解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができるか <p>○評定の方法：</p> <p>受講態度、演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。</p> <p>授業への参加・受講態度：30%</p> <p>課題達成・レポート：40%</p> <p>小テスト：30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学を履修していることを前提に講義は進められますので、よく復習しておいてください。 ・講義は毎回の積み重ねです。前回の内容理解を前提に講義は進められます。 ・授業中に無断で途中退出することは原則禁止します。 ・コンピュータを使用します。講義時間外にも積極的に触って操作方法の習得に努めましょう。 <p>※統計で困ったことになった2年生以上の上級生、大学院生の聴講も歓迎します。</p>		
13. オフィスアワー	初回講義時に説明する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：春期の理解度の確認	事前学習	テキストの入手、統計学の学習内容の復習
		事後学習	授業で使用した統計学の課題の復習
第2回	記述統計：データ入力、尺度水準	事前学習	尺度水準についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(尺度水準)
第3回	記述統計：度数分布	事前学習	度数分布についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(度数分布)
第4回	記述統計：代表値と散布度	事前学習	代表値と散布度について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(代表値、散布度)
第5回	記述統計：変数の変換 (標準化など)	事前学習	標準化についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(標準化)
第6回	相関係数とその検定	事前学習	相関係数についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(相関係数)
第7回	予測と回帰/回帰分析	事前学習	回帰分析についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(回帰分析)
第8回	連関係数とその検定	事前学習	連関係数についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(連関係数)
第9回	対応のあるt検定	事前学習	対応のあるt検定について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(対応のあるt検定)
第10回	対応のないt検定とその前提となる等分散性の検定	事前学習	対応のないt検定について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(対応のないt検定)
第11回	一要因分散分析の基本的な考え方： モデル、仮説の立て方、主効果、多重比較	事前学習	分散分析の基本的な考え方について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(仮説の立て方)
第12回	一要因被験者間分散分析	事前学習	分散分析表の見方について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(一要因分散分析As)
第13回	一要因被験者内分散分析	事前学習	分散分析表の見方について調べておく

		事後学習	講義内容の復習と練習問題(一要因分散分析 sA)
第 1 4 回	二要因分散分析と交互作用の分析	事前学習	二要因の分散分析表について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(交互作用)
第 1 5 回	心理統計法のまとめ	事前学習	これまでの学習範囲をまとめておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(レポートの書き方)
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学統計法/心理統計法 (2単位)	3. 科目番号	PSMP1120 EDPS1301
2. 授業担当教員	鈴木 克也		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	統計学を履修していること		
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト (SPSS) を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト (SPSS) を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントとして、毎回の授業内容は必ず復習すること。 授業内および授業外に、データ解析に関する課題を、適宜行う。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。 (※統計学と同じものを使用します。持参してください。)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準： ①研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができるか ②データに合った解析法を選択できるか ③選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができるか ④解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができるか</p> <p>○評定の方法： 受講態度、演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。 授業への参加・受講態度：30% 課題達成・レポート：40% 小テスト：30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学を履修していることを前提に講義は進められますので、よく復習しておいてください。 ・講義は毎回の積み重ねです。前回の内容理解を前提に講義は進められます。 ・授業中に無断で途中退出することは原則禁止します。 ・コンピュータを使用します。講義時間外にも積極的に触って操作方法の習得に努めましょう。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：春期の理解度の確認	事前学習	テキストの入手、統計学の学習内容の復習
		事後学習	授業で使用した配布資料の復習
第2回	記述統計：データ入力、尺度水準	事前学習	尺度水準についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第3回	記述統計：度数分布	事前学習	度数分布についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第4回	記述統計：代表値と散布度	事前学習	代表値と散布度についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第5回	記述統計：変数の変換 (標準化など)	事前学習	標準化についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第6回	推測統計：統計的仮説検定とは	事前学習	推測統計についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第7回	2変数の検定 (1)：間隔・比尺度の関係	事前学習	相関係数についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題

第8回	2変数の検定(2): 名義尺度同士の関係	事前学習	連関係数についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第9回	対応のあるt検定	事前学習	対応のあるt検定についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第10回	対応のないt検定とその前提となる等分散性の検定	事前学習	対応のないt検定についてテキストの該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第11回	一要因分散分析の基本的な考え方 モデル、仮説の立て方、主効果、多重比較	事前学習	分散分析の基本的な考え方について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第12回	一要因分散分析と多重比較	事前学習	分散分析表の見方について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第13回	二要因分散分析の基本的な考え方 交互作用、単純主効果	事前学習	二要因分散分析について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第14回	二要因分散分析と交互作用の分析	事前学習	二要因の分散分析表について調べておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
第15回	心理統計法のまとめ	事前学習	これまでの学習範囲をまとめておく
		事後学習	講義内容の復習と練習問題
期末試験			

1. 科目名(単位数)	心理検査法演習 (2単位)	3. 科目番号	PSMP3324
2. 授業担当教員	武内 智弥		
4. 授業形態	演習およびグループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学や心理査定に関する授業を履修していること		
7. 講義概要	心理臨床の現場でよく使用されている主な質問紙法検査や投影法検査等の理論、実施方法、結果の解釈について学習する。自らが心理検査の実施者と被検者の役割をとることによって、心理検査の目的、特徴、有効性や限界について体験的に学ぶとともに、他のアセスメント方法とも合わせて総合的に事例を理解できるようになることを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の種類・特徴および長所・短所を理解し、説明できるようになる。 2. 心理検査の実際を体験的に学び、使用できるようになる。 3. 心理検査の結果からのアセスメントができるようになる。 4. 心理検査における心理臨床の倫理について理解し、説明できるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	各心理検査を実施する度に、自身についての検査結果とその解釈をまとめるよう求める。科目終了時には、授業で実施した質問紙法と投映法の心理検査の中から、1つずつ以上の検査を各自選び、それらの結果をまとめ、総合所見を書いて提出するレポートを求める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 なし 【参考書】 高橋依子・津川律子(編著)『臨床心理検査バッテリーの実際』遠見書房、2015。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に熱心に取り組み、積極的に発言・発表をしたか。 2. レポートは、演習・検査を踏まえて、要点を分かりやすくまとめる力がついたか。 ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講態度・参加姿勢 総合点の30% 2. 実施した演習(心理検査)ごとのレポート 総合点の40% 3. 科目終了レポート 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	自己理解に役立てて、自己成長の糧とすることを望む		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理学における検査法とその倫理	事前学習	各種心理検査について調べる
		事後学習	心理検査の特徴と検査法倫理について理解を深める
第2回	心理検査の実施に関するポイントと留意点	事前学習	心理検査の実施の準備について調べる
		事後学習	質問紙法と投映法の特徴、心理検査実施前後の面接、心理検査中の観察の特徴を整理する
第3回	質問紙法の実際1-パーソナリティ検査(エゴグラム)の実施	事前学習	各種パーソナリティ検査について調べる
		事後学習	結果について、自分らしいエピソードを何点か挙げ、実際と結びつけて理解・整理する
第4回	所見の書き方①	事前学習	どのように結果を整理したら分かりやすいか、どんな情報が必要かを検討する
		事後学習	学習した内容を活かして、前回のTEGの結果を使って所見を書き直す
第5回	質問紙法の実際2-医療での心理検査(うつ、不安)の実施、分析	事前学習	うつ、不安の概念について調べる
		事後学習	うつ、不安と精神的健康について検討する
第6回	質問紙法の実際3-医療での心理検査(発達障害診断の補助)の実施、分析	事前学習	発達障害の特徴や診断について調べる
		事後学習	同じような結果になる発達障害以外の状態について整理する
第7回	投映法の実際1-文章完成法の実施と分析①	事前学習	文章完成法の種類を調べる
		事後学習	文章完成法の特徴についてまとめる
第8回	投映法の実際2-文章完成法の分析②と結果のまとめ方	事前学習	文章完成法の概要について調べる
		事後学習	文章完成法で分かったことと、他のテスト結果とを併せて、自分の傾向を検討してみる
第9回	投映法の実際3-描画(風景構成法)の実施とPDI	事前学習	描画検査の種類や特徴について調べる
		事後学習	実施中の観察や、描画後の面接のポイントを整理する
第10回	投映法の実際4-描画(風景構成法)の分析	事前学習	風景構成法の各アイテムの意味を調べる
		事後学習	描画全体をどのように分析するかを理解する
第11回	所見の書き方②総合所見	事前学習	心理検査の結果を総合的にまとめてみる
		事後学習	心理検査の総合所見を授業で習ったように

			修正し、それを自己成長に活かすための工夫を考える
第12回	認知障害に関する検査－HDS-R と MMSE	事前学習	認知障害検査の種類について調べる
		事後学習	認知障害と検査の関連についてまとめる
第13回	投映法の実際5－ロールシャッハ法の特徴・実施	事前学習	ロールシャッハ法、片口法、包括システムについて調べる
		事後学習	ロールシャッハ法の長所と短所、実施についてまとめる
第14回	投映法の実際6－ロールシャッハ法の分析	事前学習	ロールシャッハ法の分析方法について調べる
		事後学習	ロールシャッハ法の事例を読み、分析の仕方を復習する
第15回	心理検査の結果のフィードバック	事前学習	心理検査の結果の伝えられ方には、どのようなものがあるか調べる
		事後学習	どういった伝え方が、クライアントにどういった影響を与え得るか整理する

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (幼) (2単位)	3. 科目番号	SSOT2121
2. 授業担当教員	森本 昭宏		SCOT2421
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作 I から II の順で履修することが望ましい。		
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. ポートフォリオ (振り返りカード) の作成と毎時の制作課題をファイリングして提出。 2. 学習の成果を課題レポートとして提出する。レポート課題については、授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 授業の進行に伴ってレジュメを配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。(学習目標 1・2) 2. 子どもの造形表現の特徴に関する基礎的な知識が身につけられたか。(学習目標 3・4) 3. 子どもの造形活動を支える上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。(学習目標 5) ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の 20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 30% 3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等) 総合点の 30% 4. 課題 (作品発表、レポート等) 総合点の 20%		
12. 受講生へのメッセージ	造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具 (クレヨン・粘土等) の扱い方と、製作の材料を活かした多様な表現、安全指導などについて学ぶ。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深めていく。 【注意事項】 1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具 (クレヨン・画用紙・粘土・筆等) は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2. 必ず汚れて良い服装で出席すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業内容、目的、用意する物など) 造形活動のねらいと内容 (材料・用具についての正しい知識と安全指導) (講義)	事前学習	テキスト第 1 章①を読む。
		事後学習	学習内容と内容をポートフォリオにまとめる。
第 2 回	幼児の造形活動で扱われる描画材料について (講義) 平面表現 I ①引っかき絵 (スクラッチ①クレヨンについて) 版の面白さを理解した下地づくり (演習)	事前学習	テキスト p 136 を読む。クレヨンの準備。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 3 回	平面表現 I ②引っかき絵 (スクラッチ②様々な線描) 様々なイメージで線を描く。きれいと感じる部分を伝え合う (演習)	事前学習	テキスト p 25 を読む。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 4 回	平面表現 II はじき絵 (バチック) テーマを決めた協同制作とプレゼンテーション (グループ活動)	事前学習	テキスト p 25、127 を読む。ホースカーの準備
		事後学習	友人との学びをつなげることができたか、ポートフォリオにまとめる。
第 5 回	平面表現 III 合わせ絵 (デカルコマニーと糸引き版画) 偶発的に表れる色と形の不思議さに気づき、ことばや文字に表してみる。できた作品から見立て遊びに発展。	事前学習	テキスト p 44、133 を読む。
		事後学習	授業の記録、製作した作品を整理し、ポートフォリオにまとめる。ファイルしておく。
第 6 回	色の三属性、色相環及び色彩のイメージと心理効果について (講義+演習) 平面表現 IV にじみ絵 (マーブリング)	事前学習	テキスト p 25、36、132 を読む。
		事後学習	偶発的に表れる色と形を利用して、絵で表す工夫を試みる。
第 7 回	平面表現 V ①型押し絵 (スタンプング①野菜の活用) 身近な材料を用いた表現 (演習)	事前学習	テキスト p 42、135 を読む。
		事後学習	学習内容をポートフォリオにまとめる。

第8回	平面表現Ⅴ②型押し絵（スタンピング②廃材の再利用） 同じ材料から異なる表現が生まれることに気づく。	事前学習	配布資料とテキストp16、17を読む。
		事後学習	平面作品とポートフォリオをファイリングしてまとめる。
第9回	立体表現 粘土の特徴と種類（講義+演習） ちぎる、たたくなどの手の活動と可塑性について	事前学習	テキストp29、39を読む。油粘土の準備
		事後学習	多様な表現を追求する力を育成することができたかポートフォリオにまとめる。
第10回	立体表現① 粘土から和紙へ（ちぎり絵、張り子） 張り子技法を応用したお面づくり、型取りについて	事前学習	テキストp47、130を読む。障子紙の準備
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第11回	立体表現② 紙の特性・接着の種類（のり、ボンドの活用） のり絵具で広がる紙の表現	事前学習	テキストp47を読む。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第12回	立体表現③ 型を使った和紙の彫刻（お面づくり） 立体に表す活動の種類と表現（講義+演習）	事前学習	テキストp156を読む。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第13回	立体表現④ 和紙の立体彩色（色と形）ごっこ遊びを楽しむ。 装飾としての保育室などの環境構成	事前学習	テキストp151を読む。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第14回	グループワーク 共同コラージュ制作 各自のアイデアを発表し合意するまで話し合う（主題決め） リーダーを決め役割分担をする（グループ活動）	事前学習	テキストp60-62を読む。
		事後学習	グループワークにおける振り返りの成果と課題をポートフォリオにまとめる。
第15回	グループワーク 共同コラージュ制作 作品と制作過程を発表し合う（並べる・つなぐ） 授業のまとめと振り返り	事前学習	テキストp158-162を読む。
		事後学習	振り返りをポートフォリオにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (小) (2単位)	3. 科目番号	EDEL2304 EDEL1306
2. 授業担当教員	井上 昌樹		
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作Ⅰ→図画工作Ⅱの履修が望ましい		
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通ずる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を追求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 ポートフォリオ (振り返りカード) の作成と提出 2 【レポート課題】「図画工作科における教材研究の意義について、授業で学習したことを例示しながら1200字程度で論じなさい。」 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】宮脇理 監修、福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がつきたか。 2. 発達段階における造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。 3. 児童の豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 総合点の20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の30% 3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等) 総合点の30% 4. 課題 (作品発表、レポート等) 総合点の20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>小学校の現場では、専門であろうとなかろうとほぼ全員の先生が図画工作科の指導にあたります。図画工作科では、教員の押し付けや誘導ではなく、子どもに多くの実体験の場を与え、もてる感性や能力を100%引き出す指導を目指します。実際の授業として取り上げられることを意識して授業内容を体験することで、指導者としてのより実践的な視点を獲得していきます。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス：図画工作科の可能性と教科特性を考える。	事前学習	・教科書を一通り確認しておく。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第2回	色の混ざりに着目した造形遊び (講義+演習)	事前学習	・配布資料を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第3回	描画材に着目した題材 (講義+演習)	事前学習	・配布資料を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第4回	粘土を用いた造形表現の可能性 (講義+演習)	事前学習	・テキスト pp. 88-89 を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第5回	アートカードを使った対話型鑑賞 (講義+演習)	事前学習	・テキスト pp. 142 を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第6回	木材を使った立体構成①電動糸鋸の扱い (講義+演習)	事前学習	・配布資料を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第7回	木材を使った立体構成②組み木 (講義+演習)	事前学習	・配布資料を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第8回	光と影の造形① (講義+演習)	事前学習	・テキスト p. 103 を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第9回	光と影の造形② (講義+演習)	事前学習	・配布資料を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。

			る。
第10回	映像メディアを用いた表現および鑑賞の活動(講義+演習)	事前学習	・テキスト pp.128-131を読む。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第11回	題材開発①教材研究と題材の構想(グループ学習)	事前学習	・図画工作科の実践題材に関する資料を集める。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第12回	題材開発②教材研究と題材化(グループ学習)	事前学習	・教材研究に必要な資料や材料を集める。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第13回	題材開発③題材の整理と授業案の検討(グループ学習)	事前学習	・材料研究の成果をまとめてくる。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第14回	題材開発④プレゼンテーション(グループ学習)	事前学習	・プレゼン用の模造紙を完成させる。
		事後学習	・学習過程と内容を振り返りカードにまとめる。
第15回	図画工作科における教材研究の重要性について振り返る(講義+ディスカッション)	事前学習	・これまでの学習内容を整理し、ポートフォリオにまとめてくる。
		事後学習	・授業全体を振り返り、レポート課題に取り組む。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (幼) (2単位)	3. 科目番号	SSOT2522								
2. 授業担当教員	森本 昭宏		SCOT2522 SJMP2141								
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	春期・秋期								
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作Ⅰの単位を修得した後に履修することが望ましい。										
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、保育者・指導者として保育実践の場に還元することのできる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探究するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎時の制作課題をファイリングして提出する。 2. テキスト第8章「鑑賞の学習」と第9章「美術活動の広がり」を読み合わせてそれぞれ500字程度で要点を記述する。その他課題については、授業の中で提示する。 										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】辻 泰秀『図画工作 基礎造形』建帛社 授業の進行に伴ってレジュメを配布する。</p> <p>【参考書】榎英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 内閣府・文科省・厚労省編『幼保認定連携こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>【教材や道具など】各自で準備が必要な物は事前に告知する。</p>										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。(学習目標1・3) 2. 子ども造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。(学習目標2・4) 3. 子ども豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。(学習目標5) <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>4. 課題 (作品発表、レポート等)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加	総合点の20%	2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の30%	3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の30%	4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の20%
1. 授業への積極的参加	総合点の20%										
2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の30%										
3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の30%										
4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業では、造形表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得。現場で用いられる様々な造形活動を楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について理解するとともに、保育を改善する視点を身に付けることをねらいとする。具体的な指導場面を想定した模擬保育等を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる応用力のある指導者を目指していく。</p> <p>また、幼稚園教育等の基本を踏まえ、領域のねらい及び全体構想、作品評価の考え方を理解する。造形における幼児の発達や造形あそび等の過程を理解した保育構想の向上に取り組む。</p> <p>【注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具 (画用紙・紙粘土・筆等) は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2. 必ず汚れて良い服装で出席すること。 										
13. オフィスアワー	別途通知する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	ガイダンスと班プレゼンテーション 主体的・対話的なグループ活動と模擬保育 (新聞紙を使ったファッションショー) グループごとにテーマを決めて新聞紙で着飾る。	事前学習	テキスト p104, 105 を読む。								
		事後学習	グループにおける自分の役割を明確にして、材料・用具を用いた共同制作の振り返りを行う。								
第2回	版を使った表現①【凸版 紙版画Ⅰ (切り取り版)】 紙の重なりによって遠近、空間、量感を表現する。ハサミで自由に切り取り主題を強調させる。	事前学習	テキスト p 48, 49 を読む。								
		事後学習	刷りをイメージしながら、デザインを確定する。台紙のある場合の作品もイメージしてみる。								
第3回	版を使った表現②【凸版 紙版画Ⅱ (台紙版)】 台紙の範囲内で形の組み合わせや配置などを考え、工夫しながら版をつくる。	事前学習	紙工作体験を振り返り、材料・用具を準備する。								
		事後学習	刷ったことでわかる気づきやより工夫できると思われる点などを確認する。								
第4回	版を使った表現③【凸版 紙版画Ⅲ (台紙版)】 美しく刷り上げるためにインクの量と場所、刷るパレンの力加減を体得する。	事前学習	事前配布資料を読む。								
		事後学習	刷りにみられる遠近・空間・量感の表現を確認する。作品をファイルする。								

第5回	子どもの絵の発達段階と様々な表現（観察画・創造画・生活画ほか）講義	事前学習	テキストp2～7を読む。
		事後学習	造形活動の発達段階を表にまとめる。
第6回	芯材を使った粘土制作① 粘土の特性と種類 幼児の紙粘土の表現を鑑賞する。作品の大きさを想像して、計画的にピン、割りばしなどを用いた芯材をつくる。	事前学習	テキストP58～61を読む。
		事後学習	バランス・安定感の確認と芯棒に対する粘土の量を確認する。作りたい作品の参考資料を揃える。
第7回	芯材を使った粘土制作② 芯棒、骨組み、肉づけ、量塊、動静、安定感など、粘土の特性を理解する。	事前学習	テキストP62～65を読む。
		事後学習	表わしたいことやテーマを再度確認しておく。
第8回	芯材を使った粘土制作③ 着色、仕上げニス 安定感、ひび割れの確認と着色・保存について。園内を飾る環境構成について考察する。（講義）	事前学習	テキストP66～69を読む。
		事後学習	素材の特性を生かす仕上げと展示の工夫、制作工程をまとめてファイリングする。
第9回	光と影の世界（影絵シアター）グループワーク レッジョエミリアの幼児教育と芸術士の役割	事前学習	テキストP134、158を読む。
		事後学習	光と影の活用法についてまとめる。
第10回	光と影の世界（影絵シアター）グループワーク 光を活用した造形遊びの体験（演習と相互評価）	事前学習	事前配布資料を読む。
		事後学習	相互評価コメントをまとめてファイリングする。
第11回	身近な自然物や人口の材料を用いた題材設定（模擬保育、ワークショップ）	事前学習	テキストP128、194、204を読む。
		事後学習	発達段階を意識した環境構成等をまとめる。
第12回	パネルシアターの歴史と物語の選定（心を動かす出来事との出会いと共有）	事前学習	テキストP94、95を読む。フランネルの準備。
		事後学習	仕掛けの特性の理解と実習を想定した題材選定。
第13回	パネルシアターの下絵と製作（素材に親しみ工夫して遊ぶ）（エプロンシアター、ペーパーサートとの比較）	事前学習	テキストP34、38、132を読む。材料・用具の準備。
		事後学習	仕掛けの理解と用具・材料の準備をする。
第14回	パネルシアターの彩色と仕掛け（動きなど様々な表現の仕方）（紙芝居・絵本との違い）	事前学習	テキストP98、99を読む。仕掛けの材料の準備。
		事後学習	作品の仕上げと、絵人形を演じる準備をする。
第15回	パネルシアター演じ方と舞台設定（視聴覚教材の活用）課題のまとめ 発表会	事前学習	事前配布資料を読む。演じ方の練習と発表準備。
		事後学習	相互評価コメントをまとめてファイリングする。

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2単位)		3. 科目番号	EDEL2314
2. 授業担当教員	井上 昌樹			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作 I (小)・II (小) の履修後が望ましい。			
7. 講義概要	図画工作科教育の目標、育成を目指す資質・能力、「造形的な見方・考え方」を働かせる学習内容及び学びの方法についての概説や具体的な事例を通して、学校教育(公教育)で美術教育がおこなわれる教育的意義について理解を深めていく。併せて、授業分析や授業デザインの演習、模擬授業を通して、授業の組み立て方や評価規準設定の視点、指導案の書き方、指導方法について習得を目指す。			
8. 学習目標	1. 図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できる。 2. 造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができる。 3. 図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができる。 4. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1 ポートフォリオ(振り返りカード)の作成と提出 2 【レポート課題①】造形遊びについての気づき、感想をまとめる。(1500字程度) 3 【レポート課題②】美術教育におけるマニュアル化についての考えをまとめる。(500字程度) 4 【レポート課題③】鑑賞教育についての考えをまとめる。(500字程度)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 宮脇理 監修、福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。 【参考書】 造形授業研究会編『図工の授業をデザインする』東洋館出版社。 文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できるか。 2. 造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるか。 3. 図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができるか。 4. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができるか。 ○評定の方法 授業内の課題…30% ポートフォリオ…40% 最終課題…30%			
12. 受講生へのメッセージ	小学校の現場では、専門であろうとなかろうとほぼ全員の先生が図画工作科の指導にあたります。図画工作科では、教員の押し付けや誘導ではなく、子どもに多くの実体験の場を与え、もてる感性や能力を100%引き出す指導を目指します。この授業では、実際に授業をつくり、実践する経験を通して、図画工作科の目的についての理解を一層深めるとともに、授業づくりをする上での基本的な知識及び能力を身につけていきます。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス：講義の目的・概要及び評価について／「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか① ーこれまでの学習経験のふりかえり	事前学習	「私の図画工作科の経験」を記述してくる。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第2回	「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか② ー子どもの具体的な姿から考察する 【映像鑑賞＋グループディスカッション】	事前学習	学習指導要領解説 pp. 9～p. 16を読む。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第3回	図画工作科の歴史の変遷と内容概観-目標、資質能力、教科内容、カリキュラム構造、評価規準、教育的課題について 【講義】	事前学習	学習指導要領解説 pp. 1～8、テキスト pp. 2～5を読む。	
		事後学習	学習指導要領ワークシートに記入する。	
第4回	造形表現領域の発達段階の理解と児童の個性・多様性を保持した学習環境デザイン 【講義】	事前学習	テキスト p. 52～53を読む。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第5回	図画工作科の内容と教育的意義 1 A表現「造形遊び」① ー演習と観察 【演習＋ペア学習】	事前学習	テキスト pp. 58～65を読む。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第6回	図画工作科の内容と教育的意義 2 A表現「造形遊び」② ー学習過程の分析と授業評価 【講義＋グループディスカッション】	事前学習	ワークシートで足りなかった個所を充実させてくる。	
		事後学習	【レポート課題①】造形遊びについての気づき、感想をまとめる。(1500字程度)	
第7回	図画工作科の内容と教育的意義 3 A表現「絵や立体、工作に表す」① ー美術教育のマニュアル化を考える 【講義＋グループディスカッション】	事前学習	テキスト pp. 179～180を読む。	
		事後学習	【レポート課題②】美術教育におけるマニュアル化についての考えをまとめる。(500字程度)	
第8回	図画工作科の内容と教育的意義 4 A表現「絵や立体、工作に表す」② ー表現と鑑賞活動の関連性を理解する 【演習＋講義】	事前学習	テキスト pp. 90, 95, 141を読む。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第9回	図画工作科の内容と教育的意義 5 A表現「絵や立体、工作に表す」③ ー学びを深めるためのツールとメディア ーワークシートのデザインと教材及びICT活用	事前学習	第8回制作課題を終わらせる。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	

		【演習+講義】	
第10回	図画工作科の内容と教育的意義 6 B鑑賞ア-ことば・対話・身体・感覚による鑑賞の体験的理解と授業デザイン 【グループワーク】	事前学習	テキスト p.138～140, p.142 を読む。
		事後学習	【レポート課題③】鑑賞教育についての考えをまとめる。(500字程度)
第11回	指導案作成① 題材研究及び授業展開の構想 【グループワーク】	事前学習	テキスト pp.171～174 を読む。
		事後学習	ワークシートに題材を経験して得た気づき、理解をまとめる。
第12回	指導案作成② 題材観及び評価規準の設定、授業展開の再検討 【グループワーク】	事前学習	ワークシートに授業展開をまとめる。
		事後学習	授業設計と本時の展開を完成させる。
第13回	指導案作成③ 導入方法を検討する 【グループワーク】	事前学習	導入の方法と展開を考えてくる。
		事後学習	模擬授業に向けて練習をする。
第14回	模擬授業と授業研究会② (後半グループ) 【グループワーク】	事前学習	模擬授業の準備 (参考作品、資料、ワークシートの作成など)
		事後学習	模擬授業を実施しての気づきをポートフォリオにまとめる。
第15回	授業のまとめとふりかえり (最終課題)	事前学習	これまでの学習内容をふり返り、図画工作科の目標と意義を自分の言葉でまとめてくる。
		事後学習	ポートフォリオにこれまでの学習をまとめる。 第15回の授業内で出される最終課題を完成させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJMP2395
2. 授業担当教員	森本 昭宏		SJMP2295 EDEL2314
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作Ⅰ・Ⅱの単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	図画工作科教育の目標、育成を目指す資質・能力、「造形的な見方・考え方」を働かせる学習内容及び学びの方法についての概説や具体的な事例を通して、学校教育（公教育）で美術教育がおこなわれる教育的意義について理解を深めていく。併せて、授業分析や授業デザインの演習、模擬授業を通して、授業の組み立て方や評価規準設定の視点、指導案の書き方、指導方法について習得を目指す。		
8. 学習目標	1. 図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できる。 2. 造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができる。 3. 図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができる。 4. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 ポートフォリオの作成 (毎時間) ※詳細は第1回のガイダンスで説明する。 2 【レポート課題①】子どもの描画と発達について・立体作品の指導・評価について、それぞれ考えをまとめる。500字～ 【レポート課題②】表現と鑑賞活動についての気づき、感想をポートフォリオにまとめる。500字～		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 宮脇理 監修, 福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。 【参考書】 造形授業研究会編『図工の授業をデザインする』東洋館出版社。 文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できるか。 2. 造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるか。 3. 図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができるか。 4. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができるか。 ○評定の方法 授業内の課題…30% ポートフォリオ…40% 最終課題…30%		
12. 受講生へのメッセージ	子どもの表現に関わる資質・能力をバランスよく育成させるためには、造形遊びや工作の活動、絵や立体の中で、子どもが納得するまでつくりだしていくことが大切である。特に再構成 (つくり、つくりかえ、つくる) を満足いくまで持たせる学習活動が必要であろう。このことは造形指導をする指導者にも、幅広い経験と深い学びが必要であると考える。今までの演習に併せて、実際に教育現場で指導することを想定した、実践者としての視点で捉えていく。図画工作Ⅰ・Ⅱの単位を修得した後に履修することが望ましい。 【注意事項】 1. 模擬授業等の活動で用いられる様々な工作や絵の材料・用具は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2. 必ず汚れて良い服装で出席すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス：講義の目的・概要及び評価について／「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか①ーこれまでの学習経験のふりかえり	事前学習	「私の図画工作科の経験」を記述してくる。
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。
第2回	「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか②ー子どもの具体的な姿から考察する 【映像鑑賞＋グループディスカッション】	事前学習	学習指導要領解説 pp. 9～p. 16 を読む。
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。
第3回	図画工作科の歴史の変遷と内容概観-目標、資質能力、教科内容、カリキュラム構造、評価規準、教育的課題について 【講義】	事前学習	学習指導要領解説 pp. 1～8、テキスト pp. 2～5 を読む。
		事後学習	学習指導要領ワークシートに記入する。
第4回	造形表現領域の発達段階の理解と児童の個性・多様性を保持した学習環境デザイン 【講義】	事前学習	テキスト p. 52～53 を読む。
第5回	図画工作科の内容と教育的意義 1 A 表現「造形遊び」①ー演習と観察 【演習＋ペア学習】	事前学習	テキスト pp. 58～65 を読む。
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。
第6回	図画工作科の内容と教育的意義 2 A 表現「造形遊び」②ー学習過程の分析と授業評価 【講義＋グループディスカッション】	事前学習	ワークシートで足りなかった個所を充実させてくる。
		事後学習	【レポート課題①】造形遊びについての気づき、感想をまとめる。(800字程度)
第7回	図画工作科の内容と教育的意義 3 A 表現「絵や立体、工作に表す」①ー美術教育のマニュアル化を考える 【講義＋グループディスカッション】	事前学習	テキスト pp. 179～180 を読む。
		事後学習	【レポート課題②】美術教育におけるマニュアル化についての考えをまとめる。(500字程度)

第8回	図画工作科の内容と教育的意義4 A表現イ「絵や立体、工作に表す」② ー表現と鑑賞活動の関連性を理解する 【演習+講義】	事前学習	テキスト pp. 90, 95, 141 を読む。
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。
第9回	図画工作科の内容と教育的意義5 A表現イ「絵や立体、工作に表す」③ ー学びを深めるためのツールとメディア ーワークシートのデザインと教材及び ICT 活用法 【演習+講義】	事前学習	第8回の制作課題を終わらせる。
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。
第10回	図画工作科の内容と教育的意義6 B鑑賞アーことば・対話・身体・感覚による鑑賞の体験的理解と授業デザイン 【グループワーク】	事前学習	テキスト p. 138~140, p. 142 を読む。
		事後学習	【レポート課題③】鑑賞教育についての考えをまとめる。(500字程度)
第11回	指導案作成① 題材研究及び授業展開の構想 【グループワーク】	事前学習	テキスト pp. 171-174 を読む。
		事後学習	ワークシートに題材を経験して得た気づき、理解をまとめる。
第12回	指導案作成② 題材観及び評価規準の設定、授業展開の再検討 【グループワーク】	事前学習	ワークシートに授業展開をまとめる。
		事後学習	授業設計と本時の展開を完成させる。
第13回	指導案作成③ 導入方法を検討する 【グループワーク】	事前学習	導入の方法と展開を考えてくる。
		事後学習	模擬授業に向けて練習をする。
第14回	模擬授業と授業研究会② (後半グループ) 【グループワーク】	事前学習	模擬授業の準備 (参考作品、資料、ワークシートの作成など)
		事後学習	模擬授業を実施しての気づきをポートフォリオにまとめる。
第15回	授業のまとめとふりかえり (最終課題)	事前学習	これまでの学習内容をふり返り、図画工作科の目標と意義を自分の言葉でまとめてくる。
		事後学習	ポートフォリオにこれまでの学習をまとめる。第15回の授業内で出される最終課題を完成させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2単位)		3. 科目番号	EDEL2314
2. 授業担当教員	池内 慈朗			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作Ⅰ・Ⅱ履修後が望ましい。			
7. 講義概要	図画工作科教育の目標、育成を目指す資質・能力、「造形的な見方・考え方」を働かせる学習内容及び学びの方法についての概説や具体的な事例を通して、学校教育（公教育）で美術教育がおこなわれる教育的意義について理解を深めていく。併せて、授業分析や授業デザインの演習、模擬授業を通して、授業の組み立て方や評価規準設定の視点、指導案の書き方、指導方法について習得を目指す。			
8. 学習目標	1. 図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できる。 2. 造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができる。 3. 図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができる。 4. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 ティーチング・ポートフォリオの作成と提出（詳細は授業中に説明する） 2 【レポート課題①】 図画工作科の教育的意義についてポートフォリオにまとめる。500字～ 【レポート課題②】 鑑賞活動についての気づき、感想をポートフォリオにまとめる。500字～ 【レポート課題③】 評価規準（ルーブリック）の作成と感想をポートフォリオにまとめる。1500字			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 宮脇理 監修、福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。 【参考書】 造形授業研究会編『図工の授業をデザインする』東洋館出版社。 文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できるか。 2. 造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるか。 3. 図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができるか。 4. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができるか。 ○評定の方法 授業内の課題…30% ポートフォリオ…40% 最終課題…30%			
12. 受講生へのメッセージ	小学校図画工作科専科の教員を配置している都道府県、市町村は少なく、小学校教員のほとんどは図画工作科を指導することになる。図画工作（美術）を苦手になっている人も、そうでない人も、色やかたちによる表現と鑑賞による造形教育のよさを感じ、楽しみながら（子どもの気持ちになって！）、意味やコトを紡ぎだす教科特性を持つ図画工作科への理解を深めていきたい。併せて、実際に教育現場で指導することをイメージしながら受講することでより実践的な視点を獲得したい。			
13. オフィスアワー	木曜 3限前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス：講義の目的・概要及び評価について／「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか① - これまでの学習経験のふりかえり	事前学習	「私の図画工作科の経験」を記述してくる。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第2回	「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか② - 子どもの具体的な姿から考察する 【映像鑑賞＋グループディスカッション】	事前学習	学習指導要領解説 pp. 9～p. 16 を読む。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第3回	図画工作科の歴史の変遷と内容概観-目標、資質能力、教科内容、カリキュラム構造、評価規準、教育的課題について 【講義】	事前学習	学習指導要領解説 pp. 1～8、テキスト pp. 2～5 を読む。	
		事後学習	学習指導要領ワークシートに記入する。	
第4回	造形表現領域の発達段階の理解と児童の個性・多様性を保持した学習環境デザイン 【講義】	事前学習	テキスト p. 52～53 を読む。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第5回	図画工作科の内容と教育的意義 1 A 表現「造形遊び」① - 演習と観察 【演習＋ペア学習】	事前学習	テキスト pp. 58～65 を読む。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第6回	図画工作科の内容と教育的意義 2 A 表現「造形遊び」② - 学習過程の分析と授業評価 【講義＋グループディスカッション】	事前学習	ワークシートで足りなかった個所を充実させてくる。	
		事後学習	【レポート課題①】 造形遊びについての気づき、感想をまとめる。(1500字程度)	
第7回	図画工作科の内容と教育的意義 3 A 表現「絵や立体、工作に表す」① - 美術教育のマニュアル化を考える 【講義＋グループディスカッション】	事前学習	テキスト pp. 179～180 を読む。	
		事後学習	【レポート課題②】 美術教育におけるマニュアル化についての考えをまとめる。(500字程度)	
第8回	図画工作科の内容と教育的意義 4 A 表現「絵や立体、工作に表す」② - 表現と鑑賞活動の関連性を理解する 【演習＋講義】	事前学習	テキスト pp. 90, 95, 141 を読む。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	
第9回	図画工作科の内容と教育的意義 5 A 表現「絵や立体、工作に表す」③ - 学びを深めるためのツールとメディア - ワークシートのデザインと教材及び ICT 活用	事前学習	第8回の制作課題を終わらせる。	
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。	

		【演習+講義】	
第10回	図画工作科の内容と教育的意義 6 B鑑賞ア-ことば・対話・身体・感覚による鑑賞の体験的理解と授業デザイン 【グループワーク】	事前学習	テキスト p.138~140, p.142 を読む。
		事後学習	【レポート課題③】鑑賞教育についての考えをまとめる。(500字程度)
第11回	指導案作成① 題材研究及び授業展開の構想 【グループワーク】	事前学習	テキスト pp.171-174 を読む。
		事後学習	ワークシートに題材を経験して得た気づき、理解をまとめる。
第12回	指導案作成② 題材観及び評価規準の設定、授業展開の再検討 【グループワーク】	事前学習	ワークシートに授業展開をまとめる。
		事後学習	授業設計と本時の展開を完成させる。
第13回	指導案作成③ 導入方法を検討する 【グループワーク】	事前学習	導入の方法と展開を考えてくる。
		事後学習	模擬授業に向けて練習をする。
第14回	模擬授業と授業研究会② (後半グループ) 【グループワーク】	事前学習	模擬授業の準備 (参考作品、資料、ワークシートの作成など)
		事後学習	模擬授業を実施しての気づきをポートフォリオにまとめる。
第15回	授業のまとめとふりかえり (最終課題)	事前学習	これまでの学習内容をふり返し、図画工作科の目標と意義を自分の言葉でまとめてくる。
		事後学習	ポートフォリオにこれまでの学習をまとめる。 第15回の授業内で出される最終課題を完成させる。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	スクールソーシャルワーク実習指導 (1単位)	3. 科目番号	SSMP3488
2. 授業担当教員	大門 俊樹		SCMP3488 SPMP3388
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	(1) スクールソーシャルワーク実習の意義について理解する。(2) 学校現場を知り、学校組織について体験的に学ぶ。(3) スクールソーシャルワーク実習に関わる個別指導や集団指導を通して、学校におけるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術について具体的に理解し、実践的な技術を身につける。(4) 教育現場でのソーシャルワーク実践を行う社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、教育課題に総合的に対応できる能力を身につける。(5) 具体的体験や援助活動を専門的援助技術として概念化・理論化・体系化していくことができる能力を身につける。(6) 既存の実践現場ではなく、新たな実践現場に入っていき意義を十分に理解し、開拓的視点を身につける。		
8. 学習目標	スクールソーシャルワーク教育課程で学んだ内容をもとに、学校現場等での実習を通して、学校現場が抱える多くの課題にソーシャルワークの視点から対応できるようになる。特に、新たな実践現場である学校組織をよく知り、教員との連携はもとより、保護者や関係機関、地域との連携まで視野に入れた実践が展開できる能力も身につけることを目指す。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	(1) 授業期間中に、学校または子ども支援に関する施設へボランティアとして行き、フィールド体験を行うとともに、その内容と成果についてレポートにまとめる。(2) 実習校への事前訪問を行い、その内容について報告する。(3) それ以外の課題については、授業中に指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 門田光司・鈴木庸裕『ハンドブック・学校ソーシャルワーク演習～実践のための手引～』 ミネルヴァ書房、2010。 【参考書】 米川和雄編著『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房、2010。 門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと 学校ソーシャルワーク実践ガイド』 中央法規、2009。 日本学校ソーシャルワーク学会『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規、2008。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1) スクールソーシャルワーク実習の意義について理解し、説明できるか。 2) 学校現場を知り、学校組織について体験的に学び、説明できるか。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合的に評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の20% 2 レポート 総合点の50% 3 フィールド体験とそのレポート 総合点の15% 4 実習校への事前訪問及びその内容報告 総合点の15%		
12. 受講生への メッセージ	1. 本授業の受講については次の点が前提となる。 ・3年次にソーシャルワーク実習を終了していること。 ・社会福祉士または精神保健福祉士の国家資格取得に向けて十分な学習をし、基本的知識と技術を備えていること。 ・スクールソーシャルワーク実習に行く準備をしていること。 2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 3. 授業中は携帯電話やPHS等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 4. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F評価とする。 5. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前に出ること。 6. 授業中に指示された課題の提出期限は厳守すること。		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (内容・進め方・評価方法・スクールソーシャルワーク実習について)	事前学習	スクールソーシャルワーク実習のイメージをした上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーク実習についてわかったことをまとめる。
第2回	実習の心構えと準備①	事前学習	「なぜ実習に行くのか」について考えた上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーク実習の特性についてまとめる。
第3回	実習の心構えと準備②	事前学習	実習の流れについて理解した上で授業に臨む。
		事後学習	実習前に身に付けておくべき事項をチェックした上で、どのようにして身に付けるか考える。

第4回	実習課題の設定	事前学習	自分の実習課題について考えた上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーカーの配置形態別内容についてまとめる。
第5回	実習記録と記録方法、スクールソーシャルワーカーとしての資質	事前学習	実習記録と記録方法について理解した上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーカーとしての資質について確認し、どのようにしてそうした資質を身に付けるか考える。
第6回	スクールソーシャルワークの支援方法1 (スクールソーシャルワークの目的、支援方法、アセスメント)	事前学習	テキスト第2章の pp. 18～42 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	アセスメントシートの記入方法を理解する。
第7回	スクールソーシャルワークの支援方法2 (ジェノグラム・エコマップ・子どもの支援計画)	事前学習	テキスト第2章の pp. 42～53 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	ジェノグラム・エコマップを描いてみる。
第8回	ゲストスピーカーを迎えて1	事前学習	ゲストスピーカーに質問したいことを考える。
		事後学習	ゲストスピーカーの話から得たことをまとめる。
第9回	不登校の子どもたちへの支援1	事前学習	テキスト第3章の pp. 54～65 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	不登校の子どもたちの支援についてまとめる。
第10回	不登校の子どもたちへの支援2	事前学習	テキスト第3章の pp. 65～71 の事例をよく読み、アセスメントシートを作成してみる。
		事後学習	p. 70 の「支援の振り返り」を考える。
第11回	ゲストスピーカーを迎えて2	事前学習	ゲストスピーカーに質問したいことを考える。
		事後学習	ゲストスピーカーの話から得たことをまとめる。
第12回	児童虐待を受けている子どもたちへの支援1	事前学習	テキスト第3章の pp. 71～79 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	児童虐待を受けている子どもたちへの支援についてまとめる。
第13回	児童虐待を受けている子どもたちへの支援2	事前学習	テキスト第3章の pp. 79～89 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	p. 89 の「支援の振り返り」を考える。
第14回	実習校への事前訪問	事前学習	実習校の概要を調べ、まとめる。
		事後学習	事前訪問でわかったことをまとめる。
第15回	まとめ(スクールソーシャルワークによる子どもたちへの支援について総合的に考える)	事前学習	テキストの事例を一つ取り上げ、熟読する。
		事後学習	選んだ事例の「支援の振り返り」を考える。

1. 科目名 (単位数)	生活科指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJMP3393 SJMP3293 EDEL3318 JEEL2626
2. 授業担当教員	沼澤 清一		
4. 授業形態	プレゼンテーション、ディスカッション、グループ学習、ロールプレイ、模擬授業 (実習) 講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	生活科の特質は、直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活ができるようにすることにある。本科目では、生活科の趣旨や目標・内容を理解した上で、2年間にわたる指導計画や学習指導案の作成を行ったり、模擬授業を行ったりするなどの具体的な実践を伴いながら生活科の指導方法について学習する。その中で、子どもが知的好奇心・探求心をもって主体的に学ぶ学習が成立するための方策について具体的に追求する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活科の目標、内容、全体構造及び指導上の留意点について理解する。 生活科の特質、子どもの実態を視野に入れた学習指導案及び教材を作成できるようになる。 模擬授業の実施を通して、授業の批判的検討及び授業改善ができるようになる。 適切な学習評価について理解し、実践できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【課題】</p> <p>課題1：子どもを引きつける生活科の教材開発</p> <p>課題2：学習指導案の作成</p> <p>【レポート課題】</p> <p>「生活科の授業展望」 1000字程度</p> <p>【振り返りシート】</p> <p>講義の終了後、講義によって何が解決され、何が解決されなかったのか、また、自分自身はどのような考えを持ったのかなどについてまとめ、講義終了の3日後までに提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>小学校学習指導要領解説 生活編 (平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>【参考書】</p> <p>小学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 生活科の目標や内容、特徴を踏まえて指導計画をつくることができる。 指導計画をもとに適切な授業を行うことができる。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業への積極性 (発言・模擬授業の実施等) 総合点の20% 日常の学習状況 (出席・提出物) 総合点の30% 課題レポート (中間・期末) 総合点の50% 		
12. 受講生へのメッセージ	教師は、子ども以上に「はてな？」をもって身の回りの環境に目を向け、子どもに負けない知的好奇心・探究心をもって教材開発を楽しむことが大切です。気づきを基に学ぶことの楽しさを児童と共有できるような教師を目指して頑張りましょう！		
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	「授業の概要と目標の理解」 ・本授業の目標と内容について理解し、学びの見通しを持つ。 「現代の子どもと子どもを取り巻く環境についての考察と理解」 ・子どもの実態に目を向け、授業設計に活かせるようにする。	事前学習	・本授業において自身が学びたいことや身につけたいことなど、自身の目標を立ててくる。
		事後学習	・自身の目標の修正を行うとともに、実際の子どもの観察を行い、子ども理解を深める。
第2回	「学習指導要領の内容と生活科学習の特徴の理解」 ・生活科の目標・内容・特質・意義・役割等について、学習指導要領を基に理解する。	事前学習	・学習指導要領の生活科に関わる箇所を読み、自分なりに生活科について特徴をおさえる。
		事後学習	・生活科の特徴について、事前学習で自分なりにおさえた特徴に追記、修正を行う。
第3回	「生活科の実践事例(1)」 ・朝の会・帰りの会との連携を図り、学びの場を構築する指導方法のあり方について理解を図る。	事前学習	・朝の会・帰りの会の内容をふり返り、その意義についてまとめておく。
		事後学習	・指導目的と方法についてまとめておく。
第4回	「生活科の実践事例(2)」 ・授業後の調べ学習の記録である日記指導の指導方法、そのための授業構成のあり方について理解を深める。	事前学習	・「日記」のあり方について自分の経験をふり返り、まとめておく。
		事後学習	・授業と授業の間を生かした日記指導を取り入れることによる授業構成についてまとめておく。
第5回	「生活科の実践事例(3)」 ・学級通信をもとに授業実践を読み取る。授業構成と追究課題の提示の仕方など、生活科の授業を支える指導のあり方について理解を深める。	事前学習	・内容「季節の変化と生活」について、学習指導要領解説の記述を読み、理解しておく。
		事後学習	・学習指導要領解説内の内容「季節の変化と生活」と実践事例を見比べ、具体を伴って内容を理解できるようにする。
第6回	「模擬授業の実施と批判的検討 (内容: 地域と生活) 及び学習指導案の改善」	事前学習	・学習指導案と教材を見直し、模擬授業ができる準備をする。

		事後学習	・模擬授業や振り返りを受けて、特に授業設計に焦点をあてて学習指導案や教材の修正、改善を行う。
第7回	「模擬授業の実施と批判的検討(内容:地域と生活)及び学習指導案の改善」	事前学習	・学習指導案と教材を見直し、模擬授業ができる準備をする。
		事後学習	・模擬授業や振り返りを受けて、特に授業設計に焦点をあてて学習指導案や教材の修正、改善を行う。
第8回	「模擬授業の実施と批判的検討(内容:地域と生活)及び学習指導案の改善」	事前学習	・学習指導案と教材を見直し、模擬授業ができる準備をする。
		事後学習	・模擬授業や振り返りを受けて、特に授業設計に焦点をあてて学習指導案や教材の修正、改善を行う。
第9回	「模擬授業の実施と批判的検討(内容:地域と生活)及び学習指導案の改善」	事前学習	・学習指導案と教材を見直し、模擬授業ができる準備をする。
		事後学習	・模擬授業や振り返りを受けて、特に授業設計に焦点をあてて学習指導案や教材の修正、改善を行う。
第10回	「模擬授業の実施と批判的検討(内容:地域と生活)及び学習指導案の改善」	事前学習	・学習指導案と教材を見直し、模擬授業ができる準備をする。
		事後学習	・模擬授業や振り返りを受けて、特に授業設計に焦点をあてて学習指導案や教材の修正、改善を行う。
第11回	「模擬授業の実施と批判的検討(内容:地域と生活)及び学習指導案の改善」	事前学習	・学習指導案と教材を見直し、模擬授業ができる準備をする。
		事後学習	・模擬授業や振り返りを受けて、特に指導方法に焦点をあてて学習指導案や教材の修正、改善を行う。
第12回	「生活科の授業の実際(指導の留意点と評価)」 ・模擬授業や振り返りを受けて、特に授業設計に焦点をあてて学習指導案や教材の修正、改善を行い、生活科の授業のあり方について理解を深める。	事前学習	・自身の模擬授業、学習指導案及び教材を見直し、良かった点、改善点をまとめておく。
		事後学習	・実際の授業実践と自身の模擬授業、学習指導案及び教材を比較し、修正改善を行う。
第13回	「効果的な教材の作成と活用」 ・生活科の特質に合わせて、授業設計に効果的に活用できる教材(情報機器の効果的な活用を含む)を作成する。	事前学習	・生活科の効果的な教材について実践事例を調べてくる。
		事後学習	・作成した教材の見直し、修正、改善を行い、教材を完成させる。
第14回	「学びの共有」 ・第12回でまとめた内容をグループで共有し、交流を通して全体に伝える。	事前学習	・第12回での学びを伝える準備をする。
		事後学習	・共有後の更なる学びについてまとめておく。
第15回	「生活科授業のあり方、授業のまとめ」 ・生活科という教科の特質について振り返るとともに、その特質を活かした授業を設計する際のポイント、留意点について確認を行う。	事前学習	・今までの学習を振り返り、生活科の特質やポイントについて発表ができるようにしておく。
		事後学習	・生活科の特質やポイントについて、理解しやすいように簡潔にまとめる。

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・家政 (2単位)	3. 科目番号	SNMP3107
2. 授業担当教員	杉山 憲江		
4. 授業形態	講義・調理実習・グループディスカッションなど	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	在宅介護において食生活に対する援助が必要となる。この授業では栄養・調理についての知識及び技術を身につけ、日常生活の支援方法を学習していく。献立作成や簡単な栄養計算、基本的な調理、生活習慣病の予防、高齢者や身体障害者の食事、保存食づくり、食品衛生に関する実験などを講義・実習・ディスカッションを通して行い、高齢者や身体障害者が食生活を楽しく営むことができるようにその支援能力を養う。		
8. 学習目標	日常生活における支援方法を確実に自己学習内容として実践できる。 1. 食生活に関する様々な技能を身につける。 2. 食生活において高齢者や身体障害者の生活支援に必要な知識を獲得できる。 3. 高齢者や身体障害者の食生活支援に必要な知識・技術を習得することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題1 ・切り方、調理の仕方について実習活動中に評価する。普段の生活のなかで包丁使いについて練習しておくこと。 課題2 ・実習レポート・自主献立 (栄養価、テーマ性、材料調達、レシピ)を作成して調理活動をする。その過程を含めて、レポートに表わして調理実習ごとに提出すること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】『居宅グループホームにおける簡単おいしい介護食ー基礎知識とレシピ 200ー第2版』第一出版 【参考書】介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第4版』中央法規。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 ・食生活に関する様々な技能が身についたか。 ・食生活において高齢者や身体障害者の生活に支援に必要な知識を獲得できたか。 ・高齢者や身体障害者の食生活支援に必要な知識・技術を習得できたか。 ○評定の方法 ・授業への積極性 30% ・野菜の切り方など実習技術 20% ・実習レポート (1~6回) 30% ・自主献立による実習及び実習への積極性 20%		
12. 受講生への メッセージ	生活支援における専門的知識や技術の獲得をめざす授業をともに創り上げたいと願っていますが、特に調理実習などの場合の身支度などの準備やグループワークにおける協力性を発揮してより高い学びあいを行えるよう期待しています。ですから疑問点は随時質問し積極的に取り組んでください。		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)に周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション シラバスの説明、高齢者の摂食活動の機能 実習グループづくり、調理実習室の使用の仕方、調理実習の内容、準備、後片付けの仕方など	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しを持つ。
第2回	高齢者の食生活 調理の目標、調理の基本、器具操作、計量の仕方、材料の切り方	事前学習	教科書第1章に目を通して学習の概要について理解したうえで授業に臨むこと。
		事後学習	食事バランスガイド表の使い方について理解し自分の生活に取り入れていく。
第3回	調理実習1 (体の具合が悪い時の食事) 病人食(米・粥の種類、卵豆腐の作り方、留意点)	事前学習	教科書一コラム欄を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	実習を通して理解できた学び米に対する地域の確認など課題をワークシートにまとめて提出する。 自分の食生活に取り入れ健康生活に役立てていく。
第4回	食べる機能に合わせた食事 歯の機能低下・嚥下機能低下の問題点 調理器具・熱源・給排水の取り扱い 小麦粉・だし汁に対する知識	事前学習	教科書第3章に目を通して学習の概要について理解したうえで授業に臨むこと。
		事後学習	日常の食事作りの技能として活用し、習熟していく。 実習を振り返りワークシートの提出をし、知識確認をして自分の食生活に取り入れ健康生活に役立てていく。
第5回	調理実習2 (春の献立) 群馬の食生活うどん作り、だし汁の取り方、春野菜の切り方	事前学習	教科書 pp. 38~45 を読んで学習の概要について理解したうえで授業に臨むこと
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。 自分の食生活に取り入れ健康生活に役立てていく。
第6回	食品の調理操作 高齢者の食事、介護食の進め方	事前学習	教科書第4章に目を通して学習の概要について理解したうえで授業に臨むこと。

		事後学習	高齢者の食事のポイントを理解し高齢者の食事と調理をワークシートにまとめて提出する。
第7回	調理実習3（夏の献立） 水分補給・福祉調理 （葉菜調理、キザミ食、炊飯、とろみ食）	事前学習	教科書 pp. 46～57 を読んで夏の食事における高齢者食事への配慮について読み授業に臨むこと。
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。
第8回	生活習慣病予防の食事 （生活習慣病予防の食事のポイント、献立の立て方）	事前学習	教科書 pp. 118～131 を読んで減塩・肥満防止と食事の関係を読み授業に臨むこと。
		事後学習	減塩・肥満防止に対する場合の食事のポイントをまとめておくこと。
第9回	調理実習4（生活習慣病予防の食事） 栄養管理を必要とする治療食 カルシウム食 カリウム食 減塩食 魚の扱い（魚のおろし方、魚料理）	事前学習	カルシウム食 カリウム食について教科書 pp. 132～138 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。自分の食生活に取り入れ健康生活に役立てていく。
第10回	野菜の切り方と実技試験 （きり方・包丁の扱い）	事前学習	資料「野菜の切り方とその名称や使い方」を確認して授業に臨むこと。
		事後学習	自分の食生活に取り入れ、日常生活において包丁使用の機会を増やし、習熟を促す。
第11回	調理実習5（秋の献立） 秋の行事食 冬至食（南瓜、けんちん汁） 食べ物の旬と行事食との関係性についての理解	事前学習	事前に渡した資料を基に食べ物の旬を調べて授業に臨むこと。
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。
第12回	実験：食品衛生、食品の安全性について 行事にまつわる食事	事前学習	教科書第1章の4食中毒についてを読んで授業に臨んでください。
		事後学習	食品の安全・食中毒に対する対策についてまとめて自分の食生活にも取り入れ健康生活に役立てていく。
第13回	調理実習6（冬の献立） 冬の行事食 正月食（小豆粥・だて巻き）	事前学習	地域の行事食について高齢者に訊くなどしておく。事前に渡した資料を基に行事食を調べて授業に臨むこと。
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。
第14回	研究活動1 （自主献立の作成、グループ研究）	事前学習	テーマを挙げ、食品成分表・調理資料など準備して授業に臨むこと。
		事後学習	栄養価、テーマ性、材料調達、レシピについてグループの共通理解を図っておく。
第15回	調理実習7 研究発表（自主献立の実習と発表）	事前学習	グループで協力して買い物をし、食品材料を準備しておく。
		事後学習	実習を振り返りポスターセッションを仕上げ、カフェテリアに展示する。

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・環境 (2単位)	3. 科目番号	SNMP3108
2. 授業担当教員	杉山 憲江		
4. 授業形態	講義 実習 演習 実験	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>介護を要する人たちが尊厳を持って、日々その人らしく暮らしていけるよう支援するための考え方や技法の習得をめざしている。そこで本講義では、介護の現場において生活支援技術とともに、人間の欲求や人間生活の仕組みを理解し、すべての人が文化的で人間らしい生活を営むことができるよう支援できる力が必要となる。生活支援演習・実習を通して具体的に学びを深め、介護現場で役立つ実践力を養うことを目的とする。</p> <p>住生活では、建物の段差の計測や家事作業計画・介護作業計画・室内環境の整備・清掃技術・住居管理・防災の実習、さらに、老人・障害者に適した住居改善の事例を紹介しあい、支援のための演習・実習を行う。</p> <p>衣生活面においては、具体的な衣服の繕い・整理・保管・素材の鑑別実験・洗濯・染み抜き・漂白・しあげ・等の実習を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家事支援における介護技術を身につけ、実践することができる。 2. 要介護者の衣生活に適切に援助するための知識と技能を身につけ、実践することができる。 3. 要介護者の居住環境に対し適切な生活支援ができる知識と技能を身につけ、実践することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・製作作品(清拭用ミトン・基礎縫いを基にした小物)の提出。 ・「被服管理に関する実験(繊維、洗剤)」、「ゾーニング調べ」に関するワークシート提出。 ・演習(たたみ方・アイロンがけ)の技能と記録。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 1 第4版』中央法規 2017年。 東京商工会議所編『福祉住環境コーディネーター検定試験公式テキスト 3級 第5版』2019年。</p> <p>【参考書】 佐々井 啓編著『家政学ノート -社会福祉専門職ライブラリー』誠信書房。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事支援における介護技術を身につけ、実践することができるか。 ・要介護者の衣生活に適切に援助するための知識と技術を身につけ、実践することができるか。 ・要介護者の居住環境に対し適切な生活支援ができる知識と技術を身につけ、実践することができるか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性 30% ・演習・実験のレポート 40% ・提出物作品(ミント・小物) 30% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>この教科書は私たちが生きていくために行われる家事活動全般を対象としています。ですから授業は演習、実習、実験とさまざまな学習形態の活動を通して思考し、考察し、専門性をもった技能を身につけて欲しいと願って授業を組み立てていきます。より質の高い介護支援技能を身につけた人間性、自己研鑽に励むことを望みます。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション シラバスの説明(学習の内容、作品製作日程や提出日の確認、材料の準備について)	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しを持つ。
第2回	生活支援の視点(いろいろな生き方、暮らし方) ・イラストから受け取る家庭生活を想像していろいろな生き方、暮らし方があることを理解する。 ・日常生活における衣生活の手入れ・環境などに配慮した生活について学びあう。	事前学習	教科書第3章 pp.182~188 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	リサイクルマークなど環境整備における知識理解を図る。
第3回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎(1) ボタン付け、スナップ付け	事前学習	小物製作の製作計画を立て、裁縫道具・材料を準備する。
		事後学習	ボタン付け、スナップ付け、など技能の基礎を体験し、日常生活の中で習熟を図る。
第4回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎(2) 並み縫い、まつりぬい 布巾づくり	事前学習	裁縫道具の名称を理解したうえで、内容を確認し準備する。
		事後学習	製作した布巾を仕上げ、提出する。時間内に仕上がらない場合は自己学習で仕上げ提出する。
第5回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎(3)	事前学習	小物製作の製作計画を立て、裁縫道具・材料を準備する。

	小物制作	事後学習	小物製作実習を振り返り、工夫したところや日常生活における活用について考察し、作品とともに提出する。
第6回	家庭用品のミシン製作（清拭用ミトン） ミシンの使い方を学ぶ	事前学習	ミシン縫いに適する薄めタオル（フェイスタオル）1枚を用意する。
		事後学習	ミシンの使い方を振り返り、出来上がった作品（清拭用ミトン）を提出する。
第7回	被服管理に関する実験1 （着物の名称、浴衣のたたみ方、生活の中の整理整頓）	事前学習	教科書第3章 pp.233~235 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中で衣服・浴衣のたたみ方についての技能の習熟を図る。
第8回	被服管理に関する実験2 （繊維の特性、しみ抜き、布の性質、アイロンがけ）	事前学習	アイロンがけ練習用に適切な素材の衣服を用意する。（綿製・ニット）
		事後学習	日常生活の中で繊維の特性を理解し、アイロンがけ、しみ抜きなど技能の習熟を図っていく。
第9回	高齢者の被服 サイズの測り方、体型にあわせた衣服のデザインの直し方を学ぶ。	事前学習	事前に渡した参考資料を読んでから授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中で、ユニバーサルデザインに対する認識を図っていく。
第10回	衣生活における生活支援 繊維の特性に関する実験を通して布の性質を理解する。	事前学習	事前に渡した参考資料を読んでから授業に臨むこと。
		事後学習	実験を通して繊維や布の働きを知り、日常生活の中で活かすことができる。
第11回	暮らしやすい生活環境 住生活に関する空間環境、ゾーニング調べ	事前学習	教科書第2章「居住環境の整備」を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	活動を通してゾーニングの必要性を理解する。
第12回	高齢者・障害者の住居 住まいのバリアフリー考える。	事前学習	福祉住環境第3章「バリアフリーとユニバーサルデザイン」に目を通して授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中でバリアフリーを認識し、必要性を理解して知識ポイントの獲得しておく。
第13回	住生活とまちづくり 安全快適な住まいの整備1 住居の維持・管理	事前学習	福祉住環境第5章「安心できる住生活とまちづくりの内容」に目を通してから授業に臨むこと。
		事後学習	安全な住まいにおけるポイントを掴み知識理解を図っておく。
第14回	住まいの整備のための基本技術 安全快適な住まいの整備2 住居の改造・改築	事前学習	福祉住環境第4章「安全・安心・快適な住まい」に目を通してから授業に臨むこと。
		事後学習	住居の改造における重要点を掴み知識理解を図っていく。
第15回	福祉住環境コーディネーター3級 過去問からの演習	事前学習	事前に渡した参考資料を読んでから授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中で福祉住環境における工夫に気づき、住環境に対する理解を図っていく。

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・基本 I (4 単位)	3. 科目番号	SNMP1114
2. 授業担当教員	櫻井 恵美		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	介護概論を履修しておくこと。また、医学概論、心理学概論、コミュニケーション論と関連付け学習すること。		
7. 講義概要	介護を要する人たちが、尊厳をもって、日々その人らしく、快適に暮らしていけるように支援するための考え方や技法の習得を目指していく。具体的には、居住環境の整備を中心とし、より良く生活するための意義や目的、生活支援技術の基本を理解し、根拠に基づいた介護が展開できるよう授業を展開していく。		
8. 学習目標	生活支援技術・基本 I が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。 <ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な住居環境の整備について理解し、工夫することができる。 ・福祉用具を知り、自立に向けた住居環境の整備のために活用することができる。 ・状態の観察の視点と方法を理解し、バイタルサインの測定ができる。 ・ボディメカニクスの理解と活用を行い、適切な活動動作及び介助が行うことができる。 ・体位変換の方法を習得でき、安楽な方法を工夫することができる。 ・生活不活発病を理解することができ、それから発生する具体的な影響について理解できる。 ・異常の早期発見のために必要な視点を理解し、事故発生時の対応ができる。 ・AED を用いた心肺蘇生法を習得することができ、実践で活用できる。 ・終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持について考えることができる。 ・記録と報告の重要性を理解することができ、常に活用することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：①第7回より演習記録を記入し必ず提出して下さい。評定に反映されます。 ②第28回授業後「介護職員へのグリーフケアの在り方について」指定用紙1枚に自分の考えをまとめ提出する。 事前・事後学習シートを整理し、提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会『最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I』中央法規、2019 介護福祉士養成講座編集委員会『最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II』中央法規、2019 【教材】 ・DVD 白井孝子、櫻井恵美監修『根拠に基づく生活支援技術の基本』中央法規、2015 他 参考書については、適宜授業で紹介いたします。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1) 介護を要する人たちが、尊厳をもって、日々その人らしく、快適に暮らしていけるように支援するための考え方や技法の習得ができたか。 2) 居住環境の整備を中心とし、より良く生活するための意義や目的、生活支援技術の基本を理解し、根拠に基づいた介護が展開できたか。 ○評定の方法 [レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する] 1. 到達度確認試験 (実技試験) 30% 2. レポート 40% 3. 授業態度 30%		
12. 受講生へのメッセージ	「ここからだのしくみ」「介護概論」と関連付けながら学習し、ただ単に技術(テクニック)を覚えるのではなく、根拠(なぜそうなのか)に基づいた科学的な生活支援技術の習得を行ってください。 ・普段から自分の生活に興味・関心をもって受講して下さい。 ・実技の時は、介護しやすい指定の服装、介護にふさわしい身だしなみで授業に臨むこと。 ・理解できないことをそのまま放っておかないこと。 ・自主的に空いている時間にベッドメイキング等の練習に取り組んでください。 ・演習で使用する物品は大切に取り扱い、準備、片付けまで責任をもって行ってください。 ・演習の習得度によって、一部シラバスの順番を入れ替えることがあります。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。その他については、第1回で説明します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 「生活支援技術・基本 I」のねらいと単元の解説、 テーマ「記録と報告」① 記録の意義と目的、授業で使用する記録様式の種類と内容、書き方を理解する。	事前学習	シラバスを読んでおく。資料および演習ノート用ファイルを用意する。
		事後学習	今後の記録で実践できるよう、記録の方法や留意事項を整理する。
第2回	グループ編成 テーマ「加齢に伴う心身の変化と生活の変化」 老化に伴う身体的、精神的変化を理解し、社会的変化について考える	事前学習	加齢に伴う心身の変化について考える。
		事後学習	身近にいる高齢者を観察し、全体像を把握する。

第3回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」① 介護を要する人(特に高齢者)が安心して暮らすために必要な環境の整備を考える。	事前学習	高齢者の家庭内での事故について調べておく。
		事後学習	高齢者の居室における環境整備のポイントを整理する。
第4回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」② QOLの向上・安全・快適で自立した生活を維持するための生活環境確保を理解する。 プライバシー空間設営の意義・目的を理解する。	事前学習	高齢者にとつてのバリアフリーのメリットとデメリットについて考え、整理しておく。
		事後学習	高齢者の自立した生活を支えるために必要な知識について整理する。
第5回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」③ 自宅での生活と施設での生活を考えて、望ましい生活の場とは何か考える。	事前学習	福祉用具・住宅改修について調べておく。
		事後学習	要介護者の自立を支える環境整備の重要性について整理する。
第6回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」③ 特殊寝台とその付属品について理解する。	事前学習	ベッドと布団のメリット・デメリットについて整理しておく。
		事後学習	福祉用具が適切に使用できるよう使用上の留意点を整理し、実践できるようにする。
第7回	テーマ「介護に必要なボディメカニクス」① 介護実践を行う際、介護者の身体機能の活用と対象者の介助における活動において、最小の力で最大の介護実践を行う必要がある。その動作を身につける。	事前学習	自分の生活動作を確認する。
		事後学習	介護者の安全・安心・安楽について考え、今後の演習で実践できるようにする。
第8回	テーマ「介護に必要なボディメカニクス」② 具体的場面・動作におけるボディメカニクスの活用を行う。	事前学習	自分の生活動作の中で、ボディメカニクスが活用されている場面を考える。
		事後学習	ボディメカニクスの原理・原則を整理する。
第9回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」④ リネン類のたたみ方と収納の方法を習得する。 寝心地の良いベッドの作り方を習得する。 演習①シーツ、タオルケット、枕カバーのたたみ方 ②ベッドメイキング	事前学習	第6回の授業を振り返り、留意点を確認しておく。手洗いの方法について確認しておく。
		事後学習	心地よい寝床を整えるためのポイント、留意点を整理し演習ノートに記録する。
第10回	テーマ「記録と報告」② 考察の書き方を理解する。 報告の意義と目的、方法、受け方を理解する。 前回までの演習シートを修正しながら要点のまとめ方、考察の書き方を理解する。	事前学習	第1回の授業での要点を確認しておく。 第9回演習ノートの内容を確認しておく。
		事後学習	今後の演習ノートの記入において、他者にもわかりやすく記録できるようにする。
第11回	テーマ「安楽と安寧の技法」 介護における安楽の意義、目的を理解する。 介護における安楽の方法を習得する。	事前学習	自分と他者の姿勢の違いについて観察しておく。
		事後学習	生活の中の安楽な姿勢を意識する。
第12回	テーマ「安楽な体位の技法」① 体位の種類と特徴を理解する。安楽な体位と目的を理解する。	事前学習	基本姿勢について調べ、安楽姿勢との違いについて確認しておく。
		事後学習	基本姿勢、基本体位について整理する。
第13回	テーマ「生活不活発病」① ICFの概念と悪循環と良循環について学び、生活不活発病について理解する。	事前学習	ICFとICIDHの違いについて学習(確認)しておくこと。
		事後学習	生活不活発病が高齢者の生活に与える影響について考える。
第14回	テーマ「生活不活発病」② 寝たきり状態で起こる弊害について考え、離床の必要性を理解する。褥瘡のメカニズムを知り、予防の方法と対応について理解する。	事前学習	長時間同一体位で過ごした場合、身体の中のどの部位に苦痛を感じるか体験する。
		事後学習	褥瘡予防に必要な知識について整理する。
第15回	テーマ「安楽な体位の技法」② 体位変換の方法を習得し、側臥位による安楽な方法を工夫する。その他の体位の安楽な状態を理解する。 演習：体位変換	事前学習	第12回の授業を振り返り、基本体位について確認しておく。
		事後学習	体位変換の介助の留意点とポイントを整理し、演習ノートに記録する。
第16回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」⑤ シーツ交換の方法を習得する。 演習：臥床状態でのシーツ交換	事前学習	第9、11、12、15回の授業や演習ノート等を振り返り、要点を確認しておく。
		事後学習	寝心地の良いベッドメイキングが実践できるようにする。演習ノートに記録する。
第17回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」⑥ 演習確認小テスト：事例を踏まえた実践を行うことができる。	事前学習	第1～16回までの授業を振り返り、要点を整理し、実践できるようにしておく。
		事後学習	試験を振り返り、自己評価と点検を行う。
第18回	テーマ「福祉用具の概要と活用の方法」 福祉用具の意義・目的・種類・分類を理解する。 福祉用具の選択の方法と注意点・留意点について学習する。	事前学習	介護保険における貸与・支給福祉用具について調べておく。
		事後学習	介護福祉士に必要な福祉用具の知識について整理する。
第19回	テーマ「移動の介護」 福祉用具を用いて、安全に安楽に移動する技法を習	事前学習	車いすの各部の名称について調べておく。
		事後学習	移動介護の目的を整理し、移動介助における留意

	得する。 演習：車いす移動介助、杖歩行介助		意点、介護福祉士の役割を整理する。演習ノートに記録する。
第20回	テーマ「健康状態の観察」 健康状態の観察の視点と方法を理解するバイタルサインの測定の方法を習得する。体温、脈拍、呼吸、血圧の測定。	事前学習	朝・昼・夜の自分の体温、脈拍を計測し、確認しておく。
		事後学習	健康状態の変化を把握するための観察視点と方法について整理する。演習ノートに記録する。
第21回	テーマ「安楽と安寧の技法」 巻法の種類、意義、目的を理解する。 巻法の方法を習得する。 演習：氷枕の作り方と当て方	事前学習	電気毛布、使い捨てカイロの弊害について調べておく。
		事後学習	氷枕の作り方、当て方を整理する。 演習ノートに記録する。
第22回	テーマ「医療対応時の介護」 異常の早期発見のために必要な視点とその対応、事故発生時の応急手当（三角布、包帯などの活用）を習得する。	事前学習	救急車の呼び方について確認しておく。
		事後学習	緊急時における介護福祉士の役割について整理する。
第23回	テーマ「緊急事故時の対応」 介護と医行為を理解する。安全・安楽な生活を支援する事ができるように日常生活で発生しやすい主な事故を理解する。	事前学習	高齢者の施設において、どのような行為が医療行為なのかを考えておく。
		事後学習	緊急時や日常生活の介護において必要な知識について整理する。
第24回	テーマ「緊急事故時の対応」 薬剤の基礎知識と服薬方法を理解する。 治療食を食する人に対する介護者としての役割を理解する。	事前学習	治療食について調べておく。
		事後学習	日々の食事や生活上において起こりうる事故について整理し、その対応ができるようにしておく。
第25回	テーマ「緊急事故時の対応」(外部講師(予定)) AEDを用いた心肺蘇生法を習得する。	事前学習	通学途中や大学構内のAEDの設置場所を確認しておく。
		事後学習	心肺蘇生法やAEDを用いる際の留意点を整理する。
第26回	テーマ「緊急事故時の対応」(外部講師(予定)) AEDを用いた心肺蘇生法を習得する	事前学習	第23回の授業を振り返り、緊急時における介護福祉士の役割を確認しておく。
		事後学習	緊急時における介護、医療職の連携について整理する。
第27回	テーマ「終末期の介護」 終末期における尊厳の保持・事前意思確認等介護の意義・目的を理解する。終末期を迎える利用者の身体面・心理面・家族に対する支援のありかたを理解する。他職種との連携を理解する	事前学習	緩和ケアについて調べておく。
		事後学習	終末期のケアにおける介護福祉士の役割について整理する。
第28回	テーマ「終末期の介護」 危篤時から臨終までの症状の変化・死後のケアを理解する	事前学習	「死」を看取ることについて自分の考えをまとめておく。
		事後学習	レポート課題「介護職員へのグリーフケアの在り方について」自分の考えまとめる。A4用紙1枚。
第29回	実技確認試験 事例を通して生活支援技術の試験を行う。	事前学習	これまでの演習を振り返り、根拠に基づく、安全・安楽・安心な介助が実践できるようにしておく。
		事後学習	試験の振り返りを行い、自己評価と点検を行う。
第30回	生活視援技術実技の試験を振り返り、生活支援技術。基本Iのまとめを行う。	事前学習	自己評価・点検を踏まえ、修正・改善できるようにしておく。
		事後学習	事例の介護の根拠、手順、留意点を整理する。

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・形態Ⅰ (2単位)	3. 科目番号	SNMP2119
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義及び演習、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	生活支援技術・基本Ⅱを履修していること。		
7. 講義概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、「こころとからだのしくみ」の学びから根拠ある科学的な介護の知識や技術について習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性、生活障害者と介護のあり方についての知識と技術を身につける。 2. 虚弱高齢者の定義、健康管理のポイントについて理解し、説明することができる。 3. 寝たきり高齢者の基本的理解と寝たきりにさせない介護の在り方を考え、説明することができる。 4. 認知症高齢者の基本的理解と介護（認知症高齢者の理解、介護、日常生活の支援、家族支援、事故防止、虐待、身体拘束）についての知識を身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ② 各演習前に、生活支援技術・基本Ⅱを振り返り、留意点、手順、方法を確認しておく。 ② 演習を行ったことをレポートにまとめて提出する。提出に関してはその都度指示します。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会『新・介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ』第3版、中央法規、2019 その他、適宜授業中にプリントを配布する。 高齢者介護論Ⅰ・Ⅱの授業のノート及び資料</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性、生活障害者と介護のあり方についての知識と技術が身についたか。 2. 虚弱高齢者の定義、健康管理のポイントについて理解し説明ができたか。 3. 寝たきり高齢者の基本的理解と寝たきりにさせない介護の在り方を考えが説明し、実践できたか。 4. 認知症高齢者の基本的理解と介護（認知症高齢者の理解、介護、日常生活の支援、家族支援、事故防止、虐待、身体拘束）についての知識と方法が身についたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手順やまとめのミニレポート 60% 2. 授業態度 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援技術・基本Ⅱのノート、資料を活用してください。 ・授業で実践したことについて、レポート提出をしてもらいますので、そのことを踏まえて授業に臨んでください。 ・ただ単に技術（テクニック）を覚えるのではなく、「こころとからだのしくみ」「介護概論」と関連付けながら、根拠に基づいた生活支援技術を習得して下さい。 ・技術演習の利用者役と介護者役の体験から、援助の際の留意点を考えてください。 ・講義・演習ともに積極的に取り組み、提出物は必ず期限内に提出して下さい。 ・演習では、指定された服装、介護にふさわしい身だしなみで臨んでください。 ・演習で使用する物品は大切に取り扱い、準備、片付けまで責任をもって行ってください。 ・やむを得ず遅刻・早退・欠席する際は、必ずその理由を申し出、プリント等を取りに来てください。 		
13. オフィスアワー	第1回の講義で説明します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 実習Ⅰを振り返り、自らの技術を評価する。	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	自らが学んでいくことについて整理する。
第2回	虚弱高齢者への対応と支援について	事前学習	虚弱高齢者の特性を調べておく
		事後学習	虚弱高齢者の支援の方法について整理する。
第3回	寝たきり高齢者の介護① 介護実習Ⅰを振り返っての実践(1)	事前学習	生活不活発病について確認しておく。
		事後学習	実習Ⅰを振り返って自らの実践を整理する。 寝たきり予防のための具体的な支援について整理する。
第4回	寝たきり高齢者の介護② 介護実習Ⅰを振り返っての実践(2)	事前学習	基本姿勢・基本体位について確認しておく。
		事後学習	実習Ⅰを振り返って自らの実践を整理し、課題を明確にする。
第5回	寝たきり高齢者の介護③ ベッド上での移動の介助	事前学習	体位変換の介助の留意点、手順を確認しておく。
		事後学習	授業での実践を整理しレポートにまとめる。
第6回	寝たきり高齢者の介護④ 起居動作の介助	事前学習	自分の起き上がり動作について確認しておく。
		事後学習	授業での実践を整理しレポートにまとめる。
第7回	寝たきり高齢者の介護⑤	事前学習	嚥下・咀嚼のしくみについて確認しておく。

2020年度

	ベッド上での食事の介助	事後学習	授業での実践を整理しレポートにまとめる。
第8回	寝たきり高齢者の介護⑥ ベッド上での排泄介助	事前学習	排泄介助におけるプライバシーの保護について確認しておく。
		事後学習	授業での実践を整理しレポートにまとめる。
第9回	寝たきり高齢者の介護⑦ ベッド上での着脱	事前学習	高齢者のおしゃれについて、身近な高齢者を観察し考えておく。
		事後学習	授業での実践を整理しレポートにまとめる。
第10回	寝たきり高齢者の介護⑧ 移乗（ベッド⇄車いす）	事前学習	移乗介助の留意点と手順を確認しておく。
		事後学習	授業での実践を整理しレポートにまとめる。
第11回	寝たきり高齢者の介護⑨ 移動（車いす介助、ポジショニング）	事前学習	車いす介助の留意点と方法を確認しておく。
		事後学習	授業での実践を整理しレポートにまとめる。
第12回	認知症高齢者の介護① 認知症高齢者の定義、認知症の原因と症状	事前学習	認知症の原因疾患について調べておく。
		事後学習	認知症の中核症状、BPSDについて整理する。
第13回	認知症高齢者の介護② 認知症高齢者への対応の基本と社会資源	事前学習	配布する事例を読んでおく。自分が住んでいる地域にある認知症高齢者に対するサービスを確認しておく。
		事後学習	認知症高齢者への対応に必要な知識について整理する。
第14回	認知症高齢者の介護③ 事故防止対策、虐待や身体拘束の防止	事前学習	配布する資料を読んでおく。
		事後学習	認知症高齢者の尊厳を守ることについて、具体的に説明できるよう整理する。
第15回	認知症高齢者の介護④ 介護する家族への支援	事前学習	人間の『怒り』の感情について調べておく。
		事後学習	認知症高齢者が安心して生活するための環境について説明できるよう整理する。

1. 科目名 (単位数)	政治学 (国際政治を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1339 GELA1318
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「国際関係論」を履修予定の学生は本科目を選択することが望ましい。本科目の履修によって左記科目の学習を充実させることができます。		
7. 講義概要	景気対策、規制緩和、地域主権、社会保障、雇用問題など「政治」の場で議論される諸問題はマスメディア報道などを通して日々われわれの耳に入ってくる。わたしたちは、住みやすい社会をつくり、市民の生活水準の向上を図るための機能を「政治」と呼んでいる。本科目では政治学の基礎的な概念を理解し、歴史的事象、時事問題を事例として政治の仕組みについて考えていく。		
8. 学習目標	1) 政治学の基本概念について理解し、説明できる。 2) 現代社会を政治学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 具体的な公共政策を事例として当否の検討などをとおして政治参加に必要な意思決定ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習のうちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。また、講義配当時間の関係上、テキスト掲載のすべての章を取り扱うことはできないので、今回対象外とする章については以下に示す課題例を参考に各自で読み進めるようにしてください。各回で関連ある内容の章を紹介し、課題例はその都度補足します。 課題例： ①官僚と政治家どちらが信用できるのか。(第9章) ②戦前と戦後。日本をめぐる国際環境はどのように変わったのか。(第10章) ③「外圧」によって国内の仕組みが変わった？(第11章) ④環境問題の解決はなぜ難しいのか。(第12章) ⑤汚職に手を染めるものの経済発展を実現できる政治家と、清廉潔白で人間的に優れているが経済運営が下手な政治家。どちらが望まれるか。 ⑥若者は政治に無関心か？		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』有斐閣アルマ、2009年。 (以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 1) 久米郁男・川出良枝・古城佳子他『政治学』有斐閣、2011年補訂。 政治学的全領域をカバーする教科書を目指して編集された本書は、おおよその政治的トピックについては参照することが可能です。しかも日本の政治の動きをベースとして政治学概念を説明しており、日本の読者にとって理解しやすい記述をしてあることも特色です。教科書のレベルを卒業した学生向きです。 2) 砂原・稗田・多湖『政治学の第一歩』有斐閣、2015年。 3) 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 4) 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1)政治学の基本概念について理解し、説明できる。 2)現代社会を政治学の観点から見たり考えたりすることができる。 3)具体的な公共政策を事例として当否の検討などをとおして政治参加に必要な意思決定ができる。 ○評定の方法 成績評価の規準1)～3)についての達成度を以下の方法により評価する。 ・各受講生の参加意欲・態度(課題の提出状況も含む)について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業(ディスカッションなど)の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、試験・レポートから評価する。(40%) なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、こうしている間にも刻々と変化する社会を「政治」という視点から考えるものです。よって時にはテキストに書かれていないトピックが私たちの前に立ちはだかることがあります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。「政治学」について関心あるテーマがあれば授業時に提案してください。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自		

	覚を持って講義に参加することを期待します。	
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくはe-mailにて対応します。toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp	
14. 授業展開及び授業内容		
講義日程	授業内容	学習課題
第1回	オリエンテーション(シラバスを必ず持参すること。コピーでも可。) 政治学のテーマである「権力」について考察する。権力を行使する主体は何か、誰が権力を行使すべきか、権力の行使がなぜ認められるのかを考察する。	事前学習 テキスト pp. 239-246. に紹介されている用語についてよく知っているもの、聞いたことがあるが詳細を知らないもの、初見のものと同分類する。
		事後学習 本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のアサインメント(課題)に取り組む。
第2回	組織化された集団(鉄の三角同盟、フリーライダー)利益集団が組織されるのはなぜか。鉄の三角同盟、多元的民主主義の観点から考える。 いじめ問題など身近な事例で集合行為問題について考える。	事前学習 (第2回から第15回の事前学習) 前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。 ①なぜ特定の業界の利益が「政治」に守られるのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第3回	官と民の関係①(市場の失敗) 市場の失敗の観点から政府の役割について考える。	事前学習 ②市場の失敗を解決するためには何が必要か?
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第4回	官と民の関係②(政府の失敗) 政府の失敗を通して政府の限界について考察する。	事前学習 ③どうすれば政府の失敗をなくすことができるのか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第5回	大企業と政治①(規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 大企業の行動を事例として影響力資源について考える。	事前学習 ④企業はなぜ政権与党に政治献金をするのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第6回	大企業と政治②(規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 政策決定に影響力を及ぼすものは何かを考える。	事前学習 ⑤何が影響力資源となるのか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第7回	選挙と政治①(選挙制度) 政策投票をめぐる問題を中心に選挙について考察する。	事前学習 ⑥政策で投票する議員候補を選ぶのはどうして難しいのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第8回	選挙と政治②(政党の機能) 選挙制度の違いによって実現される世論はどう異なるのかを考える。	事前学習 ⑦政党の選挙での役割は何か。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第9回	地方分権①(国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 日本における地方自治のあり方を考える。 ※学外見学が可能な場合は「地方自治と教育行政」に内容を差し替えて実施	事前学習 ⑧日本における中央政府と地方の関係を説明しなさい。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第10回	地方分権②(国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 革新知事、革新市長はなぜ誕生したのかについて考える。	事前学習 ⑨地方政府の首長の役割とは。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。

			残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第11回	マスメディアと政治について考える①（第4の権力） 第4の権力とは何を意味するのかを考える。	事前学習	⑩テレビやラジオが法律で中立性を求められるのはなぜか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。 残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第12回	マスメディアと政治について考える②（政治過程への影響） 政策実現過程におけるマスメディアの役割について考察する。	事前学習	⑪マスメディアの影響力は強いのか、弱いのか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。 残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第13回	国会①（政治過程） 議院内閣制のもとでの国会の影響力について考える。	事前学習	⑫野党の国会戦術とは。国会のルールについて知ろう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。 残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第14回	国会②（立法） 日本を事例として国会で審議される法案を手掛かりに考察する。	事前学習	⑬日本とイギリス・アメリカの国会（立法）の特徴を指摘してみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。 残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第15回	内閣と総理大臣（議院内閣制、大統領制、行政1） 日本の内閣総理大臣とアメリカの大統領。 どちらがよりリーダーシップを行使できるのか考える。 リーダーシップを発揮するための条件に付いて考える。	事前学習	⑭総理大臣が短命（任期満了以前に早期退陣）なのはよくないことなのか。 pp. 239-246. に紹介されている用語についてどれだけ理解が進んだのか確認する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。 残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SCMP2127
2. 授業担当教員	長谷川 行雄		SPMP2427
4. 授業形態	講義、集団討議、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解をする。保健、医療、福祉等の各分野における相談援助の対象及び相談援助の基本的考え方を理解するとともに、各分野における相談援助に係る専門職や他職種の専門性などについても理解する。また、精神障害者の相談援助における権利擁護について、自己決定のあり方や権利擁護システムなどについて具体的に学ぶ。さらに、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について学ぶことを目的とする。		
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方。 ②相談援助に係る専門職（地域、行政、精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲 ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 ④精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題レポート① 「ライフステージにおけるメンタルヘルスの課題についてまとめ、精神保健福祉士の役割について論述しなさい」 課題レポート② 「精神保健福祉分野における権利擁護の意義と役割について、自立支援、利用者主体、自己決定など、多角的な視点を踏まえて考察し論述しなさい」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー 3（第6版）「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版、2017。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 精神保健福祉における相談援助の概要・対象・専門職・包括的支援・他職種連携・権利擁護などを理解しているか。 2. レポート課題にそった内容が論理的に述べられているか、正しい文法表記、適切な用語と漢字で記載されているか、提出期限が守られているか。 3. 授業を受ける基本的マナー（出席状況、持ち物、提出物など）および授業に積極的に参加しているか。 ○評定の方法 1 期末試験 : 総合点の40% 2 レポート : 総合点の40% 3 授業態度 : 総合点の20%		
12. 受講生へのメッセージ	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱは精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目の理解ができることで、精神保健福祉援助技術論、演習、実習へとつながることが出来ますので、しっかりと学ぶよう心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知する（時間割表掲載のオフィスアワー欄参照）。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	精神科ソーシャルワーク論Ⅰのふり返り 精神科ソーシャルワーク論Ⅱの授業概要 現代のメンタルヘルスに関わる問題についてディスカッション	事前学習	現代社会における様々なメンタルヘルスに関わる課題を新聞などで探してこること。
		事後学習	現代のメンタルヘルスの背景についてまとめること。
第2回	精神保健福祉分野における相談援助の体系① 相談援助の基本的考え方 ミクロからマクロ、ソーシャルワークの体系、実践モデル	事前学習	テキスト pp. 80～108 を読んで、実践モデルの変遷について理解してこること。
		事後学習	ソーシャルワークの体系および実践モデルについての要点をまとめること。
第3回	精神保健福祉分野における相談援助の体系② ソーシャルワークの基本的展開過程 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク	事前学習	テキスト pp. 108～127 を読んで、ケース、グループ、コミュニティの展開過程を理解してこること。
		事後学習	それぞれの展開過程における精神保健福祉士の役割と機能についてまとめること。
第4回	精神保健福祉分野における相談援助の体系③ 相談援助の対象 医療機関、地域生活支援、司法、精神保健福祉センターなど	事前学習	精神障害者が生活をする上で、どのような資源を利用するのかについて考えてこること。
		事後学習	それぞれの社会資源が対象とする利用者についてまとめること。
第5回	精神保健福祉分野における相談援助の体系④ 相談援助の現状と今後の課題	事前学習	テキスト pp. 19～33, pp. 177～192 を読んで、社会状況やライフステージについて理解をしてこること。

	ライフステージや職場・社会環境におけるメンタルヘルスの問題	事後学習	講義およびディスカッションによる学びをもとにして、課題レポート①を作成すること。
第6回	精神保健福祉に関わる専門職① 医療機関 メディカルスタッフ、コメディカルスタッフ	事前学習	テキスト pp.139~144 を読み、医療機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	メディカルスタッフ、コメディカルスタッフの役割についてまとめること。
第7回	精神保健福祉に関わる専門職② 福祉行政・関連行政機関 福祉事務所現業員、社会復帰調整官、障害者職業カウンセラー 等	事前学習	テキスト pp.144~148 を読み、福祉行政・関連行政機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	福祉行政・関連行政機関に配置されている専門職や職員の役割についてまとめること。
第8回	精神保健福祉に関わる専門職③ 地域福祉施設 生活相談員、職業指導員、サービス管理責任者、等	事前学習	テキスト pp.148~151 を読み、地域福祉施設にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	地域福祉施設に配置されている職員の役割についてまとめること。
第9回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲① 相談援助における権利擁護の概念と範囲	事前学習	テキスト pp.171~175 を読んで、精神障害者の権利について考えてくること。
		事後学習	精神障害者の権利を擁護することについて、歴史的背景および社会状況を踏まえまとめること。
第10回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲② 権利擁護システムと、当事者の自己決定、意思決定能力 キーワードに関するディスカッション	事前学習	テキスト pp.162~170 を読んで、当事者の自己決定と意思決定能力について考えてくること。
		事後学習	ディスカッションを通して学んだことを踏まえ、精神障害者の権利擁護についてまとめること。
第11回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲③ 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 事例を使ってディスカッション	事前学習	精神保健福祉士の倫理綱領を読み、権利擁護をどのように実践するのかについて考えてくること。
		事後学習	授業内容と事例に関するディスカッションを通して、課題レポート②を作成すること。
第12回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携① 総合的・包括的援助を支える理論と機能	事前学習	テキスト pp.152~163 を読んで、他職種連携について考えてくること。
		事後学習	精神保健福祉活動において、他職種連携の必要性についてまとめること。
第13回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携② 他職種連携とチームアプローチの意義と概要	事前学習	テキスト pp.152~163 を読んで精神保健福祉士が他職種と連携する上でのポイントをまとめてくること。
		事後学習	支援をする上で、他職種の連携がどのように機能するのかについてまとめること。
第14回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携③ 他職種連携における精神保健福祉士の役割 事例を使ったディスカッション	事前学習	支援者と当事者の連携にはどのようなメリットがあるかをまとめてくること。
		事後学習	事例を使ったディスカッションを通して、当事者や家族の参加による支援のあり方についてまとめること。
第15回	精神科ソーシャルワーク論Ⅱのまとめ テーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだことを確認してくること。
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科リハビリテーション学 (4単位)	3. 科目番号	SCMP2125				
2. 授業担当教員	大島 一成		SPMP2425				
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論	5. 開講学期	秋期				
6. 履修条件・他科目との関係							
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う精神科リハビリテーション業務の基本的知識を身につける。すでに学んだ精神医学の復習、これから学ぶ精神保健福祉論の予習にもなる。一般目標「障害者の全人間的復権」に、精神障害ならではの独自性を加えていく。その際の基本原則、プロセスはもとより、さまざまな技術や方法についても学ぶ。生活技能訓練については、特定のシナリオを用いてシミュレーション・トレーニングを行う。総じて、他職種と連携しながら国家資格としての専門性が発揮できる素地を造り上げる。また、総合支援法や医療観察法など、関連する新しい法律についても学習を促す。						
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科リハビリテーションの概念、原則、対象、諸相について理解する。 2. 実際のプロセスを精神障害の時間的発展、精神医療の空間的拡大に即して理解する。 3. 精神障害のストレス脆弱性-対処技能モデルについて理解する。 4. 生活技能訓練 (SST) をはじめ、さまざまなリハビリテーション技術について理解する。 5. 精神障害者ケアマネジメントの歴史、理念、類型、技法について理解する。 6. 旧精神保健福祉法の福祉的サービスから総合支援法新体系サービスへの移行について理解する。 						
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>精神科リハビリテーションの主要な対象は統合失調症の患者である。この疾患を理解するために、講義、視覚教材による症状や対応の理解、グループ発表、および宿題とレポート提出を予定している。宿題とレポートは授業の中で詳細について言及するが、過去には以下のような課題を出題した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○精神科リハビリテーションの原則 ○日本における精神障害者のリハビリテーションの課題 ○障害者のリハビリテーションに携わる援助者に必要とされる資質と条件 						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー5 (第6版) 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ—精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書 2019/2020年版 精神保健福祉白書編集委員会編 (中央法規出版、以下同じ) 精神保健福祉白書 2018年版 精神保健福祉白書編集委員会編 精神保健福祉白書 2017年版 精神保健福祉白書編集委員会編 精神保健福祉白書 2016年版 精神科医療と精神保健福祉の協働 精神保健福祉白書 2015年版 改革ビジョンから10年—これまでの歩みとこれから 『精神疾患とその治療 第2版』新・精神保健福祉士養成講座1 中央法規出版。</p> <p>【教材】 エイメンソン (松島義博、荒井良直訳)『精神分裂病の家族心理教育カリキュラム』(パワーポイント教材)</p>						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科リハビリテーションの基礎的、基本的事項を理解し、多肢選択問題に十分に対応できるか。 2. 記述問題に対応できるだけのロジカルな思考能力をどれだけ身につけているか。 <p>○評定の方法</p> <table> <tr> <td>1 ミニテスト、課題レポート</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 授業への積極的参加</td> <td>総合点の50%</td> </tr> </table>			1 ミニテスト、課題レポート	総合点の50%	2 授業への積極的参加	総合点の50%
1 ミニテスト、課題レポート	総合点の50%						
2 授業への積極的参加	総合点の50%						
12. 受講生へのメッセージ	<p>毎回、授業内容の重要項目をプリントアウトしたもの (レジメ) を全員に配布します。将来、精神科領域の現場で働いた時に、そのレジメやノート、教科書の内容が目の前の出来事と結びつくでしょう。疾病や技法の理解のため、視覚教材 (ビデオ等) を使用します。</p> <p>精神科リハビリテーションでは、精神保健福祉士として多職種チームを動かしていかなければなりません。チームを動かすには、精神科リハビリテーションの知識に裏づけられた情熱、プレゼンテーションのスキル、表現して人を納得させる技術が必要です。普段の学生生活・日常生活において、そのことを意識してください。授業後半では、家族教育「家族のための精神分裂病入門」のプレゼンテーションを、各自分担して行っていただく予定です。</p>						
13. オフィスアワー	講義の前後の時間						
14. 授業展開及び授業内容							
講義日程	授業内容	学習課題					
第1回	「シラバスの説明、オリエンテーション、リハビリテーションの概念と歴史、わが国の精神科リハビリテーションの現状」 国際生活機能分類 (ICF)、リハビリテーションの分類	事前学習	教科書 pp. 1~8 を読んでくる。				
		事後学習	配布プリントの復習。リハビリテーションを草創期、確立期、発展期に分けて整理する。				

第2回	「リハビリテーションの理念と原則」 全人間的復権、ADLからQOLへ、多様な職種の連帯、ノーマライゼーション、身体障害者リハビリテーションと精神科リハビリテーションの共通点と相違点	事前学習	ノーマライゼーション、ICFについて調べる。
		事後学習	スライド配布資料を見ながら、自分でスライドの内容が説明できるか点検する。
第3回	「精神科リハビリテーションの概念」 病院内リハビリテーション、脱施設化と地域リハビリテーションへの移行。精神科リハビリテーションの定義。 (精神保健学の理解が十分でない場合には「精神障害をもつ人への支援」について復習の予定)	事前学習	教科書 pp. 9～14 を読んでくる。
		事後学習	WHO 勧告と行動指針、日本の精神科医療の現状と課題について理解を深める。
第4回	「精神科リハビリテーションの理念と意義」 セルフヘルプ活動、エンパワメント、リカバリー。(統合失調症について理解が足りない場合には「統合失調症の症状、経過、治療の原則」について復習の予定)	事前学習	教科書 pp. 15～16 を読んでくる。
		事後学習	エンパワメント、リカバリーの用語を自分の言葉で説明できるか点検する。
第5回	「精神科リハビリテーションの基本原則」 包括的アプローチ、本人参加や自己決定権の尊重、成功体験の活用、再発予防、個別性の重視、リカバリーへの希望、健全な依存(日本の精神保健福祉の歴史について理解が足りない場合には「精神障害をもつ人々への理解」について復習の予定)	事前学習	教科書 pp. 17～20 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第6回	「精神科リハビリテーションの基本原則」 アンソニー、スレッシュホールズ・プログラム、中川正俊の基本原則について 「精神保健福祉士の役割」 「精神障害の特性とICF」	事前学習	精神科リハビリテーションの基本原則について自分の言葉で説明してみる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第7回	「精神科リハビリテーションの基本アプローチ」 医学的・職業的・教育的・社会的・地域リハビリテーション、リカバリーアプローチ	事前学習	教科書 pp. 32～38 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第8回	「精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業(その1:グループワーク)」 障害者総合支援法(旧・障害者自立支援法)に基づく障害者福祉サービス等の概要について、13程度のグループに分かれてグループ別に記載する。	事前学習	教科書 pp. 39～73 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。 グループ発表の準備。
第9回	「精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業(その2:発表)」 障害者総合支援法(旧・障害者自立支援法)に基づく障害者福祉サービス等の概要について、グループ別に発表する。	事前学習	第8回の配布プリントを読んでくる。
		事後学習	他のグループが発表したことを、配布プリントを見ながら確認する。
第10回	「精神科リハビリテーションの応用」 高次脳機能障害のリハビリテーションについて学習する。エンパワメント、リカバリー概念について復習する。	事前学習	高次脳機能障害について調べてくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第11回	「精神科リハビリテーションのプロセス」(1)アセスメント、(2)計画、(3)実施、(4)評価	事前学習	教科書 pp. 75～86 を読んでくる。
		事後学習	配布するBPRS、PANSS、LASSI等の項目と評価基準をみて、それぞれの尺度の特徴を考えてみる。
第12回	「精神科リハビリテーションの展開(その1:グループワーク)」(1)精神科病院におけるリハビリテーション、(2)社会復帰施設におけるリハビリテーション、(3)社会資源における・地域社会におけるリハビリテーション、について、12程度のグループに分かれてグループ別に記載する。	事前学習	教科書 pp. 86～107 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。 グループ発表の準備。
第13回	「精神科リハビリテーションの展開(その2:発表)」(1)精神科病院におけるリハビリテーション、(2)社会復帰施設におけるリハビリテーション、(3)社会資源における・地域社会におけるリハビリテーション、について、グループ別に発表する。	事前学習	第12回の配布プリントを読んでくる。
		事後学習	他のグループが発表したことを、配布プリントを見ながら確認する。
第14回	「地域精神保健の実際 コミュニティワーク」 「アプローチの方法(続き)、疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション」 ライフサイクル、疾病の側面から、生活の側面から、年代ごとに(20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代)	事前学習	教科書 pp. 89～90、pp108～114 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第15回	「作業療法」 作業療法の意義と治療構造、計画とプログラム、回復状態に応じた作業療法の目標、作業活動の具体的内容、作業療法士の役割	事前学習	教科書「作業療法」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。

第16回	「集団精神療法」「認知行動療法（生活技能訓練 SST）」 精神科リハビリテーションにおける生活技能訓練の意義、生活技能訓練の実際、グループで行なうことの意義、ソーシャルワークと生活技能訓練	事前学習	教科書「集団精神療法」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第17回	第1～16回、これまでのまとめ	事前学習	第1～16回の配布プリントを確認する。
		事後学習	第1～16回の内容を自分の言葉で説明してみる。
第18回	「集団精神療法（グループワークを含む）、レクリエーション療法」 集団精神療法のリハビリテーションに対する効果、集団精神療法の目的と構造設定の重要性、治療共同体、薬物乱用防止対策、依存症者の自助グループ活動について 「行動療法」	事前学習	教科書「集団精神療法」「レクリエーション療法」「行動療法」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。身近なグループ活動の意義と効果について考えてみる。
第19回	「チームアプローチ」について ACT の例をもとに学習する チームアプローチ、アウトリーチ、ケアマネジメント、ストレングスモデル) について学習する	事前学習	教科書にて、チームアプローチ、アウトリーチ、ケアマネジメント、ストレングスモデルについて説明しているページをさがす。
		事後学習	配布プリントの復習。
第20回	「家族教育プログラム」心理教育とは、精神障害と家族、感情表出（EE）の測定と尺度、家族教育プログラムに求められるもの	事前学習	教科書「家族教育プログラム」の章を読んでくる。
		事後学習	配布した家族教育資料を次々回 22 回目にグループ順に発表する準備をする。
第21回	「最近の精神科リハビリテーションの話題」 新たな医療計画における5疾病5事業の一つとしての精神疾患、認知症関連事項	事前学習	精神保健学、精神疾患とその治療・精神医学のテキストを復習する。
		事後学習	配布プリントの復習。
第22回	「退院プログラム、精神科訪問看護、地域移行支援」 「家族教育プログラム」心理教育（原因と経過）についてグループ順に発表	事前学習	教科書「退院プログラム」「精神科訪問看護」の章を読んでくる。
		事後学習	他のグループが発表したことを、配布プリントを見ながら確認する。
第23回	「精神科リハビリテーションサービス」 デイケアおよびナイトケアの実際	事前学習	教科書「精神科リハビリテーションサービス」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第24回	「居住支援」 「家族教育プログラム」心理教育（治療）についてグループ順に発表	事前学習	教科書「居住支援」の章を読んでくる。
		事後学習	他のグループが発表したことを、配布プリントを見ながら確認する。
第25回	「地域生活支援と居宅支援」 地域生活支援センターの活動・役割・機能、地域生活支援センター・居宅生活支援事業と精神保健福祉士の役割 「就労支援」就労の意義と援助活動、障害者雇用率制度、職業リハビリテーションの実施体制、さまざまな就労支援の施策と今後の課題	事前学習	教科書「地域生活支援と居宅支援」「就労支援」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第26回	「地域を基盤にしたリハビリテーション」 「ケアマネジメント」 「アウトリーチサービス」	事前学習	教科書「地域を基盤にしたリハビリテーション」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第27回	第1～26回、これまでのまとめ	事前学習	第18～26回の配布プリントを確認する。
		事後学習	第18～26回の内容を自分の言葉で説明してみる。
第28回	「仲間による地域生活支援」セルフヘルプ・グループとピアサポート、プロシューマー （当事者活動の歩み、当事者活動と精神保健福祉士の役割）ボランティアの育成と活用 「精神保健福祉白書2019/2020年版より最近の精神科リハビリテーションのトピック」	事前学習	教科書「仲間による地域生活支援」セルフヘルプ・グループとピアサポート、プロシューマーの章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第29回	「世界の精神科医療サービス」 「東京都の精神保健医療福祉とリハビリテーション」	事前学習	インターネットで、自分の住んでいる地域の精神保健センター、精神医療センターの情報、広報活動を調べてみる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第30回	精神科リハビリテーションのこれから（まとめ）	事前学習	今までの配布プリントに目を通してくる。
		事後学習	自分の言葉で精神科リハビリテーションの概念、構成について説明してみる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 (4単位)	3. 科目番号	SCMP1158
2. 授業担当教員	長谷川 行雄		SPMP2433
4. 授業形態	講義、グループ討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。また、乳幼児から老年期までのそれぞれのライフステージにおける精神保健、及び精神保健における個別課題、例えば精神障害者対策・アルコール・薬物乱用問題・ターミナルケア等への取り組みについても検討していく。さらに、地域精神保健対策や精神保健制度・行政についても学習する。		
8. 学習目標	1. 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 2. 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際および精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 4. 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	事前にグループまたは個人で決められたテーマについて調べ、授業内で発表する。発表を行うテーマについては授業内で打ち合わせを行う。レポート課題については、授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 『精神保健福祉士養成セミナー2 第6版 精神保健学—精神保健の課題と支援』、へるす出版。 【参考書】 精神保健医療福祉白書 2018-2019 精神保健医療福祉白書編集委員会=編集 中央法規出版。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解しているかどうか 2. 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際および精神保健士の役割について理解しているかどうか 3. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解しているかどうか 4. 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解しているかどうか ○評定の方法 学習目標1, 2についてはレポート課題を課して評価する(20%) 学習目標1, 2, 3, 4は期末試験を実施して評価する。(60%) 授業態度: 20%(遅刻・早退を含む)		
12. 受講生への メッセージ	この科目は精神保健福祉士国家試験を受験する学生にとって必修科目であり、かつ出題科目です。国家試験の際には、この科目で0点を取ると合計点に係わらず不合格となりますので、しっかりと勉強してください。		
13. オフィスアワー	初回の授業で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読。
		事後学習	精神保健学とは何かについて調べる。
第2回	第1章 精神保健に関する基本的理解	事前学習	教科書「精神保健とは」を読み、精神保健学の概要について調べる。
		事後学習	教科書「乳幼児期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(乳幼児期)について調べる。
第3回	第2章 ライフサイクルにおける精神保健① (乳幼児期における精神保健)	事前学習	教科書「乳幼児期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(乳幼児期)について調べる。
		事後学習	教科書「乳幼児期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(乳幼児期)に関するキーワードについて理解を深める。
第4回	ライフサイクルにおける精神保健② (学童期における精神保健)	事前学習	教科書「学童期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(学童期)について調べる。
		事後学習	教科書「学童期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(学童期)に関するキーワードについて理解を深める。
第5回	ライフサイクルにおける精神保健③ (思春期における精神保健)	事前学習	教科書「思春期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(思春期)について調べる。
		事後学習	教科書「青年期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(青年期)に関するキーワードについて理解を深める。
第6回	ライフサイクルにおける精神保健④ (青年期における精神保健)	事前学習	教科書「青年期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(青年期)について調べる。
		事後学習	教科書「青年期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(青年期)に関するキーワードについて理解を深める。

第7回	ライフサイクルにおける精神保健⑤ (成人期における精神保健)	事前学習	教科書「成人期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(成人期)について調べる。
		事後学習	教科書「成人期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(成人期)に関するキーワードについて理解を深める。
第8回	ライフサイクルにおける精神保健⑥ (老年期における精神保健)	事前学習	教科書「老年期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(老年期)について調べる。
		事後学習	教科書「老年期における精神保健」を読み、ライフサイクルにおける精神保健(老年期)に関するキーワードについて理解を深める。
第9回	ライフサイクルにおける精神保健⑦ (まとめ)	事前学習	乳幼児から老年期に至るライフサイクルにおける精神保健の特徴をまとめること。
		事後学習	授業で行ったまとめを振り返りポイントを覚えること。
第10回	ライフサイクルにおける精神保健⑧ (まとめ)	事前学習	これまで学んだことを復習し、ポイントをまとめること。
		事後学習	授業で学んだ第2章までのポイントを覚えること。
第11回	第3章 精神保健における個別課題への取組み (精神障害対策)	事前学習	教科書「精神障害者対策」を読み、精神障害対策について調べる。
		事後学習	教科書「精神障害者対策」を読み、精神障害対策に関するキーワードについて理解を深める。
第12回	精神保健における個別課題への取組み① (認知症対策)	事前学習	教科書「認知症対策」を読み、認知症対策について調べる。
		事後学習	教科書「認知症対策」を読み、認知症対策に関するキーワードについて理解を深める。
第13回	精神保健における個別課題への取組み② (アルコール関連問題対策1)	事前学習	教科書「アルコール関連問題対策」を読み、アルコール関連問題対策について調べる。
		事後学習	教科書「アルコール関連問題対策」を読み、アルコール関連問題対策に関するキーワードについて理解を深めるとともに、アルコール依存症が病気であることを理解する。
第14回	精神保健における個別課題への取組み③ (アルコール関連問題対策2)	事前学習	教科書「アルコール関連問題対策」を読み、アルコール関連問題対策について調べる。
		事後学習	教科書「アルコール関連問題対策」を読み、アルコール関連問題対策に関するキーワードについて理解を深めるとともに、アルコール依存症者への相談援助の方法を整理する。
第15回	精神保健における個別課題への取組み④ (薬物乱用防止対策1)	事前学習	教科書「薬物乱用防止対策」を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書「薬物乱用防止対策」を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第16回	精神保健における個別課題への取組み⑤ (薬物乱用防止対策2)	事前学習	教科書「薬物乱用防止対策」を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書「薬物乱用防止対策」を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深めるとともに、依存症全般の相談援助方法を整理する。
第17回	精神保健における個別課題への取組み⑥ (思春期精神保健対策)	事前学習	教科書「思春期精神保健対策」を読み、思春期精神保健対策について調べる。
		事後学習	教科書「思春期精神保健対策」を読み、思春期精神保健対策に関するキーワードについて理解を深める。
第18回	精神保健における個別課題への取組み⑦ (地域精神保健対策)	事前学習	教科書「地域精神保健対策」を読み、「こころの健康づくり」の動向について調べる。
		事後学習	授業を振り返り、「地域における相談援助機関」に関する役割について理解を深める。
第19回	精神保健における個別課題への取組み⑧ (司法精神保健福祉対策)	事前学習	教科書「司法精神保健福祉対策」を読み、司法精神保健福祉対策について調べる。
		事後学習	授業を振り返り、「医療観察法の流れと対象者」について理解を深める。
第20回	精神保健における個別課題への取組み⑨ (緩和ケアと精神保健)	事前学習	教科書「緩和ケアと精神保健」を読み、緩和ケアと精神保健について調べる。
		事後学習	授業を振り返り、「キューブラーロスの5段階説」について理解を深める。
第21回	第4章 精神保健活動の実際① (家庭における精神保健)	事前学習	教科書「家庭における精神保健」を読み、家庭における精神保健について調べる。
		事後学習	授業を振り返り、家庭における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第22回	精神保健活動の実際② (学校における精神保健)	事前学習	教科書「学校における精神保健」を読み、学校における精神保健について調べる。
		事後学習	授業を振り返り、いじめ問題、不登校問題の定義と実際について理解を深める。
第23回	精神保健活動の実際③ (職場における精神保健)	事前学習	教科書「職場における精神保健」を読み、職場における精神保健について調べる。
		事後学習	労働安全法における精神保健の仕組みと手順について理解を深める。
第24回	精神保健活動の実際④	事前学習	教科書「地域における精神保健」を読み、地域における精神保健の仕組みを理解する。

	(地域における精神保健)	事後学習	教科書「地域における精神保健」を読み、地域における精神保健に関する政策、精神保健活動の発展の経緯について理解を深める。
第25回	第5章 地域精神保健の現状と課題① (地域保健・地域精神保健に係る関係法規・関係施策) 1	事前学習	教科書「地域保健・地域精神保健に係る関係法規・関係施策」を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)について調べる。
		事後学習	教科書「地域保健・地域精神保健に係る関係法規・関係施策」を読み、地域精神保健に係る各々の法規の目的、国の責務、地方自治体の責務、法の概要について理解を深める。
第26回	地域精神保健の現状と課題② (地域保健・地域精神保健に係る関係法規・関係施策) 2	事前学習	教科書「地域保健・地域精神保健に係る関係法規・関係施策」を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)について調べる。
		事後学習	教科書「地域保健・地域精神保健に係る関係法規・関係施策」を読み、地域精神保健に係る各々の法規の目的、国の責務、地方自治体の責務、法の概要について理解を深める。
第27回	地域精神保健の現状と課題③ (精神保健福祉に関する調査研究)	事前学習	教科書「精神保健福祉に関する調査研究」を読み、調査研究の方法を理解する。
		事後学習	授業を振り返り、量的研究・質的研究のちがいと、それぞれの分析方法を理解する。
第28回	第6章 メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	事前学習	教科書「メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割」を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割について調べる。
		事後学習	授業を振り返り、精神保健福祉士が我が国の国民の心の健康問題に果たしている役割を考察する。
第29回	第7章 精神保健にかかわる専門職種の役割と連携	事前学習	教科書「精神保健にかかわる専門職種の役割と連携」「世界の精神保健」を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携について調べる。
		事後学習	授業を振り返り、各々の専門職の資格取得方法、業務、活動領域について理解するとともに、連携の重要さと連携のポイントを理解する。また世界の精神保健に関する現状について理解を深める。
第30回	第8章 世界の精神保健・授業評価	事前学習	参考文献等を使用し、世界の精神保健調べる。
		事後学習	教科書・配布資料等を利用し、世界の精神保健と我が国の精神保健を比較するとともに、それぞれの国における精神保健を理解する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 / 精神保健学 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2303 PSMP2433
2. 授業担当教員	先崎 章		
4. 授業形態	講義、プレゼンテーション、ディスカッション、レスポンスシート	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	養護教諭として求められる「乳幼児から老年期までの各ライフステージにおける精神保健」、「精神保健における個別課題（家庭・学校・地域・職場・司法精神保健など）」、「精神保健に関する法制度・行政のしくみ」「世界の精神保健事情」についての最新事情を学び、将来の自身のあり方を選択することに役立てる。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「養護教諭」として必要な精神保健学の知識を身につける。 ・精神保健の最新事情を知り、学校現場における「精神保健」の意義や課題について考える。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義で取り上げた項目や学生の関心事項の中から、選択してレポートを作成し提出する。詳細は授業で説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>『第6版 精神保健福祉士養成セミナー2 精神保健学—精神保健の課題と支援』へるす出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p> <p>【参考書】</p> <p>『新・精神保健福祉士養成講座1 精神疾患とその治療』中央法規。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1、ライフサイクルにおける精神保健について理解しているかどうか。</p> <p>2、障害に対する理解をしているかどうか。</p> <p>3、精神保健福祉の個別課題に対し、理解しているかどうか。</p> <p>4、我が国と諸外国の精神保健を理解しているかどうか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1、積極的参加度（毎回の提出物、授業への積極的参加度）50%、</p> <p>2、課題レポート、プレゼンテーション 10%、</p> <p>3、復習テスト（2回実施）の総計点数 40%</p> <p>以上の結果を総合的に判断する。</p> <p>なお、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の修得の条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	精神保健は、過去・現在そして将来、あなた自身を見つめ、把握し、自身を守るスキルになります。自分の個体生存のためにも今学んでいるという視点をもってください。講義では視覚教材を多用します。毎回、授業内容の重要項目をプリントアウトしたものを全員に配布しますので、その「 」内や余白に書き込んで自前のノートをつくってください。		
13. オフィスアワー	木曜日（授業、会議のない時間帯）		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、オリエンテーション、ストレスと脳	事前学習	教科書 pp. 1～16 を読んでくる
		事後学習	ストレスについての配布プリントの復習
第2回	ライフサイクルにおける精神保健① 乳幼児期	事前学習	教科書 pp. 17～24 を読んでくる
		事後学習	乳幼児期についての配布プリントの復習 発達段階別の特徴（教科書 p. 45 表 2-4）をいつも見ることができるようにしておく。
第3回	ライフサイクルにおける精神保健② 学童期	事前学習	教科書 pp. 24～32 を読んでくる
		事後学習	学童期についての配布プリントの復習
第4回	ライフサイクルにおける精神保健③ 思春期、青年期	事前学習	教科書 pp. 33～50 を読んでくる
		事後学習	思春期/青年期についての配布プリントの復習 自我同一性の拡散（教科書 p. 46）について振り返る。
第5回	ライフサイクルにおける精神保健④ （青年期に発症する）統合失調症、 わが国の精神障害者対策	事前学習	教科書 pp. 71～81 を読んでくる
		事後学習	青年期の精神障害についての配布プリントの復習
第6回	ライフサイクルにおける精神保健⑤ 成人期、老年期、うつ病、認知症について	事前学習	教科書 pp. 50～69、pp. 82～92 を読んでくる
		事後学習	成人期/老年期についての配布プリントの復習
第7回	障害者（児）の精神保健 てんかん、知的障害について	事前学習	障害にはどのような種類があるのか、調べてみる
		事後学習	障害者（児）についての配布プリントの復習
第8回	成人の発達障害（アスペルガー障害、ADHD） 老年の認知症（皮質性、皮質下性）と、 その対策について	事前学習	発達障害や認知症にはどのような種類があり、 どのような対策がなされているのか調べてみる
		事後学習	配布プリントの復習 成人の発達障害や認知症が社会問題となっている

			る、昨今の社会背景について考えてみる。
第9回	アルコール関連問題対策 薬物乱用防止対策について	事前学習	教科書 pp. 92～127 を読んでくる
		事後学習	薬物についての配布プリントの復習
第10回	思春期（青年期）の精神保健対策 （オーバードーズを中心に）	事前学習	教科書 pp. 130～136 を読んでくる
		事後学習	配布プリントの復習 自我同一性の拡散（教科書 p. 46）と確立（教科書 p. 47）について振り返ってみる。
第11回	家庭における精神保健 （児童虐待を中心に）	事前学習	教科書 pp. 181～190 を読んでくる
		事後学習	児童虐待についての配布プリントの復習
第12回	職場・学校における精神保健 （児童相談所の職場環境を中心に）	事前学習	教科書 pp. 200～211 を読んでくる
		事後学習	児童相談所についての配布プリントの復習
第13回	地域における精神保健 （保健福祉活動における具体的な技術、SST など）	事前学習	教科書 pp. 136～164 を読んでくる
		事後学習	保健福祉活動についての配布プリントの復習
第14回	まとめ（その1） うつ病と自殺対策、 わが国の「こころの健康づくり」について	事前学習	教科書 pp. 200～211、pp. 277～285 を読んでくる
		事後学習	配布プリントの復習 自殺対策には何が必要なのか、身の回りの事柄から考えてみる。
第15回	まとめ（その2） 世界的にみた精神保健の流れ	事前学習	教科書 pp. 307～328 を読んでくる
		事後学習	配布プリントの復習 日本の精神医療、精神保健の現状から、日本人の特性について考えてみる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習 I (2単位)	3. 科目番号	PSMP3468 SCMP3168
2. 授業担当教員	長谷川 行雄、三野 宏治、星野 弘美		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習 I、II、精神保健福祉援助演習 I、II、IIIは、1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習 Iでは、自己覚知やコミュニケーションなど精神保健福祉士として必要な基本的技術を学習し、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己覚知 2) 基本的なコミュニケーション技術の習得 3) 基本的な面接技術の習得 4) グループダイナミクス活用技術の習得 5) 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 6) 課題の発見・分析・解決の技術の習得 7) 記録の技術の習得 8) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行う <ol style="list-style-type: none"> ①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ②地域アセスメント ③地域福祉の計画 ④ネットワークキング ⑤社会資源の活用・整備・開発 ⑥サービス評価 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかる基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基礎整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己覚知について 2 面接技術について 3 ソーシャルワークの援助過程について <p>その他、授業中に振り返りのレポートを課す</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー 7巻 第6版 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』へるす出版、2017。</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 面接を中心とした対人援助の基本(姿勢・技術)が理解できる。 2. 授業を受ける基本的マナー(出席状況、提出物等)を守り、授業に積極的に参加している。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時に出される課題、発表、提出物 : 総合点の70% 2. 授業への積極的参加態度 : 総合点の30% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習 Iのねらいの解説 	事前学習	ソーシャルワーク演習 I、IIで学んだ内容を振り返る。テキスト〔基礎編〕

	<ul style="list-style-type: none"> 専門職養成における演習の位置づけと目的を理解する 		序章～第1章「精神保健福祉援助演習の目的」を熟読する。
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深める(1) 自己覚知について理解する 対人援助職における自己覚知の意義を考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章「自己理解を深める」を熟読する。
		事後学習	自己覚知はなぜ必要かまとめる。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深める(2) ジェノグラム、エコマップなどマッピング技法を用いて自己理解につなげる 自分の価値観をみつめ、自分の価値観に基づく他者との関係性のあり方を考える 自己理解を深めたうえで、他者理解について考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章「自己理解を深める」を熟読する。
		事後学習	授業での実践を通して自分について考えたことをまとめる。課題1を作成する。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの理解 コミュニケーションの過程を理解する 言語・非言語コミュニケーションについて理解し、その活用方法を学ぶ ロールプレイを用いてコミュニケーション技術を学ぶ 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章I「基本的込みみけーしょん」を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> クライアントに対する姿勢 人と人とが話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する パイステックの7原則について実際の援助場面を想定して理解を深める 	事前学習	パイステックの7原則について復習する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 面接における技術：基本的応答技法 単純な反射、言い換え、要約、明確化、感情の反射、開かれた質問、閉じた質問等面接技術についてロールプレイ等を通じて習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章II「基本的面接技法」を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 面接における技術：応用 基本的応答技法を用いて事例に基づく面接を実践する 	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集・整理・伝達の目的、原則、方法を学ぶ 情報収集・整理・伝達の目的、原則、方法を理解する ロールプレイを用いて情報の収集・整理・伝達の技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章IV「情報の収集・整理・伝達」を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 課題の発見・分析・解決の技術の習得 課題の発見・分析・解決方法を学ぶ ロールプレイを用いて課題の発見・分析・解決の技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章「課題の発見と分析」を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワークにおける記録について理解し、技術を習得する 記録の目的と方法を理解する 事例を用いて記録を実践する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章VI「記録の在り方」を熟読する。
		事後学習	事例を用いて記録する練習を行う。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワークの援助過程を理解する インテーク～終結までの過程とそれぞれの段階における必要な姿勢、技術を理解する インテーク場面をロールプレイで実践する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第4章I「成長と変化としての援助過程」II「レパトリーとしての基本的援助方法」を熟読する。
		事後学習	学んだ事柄をまとめる。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワークの援助過程の実践：アセスメント アセスメントに必要な視点（ICF、ストレングスモデル）を理解する ICF、ストレングスモデルに基づくアセスメントを実践する 	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる。
		事後学習	学んだ事柄をまとめる
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク援助過程の実践：支援計画立案～終結 ニーズを基に支援計画を立案する モニタリング、終結、アフターケアの意義とその方法を理解する 	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。

2020 年度

第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・グループダイナミクス活用技術を習得する <ul style="list-style-type: none"> － グループダイナミクス理論を学ぶ － ロールプレイを用いてグループダイナミクス活用技術を実践する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅲ「グループワークの活用」第 4 章ⅡB「グループワーク」を熟読する。ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだことを振り返る。
		事後学習	学んだことをまとめる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基盤整備の実践に必要な技術を知る <ul style="list-style-type: none"> － アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉計画、ネットワーキング、社会資源について理解する ・演習Ⅰのまとめと演習Ⅱへの課題 	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅰで学んだことを振り返る。
		事後学習	演習Ⅰで学んだことを振り返り、身に付いたことと今後の課題を書きだす。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SCMP3169 PSMP3469
2. 授業担当教員	長谷川 行雄、小金澤 嘉			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、2年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱでは、実技指導を通してソーシャルワーカーとして必要なケースワークの基本的技術を学習する。また、事例を用いて具体的な課題別の援助方法を理解し課題により異なる援助技術を学習する。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、実技指導を行う。 2) インテークからアセスメント、プランニング、介入、モニタリング、評価、終結とアフターケアのケースワークの一連の流れを理解し、それぞれの過程における必要な技術を実践することができる。 3) 他専門職の専門性を尊重したチームアプローチの意義を理解し、ネットワーキングの技術を身につける 4) 社会資源について理解し、その活用、調整、開発の技術を学ぶ 5) ケアマネジメントについて理解し、実践することができる 6) 事例検討の意義を理解し、その方法を実践する 7) 次の課題について必要な援助技術を習得する：社会的排除／退院支援・地域移行、地域生活継続／ピアサポート／地域における精神保健／教育、就労／貧困、低所得、ホームレス／精神科リハビリテーション／危機状態にある精神保健福祉 			
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、地域福祉の基盤整備について 2、ソーシャルワークの課題（社会的排除、退院支援・地域移行、貧困など）について <p>その他、授業中に振り返りの課題を課す</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー 7巻 第6版 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』へるす出版、2017。</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006、</p>			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践に基づくアセスメントとそれに基づく支援計画の立案を理解し、その方法を身につける。 2. 授業を受ける基本的マナー（出席状況、提出物等）を守り、授業に積極的に参加している。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業時に出される課題、発表、提出物 : 総合点の70% 2 授業への積極的参加態度 : 総合点の30% 			
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだことの振り返りと演習Ⅱのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだ内容を振り返る。	
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす。	
第2回	・ケースワークの実践(1): ケースワークの援助過程を復	事前学習	テキスト〔実践編〕第1章序章を熟読する。	

	習する － インテークからアフターケアまでの流れとそれぞれの過程において大切な要素を振り返る	事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第3回	・ケースワークの実際(2) インテーク － インテークの技術を振り返り実践する	事前学習	テキスト〔実践編〕第1章Ⅰ「インテーク・契約」を熟読する。あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第4回	・ケースワークの実際(3) アセスメント・プランニング アセスメントの様々な視点 治療モデル、環境モデル、生活モデル － 視点によるニーズ把握の違いを理解する	事前学習	テキスト〔実践編〕第1章Ⅱ「アセスメント・プランニング」
		事後学習	視点によるニーズ把握の違いについてまとめる。
第5回	・ケースワークの実際(4) アセスメント・プランニング アセスメントの様々な視点 「ICF」「バイオ・サイコ・ソーシャルモデル」 － 「ICF」を活用してアセスメントを実践する	事前学習	ICFについて復習する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる。
第6回	・ケースワークの実際(5) アセスメント・プランニング アセスメントの様々な視点 ストレngthモデル － 「問題解決アプローチ」との比較 － 「ストレngthモデル」によるアセスメントの実践 － その他ソーシャルワークのアプローチを理解する	事前学習	ソーシャルワークのアプローチについて復習する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる
第7回	・ケースワークの実際(6) 評価～終結、まとめ － 評価～終結の意義を理解し、終結の場面をロールプレイで実践する － アフターケアの意義を理解し、必要なアフターケアを計画する － ソーシャルワークの援助過程を振り返り、ワーカーとしての自己の課題を見出す	事前学習	テキスト〔実践編〕第1章Ⅲ「支援の実施・振り返り」Ⅳ「終結・支援の振り返りとアフターケア」を熟読する。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる。自己の課題について考察する
第8回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する(1) － アウトリーチ、地域アセスメント、社会資源の活用と開発、チームアプローチとネットワークングについて理解する	事前学習	テキスト〔実践編〕第3章「地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開」A「アウトリーチ」C「チームアプローチとネットワークング」、D「協議会の活用・調整・開発」を熟読する
		事後学習	アウトリーチ、地域アセスメント、社会資源、チームアプローチ、ネットワークングとは何か自分の言葉でまとめる
第9回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する(2) ケアマネジメント － ケアマネジメントの方法を学び、精神障害者に対するケアマネジメントの意義を理解する － 事例を用いてケアマネジメントを実践する	事前学習	テキスト〔実践編〕第3章B「ケアマネジメント」を熟読する。
		事後学習	ケアマネジメントとは何か自分の言葉でまとめる。
第10回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する(3) 地域福祉計画とサービス評価 － 地域福祉計画づくりを理解する － 事例を活用して地域福祉計画づくりを実践する － サービス評価の意義と方法を理解する － 事例を用いてサービス評価を実践する	事前学習	テキスト〔実践編〕第3章E「サービス評価」、F「地域福祉計画」を熟読する。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる。事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる。
第11回	・事例検討の意義と方法 － 事例検討とは何か理解し、事例検討の方法を学ぶ ・事例検討(1): 社会的排除 － 精神障害者が抱える社会的排除の問題を理解する － 事例を用いて社会的排除における支援の方法を学ぶ	事前学習	テキスト〔実践編〕序章(p.87)を熟読する。 テキスト〔実践編〕第2章(pp.109～110)を読み、わからない用語等意味を調べる。
		事後学習	社会的排除とは何か自己の考えをまとめる。 事例を通して学んだことを書き出す。
第12回	・事例検討(2): 退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート － 上記に掲げたそれぞれの課題を理解する	事前学習	テキスト〔実践編〕第2章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる(それぞれの課題に対する理解も含めること)。
第13回	・事例検討(3): 地域における精神保健(自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存) － 地域における精神保健の課題を理解する － 事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ	事前学習	テキスト〔実践編〕第2章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる(それぞれの課題に対する理解も含めること)。

第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討(4):教育・就労、貧困・低所得・ホームレス、精神科リハビリテーション、危機状態にある精神保健福祉 －上記に挙げたそれぞれの課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第2章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる(それぞれの課題に対する理解も含めること)。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ －精神保健福祉援助演習IIで学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る 	事前学習	学習ノートを見返す。
		事後学習	授業で学んだことと自己の変化をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習Ⅲ (2単位)	3. 科目番号	SCMP4170 PSMP4470
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅲでは、実習体験をソーシャルワーク概念に結びつけながら振り返るとともに、実践モデル。アプローチを実践的に学び、終了した時点で、実習での体験を踏まえ精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目的とする</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <p>①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	実習での振り返りを理論的に行っていくため、その都度実習の振り返りを事前にしておくことを課題とする。課題は後日提出し、評価の対象となる。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー 7巻 第6版 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』へるす出版。</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 実習の体験と理論を統合して理解できる。</p> <p>2. 授業を受ける基本的マナー（出席状況、提出物等）を守り、授業に積極的に参加している。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1 授業時に出される課題、発表、提出物 : 総合点の70%</p> <p>2 授業への積極的参加態度 : 総合点の30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	精神保健福祉士を目指して学んできた講義科目、演習科目、実習での体験の総まとめとなる授業です。学んできたことを結びつけて理解を深められるよう、また就職して働くに際して即戦力となれるよう、積極的な態度で授業に参加することが期待されます。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことの振り返りと演習Ⅲのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことを振り返る。
		事後学習	演習Ⅲで学びたいことを書きだす。
第2回	・自己覚知、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティ—当事者との関わり等を通して気付いた自分自身と実習を通して身につけたソーシャルワーカーとしてのアイデンティティを振り返る。	事前学習	実習体験を通して気づいた自分自身についてまとめる。テキスト〔基礎編〕第2章Ⅰ「専門職としての価値と倫理」を熟読する。
		事後学習	授業でのディスカッション等を通しての考察をまとめる。
第3回	・クライアントに対する姿勢：バイステックの7原則—実際の援助場面で学んだバイステックの7原則について振り返る	事前学習	テキスト〔基礎編〕第2章Ⅱ～Ⅳ「相談援助の対象」～「援助関係の形成」を熟読する。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第4回	・社会資源とその活用・調整・開発—当事者を支援するうえで、活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表する。関わった当事者の方たちに必要な資源について考えるとともに、資源の調整・開発の方法を考察	事前学習	実習中活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表の準備をする。
		事後学習	発表を通して学んだことをまとめる。

	する		
第5回	・チームアプローチ（ネットワーキング、アウトリーチ） ーチームアプローチを用いて支援した事例を振り返る ーチームアプローチを行う上で、精神保健福祉士がどのような役割を担っていたかまとめる ー自分自身が担った役割を振り返り、自己の課題を認識する	事前学習	実習中のチームアプローチの事例を記入する。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第6回	ケースワーク（1）：ケースの振り返り ー自分がかかわったケースを振り返る	事前学習	実習中記入したソーシャルワークケース記録を見返す。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第7回	ケースワーク（2）：ケースの振り返り、発表① ー出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第8回	ケースワーク（3）ケースの振り返り、発表② 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第9回	ケースワーク（4）ケースの振り返り、発表③ 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第10回	ケースワーク（5）：ケースの振り返り、まとめ 実習中の自身が行ったケースワークを振り返り、学んだことをソーシャルワークの価値、技術に結びつけてまとめる	事前学習	学んだことを書きだす。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第11回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（1） ーソーシャルワークアプローチについて復習する （ICF、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ストレングスモデル。解決志向アプローチなど	事前学習	ソーシャルワークモデル、アプローチを復習する。
		事後学習	実習中の体験とソーシャルワークモデル、アプローチを結びつけて考察する。
第12回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（2） ーソーシャルワークアプローチについて復習する （行動変容アプローチ、危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、リカバリーなど）	事前学習	ソーシャルワークモデル、アプローチを復習する。
		事後学習	実習中の体験とソーシャルワークモデル、アプローチを結びつけて考察する
第13回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（3） 実習の事例報告①	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第14回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（4） 実習の事例報告②	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第15回	まとめ ー精神保健福祉援助演習Ⅲで学んだことを振り返る	事前学習	授業で学んだことを振り返る。
		事後学習	精神保健福祉援助演習Ⅲで身に着けたことをまとめる。ワーカーとしての自身のストレングス・課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導 I (C) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2183
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導 I、II、IIIは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の意義について理解する。 2) 個人の資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 3) 実習施設・機関の概要及びその地域について理解し、明瞭な説明ができる。 4) 日本における精神保健福祉の現状を理解し、実習先でかかわる精神障害者への理解を深めるため、他の講義で学んだ基礎知識を総括的に確認する。 5) 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務について理解し、実習においてそれらに基づく実践ができる基礎を身につける。 6) 事前訪問に向けて準備を整え、事前訪問を実施する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健福祉に関わる知識の確認 (実習コンピテンス確認テストに向けて基礎知識の確認) 2 自己の実習に対する動機、目標 3 配属された実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる (2000～4000字) <p>* 予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 第6版 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2017。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2017年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に向けての基礎知識が確認できている。 2. 実習に向けての自己の動機を言語化できる。 3. 基本的マナー、態度 (敬語の使い方、提出期限を守る等) 行える。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に課されるレポート 40% 2. 実習配属に伴う提出物 20% 3. 授業への積極的参加態度 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導 I のねらい、授業の進め方についての説明 ・実習の流れの理解と実習に関する基本的ルールの確認 (「実習の手引き使用」) 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導の教科書を購入する
		事後学習	実習の手引きの実習の流れを再確認し、実習の時期、日程等理解する
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職養成における実習の意義を理解する ：精神保健福祉士を目指すうえで、実習がなぜ大切なのか、また実習で何を学ぶべきなのか理解を深める ・専門職としての記録の意義を復習し、実習中の記録の書き方を学ぶ ：以後実習記録の練習を授業内で行う 	事前学習	テキスト第1章「精神保健福祉援助実習の意義と特徴」・第2章「実習の学習内容と基本的な流れ」を熟読する
		事後学習	授業で学んだことを受け、自己にとっての実習に行く意義について学習ノートにまとめる
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士を目指している自己の動機に対する理解を深める ：実習の意義と同時に、個人が持っている資格取得に対する動機を自己の中で明確にするとともに、他人に対して説明できるようにする 	事前学習	自分の資格取得動機を説明できるように準備する
		事後学習	授業を受け再度自己の資格取得動機について考える。自己の実習の動機を学習ノートにまとめる

第4回	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習の意義について理解する 事前学習で学ぶべきことを把握するとともに、その意義を理解する 実習コンピテンス確認テストについての説明 精神保健福祉に関する基礎知識の確認① 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する 日本の精神保健福祉の歴史、精神保健福祉の現状、精神障害者が抱える困難性について考える 	事前学習	テキスト第3章Ⅲ「事前学習の意義と目的」を熟読する 精神保健福祉の歴史、精神科医療の現状についてレポートにまとめる
		事後学習	精神障害者のおかれている現状について考えたことをまとめる
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉に関する基礎知識の確認② 精神疾患の理解 主な精神疾患についての基礎知識を確認する 精神保健福祉に関する基礎知識の確認③ 精神保健福祉に関する制度の理解 精神保健福祉士として必要となる制度についての知識を確認する 	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉に関する基礎知識の確認④ 精神保健福祉に関する技術の理解 面接の基本姿勢、面接技術などソーシャルワーカーとして必要になる基礎的技術について確認 精神保健福祉に関する基礎知識の確認⑤ 精神保健福祉に関する職業倫理と法的責務の確認 精神保健福祉士法、倫理綱領について、実習に結びつけて理解 	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 実習先を理解する 実習が可能な施設・機関の紹介と説明（「実習の手引き」使用） 実習先を理解する意義と理解すべき内容を把握 ※第7回～第10回において、可能な場合は、外部機関の見学や外部講師を招いての授業を実施し、実習先理解を深める 	事前学習	テキスト第8章「実習施設・機関の概要」を熟読する
		事後学習	実習可能な施設について確認する
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 実習施設・機関の基本的理解 グループによる発表 医療機関 (精神科病院/総合病院精神科/精神科診療所/精神科デイケア施設/アルコール専門病棟/認知症病棟) 	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第9章Ⅰ「精神科病院」、Ⅱ「精神科診療所」、Ⅳ「精神保健医療福祉における多職種連携とチームアプローチの実際」を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 実習施設・機関の基本的理解 グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設 (共同生活援助/相談支援事業・地域活動支援センター/就労継続支援A型/就労継続支援B型/就労移行支援事業所) 	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第9章Ⅲ「障害福祉サービス事業所」を熟読する テキスト第9章Ⅶ「地域社会の中の実習施設・機関とアウトリーチ、地域ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発」を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 実習施設・機関の基本的理解 グループによる発表 行政 (精神保健福祉センター/保健所/市町村保健センター) 実習施設・機関の理解に対するまとめ 実習コンピテンス（自己覚知を深める） セルフアセスメントの実施 	事前学習	グループで発表の準備をする
		事後学習	発表の内容をまとめる
第11回	<ul style="list-style-type: none"> 実習先の配属 配属先実習施設・機関に関する情報収集 誓約書・個人調書等書類作成の意味の理解と作成（自己の実習目標を明文化する） 	事前学習	実習施設についてまとめた内容を振り返る
		事後学習	個人調書作成
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 配属先実習施設・機関に対する理解を深める 配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法 配属先実習施設・機関に関する情報収集 誓約書・個人調書等書類作成の意味の理解と作成（自己の実習目標を明文化する） 	事前学習	配属先についてホームページ等を用いて情報を収集する
		事後学習	個人調書の書き直し、清書
第13回	<ul style="list-style-type: none"> 配属先実習施設・機関に関する理解 実習施設の概要をまとめる 事前訪問に向けた準備 事前訪問の目的と意義の確認 基本的態度と訪問時の注意事項の確認 	事前学習	配属先についてさらに情報を収集する テキスト第3章ⅤA「見学実習・現場体験学習」第5章「配属実習」を熟読する
		事後学習	見学実習の目的と意義をまとめる
第14回	<ul style="list-style-type: none"> 配属先実習施設・機関に関する理解 実習施設の概要をまとめる 事前訪問に向けた準備 事前訪問の目的と意義の確認 基本的態度と訪問時の注意事項の確認 	事前学習	実習施設の概要をまとめる 見学実習で確認したいことを書き出す
		事後学習	見学実習の注意事項を振り返る 実習先に見学実習の確認、挨拶の連絡をする
第15回	<ul style="list-style-type: none"> 事前訪問の総括 学習のまとめ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱに向けた課題 	事前学習	見学実習報告書を作成する 見学実習に対するお礼状を書く
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

2020年度

実習/実習コンピテンス関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり
実習配属に関する 個別面談実施	10月下旬ごろ から	第2回～第3回あたり
施設実習配属発表	12月	第8回～第9回あたり*個人調書の作成
セルフアセスメント第1回の実施		授業後半で実施
「実習施設・機関の調査」 レポート提出	1月	配属先発表後
実習コンピテンス確認テストIの 問題配布	1月	第15回目の授業 (春休み中に予習する)
事前訪問第1回の実施	2月	学生各自日程調整して実施

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (編入生) (2単位)	3. 科目番号	SCMP3184
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンステストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テストⅠ・Ⅱ(合格点に達するまで再テストを行う) 2. 配属された実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる(2000～4000字) 3. 実習施設の概要、実習プログラム(案)の作成 <p>*予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 第6版 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、(この教科書は「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」共通)2017。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 精神保健福祉士白書編集委員会編集『精神保健福祉士白書 2017年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に向けて必要になる事前知識が身についている。 2. 実習に必要な書類の準備ができる。 3. 実習事後に実習での学びを言語化できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テスト 20% 2. 実習に伴う提出物 30% 3. 実習事後の振り返りのための課題 20% 4. 授業への積極的参加態度 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 :実習までの流れの確認	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る 実習コンピテンス確認テストの実施に向けて自己学習を行う
		事後学習	実習に向けての課題を書きだし、実習までに解消する方法を考える
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ・実習記録の意義・書き方を理解する ・実習記録の取り扱い等に関する説明 	事前学習	テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 ・実習場面において必要となる精神保健福祉士としての技術を学ぶ ・実習記録の理解② ・実習記録の書き方演習 	事前学習	精神保健福祉士として必要な技術について復習する
		事後学習	授業で学んだことをまとめる 実習までにやるべき自分の課題を書き出す
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 	事前学習	『学習の手引き』のケースワーク記録見本に目を

	<ul style="list-style-type: none"> ：個別援助実践の意義を理解する ：ケース記録の意義を理解する ：ケース記録の全体を把握する 		通す
		事後学習	実習において個別援助を実践する意味についてまとめる
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：アセスメントについて ：ジェノグラムとエコマップについて ：事例を用いてケース記録書き方演習 	事前学習	アセスメントとは何か調べる
		事後学習	自分に対するジェノグラムとエコマップを作成する 授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：プランニング・インターベンションと評価について ：事例を用いてケース記録書き方演習 	事前学習	プランニングとは何か調べる
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：事例を用いたケースワーク演習① 	事前学習	あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：事例を用いたケースワーク演習② 	事前学習	あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習プログラミングシートの理解 ・個人情報の保護 ：個人情報保護法、精神保健福祉士法、倫理綱領など専門職における秘密保持義務を理解する 	事前学習	実習の手引きにある実習プログラミングシートに目を通す
		事後学習	実習において秘密を保持する必要性やそれが困難となる場面などを想定しどのように対応すべきか、考察を深める
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実習における課題を理解する ：実習の手引きに書かれた内容を理解するとともに、自己の実習課題を再確認する 	事前学習	『実習の手引き』のそれぞれの実習の目的に目を通す
		事後学習	実習で何を学びたいか学習ノートに書き出す
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習配属先について理解を深める ：配属先実習施設に関する情報収集 ：施設の概要、実習計画の作成について理解する 	事前学習	『学習の手引き』の実習施設の概要、実習プログラム（案）見本に目を通す
		事後学習	配属先実習施設についてホームページ等を利用して情報を収集する
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要、実習プログラム（案）の作成 ：自己の実習の意義、目的を再確認する ：実習施設の概要、実習プログラム（案）の記入と添削・確認 	事前学習	実習施設の概要、実習プログラム（案）を作成する
		事後学習	施設の概要、実習計画について、添削された箇所を再度修正する
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 ：スーパービジョンについて理解する ：巡回指導の目的と内容を理解する ・実習計画の完成 ：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 	事前学習	テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	実習巡回教員への挨拶用紙の記入をし、各自実習巡回教員に挨拶に行く
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問に向けた準備 ：事前訪問の目的と意義の確認 ：実習計画においてスーパーバイザーと協議したい点の確認 	事前学習	テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	見学実習の目的と意義をまとめる 見学実習の日程調整を各自行う
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・SW基礎実習／精神保健福祉援助実習第一段階に向けて最終確認 	事前学習	施設実習までの課題を書きだす
		事後学習	実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う

実習及び実習コンピテンス関係の流れ ※編入生の状況により異なる

実習コンピテンス確認テストⅠ・Ⅱの実施	授業初期～中盤
ソーシャルワーク基礎実習	配属先決定 10～11月頃
実習施設・機関の概要レポート作成	配属先決定後
セルフアセスメントシートの実施	授業初期～中盤
ソーシャルワーク基礎実習事前訪問	授業終盤
ソーシャルワーク基礎実習	春休み期間

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (P) (2単位)	3. 科目番号	PSMP3484
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンステストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者（スーパーバイザー）との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テスト(2)の実施(合格点に達するまで実施) 2. 実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる(2000字～4000字) 3. 実習施設の概要、実習プログラム案の作成 4. 施設実習振り返り、実習総括レポート(実習報告書)の作成 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 第6版 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2017。</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】</p> <p>精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2019年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に向けて必要になる事前知識が身についている。 2. 実習に必要な書類の準備ができる。 3. 実習事後に実習での学びを言語化できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テスト 20% 2. 実習に伴う提出物 30% 3. 実習事後の振り返りのための課題 20% 4. 授業への積極的参加態度 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結している。この授業期間中に、初めて実習に行き、次の段階の実習に備えます。実習及び資格取得に対する動機を高め、より充実した実習体験を持てるよう、積極的な授業参加態度を期待する。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 ：実習までの流れの確認 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る
		事後学習	実習に向けての自己の課題を書き出す
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先の配属 ：配属先施設に関する情報収集 ：誓約書・個人調査等書類作成の意味と作成 ※第2回、第7回において、可能な場合は、外部講師を招いての授業を実施し、実習先の理解についてまたスーパービジョンについて理解を深める 	事前学習	格取得動機、実習抱負の下書きを作成する
		事後学習	個人調査下書きを完成させる
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・個人調査の完成 ：下書きを持参し、清書を作成する ・配属先施設に関する理解を深める ：配属先施設・機関の概要レポートの作成について ・実習記録の書き方演習Ⅰ 実習記録の練習をする 	事前学習	配属先施設について情報収集する
		事後学習	個人調査の清書を完成させる
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要・実習プログラム案作成の意義と方法を理解 	事前学習	実習の手引き「施設実習の目的」を確認

2020年度

	する 実習記録の書き方演習Ⅱ ：実習記録の練習をする		認する
		事後学習	実習施設の概要、実習プログラム案の下書きを作成する
第5回	・実習施設・機関の概要レポートを完成させ、ピアレビューを行う。 ・実習施設の概要、実習計画の作成方法を理解し、下書きを作成する	事前学習	レポートを完成させ持参する
		事後学習	レポートの追加項目について修正する 実習施設の概要、実習プログラム案の下書きを完成させる
第6回	・実習施設の概要、実習プログラム案の完成	事前学習	下書きを完成させたうえで、実習施設について不明点を書き出す
		事後学習	実習施設の概要、プログラム案の清書を完成させる
第7回	・スーパービジョンと巡回指導の理解 ：スーパービジョンについて理解する ：巡回指導の目的と内容を理解する ：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認	事前学習	・テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	・実習指導者と協議したい点についてまとめる
第8回	・個人情報保護について ：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 ：実習中の記録等の取扱いに関する具体的注意事項	事前学習	精神保健福祉士専門職としての個人情報保護の大切さについて書き出す
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第9回	・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の確認	事前学習	テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	事前訪問の目的と意義をまとめる
		事前学習	テキスト該当項目を熟読する
第10回	・巡回指導教員の発表 ：巡回指導教員への挨拶の意義を理解し準備する ・事前訪問に向けた準備 ：基本的態度と訪問時の注意事項の確認 ・実習コンピテンス確認テストⅡ問題配布 ・セルフアセスメントの実施	事後学習	巡回指導教員への挨拶用紙を作成する 各自巡回指導教員へ挨拶のアポイントメントをとる 実習施設の概要及び実習プログラム(案)を実習施設に持参し、指導者と協議する
第11回	・実習コンピテンス確認テストⅡの実施 ・事前訪問の確認 ：実習施設の概要、実習プログラム案について実習指導者との検討をもとに修正する	事前学習	事前訪問報告書の作成 実習指導者と検討した点をまとめる
		事後学習	修正した実習プログラム案の清書を完成させる
第12回	・施設実習に向けての最終確認 ：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・自己評価表の理解 ：自己評価を行う意義と活用方法を理解する ：自己評価表の記入方法を理解する ・実習後の実習成果発表会、実習総括レポート(実習報告書)について説明	事前学習	施設実習で学びたいこと、事前知識を再度確認する
		事後学習	実習記録記入欄への記入、実習時持ち物、実習初日の開始時間の確認等、各自実習に備える
第13回 第14回 第15回	※第13回～第15回は、実習事後学習として実習終了後に実施 ・実習の評価・総括(実習成果発表会) ・学習のまとめ ：施設実習における自己の課題を施設実習につなげる ・自己の成長を振り返る ・医療機関実習についての説明	事前学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる 精神保健福祉援助実習指導Ⅱで学んだことと今後の課題をまとめる

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習関連/実習コンピテンス関連事項	時期	授業回数との関連*おおよその目安、変動あり。
施設実習配属発表	10月初旬	第1回～第2回あたりに発表*個人調査の作成
「実習施設・機関の調査」レポート提出	11月	第4回～第5回あたり
実習コンピテンス確認テストⅡの問題配布(自主学習用)	12月下旬 冬季休講前	第10回～第11回あたり
実習コンピテンス確認テストⅡの実施	1月頭 (冬季休講明け)	冬季休講機関終了後の授業で実施 第12回～第13回あたり
見学実習(事前訪問)実施	1月中旬	第12回～第14回あたり 学生各自日程調整して実施
セルフアセスメントの実施	授業後半実習前	実習前に実施
巡回担当教員発表・挨拶	1月～2月	第11回～第12回あたりに発表、 学生各自挨拶に行く
施設実習	2月～3月	春季休講期間に18日間以上かつ140時間以上

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ (C) (2単位)	3. 科目番号	SCMP3185
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅲは、精神保健福祉援助実習第一段階の帰校指導の役割も兼ね、実習の振り返りを行い、実習における学びを深める。また、精神保健福祉援助実習指導Ⅱに向けての準備、事後学習も行い、終了した時点で次のことを達成していることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者（スーパーバイザー）との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 3) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 4) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 5) 実習中に行う事例について検討し、支援計画の立案を実践的に理解する 6) 実習中の利用者との関わりを振り返り、自己覚知を深める 7) 実習目標と実践を照らし自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 8) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目に、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習体験における事例 2. 第一段階実習の進捗状況 (帰校指導報告書の作成2回) 3. 第一段階実習の総括レポート (実習報告書) 4. 第二段階実習の総括レポート (実習報告書) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2017。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2種の実習の振り返りから学びと課題を整理、言語化できる。 2. 実習に際して必要な提出物 (帰校指導記録その他) を期限を守り提出できる。 3. 実習に向けての準備を行える。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時の提出物 20% 2. レポート (実習総括レポート) 50% 3. 授業への積極的参加態度 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、実習と連動して精神保健福祉士としての実践力の向上に焦点を置いて授業を進める。学生の積極的な授業参加を期待する。		
13. オフィスアワー	別途、連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・本講義内容、進め方の説明 ・援助実習開始に向けて : 援助実習の目的、課題を再度確認する : 実習プログラムの確認	事前学習	精神保健福祉援助実習第一段階に必要な事柄を整える
		事後学習	実習の手引き「精神保健福祉援助実習第一段階」の項目を熟読し、理解を深める
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り : 実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 : ケース記録の意義を理解する : ケース記録の全体を把握する 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす
		事後学習	『学習の手引き』にあるソーシャルワークケース記録に目を通す

第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ・アセスメントについて ・ジェノグラムとエコマップについて 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入する
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・帰校指導記録の作成 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ・プランニング・インターベンションと評価について 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 帰校指導記録用紙に実習の進捗状況を記入する
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入し、アセスメントのうえ、支援計画について考える 帰校指導記録用紙のまとめを記入する
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ・インターベンションと評価について ・社会福祉専門職についての理解 ・実習施設・機関で行われる各種手続きについてまとめる ・実習施設・機関で行われる相談援助業務についてまとめる 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 実習中必要となった制度や相談援助業務についてまとめる
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入し、アセスメントのうえ、支援計画について考える 授業を通して、制度や相談援助業務について確認した事項を追記する
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・帰校指導記録の作成 ・連携についての理解 実習施設・機関と社会資源、関係機関との連携についてまとめる 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 実習中連携をした機関やそれぞれの役割について気づいた点を書きだす 帰校指導記録用紙に実習の進捗状況を記入する
		事後学習	授業を通して学んだ点をまとめる 帰校指導記録用紙のまとめを記入する
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討について ・事例検討の意義と方法を理解する ・実践事例の報告と検討 ・担当している事例についての報告と意見交換 	事前学習	体験している事例について報告の準備をする
		事後学習	報告された事例について学びとなった点をまとめる
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討 ・担当している事例についての報告と意見交換 ・実習の振り返り ・実習総括レポート（実習報告書）の作成について説明 ・実習のまとめに向けて ・基礎実習から援助実習を通して、学んだことと課題を振り返る ・実習終了に向けて必要事項の確認（記録の提出等） 	事前学習	体験している事例について報告の準備をする。 テキスト第6章Ⅲ「課題の整理と総括レポート」Ⅳ「実習報告会および実習報告集」を熟読する
		事後学習	実習終了に向けて必要なことを確認する 実習総括レポートの準備をする
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める（自己の価値観が実習中利用者とのかわりにおいてどのように反映したか考えをまとめる） ・第二段階実習に向けての準備 ・個人調書の準備 ・配属先に関する情報収集 	事前学習	実習テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	実習総括レポートを作成する 第二段階実習先に提出する個人調書を作成する
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段階実習に向けての準備 ・第二段階実習における実習課題の説明 ・実習施設概要の作成 ・実習プログラム（案）の作成 	事前学習	実習の手引き「第二段階実習」について目を通す 第一段階実習を振り返り、第二段階実習に向けての自己の課題を明確にする
		事後学習	実習施設概要、実習プログラム（案）の作成
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段階実習に向けての準備 ・実習施設概要、実習プログラム（案）完成 ・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の再確認 ・基本的態度と訪問時の注意事項の再確認 ・スーパーバイザーと協議したい事柄を明確にする 	事前学習	実習施設概要、実習プログラム（案）の手直し
		事後学習	実習施設の概要の完成 事前訪問時にスーパーバイザーと協議したい事柄をまとめる

第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ：実習計画に関するスーパーバイザーとの協議事項の確認とそれを踏まえての計画書の完成 ・第二段階実習における最終確認 ：学習のまとめと、第二段階実習に向けての課題整理 ・第二段階に向けた事前学習まとめ ：精神科医療機関における制度（入院制度、保険制度等）及びワーカーの役割を確認する ：社会復帰施設や就労支援に関する制度（障害者総合支援法、障害者雇用促進法等）、ワーカーの役割を確認する 	事前学習	事前訪問報告書を作成する 精神保健福祉法、障害者総合支援法等必要な事柄を簡条書きにする
		事後学習	実習プログラム（案）を完成させる 実習施設概要、実習プログラム（案）を実習施設に持参し、指導者と協議する。 配属先に即した実習中必要となる制度についてまとめ、実習に備える
第13～15回	<ul style="list-style-type: none"> ※ 第二段階実習の事後学習として、実習終了後実施します。日程については後日通知します。 第二段階実習事後学習 ：実習の振り返り ：実習総括レポート（実習報告書）の作成 ：実習報告 	事前学習	第二段階実習で学んだことを振り返る 実習総括レポート及び発表の準備をする
		事後学習	実習報告を通して、再度自己の実習での学びを振り返りまとめる

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習/実習コンピテンス関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり
第一段階実習開始	10月第1週より	第1回の週に開始
帰校日指導	10月～12月に 2回実施	第4回、第6回あたりに実施
第一段階実習終了	12月中旬	第8回～第9回あたりで終了
第二段階実習先決定・発表	12月初旬	第6回～第8回あたりで発表
★実習先「施設概要」下書き提出	1月初め	第10～第12回あたり、1月最初の授業で持参する
セルフアセスメントの実地	1月後半	第二段階実習前に実施
第二段階実習先事前訪問	2月初め	2月初めの授業補講期間等を利用して学生個別に実施
第二段階実習事後指導	3月下旬	第13回～第15回

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論 I (2単位)	3. 科目番号	SCMP2128
2. 授業担当教員	三野 宏治		SPMP2428
4. 授業形態	講義、課題の発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神障害者の生活支援の意義と特徴及び精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。加えて、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動(その他の日中活動 支援を含む)、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目的とする。		
8. 学習目標	以下について理解し、説明できるようになることを求める。 ① 精神障害者の概念について理解する ② 精神障害者の生活の実際について理解する ③ 精神障害者の生活と人権について理解する ④ 精神障害者の居住支援について理解する ⑤ 精神障害者の就労支援について理解する ⑥ 精神障害者の生活支援システムについて理解する		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	割り当てられた範囲について調査及びディスカッションを行い、レポート等を作成・提出及び発表をする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 福祉臨床シリーズ編集委員会 編『精神保健福祉士シリーズ 8 精神障害者の生活支援システム <第3版>』, 弘文堂。 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 精神障害者の生活支援の意義と特徴及び精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。加えて、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動(その他の日中活動 支援を含む)、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動についての、基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、課題提出・発表、期末試験を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 課題提出・発表 総合点の30% 3 期末試験 総合点の40%		
12. 受講生へのメッセージ	初回授業で受講ルールの詳細を説明する。したがって受講希望者は必ず第1回の授業に出席すること。 精神保健福祉士の倫理・技術等を含むその存在意義は、精神障害のある人たちのためにある。したがって、倫理・技術が単独で存在することはない。つまり、精神障害のある人たちの生活実態や状況を知り、その支援を如何に良いものとしていくかという志向が必要となる。本講義は精神障害のある人たちのおかれた、おかれている状況を理解することから始める。そして受講生諸君が「精神障害がある人たちへの支援が如何にあるべきか」を考える起点としていただきたい。		
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読
		事後学習	精神保健福祉とは何かについて調べてくる
第2回	精神障害者の生活支援とは何か ・精神障害とは ・障害の概念 ・生活支援の意味を考える ・地域生活支援活動の経過と現状 ・今後の課題	事前学習	教科書 pp. 2~13 を読み、精神障害者の生活支援について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 2~13 を読み、精神障害者の生活支援に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第3回	精神障害者の基本的理解—1 ・精神障害者の定義と特性	事前学習	教科書 pp. 16~20 を読み、精神障害者の定義と特性の主な内容について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 16~20 を読み、精神障害者の定義と特性に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第4回	精神障害者の基本的理解—2 ・人間存在としての精神障害者 ・生活者としての精神障害者	事前学習	教科書 pp. 20~29 を読み、生活者としての精神障害者について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 20~29 を読み、生活者としての精神障害者(事例問題等)に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第5回	精神障害者の生活 ・精神障害者の生活実態 ・生活状況の事例 ・精神障害者と家族の関係	事前学習	教科書 pp. 32~52 を読み、精神障害者の生活について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 32~52 を読み、精神障害者の生活(事例問題等)に関する国試過去問を解いて理解を深める。

第6回	精神障害者の生活と人権—1 ・精神障害のある人の権利をめぐる状況 ・地域生活における精神障害者の人権	事前学習	教科書 pp. 54～65 を読み、精神障害者の生活と人権について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 54～65 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の生活と人権）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第7回	精神障害者の生活と人権—2 ・精神保健福祉士に求められる権利擁護の視点と役割 ・精神障害のある人の権利を護るシステム	事前学習	教科書 pp. 66～78 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の生活と人権）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 66～78 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の生活と人権）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第8回	精神障害者の居住支援—1 ・精神障害者にとっての住生活の意味 ・居住支援制度の概要 ・居住支援における専門職の役割と機能	事前学習	教科書 pp. 80～94 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の居住支援）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 80～94 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の居住支援）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第9回	精神障害者の居住支援—2 ・住居支援事例 ・住居支援における近年の動向と課題 ・住居支援の担い手と連携・協働	事前学習	教科書 pp. 94～109 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の居住支援）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 94～109 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の居住支援）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第10回	精神障害者の就労支援—1 ・精神障害者にとっての就労の意味 ・就労支援制度の概要 ・就労支援にかかわる専門機関・専門職の役割と機能	事前学習	教科書 pp. 112～131 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の就労支援）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 112～131 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の就労支援）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第11回	精神障害者の就労支援—2 ・就労支援—連携と支援システムづくり ・就労・雇用支援事例 ・就労支援における近年の動向と課題	事前学習	教科書 pp. 131～144 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の就労支援）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 131～144 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の就労支援）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第12回	地域社会における生活支援システム ・地域支援システム構築の意味 ・精神障害者のピア活動 ・家族の動向 ・地域生活支援事業とは ・医療機関の役割と機能 ・行政機関の役割と機能 ・相談支援の成り立ち ・生活支援づくりの事例 ・ソーシャルサポート・ネットワークの今後の課題	事前学習	教科書 pp. 146～198 を読み、精神障害者の生活支援システム（地域社会における生活支援システム）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 146～198 を読み、精神障害者の生活支援システム（地域社会における生活支援システム）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第13回	行政における相談援助 ・市町村における相談援助の担い手 ・市町村における相談援助の事例 ・広域行政機関 ・広域行政機関における事例	事前学習	教科書 pp. 200～221 を読み、精神障害者の生活支援システム（行政における相談援助）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 200～221 を読み、精神障害者の生活支援システム（行政における相談援助）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第14回	精神障害者と現代社会 ・あたりまえの生活を目指して ・市民としていきる ・ソーシャルインクルージョンの理念と現代社会	事前学習	教科書 pp. 224～240 を読み、社精神障害者と現代社会について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 224～240 を読み、精神障害者と現代社会に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第15回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生理学 (4単位)	3. 科目番号	GELA2322
2. 授業担当教員	澤田 晋一		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表。生理学に関する簡単な実験。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>医療分野の多極化がすすみ、数多くの co-medical の新しい職種が誕生している。人体に関係のある仕事に携わる人々にとって人体生理学は大変大切である。職場の労働者の健康管理や快適な職場環境づくりを行うための衛生管理者や福祉専門職・心理専門職にとって、この生理学は欠かすことのできない科目であるが、難解な科目でもある。しかし、まず、人体の全般にわたって理解を深め、その上で、専門的な知識を習得していくことが大切である。</p> <p>本科目では、人体各部の組織、器官・器官系それぞれの生理機能を理解し、それらが統合された個体としての人体活動について、疾病とも関連させて学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>学生には下記について学び、説明できるようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を確認する。 2. 生体内の諸組織・器官の機能について理解できるようになる。 3. 生体内の諸組織・器官の神経系による調節について理解できるようになる。 4. 生体内の諸組織・器官の内分泌系による調節について理解できるようになる。 5. 神経系・免疫系・自律神経系を介する生体防御について理解できるようになる。 6. 生体機能を健康的に維持する方法について理解できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の復習のために、適宜提出物を求める。 2. レポート課題：もっとも関心を持った器官系につき、生理機能をまとめる。(A4版、横書き、1,200～1,500字) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】石川隆 (監修)『生理学の基本がわかる事典』西東社 【参考書】奈良信雄 (監修)『人体のしくみと病気がわかる事典』西東社 澤口彰子他 (著)『人体のしくみとはたらき』朝倉書店。 ニュートン編集委員会 (編)『人体を支配するしくみ』ニュートンムック。 彼末一之、能勢博 (編)『やさしい生理学 改訂第7版』南江堂</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の組織・器官・器官系の機能をふまえて、生体丸ごとの活動について理解しているか。 2. 生理学と医学の他分野と関連づけて理解できているか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 (授業ごとのレポート、発言) 40% 2. 課題レポート・発表 30% 3. 期末試験 30% <p>上記のほかに、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位習得の条件であることも考慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医学情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業中の私語、携帯電話の使用を禁止します。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション (生理学とは何か、ホメオスタシスとは、成長・発達と老化)	事前学習	「生理学」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。
		事後学習	生理学の概要をまとめる。
第2回	細胞 (構造、機能)	事前学習	教科書で細胞の大きさ、細胞内小器官について調べておく。
		事後学習	細胞内小器官の機能についてまとめる。
第3回	体液 (組成、恒常性の調節)	事前学習	教科書で体液量の割合について調べておく。
		事後学習	細胞内液、細胞外液の組成、水分調節、脱水症状についてまとめる。
第4回	血液 (役割、組成、血液凝固と線溶)	事前学習	教科書で血液の成分 (血球成分・血漿成分) について調べておく。
		事後学習	血液の機能、代表的な血液疾患についてまとめる。
第5回	循環① (心臓の機能調節、心臓の異常)	事前学習	教科書で心臓の位置、構造について調べておく。
		事後学習	心臓機能の調節機序と代表的な心臓機能障害についてまとめる。

第6回	循環②（血管系と機能調節、血管系の異常、リンパ系）	事前学習	教科書で血管系・リンパ系の構造について覚えておく。
		事後学習	血圧の測定結果を踏まえて、血圧調節の機序、高血圧症の主要原因についてまとめる。
第7回	呼吸①（呼吸器の構造と機能調節）	事前学習	教科書で気道・肺の構造について調べておく。
		事後学習	呼吸の調節機構についてまとめる。
第8回	呼吸②（ガス交換、呼吸器系の異常）	事前学習	教科書で吸気・呼気中のガス成分について調べておく。
		事後学習	血中酸素分圧の測定結果を踏まえて、呼吸器系機能についてまとめる。
第9回	消化①（消化器系の構造と機能調節）	事前学習	教科書で消化器系の位置・構造を調べておく。
		事後学習	呼吸器系運動の調節についてまとめる。
第10回	消化②（消化、吸収、消化管ホルモン）	事前学習	教科書で消化・吸収の意味、消化酵素の機能について調べておく。
		事後学習	消化運動に関与するホルモンについてまとめる。
第11回	栄養と代謝（栄養素、中間代謝、エネルギー所要量）	事前学習	教科書で5大栄養素と機能について調べておく。
		事後学習	空腹時・満腹時のエネルギー代謝についてまとめる。
第12回	まとめとディスカッション第1回ミニテスト	事前学習	第5回～第11回で学んだことについて学生間でディスカッションし、簡単なテストを行う。
		事後学習	テスト結果について、誤っていた項目を再学習。
第13回	体温（体温の生理的変動、熱産生、熱放散、行動性体温調節と発熱）	事前学習	教科書で体温調節について調べておくとともに、体温を様々な部位、時刻で測定しておく。
		事後学習	体温の調節機構、発熱・解熱の機序をまとめる。
第14回	腎・泌尿器（腎臓の機能、糸球体ろ過、尿管再吸収、体内の水分平衡）	事前学習	教科書で腎臓の構造を調べておく。
		事後学習	尿形成の機序と腎臓障害についてまとめる。
第15回	骨とカルシウム代謝（構造、骨吸収・再形成、骨代謝とホルモン、骨粗鬆症）	事前学習	教科書で骨の構造を調べておく。
		事後学習	骨形成・骨吸収の機序と、関連する器官・ホルモンについてまとめる。
第16回	内分泌系①（内分泌腺とホルモン、ホルモン分泌調節機序）	事前学習	教科書で内分泌器官について調べておく。
		事後学習	内分泌の刺激機構、フィードバックによる抑制機構についてまとめる。
第17回	内分泌系②（成長ホルモン、甲状腺ホルモン、下垂体後葉ホルモン）	事前学習	教科書で視床下部～下垂体系のホルモン分泌過程を調べておく。
		事後学習	ホルモンの生理的効果についてまとめる。
第18回	内分泌系③（副腎皮質ホルモン、性ホルモン、膵臓ホルモン）	事前学習	教科書で関係するホルモンについて調べておく。
		事後学習	ホルモン分泌の過剰・過小の影響をまとめる。
第19回	内分泌系④（ストレスと内分泌系の変化）	事前学習	事前配布資料を読んで、ストレスの生理機能への影響について調べておく。
		事後学習	ストレスに起因する各種疾患について、内分泌と免疫機構との関連を含めてまとめる。
第20回	まとめとディスカッション第2回ミニテスト	事前学習	第13回～第19回で学んだことについて学生間でディスカッションし、簡単なテストを行う。
		事後学習	テスト結果について、誤っていた項目を再学習。
第21回	生殖（性分化、二次性徴、性周期、受精・分娩）	事前学習	教科書で受精、胎児の成長、分娩の過程を調べておく。
		事後学習	性分化、二次性徴と性ホルモンとの関連をまとめる。
第22回	神経系①（神経細胞の形態、活動電位、神経伝導・伝達）	事前学習	教科書で神経細胞の特徴を把握しておく。
		事後学習	神経伝導・神経伝達の機序、その速度についてまとめる。
第23回	神経②（自律神経系、運動神経系、感覚神経系）	事前学習	教科書で末梢神経系（遠心性、救心性）の特徴を調べておく。
		事後学習	末梢神経系の障害に伴う各種症状をまとめる。
第24回	神経③（中枢神経系：大脳新皮質、辺縁系）	事前学習	教科書で脳・脊髄の構造を調べておく。
		事後学習	大脳の機能分化から、それらの障害に伴う症状をまとめる。
第25回	筋肉①（骨格筋：筋収縮の機序、運動の神経支配）	事前学習	教科書で横紋筋（骨格筋）と平滑筋（内臓筋）の特徴を把握しておく。
		事後学習	骨格筋の収縮機序と筋肉疲労についてまとめる。
第26回	筋肉②（平滑筋、心筋）	事前学習	教科書で平滑筋と心筋の特徴を調べておく。

2020年度

		事後学習	平滑筋・心筋の収縮と自律神経機構についてまとめる。
第27回	感覚①（感覚の種類、感覚受容器と伝導、体性感覚）	事前学習	教科書で五感とは何か、感覚刺激の感受、伝導・伝達と脳機能について調べておく。
		事後学習	体性感覚の種類と感度についてまとめる。
第28回	感覚②（特殊感覚）	事前学習	教科書で特殊感覚の感覚受容部位を把握しておく。
		事後学習	特殊感覚（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚）の特徴とそれらの障害についてまとめる。
第29回	まとめと総括。課題発表	事前学習	事前提示された課題についてまとめる。
		事後学習	課題の発表内容について総括する。
第30回	まとめ	事前学習	課題に対するレポートの作成。
		事後学習	生理学全般について質疑・応答、ディスカッションを取り入れてまとめたレポートを作成し、提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	総合的な学習の時間の指導法 (初等) (2単位)	3. 科目番号	SJMP2216
2. 授業担当教員	沼澤 清一		EDTE2311
4. 授業形態	講義、演習、討議	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、実社会・実生活の課題をよりよく解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す」学習であることを理解し、児童に指導できるようにするための探究学習に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学校において編成する指導計画や指導方法のあり方、考え方を習得し、実践できる資質・能力を身に付けるようにする。		
8. 学習目標	1. 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 2. 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 3. 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【課題レポート】 ・次の①と②を課題レポートとする。 ① 第5回の講義までに学んだ内容に関するレポート (具体的課題については授業内に示す) ② 指導計画・学習計画 (模擬授業発表後) ・振り返りシート 毎回の講義終了後、講義によって何が解決され、何が解決されなかったのか、また、自分自身はどのような考えを持ったのかなどについてまとめ、講義終了の3日後までに提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『学習指導要領解説編 総合的な学習の時間』東洋館出版 【参考書】 文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育出版社 【参考資料】 小学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方指導と評価の考え方などについて、説明できるとともに、実践上の留意点を身に付ける。 ○評定の方法 各時間の学習記録・レポート 50%、授業に臨む態度 (発言・発表) 30%、日常の学習状況 (出席・提出物) 20%		
12. 受講生へのメッセージ	総合的な学習の時間は、新学習指導要領の意図が大きく反映されています。これからの子供たちを育てていく核となる存在です。授業づくりについて、新しい視点をもって学んでいきましょう。		
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・総合的な学習の時間の学習経験を基に、学習からどのようなことを学び、身に付けたのか、相互に発表し合い、総合的な学習の時間の指導における、教員の役割を考える。	事前学習	シラバスを読んでおく。過去の「総合的な学習の時間」の学習経験を思い出す。
		事後学習	総合的な学習の時間の指導における教員の役割をまとめる。
第2回	総合的な学習の時間の意義 ・前時で考えた教員の役割が、総合的な学習の時間の目的に照らして望ましいものになっているか、資料を調べ、グループで話し合い、発表し合う。	事前学習	今、求められる力について、参考書を基に考えてくる。
		事後学習	総合的な学習の時間の指導で、実社会・実生活の課題をよりよく解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習にすることについて、考えをまとめる。
第3回	総合的な学習の時間の目標 ・総合的な学習の時間の意義を実現するために、どのような資質・能力を育成すれば良いのかについて、資料を調べ、グループで話し合い、考えを発表し合う。	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う学習であることを、参考書を読み、まとめる。
第4回	教育課程において果たす役割 ・各教科で身に付けた力を活用して、実社会・実生活の課題を探究する汎用的な資質・能力を育てる学習として位置付けているか、資料を基に調べ、どのように学習を進めればよいのか話し合い、発表し合う。	事前学習	各教科で身に付ける見方・考え方と総合的な時間で身に付ける資質・能力について、学習指導要領を基に調べておく。
		事後学習	各教科で身に付けた力を活用して、実社会・実生活の課題を探究する汎用的な資質・能力を育てる学習であることまとめる。
第5回	総合的な学習の時間で育てる資質・能力 ・総合的な学習の時間は、実生活や実社会の課題を児童の探究能力に合わせ、課題解決を図る学習であることを調べ、探究の学習過程を身に付けさせるための能力や方策について考え合い、発表する。	事前学習	各教科を越えて必要となる基礎的な能力とは何かについて教科書を読んでおく。
		事後学習	探究過程で、必要な興味関心、学習意欲、追究の方法などについて、学習結果を基にまとめる。
第6回	各学校が定める総合的な学習の探究課題 ・各学校の教育課程の目標を達成するために、どのように探究課題を設定したら良いかについて、授業実践記録をもとに考察し、グループで話し合い、発表する。	事前学習	学校で総合的な学習の目標や内容を定める際の考え方について、教科書を読んでおく。
		事後学習	カリキュラム・マネジメントの考え方を復習し、課題設定の仕方について話し合われたことについて整理しておく。
第7回	各学校で定める学習内容・探究課題 ・探究課題の連続性とその深化を重視した	事前学習	総合的な学習としてふさわしい内容について、教科書で扱われている内容について読んでおく。

	授業構成のあり方について、授業実践記録をもとに考察し、グループで話し合い、発表する。	事後学習	内容を定める条件を整理するとともに、学習対象となる内容について教科書や話し合いを基に、まとめる。
第8回	総合的な学習の時間の指導視点 ・グラフをもとにした資料活用能力など他教科で身に付けた能力をもとに課題を導き出し、生活の場をもとに解決していく学び方について、授業実践記録をもとに考察し、グループで話し合い、発表する。	事前学習	総合的な学習の時間の学習指導について、教科書を読んでおく。
		事後学習	各教科で身に付けた力を活用して、実社会・実生活の課題を探究する汎用的な資質・能力を育てる学習であることをふり返り、まとめる。
第9回	総合的な学習の時間の学びについて ・総合的な学習の時間において、主体的・対話的で深い学びになるようにするにはどういう学びを導けば良いかについて、授業実践記録をもとに考察し、グループで話し合い、発表する。	事前学習	総合的な学習の時間の学習指導について、教科書を読んでおく。
		事後学習	総合的な学習の時間の学習指導に必要な条件を整理し、主体的・対話的で深い学びにするための話し合いの結果をまとめる。
第10回	総合的な学習の時間の評価 ・教科書「探究学習の指導のポイント」をもとに、学習の成果の取り上げ方をしらべ、目標に準拠した評価規準をどのように考えるかを話し合い、発表し合う。	事前学習	総合的な学習の時間の評価の在り方について、教科書を読んでおく。
		事後学習	探究学習の指導のポイントの中に評価の観点があることに気づき、目標に準拠した評価規準が作成できるように、話し合いを基にまとめる。
第11回	総合的な学習の指導計画の作成 ・総合的な学習の目標・内容を想起させ、内容ごとにグループをつくり、課題追究のための指導計画を協働で作成する。	事前学習	指導計画作成に向けて、参考書をよんで、学習対象を探しておく。
		事後学習	自分のグループで追究しようとしている課題についてまとめておく。
第12回	総合的な学習の時間の学習計画の作成 ・グループのメンバーが考えてきた指導内容について話し合い、学習展開ができるまでに高め、指導案に構成する。	事前学習	自分のグループで決めた内容を児童に追究させるための、教材や教具など、学習過程の組み立てを行っておく。
		事後学習	話し合いでまとめた指導の仕方について各自まとめておく。
第13回	指導計画の発表と模擬授業 ・各グループで作成した指導計画を発表すると同時に、児童に投げかける課題について模擬授業を行う。	事前学習	グループの指導計画について、全体の場で発表できるように資料作成を行う。
		事後学習	各グループの指導計画について、整理する。
第14回	指導計画に見る具体事例について ・各グループで作成した指導計画を発表すると同時に、児童に投げかける課題について模擬授業を行う。 ・各グループが提案した事例を基に、指導計画作成の課題を話し合う。	事前学習	具体事例の取扱について、各人評価しておく。
		事後学習	主体的・対話的で深い学びを実現するような計画の作成であったかについてまとめを行う。
第15回	総合的な学習の時間の指導のポイント ・15回の学習から得られた知見について、目標・内容の設定、探究活動のポイントなど、視点ごとに振り返り、この学習のまとめを行う。	事前学習	学びの過程を振り返っておく。
		事後学習	「総合的な学習の時間」の学習を通して、学んだこととこれからの課題についてレポートを書く。

1. 科目名 (単位数)	相談援助演習 (2単位)		3. 科目番号	SJMP2103
2. 授業担当教員	鈴木 雄司			
4. 授業形態	講義、ゼミナール形式、グループ活動、ディスカッション、演習、プレゼンテーション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年以上			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークの基本的な考え方、理論、目的・原理・原則、構成要素と機能について講義するとともに、保育士の役割と相談援助の関係、子どもへのケア、関連する技法、相談援助の対象・過程・計画、関係機関との協働、専門職間の連携、社会資源の活用などについては、グループでの討議とまとめ、発表を経て学んでいく。身近に迫った実習も考慮して、現場に対応できるスキルも学習できるようにする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基本にゼミナール方式とグループ活動の形態を導入し、ディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の変化に伴い、家族や子どもたちの育ちの状況について理解し、説明することができる。 ・ソーシャルワークの基本的な考え方、視点、体系について理解し、説明することができる。 ・相談援助の目的と原理・原則について理解し、説明することができる。 ・相談援助の構成要素、機能、実践上の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助が求められる背景と目的、家族支援と保育士の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助の視点、関連する援助技術について理解し、説明することができる。 ・相談援助の対象、援助過程、技法等について理解し、活用することができる。 ・その他、相談援助の計画、関連機関との協働、専門職との連携、社会資源の活用などについて理解し、応用できるセンスを養う。 <p>相談援助について基本的なことを理解するとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容ごとに課題シートの提出、授業講義要約トレーニングを行う。 2. レポートの課題(A4 2枚程度)は、各グループが担当した箇所の要約等、授業で活用した方法を使用し、のまとめを行う。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新・プリマーズ/保育/福祉 久保美紀編『相談援助』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。 小田兼三・宮川数君『社会福祉援助技術論第2版』。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の全体像を講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。 2. ソーシャルワークの考え方、視点、体系と相談援助における個別課題について理解し、説明することができる。 3. 発想法や分析法など具体的な手法を活用することができる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表) 総合点の20% 2. 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査・提出物) 総合点の30% 3. 課題レポート 総合点の50% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、演習を効果的に行うために、講義・グループ討議に加えて、教員と学生、学生同士が向き合うゼミナール方式を取り入れています。授業の運営は、必要に応じて学生と相談しながら進めています。また、学生も運営の一部を担うこととなりますので、学生自身の主体的な参加が強く求められます。同時に、大学での学びを楽しいものにするために、レクレーション等様々な企画が教員・学生で用意されます。座って聴いていけばよいという授業ではありません。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、レポートについての説明、グループ分等)		事前学習	シラバスに目を通し、講義概要、学習目標等について理解を深めておく。講義用のノートと資料を綴じるファイルを用意する。
			事後学習	オリエンテーションで説明された内容を確認しておく。配布された資料をファイルに綴じる。
第2回	序章 家族と子どもの育ちの状況 (社会状況の変化と保育士の役割、家族状況と援助等)		事前学習	社会状況の変化と保育士の役割について、教科書の序章「家族と子どもの育ちの状況」を読んで、自分の考えをまとめておくこと。
			事後学習	現代社会における家族の課題と子育て支援の必要性について理解し、講義の内容をノートに要約しておく。
第3回	第1章 相談援助の理論 (ソーシャルワークとは何か、ソシヤ		事前学習	ソーシャルワークとは何か、第1章「相談援助の理論」を読んで、ソーシャルワークの概

	ルワークの視点、体系等)		念をイメージしておくこと。
		事後学習	保育士とソーシャルワークの関係について理解し、講義の内容をノートに要約しておく。
第4回	第2章 相談援助の目的と原理・原則(ソーシャルワークの目的、原理、原則等)	事前学習	ソーシャルワークの目的について、第2章「相談援助の目的と原理・原則」を読んで、課題を整理しておくこと。
		事後学習	ソーシャルワークの目的・原理・原則を理解し、講義の内容をノートに要約しておく。
第5回	第3章 相談援助の機能(ソーシャルワークの構成要素、機能、実践上の役割等)	事前学習	ソーシャルワークの構成要素と機能について、第3章「相談援助の機能」を読んで、内容を整理しておくこと。
		事後学習	ソーシャルワークの構成要素、機能、実践上の役割について理解し、講義の内容をノートに要約しておく
第6回	中間のまとめ	事前学習	これまで学んできたことをまとめておき、授業の討論で活用できるようにしておくこと。
		事後学習	授業で討論した内容を、学習ノートに整理し、要約した内容としてまとめる。
第7回	第4章 保育士の役割と相談援助(相談援助が求められる背景と目的、家族支援等) グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第4章「保育士の役割と相談援助」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧でわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第8回	第5章 子どものケアと相談援助(相談援助の視点、関連する相談援助技術等) グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第5章「子どものケアと相談援助」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧でわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第9回	第6章 相談援助の対象(相談援助の役割と対象、対象把握の原理) グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第6章「相談援助の対象」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧でわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第10回	第7章 相談援助の過程(相談援助の過程、アセスメント、計画、計画の実行、評価) グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第7章「相談援助の過程」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧でわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第11回	第8章 相談援助の技法(保育士と相談援助の技法、関係の技法、問題分析の技法、専門職としての技法) グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第8章「相談援助の技法」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧でわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第12回	第9章 計画・発達・記録・評価の実際(事例にみる計画・記録・評価の実際等)	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第9章「計画・発達・記録・評価」を

	グループによるプレゼンテーション		読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧にわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第13回	第10章 関係の機関との協働(協働が求められる背景、協働とは、関係機関との協働のかたち、交流・協力を促進するために等)	事前学習	協働が求められる背景などについて、第10章「関係の機関との協働」を読んで、課題を整理しておくこと。
		事後学習	関係機関との協働のかたちについて理解し、講義の内容をノートに要約しておく。
第14回	第11章 多様な専門職との連携(専門職間の連携の必要性、チームとは、求められる能力等) 第12章 社会資源の活用、調整、開発(社会資源とは、社会資源の活用、方法、開発等)	事前学習	専門職間の連携の必要性などについて、第11章「多様な専門職との連携」と第12章「社会資源の活用、調整、開発」を読んで、課題を整理しておくこと。
		事後学習	専門職間の連携のあり方と地域社会にどのような社会資源があるかを理解し、講義の内容をノートに要約しておく。
第15回	全体のまとめ	事前学習	相談援助演習の授業において学んだ内容を振り返り、相談援助の課題について自己の見解を加えてまとめておく。
		事後学習	講義内容、発表内容を整理して、改めてノートにまとめる。授業中に配付された資料はすべてファイリングする。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)	3. 科目番号	SBMP2155 SNMP2355 SCMP2355 SPMP2155 SSMP2155 PSMP2455
2. 授業担当教員	鈴木 雄司		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	2年生以上		
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解し説明できる。 ・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助の理念について理解し、説明できる。 ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>レポート課題 「社会福祉士の倫理綱領および行動規範を学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なかを考察せよ」。レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』第3版 中央法規出版, 2015年</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 受講態度・参加姿勢 40% (全授業の3/4以上の出席が必要) 遅刻 (10分程度迄) は3回で1回休みとなる。</p> <p>2. 筆記試験とレポート試験を行う。60%</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 社会福祉士の役割 (総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む) と意義について理解し、説明できる。</p> <p>2. 相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。</p> <p>3. 相談援助の理念について理解し、説明できる。</p> <p>4. 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。</p> <p>5. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。</p> <p>6. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <p>1. 授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的態度で授業に参加することが期待されている。</p> <p>2. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。</p> <p>3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。</p> <p>4. レポートの提出日を厳守すること。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、試験・レポートについての説明、グループ分け等)	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	ソーシャルワーク I のねらいについて講義用ノートにまとめる。
第2回	グループにて割り振られた部分についての話し合い・発表準備	事前学習	発表日や打ち合わせ日についてのスケジュールを調整しておく。
		事後学習	講義、試験日、レポート提出日等について各自のスケジュール帳につける。発表レジメを教員に提出する日を確認する。
第3回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」① (ソーシャルワーカーの仕事、法律、社会福祉士の専門性、精神保健福祉士の専門性)	事前学習	社会福祉士、精神保健福祉士とは何か、その実践内容について調べておくこと。教科書 pp. 2～6 を読んでおくこと。
		事後学習	社会福祉士、精神保健福祉士の法的位置づけについてノートにまとめる。

第4回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」② (現代社会とは、地域での生活、地域や家庭内で起きていること)	事前学習	最近の地域社会の問題について考え、その内容についてノートに書き留めておくこと。教科書 pp. 7～12 を読んでくること。
		事後学習	講義の要旨をノートにまとめる。
第5回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」③ (人々の人生とソーシャルワーカー、チームアプローチの必要性、ソーシャルワーク実践とその基盤となる知識)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 11～17 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べノートにまとめる。
第6回	「相談援助の定義と構成要素」① (国際ソーシャルワーカー連盟の定義とその他の主だった定義)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 20～28 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第7回	「相談援助の定義と構成要素」② (クライアントシステムとニーズ)	事前学習	IFSW の定義を復習しておく。教科書 pp. 29～33 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第8回	「相談援助の定義と構成要素」③ (ソーシャルワーカーの知識・性質・スキル、社会資源)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 33～41 を読んでくること。
		事後学習	相談援助の定義と構成要素についての小レポートを作成する。
第9回	「相談援助の形成過程」① (ソーシャルワークの源流、基礎確立期～1930年代)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 44～59 を読んでくること。
		事後学習	COS, セツルメント、YMCA の実践についてノートにまとめる。
第10回	「相談援助の形成過程」② (ソーシャルワークの発展期、1940年代～1950年代半ば)	事前学習	ソーシャルワークの前史について復習しておくこと。教科書 pp. 62～68 を読んでくること。
		事後学習	リッチモンドのケースワーク、社会診断の考え方について復習し、ノートにまとめる。
第11回	「相談援助の形成過程」③ (ソーシャルワークの展開期、1950年代半ば～1960年代以降)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 69～76 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第12回	「相談援助の形成過程」④ (ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 77～82 を読んでくること。
		事後学習	ジェネラリストソーシャルワークとは何かについてノートにまとめる。
第13回	「相談援助の理念」① (ソーシャルワーカーと価値、ソーシャルワーク実践と価値)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 84～95 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーカー専門職として身につける価値についてまとめる。
第14回	「相談援助の理念」② (ソーシャルワーク実践と権利擁護)	事前学習	教科書 pp. 96～103 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第15回	「相談援助の理念」③ (自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 106～118 を読んでくること。
		事後学習	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについてノートにまとめる。
第16回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」① (専門職倫理の概念、日本社会福祉士会倫理綱領及び	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生

	行動規範		については教科書 pp. 120～131 を読んでくること。
		事後学習	提示される日本社会福祉士会の倫理綱領・行動規範に関する事例の課題を行う。
第17回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」② (ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ、倫理的ジレンマにおける倫理的判断過程)	事前学習	教科書 pp. 132～140 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第18回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」① (総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 142～147 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉基礎構造改革がもたらした新たな援助状況と求められる専門的援助についてノートにまとめる。
第19回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」② (地域を基盤にしたソーシャルワークの基本的視座)	事前学習	社会福祉入門や社会福祉原論で学んだ地域福祉の部分をよく復習しておくこと。教科書 pp. 148～152 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第20回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」③ (地域を基盤にしたソーシャルワークの八つの機能と事例)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 153～154 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第21回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」① (ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、3方法の融合とジェネラリストソーシャルワーク)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 156～159 を読んでくること。
		事後学習	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークとジェネラリストソーシャルワークとの関係性についてノートにまとめる。
第22回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」② (システム思考とエコシステム)	事前学習	事前にシステム理論、エコロジカル理論について調べておくこと。教科書 pp. 160～163 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第23回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」③ (ストレングス・パースペクティブ、マルチシステム)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 163～167 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第24回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」① (相談援助専門職の概念)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 170～177 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークになぜ専門性が必要なのかをノートにまとめる。
第25回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」② (相談援助専門職の範囲、諸外国の動向)	事前学習	自分の興味があるソーシャルワークの専門職について調べておくこと。教科書 pp. 178～188 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第26回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」① (予防機能 事例検討 地域包括支援センターにおける実践)	事前学習	孤独死とは何かについて調べておくこと。教科書 pp. 190～200 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第27回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」② (新しいニーズへの対応 事例検討 独立型社会福祉士の実践、スクールソーシャルワーカーによる総合支援)	事前学習	最近の新しいソーシャルワークの事例について新聞記事等の資料を探しもってくること。教科書 pp. 201～221 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第28回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」③ (権利擁護機能 事例検討 知的障害者施設における権利擁護の実践)	事前学習	知的障害者の権利侵害に関する事例の資料を探しもってくること。教科書 pp. 222～231 を読んでくること。

		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第29回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」④ (社会資源開発機能 事例検討 社会福祉協議会による社会資源開発)	事前学習	市町村社会福祉協議会の機能と業務について調べておくこと。教科書 pp. 232～237 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第30回	まとめ (これまでの講義内容のまとめを行う)	事前学習	これまで行われた確認テストのファイルをもってくること。
		事後学習	これまで行われた確認テストと教科書を通じて理解が不十分な部分についてチェックしノートにまとめること。

1. 科目名(単位数)	ソーシャルワークⅡ (4単位)	3. 科目番号	SSMP2156 SBMP2156 SCMP2356 SPMP2156 PSMP2456
2. 授業担当教員	北爪 克洋		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>レポート課題1：ソーシャルワークに必要とされる視点と態度について講義をもとに解説せよ。 レポート課題2：ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性と必要な技術について説明せよ。 レポートはいずれもA4 2枚(2880字)にまとめる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座7）』第3版、中央法規出版、2015年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) ・8つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ・8つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) <p>○評定の方法 レポート課題(25%) 定期試験(50%)、受講態度(25%)による総合的評価</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>ソーシャルワークⅡでは主に相談援助についての学びを深めます。相談援助はソーシャルワーク実践の核をなす重要な援助技術でもあります。したがって学生たちは授業の復習や準備を欠かすことなく授業に臨んでください。授業では常に高い緊張度と集中力を維持する必要があります。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション： ソーシャルワークⅡを学習するにあたっての説明と確認 ソーシャルワークⅠの振り返り	事前学習	「社会福祉」について自分の言葉で説明できるよう、ノートにまとめておく。
		事後学習	講義を踏まえて「社会福祉」について自分の言葉でノートにまとめる。
第2回	社会福祉の概念的理解： 「社会福祉」をどのように説明するか？	事前学習	「社会福祉」について自分の言葉で説明できるよう、ノートにまとめておく。
		事後学習	講義を踏まえて「社会福祉」について自分の言葉でノートにまとめる。
第3回	ソーシャルワークの概念と範囲：① 映画『ターミナル』からソーシャルワークを考える	事前学習	テキスト pp.2～18 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第5回の講義時に提出する。
第4回	ソーシャルワークの概念と範囲：② 国際的ソーシャルワークの定義について理解する	事前学習	テキスト pp.2～18 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第5回の講義時に提出する。
第5回	ソーシャルワークの職種と専門性： ソーシャルワークの「仕事」と「職場」	事前学習	テキスト pp.19～25 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第7回の講義時に提出する。
第6回	ソーシャルワークの理念と原則： ソーシャルワーク実践の根底にあるものは何かを知る	事前学習	「社会正義」について調べ、自分の言葉で説明できるようにする。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第7回の講義時に提出する。
第7回	ソーシャルワークの倫理：	事前学習	社会福祉士の倫理綱領を一読し、その内容に

	倫理綱領とは何か？		ついて教員へ確認すべき事項を箇条書きする。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第9回の講義時に提出する。
第8回	ソーシャルワーク実践上のディレンマ	事前学習	社会福祉士の倫理綱領を一読し、その内容について教員へ確認すべき事項を箇条書きする。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第9回の講義時に提出する。
第9回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践Ⅰ：事例を通じてソーシャルワークの構造を知る	事前学習	第8回に配布されたレジュメに記載されている課題（ジェノグラムを見て考える）について自己の考えをノートにまとめる。
		事後学習	ワークシートの設問3・4について各自記入する。
第10回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践Ⅱ：事例を通じてソーシャルワークに必要な視点と態度を学ぶ	事前学習	第8回に配布されたレジュメに記載されている課題（ジェノグラムを見て考える）について自己の考えをノートにまとめる。
		事後学習	ワークシートの設問3・4について各自記入する。
第11回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践Ⅲ：事例を通じて「人と環境の相互作用」を理解する	事前学習	ワークシート内容に目を通し、事例の概要を明確にする。テキスト pp. 53～67 を参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第13回の講義時に提出する。
第12回	ソーシャルワークにおけるニーズ：ニーズの多様性について事例を用いて理解を深める	事前学習	ワークシート内容に目を通し、事例の概要を明確にする。pp. 44～51 を参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第13回の講義時に提出する。
第13回	ミクロからメゾ、マクロを包括したソーシャルワーク実践について（事例紹介）	事前学習	テキスト pp. 27～43 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第15回の講義時に提出する。
第14回	ソーシャルワーク実践と援助関係：ソーシャルワーカーとクライアントとの関係性について理解を深める	事前学習	テキスト pp. 69～93 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題1の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第15回	ソーシャルワークの展開過程Ⅰ：ソーシャルワークの展開過程の全体像を理解する	事前学習	テキスト pp. 95～101 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第17回の講義時に提出する。
第16回	ソーシャルワークの展開過程Ⅱ：ケースの発見からアセスメント	事前学習	テキスト pp. 102～126 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第17回の講義時に提出する。
第17回	ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性と技術を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 182～204 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト（事例）」を記入し、第19回の講義時に提出する。
第18回	アセスメント演習を通じて学んだことの実践を行う	事前学習	テキスト pp. 182～204 を熟読し、その内容を確認する。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト（事例）」を記入し、第19回の講義時に提出する。
第19回	ソーシャルワークの展開過程Ⅲ：アセスメントからプランニング・支援の実施	事前学習	テキスト pp. 127～136 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト（事例）」を記入し、第21回の講義時に提出する。
第20回	プランニング演習を通じて学んだことの実践を行う	事前学習	テキスト pp. 206～222 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト（事例）」を記入し、第21回の講義時に提出する。
第21回	ソーシャルワークの展開過程Ⅳ：モニタリングと評価・効果測定	事前学習	テキスト pp. 138～153 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題2の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第22回	ソーシャルワークのモニタリングと効果測定・評価の技術を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 224～248 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題2の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第23回	面接技法Ⅰ：面接の必要性和果たす役割を理解する	事前学習	テキスト pp. 250～268 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第25回の講義時に提出する。

第24回	面接技法Ⅱ：面接に必要となる技術を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 250～268 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第25回の講義時に提出する。
第25回	面接ロールプレイ	事前学習	テキスト pp. 269～293 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布される事例について、学んだ知識を用いて模擬的に記録を作成する。
第26回	記録の意義と方法：ソーシャルワーク技術としての記録について事例を基に技術を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 269～293 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布される事例について、学んだ知識を用いて模擬的に記録を作成する。
第27回	“交渉”とソーシャルワーク：ソーシャルワークにおける交渉の持つ意義と役割を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 296～315 を熟読し、その内容をノートに記入する。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第29回の講義時に提出する。
第28回	これまでの学びについてのまとめ： 事例を用いてソーシャルワークの展開過程とその他技術について総合的にその内容を確認する	事前学習	これまでの資料等を整理し、学習内容を振り返る。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第29回の講義時に提出する。
第29回	これからのソーシャルワークの課題と展望Ⅰ（ジェネリック）	事前学習	29回の講義において疑問となっている点を箇条書きにする。
		事後学習	ソーシャルワーク実践上の課題について配布されたレジュメをまとめる。
第30回	これからのソーシャルワークの課題と展望Ⅱ（スペシフィック）	事前学習	29回の講義において疑問となっている点を箇条書きにする。
		事後学習	ソーシャルワーク実践上の課題について配布されたレジュメをまとめる。
期末試験			
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの支援過程（ソーシャルワーク・プロセス）に関する理解を問う。 ・講義内で扱った専門用語に関する理解を問う。 <p style="text-align: center;">※試験の詳細については、講義の中で提示する。</p>			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4単位)	3. 科目番号	SBMP3157 SNMP3357 SCMP3357 SSMP3157 PSMP3457
2. 授業担当教員	北爪 克洋		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。 2. ケースマネジメント（ケアマネジメント）についてその概要を理解する 3. グループを活用した支援について理解する。 4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。 5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。 6. スーパービジョンについて理解する。 7. ケースカンファレンスについて理解する。 8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題1: グループを用いた援助実践に関して、その展開過程とそこでのソーシャルワーカーの果たすべき役割について説明せよ。</p> <p>レポート課題2: 心理社会的アプローチについて事例をもとにその支援展開を解説せよ。</p> <p>レポートはいずれもA4 2枚(2880字)にまとめる。</p> <p>※その他「事後学習」に示されている各課題を実施。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ（新・社会福祉士養成講座8）』第3版、中央法規、2015年。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準 ・8つの目標を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法 (1) 平常点（授業態度・発表・発言・学習課題など）20%、 (2) 課題レポート 30% (3) 試験 50% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>ソーシャルワークⅢでは主にソーシャルワーク実践に不可欠な実践モデルについての学びを深めます。また、ソーシャルワーク論の総括を行います。したがって学生たちは授業の復習や準備を欠かすことなく授業に臨んでください。授業では常に高い緊張度と集中力を維持する必要があります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>月曜日 13:00～16:00 (仮) ※他の曜日・時間帯でも、教員が研究室に在室している時は可</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション： ソーシャルワークⅢを学習するにあたっての説明と確認 ソーシャルワークⅠ・Ⅱの振り返り	事前学習	テキストの「はじめに」を熟読し、その内容を要約しまとめる。
		事後学習	IFSWによるソーシャルワークの定義をレポートにまとめる。
第2回	ソーシャルワークの概念： IFSWのソーシャルワークの定義から	事前学習	「社会福祉とは」の問いに対する自身の考えをこれまでの講義等を参考にまとめる。
		事後学習	IFSWによるソーシャルワークの定義をレポートにまとめる。
第3回	ソーシャルワークの理念：人権と社会正義、自立支援とエンパワメント等について理解を深める	事前学習	テキスト pp. 2～25 の内容を熟読しまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第5回の講義時に提出する。
第4回	ソーシャルワークの対象者を理解する： パーソナリティとシステム理解 個人、家族、グループ、地域をどうとらえるかについて理解する	事前学習	テキスト pp. 2～25 の内容を熟読しまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第5回の講義時に提出する。
第5回	ケースマネジメントとは？： ケースマネジメントについてその基本と過程を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 27～58（第2章ケースマネジメント）を熟読し、ケースマネジメントの重要性に

			ついてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、次回の講義時に提出する。
第 6 回	ケースマネジメントに必要な技術とは？： アセスメントに関する講義と演習 ケースマネジメントとソーシャルワークの関係を理解する	事前学習	テキスト pp. 27～58（第 2 章ケースマネジメント）を熟読し、ケースマネジメントの重要性についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、次回の講義時に提出する。
第 7 回	グループ（集団）とソーシャルワーク： ソーシャルワークにおけるグループワークの意義について理解を深める	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだグループワークに関する理論を復習し、ノートにまとめる。テキスト pp. 59～80 参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 9 回の講義時に提出する。
第 8 回	グループワークを用いた援助実践①：人間にとってグループ（集団）が意味するものとは？グループ（集団）の特性とそれを活用するために必要な専門技術を学ぶ	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだグループワークに関する理論を復習し、ノートにまとめる。テキスト pp. 59～80 参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 9 回の講義時に提出する。
第 9 回	グループワークを用いた援助実践②： （7 回・8 回をもとに）グループワーク演習	事前学習	7・8 回で学んだグループを用いた支援に関する理論について内容をまとめる。
		事後学習	課題 1 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 10 回	グループワークに関するまとめ：演習のフィードバック	事前学習	テキスト pp. 59～80 を熟読し、グループに関する理論をまとめる。
		事後学習	課題 1 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 11 回	実践モデルとその意味： ソーシャルワーク実践理論が必要である意味を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 128～136 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 13 回の講義時に提出する。
第 12 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークと実践モデルの関係： 事例を通じて実践モデルに関する理解を深める 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデルについての学習	事前学習	テキスト pp. 137～148 を熟読し、「3 つの実践モデル」についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 13 回の講義時に提出する。
第 13 回	心理社会的アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 150～152 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 14 回	事例考察による心理社会的アプローチの理解：グループ検討を通じて心理社会的アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 150～152 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 15 回	行動変容アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 165～167 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 17 回の講義時に提出する。
第 16 回	事例考察による行動変容アプローチの理解：グループ検討を通じて行動変容アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 165～167 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 17 回の講義時に提出する。
第 17 回	課題中心アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 159～161 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 19 回の講義時に提出する。
第 18 回	事例考察による課題中心アプローチの理解：グループ検討を通じて課題中心アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 159～161 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 19 回の講義時に提出する。
第 19 回	機能的アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 153～155 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 21 回の講義時に提出する。
第 20 回	事例考察による機能的アプローチの理解：グループ検討を通じて機能的アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 153～155 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 21 回の講義時に提出する。

第21回	危機介入アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 162～164 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第23回の講義時に提出する。
第22回	事例考察による危機介入アプローチの理解：グループ検討を通じて危機介入アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 162～164 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第23回の講義時に提出する。
第23回	エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 174～181 を熟読し、エンパワメントアプローチについてノートにまとめる。
		事後学習	第24回の講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第24回の講義時に提出する。
第24回	事例考察によるエンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチの理解：グループ検討を通じてエンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 174～181 を熟読し、ナラティブアプローチについてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第25回の講義時に提出する。
第25回	認知アプローチの基盤を理解する その他アプローチについてその内容を確認する	事前学習	テキスト pp. 182～185 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第27回の講義時に提出する。
第26回	実践モデルについてのまとめ	事前学習	テキスト pp. 192～197 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第27回の講義時に提出する。
第27回	スーパービジョンの意義と目的：スーパービジョンを理解するうえで必要な知識を学習する スーパービジョンの実際：模擬的なスーパービジョンを体験する（ロールプレイの実施）	事前学習	テキスト pp. 199～213 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	ロールプレイを通じて学んだ事柄をレポートにまとめる。
第28回	コーディネーションとネットワーキングの目的と意義について理解する：事例を通じて目的、意義、必要とされる技術について理解を深める	事前学習	テキスト pp. 81～104 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	スーパービジョン、コーディネーションとネットワーキングに関する「確認テスト」を記入し、第29回の講義時に提出する。
第29回	これからのソーシャルワークの課題と展望	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
第30回	まとめ：これまでの学習を振り返りその内容を確認、今後の自己課題を明確にする。	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
期末試験 ・ ソーシャルワーク実践アプローチに関する理解を問う。 ・ 講義内で扱った専門用語に関する理解を問う。 ※その他、試験の詳細は講義内で提示する。			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 I (2単位)	3. 科目番号	SSMP1160 SBMP1160 SNMP1160 SCMP1160 GEBS1102 GELA2302
2. 授業担当教員	田中 良幸、上野 義光、星野 弘美、橋本 好広、小金澤 嘉		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅰは「ソーシャルワークの基礎」という位置づけとなり、個人、集団、地域といった、いわゆるソーシャルワーカーが支援の対象とするクライアントシステムについて基礎的な理解を図るとともに、働きかけの方法としての基本的なコミュニケーション、システムの特徴について学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。 2) コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。 3) 基本的な面接技術について説明ができる。 4) ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。 5) ソーシャルワーク実践に必要な記録についてその特性を説明することができる。 6) 集団(グループ)の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。 7) 地域(コミュニティ)に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1. 第2回～第6回の演習内容を振り返り学んだことをまとめなさい。</p> <p>課題2. 第7回～第9回の演習内容を振り返り学んだことをまとめなさい。</p> <p>課題3. 第10回～第14回の演習内容を踏まえて、地域調査報告についての考察をまとめなさい。</p> <p>各課題について、A4用紙2枚にまとめなさい。また、提出については、原則としてそれぞれの課題が提示されている次の回にて担当教員に提出すること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 (予定)「はじめてのソーシャルワーク演習」ミネルヴァ書房、2020.2</p> <p>【参考書】</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) ・7つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ・7つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習への取り組み 40% 2. レポート(課題1～3) 60% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション オープニング（契約） ：学習目標の明確化と規範・個人の役割の確認	事前学習	シラバスを確認し、ソーシャルワーク演習Ⅰの学習内容について確認する。
		事後学習	演習を実施するうえでの個人の役割についてまとめる。
第2回	自己覚知（個人） ：専門職である自己の価値観・思考傾向について理解を促進する	事前学習	自分自身の価値観、思考傾向、ストレングスやウィークポイントについてまとめる。
		事後学習	演習内容を踏まえて、専門職を目指す自己についてまとめる。
第3回	個人へのコミュニケーション ：基本的コミュニケーションの理解とトータル・コミュニケーションの実践	事前学習	基本的コミュニケーション技法についてまとめる。
		事後学習	演習内容を踏まえて自身のコミュニケーションスキルについてまとめる。
第4回	面接技法 ：言語・準言語・非言語の意義と効果について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	面接技法における専門的なコミュニケーションの方法についてまとめる。
第5回	ソーシャルワーク・プロセス ：ソーシャルワークの展開過程について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	演習内容を踏まえてソーシャルワーク・プロセスについてまとめる。
第6回	記録 ：客観的記述と主観的記述について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題1の作成
第7回	集団（グループ）の理解 ：集団の定義、機能、構成について理解する	事前学習	これまでの自身の生活を振り返り、集団のメリットとデメリットについて自らの考えをまとめる。
		事後学習	演習を踏まえて集団（グループ）の定義と機能についてまとめる。
第8回	グループダイナミクス ：相互作用システムとリーダーシップ理論について理解する	事前学習	グループダイナミクスについてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	演習内容を踏まえてグループダイナミクスについてまとめる。
第9回	グループワークのプロセス ：グループの展開過程について理解する	事前学習	テキストの該当回のうち「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題2の作成
第10回	自己覚知（地域） ：自身の生活と地域社会とのつながりについて理解する	事前学習	これまでの自身の生活を振り返り、地域社会とのつながりについて想起する。
		事後学習	「コミュニティ」の特徴についてまとめる。
第11回	地域の理解 ：コミュニティの定義、概念について理解する	事前学習	「コミュニティ」の定義・概念について内容を確認し、不明な点を明確化する。
		事後学習	「ソーシャル・キャピタル」について、その内容をまとめる。
第12回	地域調査(1) ：コミュニティ要素モデルに基づく特定の地域の調査方法について理解するとともに調査を実践する	事前学習	調査に必要な資料を収集する。
		事後学習	調査内容についてまとめる。
第13回	地域調査(2) ：第12回にて調査した内容をまとめるとともに、プレゼンテーションの準備を行う	事前学習	調査に必要な資料を収集する。
		事後学習	プレゼンテーションの方法について振り返り、プレゼンテーションの準備を行う。
第14回	地域調査報告 ：プレゼンテーションの実施	事前学習	プレゼンテーションの準備を行う。また、他のグループのプレゼンテーション資料に目を通しておく。
		事後学習	課題3の作成
第15回	まとめ ：自己評価の言語化と課題の明確化	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅰで使用したテキストの該当箇所を確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅰで学習できたことをまとめるとともに、ソーシャルワーク演習Ⅱの実施に向けた自己課題を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2単位) JPBWP2/編	3. 科目番号	SSMP2160 SPMP2361 SBMP2305 GEBS2103 GELA2303
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄、小金澤 嘉		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは「ソーシャルワークの展開」という位置づけとなり、ソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえて、ソーシャルワーク・プロセスの展開とプロセスにおいて活用される面接やプログラム分析、アウトリーチやチームアプローチといった技術についてトレーニングする。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ケースワークのプロセスについて説明ができる。 2) 基本的な面接技術について実践できる。 3) グループワークのプロセスと、ソーシャルワーカーの役割について明瞭な説明ができる。 4) グループワークにおける専門技術について実践できる。 5) コミュニティワークのプロセスについて説明ができる。 6) アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術についてその目的と方法について説明ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1. 第2回～第5回の演習内容を踏まえて、ケースワークのプロセスと必要な面接技術について学んだことをまとめなさい。</p> <p>課題2. 第6回～第9回の演習内容を踏まえて、グループワークのプロセスとそれぞれの局面でのワーカーの役割、また必要とされる技術について学んだことをまとめなさい。</p> <p>課題3. 第10回～第14回の演習内容を踏まえて、「アウトリーチ」「チームアプローチ」「ネットワークング」について学んだことをまとめなさい。</p> <p>各課題について、A4用紙2枚にまとめなさい。また、提出については、原則としてそれぞれの課題が提示されている次の回にて担当教員に提出すること。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 (予定)「はじめてのソーシャルワーク演習(仮)」ミネルヴァ書房、2019</p> <p>【参考書】</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) ・6つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ・6つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習への取り組み 40% 2. レポート(課題1～3) 60% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 7. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 8. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 9. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 10. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 6. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 7. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 8. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅰの振り返り	事前学習	シラバスを確認し、ソーシャルワーク演習Ⅱの学習内容について確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅰでの学習を踏まえ、ソーシャルワーク演習Ⅱの自己の学習目標を明確にする。
第2回	ケースワークのプロセス	事前学習	自分自身の価値観、思考傾向、ストレンクスやウィークポイントについてまとめる。
		事後学習	演習内容を踏まえて、ケースワークのプロセスについてまとめる。
第3回	面接技法①（姿勢と態度）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	面接技法における、あるべき姿勢と態度についてまとめる。
第4回	面接技法②（トータル・コミュニケーション）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	面接技法における専門的なコミュニケーションの方法についてまとめる。
第5回	面接技法③（応答技法）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題1の作成
第6回	グループワークのプロセス	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	演習内容を踏まえて、グループワークのプロセスについてまとめる。
第7回	グループワークにおけるワーカーの役割	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確化する。
		事後学習	グループワーク実践におけるワーカーの役割についてまとめる。
第8回	グループワーク技法①（準備期・開始期）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	グループワークにおける準備期・開始期に必要な技術についてまとめる。
第9回	グループワーク技法②（作業期・終結期）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題2の作成
第10回	コミュニティワークのプロセス	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	演習内容を踏まえて、コミュニティワークのプロセスについてまとめる。
第11回	アウトリーチ	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	アウトリーチの意義と方法についてまとめる。
第12回	チームアプローチ	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	チームアプローチの意義と方法についてまとめる。
第13回	ネットワーキング	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	ネットワーキングの意義と方法についてまとめる。
第14回	社会資源の活用・調整・開発	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題3の作成
第15回	まとめ	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで使用したテキスト（プリント）の該当箇所を確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2単位)		3. 科目番号	SSMP2161 SCMP3460 SPMP3461 SBMP3460 SNMP3460 SSMP3160 PSMP3460
2. 授業担当教員	北爪 克洋、田中 良幸、小金澤 嘉、星野 弘美			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲでは、ケースワークの基本技術として、他者理解と自己理解について考えることから、人間関係形成に必要な技術、また基本的な面接技術とコミュニケーションに焦点をあてて、必要な専門知識と技術を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間行動に関する心理学理論について理解を深め、その概要を説明することができる。 2) クライアントに対する姿勢について理解を深め、実践することができる。 3) 基本的コミュニケーション技法について理解し、実践することができる。 4) 基本的応答技法について理解し、実践することができる。 5) 面接技法について理解し、それを用いてクライアントの問題や課題をアセスメントすることができる。 6) 以上のことを総合的に理解し、ソーシャルワークにおける面接を展開することができる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1: 個人(人)を理解する上で必要となる精神分析理論について、その主要概念について説明しなさい。 課題2: 面接における基本的応答技法について、技法がもたらす効果について簡潔に説明しなさい(第9・10回の学習をまとめる) 課題3: 事例を用いて面接を実施し、自らの面接技術に関し他者からの評価を受け、また自己評価を行う まとめレポート: ソーシャルワークⅢにて学習したことに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。 【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2004年。 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『相談援助の理論と方法Ⅰ(新・社会福祉士養成講座 第7巻)』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 ・ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、社会福祉士・精神保健福祉士として専門的なケースワーク、面接が提供できるか。またそのために設定された具体的な目標6つを達成することができたか。</p> <p>○評定の方法 1. 個人レポート(課題1~3) 60% 2. まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 12. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 13. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 14. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 15. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 10. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 11. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 12. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り ソーシャルワーク演習Ⅲのねらいと単元の解説	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びをレポートにまとめる。	
		事後学習	参考書『人間行動と社会環境』第2章(pp.10~33)を	

			熟読し、その内容をまとめる。
第2回	人を理解する(1) 精神分析理論について学習する：精神分析理論の主要概念について理解を深める 行動理論と学習理論について学習する：行動理論と学習理論の主要概念について理解を深める 学んだ人間行動に関する心理学理論が、どのように人間行動の理解に用いられるのかを事例をもとに検証する	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第3章1(pp.35~38)を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	課題1の作成(授業内で示された提出期限厳守)
第3回	人を理解する(2) 心理社会理論について学習する：心理社会理論の主要概念について理解を深める 人間の発達過程について理解を深める 事例を用いて人間行動に関して心理社会理論を使用して分析・検証する	事前学習	参考書『人間行動と社環境』第4章(pp.64~88)を熟読し、その要点をノートにまとめる。
		事後学習	心理社会理論について口頭で説明ができるよう、その内容を確認する。
第4回	ソーシャルワークにおける面接の目的・特性理解 「会話」と「面接」の相違点について理解し、面接の形態(構造化面接と生活場面面接)、面接実施の基盤となる考え方について理解を深める	事前学習	テキスト pp.100~111 を読みその内容をまとめる。
		事後学習	「会話」と「面接」の相違点について口頭で説明できるよう、学習内容をノートにまとめる。
第5回	クライアントに対する姿勢：距離について考える 人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する	事前学習	自分自身の日常生活を振り返り、人と接する際の距離について考え、どのような距離感をもっているかをノートにまとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり適切な距離とは何か演習を通じて学んだことをレポートにまとめ提出する。
第6回	クライアントに対する姿勢：バイステイックの7原則の実践 専門的対人援助関係形成のための原則について再確認する	事前学習	バイステイックの7つの原則について、その内容を調べ、まとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり、その人間関係形成とバイステイックの7原則との関係性をノートにまとめる。
第7回	面接における技術：面接におけるコミュニケーションについて理解する 基本的コミュニケーション技法について、その原則について理解を深め、ロールプレイを用いて習得する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、コミュニケーションの特質(癖や傾向)について気づいたことをノートにまとめる。
		事後学習	基本的コミュニケーション技法について、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてレポートにまとめ提出する。
第8回	面接における技術：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 言語・非言語的コミュニケーションの意義を理解し、その活用方法についてロールプレイを用いて実践する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、非言語的コミュニケーションについて気づいた事をノートにまとめる。
		事後学習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてノートにまとめる。
第9回	面接における技術：基本的応答技法について理解する(1) 「反射」について理解し、技術を習得する 単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112~116 を熟読したうえで、p.112表2-2の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「反射」に関する自己評価(できた点と課題点)をノートにまとめる。
第10回	面接における技術：基本的応答技法について理解する(2) 「感情の反射」「適切な質問」について理解し、技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112~116 を熟読したうえで、p.92表2-2の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「感情の反射」「開かれた質問と閉ざされた質問」に関する自己評価(できた点と課題点)をノートにまとめる。
第11回	事例に基づくアセスメント面接の実施(1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第10回までに学んだことを振り返り、コミュニケーションと応答技法についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第12回	事例に基づくアセスメント面接の実施(2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第9回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第13回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施(1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	面接のロールプレイを実施し、明らかとなった自己の課題について明確にし、ノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第14回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施(2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	第13回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第15回	まとめ 評価：教員と学生がソーシャルワーク演習Ⅲで学んだこと、学習目標の達成度を評価する	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲを通じて学んだこと、課題となったことをノートにまとめる。
		事後学習	コミュニケーションと面接技法に関し、実習及び実践を行う上で自身の評価できる点と改善点をレポートにまとめ提出する(まとめレポート)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2単位)	3. 科目番号	SSMP3161 SNMP4461 SCMP4461 SBMP3461 PSMP3461
2. 授業担当教員	田代 幹康、星野 弘美、橋本 好広		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に学習し理解を深めます。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照し、関連する知識や理論についても学習を深めます。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2：事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3：グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4：社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に対する理解を深める。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：問題解決アプローチについて、アプローチの視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>課題2：行動変容アプローチについて、アプローチの視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>課題3：家族システム論について、理論の視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>※上記課題につき、すべて A4 用紙 40 文字×30 行×2 枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規出版、2015年。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』第3版、中央法規出版、2015年。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>・ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、社会福祉士として求められる実践理論 (実践アプローチ) をクライアントに提供できる。そのために設定された具体的目標 (4つの目標) を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 個人レポート (課題1～3) 60%</p> <p>2. 演習への参加度・取り組み 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は以下の条件を守って下さい。</p> <p>16. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講しましょう。受講生には積極的な態度を望みます。</p> <p>17. 自ら進んで教員に質問しましょう。理解できないことをそのまま放っておかないようにしましょう。</p> <p>18. 授業は欠席、遅刻、早退をしないで下さい。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告して下さい。</p> <p>19. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意して下さい。</p> <p>20. 授業中、私語、居眠り、携帯電話などの操作は緊急時以外、絶対にしないで下さい。</p> <p>また教員は、以下のことを実行します。</p> <p>13. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>14. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>15. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>16. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p>		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します） 医学モデル・社会モデル・生活モデル① （医学モデル・社会モデル・生活モデルの概要について理解する）	事前学習	テキスト pp. 182～185、また参考書 pp. 137～142 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第2回	医学モデル・社会モデル・生活モデル② （3つのモデルのうち、特に生活モデルについて事例を通じモデルの実践について理解を深める）	事前学習	テキスト pp. 182～185 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	生活モデルのポイントについてノートにまとめる。
第3回	ストレングスマデル （事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます）	事前学習	テキスト pp. 186～189、また参考書 pp. 140～142 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	ストレングスマデルのポイントについてノートにまとめる。
第4回	心理社会的アプローチ① （心理社会的アプローチの概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp. 190～193、また参考書 pp. 150～152 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第5回	心理社会的アプローチ② （ビネットを通して支援目標の設定と介入時の技法内容について学ぶ）	事前学習	テキスト pp. 190～193 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	心理社会的アプローチのポイントについてノートにまとめる。
第6回	問題解決アプローチ① （問題解決アプローチの概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp. 194～199、また参考書 pp. 156～158 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第7回	問題解決アプローチ② （ビネットを通して問題解決アプローチのプロセスとその利点と課題を学ぶ）	事前学習	テキスト pp. 194～199 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題1の作成（授業内で示された提出期限厳守）。
第8回	危機介入アプローチ① （危機介入アプローチの概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp. 200～205、また参考書 pp. 162～164 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第9回	危機介入アプローチ② （ビネットを通して危機介入アプローチの危機的状況のアセスメントについて学ぶ）	事前学習	テキスト pp. 200～205 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	危機介入アプローチのポイントについてノートにまとめる。
第10回	行動変容アプローチ① （行動変容アプローチの概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp. 206～209、また参考書 pp. 165～167 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第11回	行動変容アプローチ② （ビネットを通して行動変容アプローチの考えたかかと相談援助のプロセスについて学ぶ）	事前学習	テキスト pp. 206～209 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題2の作成（講義内で示された提出期限厳守）。
第12回	ナラティブアプローチ① （ナラティブアプローチの概念について理解を深める。）	事前学習	テキスト pp. 220～225、また参考書 pp. 178～181 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第13回	ナラティブアプローチ② （ビネットを通してナラティブアプローチのドミナントストーリーの弊害とオルタナティブストーリー可能性について理解を深める）	事前学習	テキスト pp. 220～225 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ナラティブアプローチのポイントについてノートにまとめる。
第14回	家族システム論① （家族システム論の概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp. 226～231 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第15回	家族システム論② （家族システム論の視点と相談援助のプロセスについて学ぶ）	事前学習	テキスト pp. 226～223 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題3の作成（講義内で示された提出期限厳守）

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅴ (2単位)	3. 科目番号	SSMP4162 SNMP4462 SCMP4462 SBMP4462 PSMP4462
2. 授業担当教員	田代 幹康、上野 義光、小金澤 嘉、橋本 好広		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1年次から4年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅴでは、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8)終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標2：授業内容にある事例の中に含まれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標3：自らの相談援助の場面を想定して、目標1、目標2を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題)及びレポート課題	<p>課題1：前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4用紙 40文字×25行×3枚以内</p> <p>課題2：後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4用紙 40文字×25行×3枚以内</p> <p>まとめレポート：事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。</p> <p>【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>・ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した時点で、相談援助演習の最終段階として総合的・包括的な支援の在り方を理解できる。そのために設定された具体的目標(3つの目標)を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 個人レポート(課題1～2) 50%</p> <p>2. まとめレポート 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。そのため受講生は次の条件を守ってください。</p> <p>21. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って積極的な態度で受講する。</p> <p>22. 自ら進んで教員に質問する。理解できないことはそのまま放っておかない。</p> <p>23. 欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告する。</p> <p>24. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対に行わない。</p> <p>教員は以下の方針で授業を行います。</p> <p>17. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>18. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>19. 双方向対話型の学習によりディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう環境を作る。</p>		

	20. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方等） 障害者の就労支援に関する相談援助 ① ※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、 <u>職場（環境や集団）や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要のあることを学習する。</u> ※ 教科書の第5章、事例問題25の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp. 268～271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第2回	障害者の就労支援に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第1回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第3回	病院からの退院に関する相談援助 ① ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、 <u>専門職がチームを組んで支援する必要のあることを学習する。</u> ※ 教科書の第5章、事例問題27の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp. 276～279 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第4回	病院からの退院に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第3回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第5回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ① ※ DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談援助事例をもとに、DVとはどのようなものか、その特質を理解し、「DV防止法」をもとに <u>DVが被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。</u> ※ 教科書の第5章、事例問題28の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp. 280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第6回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第5回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第7回	(被)虐待児童への相談援助 ① ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、 <u>発達障害とネグレクト（育児放棄）が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿（環境）と児童のもつ力（ストレングス）を調整しながら支援することを学習する。</u> ※ 教科書の第5章、事例問題30の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp. 288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第8回	(被)虐待児童への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第7回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第9回	低所得者への相談援助 ① ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、 <u>低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源（環境）を活用しながら自立に向</u>	事前学習	テキスト pp. 312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。

2020年度

	けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題34の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。		
第10回	低所得者への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第9回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第11回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ① ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、 <u>要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方</u> について学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題37の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp. 326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第12回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第11回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第13回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ① ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、 <u>自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけ</u> の内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題38の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp. 330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第14回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第13回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第15回	まとめ ※ 第1回～第14回授業を振り返り、援助の重要ポイントを押さえる。	事前学習	授業で配布されたレジュメ、事前・事後学習ノートの内容を整理し、ソーシャルワーク演習Vでの学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (S) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2180
2. 授業担当教員	田中 良幸、小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 3) 資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 4) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容について、まとめなさい。</p> <p>課題 2: 実習配属施設・機関に関して、その関連法令、規定されたサービス内容等施設・機関の概要についてまとめなさい。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2. 実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 3. 資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 4. 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題 1 30% 2. 課題 2 30% <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未取得者への実習配属は行わない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 26. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 27. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 28. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 29. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 21. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 22. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 23. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明	事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
		事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
		配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、『学習の手引き』、学生調査票
第 2 回	・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制についての理解 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用)	事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
		事後学習	「ソーシャルワーク実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。
第 3 回	・相談援助実習の位置付けについて理解する (テキスト pp. 2~18) : 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める	事前学習	テキスト pp. 2~18 を熟読する
		事後学習	「なぜ実習が必要なのか」についてノートにまとめ提出する。
第 4 回	・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学にお	事前学習	テキスト pp. 19~34 を参照のうえ、相談援助

	る実習(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習)の理解(テキスト pp. 19~34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用) : 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める	事後学習	実習に求められる内容についてノートにまとめる。 テキスト pp. 19~34 を参照のうえ、東京福祉大学の実習(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習)の目標についてノートにまとめる。
第5回	・「相談援助実習」(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習)が可能な施設・機関の紹介と説明(テキスト pp. 55~64 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) : 法定施設・機関の紹介と希望種別の選択 ・実習形態に関する理解(テキスト pp. 65~68)	事前学習	テキスト pp. 55~64 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
		事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。
第6回	・事前学習として実習先を理解する意義(テキスト pp. 103~106) : 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる(課題1) ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題1の作成(講義内で示される提出期限厳守)。
第7回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート(課題1)の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第8回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート(課題1)の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第9回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート(課題1)の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第10回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成(実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		配布物	実習配属通知、個人調査書(実習先提出用)実習記録必要書式のコピー(施設概要及び実習プログラム案下書き用紙)
第11回	・配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法(テキスト pp. 123~139) ・個人調書等書類の作成(社会福祉士資格取得の動機の明文化)	事前学習	「社会福祉士を目指す動機」「思い描く社会福祉士像」について言語化できるようまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第12回	・相談援助実習の仕組み(テキスト pp. 142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方(3段階実習プログラム)を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習(事前訪問)に向けた準備 : 見学実習(事前訪問)の目的と意義の確認	事前学習	テキスト pp. 142~146 を熟読し、「3段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
		配布物	「事前訪問について」
第13回	・実習計画の作成(テキスト pp. 147~154) : 実習計画(本学では「実習プログラム(案)」とする)の意義と作成についての理解を深める ・見学実習(事前訪問)に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	テキスト pp. 147~154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	課題2の作成(講義内で示された提出期限厳守)。
第14回	・「契約としての実習」についての理解(テキスト pp. 70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント(テキスト pp. 74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性和重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp. 55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	事前訪問に向けた準備を行う。
第15回	・見学実習(事前訪問)の最終確認 ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた課題	事前学習	事前訪問日時について実習指導者へ電話連絡のうえ、訪問日時を明確にする。
		事後学習	ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第12回	・相談援助実習の仕組み(テキスト pp. 142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方(3段階実習プログラム)を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習(事前訪問)に向けた準備 : 見学実習(事前訪問)の目的と意義の確認	事前学習	テキスト pp. 142~146 を熟読し、「3段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	第1回セルフアセスメントシートの作成(1回目)
		配布物	セルフアセスメントシート
第13回	・実習計画の作成(テキスト pp. 147~154) : 実習計画(本学では「実習プログラム(案)」とする)の意義と作成についての理解を深める ・見学実習(事前訪問)に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	テキスト pp. 147~154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	課題2の作成(講義内で示された提出期限厳守)。
第14回	・「契約としての実習」についての理解(テキスト pp. 70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント(テキスト pp. 74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性和重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp. 55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	事前訪問に向けた準備を行う。
		配布物	実習コンピテンス確認テストⅠ問題

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (C/N) (2単位)	3. 科目番号	SCMP3481 SNMP3481
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク実習の実施に向けて、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習における課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルワーク実習で確認すべき各種相談援助技術について、明確に説明できる。 2) ソーシャルワーク実習配属実習施設・機関の関連法制度、規定されているサービス内容に関して、明確に説明することができる。 3) ソーシャルワーク実習に対する抱負及び動機に関して言語化できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1：社会福祉士受験資格取得のための相談援助実習において、実習内容に含まれるべき事項をレポートにまとめる。</p> <p>課題2：配属された実習施設・機関に関する適切な理解のもと、実習の目標と抱負を文書にまとめる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第2版、中央法規、2014年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実習で確認すべき各種相談援助技術について、明確に説明できる。 2. ソーシャルワーク実習配属実習施設・機関の関連法制度、規定されているサービス内容に関して、明確に説明することができる。 3. ソーシャルワーク実習に対する抱負及び動機に関して言語化できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題1 30% 2. 課題2 30% <p>講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 30. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 31. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 32. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 33. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 34. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 24. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 25. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 26. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 27. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート(ファイル)の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。
		事後学習	ソーシャルワーク実習実施上の課題についてノートにまとめる。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の理解(1)(テキストpp.104~122)：事前学習として各分野における実習の在り方について理解を深める。 	事前学習	テキスト第2部第7章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の理解(2)(テキストpp.104~122)：第2回に引き続き、第2部第7章に示す、実習先理解を深める。 	事前学習	テキスト第2部第7章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法(1)(テキ 	事前学習	テキスト第2部第8章を熟読し、要点を

	スト pp.124～140) : 施設、機関、また地域の社会福祉サービス利用者についての理解を深める。	事後学習	ノートにまとめる。 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第5回	・実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法(2)(テキスト pp.124～140) : 第4回に引き続き、第2部第8章に示す、社会福祉サービス利用者の理解を深める。	事前学習	テキスト第2部第8章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第6回	・相談援助実習の仕組み(テキスト pp.142～158) : 相談援助実習の構成と求められる内容について理解を深める。	事前学習	テキスト第2部第9章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第7回	・実習経験と学習「基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成」(テキスト p.166～173) : サービス利用者とのコミュニケーションの方法と信頼関係の形成について理解を深める。	事前学習	テキスト第3部第10章第2節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第8回	・実習経験と学習「利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成」(テキスト p.174～181) : ニーズの把握から支援のための計画作成までの方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第3部第10章第3節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第9回	・実習経験と学習「利用者やその関係者との援助関係の形成」(テキスト p.182～190) : 利用者支援に必要となる関係者との関わり方とその必要性について理解を深める。 ・実習経験と学習「利用者やその関係者への権利擁護及び支援」(テキスト p.191～195) : 利用者及び関係者に対しての権利擁護とはどのようなものなのか理解を深める。	事前学習	テキスト第3部第10章第4節及び第5節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第10回	・実習経験と学習「チームアプローチの実際」(テキスト p.196～202) : ソーシャルワーク実践におけるチームアプローチの意義と方法について理解を深める。 ・実習経験と学習「社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解」(テキスト p.203～208) : 専門職倫理が実践の根底にあることの意義と、実習における専門職倫理へのアプローチの方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第3部第10章第6節及び第7節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第11回	・実習経験と学習「実習機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解」(テキスト p.209～215) : ソーシャルアドミニストレーションについて理解を深める。 ・実習経験と学習「地域社会の一員としての実習機関・施設の理解」(テキスト p.216～223) : 社会福祉機関・施設の社会化について理解を深める。	事前学習	テキスト第3部第10章第8節及び第9節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	課題1の作成
第12回	・実習先の配属発表 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集を行う ・実習個人調書の作成方法について理解を深める。	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	配属施設・機関に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
第13回	・実習配属施設・機関に関する理解を深める ・実習個人調書の作成(ソーシャルワーク実習に対する動機と抱負について言語化する)。(課題2の作成)	事前学習	ソーシャルワーク実習に対する動機と抱負について自分なりにまとめる。
		事後学習	実習個人調書をまとめて、担当教員からの添削を受ける。
第14回	東京福祉大学 ソーシャルワーク実習の目標理解(『ソーシャルワーク実習の手引き』使用) : これまで学習してきたことと、本学の実習目標との相互関係を確認し、実習プログラム(案)の作成方法について理解を深める。	事前学習	東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』を熟読し、実習目標について理解を深める。
		事後学習	実習目標に沿った実習プログラム(案)についてまとめる。
第15回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第11回	・実習経験と学習「社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解」(テキスト p.203) : 専門職倫理が実践の根底にあることの意義と、実習における専門職倫理へのアプローチの方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第3部第10章第8節及び第9節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	課題1の作成
		配布物	実習コンピテンズ問題パートⅡ
第12回	・実習経験と学習「実習機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解」(テキスト p.209～215) : ソーシャルアドミニストレーションについて理解を深める。	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	実習コンピテンズ問題パートⅡ テスト
		配布物	実習コンピテンズ問題パートⅡ及び解答用紙

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (J) (2単位)		3. 科目番号	SSMP3181
2. 授業担当教員	鈴木 雄司			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク実習の実施に向けて、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習における課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門職実習、つまりソーシャルワーク実習（相談援助実習）で求められ、確認すべき専門技術について明確に説明することができる。 2) 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習プログラム（案）を立案できる。 3) 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4) 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：実習配属施設・機関の施設概要について規定の書式にまとめなさい。</p> <p>課題2：ソーシャルワーク実習 実習プログラム（案）の作成</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』第2版、中央法規、2014年。</p> <p>東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職実習、つまりソーシャルワーク実習（相談援助実習）で求められ、確認すべき専門技術について明確に説明することができる。 2. 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習プログラム（案）を立案できる。 3. 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題1 30% 2. 課題2 30% 3. 講義参加度（事前事後学習、提出物等状況を含む） 40% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを要する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 35. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 36. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 37. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 38. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 39. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 28. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 29. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 30. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言、発表等）できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 31. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します（時間割表掲載のオフィスアワー欄参照）。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート（ファイル）の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。	
		事後学習	ソーシャルワーク実習実施上の課題についてノートにまとめる。	
第2回	・相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト	事前学習	テキスト第12章第1・2節を熟読し、要点をノー	

	pp. 160～173) : 第1節・第2節	事後学習	トにまとめる。 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第3回	・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp. 174～190) : 第3節・第4節	事前学習	テキスト第12章第3・4節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第4回	・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp. 191～202) : 第5節・第6節	事前学習	テキスト第12章第5・6節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第5回	・実習記録の理解 (テキスト p. 226) : 実習記録の意義、書き方、取り扱い等に関する説明 実習記録の書き方演習 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解	事前学習	テキスト pp. 226～238 を熟読し、記録の意義と記入の際の留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	第5回で配布された実習日誌 (コピー・練習用) に記録を記入し、添削を受ける。
第6回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成 (実習への抱負の明文化) ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	配属施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
第7回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp. 142～154) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する	事前学習	テキスト pp. 142～146 を熟読し、「3段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	レジデンシャルソーシャルワークとフィールドソーシャルワークについてノートにまとめる。
第8回	・実習計画の作成 (テキスト pp. 147～154) : 実習計画 (本学では「実習プログラム (案)」とする) の意義と作成についての理解を深める	事前学習	テキスト pp. 147～154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	講義での学習を踏まえて実習計画書 (案) を作成する。
第9回	・ソーシャルワーク実習 施設概要の作成 : 施設概要作成に関する説明 ・ソーシャルワーク実習 実習プログラム (案) の作成 : 実習プログラム (案) の記入と添削	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第10回	・ソーシャルワーク実習 施設概要の作成 : 施設概要作成 ・ソーシャルワーク実習 実習プログラム (案) の作成 : 実習プログラム (案) の記入と添削・確認	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第11回	・巡回指導の理解 (テキスト pp. 240～252) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp. 240～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
第12回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解 (1) ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	実習プログラム (案) 内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第13回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解 (2) ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	実習プログラム (案) 内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第14回	・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 (個人情報保護法の理解を含む)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	守秘義務についてノートにまとめる。
第15回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第11回	・巡回指導の理解 (テキスト pp. 240～252) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp. 240～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
		配布物	実習コンピテンส์問題パートⅡ

第12回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解(1) ・見学実習(事前訪問)に向けた準備: 見学実習(事前訪問)の目的と意義の確認	事前学習	実習プログラム(案)内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習コンピテンス問題パートII テスト
		配布物	実習コンピテンス問題パートII及び解答用紙

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (P/B/SBP 編) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3181
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄、田中 良幸			SBMP3481 PSMP3481
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施に向けて、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク基礎実習、またその後のソーシャルワーク実習における課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルワーク基礎実習で求められ、確認すべき実習課題、専門知識と技術について明確に説明することができる。 2) 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習プログラム(案)を立案できる。 3) 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4) 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1: 実習配属施設・機関の施設概要について規定の書式にまとめなさい。</p> <p>課題2: ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム(案)の作成</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』第2版、中央法規、2014年。</p> <p>東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク基礎実習で求められ、確認すべき実習課題、専門知識と技術について明確に説明することができる。 2. 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習プログラム(案)を立案できる。 3. 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題1 30% 2. 課題2 30% 3. 講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 40. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 41. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 42. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 43. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 44. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 32. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 33. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 34. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 35. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート(ファイル)の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。	
		事後学習	ソーシャルワーク基礎実習実施上の課題についてノートにまとめる。	
第2回	・相談援助技術の理解と実習における実践(テキスト)	事前学習	テキスト第12章第1・2節を熟読し、要点をノー	

	pp. 160～173) : 第1節・第2節	事後学習	トにまとめる。 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第3回	・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp. 174～190) : 第3節・第4節	事前学習	テキスト第12章第3・4節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第4回	・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp. 191～202) : 第5節・第6節	事前学習	テキスト第12章第5・6節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第5回	・実習記録の理解 (テキスト p. 226) : 実習記録の意義、書き方、取り扱い等に関する説明 実習記録の書き方演習	事前学習	テキスト pp. 226～238 を熟読し、記録の意義と記入の際の留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	第5回で配布された実習日誌 (コピー・練習用) に記録を記入し、添削を受ける。
第6回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成 (実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	配属施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
第7回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp. 142～154) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習における学ぶべき内容について理解する	事前学習	テキスト pp. 142～146 を熟読し、「3段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	レジデンシャルソーシャルワークとフィールドソーシャルワークについてノートにまとめる。
第8回	・ソーシャルワーク基礎実習プログラム (案) の作成 (テキスト pp. 147～154) :実習計画の意義と作成についての理解を深める	事前学習	テキスト pp. 147～154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	講義での学習を踏まえて実習計画書 (案) を作成する。
第9回	・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成 : 施設概要作成に関する説明 ・ソーシャルワーク基礎実習 プログラム (案) の作成 : 実習プログラム (案) の記入と添削	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第10回	・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成 : 施設概要作成 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成 : 実習プログラム (案) の記入と添削・確認	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第11回	・巡回指導の理解 (テキスト pp. 240～252) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp. 240～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
第12回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解 (1) ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習プログラム (案) 内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第13回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解 (2) ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習プログラム (案) 内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第14回	・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 (個人情報保護法の理解を含む)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	守秘義務についてノートにまとめる。
第15回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第11回	・巡回指導の理解 (テキスト pp. 240～252) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp. 240～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
		配布物	実習コンピテンズ問題パートⅡ
第12回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解 (1)	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習プログラム (案) 内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。

2020 年度

	・見学実習（事前訪問）に向けた準備： 見学実習（事前訪問）の目的と意義の確認	事後学習	実習コンピテンス問題パートⅡ テスト
		配布物	実習コンピテンス問題パートⅡ及び解答用紙

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (S) (2単位)	3. 科目番号	SSMP3182
2. 授業担当教員	北爪 克洋、田中 良幸		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、ソーシャルワーク実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置付けている。(実習)実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び(実習)実践へと結び付ける。(実習)実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。なお、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ講義内での指導内容は、帰校指導記録を用いて実習先指導者へ定期的に報告することとなる。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的なアプローチについて明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任について明確に説明できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題1～5：講義日程にて示す通り ・実習報告書の作成 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第2版、中央法規、2014年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて明確に説明できる。 2. 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 3. 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的なアプローチについて明確に説明できる。 4. 実習先での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任について明確に説明できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題1～課題5 30% 2. 実習報告書 30% <p>講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 45. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 46. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 47. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 48. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 49. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 36. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 37. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 38. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・ソーシャルワーク実習 実習計画書の確認 	事前学習	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成、配属施設実習指導者より確認を得た実習計画書と照らし合わせ、具体的に実習で行いたい事をノートにまとめる。</p>

		事後学習	実習計画をもとに、30回の実習をより具体的にマネジメントする。
第2回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： アセスメントについて	事前学習	支援過程とアセスメントの方法についてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ソーシャルワークケース記録情報収集とアセスメントについて事例を用いて実際に記入し、提出する。
第3回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： ジェノグラムとエコマップについて・プランニングについて ・帰校指導について説明・理解	事前学習	ジェノグラムとエコマップについてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ジェノグラムとエコマップについて事例を用いて実際に作成、提出する。
第4回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解： インターベンション・結果と評価	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第5回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・他職種連携とチームアプローチについての理解： 実習施設・機関の他職種・他職員とのチームアプローチのあり方についてまとめる（課題1）	事前学習	実習時に実習先で実践されている他食連携について指導者より指導を受けその内容を記録にまとめる。
		事後学習	課題1の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第6回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討	事前学習	課題1についてまとめる。
		事後学習	実習時に課題2の作成に必要な情報について質問等を通じて収集する。
第7回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第8回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・地域社会への働きかけについての理解： 実習施設・機関と関わる社会資源についてまとめたうえで、その関連性と働きかけの方法についてまとめる（課題2）	事前学習	実習先の社会資源について調べ、記録にまとめる。
		事後学習	課題2の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第9回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・クライアントへの援助実践についての理解： クライアントへの支援において適用できる実践アプローチについて考察する（課題3）	事前学習	担当しているケースについて、情報を整理する。また、ソーシャルワークの実践アプローチについて内容を確認する。
		事後学習	課題3の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
		配布物	実習報告書について、ソーシャルワーク実習Ⅱアンケート（Sのみ）
第10回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・専門職の倫理綱領と実践についての理解： 実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題4）	事前学習	実習において実践活動及び職員の行動を観察のうえ、専門職倫理との関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題4の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第11回	・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第12回	・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
		配布物	実習終了時の諸注意 実習記録提出証明書
第13回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 ・実践事例の報告と検討： 担当している事例（事業）についての報告と意見交換 ・実習の評価について理解する（テキスト pp. 290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）： 実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・実習報告書の作成について（説明）	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第14回	・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める： 自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映すると考えるかまとめる（課題5）	事前学習	実習活動を通じて自己について振り返り、価値観と実習行動等の関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題5の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第15回	・実習後の学習課題（テキスト p. 310）： 目標と結果の照合、今後の課題について明確化する	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。

1. 科目名 (単位数)	体育科指導法 (2単位)		3. 科目番号	EDEL2313
2. 授業担当教員	古俣 龍一			
4. 授業形態	1 理論 導入：講義から課題の把握→展開Ⅰ：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→発表→講義のまとめ 2 演習 (指導案の作成と模擬授業による確かめ) 導入：指導法を形にする方法の講義→展開Ⅱ：特性に応じた指導案の作成→グループ内での検討→模擬授業→考察→指導案のまとめ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年次春期の「体育」と密接な関連性をもつ授業であることを理解すること。			
7. 講義概要	(1) 体育科には教科書がないため、指導方法は、教師の裁量によって行われる。そこで、本講義の学習によってどの児童にも体育科の運動の楽しさや喜びを体得させる指導法を身に付ける。具体的には、体育科の学習指導のポイントを運動特性に基づいて理解を図る。 (2) 一般的な特性と児童から見た特性の融合を図ることが、よい授業に結び付くことを映像を通して理解する。 (3) 演習として、実際の授業を通して、授業分析の方法を理解するとともに、学習評価を行い、指導と評価の一体化を図ることの重要性を学び、説明することができる。			
8. 学習目標	以下の目標とその内容は、模擬授業を通して実践的に理解することを目的とする。なお、本講義によって身につけた指導法は教育実習にて試行するなどして児童の実態に即した指導方法として改善し、教師となった際の力とする。 (1) 小学校体育科の目標とその内容を理解するとともに、指導の進め方とその際の技能的なポイント、態度や思考・判断の留意事項などは、学習指導案を教師の指導言葉によって具体的に記述するなどして、身につけることができるようになる。 (2) 学習評価の在り方を評価規準まで掘り下げて理解することを通して、指導と評価の一体化の理解を図ることができるようになる。 (3) 模擬授業を体験することにより、授業の実際を体験し、よい授業の条件を理解できるようになる。 (4) 現場の教師との対話から児童の反応と運動の技能等を身に付けさせる言葉掛けの実際を把握できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1 教科書『トラベジウム』に書かれている中で今日的な教育的課題を選び、自分の考えや意見をまとめる。(個人) 課題2 グループに分かれて模擬授業を行う。また、その際にその授業指導案の細案を作成する。(グループ)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小学校学習指導要領 (平成 29 年 7 月 公示 文部科学省)。 立木正他『小学校体育科授業研究』教育出版、2009 年。 【参考書資料】 小学校学習指導要領解説 体育編 (平成 29 年 7 月 公示 文部科学省)。 【参考書】 必要に応じて適宜配布する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (1) 学習指導案を作成し、模擬授業などを通して体育指導の方法を身に付けることができる。(学習目標 1) (2) 指導と評価の一体化の理解を図ることができる。(学習目標 2) (3) 意欲的に模擬授業を体験し、体育指導の実際を把握する。(関心、意欲) ○評定の方法 成績評価の規準 授業への積極性 (50%)、レポート (20%)、実技の積極性 (30%) の結果を総合的に判定する。			
12. 受講生へのメッセージ	子どもたちは潜在的に五つの欲求を抱きながら体育の授業に臨むと言われます。そしてこの五つの欲求を上手に満たしてあげる教師こそが体育指導者のスペシャリストと言えるのです。さて、この五つの欲求とは何でしょう。小学校の教員を目指すみなさんに、「魅力ある体育」のたくさんのヒントを提供します。ジャージ、運動着などは体育授業時のいわば「制服」です。実技や演習では運動するためのふさわしい常識的な服装 (体育着) で参加してください。また、体育館では体育館シューズが必要です。ジーパンはもちろん禁止です。			
13. オフィスアワー	・別途通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (本講義の意義と今後の流れ) *本講座で行う模擬授業の位置づけとグループ分けを行い、意識を高めさせる。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。	
		事後学習	各グループで提案授業の内容の計画を立てる。	
第2回	講義 日本における体育科教育の変遷と今日における体育科の特性および目標 *これまで歩んできた体育科教育の流れを把握するとともに今日の課題を知る。 *新旧の学習指導要領を比較し、加除訂正が加えられた部分について把握・理解し解説ができる。	事前学習	これまでの学習指導要領のだいたいの流れを調べる。	
		事後学習	新学習指導要領における体育の位置づけを理解し、これから子どもたちをどのように育てていけばよいのかについてレポートにまとめる。	
第3回	講義 体育科の領域構成 単元計画の立て方、教材研究のポイント (電子黒板、PC等の情報機器及び教材の活用も学修する) *各自自治体における最新の体育科指導案を提示し、指導案からイメージされる授業についてディスカッションすることができる。	事前学習	過去の体育科学習指導案を見て書き方のポイントを理解しておく。	
		事後学習	実際の指導案の書き方を確認する。次時の模擬授業の説明をする。	

第4回	グループワーク① 「体育科学習指導案作成（低学年の領域から）」 *各グループにわかれて役割分担をし、模擬授業に向けて指導案の細案作りをする。作成に当たってはword、excel等を活用。(情報機器及び教材の活用も考慮する)	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第5回	グループワーク② 「体育科学習指導案作成（中学年の領域から）」 *引き続き、各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案の細案作りをする。作成に当たってはword、excel等を活用。(情報機器及び教材の活用も考慮する)	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第6回	グループワーク③ 「体育科学習指導案作成（高学年の領域から）」 *引き続き、各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案の細案作りをする。作成に当たってはword、excel等を活用。(情報機器及び教材の活用も考慮する)	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第7回	模擬授業1「表現リズム遊び領域から」（グループワーク 授業分析 授業振り返り）振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施 （「模擬授業評価の観点」の内容は、第14回まで同じ）	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第8回	模擬授業2「走跳の運動遊び領域から」（グループワーク 授業分析 授業振り返り）振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点（第7回と同じ） *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第9回	模擬授業3「陸上運動領域から」（グループワーク 授業分析 授業振り返り）振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点（第7回と同じ） *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第10回	模擬授業4「器械器具を使つての運動遊び領域から」（グループワーク 授業分析 授業振り返り）振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点（第7回と同じ） *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第11回	模擬授業5「器械運動領域から」（グループワーク 授業分析 授業振り返り）振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点（第7回と同じ） *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第12回	模擬授業6「ゲーム領域から」（グループワーク 授業分析 授業振り返り）振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点（第7回と同じ） *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第13回	模擬授業7「ボール運動領域から」（グループワーク 授業分析 授業振り返り）振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点（第7回と同じ） *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第14回	模擬授業10「保健領域（心の健康から）」（グループワーク 授業分析 授業振り返り）振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点（第7回と同じ） *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第15回	まとめと評価 *体育の指導に際して対象児童における適切な指導の細案を個々で作成することができ、学校現場に	事前学習	これまでの一連の模擬授業を思い出し、新しい指導案を考える。
		事後学習	体育科学習指導案の書き方の基本を押さえ、

	おける指導案作りの重要性が理解でき、学校現場で十分に応用できる能力を身につけることができたか。		実際の現場で生かせることできるよう確認する。
--	---	--	------------------------

1. 科目名 (単位数)	体育科指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJMP2290 SJMP2390
2. 授業担当教員	相原 豊		
4. 授業形態	1 理論 導入：講義から課題の把握→展開Ⅰ：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→発表→講義のまとめ 2 演習 (指導案の作成と模擬授業による確かめ) 導入：指導法を形にする方法の講義→展開Ⅱ：特性に応じた指導案の作成→グループ内での検討→模擬授業→考察→指導案のまとめ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	体育を履修済みであることが望ましい		
7. 講義概要	(1) 体育科には教科書がないため、指導方法は、教師の裁量によって行われる。そこで、本講義の学習によってどの児童にも体育科の運動の楽しさや喜びを体得させる指導法を身に付ける。具体的には、体育科の学習指導のポイントを運動特性に基づいて理解を図る。 (2) 一般的な特性と児童から見た特性の融合を図ることが、よい授業に結び付くことを映像を通して理解する。 (3) 演習として、実際の授業を通して、授業分析の方法を理解するとともに、学習評価を行い、指導と評価の一体化を図ることの重要性を学び、説明することができる。		
8. 学習目標	以下の目標とその内容は、模擬授業を通して実践的に理解することを目的とする。なお、本講義によって身につけた指導法は教育実習にて試行するなどして児童の実態に即した指導方法として改善し、教師となった際の力とする。 (1) 小学校体育科の目標とその内容を理解するとともに、指導の進め方とその際の技能的なポイント、態度や思考・判断の留意事項などは、学習指導案を教師の指導言葉によって具体的に記述するなどして、身につけることができるようになる。 (2) 学習評価の在り方を評価規準まで掘り下げて理解することを通して、指導と評価の一体化の理解を図ることができるようになる。 (3) 模擬授業を体験することにより、授業の実際を体験し、よい授業の条件を理解できるようになる。 (4) 現場の教師との対話から児童の反応と運動の技能等を身に付けさせる言葉掛けの実際を把握できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1 指導案作成と指導案を元とした模擬授業の実施 課題2 実施後の反省を踏まえた指導案の修正		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小学校学習指導要領 (体育編) (平成 29 年 7 月 公示 文部科学省)。 【参考書資料】 小学校学習指導要領解説 体育編 (平成 29 年 7 月 公示 文部科学省)。 立木正他『小学校体育科授業研究』教育出版、2009 年。 【参考書】 必要に応じて適宜配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (1) 学習指導案を作成し、模擬授業などを通して体育指導の方法を身に付けることができる。(学習目標 1) (2) 指導と評価の一体化の理解を図ることができる。(学習目標 2) (3) 意欲的に模擬授業を体験し、体育指導の実際を把握する。(関心、意欲) ○評定の方法 成績評価の規準 授業への積極性 (50%)、レポート (20%)、実技の積極性 (30%) の結果を総合的に判定する。		
12. 受講生へのメッセージ	教員・指導者としての心構えで受講してください。 実技等を行う場合はジャージで参加すること (ジーンズ、スウェット等は禁止) 室内では体育館シューズが必要です。		
13. オフィスアワー	講義内で周知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (本講義の意義と今後の流れ) *本講座で行う模擬授業の位置づけとグループ分けを行い、意識を高めさせる。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	各グループで提案授業の内容の計画を立てる。
第2回	講義 日本における体育科教育の変遷と今日における体育科の特性および目標 *これまで歩んできた体育科教育の流れを把握するとともに今日的課題を知る。 *新旧の学習指導要領を比較し、加除訂正が加えられた部分について把握・理解し解説ができる。	事前学習	これまでの学習指導要領のだいたいの流れを調べる。
		事後学習	新学習指導要領における体育の位置づけを理解し、これからの子どもたちをどのように育てていけばよいかについてレポートにまとめる。
第3回	講義 体育科の領域構成 単元計画の立て方、教材研究のポイント (電子黒板、PC等の情報機器及び教材の活用も学修する) *各自自治体における最新の体育科指導案を提示し、指導案からイメージされる授業についてディスカッションすることができる。	事前学習	過去の体育科学習指導案を見て書き方のポイントを理解しておく。
		事後学習	実際の指導案の書き方を確認する。次時の模擬授業の説明をする。
第4回	グループワーク① 「体育科学習指導案作成 (低学年の領域から)」	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。

	*各グループにわかれて役割分担をし、模擬授業に向けて指導案の細案作りをする。作成に当たってはword、excel等を活用。(情報機器及び教材の活用も考慮する)	事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第5回	グループワーク② 「体育科学習指導案作成(中学年の領域から)」 *引き続き、各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案の細案作りをする。作成に当たってはword、excel等を活用。(情報機器及び教材の活用も考慮する)	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第6回	グループワーク③ 「体育科学習指導案作成(高学年の領域から)」 *引き続き、各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案の細案作りをする。作成に当たってはword、excel等を活用。(情報機器及び教材の活用も考慮する)	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第7回	模擬授業1「表現リズム遊び領域から」(グループワーク 授業分析 授業振り返り)振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者(他の学生)は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施 (「模擬授業評価の観点」の内容は、第14回まで同じ)	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第8回	模擬授業2「走跳の運動遊び領域から」(グループワーク 授業分析 授業振り返り)振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点(第7回と同じ) *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第9回	模擬授業3「陸上運動領域から」(グループワーク 授業分析 授業振り返り)振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点(第7回と同じ) *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第10回	模擬授業4「器械器具を使つての運動遊び領域から」(グループワーク 授業分析 授業振り返り)振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点(第7回と同じ) *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第11回	模擬授業5「器械運動領域から」(グループワーク 授業分析 授業振り返り)振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点(第7回と同じ) *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第12回	模擬授業6「ゲーム領域から」(グループワーク 授業分析 授業振り返り)振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点(第7回と同じ) *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第13回	模擬授業7「ボール運動領域から」(グループワーク 授業分析 授業振り返り)振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点(第7回と同じ) *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第14回	模擬授業8「保健領域(心の健康から)」(グループワーク 授業分析 授業振り返り)振り返りにあたってはpowerpoint等を活用。 *模擬授業評価の観点(第7回と同じ) *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第15回	まとめと評価 *体育の指導に際して対象児童における適切な指導の細案を個々で作成することができ、学校現場における指導案作りの重要性が理解でき、学校現場で十分に応用できる能力を身につけることができたか。	事前学習	これまでの一連の模擬授業を思い出し、新しい指導案を考える。
		事後学習	体育科学習指導案の書き方の基本を押さえ、実際の現場で生かせることができるよう確認する。

1. 科目名 (単位数)	多文化コミュニケーション (2単位)		3. 科目番号	GELA1336 GELA1329 GELA1136 JNGL2309
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション、グループ発表	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	多文化理解入門を受講していることが望ましい。			
7. 講義概要	グローバル化が進むにつれ、異なる母語・習慣・価値観をもった人たち同士の多文化コミュニケーションは日常的になりつつある。本講義は、自分の視野をこのような多文化「共生社会」にむけて広げ、必要とされるコミュニケーション能力を修得することを目的とする。具体的には、多文化コミュニケーションを構成する「言語」「コミュニケーション」「文化」の3つの基本的概念を理解し、多文化コミュニケーションのしくみを理解する。次に、様々なコミュニケーション活動や教科書のエクササイズを行い、多文化コミュニケーションのスキルを理解し養っていく。最後にグローバル時代における多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分なりの意見を発信する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化コミュニケーションを構成する基本概念とそのしくみについて理解する。 2. 多文化コミュニケーションのスキルを理解し身につける。 3. グローバル時代の多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分の意見を発信できる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習課題として指定された教科書の課題を実施した上で授業に臨むこと。 2. 事後学習課題では、授業内で扱った内容の理解を定着できるよう教科書を再度よく読み、各章に応じて作成された「振り返りプリント」に取り組むこと。 3. グループ発表は、「グローバル時代の多文化コミュニケーション」をテーマとして1グループ5人を限度として10分程度の発表をグループで行うこととする。詳細は授業時に説明する。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 八代京子その他著 『異文化コミュニケーションワークブック』三修社、2001年 【参考書】 授業時に指示する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化コミュニケーションを構成する基本概念とそのしくみについて理解できたか。 2. 多文化コミュニケーションのスキルを理解し身につけることができたか。 3. グローバル時代の多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分の意見を発信できたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加態度 総合点の30% 2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の30% 3 提出課題 (レポート等) 総合点の40% 			
12. 受講生へのメッセージ	グローバル化の進展に伴い、異文化・多文化理解は今後益々重要視されることとなる。「文化」という用語に我々は日常当たり前のように接するが、それを定義することは容易でない。よって「異文化・多文化とは何か」という問いは非常に深い思考を必要とする。この授業では、実生活における例を豊富に参照しながら異文化・多文化理解がより身近なものとなるように目指していく。自身の経験を振り返りながら受講生同士で共有する過程を重要視するので、積極的な授業参加を期待する。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	教科書の「はじめに」と目次を読み、異文化コミュニケーションについて考えてみる。	
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。	
第2回	自己紹介1:自由に自分を紹介する	事前学習	1分間で自己紹介できるよう準備してくる。	
		事後学習	他の学生の自己紹介内容と気づいた点をまとめ整理しておく。	
第3回	第1章 異文化コミュニケーションとは 1:新しい常識とステレオタイプ (pp. 9-16)	事前学習	教科書 pp. 9-16の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。	
		事後学習	授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。	
第4回	第1章 異文化コミュニケーションとは 2:異文化理解への態度 (pp. 17-21)	事前学習	pp. 17-21の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。	
		事後学習	授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。	
第5回	第1章 異文化コミュニケーションとは 3:文化とコミュニケーション (pp. 22-35)	事前学習	pp. 22-35の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。	
		事後学習	授業で学んだことを振り返りプリントに記入する。	
第6回	自己紹介2:お互いの文化を紹介し合う	事前学習	今まで学んだことを参考に1分間で自分の文	

			化について紹介できるよう準備してくる。
		事後学習	様々な学生の自文化紹介内容と気づいた点を振り返りプリントに記入する。
第7回	第2章 コミュニケーションスタイル：自己開示とパラ言語 (pp. 46-57)	事前学習	pp. 46-57の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	様々な文化のコミュニケーションスタイルについて気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第8回	第3章 言語コミュニケーション 1：ほめ方・叱り方・謝り方 (pp. 61-72)	事前学習	pp. 61-72の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	ほめ方・叱り方・謝り方の多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第9回	第3章 言語コミュニケーション 2：自己紹介と誘い方・断り方 (pp. 73-77)	事前学習	pp. 73-77の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	自己紹介や誘い方・断り方の多様なスタイルについて気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第10回	自己紹介3：自己のコミュニケーションスタイルを意識しながら自己紹介し合う	事前学習	自分のコミュニケーションスタイルを意識しながら1分間で自己紹介できるよう準備してくる。
		事後学習	お互いの自己紹介を通し気づいたコミュニケーションスタイルの文化多様性について振り返りプリントに記入する。
第11回	第4章 非言語コミュニケーション (pp. 81-100)	事前学習	pp. 81-100の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	非言語コミュニケーションの文化多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第12回	第5章 価値観 (pp. 103-113)	事前学習	pp. 103-113の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	価値観の文化多様性について気づいたことを振り返りプリントに記入する。
第13回	第7章 異文化コミュニケーションスキル 1： (pp. 137-149)	事前学習	pp. 137-149の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	D. I. E. メソッドとアサーティブ・コミュニケーションについて学んだ内容を振り返りプリントに記入する。
第14回	第7章 異文化コミュニケーションスキル 2： (pp. 150-157)	事前学習	pp. 150-157の「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	エポケーについて学んだ内容を振り返りプリントに記入する。
第15回	グループ発表	事前学習	グループ発表のリハーサルをして本番に備える。
		事後学習	自分のグループと他グループの発表で得た学びについて整理しておく。

1. 科目名 (単位数)	地域看護学 (2単位)	3. 科目番号	EDHE3315
2. 授業担当教員	鈴木 路子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、インタビュー調査、発表、グループ学習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「衛生学」「公衆衛生学」を履修条件とする		
7. 講義概要	<p>地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を学ぶ。また、地域看護の方法の中で特に健康教育を取り上げ、活用される理論と方法の基礎を理解する。地域看護とは、生活の場としての地域社会と住民の健康を保持増進するための看護活動であり、「地域保健 (CommunityHealth)」「公衆衛生看護学 (PublicHealthNursing)」と同意語である。</p> <p>家族が生活を営む地域 (Community) の保健医療・福祉行政施策 (サービス) と保健看護諸活動の実際を体系的に学ぶ。この包括的看護活動は、地域住民のよりよい健康安全とそれを支える地域社会・環境を総合する働きかけにより実践されるものである。母子保健、成人保健、老人保健、環境保健、精神保健、地域保健行政施策、地域診断 (地域の健康評価) 等、広域的な内容が含まれる。地域医療機関で行われる「臨床看護実習」、地域福祉施設で行われる「ソーシャルワーク実習」「保育実習」等を介して、包括的看護活動を行う実践力を身につけ、養護教諭、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などとして地域看護活動を基盤にそれぞれの専門性を発揮する能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習、理解し、説明できるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を理解する。 2 地域における健康教育について理解する。 3 学校保健と地域保健の連携について理解する。 4 子どもの権利条約を通して子どもの権利をより深く理解する。 5 一人親家庭の生活実態や子どもを巡る諸問題について理解する。 6 地域ネットワークについて面接調査を計画し実践する方法を学ぶ。 7 ニーズを実現するための社会資源の活用や他職種との協働等支援の方法を理解する。 8 以上を通して、児童生徒がどのような環境で生育するのかを理解し、多様化した現代の社会にあって養護教諭に求められる役割と機能を十分に理解する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>A4/1000字程度 提出期限は次週の授業時提出</p> <p>課題1 地域社会と地域看護について考え、地域住民の健康の把握方法についてまとめる</p> <p>課題2 学校における保健教育と地域における健康教育を対比しながら指導案を作成する</p> <p>課題3 地域保健法・学校保健法・母子保健法等関連する法律を精読し重要な条文を整理する</p> <p>課題4 養護教諭をめざすために、社会福祉を学ぶ意義と目的について考察する</p> <p>課題5 子供の権利条約を精読し日本に与えた影響について考察する</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>1・鈴木路子編著『公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社, 2014</p> <p>2・岩波ジュニア新書『子どもの権利条約』岩波書店, 2013年3月</p> <p>【参考書】</p> <p>東京福祉大学編 『教職科目要説』(中等教育編) ミネルヴァ書房</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を理解することができたか。 2. 地域における健康教育について理解できたか。 3. 学校保健と地域保健の連携について理解できたか。 <p>○評定の方法 (下記を総合して成績評価をする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 (30%) 2. 授業ごとに提出する授業への振り返り (30%) 3. 小テスト・課題レポート (40%) <p>上記のほかに、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>地域看護学は、住民の健康把握・ニーズ調査、各種統計資料の収集・分析・解説を含めた攻守上雨声の一部である。この領域は精神保健学・学校保健学・環境保健論・養護教育学及び社会福祉等多くの関連領域との連携が必須である。これらを相互に学びながら。新たな視点を発見し、児童生徒の健康を把握し、問題に対応し管理実践・教育実践活動がいかに重要であるかを学び、その実践力を身につける。</p> <p>子どもを取り巻く環境は複雑多様化している。このような環境が子どもの健全な成長と発達にどのような影響を与えているか子どもの置かれている実態から理解を深めてほしい。教科書を購入のこと</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の時間帯		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	地域看護とは何かー公衆衛生における地域看護 (地域保健) 活動の役割と意義ー	事前学習	教科書Ⅰ 序章を読み、地域看護学 (公衆衛生看護学) の全体像を把握する
	課題1: 地域看護活動の目的・対象・方法及び必要とされる能力についてまとめる	事後学習	学校看護と地域看護の役割、連携を認識し、具体的な目的・対象・方法を自らの言葉で表現する
第2回	地域社会と地域看護の考え方ー人の暮らしと健康	事前学習	教育実習先の地域社会を想定する
	課題2: 地域社会と地域看護について考え、地域住民の健康の把握方法についてまとめる	事後学習	地域保健法を基盤に行われる地域住民の健康把握の方法を整理する
第3回	地域における健康教育	事前学習	教科書Ⅱ第3部学校健康教育と地域における

	課題3：学校における健康教育と地域における健康教育を対比しながら指導案を作成する	事後学習	健康教育を読み、想定する 具体的に指導案を作成し実践する
第4回	学校保健と地域保健の連携（1）感染症対策、健康危機管理対策	事前学習	地域の保健センター・保健所等を訪問し、資料を収集する
		事後学習	各種情報を入手分析、まとめ、討論を行った結果をまとめる
第5回	学校保健と地域保健の連携（2）性教育、母子保健対策 課題4：地域保健法・母子保健法・学校保健法等関連する法律を精読し重要な条文を整理する	事前学習	保健師と養護教諭の連携について支援事例を調べておく
		事後学習	思春期保健対策として課題解決策を考える
第6回	学校保健と子ども家庭福祉の連携 第1章 子ども家庭支援と社会福祉 第2章 子ども家庭を取り巻く社会状況 課題5：養護教諭をめぐる人が社会福祉を学ぶ意義と目的について考察する	事前学習	教科書第1・2章を読み、学校保健の基盤として、子ども家庭福祉の重要性を認識する
		事後学習	支援者として子どもに対峙するときの基本的姿勢について考察する
第7回	第3章 社会福祉の理念と権利保障 1. 子どもの権利保障の歩み 2. 子どもの権利の特徴 3. 子どもの権利に関する条約 課題6：子どもの権利条約を精読し、日本に与えた影響について考察する	事前学習	子どもの権利条約を読み、子どもの権利と生命・生活・生存の重要性を認識する
		事後学習	子どもの権利条約について、その時代的背景、条約制定の意義と目的、内容についてまとめる
第8回	4. 子どもを養育する権利と義務 課題7：親権とは何か、親権を巡る問題について、法律の改正も含めて動向を整理しまとめる	事前学習	教科書第3章を読み、子どもを養育する親の権利と義務について理解を深める
		事後学習	「ハーグ条約」とは何か、日本が加盟することの意義と問題点についてまとめる
第9回	第4章 子ども家庭福祉にかかわる法体系 児童福祉法・児童福祉を直接支える法律・関連する法律	事前学習	教科書第4章を読み、子ども家庭福祉の法体系の全体像を把握する
		事後学習	児童虐待対策とその課題についてまとめる
第10回	第8章 子ども家庭福祉と地域ネットワーク 1. 虐待防止ネットワークの広がり 2. 要保護児童対策地域協議会、設置の効果・課題 等 3. 出身市町村の現況調査の方法と計画を立てる	事前学習	教科書第8章を読み、地域ネットワークとその必要性を理解する
		事後学習	出身地市区町村の要保護児童対策地域協議会の現状と課題を情報収集する
第11回	第5章 子ども家庭福祉にかかわる専門職 1. 専門職との協働 2. 教育機関の福祉専門職 3. 児童福祉領域の福祉専門職 等	事前学習	教科書第5章を読み、子ども家庭福祉にかかわる専門職とその機能を理解する
		事後学習	養護教諭が連携を深めておく必要のある専門職と連携する際の留意点についてまとめる
第12回	第6章 児童の社会的養護サービス 1. 社会的養護とは何か 2. 社会的養護にかかわる機関、施設 等	事前学習	教科書第6章を読み、社会的養護とその今日的課題を理解する
		事後学習	里親制度の意義と現状、問題点についてまとめる
第13回	第7章 ひとり親家庭への支援 1. ひとり親家庭の概念 2. ひとり親家庭の状況 3. ひとり親家庭に対する社会的支援施策	事前学習	教科書第7章を読み、ひとり親家庭の現状について理解を深める
		事後学習	父母の離婚が子どもの心身に与える影響について、近年の動向も踏まえて考察する
第14回	要保護児童対策地域協議会についての現況調査の成果発表 1. 現況調査の結果をグループで話し合い整理する 2. グループ発表する	事前学習	地域ネットワークの現状と課題について各自実施した現況調査の結果をレポートにまとめる
		事後学習	地域協議会への養護教諭の関わり方を考察する
第15回	第9章 子ども家庭支援の実際 事例1：虐待事例への支援 事例2：不登校事例への支援	事前学習	教科書第9章を読み、子ども家庭支援の具体的実践事例を知る
		事後学習	事例2について、支援の長期目標と短期目標を立案する

1. 科目名 (単位数)	地域福祉論 (4単位)	3. 科目番号	SSMP2104 SBMP2104 SCMP2104 SPMP2104 SNMP2304 PSMP2404
2. 授業担当教員	佐藤 惟		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を学ぶとともに、地域援助技術としてのコミュニティワーク、コミュニティソーシャルネットワークの実践方法を身につける。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む)について説明できる。 ・地域福祉の主体と対象について理解し説明できる。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について把握することができる。 ・地域福祉におけるネットワーク(多職種・多機関との連携を含む。)の意義と方法について把握し、その実際について説明できる。 ・地域福祉の推進方法(ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。)について理解し説明できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	関東地方の自治体を1つ選び、その自治体の地域特性、地域福祉計画の策定状況、地域福祉の実践団体等についてレポートにまとめて発表してもらう。レポートの形式等については授業内で指示する。確認テストは、概ね6~8回に1回のペースで行われる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 地域福祉の基本的考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。)について理解する。 2. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 3. 地域福祉におけるネットワーク(多職種・多機関との連携を含む。)の意義と方法及びその実際について理解する。 4. 地域福祉の推進方法(ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。)について理解する。 ○評定の方法 1. 受講態度・参加姿勢等 40%(全授業の3/4以上の出席が必要)遅刻(10分程度迄)は3回で1回休みとなる。 40% 2. 試験及びレポート 60%		
12. 受講生へのメッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。 1. 授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的態度で授業に参加することが期待されている。 2. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4. レポートの提出日を厳守すること。 5. 授業の中では、教科書や配布資料の輪読に加え、過去の試験問題の検討等も行う予定である。国試受験予定の有無にかかわらず、積極的な参加が望まれる。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(シラバス、講義概要、試験についての説明等、その他)	事前学習	事前に講義概要について目を通しておく。
		事後学習	地域福祉論のねらいについてまとめる。
第2回	コミュニティソーシャルワークの考え方;映像視聴	事前学習	コミュニティソーシャルワーク、社会福祉協議会について、インターネット等で調べておく。
		事後学習	コミュニティソーシャルワークについて復習する。教科書 pp. 134~142 を読む。
第3回	コミュニティソーシャルワークの展開とシステム、方法	事前学習	教科書 pp. 143~155 を読む。
		事後学習	地域アセスメントの方法についてまとめる。
第4回	専門他職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク、専門職と住民の関係;映像視聴	事前学習	教科書 pp. 156~172 を読む。
		事後学習	専門職と住民の関係について復習する。
第5回	地域のとらえ方と福祉圏域;グループ発表の説明	事前学習	教科書 pp. 41~51 を読む。
		事後学習	福祉圏域の考え方について復習する。
第6回	地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組	事前学習	教科書 pp. 52~56 を読む。

	織；確認テスト①	事後学習	地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織について復習する。
第7回	地域福祉の実施主体①自治会・町内会と孤立死問題；グループ分け	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	町内会・自治会の仕事についてまとめる。
第8回	孤立死問題と個人情報保護；映像視聴	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	孤立死問題についてまとめる。
第9回	地域福祉の実施主体②民生委員・児童委員、保護司；映像視聴	事前学習	教科書 pp. 116～125 を読む。
		事後学習	民生委員・児童委員についてまとめる。
第10回	地域福祉の実施主体③社会福祉法人、NPO法人、コミュニティビジネス	事前学習	教科書 pp. 101～115 を読む。
		事後学習	社会福祉法人とNPO法人についてまとめる。
第11回	地域福祉の実施主体④社会福祉協議会	事前学習	教科書 pp. 89～100 を読む。
		事後学習	社会福祉協議会についてまとめる。
第12回	外部講師による講演：社会福祉協議会による仕事の実際	事前学習	教科書 pp. 89～100 を読む。
		事後学習	講演を聞いて学んだことをまとめる。
第13回	地域福祉の実施主体⑤地域包括支援センターと地域包括ケアシステム；映像視聴	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	地域包括支援センターについてまとめる。
第14回	地域福祉の実施主体⑥子育て世代包括支援センター；確認テスト②	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	子育て世代包括支援センターについてまとめる。
第15回	地域福祉計画と地域福祉活動計画	事前学習	教科書 pp. 78～88 を読む。
		事後学習	地域福祉計画と地域福祉活動計画の違いについて復習する。
第16回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際	事前学習	教科書 pp. 240～252 を読む。
		事後学習	質的な福祉ニーズと量的な福祉ニーズについてまとめる。
第17回	住民の参加と方法、ローカルガバナンス	事前学習	教科書 pp. 174～194 を読む。
		事後学習	ガバメントとガバナンスの違いを復習する。
第18回	地域における福祉サービスの評価方法と実際	事前学習	教科書 pp. 281～298 を読む。
		事後学習	自分の住む地域で福祉サービスの評価を行う組織について調べてみる。
第19回	日本における地域福祉の発展過程；グループ発表①	事前学習	教科書 pp. 2～8 を読む。
		事後学習	セツルメント運動についてまとめる。
第20回	日本における地域福祉理論の発展と広がり；グループ発表②	事前学習	教科書 pp. 36～46 を読む。
		事後学習	わが国における地域福祉の理論の類型についてノートにまとめる。
第21回	海外における地域福祉の発展過程①イギリス；グループ発表③	事前学習	教科書 pp. 314～322 を読む。
		事後学習	イギリスの地域福祉の発展過程をまとめる。
第22回	海外における地域福祉の発展過程②アメリカ；グループ発表④；確認テスト③	事前学習	教科書 pp. 323～328 を読む。
		事後学習	アメリカの地域福祉の発展過程をまとめる。
第23回	災害支援と地域福祉①災害支援の考え方、災害支援の実際、非日常の支援から日常の支援へ；グループ発表⑤	事前学習	教科書 pp. 300～312 を読む。
		事後学習	災害支援についてまとめる。
第24回	災害支援と地域福祉②福祉避難所について；映像視聴；グループ発表⑥	事前学習	教科書 pp. 300～312 を読む。
		事後学習	福祉避難所についてまとめる。
第25回	生活困窮者自立支援制度と地域福祉①制度の概要、事例；グループ発表⑦	事前学習	教科書 pp. 14～20 を読む。
		事後学習	生活困窮者自立支援についてまとめる。
第26回	生活困窮者自立支援制度と地域福祉②子どもの貧困；映像視聴；グループ発表⑧	事前学習	教科書 pp. 14～20 を読む。
		事後学習	映像から学んだことをまとめる。
第27回	介護保険制度と地域福祉①在宅での看取りに向けた支援	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	地域包括ケアシステムについてまとめる。
第28回	外部講師による講演：介護保険制度と地域福祉②地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	講演を聞いて学んだことをまとめる。
第29回	地域福祉に関する今後の課題①「わが事・丸ごと」地域共生社会；確認テスト④	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	「わが事・丸ごと」地域共生社会についてまとめる。
第30回	地域福祉に関する今後の課題②地方創生	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	これまでの授業内容を復習する。

1. 科目名(単位数)	知覚・認知心理学 (4単位)	3. 科目番号	PSMP2115
2. 授業担当教員	加藤 宏一		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	認知心理学は“知”の働きを中心にして、人間の心のしくみを、情報処理という枠組みにもとづいて明らかにしていこうとする心理学の一分野である。本講義では、特に感覚、知覚、注意、記憶、思考などの領域を概観する。また、心の働きを科学的に解明しようとする手法や考え方について学習するとともに、上記領域における最新の知識を習得する。		
8. 学習目標	1. 感覚、知覚、注意、記憶、思考等の機序およびその障害について基礎的な知識を習得する。 2. 認知心理学の研究の方法を理解し、説明することができる。 3. 日常生活の身近な問題に、習得した認知心理学的手法を適用することができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	学習内容や演習課題のまとめとして、随時、小レポートを書いてもらう。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】服部雅史、小島治幸、北神慎司(著)『基礎から学ぶ認知心理学』有斐閣ストゥディア、2015年。 【参考書】必要に応じて他のテキストや論文を授業で紹介する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 感覚、知覚、注意、記憶、思考等の機序およびその障害について基礎的な知識を習得できているか。 2. 認知心理学の研究の方法を理解し、説明することができるか。 3. 日常生活の身近な問題に、習得した認知心理学的手法を適用することができるか。 ○評定の方法 下記の規準を基に、本学規定に沿って評価を行う。 平常点(授業態度・授業への参加など) 30% 課題(テスト・レポート・発表など) 70%		
12. 受講生へのメッセージ	人間の「知」を研究対象とする認知心理学は、皆さんが心理学に対して抱いているイメージ(「心」を対象とした学問)とは随分と違うかも知れません。内容的にも、やさしい領域ではありませんが、学習内容を日常・社会場面にどう生かすかを意識して、積極的に学習に取り組んでくれることを期待しています。		
13. オフィスアワー	授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	導入：認知心理学とは	事前学習	教科書【10章】を読む。
		事後学習	認知心理学の特徴についてまとめる。
第2回	認知心理学の研究方法・研究テーマ	事前学習	教科書【1章】を読む。
		事後学習	研究方法・研究テーマについてまとめる。
第3回	感覚のしくみ	事前学習	教科書【2章 pp.21-35】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第4回	感覚の特徴	事前学習	教科書【2章 pp.35-44】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第5回	知覚のしくみ	事前学習	教科書【3章 pp.45-56】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第6回	知覚の特徴	事前学習	教科書【3章 pp.61-70】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第7回	注意のしくみ	事前学習	教科書【3章 pp.56-61】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第8回	注意の特徴	事前学習	教科書【3章 pp.56-61】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第9回	記憶の基礎：記憶のモデル	事前学習	教科書【4章 pp.71-75】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第10回	記憶の基礎：記憶の分類と特徴	事前学習	教科書【4章 pp.71-75】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第11回	記憶の基礎：短期記憶とワーキングメモリ	事前学習	教科書【4章 pp.75-81】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第12回	記憶の基礎：長期記憶	事前学習	教科書【4章 pp.81-89】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第13回	記憶の展開：忘却と抑制	事前学習	教科書【5章 pp.91-95】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第14回	記憶の展開：日常の記憶	事前学習	教科書【5章 pp.96-106】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第15回	中間のまとめ：感覚、知覚、注意	事前学習	感覚、知覚、注意の復習を行う。
		事後学習	理解度を確認し、不十分な事柄を復習する。
第16回	中間のまとめ：記憶の基礎、記憶の発展	事前学習	記憶の基礎、記憶の発展の復習を行う。
		事後学習	理解度を確認し、不十分な事柄を復習する。

第17回	概念と知識	事前学習	教科書【6章 pp.107-113】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第18回	スキーマ理論	事前学習	教科書【6章 pp.113-116】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第19回	メタ認知：モニタリング	事前学習	教科書【6章 pp.116-122】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第20回	メタ認知：コントロール	事前学習	教科書【6章 pp.116-122】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第21回	問題解決のしくみ	事前学習	教科書【7章 pp.123-130】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第22回	問題解決の特徴	事前学習	教科書【7章 pp.123-130】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第23回	推論：演繹と帰納	事前学習	教科書【7章 pp.131-144】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第24回	推論：特徴とバイアス	事前学習	教科書【7章 pp.131-144】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第25回	判断と意思決定：効用理論	事前学習	教科書【8章 pp.145-150】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第26回	判断と意思決定：確率の判断	事前学習	教科書【8章 pp.150-157】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第27回	判断と意思決定：文脈と感情	事前学習	教科書【8章 pp.158-166】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第28回	潜在認知：サブリミナル効果	事前学習	教科書【9章 pp.167-175】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第29回	潜在認知：意識－無意識	事前学習	教科書【9章 pp.175-1】を読む。
		事後学習	講義内容・教科書範囲を復習する。
第30回	半期の講義の振り返りと到達度の確認	事前学習	半期の講義内容の要点をまとめておく。
		事後学習	理解が不十分な事柄を復習する。

1. 科目名 (単位数)	知的障害教育Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SSMP3449 SNMP3449 SCMP3449 SBMP3449 SSMP3449 SSMP3349
2. 授業担当教員	立松 英子		
4. 授業形態	知的障害教育Ⅰをふまえた講義、演習、模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	知的障害教育Ⅰを踏まえて行ないます。		
7. 講義概要	本科目では、知的障害教育Ⅰで学んだ知識をふまえ、医療・福祉など近接分野の最新の動向に関心を広げながら、知的障害のある子どもの生涯を見通した支援、保護者との安定した関係の構築、外部専門家との有機的な連携を実現するための倫理観や責任感、実践力を養う。模擬授業を通して、実態評価の基礎、各種教育計画の作成手順、教材・教具の意義を学び、特別支援学校での教育実践を想定した基礎的スキルを培う。		
8. 学習目標	<p>【期待される効果】以下に関して基礎的知識が身につく、初歩的な実践ができる。</p> <p>① 知的障害者を取り巻く様々な社会事情。 ② 各種教育計画の作成。 ③ 知的障害の実態把握・アセスメント。 ④ 教材・教具の意義や工夫。 ⑤ 「各教科等を合わせた指導」の法的根拠やねらい・内容を授業に生かす。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第7回から第10回において、「各教科等を合わせた指導」についての模擬授業を行う。</p> <p>・児童生徒の実態を決め、グループで役割分担をして、教材教具を工夫し、指導案を提出してください。 ・指導案は、展開部分は共通でも、「指導観(題材観、児童生徒観、教材観)」の部分を各自考えて、全員が提出してください。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】特になし。春期の教科書「キーワードブック 特別支援教育」を常に見直すこと。</p> <p>【参考書】①日本発達障害福祉連盟編『発達障害白書 2020年版』明石書店、2019年。 プリントして話題にします。 ②文部科学省『教育支援資料』 Webサイト http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm ③文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部) (平成30年3月)』開隆堂 ④文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) (平成30年3月)』開隆堂 ⑤文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部) (平成30年3月)』開隆堂 (③⑤は、「知的障害教育Ⅰ」と共通する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 各種教育計画の概要がわかり、支援を受けながら指導計画が作成できるようになったか。 2. 知的障害者を取り巻く、就学前や就労に関する医療や福祉の制度にも関心がもてたか。 3. 事例の実態把握及び対応についての基礎的知識が身に付き、指導案作成及び授業実践までのイメージを培うことができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>実際に教壇に立ったときに、教師としての計画性と柔軟性をもって実践できるかを念頭において評価する。</p> <p>1 模擬授業(発表態度、内容) 総合点の30% 2 授業での態度 総合点の20% 3 論文課題・期末試験 総合点の50% *なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>①春期の内容をふまえて講義・演習を実施しますので、春期の教科書を振り返りながら参加してください。 ②知的障害教育の教師には、人を大切にする姿勢、相手を主役として活躍させる姿勢、不測の事態に柔軟に対応する知識と技能が必要です。集団活動を組織・計画し創造する能力が特に必要です。授業だけでなく人と関わるさまざまな体験を積み、人間性豊かな教師をめざしてください。 ③授業では、障害のある子どもたちを託せるかどうかという視点で皆さんを見ています。現場に出たときの自分をイメージしながら発表や演習を行って下さい。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション/知的障害者を取り巻く世界	事前学習	「知的障害教育Ⅰ」で学んだ内容を振り返っておく
		事後学習	模擬授業を行なうための仲間作りや下調べをしておく。
第2回	特別支援教育に関する最近の動向 *外部講師(特別支援教育コーディネーター)を依頼する。	事前学習	「埼玉の特別支援教育」を読んで、疑問点を挙げておく。
		事後学習	自分の出身都道府県の「特別支援教育」にWebで調べておく。
第3回	知的障害教育における各種教育計画	事前学習	春期の教科書で、「個別の教育支援計画」、「個

			別の指導計画」を読んでおく。
		事後学習	上記計画の作成が義務化されている根拠を学習指導要領解説で確認しておく。
第4回	知的障害特別支援学校における学習指導案づくり	事前学習	春期の教科書で、「指導案作り」、「評価と記録」を読んでおく
		事後学習	グループで、模擬授業の計画を立てる
第5回	実態把握とアセスメント	事前学習	春期の教科書で、「発達検査・診断」を読んでおく
		事後学習	学習したアセスメント方法を自分でできるようになっておく。
第6回	知的障害児の発達支援と教材・教具	事前学習	春期の教科書で、「障害児教育における教材・教具」を読んでおく。
		事後学習	教材・教具をなぜ使うかについて説明できるようにしておく。
第7回	生活単元学習の実際と指導計画	事前学習	春期の教科書で、「生活単元学習」を読んでおく。
		事後学習	「生活単元学習」の模擬授業を見て気づいたことをまとめる。
第8回	日常生活の指導の実際と指導計画	事前学習	春期の教科書で、「日常生活の指導」を読んでおく。
		事後学習	日常生活の指導」の模擬授業を見て気づいたことをまとめる。
第9回	作業学習の実際と指導計画	事前学習	春期の教科書で、「作業学習」を読んでおく。
		事後学習	「作業学習」の模擬授業を見て気づいたことをまとめる。
第10回	自立活動の概念理解と指導計画	事前学習	春期の教科書で、「自立活動」を読んでおく。
		事後学習	自立活動の6区分26項目について説明できるようにしておく。
第11回	行動障害への対応	事前学習	春期の教科書や「教育支援資料」で、ASDやADHDに関する部分を読んでおく。
		事後学習	ADHDやASDの行動障害への対応のポイントをまとめておく
第12回	交流及び共同学習	事前学習	春期の教科書で、「交流及び共同学習」を読んでおく。
		事後学習	「交流及び共同学習」の法的根拠や、「副籍制度」、「支援籍制度」について説明できるようにしておく。
第13回	キャリア教育と就労支援	事前学習	春期の教科書で、「キャリア教育・進路指導」「障害者のライフステージと教育・福祉」を読んでおく。
		事後学習	「キャリア教育」とは何か、理念や法的根拠について説明できるようにしておく。
第14回	学校組織における危機管理	事前学習	特別支援学校で起こる「危機」とは何か、考えておく。
		事後学習	「通常の危機」と「災害時の危機」について教師の役割を考えておく。
第15回	知的障害教育の教育課題 (まとめ)	事前学習	配布されたプリントについて、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	提示された試験のポイントを再確認しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	GECM1314 GECM1324
2. 授業担当教員	秋谷 幸治		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	中国の文化と言語Ⅰの単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	「中国の文化と言語Ⅰ」の学習を基礎に、中国の人びとの暮らし、伝統文化、風俗習慣を盛り込んだ教材を精読する。簡単な日常会話と文型を学び、生きた中国語会話の体験学習を必要に応じ適宜おこなう場合もある。例えば、ビデオを用いて、中国の大学生活や庶民の暮らしを紹介するなどはその一例である。これらを通して、日本に身を置くわたしたちの暮らしや考え方と比べてみる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができるようになる。 2. 中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できる。 3. 中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができる。 4. 3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	【宿題】 授業前にテキストの例文を7回以上音読練習しておいてください。 【レポート課題】 日本に伝わった中国の食文化について各自レポートし、15回目に提出してください。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 最新版 塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』白水社 2015。 ※中国の文化・風俗習慣については、プリントを配付して学習します。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (学習目標) <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができたか。 2. 中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できたか。 3. 中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができたか。 4. 3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができたか。 ○評定の方法 事前学習・事後学習の状況も含め、授業への参加度、小テスト、レポート等を総合して評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的な参加 総合点の30% 2. 小テスト 総合点の40% 3. 課題レポート 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	語学を修得するには、とにかく声を出すことが大切です。授業では間違いを恐れず、大きな声で発音するように心がけよう。理解できなかったことや質問があったら、遠慮なく来て下さい。		
13. オフィスアワー	授業終了後、教員控え室に来て下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	中国語について知ろう 中国で使われる漢字 (簡体字と繁体字)、発音表記の仕方 (ピンイン) などについて復習します。	事前学習	シラバスをよく読んでおく。
		事後学習	授業内で配布したプリント「中国語とは？」を繰り返し読み直しておく。
第2回	発音の復習① 単母音・子音・声調の復習 【中国の生活を知ろう】中国の学校制度	事前学習	テキスト pp. 6～9 を繰り返し読んでおく。
		事後学習	自分の名前を中国語で10回以上音読しよう。
第3回	発音の復習② 複母音・鼻母音・軽声の復習	事前学習	テキスト pp. 6～9 を繰り返し読んでおく。
		事後学習	自分の名前を中国語で10回以上音読しよう。
第4回	どこにありますか 場所指示代名詞などの使い方について練習します。【中国の生活を知ろう】中国の交通事情	事前学習	テキスト pp. 28～29 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。
		事後学習	テキスト p. 28 の会話文を7回以上音読練習する。
第5回	何がありますか 動詞“有”などの使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp. 32～33 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。
		事後学習	テキスト p. 32 の会話文を7回以上音読練習する。
第6回	第1～5回の総復習、小テスト	事前学習	テキスト pp. 28～33 を読み直し、小テストに向けて総復習しておく。
		事後学習	小テストで答えられなかった部分を復習しておく。
第7回	ホテルにチェックイン 完了を表す“了”などの使い方について練習します。【中国の生活を知ろう】中国の住宅事情	事前学習	テキスト pp. 36～37 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。
		事後学習	テキスト p. 36 の会話文を7回以上音読練習する。
第8回	何時に行きますか 経験を表す“過”などの使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp. 40～41 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。
		事後学習	テキスト p. 40 の会話文を7回以上音読練習する。
第9回	タクシーに乗る 前置詞“從”、“到”などの使い方について練習します。【中国の生活を知ろう】中国の若者文化	事前学習	テキスト pp. 44～45 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。
		事後学習	テキスト p. 44 の会話文を7回以上音読練習する。
第10回	試着と支払い 助動詞“可以”などの使い方について練習しま	事前学習	テキスト pp. 48～49 をしっかり読み、新たな文法事項を捉えておく。

	す。	事後学習	テキスト p. 48 の会話文を7回以上音読練習する。
第11回	第7～10回の総復習、小テスト	事前学習	テキスト pp. 36～49 を読み直し、小テストに向けて総復習しておく。
		事後学習	小テストで答えられなかった部分を復習しておく。
第12回	中国映画を見よう	事前学習	付属CDを使ってリスニングの練習しておく。
		事後学習	聞き取れた言葉をまとめてみよう。
第13回	中国の食文化を学ぼう①（グループ学習） 【日本に伝わる中国の食文化—麺類】	事前学習	事前に配布した「中国の食文化を学ぼう！」のNo.1のプリントをよく読んでおくこと。
		事後学習	中国から伝わった麺類にどのようなものがあるのか、自分で調べてみよう。
第14回	中国の食文化を学ぼう②（グループ学習） 【日本に伝わる中国の食文化—お菓子】	事前学習	事前に配布した「中国の食文化を学ぼう！」のNo.2のプリントをよく読んでおくこと。
		事後学習	中国から伝わったお菓子にどのようなものがあるのか、自分で調べてみよう。
第15回	中国の食文化を学ぼう③（グループ学習） 【日本に伝わる中国の食文化—お茶】 課題提出	事前学習	事前に配布した「中国の食文化を学ぼう！」のNo.3のプリントをよく読んでおくこと。
		事後学習	中国から伝わったお茶にどのようなものがあるのか、自分で調べてみよう。

1. 科目名 (単位数)	聴覚障害者の言語障害指導 (2単位)	3. 科目番号	SSMP3458 SCMP3458 SBMP3458 SNMP3458						
2. 授業担当教員	須藤 典征								
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>言語の獲得には聴覚の機能が大きく作用する。聴覚の障害があると言語能力の獲得に問題が生ずるのである。言語習得の過程では、聴覚障害を補う補助手段を導入して言語理解・言語表出を支援していくことが必要である。言語理解のためには補聴器などによる聴覚補償のほか、他の感覚経路を利用した口話や手話などの手段を用いる。言語表出のためには発話練習や機器を利用した発話訓練などが行われている。音声言語を媒体にしたコミュニケーションだけではなく、文字など視覚的な情報を有効に利用してコミュニケーション能力を高めていく指導が必要である。生活年齢や発達段階に応じたコミュニケーション支援に向けた取り組み(同時法、口話法、聴覚口話法、キュードスピーチ、トータルコミュニケーション、バイリンガルアプローチ、指文字、手話の使用など)についても検討していく。語彙の獲得・文能力の増進・他者との交流能力の促進も視野に入れるとともに、家庭・学校における対応にも配慮が必要である。このような観点について、乳幼児期・学齢期・青年期/成人期・熟年期それぞれの時期の言語指導について学ぶ。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 聴覚の機能および聴覚の発達に伴う言語発達について知る。 2) 聴覚の障害に伴って生じる言語の障害について、基礎的から発展的に学習する。 3) 聴覚障害の補償について学ぶ。 4) 聴覚障害乳児、幼児、学童、青年、成人に対する支援の実情を学ぶ。 5) コミュニケーションが重要となる聴覚障害者の社会生活について理解する。 								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	聴覚障害の検査法についてのレポート(1000~1200字)								
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】使用しない。講義中適切な資料を配布する。受講生はファイリングを確実にすること。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害者の病理・心理・発達特性について、基礎的知識を身に付けたか。 2. 聴覚障害者への適切な教育について基礎的知識を身に付けたか。 3. 主体的な発言・取組をし、協調性を発揮して授業に参加できたか <p>○評定の方法</p> <p>以下を総合的に検討し、判断する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>総合点の30%</td> </tr> </table> <p>*なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。</p>			1 授業への積極的参加	総合点の50%	2 レポート	総合点の20%	3 期末試験	総合点の30%
1 授業への積極的参加	総合点の50%								
2 レポート	総合点の20%								
3 期末試験	総合点の30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>聴覚は言語獲得や周囲の状況判断にとって非常に重要な機能を担っています。聴覚障害の場合、どのような困難に会うのかをリアリティを持って、洞察・理解をしてほしいと考えています。また、加齢による聴力障害者は増加しているので、聴力障害についての知識は実生活上役立つと思います。加えて、聴覚障害を補償するための方策についても広く理解すれば、様々な障害の克服の方策についても理解が深まるでしょう。</p>								
13. オフィスアワー	講義開始前後の休憩時間								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	聴覚の機能(聴器の構造、聴くということはどういうことか) 1 耳介から中耳まで	事前学習	耳の構造をネットや書籍で調べておく。						
		事後学習	耳の構造を確実に覚える。						
第2回	聴覚の機能(聴器の構造、聴くということはどういうことか) 2 中耳から内耳まで	事前学習	難聴の種類について調べておく。						
		事後学習	難聴の種類を確実に覚える。						
第3回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害(その種類、障害の程度) 1 伝音系のケース	事前学習	チームを結成してラポールを作っておく。						
		事後学習	疑似体験の感想をまとめる。						
第4回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害(その種類、障害の程度) 2 感音系のケース	事前学習	チーム内で会話をする内容を決めておく。						
		事後学習	どの会話が聞き取りにくいかとまとめる。						
第5回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害(その種類、障害の程度) 3 混合型のケース	事前学習	聞き取りにくい内容を確認しておく。						
		事後学習	疑似体験の総合的感想をまとめる。						
第6回	聴覚障害の補償(補聴器、視覚的情報の利用)	事前学習	補聴器や人工内耳について調べておく。						
		事後学習	補聴器や人工内耳について覚える。						
第7回	聴覚障害とコミュニケーション 1	事前学習	どんなコミュニケーションがあるか調べておく。						
		事後学習	多様なコミュニケーションを確認する。						
第8回	聴覚障害とコミュニケーション(口話法) 2	事前学習	口話法について調べておく。						
		事後学習	口話法について確認しておく。						
第9回	聴覚障害とコミュニケーション(手話) 3	事前学習	手話について調べておく。						
		事後学習	手話について確認しておく。						

第10回	聴覚障害とコミュニケーション（トータルコミュニケーション）4	事前学習	トータルコミュニケーションについて調べる。
		事後学習	トータルコミュニケーションについて確認する。
第11回	聴覚特別支援学校の教育課程	事前学習	聴覚特別支援学校の教育課程について調べておく。
		事後学習	聴覚特別支援学校の教育課程について確認しておく。
第12回	聴覚特別支援学校における教育	事前学習	教育相談について調べておく。
		事後学習	教育相談について確認しておく。
第13回	日本の聴覚障害児に対する保育・教育	事前学習	幼稚園設立の経緯について調べておく。
		事後学習	幼稚園教育要領と留意点
第14回	聴覚障害者の社会生活上の問題	事前学習	聴覚障害者の裁判事例を調べる。
		事後学習	裁判事例をまとめる。
第15回	聴覚障害児の学力と授業	事前学習	どのような教科指導が難しいか考えておく。
		事後学習	全般的な留意点についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	重複障害・LD等教育総論 (2単位)		3. 科目番号	SNMP3454 SCMP3454 SBMP3454 SSMP3454 SSMP3354
2. 授業担当教員	上田 征三			
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば当事者または保護者による講話の機会を設ける。また重複障害については補講期間に関連施設の見学会なども予定している。	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「障害児教育論」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	2012年の調査で改めて発達障害傾向の児童生徒が全体の6.5%存在する、と明らかになった。その存在が年々クローズアップされる発達障害児だが、普通教育においては理解がなかなか進まない。また特別支援学校にもこの傾向がある児童生徒が増えつつあり、学校の枠を超えて発達障害児への対応が重視されている。発達障害に関わる基礎知識から指導技術までを網羅し、学校現場で彼らをどう支援し、その特性を伸ばしていくか、について実際のケースに触れながら具体的に指導していく。また障害の重度化・多様化が進む中で様々な障害を併せ持つ児童生徒も急増している。併せて重複障害についても説明していきたい。またスライドや画像、動画、独自の資料を多用し、グループディスカッションも活用する。本講座では、重度・重複障害、LD等発達障害の特性を学び、個に応じた発達支援が行える指導実践力を兼ね備えた教員をめざす。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害、重複障害について理解し、簡潔に述べることができる。 2. 学習障害(LD)の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 3. 注意欠陥多動性障害(ADHD)の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 4. 高機能自閉症、アスペルガー障害の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 5. 発達障害のある児童生徒へのコミュニケーション支援のあり方を学ぶ。 6. 発達障害のある児童生徒に対する教育の特質について理解し、説明することができる。 7. 特別支援学校現場における重度・重複障害児への対応について理解し、説明することができる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容に沿った小テストを13回実施(到達度評価)する。 2. 到達度に至るまで小テストを実施し、未達成者にはレポート(手書き)を課す。 3. 小テストや配付プリントが閉じられるようなノート兼用のバインダーを必ず準備する。 4. 予習時、授業時、復習時でアンダーラインを引き書き込みをするペンの色を使い分ける事を勧める。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 杉野学編著『特別支援教育概論』大学図書出版、2019。 【参考書】 杉野学・上田征三編著『初めて学ぶ知的障害児の理解と指導』大学図書出版、2020。 石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編著『よくわかる障害児教育』(第3版)ミネルヴァ書房、2013。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害、重複障害に関する特性を理解し、支援の在り方を説明できるか。 2. 発達障害、重複障害児に対する指導実践力がついたか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。] <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加(総合点の30%) 2 日常の学習状況(総合点の40%) 3 課題レポート(総合点の30%) 			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に携帯、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 2. 教室を散らかしたり机を汚したりしないこと。 3. マナーを守り、大学生としての学習体制を確立すること。 			
13. オフィスアワー	授業以外の時間(予約をお願いすることもある)※月曜日は都合が付きやすい。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション&発達障害について —その定義、法制度、課題等—	事前学習	当日配布する資料をよく読み、発達障害の主な種類について知り、答えることができるようにノートにまとめる。	
		事後学習	発達障害の全般的な情報について授業中に配布した穴埋め問題をやり直し再確認しノートにまとめる。	
第2回	発達障害総論 —発達障害の基本的共通事項—	事前学習	前時に配布するスライド資料を読みICFと発達障害の関係について知り、理解し、その要約をノートにまとめる。	
		事後学習	各種の発達障害に共通する情報について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。	
第3回	発達障害の原因、診断、治療等について —脳科学と医療的理解から—	事前学習	脳科学的見地から見る発達障害について資料を事前に配布するので、発生要因などについて読んで理解し、その要約をノートにまとめる。	
		事後学習	脳科学について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。	
第4回	LDの特徴とその支援 —障害特性と指導方法について—	事前学習	学習障害の六つの定義について資料を事前に配布するので、よく読んで理解し、その要約をノートにまとめ口頭で言えるようにしておく。	
		事後学習	LDについて授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。	

第5回	ADHDの特徴とその支援 —障害特性と指導方法について—	事前学習	ADHDの診断基準について資料を事前に配布するので、その要約をノートにまとめ口頭で簡単に説明できるようにしておく。
		事後学習	ADHDについて授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。
第6回	高機能自閉症の特徴とその支援 —障害特性と指導方法について—	事前学習	高機能自閉症について一般的に言われる「自閉症」との差異について資料を事前に配布するので、よく読んで、その要約をノートにまとめ説明できるようにする。
		事後学習	高機能自閉症について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。
第7回	アスペルガー障害の特徴とその支援 —障害特性と指導方法について—	事前学習	アスペルガー障害と自閉症との差異について資料を事前に配布するので、読んで、その要約をノートにまとめ説明できるようにしておく。
		事後学習	アスペルガー障害と自閉症との差異について再確認しノートにまとめる。
第8回	発達障害がある子どものアセスメントについて—心理検査の種類と内容—	事前学習	アスペルガー障害について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認し、その要約をノートにまとめ確実に覚えておく。
		事後学習	「グレーゾーン」とは何かについて資料を事前に配布するので、読んでノートにまとめ説明できるようにしておく。
第9回	発達障害がある子供のコミュニケーションについて—人間関係づくり指導の基本—	事前学習	「グレーゾーン」と呼ばれるものについて授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。
		事後学習	前時に配布するスライド資料を読み、どのようなコミュニケーション方法があるか、ノートにまとめる。
第10回	発達障害がある子どもの保護者対応—保護者・家庭を支える—	事前学習	様々なコミュニケーション方法について授業中に実施した小テストをやり直し次時に提出する。
		事後学習	前時に配布する資料を読み発達障害がある子どもの特性に応じた指導の仕方、また、保護者の思いなどについて知り理解しノートにまとめる。
第11回	学校教育現場における諸課題—理解が進まない普通学校の課題—	事前学習	保護者の悩みについて授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	前時に配布するスライド資料を読み発達障害がある子どもへの理解が進まない普通学校の現状について知り、課題がどこにあるのかについて自らの考えを持つことができるようにしノートにまとめる。
第12回	重度・重複障害児の理解—その定義と実態について—	事前学習	発達障害児が小中学校等で理解されづらい点について授業中に実施した小テストをやり直ししながら確実に理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	前時に重複・障害児に関する資料を配布するので、定義や実態について説明できるよう熟読しノートにまとめる。
第13回	重度・重複障害児の学校教育—重度・重複障害児の教育課程—	事前学習	重度・重複障害児について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	前時に重複・障害児の教育課程に関する資料を配布するので、その内容や目的について説明できるよう熟読しノートにまとめる。
第14回	重度・重複障害に関する施設の理解	事前学習	重度・重複障害児の教育をうける意義について授業中に実施した小テストをやり直ししながら確実に理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重度・重複障害に関する施設の資料を読みノートにまとめる。
第15回	最新の教育事情について—合理的配慮・ユニバーサル教育等—	事前学習	これまでの内容をノートにまとめる。
		事後学習	前時に配布するスライド資料を読み、現代の特別支援教育事情について理解するとともに、これからの発達障害児教育に何が必要かをノートに整理し語れるようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	データベース演習Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	EDIT3314
2. 授業担当教員	ロベス ルイス ミゲル		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「データベース演習Ⅰ」を履修済みでない、本科目の内容を理解することは非常に難しいと思われる。また、科目「コンピュータサイエンスⅡ」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	本科目では、演習を通して「データベース演習Ⅰ」で習った、リレーションのキー、データモデルなどの概念に関する理解を深める。また、データベース管理システムソフトの進んだ機能に触れる。ソフトの使用にウェイトが置かれた授業である。		
8. 学習目標	ユーザのニーズの分析から最終的にできあがったデータベースの管理まで、データベースの構築の各ステップを更によく理解する。また、リレーショナルデータベースの言語である、SQL言語の知識をさらに深める。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	IT系の科目では、スキルを身につけるのは一番大切なことですので、3回に1回程度、今まで勉強した内容について教科書や配布プリントをもって演習問題を提示し、それを授業中に解く (例: 既存DBの正規化、設計ソフトを使ってDBを設計し実装のSQLクエリを生成、ExcelのデータからDBを組む、SQLクエリを実行(復習)、DBの外部設計を行う (Access VBAを使う))		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 増永良文『リレーショナルデータベース入門 第3版(2017年)』サイエンス社、2017年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ①データベースの構築の各ステップを更によく理解することができたか。 ②リレーショナルデータベースの言語である、SQL言語の知識をさらに深めることができたか。 ○評定の方法 1. 授業ごとに提出されるレポート、小テスト、課題提出状況など 70% 2. 授業への積極的参加と受講態度 30%		
12. 受講生へのメッセージ	習問題に真剣に取り組んでください。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	データベースの基礎概念の復習・市販のデータベース管理システム	事前学習	教科書 pp. 27~33 を読んでおく
		事後学習	配布プリントを熟読
第2回	リレーションのカーディナリティとパーティシペーション	事前学習	教科書 pp. 11~17 を読んでおく
		事後学習	特に教科書 p. 12 「濃度」 (cardinality) を理解
第3回	リレーショナルデータ正規化について・演習、第1~第3正規形	事前学習	教科書 pp. 77~78 を読む
		事後学習	第1~第3正規型をよく理解する
第4回	リレーショナルデータ正規化について (2)・演習、BCNF 以上の正規形	事前学習	教科書 p. 88~91 関数従属性をよく理解する
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く
第5回	データベースの設計・演習	事前学習	IDEFIX について調べる
		事後学習	ソフト DBDesigner4 を使う
第6回	既存データからデータベース構築の例 (1)・演習、テキスト形式から表計算形式へ	事前学習	Excel の基礎を復習する
		事後学習	今回提示した演習問題を解くときに使った操作を覚える
第7回	既存データからデータベース構築の例 (2)・演習、表計算形式から DB 形式へ	事前学習	Access の基礎を学習する
		事後学習	今回提示した演習問題を解くときに使った操作を覚える
第8回	SQL の復習 (1)・演習、単純問い合わせ	事前学習	教科書 pp. 131~141 を読む (SQL)
		事後学習	Access で組んだ SQL クエリを復習する
第9回	SQL の復習 (2)・演習、結合を使った、複雑な問い合わせ	事前学習	教科書 pp. 142~144 を読む (結合)
		事後学習	Access で組んだ SQL クエリを復習する
第10回	ユーザインターフェース (外部設計)・フォームとレポート	事前学習	Access のフォームを学習する
		事後学習	今回提示した演習問題をもとにいくつかの新しいフォームを作成
第11回	データベースプログラミング (1)・演習、一般的なフォームの作成	事前学習	Access VBA の基礎を学習する
		事後学習	今回提示した演習問題を復習
第12回	データベースプログラミング (2)・演習、コードを含んだフォームの作成	事前学習	前回プリントで配布した VBA プログラムを記入し保存しておく
		事後学習	今回提示した演習問題を復習
第13回	データベースプログラミング (3)・課題 (画像表示)	事前学習	前回プリント配布した VBA プログラムを記入し保存しておく
		事後学習	今回提示した演習問題を復習
第14回	オブジェクト指向データベース・最新のデータベース・まとめ	事前学習	ソフト DBDesigner4 の使用方法復習
		事後学習	今回提示した演習問題を復習
第15回	総合演習	事前学習	前回提示した演習問題を復習
		事後学習	「NoSQL」について調べて (定義は教科書 pp. 368~369)、その概念を説明できるようにする

1. 科目名 (単位数)	哲学 (2単位)		3. 科目番号	GELA1319 GELA1340
2. 授業担当教員	篠 大輔			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	われわれ人間は、事実的な文脈(「～である」)と価値的な文脈(「～すべき/よい/悪い」)とが交差しながら織り成す毎日の中で生きている。大雑把に言えば、「科学」を志向するさまざまな学問分野は、前者(事実)を明らかにすることを目指しており、他方、後者(価値)をその研究対象に据えているのが、倫理学や本講義で学ぶ哲学である。 本講義では、哲学者たちが取り組んできたテーマについて、日常生活とのつながりを意識しながら学んでいく。しかし、もっとも大切なことは、哲学者たちの考えた内容そのものを覚えることではなく、その思考の軌跡を追体験することによって、受講者自身が各自の思考力を鍛えていくことである。			
8. 学習目標	1 哲学の基礎的な用語や哲学の歴史について理解する。 2 哲学に関する諸問題に対して、授業で学習した哲学的思索を参考に自らの意見を考えることができる。 3 ディスカッションを通して、人の意見をよく聞き、自分の意見を人に分かりやすく伝えることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. ミニレポート・ワークシート(各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 期末レポート			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山竹伸二『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる哲学』日本実業出版社、2011。 【参考書】 田中正人『哲学用語図鑑』プレジデント社、2015。 貫成人『哲学マップ』ちくま新書、2004。			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 ・哲学の基礎的な用語や哲学の歴史について理解しているか。 ・哲学に関する諸問題に対して、授業で学習した哲学的思索を参考に自らの意見を考えることができたか。 ○評定の方法 ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題(中間レポート・ワークシート等) 30% ・期末評価(レポート・試験等) 40%			
12. 受講生への メッセージ	1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 2. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 4. レポートや課題の提出期限を守ってください。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション/ 哲学とはなにか? (第1章) - 哲学の主要な問い -	事前学習	教科書の「はじめに」「第1章」を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第2回	世界とはなにか? (第2章) - 初期ギリシア哲学・ソクラテス -	事前学習	教科書(pp. 38~51)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第3回	世界とはなにか? (第2章) - プラトン・アリストテレス -	事前学習	教科書(pp. 52~58)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第4回	世界は認識できるのか? (第3章) - 大陸合理論とイギリス経験論 -	事前学習	教科書(pp. 60~78)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第5回	世界は認識できるのか? (第3章) - カントの理性批判 -	事前学習	教科書(pp. 79~89)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第6回	世界は認識できるのか? (第3章) - ヘーゲルの精神現象学 -	事前学習	教科書(pp. 90~100)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	

第7回	真理はあるのか？（第4章） - フッサールの現象学 -	事前学習	教科書（pp. 102～115）を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第8回	真理はあるのか？（第4章） - フランクフルト学派・ワイトゲンシュタイン -	事前学習	教科書（pp. 116～138）を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第9回	私とはなにか？（第5章） - キルケゴール、・ニーチェ -	事前学習	教科書（pp. 140～151）を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第10回	私とはなにか？（第5章） - ハイデガー -	事前学習	教科書（pp. 152～160）を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第11回	社会とはなにか？（第6章） - サルトル・マルクス -	事前学習	教科書（pp. 161～166）を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第12回	社会とはなにか？（第6章） - 構造主義 -	事前学習	教科書（pp. 199～208）を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第13回	社会とはなにか？（第6章） - ポスト構造主義 -	事前学習	教科書（pp. 208～213）を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第14回	これまでの議論を踏まえてレポート課題に取り組む	事前学習	これまで取り上げたテーマやディスカッションの内容を復習し、自らの意見を考えておく。
		事後学習	ディスカッションの中で明らかとなってきた自分自身の考え方・ものの見方について分析し、まとめる。
第15回	まとめ - これまでの議論を振り返って	事前学習	これまでの議論について振り返っておく。
		事後学習	この授業で学んだことを今後、受講する授業で活用する。

1. 科目名(単位数)	道徳の指導法(初等)(2単位)	3. 科目番号	EDTE3307
2. 授業担当教員	石川 勉		EDTE3308
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校は、子ども達の豊かな人格形成をしていく場である。その中核を担う道徳教育では、人間として、また社会の一員として主体的に生きるための基礎となる資質や能力である、豊かな道徳性の育成を図ることを目標としている。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育の必要性はより高まっている。本科目では、小学校学習指導要領を中心に道徳教育のあり方について学び、道徳教育の目標や内容について理解を深める。また道徳教育の歴史の変遷を学び、現在の道徳教育の内容、子どもの道徳性の発達特性に即した指導計画について検討する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学習し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。その中で教科化に伴い、「読む道徳」から「考える道徳」へ、「教える道徳」から「議論する道徳」への授業の転換が求められており、新たな指導法についても学習していく。これらの学習内容を踏まえた上で、現在の道徳教育が抱える課題やについて考察していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の歴史的経緯を踏まえ、現在の道徳教育の目標や内容について理解し、説明することができる。 2. 子どもの道徳性の発達理論について正しく理解し、発達段階に応じた道徳教育を行う指導力を養う。 3. 道徳教育の全体計画、年間指導計画を理解し、学習指導案を作成する能力を身に付ける。 4. 道徳教育の授業理論を理解し、特別の教科「道徳」で求められている実践的な指導力を身に付ける。 5. 道徳教育の課題と展望について学び、道徳教育に対する自らの考えを深め、説明することができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>アサイメントは毎週課す。基本的には、次回の講義内容にかかわるテキストを精読し概要を把握すること。そして、授業内容について自分の考えや意見をまとめること。加えて、4回のレポートを課す。学級における道徳の指導計画(1回)と道徳科学習指導案(3回)を完成すること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』廣済堂あかつき 2018年。</p> <p>【参考資料】 田沼茂紀『道徳科で育む21世紀型道徳力』北樹出版 2016年 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 生徒指導提要(平成22年3月告示 文部科学省)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の歴史的経緯を踏まえ、学習指導要領における道徳教育の目標や内容について理解し、現代における道徳教育の意義について自らの考えを深めることができたか。 ・子どもの道徳性の発達理論について正しく理解し、発達段階に応じた道徳教育の指導法について理解できたか。 ・様々な道徳教育の授業方法について学び、学習指導案を立案し、道徳の授業を実践することのできる力を身につけることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 20% ・課題(中間レポート・小テスト・ワークシート等) 40% ・期末評価(レポート・試験等) 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教職として必須な科目であり、道徳教育の実際について具体的に踏み込んでいく授業となる。道徳教育は全教育活動を通じて行うものであり、教科教育を基底で支える教育活動でもあるので、積極的な授業参加を心がけてほしいと期待している。平成30年度から道徳が特別の教科(小学校 中学校31年度より)となった。教育の目的が「人格の完成」ならば、まさに、道徳は教育の中心的な存在である。本講座は道徳教育について学ぶとともに、自分の生き方についても、しっかりと考える時間にして欲しい。</p>		
13. オフィスアワー	初回講義の際に連絡先・連絡方法を伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション-道徳教育について考える-(第1部第1章)	事前学習	これまで受けてきた道徳の授業について振り返る。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第2回	道徳性とは何か・道徳の目標(第1部第2章・3章)	事前学習	教科書(pp.20~39)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことを

			ノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第3回	道徳性の発達理論 (第1部第4章)	事前学習	教科書(pp.40~49)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	道徳性の発達理論に基づく道徳教育 (第1部第5章)	事前学習	教科書(pp.50~59)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第5回	日本における道徳教育の歴史 (第1部第6章)	事前学習	教科書(pp.60~71)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第6回	道徳教育の計画・道徳科の基本方針 (第2部第1章・2章)	事前学習	教科書(pp.86~111)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第7回	道徳科の学習指導の展開・道徳教材の活用 (第2部第3章・4章)	事前学習	教科書(pp.112~133)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第8回	道徳科における問題解決的な学習 (第2部第5章)	事前学習	教科書(pp.134~143)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第9回	道徳科における体験的な学習 (第2部第6章)	事前学習	教科書(pp.144~153)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第10回	道徳科の多様な授業展開例 (第2部第7章)	事前学習	教科書(pp.154~168)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第11回	教師に求められる道徳的指導力とは (第2部第8章)	事前学習	教科書(pp.170~179)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第12回	道徳の評価(第2部第9章)	事前学習	教科書(pp.180~189)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第13回	小学校低学年の道徳科模擬授業	事前学習	模擬授業に必要な資料を揃え、イメージトレーニングしておく。
		事後学習	模擬授業の振り返りシートを作成し、模擬授業の反省をする。
第14回	小学校中学年の道徳科模擬授業	事前学習	模擬授業に必要な資料を揃え、イメージトレーニングしておく。

			ングしておく。
		事後学習	模擬授業の振り返りシートを作成し、模擬授業の反省をする。
第15回	小学校高学年の道徳科模擬授業	事前学習	模擬授業に必要な資料を揃え、イメージトレーニングしておく。
		事後学習	この授業を踏まえて、教師になった際にどのような道徳の授業を行うのかについて考えをまとめる。
期末試験			

1 科目名(単位数)	特別活動の指導法(中等) (2単位)	3 科目番号	SSMP2346 SNMP2346 SCMP2346 SBMP2346 SPMP2346 EDTS2307
2 授業担当教員	安次嶺 隆幸		
4 授業形態	講義、演習(グループワーク含む)	5 開講学期	秋期
6 履修条件・他科目との関係	「教育方法論」を履修していることが望ましい。		
7 講義概要	<p>◇ 特別活動は、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防的な役割を果たすなど、生徒の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につける。</p> <p>◇ 特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、体験的な学びを重視し、学級活動・ホームルーム活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。</p> <p>◇ 演習内容は、「学級活動・ホームルーム活動」を中心にその授業力・指導力を育成するものとする。学級活動・ホームルーム活動を中心に演習を展開する理由は、学級活動・ホームルーム活動が特別活動の中核であり、集団成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、人間としての生き方に関する指導を行う中心的な場であるとともに、生徒指導の全機能が補充・深化・統合される場として重要であるからである。また、教科書もなく学級担任としての力量が学級担任になると即刻問われるからである。</p>		
8 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の目標や内容、特質と教育課程における位置づけについて理解し、教育課程全体を意識して計画や指導を行うことができるようになる。 2. 特別活動における評価・改善活動の重要性を理解し、適切な評価・改善活動を実践できるようになる。 3. 特別活動の中核となる「学級活動・ホームルーム活動」について、その特質を理解した上で、指導案(展開案)を作成し、合意形成に向けた話し合い活動を指導できるようになる。 4. 特別活動における家庭、地域等との連携のあり方について理解し、指導に活かせるようになる。 		
9 アサイメント(宿題)及びレポート課題	★ノート指定 ツバメノート A4 品番 A5008 JAN: 4968796311105 一冊を準備しておくこと。毎回これを出席、課題レポートに使用します。毎回プリント課題を配布しますので、このノートに貼り、授業後に提出します。		
10 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>◇中学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>◇「将棋を指す子が伸びる理由」(小学館クリエイティブ) 安次嶺隆幸著</p> <p>【参考書】</p> <p>生徒指導提要(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>教養としての将棋(講談社現代新書) 羽生善治・梅原猛・尾本恵一・安次嶺隆幸 共著</p>		
11 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の目標や内容、特徴を踏まえて指導計画をつくることができる。 2. 指導計画をもとに適切な授業を行うことができる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極性(発言・模擬授業の実施等) 総合点の20% 2. 日常の学習状況(出席・提出物) 総合点の30% 3. 課題レポート(中間・期末) 総合点の50% 		
12 受講生へのメッセージ	<p>★特別活動における、将棋の教育的意義の考察Ⅱ(秋期)</p> <p>この授業、演習では「将棋」を取り上げます。特別活動の指導法の一つとして実践していく中で、子ども達の現状、課題を見だしていきます。また、毎回場面指導を行い、ディスカッションをして教育に携わる専門性を学んでいきます。特別活動に関する理論と実践を踏まえながら、学級作り、対人関係、コミュニケーションツールとしても注目されている「将棋の教育的意義」を学んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が授業で得た知見を実生活に活かせるよう、授業内容・方法を工夫します。 ・毎時間、明確な学習目標を設定し、これに達成するための課題を用意します。 ・教員と受講生、および受講生間のコミュニケーションを促進します。 ・小さな課題を積み重ねることによって、問題意識を深められるような工夫をします。 ・受講者は、毎時レポート(感想)を提出し・努力が正当に評価されるように、公正な成績評価を行います。 <p>★授業の約束</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 座席は指定とする。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源は切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。(遅れた場合は減点です) 5 予習をするとともに、教育や特別活動に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。 6 教員を目指す大学生としての自覚と覚悟をもち、その品位を保つこと。 <p>★メッセージ</p> <p>将棋の歴史を紐解き、学び、実践していくことで、建学の精神にある、理論的・科学的思考力、実践的能力を統合し、柔軟な思考力を養い、問題発見・解決能力のある教職の資質を身につけ、同時に将棋から学ぶことで受講自身が相手の気持ちを察する力が身につきます。</p> <p>まとめとしてプロ棋士の考え方、将棋から学んできたことを、「学級活動・ホームルーム活動」について、授業を展開する指導案(展開案)を作成、グループ発表する。将棋というツールが内包している様々な教育的意義を知り、自分の教育観を積み重ねて、実生活でも生きる力へと繋げてほしい。</p>		
13 オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・ポストイットの座席に座る→座席指定(毎回席替え:前回の出席感想カードの席に座る)・班分け・シラバス配付・ノート指定・講義概要・学習目標・アサイメント・教科書・評価・メッセージ等 場面指導・初の保護者会・空気のドーナツ・教室は間違える所など 「特別活動とは一特別活動の位置づけと目標について考える」 ・特別活動の教育課程内での位置づけと目標について理解する。 演習:将棋遊び①	事前学習	・学習指導要領解説 特別活動編を概観し、自分なりに特徴をおさえる。
		事後学習	・特別活動の特徴について、事前学習で自分なりにおさえた特徴に追記、修正を行う。 ・教科書「将棋を指す子が伸びる理由」を読んでくる。 毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第2回	場面指導について:中一ギャップ 「特別活動とは一特別活動の内容と特質について考える」 ・特別活動の全体構成、各内容の概要について理解するとともに、その特質について考える。 演習:将棋遊び②	事前学習	・学習指導要領解説 特別活動編の内容に関わる箇所を読み、学習指導要領上で示されている内容を理解しておく。
		事後学習	・特別活動の特質についてまとめるとともに、各内容をきちんと住み分けられるようにする。 ・教科書「将棋を指す子が伸びる理由」を読んでくる。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第3回	場面指導:学級活動の6つの学習過程 「学級活動・ホームルーム活動—学級活動及びホームルーム活動の内容を理解する—」 ・学級活動及びホームルーム活動の目標と内容(共通事項・係活動と集会活動)、活動形態等について理解する。 演習:将棋遊び③	事前学習	・学習指導要領解説 特別活動編の学級活動・ホームルーム活動に関わる箇所を読み、学級活動・ホームルーム活動での課題について自分の意見をまとめる。
		事後学習	・話し合い活動の共通事項(1)と(2)、係活動、集会活動の違いについてまとめる。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第4回	場面指導:学級活動2日目 「学級活動・ホームルーム活動の具体的な取り組み—話し合い活動の計画—」 ・話し合い活動の年間指導計画と一単位時間の指導計画を立てる。 演習:将棋遊び④	事前学習	・どのような話し合い活動が実際に行われているのか、自身の体験や調べ学習からまとめておく。
		事後学習	・年間指導計画と一単位時間の指導計画を考える。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第5回	場面指導:掃除の時間 「学級活動・ホームルーム活動の具体的な取り組み—話し合い活動の実践:共通事項(1)—」 ・話し合い活動の模擬実践を行い、指導方法や課題について考える。 演習:将棋遊び⑤	事前学習	・指導計画を見直し、どのような模擬実践ができる準備をしておく。
		事後学習	・模擬授業案・指導計画を修正、改善する。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第6回	場面指導:学級活動は学級経営の要 「学級活動・ホームルーム活動の具体的な取り組み—話し合い活動の実践:共通事項(2)—」 ・話し合い活動の模擬実践を行い、指導方法や課題について考える。 演習:将棋遊び⑥	事前学習	・指導計画を見直し、模擬実践ができる準備をしておく。
		事後学習	・自身が作成した指導計画を修正、改善する ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第7回	場面指導:特別活動の4つの方法原理 「学級活動・ホームルーム活動の具体的な取り組み—話し合い活動の実践:共通事項(3)—」 ・話し合い活動の模擬実践を行い、指導方法や課題について考える。 演習:将棋遊び⑦	事前学習	・指導計画を見直し、模擬実践ができる準備をしておく。
		事後学習	・自身が作成した指導計画を修正、改善するとともに、学級活動・ホームルーム活動についてまとめる。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第8回	場面指導:育てたように子は育つ 「生徒会活動の指導」 ・生徒の主体的な活動としての生徒会活動の計画及び指導について考えることで、生徒会活動の意義について理解する。 演習:将棋ミニ実践①	事前学習	・学習指導要領解説 特別活動編の生徒会活動に関わる箇所を読み、生徒会活動での課題について自分の意見をまとめる。
		事後学習	・生徒会活動の指導の留意点についてまとめる。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第9回	場面指導:学校行事「運動会のリレーの選手」 「学校行事の指導—文化的行事と健康安全・体育的行事について考える—」 ・主として運動会の種目を検討する活動を通して、文化的行事・体育的行事のあり方や指導について考える。 演習:将棋ミニ実践②	事前学習	・学習指導要領解説 特別活動編の文化的行事、健康安全体育的行事に関わる箇所を読み、指導の留意点について自分の意見をまとめる。
		事後学習	・文化的行事、健康安全・体育的行事の指導の留意点についてまとめる。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第10回	場面指導:旅行・宿泊の行事「修学旅行」 「学校行事の指導—旅行・集団宿泊の行事と勤労生産・奉仕的行事について考える—」	事前学習	・学習指導要領解説 特別活動編の旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事に関わる箇所を読み、指導の留意点について自分の意見をまとめ

2020年度

	<ul style="list-style-type: none"> ・主として集団宿泊行事の宿泊計画について、教師の視点から計画を設計することで、集団宿泊行事に必要な指導について理解する。 演習：将棋ミニ実践③		てくる。
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事の指導の留意点についてまとめる。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第11回	場面指導：儀式的行事「卒業式」 模擬授業バズ理論：グループ内模擬授業「導入」 「学校行事の指導—儀式的行事について考える—」 <ul style="list-style-type: none"> ・儀式的行事の日程及び、指導について計画を立てることで儀式的行事の意義を理解する。 演習：将棋ミニ実践④	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領解説 特別活動編の儀式的行事に関わる箇所を読み、指導の留意点について自分の意見をまとめる。
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・儀式的行事の指導の留意点についてまとめ、自身の着任挨拶を考える。 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第12回	場面指導：生き甲斐（IKIGAI） 「進路指導／キャリア教育」 <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導、キャリア教育の意義や指導の留意点について考える。 演習：将棋実践①	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「働く」ということの意義について考えてみる。
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・職業観、勤労観について整理する。 ・模擬授業の準備 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第13回	模擬授業：個が生きる特別活動の指導法① グループ内模擬授業「まとめ」 「特別活動における評価と地域連携」 <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における評価の意義やあり方について、実際の実践映像や実践資料から考察するとともに、地域連携の必要性と重要性を考える。 演習：将棋実践②	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領解説 特別活動編の評価に関わる箇所を読み、特別活動における評価のあり方について自分の意見をまとめる。
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の意義についてまとめるとともに、家庭及び地域との連携での展望を考える。 ・模擬授業の準備 ・毎回配付される「将棋の教育的意義」を読み、感想をノートに書く。
第14回	模擬授業：個が生きる特別活動の指導法② グループ内模擬授業「導入」「展開」「まとめ」 「特別活動の指導計画づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の指導計画を作成することで、特別活動全体への理解を深める。 	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの授業を振り返り、特別活動の全体指導計画の構想を考えてくる。 ・模擬授業の反省
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の全体指導計画を修正し、完成させる。
第15回	特別活動についてのまとめ 模擬授業全体発表 「特別活動の指導法の講義から、学んだこと、自分が成長したこと、これからこれをどう活かしていくか」（800字）で書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の教育的意義と諸活動の内容を理解するとともに、課題や展望について考える。 	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を振り返り、特別活動の特徴やポイントについて発表ができるようにしておく。
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の特徴やポイントについて、理解しやすいように簡潔にまとめるとともに、自身が教員になってからの展望について考える。

1. 科目名(単位数)	特別支援教育実習指導 (1単位)		3. 科目番号	SNMP3487 SCMP3487 SBMP3487 SSMP3487 SSMP3387
2. 授業担当教員	上田 征三			
4. 授業形態	講義・演習 講義による基礎理論の習得に基づき、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履習者同士の実践的な学び合いを重視します。学習指導案の作成等の講義、指導場面別の指導内容、事例研究等について、演習・グループ討議等を行う。	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「障害児教育論」の単位を取得していることが望ましい。			
7. 講義概要	本講座では、特別支援学校での教育実習を想定した実践的な内容で構成する。 1. 教師のあり方 2. 教育実習の準備・教材研究 3. 特別支援教育の児童・生徒の実態 4. 特別支援教育の現状と課題 5. 障害児の理解と接し方 6. 障害児の観察の視点 7. 人権教育について 8. 教育機器と教材の活用			
8. 学習目標	以下について学習し、教育実習に臨める力、指導実践力を高める。 ①教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えをもつ。 ②教育実習での児童、生徒の実態把握ができるようになる。 ③学習指導案の作成と教材作り等について創意工夫し、臨めるようになる。 ④研究授業に基づいた、授業改善を通し、よりよい授業を考えられるようになる。			
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	1. 授業内容に沿った小テストを約3回実施する。 2. マイクロ・ティーチング用の指導案提出(グループ)とマイクロ・ティーチング発表(グループ)する。 3. 「自立活動」指導案、教材研究を提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 上田征三・高橋実・今中博章編著『基礎から学ぶ特別支援教育の授業づくりと生活の指導』ミネルヴァ書房、2017。 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』、2018。 東京福祉大学編『教育実習の手引き』 【参考書】 杉野学・上田征三編著『初めて学ぶ知的障害児の理解と指導』大学図書出版、2020。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 特別支援教育に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 教育実習に臨める力、指導実践力がついたか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。] 1 授業への積極的参加(総合点の30%) 2 日常の学習状況(総合点の40%) 3 課題レポート(総合点の30%)			
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中に携帯、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 2. 教室を散らかしたり机を汚したりしないこと。 3. マナーを守り、大学生としての学習体制を確立すること。			
13. オフィスアワー	授業以外の時間(予約をお願いすることもある)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	特別支援教育や児童・生徒の実態、特別支援教育の現状	事前学習	教科書1-3章の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートに要約する。	
		事後学習	教科書1-3章復習しノートに整理する。	
第2回	特別支援教育の専門性と教育課程	事前学習	教科書4-6章の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートに要約する。「学習指導要領解説」の熟読と重点項目を理解しノートに要約する。	
		事後学習	教科書4-6章、「学習指導要領解説」の重点項目をノートに整理する。	
第3回	領域「自立活動」と指導計画	事前学習	「学習指導要領解説」の熟読と重点項目を理解しノートに要約する。	
		事後学習	「学習指導要領解説」の重点項目のまとめをノートに整理する。	
第4回	障害児の理解と接し方、障害児の観察の視点	事前学習	教科書7-18章の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートに要約する。小テスト①の準備をする。	
		事後学習	教科書7-18章の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートに整理する。	
第5回	特別支援学校(実習先)の理解—実習日誌の記入に必要な「学校の現況」「オリエンテーションの内容」「日課」などの理解特別支援教育の児童生徒の実態・現状 ※実習予定先の情報を整理しておくこと	事前学習	実習予定先の現況などをノートにまとめる。	
		事後学習	実習予定先の整理をし『特別支援教育実習指導用ノート』(下書き)に清書する。	

2020年度

第6回	特別支援学校の現場の授業研究(ビデオによる観察)－教師や学校のあり方、実習日誌の記入演習障害児の理解と接し方・観察の視点	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む)。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(指導案作成を含む)。小テスト①の復習をしノートにまとめる。
第7回	特別支援学校の現場の授業研究(ビデオによる観察)－児童生徒の理解、実習日誌の記入演習障害児の理解と接し方・観察の視点	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む)。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(指導案作成を含む)。
第8回	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業－教育活動の構造化 ①教室の構造化(ビデオによる観察)	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む)。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(指導案作成を含む) 小テスト②の準備をする。
第9回	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業－教育活動の構造化 ②スケジュールの構造化(ビデオによる観察)	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む)。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(指導案作成を含む)。
第10回	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業－教育活動の構造化 ③教材の構造化(ビデオによる観察)	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む)。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(指導案作成完成) 小テスト②の復習をしノートにまとめる。
第11回	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業－教育活動の構造化 ④授業内容の構造化(ビデオによる観察)	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む)。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする(リハーサル)。
第12回	マイクロ・ティーチング(模擬授業)(1)	事前学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。
第13回	マイクロ・ティーチング(模擬授業)(2)	事前学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。 小テスト③の準備をする。
第14回	模擬授業発表に関する自己評価と他者評価による振り返り－単元は適切か、授業者の活動は適切か、適切な構造化はなされたか	事前学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとレポートを作成する。
第15回	人権教育について、教育実習までの準備、教育実習における今後の問題点とまとめ－指導講話(外部講師予定) ※特別支援学校の公開授業等に各自参加計画を立てて実施	事前学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとレポートを作成し提出する。小テスト③の復習しノートにまとめる。
		事後学習	全体のまとめをノートに整理する。小テスト③の復習しノートにまとめる。教材研究のレポートを作成し提出する。

*2019年度以降入学生より、教育実習にかかわる単位取得は、教職課程再課程認定に伴い「教育実習指導(事前指導)」、「教育実習(4週)」および「教育実習事後指導(1時間)」におけるすべての履修によって単位取得が認定されることとなった。

1. 科目名(単位数)	特別ニーズ教育論(初等・幼)(2単位)	3. 科目番号	SJTC2413
2. 授業担当教員	柳本 雄次		
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば補講期間に関連施設の見学なども予定する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。		
8. 学習目標	1. 特別の支援を必要とする児童の障害の特性及び心身の発達について理解し、説明することができる。 2. 特別の支援を必要とする児童に対する教育課程や支援の方法について理解し、説明することができる。 3. 障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある児童の学習上の困難とその支援について理解を深める。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	【アサインメント】 毎回テーマに関連した事前・事後学習の結果を記述したノートの作成 【レポート課題】 特別支援教育制度の歴史と課題、②インクルーシブ教育の理念と通常学校教育における具現化		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二(2017)『キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の障害児教育』クリエイツかもがわ 【参考資料】 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示 文部科学省) 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童の発達や学習の過程について理解できたか。 ・インクルーシブ教育と特別支援教育に関する基本的な用語や概念を理解することができたか。 ・インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化について模索できたか。 ・わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開について理解できたか。 ・発達障害の児童や障害を抱える児童の心身の発達や学習の過程を展望することができたか。 ・特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題について自らの考え方をもちとすることができたか。 ・通常学級における授業のユニバーサル化について理解できたか。 ○評定の方法 ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題(中間レポート・ワークシート等) 30% ・期末評価(レポート・試験等) 40%		
12. 受講生へのメッセージ	現在幼稚園・保育園や小学校等の保育・教育機関において、障害の有無を超えて特別な配慮・支援の必要な幼児・児童が在園(学)しています。今後のインクルーシブ保(教)育システム構築に向け、必要とされる支援の内容・方法を具体的に学んでいきましょう。		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 障害児教育の歴史と変遷 母国語や貧困等の問題から教育的ニーズを抱えた児童への対応	事前学習	教科書「第5章」(pp. 247-281)を熟読しておく。
		事後学習	特別ニーズ教育論を学ぶ意義について考える。本時の授業のポイントや用語についてノートに整理する。
第2回	インクルーシブ教育の国際動向(サラマンカ声明と障害者の差別、合理的配慮)	事前学習	教科書「第1章」(pp. 12-29)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第3回	特別支援教育とインクルーシブ教育(わが国の特別支援教育の理念と制度、交流及び共同学習)	事前学習	教科書「第1章」(pp. 30-47)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第4回	特別支援教育とインクルーシブ教育(通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育)	事前学習	教科書「第1章」(pp. 48-69)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第5回	特別支援教育の学習指導要領と教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画	事前学習	教科書「第2章」(pp. 71-89)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第6回	障害児の教育課程と方法(特別支援学級や通級指導教室の教科指導(読み・書き)作業学習・自立活動)	事前学習	教科書「第2章」(pp. 90-111)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第7回	障害児の教育課程と方法(通常学級での授業づくりの手法としての授業のユニバーサルデザイン化・特別支援学級や通級指導教室における教材教具の役割・授業研究)	事前学習	教科書「第2章」(pp. 112-123)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第8回	障害児の教育課程と方法(ICTを用いたコミュ	事前学習	教科書「第2章」(pp. 124-143)を熟読しておく。

2020年度

	ニケーションの光と影、発達障害や軽度知的障害を抱えた生徒に対するソーシャルスキルトレーニング)	事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第9回	特別支援学校の制度（視覚障害教育と聴覚障害教育、病弱教育）と障害をあわせ有する重複障害の知的代替の教育課程	事前学習	教科書「第3章」(pp. 144-153)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第10回	障害と発達の基礎概念（発達保障の考え方、障害者の自立、発達と教育の関係）	事前学習	教科書「第3章」(pp. 155-161)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第11回	障害と発達の基礎概念（いじめや非行、不登校と障害の関連、QOLを高めるための教育的な支援）	事前学習	教科書「第3章」(pp. 162-171)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第12回	障害の診断・判断・支援（知能検査とダウン症の行動特性の観点からの課題と支援）	事前学習	教科書「第3章」(pp. 172-185)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第13回	障害の診断・判断・支援（読み書き障害、ADHD、自閉症スペクトラム）	事前学習	教科書「第3章」(pp. 186-195)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第14回	障害の診断・判断・支援（弱視、難聴、ろう文化と手話）	事前学習	教科書「第3章」(pp. 198-206)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第15回	就学前から就学へ（児童発達支援、障害児と学童保育、相談事業）	事前学習	教科書「第4章」(pp. 207-245)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	特別ニーズ教育論(中等)(2単位)	3. 科目番号	SPMP2464 SNMP2464 SCMP2464 SBMP2464 EDTS2310
2. 授業担当教員	須藤 典征		
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば補講期間に関連施設の見学なども予定する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。		
8. 学習目標	1. 特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達について理解し、説明することができる。 2. 特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法について理解し、説明することができる。 3. 障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある生徒の学習上の困難とその支援について理解を深める。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	適宜、小テスト及びレポートを実施します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二(2019)『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』クリエイツかもがわ 【参考資料】 特別支援学校 幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある生徒の発達や学習の過程について理解できたか。 ・インクルーシブ教育と特別支援教育に関する基本的な用語や概念を理解することができたか。 ・インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化について模索できたか。 ・わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開について理解できたか。 ・発達障害の児童や障害を抱える生徒の心身の発達や学習の過程を展望することができたか。 ・特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題について自らの考え方をもちとすることができたか。 ・通常学級における授業のユニバーサル化について理解できたか。 ○評定の方法 ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題(中間レポート・ワークシート等) 30% ・期末評価(レポート・試験等) 40%		
12. 受講生へのメッセージ			
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 障害児教育の歴史と変遷 母国語や貧困等の問題から教育的ニーズを抱えた児童への対応	事前学習	教科書「第5章」(pp.247-281)を熟読しておく。
		事後学習	特別ニーズ教育論を学ぶ意義について考える。本時の授業のポイントや用語についてノートに整理する。
第2回	インクルーシブ教育の国際動向(サラマンカ声明と障害者の差別、合理的配慮)	事前学習	教科書「第1章」(pp.12-29)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第3回	特別支援教育とインクルーシブ教育(わが国の特別支援教育の理念と制度、交流及び共同学習)	事前学習	教科書「第1章」(pp.30-47)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第4回	特別支援教育とインクルーシブ教育(通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育)	事前学習	教科書「第1章」(pp.48-69)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第5回	特別支援教育の学習指導要領と教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画	事前学習	教科書「第2章」(pp.71-89)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第6回	障害児の教育課程と方法(特別支援学級や通級指導教室の教科指導(読み・書き)作業学習・自立活動)	事前学習	教科書「第2章」(pp.90-111)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第7回	障害児の教育課程と方法(通常学級での授業づくりの手法としての授業のユニバーサルデザイン化・特別支援学級や通級指導教室における教材教具の役割・授業研究)	事前学習	教科書「第2章」(pp.112-123)を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に

2020年度

			質問する。
第8回	障害児の教育課程と方法（ICTを用いたコミュニケーションの光と影、発達障害や軽度知的障害を抱えた生徒に対するソーシャルスキルトレーニング）	事前学習	教科書「第2章」（pp.124-143）を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第9回	特別支援学校の制度（視覚障害教育と聴覚障害教育、病弱教育）と障害をあわせ有する重複障害の知的代替の教育課程	事前学習	教科書「第3章」（pp.144-153）を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第10回	障害と発達の基礎概念（発達保障の考え方、障害者の自立、発達と教育の関係）	事前学習	教科書「第3章」（pp.155-161）を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第11回	障害と発達の基礎概念（いじめや非行、不登校と障害の関連、QOLを高めるための教育的な支援）	事前学習	教科書「第3章」（pp.162-171）を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第12回	障害の診断・判断・支援（知能検査とダウン症の行動特性の観点からの課題と支援）	事前学習	教科書「第3章」（pp.172-185）を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第13回	障害の診断・判断・支援（読み書き障害、ADHD、自閉症スペクトラム）	事前学習	教科書「第3章」（pp.186-195）を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第14回	障害の診断・判断・支援（弱視、難聴、ろう文化と手話）	事前学習	教科書「第3章」（pp.198-206）を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
第15回	就学から青年期・成人へ（相談事業・中等教育における特別支援教育・障害者の労働法制）	事前学習	教科書「第4章」（pp.207-245）を熟読しておく。
		事後学習	授業内容やグループで討議したことについてワークシートにまとめる。わからないことは教員に質問する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	日本語学習とマルチメディア (2単位)		3. 科目番号	EIJ2361
2. 授業担当教員	ロベス ルイス ミゲル			
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	古くから視聴覚教材は語学学習に有効な教材として使われてきた。近年のコンピュータ環境の進歩により、マルチメディア、インターネットを利用した高度な学習システムやサービスの一般利用が可能となった。このような教材を扱う技術や知識を得ることは語学学習者・教育者にとって重要である。本講義では、マルチメディア教材の有効性について学習し、ITを用いた日本語学習教材について演習によって操作方法などを修得する。また、日本語教育に必要なマルチメディア教材について分析・検討する。			
8. 学習目標	日本語学習にマルチメディアがどのように関係するかを知り、その効果的な利用方法について学ぶ。講義、演習を通して、ITを用いた日本語学習コンテンツに関する基礎的な知識や操作方法を修得する。日本語教育の実践に向けた教材の作成技術を習得する。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎回授業時間外の作業が必要な課題を課す。マルチメディア教材作成に関する演習課題と、教材を使った発表。			
10. 教科書・参考書・教材	必要な教材については資料を配布する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. マルチメディア技術を用いた日本語学習コンテンツに関する知識を得る。 2. ITを用いた日本語学習コンテンツに関する操作方法を修得する。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、課題等を総合して評価する] 1. 授業への積極的参加、受講態度 30% 2. 授業ごとに課されるレポートや課題 70%			
12. 受講生へのメッセージ	理論的な話は第1回だけで、第2回以降、たくさんの課題に取り組んでもらう。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	講義概要の説明、ITとマルチメディアについて	事前学習	マルチメディアとはどのような意味を持つ言葉か調べる。	
		事後学習	マルチメディアとは何か、またITとの関係についてまとめる。	
第2回	日本語学習・教育におけるマルチメディア教材の歴史と現状	事前学習	「視聴覚教材」とは何か調査しておく。	
		事後学習	マルチメディア教材の歴史と現状についてまとめる。	
第3回	コンピュータを利用するマルチメディア教材・学習コンテンツ	事前学習	コンピュータを利用する学習コンテンツについて調べておく。	
		事後学習	ITを利用した日本語学習コンテンツについてまとめる。	
第4回	ITを利用する対話型の学習サービス	事前学習	対話型の学習サービスとは何か調べる。	
		事後学習	対話型サービスの有効性についてまとめる。	
第5回	IT活用に関する注意事項 情報倫理	事前学習	文章や画像の著作権について調べる	
		事後学習	著作権、コンピュータシステム利用時のセキュリティについてまとめる。	
第6回	まとめ。学生による発表	事前学習	これまでに学習した内容の復習をする。	
		事後学習	日本語学習におけるマルチメディア教材の現状についてレポートを作成する。	
第7回	eラーニングサービスの利用① CBT	事前学習	語学eラーニングサービスについて調べる。	
		事後学習	利用したサービスの特徴についてまとめる。	
第8回	eラーニングサービスの利用② WBT	事前学習	Webカメラを使う語学eラーニングサービスについて調べる。	
		事後学習	利用したサービスの特徴についてまとめる。	
第9回	教育する側の視点による教材の分析	事前学習	これまでに学習したマルチメディア教材の特徴をまとめる。	
		事後学習	教育する側としてマルチメディア教材の有効性について検討する。	
第10回	学習教材の企画① 企画枠組みの作成	事前学習	日本語教師の支援について何が必要か考える。	
		事後学習	自身が考える学習教材について必要な事柄をまとめる。	
第11回	学習教材の企画② 企画の実現を考慮したコンテンツ調整	事前学習	著作権やシステムセキュリティについて復習しておく。	
		事後学習	企画した教材に著作権、セキュリティ上の問題がないか検討する。	
第12回	学習教材の企画③ 発表用資料の準備	事前学習	発企画した学習教材の有効な点についてまとめておく。	
		事後学習	発表用の資料を完成させる。	
第13回	作成した教材企画の発表と、修正	事前学習	発表の練習をしておく。	
		事後学習	他の発表に対する意見をまとめる。	
第14回	発表の振り返り、各自の意見の整理	事前学習	他の発表に対する意見と改善点をまとめる。	
		事後学習	講義内で出た意見をまとめて自分の教材企画に反映させる。	
第15回	総合演習・これまでの学習事項のまとめ	事前学習	これまでに学習した内容の復習をする。	
		事後学習	日本語教育におけるマルチメディア教材の現状についてまとめる。	

1. 科目名 (単位数)	日本語教育演習 (2単位)		3. 科目番号	EIJP3355
2. 授業担当教員	野口 芙美			
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語教育の理論と方法」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	日本語を教えるためには、どのような教科書と指導法がよいかを実際に教案を作りながら考える。 1 直接法の授業を実際に体験する。 2 どのように教案を書くのかを学ぶ。 3 授業をしやすい教案とは何かをクラスで考える。 4 学習者主体の授業とは何かを確認しながら教案を作成し、模擬授業を行う。 *各自の教案をクラスで考え、それぞれの良い点・悪い点を意見交換する。			
8. 学習目標	授業に対する教案の作成ができる。 模擬授業を体験しながら「日本語指導」における大切なことがわかる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 第1~3回は毎授業ごとにワークシートを配布し、それに沿ってペアワークやグループワークを行いながら授業を進める。ペアワーク・グループワークでの内容は授業後にワークシートにまとめ、授業の感想とともに次の授業で提出する。 2. 第4~7回は、授業後、授業で扱った指導項目を1つ選び導入・練習の教案を作成する。 3. 第8回からは、模擬授業担当者は教案を作成し模擬授業を行う。授業後は、全員が扱った指導項目について授業の感想とともに小レポートを作成する。 4. 最終課題として、初級文型項目の中から授業で扱っていない指導項目を一つ選び、導入・練習・活動を盛り込んだ教案を作成し提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】各講義で資料を配布する。 【参考書】石橋玲子著『外国語としての日本語とその教授法—言語への気づきを重視して—』、風間書房、2018 高見沢孟 監修『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』アスク出版、2016 高見沢孟他著『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』アスク出版、2016 寺田和子他著『日本語の教え方ABC』アルク、1998			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業に対する教案の作成ができるようになったか。 2. 模擬授業を体験しながら「日本語指導」における大切なことがわかるようになったか。 ○評定の方法 1 授業への積極的参加・授業態度 30% 2 課題・レポート 30% 4 期末試験 (模擬授業) 40%			
12. 受講生へのメッセージ	日本語教育に関する知見を生かし、実際に模擬授業を行う。指導項目に関して注意すべきポイントを学び、わかりやすい導入、実際の生活ですぐに使えるための実践的な活動について検討していく。実際に模擬授業を行うことで、教える順序や内容だけでなく、ティーチャートークや学習者の発話・授業参加の促し方などにも意識を向けてほしい。			
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション、直接法と間接法	事前学習	これまでの自分の外国語学習経験等から、直接法と間接法の長所・短所をそれぞれ考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第2回	学習者主体の授業とは	事前学習	学習者主体の授業とはどんな授業か考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第3回	初級文型、初級教科書	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第4回	教案の作り方、指示詞の指導	事前学習	指示詞について復習しておく。	
		事後学習	教案「指示詞」を作成する。	
第5回	形容詞の指導、授受表現の指導	事前学習	形容詞、授受表現について復習しておく。	
		事後学習	教案「形容詞」または「授受表現」を作成する。	
第6回	て形の指導、自動詞・他動詞の指導	事前学習	て形、自動詞・他動詞について復習しておく。	
		事後学習	教案「て形」または「自動詞・他動詞」を作成する。	
第7回	条件表現の指導、受身表現の指導	事前学習	条件表現、受身表現について復習しておく。	
		事後学習	教案「条件表現」または「受身表現」を作成する。	
第8回	模擬授業①指示詞	事前学習	模擬授業担当者は模擬授業に向けて教案を作成し、授業の準備・練習をしておく。	
		事後学習	指示詞の指導について小レポートを書く。	

第9回	模擬授業②形容詞	事前学習	模擬授業担当者は模擬授業に向けて教案を作成し、授業の準備・練習をしておく。
		事後学習	形容詞の指導について小レポートを書く。
第10回	模擬授業③授受表現	事前学習	模擬授業担当者は模擬授業に向けて教案を作成し、授業の準備・練習をしておく。
		事後学習	授受表現の指導について小レポートを書く。
第11回	模擬授業④て形	事前学習	模擬授業担当者は模擬授業に向けて教案を作成し、授業の準備・練習をしておく。
		事後学習	て形の指導について小レポートを書く。
第12回	模擬授業⑤自動詞・他動詞	事前学習	模擬授業担当者は模擬授業に向けて教案を作成し、授業の準備・練習をしておく。
		事後学習	自動詞・他動詞の指導について小レポートを書く。
第13回	模擬授業⑥条件表現	事前学習	模擬授業担当者は模擬授業に向けて教案を作成し、授業の準備・練習をしておく。
		事後学習	条件表現の指導について小レポートを書く。
第14回	模擬授業⑦受身表現	事前学習	模擬授業担当者は模擬授業に向けて教案を作成し、授業の準備・練習をしておく。
		事後学習	受身表現の指導について小レポートを書く。
第15回	これまでの内容の振り返り、最終課題の準備	事前学習	これまでの授業を振り返り、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	授業内容を復習し、最終課題の準備・提出をする。

1. 科目名 (単位数)	日本語教授法 I (2単位)	3. 科目番号	EIJP2353						
2. 授業担当教員	野口 芙美								
4. 授業形態	講義・演習・討論・発表	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「日本語教育の理論と方法」「第二言語習得理論」を履修後に履修することが望ましい。								
7. 講義概要	日本語教育に携わる際、まず心がけなければならないことは、日本語を知ること、それをわかりやすく説明する技術が必要となる。 この講義では、日本語そのものについて学習し、それらがどんな特徴を持っているのかなど、日本語教育に必要な基礎知識を修得し、日本語教育を志す受講者の教授法における基礎力の育成を目指す。								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教師にとって、日本語はどんな言語かについて学び、日本語の言語的な成り立ちや他の言語との関わりについて理解し、説明できるようにする。 ・日本語の音声・文法・文字・語彙などについて、日本語教師として現場での指導実践に役立てることが出来る。 								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業ごとにワークシートを配布し、それに沿ってペアワークやグループワークを行いながら授業を進める。配布したワークシートは授業後にまとめ、授業の感想とともに次回の授業で提出する。 2. グループワークとして、2回の活動と発表を行う。(第7回、第13・14回) 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】高見沢孟他著『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版] 日本語教授法入門』アスク出版、2016</p> <p>【参考書】「新・はじめての日本語教育」シリーズ (『DVD 新・はじめての日本語教育—初級の指導—』アスク出版、2008・高見沢孟監修『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版] 日本語の基礎知識』アスク出版、2016 など)</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教師の仕事について理解できたか。 2. 日本語教師として、現場での指導実践に役立てるような活動ができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への出席、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への出席・受講態度</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験(レポート)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題・発表</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			1 授業への出席・受講態度	総合点の30%	2 期末試験(レポート)	総合点の30%	3 課題・発表	総合点の40%
1 授業への出席・受講態度	総合点の30%								
2 期末試験(レポート)	総合点の30%								
3 課題・発表	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	日本語教師は、日本人であれば、あるいは日本語が話せれば、簡単になれるというものではない。非母語話者にとっての日本語とはどのようなものか、学習者の立場から日本語というものをイメージしてほしい。その上で、どのような練習が効果的か、どのようなことに注意したらいいか、改めて一緒に考えていきたい。								
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション、第1章「日本語教師の役割」	事前学習	日本語教師とはどのような職業か、役割や条件、理想とする教師像について考えてくる。						
		事後学習	教科書 pp. 7～20 に目を通しておく。p. 20 課題1をやってくる。						
第2回	第2章「日本語を教えるということ」	事前学習	教科書 pp. 21～42 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第3回	第3章「初級の教え方(1)」1. 会話を教えるということ～4. 課の目的理解	事前学習	教科書 pp. 43～48 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第4回	第3章「初級の教え方(1)」5. 対話の指導、6. 補足語彙の指導	事前学習	教科書 pp. 49～56 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第5回	第3章「初級の教え方(1)」7. 文法用法説明の指導、8. 各種練習の指導(1)	事前学習	教科書 pp. 57～64 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第6回	第3章「初級の教え方(1)」8. 各種練習の指導(2)	事前学習	教科書 pp. 64～74 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第7回	グループワーク：自由選択練習、ロール・プレイ練習、タスク練習の作成・発表	事前学習	グループワークに備え、アイデアをまとめておく。						
		事後学習	発表内容、他のグループへのコメントをまとめる(次回授業で提出)。						
第8回	第3章「初級の教え方(1)」9. 日本語教育における「練習」と「転移」、10. 練習問題の指導	事前学習	教科書 pp. 75～80 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第9回	第4章「初級の教え方(2)」1. 文字教育を始める前に～3. 漢字の教え方	事前学習	教科書 pp. 81～88 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第10回	第4章「初級の教え方(2)」4. パソコンの利用法、5. 日本語の表記	事前学習	教科書 pp. 89～94 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第11回	第4章「初級の教え方(2)」6. 誤用の指導	事前学習	教科書 pp. 95～96 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						
第12回	第8章「評価と試験」1. 評価の対象～5. 試験問題の種類	事前学習	教科書 pp. 137～147 を熟読しておく。						
		事後学習	ワークシートをまとめる(次回授業で提出)。						

第13回	第8章「評価と試験」6. 試験の効果 グループワーク：試験作成	事前学習	教科書 pp.148 を熟読しておく。グループワークに備え、アイデアをまとめておく。
		事後学習	提出用の試験を作成する。
第14回	グループ発表：作成した試験について、質疑応答、コメント	事前学習	発表準備をする。
		事後学習	発表内容、他のグループへのコメントをまとめる（次回授業で提出）。
第15回	これまでの内容の振り返り、期末試験の準備	事前学習	教科書、学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	教科書、ワークシートを復習し、期末試験の準備をする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	日本史 (2単位)	3. 科目番号	GELA1327 GELA1347
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義 ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「国際関係論」を履修予定の学生は本科目を選択することをお勧めします。本科目の履修によって左記科目の学習を充実させることができます。		
7. 講義概要	グローバルな時代と呼ばれている現代、国と国、国民と国民とのあいだの交流がさまざまな面で深く、密接になっており、自他の歴史的な関係を理解することが求められている。わたしたちが生きている現代は、過去のできごとの積み重ねの上に成り立っている。その意味で、歴史は過去と現在との対話である。また、歴史には、未知のことも多くあり、新しい事実関係が発見されたり、時代とともに評価が変わることもある。授業では、日本の歴史のなかで興味深い事件やできごと、歴史上の人物をとりあげて、歴史上のできごとの背景や、激動の時代を生きた人びとの生き方、歴史上に果たした役割を検証していく。		
8. 学習目標	1) 日本史の基本事項(概念)について理解し、説明できる。 2) 日本史上の出来事や時代背景について歴史学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 日本史上の人物の考え方や生き方を知り、自分の考え方や生き方を省みることができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	講義では上記をリーディングアサインメント(RA)と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習のちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小風秀雅編『大学の日本史 教養から考える歴史へ 4近代』山川出版社、2016年。 【参考書】 小風秀雅編『日本近現代史』放送大学教育振興会、2009年。 荒木敏夫他『日本史のエッセンス』有斐閣、1997年。 竹内誠他編『教養の日本史』東京大学出版会、1987年。 島海靖『もういちど読む山川日本近代史』山川出版社、2013年。 加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』新潮社、2016年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・日本史の基本事項(概念)について理解することができたか。 ・日本史上の出来事や時代背景について歴史学の観点から見たり考えたりすることができたか。 ・日本史上の人物の考え方や生き方を知り、自分の考え方や生き方を省みることができたか。 ○評定の方法 ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題(中間レポート・ワークシート等) 30% ・期末評価(レポート・試験等) 40%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくはe-mailにて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・オリエンテーション(シラバスを必ず持参すること。コピーなども可。) ・歴史学の観点から考えることの大切さ① “江戸時代”はどんな時代か	事前学習	教科書 pp.13-17.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第2回	開国と開港—欧米外圧の再検討— 不平等条約はなぜ必要とされたのか?	事前学習	(第2回から第15回の事前学習) 前時間に配付するリーディングアサインメント(RA)の各

			設題に自分なりの解答をする。教科書 pp.6-20.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第3回	交通革命と東アジア—香港・上海・横浜・長崎—① ジャーナリズムの巨人ピューリッツァーが仕掛けた一大イベント	事前学習	教科書 pp.24-36.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第4回	交通革命と東アジア—香港・上海・横浜・長崎—② 交通革命によって日本が得た地政学的特性とは	事前学習	教科書 pp.24-36.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第5回	天皇の外交と国際認識—1868～94年	事前学習	教科書 pp.52-57.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第6回	アジアの国際秩序と日本—琉球と朝鮮をめぐって① 東アジア国際秩序と西欧国際体制	事前学習	教科書 pp.59-61.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第7回	アジアの国際秩序と日本—琉球と朝鮮をめぐって② 東アジア国際秩序の動揺	事前学習	教科書 pp.62-72.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第8回	条約改正と万国対峙	事前学習	教科書 pp.79-93.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第9回	歴史学の観点から考えることの大切さ② 一次資料と史料としての映像について	事前学習	リーディングアサインメント (RA) の問を解答する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第10回	憲法発布と近代国家の確立	事前学習	教科書 pp.94-109.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第11回	日清戦争と二十世紀の世界秩序 日清戦争を機に何が変わったのか	事前学習	教科書 pp.110-124.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第12回	日露戦争前後の日本外交① 初期議会期の藩閥政府と民党	事前学習	教科書 pp.125-130.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第13回	日露戦争前後の日本外交② 多角的同盟・協商網の模索と挫折	事前学習	教科書 pp.135-137.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第14回	日露戦争前後の日本外交③ 韓国併合への道	事前学習	教科書 pp.130-134、pp.137-140.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第15回	歴史学の観点から考えることの大切さ③ 科学技術の発達の背景を考える—ビタミンとオリザニン—	事前学習	リーディングアサインメント (RA) の問を解答する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	GECM1318 GECM1718 GECM1728
2. 授業担当教員	新井 美也子		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「日本の文化と言語Ⅰ」で養った日本語運用能力をさらにレベルアップすることを目指します。日本の文化や言語について、具体性のあるテーマやトピックを扱いながら、新聞や雑誌など、一般的な読み物に用いられる語彙に対する知識や意味的なまとまりごとの要点をとらえる読解力を養成していきます。本講義は、資料の読解、発表とディスカッション、作文、そして語彙・文法に関する小テスト等で構成されます。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 一般的な読み物に用いられる語彙力や要点をとらえるための読解力を身につけ、実践することが出来る。 日本の文化・社会に関する具体的な問題を多角的に分析し、論点を明確にする能力を身につけることができる。 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働する力を向上させ、具体的な日本の文化や言語の問題について、ディスカッションすることが出来る。 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・言語に関する理解を深める。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 日本の文化や言語についての理解度を確認するため、教科書pp. 159-166の内容確認問題を行う。 日本の文化や言語について、自分の立場から説明できるようになるために、授業内容に指示したTaskを実施する。 各回のTaskで取り組んだテーマのなかから一つを選び、期末レポートを作成する。 		
10. 教科書・参考書・教材	佐々木瑞枝『クローズアップ日本事情 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパントイムズ、2017。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 一般的な読み物に用いられる語彙力や要点をとらえるための読解力を身につけ、実践することができたか。 日本の文化・言語に関する具体的な問題を多角的に分析し、論点を明確にする能力を身につけることができたか。 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働する力を向上させ、具体的な日本の文化や言語の問題について、ディスカッションすることができたか。 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・言語に関する理解を深めることができたか。 <p>○評定の方法：以下の点を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業への参加態度 総合点の30% 試験 (小テスト・期末試験、口頭発表による試験等) 総合点の30% 提出課題 (レポート等) 総合点の40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業を通して、様々な日本の文化や言語に目を向けるきっかけを提供したい。アサインメント及びレポートについては、受講生の関心や状況に応じて、扱うテーマや分量などの調整を行う場合があるが、授業担当教員の指示に従って取り組んでほしい。</p> <p>なお、受講に際して、特に以下の点には注意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻、早退など (不必要な退出も含む) せず、積極的に参加すること。 提出物、宿題は必ず提出すること。 授業での配布物はなくさないこと。 教科書は毎回必ず持参すること。 分からないことは、担当教員に必ず質問、確認をすること。 授業に関係のない私語はしないこと。 		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業概要の説明	事前学習	日本の文化と言語Ⅰで学習した範囲について、紹介できるようにしておく。
		事後学習	この授業での目標を文章にまとめてみる。
第2回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Task B あなたの国の歴史と日本 (旧石器時代から安土桃山時代まで)	事前学習	教科書 pp. 68-69 の年表をみて、興味を持った時代について調べておく。
		事後学習	教科書 p. 67 Task B に取り組んでおく。
第3回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Task E あなたの国の歴史と日本 (江戸時代から現代まで)	事前学習	教科書 pp. 72-73 の年表をみて、興味を持った時代について調べておく。
		事後学習	教科書 p. 71 Task E に取り組んでおく。
第4回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 あなたの国と日本の歴史について紹介する	事前学習	Task B・Task E を踏まえ、あなたの国の歴史についてテーマを決めて紹介できるようにしておく。
		事後学習	あなたの国と日本の歴史の共通点や相違点について整理してみる。
第5回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Task C 18世紀後半の世界について	事前学習	教科書 p. 70 の Task C に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 p. 70 を踏まえ、18世紀後半の世界と日本について整理してみる。
第6回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史	事前学習	教科書 p. 70 の Task D に取り組んでおく。

	Task D 寺子屋について	事後学習	教科書 p.70 を踏まえ、寺子屋の特徴をまとめてみる。
第7回	Unit6 知っておきたい日本の歴史 Task F 日本の世界文化遺産について	事前学習	教科書 p.75 の Task F に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 p.75 を読み返し、世界遺産について説明できるようにしておく。
第8回	Unit6 知っておきたい日本の歴史 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.53-76 を読み直し、p.159 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.53-76 で身につけた語彙をまとめてみる。
第9回	Unit7 伝統文化体験 Task A 短歌・川柳・俳句	事前学習	教科書 p.78 を読み、和歌・俳句・川柳について説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.79 の Task A に取り組んでおく。
第10回	Unit7 伝統文化体験 Task C 舞台見学のプラン作成	事前学習	教科書 pp.80-82 を読み、歌舞伎や能楽について、説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.82 の Task C に取り組んでおく。
第11回	Unit7 伝統文化体験 Task E 伝統文化の体験プランの作成	事前学習	教科書 p.84 の Task E に取り組んでおく。
		事後学習	授業内で発表した体験プランを清書する。
第12回	Unit7 伝統文化体験 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.77-87 を読み直し、p.160 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.77-87 で身につけた語彙をまとめておく。
第13回	Unit8 現代文化とポップカルチャー Task A・B あなたの国と日本のモバイル機器利用の状況について	事前学習	教科書 p.91 の Task A・Task B に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 pp.90-91 を踏まえ、あなたの国と日本のモバイル機器利用の状況の違いについて整理してみる。
第14回	Unit8 現代文化とポップカルチャー Task D あなたの好きな日本や自国の音楽について発表する	事前学習	教科書 p.93 の Task D に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 pp.92-93 を踏まえ、日本のポップカルチャーの特徴を整理してみる。
第15回	Unit8 現代文化とポップカルチャー 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.89-95 を読み直し、p.161 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.89-95 で身につけた語彙をまとめておく。
第16回	Unit9 スポーツの楽しみ方 1 相撲	事前学習	教科書 pp.98-99 を読み、相撲について説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.98 Task A に取り組んでおく。
第17回	Unit9 スポーツの楽しみ方 3 世界で活躍する日本人選手、日本で活躍する外国人選手	事前学習	教科書 p.101 を読み、世界で活躍する日本人選手、日本で活躍する外国人選手について説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.101 の Task D に取り組んでおく。
第18回	Unit9 スポーツの楽しみ方 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.97-104 を読み直し、p.162 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.97-104 で身につけた語彙をまとめておく。
第19回	Unit10 前進を続ける科学技術 1 日本の科学技術政策	事前学習	教科書 p.106 を読み、日本の科学技術政策について、説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.106 の Task A に取り組んでおく。
第20回	Unit10 前進を続ける科学技術 2 科学技術が生み出すイノベーション	事前学習	教科書 pp.107-109 を読み、日本の科学技術の特徴を整理してみる。
		事後学習	教科書 p.109 Task C に取り組んでおく。
第21回	Unit10 前進を続ける科学技術 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.105-112 を読み直し、p.163 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.105-112 で身につけた語彙をまとめておく。
第22回	Unit11 地球のためにできること 1 地球温暖化防止に向けて	事前学習	教科書 p.114 を読み、地球温暖化について説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.115 の Task A に取り組んでおく。
第23回	Unit11 地球のためにできること 2 温室効果ガス削減への取り組み	事前学習	教科書 p.115 を読み、温室効果ガス削減の取り組みについて説明できるようにしておく。

2020年度

		事後学習	教科書 p. 116 の Task B に取り組んでおく。
第24回	Unit11 地球のためにできること 内容確認問題	事前学習	教科書 pp. 113-120 を読み直し、p. 164 の内容確認問題を答えることができるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 113-120 で身につけた語彙をまとめておく。
第25回	Unit12 教育と子供たち Task A あなたの国の子どもの数	事前学習	教科書 p. 122 の Task A に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 p. 122 を踏まえ、日本の子どもの数について説明できるようにしておく。
第26回	Unit12 教育と子供たち Task B あなたの国の時間割	事前学習	教科書 p. 124 の Task B に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 pp. 123-125 を踏まえ、日本の学校の特徴をまとめてみる。
第27回	Unit12 教育と子供たち 内容確認問題	事前学習	教科書 pp. 121-128 を読み直し、p. 165 の内容確認問題を答えることができるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 121-128 で身につけた語彙をまとめておく。
第28回	Unit13 産業構造と経済 Task D	事前学習	教科書 p. 132 の Task D に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 pp. 130-132 を踏まえ、日本の産業の特徴をまとめてみる。
第29回	Unit13 産業構造と経済 内容確認問題	事前学習	教科書 pp. 130-136 を読み直し、p. 166 の内容確認問題を答えることができるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 130-136 で身につけた語彙をまとめておく。
第30回	確認テスト・まとめ	事前学習	Unit6 から Unit13 を読み直し、pp. 159-166 の内容確認問題を答えることができるようにしておく。
		事後学習	この授業を通して理解を深めることが出来た日本の文化や言語について紹介文を作成してみる。

1. 科目名 (単位数)	日本文化研究 (2単位)		3. 科目番号	EIJP1181
2. 授業担当教員	野口 芙美			
4. 授業形態	講義、討論、発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>日本文化については、日本の言語、文学、歴史、生活文化、宗教、思想、哲学、芸術スポーツ文化等を中心とする多彩な分野である。中でも日本を深く理解するために必要な情報や社会生活を知るうえで必要な情報等、多岐にわたっているため、日本文学または日本文化論に視点を置き、日本文化の一端を考察する。</p> <p>この講義では、日本の様々な文学作品または日本内外で注目されている日本文化論に関する作品を紹介することで、その作品の時代背景や歴史、思想、生活文化等について学習者がより日本の文化に興味を持てるよう留意し授業を展開する。さらに、日本文化の特質とは何かについても、この講義を通して掘り下げていくよう進めていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学の随筆や評論、小説または日本文化論の作品等を読み、日本文化の特質について考えることができる。 2. 日本各文学作品または日本文化論の中に内在している思想や生活文化等を討論・理解し各自の感想・意見を発表・説明できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業ごとにワークシートを配布し、それに沿ってペアワークやグループワークを行いながら授業を進める。ペアワーク・グループワークでの内容は授業後にワークシートにまとめ、授業の感想とともに次回の授業で提出する。 2. 世界でも知名度の高い日本人作家の作品を読み、授業でその作品についてディスカッションを行う (第6回、第10回、第14回)。 3. 日本文化に関する文献リストから1冊選んで読み、内容を紹介する (第15回で発表)。紹介した文献について読書感想文を提出する (最終レポート)。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】各講義で資料を配布する。</p> <p>【参考書】遠山淳他著『日本文化論キーワード』有斐閣双書、2009年 藤田正勝著『日本文化をよむ5つのキーワード』岩波新書、2017年ほか適宜授業内で紹介する。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学の随筆や評論、小説等を読み、それぞれの文章の特徴を理解し、単元ごとの設問のまとめや説明ができるようになったか。 2. 日本文化に関する文学作品の中に内在している思想や生活文化等を討論・理解し、各自の感想・意見を発表・説明できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加態度 総合点の30% 2 試験 (小テスト・期末テスト等) 総合点の30% 3 提出課題 (レポート等) 総合点の40% <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることも配慮した。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、異なる時代の、様々な作品を扱う。実際にそれを読んでどのように感じたか、何を学んだかをクラスで共有していきたい。名著と呼ばれる数々の作品に、この機会になるべくたくさん触れてほしい。			
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション、ビブリオバトルについて	事前学習	日本の文学で知っているもの、好きな作品について考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第2回	日本の文学史概観	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第3回	古典を通して「日本」を読む ①上代の文学	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第4回	古典を通して「日本」を読む ②中古の文学	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第5回	古典を通して「日本」を読む ③中世の文学	事前学習	事前配布資料に目を通しておく。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第6回	古典を通して「日本」を読む ④近世の文学	事前学習	川端康成の作品を読んでくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第7回	世界の日本文学①川端康成	事前学習	事前配布資料に目を通し、課題について考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第8回	日本人論・日本文化論	事前学習	事前配布資料に目を通し、課題について考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第9回	日本人のコミュニケーション	事前学習	事前配布資料に目を通してくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	

2020年度

第10回	世界の日本文学②吉本ばなな	事前学習	吉本ばななの作品を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第11回	宗教と死生観	事前学習	事前配布資料に目を通してくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第12回	美意識と行動原理	事前学習	事前配布資料に目を通してくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第13回	「日本と世界」か「世界の中の日本」か	事前学習	事前配布資料に目を通してくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第14回	世界の日本文学③村上春樹	事前学習	村上春樹の作品を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第15回	発表：文献紹介 これまでの内容の振り返り 最終レポート（読書感想文）の準備	事前学習	日本文化に関する文献リストの中から1冊選び、その本についてあらすじと感想を発表する。 これまでの学習内容を振り返り、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	紹介した文献について、読書感想文をまとめて提出する。

1. 科目名 (単位数)	乳児保育Ⅰ／乳児保育 (2単位)		3. 科目番号	SSOT2419
2. 授業担当教員	山口 恵美子			SCOT2417 SJMP2124
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷、役割と機能、養護と教育について理解させる。乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題を知り、保育所および保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)、家庭的保育等における乳児保育、3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について理解させる。乳児の発育・発達をふまえた保育的援助や関わりや配慮、計画・記録・評価とその意義について理解させる。職員間及び保護者、自治体や地域の関係機関等との連携・協働について理解させる。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の乳児保育がたどった歩みとその意義・基本を知り、これからのあり方についても理解し、説明することができる。 2. 乳幼児の発達とそれに沿った保育所(園)生活のあり方や保育者の援助と役割を学び、説明することができる。 3. 乳幼児保育における保健衛生及び安全についての知識を身につける。 4. 保育課程と記録について理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	授業後には、毎回の授業の中でわかったこと、わからなかったこと(疑問点やさらに学びたいこと)、自分の感想を書き記すこと。レポート課題については、授業の中で提示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】小山朝子編著『講義で学ぶ乳児保育』わかば社。 【参考書】厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の乳児保育がたどった歩みとその意義・基本を知り、これからのあり方についても理解し、説明することができる。 2. 乳幼児の発達とそれに沿った保育所(園)生活のあり方や保育者の援助と役割を学び、説明することができる。 3. 乳幼児保育における保健衛生及び安全についての知識を身につける。 <p>○評定の方法</p> <p>授業態度 30%、課題 40%。レポート 30%で評価する。</p> <p>上記のほかに、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることも配慮する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	テキストだけでなく、保育所保育指針を繰り返し読んでおきましょう。また、日頃から新聞などで乳幼児に関する記事を見つけてメモしたり切り抜いたりしておきましょう。			
13. オフィスアワー	別途通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス 授業の内容と展開について	事前学習	シラバスを読んで授業の概要を知る。	
		事後学習	乳児の特徴について整理する。	
第2回	乳児保育の目的と役割	事前学習	教科書 pp. 10～16 を読んでおく。	
		事後学習	乳児保育の目的と役割の重要性を整理する。	
第3回	保育の基本	事前学習	教科書 pp. 18～27 を読んでおく。	
		事後学習	子育て支援、地域や家庭とのつながりについてまとめる。	
第4回	0・1・2歳児の発達	事前学習	教科書 pp. 28～35 を読んでおく。	
		事後学習	3歳未満児の発達を踏まえた保育士等による援助やかかわりについてまとめる。	
第5回	0歳児の保育内容	事前学習	教科書 pp. 36～47 を読んでおく。	
		事後学習	0歳児の発達の特徴や保育内容を整理する。	
第6回	1歳以上3歳未満児の保育内容	事前学習	教科書 pp. 48～63 を読んでおく。	
		事後学習	1歳以上3歳未満児の発達の特徴や保育内容を整理する。	
第7回	乳児の生活と遊びの基本的事項(ふれあい遊び)	事前学習	教科書 pp. 64～81 を読んでおく。	
		事後学習	乳児の生活と遊びの基本的事項について整理する。	
第8回	乳児の生活の基本	事前学習	教科書 pp. 82～101 を読んでおく。	
		事後学習	保育者の援助と配慮を項目ごとに整理する。	
第9回	乳児の遊び(いないいないばあ遊び・製作)	事前学習	いないいないばあ遊びのデザインを考えておき、クーピー色鉛筆を用意する。	
		事後学習	保育者の遊びへのかかわりについて整理する。	
第10回	乳児の環境構成	事前学習	教科書 pp. 116～123 を読んでおく。	
		事後学習	保育室の環境について整理する。	
第11回	乳児保育における全体的な計画	事前学習	教科書 pp. 124～133 を読んでおく。	
		事後学習	乳児保育における計画の必要性についてまとめ、指導計画に基づく保育実践について整	

2020年度

			理する。
第12回	乳幼児期の読み聞かせ（簡易ミニ絵本）	事前学習	乳児が喜ぶお話を考え、クーピー色鉛筆を使用して簡易ミニ絵本を作製しておく。
		事後学習	乳幼児期子どもが喜ぶ絵本と読み聞かせのポイントをまとめる。
第13回	乳児保育における子育て支援	事前学習	教科書 pp. 134～143 を読んでおく。
		事後学習	住んでいる地域の子育て支援について調べ、整理する。
第14回	一人ひとりを健やかに育てていくために	事前学習	教科書 pp. 148～153 を読んでおく。
		事後学習	乳児保育における保育者の専門性についてまとめる。
第15回	乳児保育の授業でのまとめ	事前学習	乳児保育の授業で学んだことを振り返ってまとめる。
		事後学習	乳児保育における重要な内容をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	認知症の理解 I (2 単位)	3. 科目番号	SNMP2112 SSMP2312 SCMP2312 SBMP2312 SNMP2212
2. 授業担当教員	先崎 章		
4. 授業形態	講義、質疑応答形式を併用、ビデオ教材による知識の習得とディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>認知症の医学的、行動的、心理的、社会福祉的概要の理解を深めるよう努力します。将来社会人となるから、老人医療、地域社会、精神保健および精神保健福祉制度についても関心がいくよう、認知症に関連する知識の習得を目指します。具体的な達成目標レベルは、認知症ケア専門士認定試験の「認知症ケアの基本」分野で合格点をとれることです。また、最新の認知症治療や認知症予防についての理解を深めるために、ビデオ教材を適時使用します。</p> <p>少子高齢化が、かつて人類が経験したことのないスピードで進行しています。精神疾患（含、認知症）の増加、障害者概念の広がりにより、平成 25 年度から施行される新たな医療計画に 5 疾病 5 事業の一つとして精神疾患（含、認知症）が加わり、また同時に（介護保険法に準ずる形で）地域障害者総合支援法がスタートします。最近の福祉・医療の概要、動向についても理解を深めていきます。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士として必要な認知症の知識を身につける。 2. 脳の機能や老人の心理や精神疾患についての理解を深める。 3. 認知症に付随する身体症状や介護についての視点も身につける。 4. 家族の力や地域資源を活かす視点を身につける。 5. 認知症や高齢者に関する医療や制度の理解を深める 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>講義で取り上げた項目や学生の関心事項の中から、選択してレポート(文章と図を合わせてA4 4枚)を作成し提出する。</p> <p>詳細は授業の中で説明します。レポートの提出ではなくて、講義の中で一部時間をとって、発表の形式(コメントで内容を補う)にすることも考えています。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 山口晴保編『認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第2版』協同医書出版社。 日本認知症ケア学会編『認知症ケア標準テキスト改訂5版・認知症ケアの基礎』(株)ワールドプランニング。 『新・精神保健福祉士養成講座1 精神疾患とその治療 第2版』中央法規。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 認知症の介護や支援の原則や方法について、明瞭かつ論理的な説明をすることができるか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎回の提出物、授業態度 総合点の50% 2 課題レポート 総合点の10% 3 復習テスト(随時実施) 総計点の40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>毎回、A4判の資料を配布しますので、散逸しないよう、綴じていってください。認知症に対する医学的な知見や対応方法は、最近5年間をみてもまったく様変わりしています。最新の知見、トピック、話題を提供して、認知症や老人に対する興味や関心が持てるよう、視覚教材も交えて授業を工夫していきます。</p> <p>基本的な知識を習得するためには、地道な学習活動と基本事項を記憶していくことが必要です。医学的、科学的な知識、エビデンスに裏付けられた介護、支援、援助、社会福祉的な介入が将来できるように願って、授業を進行させていきます。具体的には「医学的なこと」「心理的なこと」「社会福祉的なこと」の3つの事例を進行させていきます。</p>		
13. オフィスアワー	木曜日(授業、会議のない時間帯)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、認知症の生活障害、症状 認知症の定義、原因疾患、MCI とは	事前学習	認知症の生活障害、症状について調べてみる
		事後学習	認知症についての配布プリントの復習
第2回	認知症の基礎、脳・海馬について 個室ユニットと相部屋	事前学習	認知症の介護の歴史について調べてみる
		事後学習	脳についての配布プリントの復習
第3回	認知症による脳の変化、認知症の診断について 最近のトピック	事前学習	各疾患の脳変性部位、およびタウタンパク、 アミロイドβタンパクを調べてみる
		事後学習	脳の変化についての配布プリントの復習
第4回	高齢者(認知症者)のうつと躁 認知症の介護の歴史(続き)	事前学習	うつ病、認知症、せん妄の違いを調べてみる
		事後学習	うつ病とせん妄、およびアルツハイマー病に ついての配布プリントの復習
第5回	認知症の人の行動・心理症状 BPSD への対応について	事前学習	BPSD の症状、要因、対応について調べてみる
		事後学習	BPSD についての配布プリントの復習
第6回	各種認知症の症状や対応の違い(若年認知症も含む)	事前学習	アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知 症について調べてみる
		事後学習	各種認知症についての配布プリントの復習
第7回	高齢者の認知症と若年者の高次脳機能障害との違い	事前学習	高次脳機能障害について調べる

2020年度

		事後学習	配布プリントの復習
第8回	認知症の人の生活理解、認知機能の変化が生活に及ぼす影響、治療可能な認知症	事前学習	認知症者の毎日の生活についてノートに記載してみる
		事後学習	認知症者の生活理解についての配布プリントの復習
第9回	認知症の人に対する介護 アルコール依存症合併例など特殊例への対応	事前学習	精神作用物質依存対応について復習する
		事後学習	認知症介護についての配布プリントの復習
第10回	認知症の理解、これまでの復習（主に医学的事項を中心に）	事前学習	認知症の理解復習プリントを記載してくる
		事後学習	認知症の理解復習プリントを完成させる
第11回	介護者自身の体験、家族のこころ 家族の力を活かす、こころを支える（介護者支援）	事前学習	介護を体験したことのある人のはなしを聞く
		事後学習	介護家族の力についての配布プリントの復習
第12回	認知症の対応、環境の大切さ、家族の会の役割について （地域生活支援）	事前学習	認知症の家族会について調べてみる
		事後学習	家族会および地域生活支援についての配布プリントの復習
第13回	認知症のケアの実際、についてのまとめ（医学的事項以外を中心に）	事前学習	第1回～12回のプリントを復習する
		事後学習	認知症のケアの実際についての配布プリントの復習
第14回	全体のまとめ 認知症や高齢者に関する最近のトピックス	事前学習	認知症関連のニュースや新聞記事を調べる
		事後学習	最近のトピックスについての配布プリントの復習
第15回	認知症に関する制度・関係機関、最近のトピックス、介護保険の今後	事前学習	地域障害者総合支援法について調べてみる
		事後学習	まとめ配布プリントの復習

1. 科目名(単位数)	発達心理学 (4単位)	3. 科目番号	PSMP2122 SPMP1112
2. 授業担当教員	後藤 進吾		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>従来発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目されはじめている。また、老人だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、発達心理学と福祉の関係を学習することの重要性が高まっている。</p> <p>そこで、本講義では、発達心理学の方法と考え方を学び、①認知機能の発達及び感情・社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、講義概要の①～⑤を学び、説明できるようになる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>事前学習において、授業で取り扱うテキストの部分を読みこみ、自身の経験・体験も踏まえ思考を巡らせておくこと。</p> <p>レポート課題は各年齢における発達課題と課題に対する支援や社会のあり方に関して2000字程度でまとめ、第30回の講義時に提出する。レポートの詳細に関しては講義内で提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子 著『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』有斐閣</p> <p>また適宜、スライドやプリント(まとめ課題としてのワークシートなど)も配布する。</p> <p>【参考書】必要に応じて、適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>次の1、2について理解し説明できるか。</p> <p>1. 生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程</p> <p>2. 正常な発達と発達の障害の理解と支援</p> <p>○評定の方法</p> <p>平常点(授業態度・授業への参加・授業内諸活動) 50%</p> <p>まとめの課題(テスト・レポート・発表などの活動) 50%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明します。受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。		
13. オフィスアワー	授業時に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを熟読する
		事後学習	講義概要、学習目標、成績評価の方法について確認する。
第2回	発達心理学の考え方	事前学習	テキストの「序章」を読む
		事後学習	ワークシートの作成
第3回	発達とは?	事前学習	テキストの「第1章」を読む
		事後学習	ワークシートの作成
第4回	生命の芽生えから誕生まで①	事前学習	テキスト「第2章」pp.28~35までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第5回	生命の芽生えから誕生まで②	事前学習	テキスト「第2章」p35~41までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第6回	赤ちゃんが捉える世界	事前学習	テキスト「第3章」を読む
		事後学習	ワークシートの作成
第7回	コミュニケーションと人間関係の発達①	事前学習	テキスト「第4章」pp.54~59までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第8回	コミュニケーションと人間関係の発達②	事前学習	テキスト「第4章」pp.59~68までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第9回	ことばと遊びの発達	事前学習	テキスト「第5章」を読む
		事後学習	ワークシートの作成
第10回	関わりの中で育まれる自己①	事前学習	テキスト「第4章」pp.84~91までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第11回	関わりの中で育まれる自己②	事前学習	テキスト「第6章」pp.91~97までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第12回	仲間の中での発達	事前学習	テキスト「第7章」を読む
		事後学習	ワークシートの作成
第13回	思考の深まりと学校での学び	事前学習	テキスト「第8章」を読む
		事後学習	ワークシートの作成
第14回	子どもからの卒業①：思春期と自我の発達	事前学習	テキスト「第9章」pp.124~129までを読む
		事後学習	ワークシートの作成

2020年度

第15回	子どもからの卒業②：青年期の対人関係	事前学習	テキスト「第9章」 pp.130~139 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第16回	ここまでの学習のまとめ	事前学習	テキストの学習内容を再読する
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第17回	発達をつまづきへの理解と支援①	事前学習	テキスト「第13章」 pp.190~200 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第18回	発達をつまづきへの理解と支援②	事前学習	テキスト「第13章」 pp.200~209 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第19回	発達を理解のために：発達検査（基礎）	事前学習	知能検査に関して調べ、疑問点を整理しておく
		事後学習	ワークシートの作成
第20回	大人になるために①：成人期の課題	事前学習	テキスト「第10章」 pp.140~149 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第21回	大人になるために②：成人期を生きるということ	事前学習	テキスト「第10章」 pp.149~157 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第22回	大人として生きる①：役割の中での発達	事前学習	テキスト「第11章」 pp.158~166 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第23回	大人として生きる②：関わりの中での発達	事前学習	テキスト「第11章」 pp.166~172 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第24回	老年期の心理：人生を振り返る①	事前学習	テキスト「第12章」 pp.173~181 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第25回	老年期の心理：人生を振り返る②	事前学習	テキスト「第12章」 pp.181~189 までを読む
		事後学習	ワークシートの作成
第26回	認知症の理解と支援①	事前学習	認知症について調べ、疑問点を整理しておく
		事後学習	ワークシートの作成
第27回	認知症の理解と支援②	事前学習	前回の学習内容を再確認しておく
		事後学習	ワークシートの作成
第28回	認知症の理解と支援③	事前学習	前回の学習内容を再確認しておく
		事後学習	ワークシートの作成
第29回	全体のまとめ	事前学習	レポート提出の準備をする
		事後学習	授業のまとめをノートに記載する
第30回	講義の確認と振り返り	事前学習	記載した授業のまとめを見直す
		事後学習	レポートでテーマにした部分に関連するテキストの章を再読する

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (2単位)		3. 科目番号	EDPS2304 SSMP2342 SBMP2342 SCMP2342 SNMP2342 SPMP2342
2. 授業担当教員	後藤 進吾			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ討議・発表	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	今日の発達心理学は、人間の受精から死までを扱う「生涯発達心理学」を意味する。本講義では、最初に発達の全体的なプロセスやメカニズムについて、概観する。そして、身体、認知、感情、言語、社会性など、それぞれの機能がどのように発達していくか、考えたい。また、現代の少子高齢化社会や情報社会特有の問題と発達との関係、幼児や児童、生徒の心身の発達を踏まえて、主体的な学びをさせる指導法、関わり方についても講義、ディスカッション等を行いながら、学習を進めていく。			
8. 学習目標	(1) 発達の過程および特徴を理解するための基本的概念および代表的な理論を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解することにより、幼児や児童・生徒の学習を支える指導の基本的知識と視点を持ち、さまざまな発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できるようにすることを通して、幼児や児童・生徒の主体的な学びを保障するあり方を体得できる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	事前学習において、授業で取り扱うトピックに関し、自身の経験・体験も踏まえ思考を巡らせておくこと。これは、各発達段階において、自身の発達や親、祖父母の世代に目を向け、日常の振り返りと学習内容の結びつきを確認するためである。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特に指定しない。スライドやプリントを使用する。 【参考書】 内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。 坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子 著『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』有斐閣			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (1) 発達の過程および特徴を理解するための基本的概念および代表的な理論を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解することにより、幼児や児童・生徒の学習を支える指導の基本的知識と視点を持ち、さまざまな発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できるようにすることを通して、幼児や児童・生徒の主体的な学びを保障するあり方を体得できる。 ○評定の方法 ・試験・小テスト等 40% ・レポート等課題研究 20% ・平常点 (授業態度、ディスカッションへの参加、発表、発言) 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明します。受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。			
13. オフィスアワー	決定次第、通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション：発達心理学と自己理解	事前学習	生涯発達の概念について考え、自身のこれまでの発達について振り返る。	
		事後学習	生涯発達と自身の人生の関連について理解を深める。	
第2回	胎児期・新生児期：	事前学習	自身、あるいは一般的な胎児期・乳幼児期の発達について調べまとめてくる。	
		事後学習	ワークシートを用いて胎児期・新生児期の発達を振り返る。	
第3回	乳児期：情緒・親子関係、ボウルビイの愛着理論	事前学習	自身、あるいは一般的な乳児期の発達について調べまとめてくる。	
		事後学習	ワークシートを用いて乳児期・幼児期の発達を振り返る。	
第4回	幼児期：自己と遊び、言語の発達	事前学習	自身、あるいは一般的な幼児期の発達について調べまとめてくる。	
		事後学習	ワークシートを用いて幼児期の発達を振り返る。	
第5回	児童期：友人関係と道徳性の発達、ピアジェの認知発達理論	事前学習	自身、あるいは一般的な児童期の発達について調べまとめてくる。	
		事後学習	ワークシートを用いて児童期の発達を振り返る。	
第6回	児童期：発達障害と児童虐待	事前学習	発達障害や児童虐待に関する記事や事例を調べ、疑問や自身の考えを整理する。	
		事後学習	ワークシートを用いて、発達障害や児童虐待に対する理解を深める。	
第7回	これまでのまとめと小テスト	事前学習	配布資料を確認し、疑問点を整理する。	

2020年度

		事後学習	これまでの学習内容を振り返り、発達の連続性を確認する。
第8回	青年期前期：精神的な自立	事前学習	自身、あるいは一般的な青年期前期の発達について調べまとめてくる。
		事後学習	ワークシートを用いて青年期前期の発達を振り返る。
第9回	青年期後期：アイデンティティの確立	事前学習	自身、あるいは一般的な青年期後期の発達について調べまとめてくる。
		事後学習	ワークシートを用いて青年期後期の発達を理解する。
第10回	成人期前期：親密性と世代性	事前学習	「親になる」ことと「親をする」ことの違い、親になることで変化することを事前に調べ、考えておくこと。
		事後学習	ワークシートを用いて成人期前期の発達を理解する。
第11回	成人期後期：子どもの巣立ちと第2の人生	事前学習	自身、あるいは一般的な親世代が直面する課題について事前に調べ、考えておくこと。
		事後学習	ワークシートを用いて成人期後期の発達を理解する。
第12回	高齢期：人生を振り返る	事前学習	高齢者が抱える生活上ないし心理的な課題を推測し、調べ、自身の考えをまとめておくこと。
		事後学習	ワークシートを用いて高齢期の発達を理解する。
第13回	学生の視点から捉えた主体的な学びの演習・第1回目のグループ・プレゼンテーション	事前学習	これまでの学習内容の中から特に興味・関心を持ったテーマを選び、学生の視点からまとめ、パワーポイントによる発表準備を行う。質疑応答にも備える。
		事後学習	他のグループの発表内容を振り返る。
第14回	学生の視点から捉えた主体的な学びの演習・第2回目のグループ・プレゼンテーション 相互評価	事前学習	これまでの学習内容の中から特に興味・関心を持ったテーマを選び、学生の視点からまとめ、パワーポイントによる発表準備を行う。質疑応答にも備える。
		事後学習	他のグループの発表内容を振り返る。
第15回	全体のまとめ・小テスト	事前学習	授業内容を振り返り、生涯発達の視点から主体的な学びとは何かを考える。
		事後学習	発達の本質について考察する。

1. 科目名 (単位数)	発達と老化の理解Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SNMP2111 SSMP2311
2. 授業担当教員	中里 克治			SCMP2311 SBMP2311 SNMP2311
4. 授業形態	講義	5. 開講学期		秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	介護福祉士は、高齢者の介護を行うことが多い。老年期では、正常な発達過程である正常老化だけではなく、病的な老化についても同時に学ぶ必要がある。それは、中年期までの発達では、病的な発達の影響を受ける人が少ないが、老年期、特に老年期後期では多くの人が病的な過程の影響を受けるからである。そこで、Ⅰで学んだ乳児期から中年期までの発達を基礎として、Ⅱでは老年期について学ぶ。			
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解し、説明できるようになる。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学んでゆく。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	随時、課題を出す。最終のレポートを書いてもらう。 最終レポート課題：高齢者の介護では、身体面の介護を中心に行う。しかし、特別養護老人ホームを見ると、認知症やうつ病などの老年期特有の精神障害を持つ高齢者が大部分を占めている。そのほかにも、青年期や中年期に発病した統合失調症などを抱えながら、高齢期に達した人々もまれではない。高齢者を介護で、心のケアのためにケアワーカーとして何ができるかについて、2000字程度で述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 下仲順子編『老年心理学 (改訂版)』培風館。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1)生涯発達の中での高齢期までの正常発達と発達異常について理解できたか 2)どのような発達支援ができるかについて理解できたか 3)発達支援の具体的方法についても理解できたか ○評定の方法 学則で決められた単位取得の条件を満たしていること (3/4 以上の出席) を前提として、授業への積極的参加に毎回提出する授業へのコメントを加味し (50%)、期末レポート (50%) の結果を総合的に判断する			
12. 受講生へのメッセージ	ここで学ぶ事はこれから大分後に体験することである。心理学では問題を自分のこととして考える態度が大切である。親や祖父母など身近な人々の体験からも多くを学ぶことができる。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	高齢者心理学研究の歴史	事前学習	高齢者心理学研究はいつ始まったか、老化の概念にはどのようなものがあるかを調べてまとめる。pp. 1-12	
		事後学習	高齢者心理学研究でどのような研究方法が使われているか調べてまとめる。pp. 9-11	
第2回	高齢社会の到来	事前学習	日本での高齢化の進行状況を調べてまとめる。pp. 13-18	
		事後学習	人口の高齢化がもたらす社会の状況の変化をまとめる。pp. 19-22	
第3回	高齢期の健康、身体疾患	事前学習	年を取るとはどのようなことか考察する。pp. 24-32	
		事後学習	体と心の老化 pp. 24-36	
第4回	高齢期の精神疾患	事前学習	高齢期特有の精神疾患には何があるか調べる。pp. 38-44	
		事後学習	高齢期特有の疾患と疾患もつての老化をまとめる。pp. 38-44, pp. 48-50	
第5回	高齢期の感覚、知覚機能の加齢変化	事前学習	「年を取るとはどのようなことか」について、自分の考えをまとめる。pp. 52-55	
		事後学習	体と心の老化 pp. 52-62	
第6回	高齢者の記憶	事前学習	「年を取ると物忘れするようになるのか」について自分の考えをまとめる。pp. 64-67	
		事後学習	記憶の種類と加齢の関係性についてまとめる。pp. 64-71 プリントの参照のこと	
第7回	知能と加齢	事前学習	「年を取ると“ぼける”のか」について自分の考えをまとめる。pp. 38-43 第3回のプリントも参照	
		事後学習	知能の加齢と関係する要因を調べてまとめる。pp. 79-81	
第8回	人格と加齢	事前学習	パーソナリティの老化について調べる。pp. 89-106	
		事後学習	「パーソナリティは老化で変わるのか」について自分の考えをまとめる。pp. 98-106	
第9回	高齢期の適応	事前学習	高齢期の適応の問題点を調べる。pp. 109-112	
		事後学習	ライフスタイルとパーソナリティについて調べる。pp. 109-116 プリントも参照	

2020年度

第10回	高齢期の家族	事前学習	少子高齢化と家族の関係について調べる。 pp. 122-129
		事後学習	「高齢者にとって家族の持つ意味」について自分の考えをまとめる。pp. 16-132
第11回	高齢期の対人関係と社会生活	事前学習	高齢者の人間関係はどのようなものかについて調べる。pp. 134-145
		事後学習	高齢者の社会参加とソーシャルサポートの重要性をまとめる。pp. 134-145
第12回	死と死にゆく過程	事前学習	「自分の死に対する考え方」を確かめ、まとめてみる。pp. 147-149
		事後学習	「死に向かう人に何が出来るか」について自分の考えをまとめる。pp. 149-158
第13回	高齢者の認知、 知能・記憶機能の測定	事前学習	知能・記憶機能の測定方法について調べる。 pp. 160-170
		事後学習	神経心理学的検査について調べる。 pp. 168-170
第14回	高齢者の人格、精神健康の測定、 心理療法	事前学習	高齢者の心理療法について調べる。 pp. 185-198
		事後学習	対象別の心理査定と心理療法について調べてみる。pp. 172-198
第15回	まとめ	事前学習	「人生の意味」について自分の考えをまとめる。第8回、第9回を参考に
		事後学習	「死の意味」について自分の考えをまとめる。死によって人生が完結する。死に積極的な意味付けができるでしょうか。

1. 科目名 (単位数)	比較日本文化論 (2単位)		3. 科目番号	EIJ2382
2. 授業担当教員	野口 芙美			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>世界には多くの文化が存在し、文化間で共通性もあれば、固有性や多様性もある。国際化が進む日本文化の多様性を理解するためにも、他文化との比較を通して、その特徴を捉えることが必要になる。また、文化の内外から日本文化を捉えなおす視点も、日本文化を理解するためには重要になる。</p> <p>本講義では、受講生自身の出身やその他の国や地域の現状と比較しながら、日本文化の特質や日本人のアイデンティティについて、考えていきたい。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 日本文化について、客観的に考えることができるようになる。</p> <p>2. 日本人のアイデンティティの形成について理解することができるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 毎授業ごとにワークシートを配布し、それに沿ってペアワークやグループワークを行いながら授業を進める。ペアワーク・グループワークでの内容は授業後にワークシートにまとめ、授業の感想とともに次回の授業で提出する。</p> <p>2. 身近な日本語非母語話者に日本や日本人、日本語についてのインタビューを行い、その内容を発表する (第8回)。発表後、インタビュー内容に考察を加え、レポートにまとめて提出する。</p> <p>3. 指定した日本文化論、比較文化論に関する文献を一冊選んで読み、ビブリオバトル形式でその内容や感想をまとめて発表する (第14回)。発表後、読書感想文として本のあらすじ、感想をレポートにまとめて提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】各講義で資料を配布する。</p> <p>【参考書】池田雅之・瀧澤正彦編著『比較文化のすすめ－日本のアイデンティティを探る必読 55冊』成文堂、2012、剣持武彦『言語生活と比較文化』朝文堂、1995 ※その他、授業内で適宜紹介する。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 (学習目標)</p> <p>1. 日本文化について、客観的に考えることができたか。</p> <p>2. 日本人のアイデンティティの形成について理解することができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 授業態度 20% : 積極的な参加。私語、居眠り、飲食、携帯電話などの使用は厳禁。</p> <p>2. 小レポート 40% : 授業の感想、随時課す課題の内容と提出期限の遵守により評価。</p> <p>3. 試験 40% : 基礎知識などの習得の程度により評価。</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は原則として認められない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、様々な文献や資料をもとに、日本文化を他文化と比較しながら主観的および客観的に見ていく。日本文化と考えられているものがどのようなアイデンティティの下に成り立っているのか、外から見たステレオタイプの日本・日本人が実際とどのように異なるのかなどにも興味を持って参加してほしい。</p>			
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション、比較文化とは何か	事前学習	海外で受けたカルチャーショックにはどんなものがあったか、これまでの経験を振り返っておく。	
		事後学習	身近な日本語非母語話者に、日本、日本人、日本語、日本文化についてインタビューする (第8回で発表)。	
第2回	日本語と日本文化：日本語の発想、高コンテクスト文化	事前学習	日本語には他の外国語と比べてどんな特徴があるか、考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第3回	日本人のコミュニケーション：あいづち、談話構造	事前学習	日本人にとってのあいづちとはどんなものか、日本人の談話構造について考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第4回	日本人のコミュニケーション：話しことば・書き言葉、気配り	事前学習	日本人がコミュニケーションでどのような気配りをしているか考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第5回	日本語と比較文化：日本人の間とリズム、「にじみ」「ぼかし」「折りめ」「けじめ」	事前学習	日本人にとっての「間」とはどんなものか、「にじみ」「ぼかし」「折りめ」「けじめ」とは何か考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第6回	言語生活と比較文化：日本人と音、「腰」と坐	事前学習	日本人はどのような音を気にするか、日本人にとって「腰」とは何か考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	
第7回	日本の構造：タテかヨコか	事前学習	日本は「タテ社会」なのか、それとも「ヨコ」の構造なのか、それぞれどのような考察が可能か考えてくる。	
		事後学習	ワークシートをまとめる (次回授業で提出)。	

2020年度

第8回	日本語についてのインタビュー発表	事前学習	インタビュー内容をまとめ、発表準備をする。
		事後学習	発表内容をレポートにまとめる。
第9回	比較文化としての日本人論：甘え、美意識、宗教観	事前学習	「甘え」とは何か、定義を考えてくる。自分は宗教についてどんな考えを持っているか、整理してくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第10回	日本のアイデンティティと基層文化：日本人の「あの世」観、大衆文化	事前学習	大衆文化にはどのようなものがあるか、考えてくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第11回	「危機」の中の文明と文化：東日本大震災、原発報道	事前学習	東日本大震災時、自分や周りの行動、またどのような報道があったか、振り返っておく。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。読む本を決定する（第14回で発表）
第12回	動物説話の国際比較：『うさぎとかめ』	事前学習	事前配布資料（民間説話資料）を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第13回	魔法説話の国際比較：『シンデレラ』	事前学習	事前配布資料（民間説話資料）を読んでくる。
		事後学習	ワークシートをまとめる（次回授業で提出）。
第14回	ビブリオバトル：日本文化論・比較文化論文献発表	事前学習	読んだ本の内容、感想を整理し、発表準備をする。
		事後学習	他の学生の発表文献についての感想、コメントをまとめる（次回授業で提出）。
第15回	これまでの内容の振り返り、レポートの準備	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	レポート（読書感想文）を作成する。

1. 科目名 (単位数)	病原微生物学 (2単位)	3. 科目番号	EDHE2312
2. 授業担当教員	橋本 由利子		
4. 授業形態	講義、ワークシート提出、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>細菌やウイルスなどの微生物の中には、ヒトや動植物に病気を起こすものがある。病原微生物学はこれら病原性のある微生物を対象とする。人類はその歴史が始まって以来、数々の微生物感染症と闘ってきたが、自然科学の進歩とともに抗生物質やワクチンが開発され、公衆衛生や栄養状態の改善等とあいまって、先進諸国では感染症はほぼ制圧できたと思われた。しかし、近年の新興・再興感染症の広がりや薬剤耐性菌による院内感染、高齢者や免疫力の低下している人々の日和見感染など、病原微生物との戦いには終わりが無いことが明らかとなった。また、開発途上国の人々にとっては感染症は依然として脅威である。</p> <p>本科目ではこのような状況を踏まえ、微生物とは何かという基礎から、ヒトにおける生体防御システム、感染症の予防対策まで幅広く理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 微生物感染症の歴史と現状について説明することができるようになる。 2) 微生物の種類(細菌・ウイルス・真菌・原虫)とその基本構造について説明することができるようになる。 3) 感染症の成立要因(①感染源、②感染経路、③宿主の感受性)について説明することができるようになる。 4) 感染源・感染経路への対策について説明することができるようになる。 5) 感受性対策について説明することができるようになる。 6) 生体防御システムについてその概略を説明することができるようになる。 7) 主な微生物感染症について説明することができるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. その日に学習したことを整理するために、毎回ワークシートを提出する。 2. グループで主な微生物感染症に関してテーマを決め、発表する。 3. 常在微生物を用いた実習レポートを作成する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田爪正氣ほか著『新・感染と微生物の教科書』研成社。</p> <p>【参考書】 吉田真一、南嶋洋一著『系統看護学講座 専門基礎分野6 微生物学』医学書院。 福岡 伸一著『生物と無生物のあいだ』講談社現代新書。 吉川 昌之介著『細菌の逆襲』中公新書。 田爪正氣・築地真美著『ウイルスの手帳』研成社。 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病原微生物の種類、感染症の成立要因、感染症対策などについて説明できるようになったか。 2. 主な微生物感染症と生体防御についてその概略を説明することができるようになったか。 <p>○評定方法</p> <p>[日常の授業態度、提出物等を総合して評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業態度(参加、実践、発表、態度) 総合点の50% 2. 課題レポート・期末試験など 総合点の50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>人と病気の歴史は、人と微生物の闘いで始まり、現在も続いている。先人たちの病気との闘いの中で生まれた知恵をしっかり学び、これからの保健・医療・福祉の中で役立てよう。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。質問はメールでも受け付けます。yuhashim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	微生物の基礎知識(微生物の地球上における役割、病原微生物とは何か、新興感染症・再興感染症、薬剤耐性菌、院内感染、日和見感染症)	事前学習	教科書第1章A「ヒトに病気を起こす微生物」を読んでくる
		事後学習	病原微生物とは何かを復習し、ワークシートを提出する
第2回	微生物の種類(細菌、真菌、原虫、ウイルス)とその基本的構造	事前学習	教科書第1章C「病原体の基本構造」を読んでくる
		事後学習	微生物の基本構造についてまとめワークシートを提出する
第3回	細菌の性質(構造と特徴、細菌の培養と増殖、細菌の遺伝、細菌の分類、常在細菌と常在細菌叢)	事前学習	教科書第1章D「病原体の増え方」を読んでくる

		事後学習	細菌の性質についてまとめ、ワークシートを提出する
第4回	ウイルスの性質（構造と特徴、ウイルスの培養と増殖、ウイルスの分類）、真菌・原虫の特徴	事前学習	教科書第1章D「病原体の増え方」を読んてくる
		事後学習	ウイルスの基本構造についてまとめ、ワークシートを提出する
第5回	感染症の成立要因（病原体、感染経路、感受性者の存在が同時に存在すること） 感染症の予防対策 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）	事前学習	教科書第2章「感染症とは」を読んてくる
		事後学習	感染症の成立要因とその予防対策についてまとめワークシートを提出する
第6回	感染経路対策：滅菌と消毒（滅菌と消毒の違い、滅菌法、消毒法、消毒薬の種類と効果、標準予防策（スタンダードプリコーション）、手洗い方法）	事前学習	教科書第4章E「滅菌・消毒」を読んてくる
		事後学習	滅菌と消毒についてまとめ、ワークシートを提出する
第7回	病原体対策：感染症の治療（化学療法剤の作用メカニズム、抗生物質、抗菌スペクトル、薬剤感受性試験、最小発育阻止濃度（MIC）、薬剤耐性）	事前学習	教科書第3章G「感染症の治療」を読んてくる
		事後学習	感染症の治療についてまとめ、ワークシートを提出する
第8回	感受性者対策：免疫のしくみ（自然免疫と獲得免疫、免疫担当細胞、体液性免疫と細胞性免疫、抗原抗体反応）、予防接種（定期接種と任意接種、ワクチンの種類）	事前学習	教科書第5章「感染防御のしくみ」を読んてくる
		事後学習	免疫の仕組みについてまとめ、ワークシートを提出する
第9回	主な微生物感染症①（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、感染経路、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んてくる
		事後学習	感染症法1類感染症、2類感染症、3類感染症についてまとめ、ワークシートを提出する
第10回	主な微生物感染症②（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、感染経路、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んてくる
		事後学習	感染症法4類感染症およびHIV感染症についてまとめ、ワークシートを提出する
第11回	主な微生物感染症③（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、感染経路、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んてくる
		事後学習	性感染症、食中毒を起こす微生物についてまとめ、ワークシートを提出する
第12回	主な微生物感染症④（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、感染経路、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んてくる
		事後学習	ウイルス性かぜ症候群やウイルス性肝炎についてまとめ、ワークシートを提出する
第13回	常在微生物を用いた実習（各種手洗い前後の手に存在する細菌を培養する）	事前学習	教科書第4章A「標準予防策」を読んてくる
		事後学習	手洗い方法と細菌実習の内容をまとめてくる
第14回	常在微生物を用いた実習（培養結果を観察し、手洗いの効果を考察する）	事前学習	細菌実習の結果を予想する
		事後学習	細菌実習の結果を観察して考察を加えレポートを提出する
第15回	まとめ	事前学習	病原微生物学で作成し返却されたワークシートを見直す
		事後学習	学習したことを振り返り、養護教諭や保健科教諭としての病原微生物に対する基本的考え方や感染制御方法をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	病弱教育Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SNMP3451 SCMP3451 SBMP3451 SSMP3451 SSMP3351
2. 授業担当教員	立松 英子		
4. 授業形態	病弱教育Ⅰを踏まえた講義・演習・模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	病弱教育Ⅰを履修してから本授業を受けることが望ましい		
7. 講義概要	近年、小児医療においては6ヶ月以上の長期入院は少なくなり、入院と退院を繰り返しながら家庭や地域で過ごす治療形態がとられるようになってきている。病弱教育の対象は、小児がんや腎疾患など小児慢性特定疾患のみならず、心因性の障害から不登校となり入院加療を必要とする児童生徒、また、病院や重症心身障害児施設に併設される特別支援学校では、呼吸障害、摂食障害等、生命にかかわる重篤な障害を合併し、医療的ケアが不可欠な児童生徒も教育が受けられるようになってきている。本科目では、多様化重症化する病弱教育における実践を念頭に、個々の状態を思いやり、適切な配慮ができる倫理観や実践力を身につける。		
8. 学習目標	<p>【期待される効果】以下に関して基礎的知識が身につく、初歩的な実践ができる。</p> <p>①多様な病虚弱児の病態。 ②生涯を見通し、その心理と生活実態を踏まえた教育的支援。 ③授業に向けた、実態把握、学習指導案や教材教具の作成。 ④適切な配慮事項を含んだ個別の指導計画・教育支援計画の作成。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教科書を参考に、グループで模擬授業を行い、指導案を提出してください。指導案は、展開部分は共通でも、「指導観(題材観、児童生徒観、教材観)」の部分を各自考えて、全員が提出してください。途中で小テストを行います。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】全国病弱教育校長会『病弱教育Q&A PartⅢ(教科指導編)』ジエース教育新社、2004</p> <p>【参考書】①独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・全国特別支援学校病弱教育校長会『病気の子どもの理解のために』 http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryoku/byoujyaku/supportbooklet.html</p> <p>②文部科学省『教育支援資料』 Webサイト http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm</p> <p>③文部科学省『特別支援学校教育要領 学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)(平成30年3月)』開隆堂</p> <p>④文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)(平成30年3月)』開隆堂</p> <p>⑤文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)(平成30年3月)』開隆堂</p> <p>(③~⑤は、「知的障害教育Ⅰ」「病弱教育Ⅰ」と共通する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 病気の状態をふまえた授業実践に興味関心を持ち、教材や指導案の準備に真剣に取り組んだか。 医療や福祉の関係者との連携の上に学校の取組みが成り立つことが理解できたか。</p> <p>○評定の方法 実際に教壇に立ったときに、教師としての計画性と柔軟性をもって実践できるかを念頭において評価する。</p> <p>1. 模擬授業の準備(教材作り、指導案作成など)、実践 総合点の30% 2. その他の授業態度 総合点の20% 3. 期末試験 総合点の50%</p> <p>*なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>①本授業では、知的障害のない病弱者を対象とした模擬授業を行っていただきます。教材準備もその中で行います。授業はチームワークの勉強でもあります。実際に教師になったつもりでやりましょう。</p> <p>②「病気の子ども」がいるのではなく、子どもや家族の人生があつてそこに病気があります。このことをふまえて、普段から教師としての感性や資質を磨きましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション/病虚弱児とは	事前学習	病弱教育Ⅰで学習した内容を振り返っておく。
		事後学習	学校教育法施行令第22条の3での病弱者の定義を暗記しておく。
第2回	病弱教育の場、担当する教師の役割	事前学習	病弱教育の場について、教科書のp.14の図を見て確認しておく。
		事後学習	通常学級の教師及び病弱特別支援学校の教師の立場で、役割について整理しておく。
第3回	病虚弱児の教科指導と授業作り	事前学習	学習指導要領解説(総則等編)で、病弱児の教科指導の配慮事項を調べておく。
		事後学習	教科書の各指導例で「配慮事項」の部分に線を引いておく。
第4回	指導案及び個別の指導計画の作成	事前学習	教科書にある「個別の指導計画」例を読んでおく。

		事後学習	指導案がどのような組み立てになっているか確認しておく。
第5回	教材・教具についての基本的概念	事前学習	教科書にある教材教具の内容とねらいについて、調べておく。
		事後学習	教材教具の意義についてまとめておく。
第6回	重症心身障害児の教育	事前学習	「重症心身障害児」とは何か、どのような場で暮らしているのか調べておく。
		事後学習	「重症心身障害児」の学習内容について確認しておく。
第7回	不登校児（心因性障害や発達障害による）への対応	事前学習	「不登校」の定義とは何か調べておく。
		事後学習	学校に行けなくなる要因について、まとめておく。
第8回	病虚弱児の教科指導への配慮事項（まとめ）	事前学習	第1回～7回までの学習内容を整理しておく。
		事後学習	教科書 各指導事例の「指導上の配慮事項」を読んで、模擬授業の指導案に生かす。
第9回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第10回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第11回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第12回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	授業のテーマを選び、指導案、教材を用意する。
第13回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第14回	演習 （指導案作成、教材作り、模擬授業）	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第15回	病弱教育の現状と課題（まとめ）	事前学習	第1回～15回までの学習内容を整理しておく。
		事後学習	答えられなかった部分、気づかなかった部分を確認しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	病弱教育総論 (2単位)		3. 科目番号	SSMP3456 SNMP3456 SCMP3456 SBMP3456
2. 授業担当教員	立松 英子			
4. 授業形態	講義・演習 講義による基礎理論の習得に基づき、グループ討議等のアクティブ ラーニングにより、履習者同士の実践的な学び合いを重視します。	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	知的障害特別支援学校数は増加傾向にある。対して、病弱教育特別支援学校数は微減に転じている。しかしそれは単に長期入院しながら院内学級や特別支援学校に通う子どもたちが減ったことだけが理由であり、病虚弱児自体が減少しているわけではない。むしろ総数は増える傾向にあり、また子どもたちが抱える病気の種類も多様になっている。本講座では「病気の子どもたちに対する教育」の概念から学校における指導、支援に至るまでを系統的に取組み、病弱教育における指導・支援の在り方を学び、指導実践力を兼ね備えた教員をめざす。			
8. 学習目標	以下に関して学習し理解を深め、指導実践力を高める。 1. 病弱教育の概念についての理解を深め、「病気の子ども」の実態把握ができるようになる。 2. 「病気の子ども」の教育の課題、教育課程等について理解を深め、学習活動を考えられるようになる。 3. 「病気の子ども」の抱える疾病状況・配慮事項等を理解し、個に応じた指導内容・方法を考えられるようになる。 4. 病弱教育の今後の課題及び方向性を考え、病弱教育の在り方等を考え、発表できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 授業で提出するテーマに沿って、慢性的疾患と共に生きていく子どもたちの課題について考えます。 授業ごとにまとめたレポート(A4 1~2枚)を提出します (到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを準備してください。			
10. 教科書・参考書・ 教材	NISE (国立特別支援教育総合研究所) Health Center 病弱教育支援冊子 病気の子どもの理解のために http://forum.nise.go.jp/health-c2/htdocs/index.php?page_id=158			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. グループワークにおけるレポート課題の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 分かりやすい表現方法や具体的かつ論理的な文章作成力が身に付いたか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加 総合点の40% 2. テスト・レポート・発表などの活動 総合点の60% *なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。			
12. 受講生への メッセージ	病弱教育特別支援学校の設置数は他の校種と比べて少ないですが、病弱教育を受ける子どもは通常の学校や他障害種の特別支援学校にも数多く通っています。主症状となる慢性疾患のみならず、しばしば合併する心身症への対応、また、さまざまな家庭の事情、兄弟姉妹への配慮など、教師に必要とされる専門性の幅は広いです。彼らの自己肯定感を高め、生への希望を持たせることが病気への抵抗力を培い、早期の治癒や寛解(病状が一時的に安定すること)を可能にするといわれています。その意味で医療の側からの病弱教育への期待は高く、その期待に応えるためには、子どもの命と正面から向き合う真摯な姿勢が求められます。			
13. オフィスアワー	第1回目の講義で詳細を伝えます。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 病弱、病虚弱とは	事前学習	病弱・病虚弱の定義を振り返る	
		事後学習	学校教育法施行令第22条の3の別表で確認しておく	
第2回	関連法令と学習指導要領	事前学習	学校教育法施行令や特別支援学校学習指導要領で「病弱者」の項目を調べておく	
		事後学習	レジュメを振り返り、整理しておく	
第3回	病気の子どもの生活を支える福祉について	事前学習	病気の子どもを支える福祉の制度について調べておく	
		事後学習	レジュメを振り返り、整理しておく	
第4回	白血病	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「白血病」を読んでおく	
		事後学習	「血友病」についての知識を整理しておく	
第5回	血友病	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「血友病」を読んでおく	
		事後学習	[血友病]についての知識を整理しておく	
第6回	てんかん	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「てんかん」を読んでおく	
		事後学習	[てんかん]についての知識を整理しておく	
第7回	筋ジストロフィー	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「筋ジストロフィー」を読んでおく	
		事後学習	[ムコ多糖症]についての知識を整理しておく	
第8回	胆道閉鎖症	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「胆道閉鎖症」を読んでおく	
		事後学習	[胆道閉鎖症]についての知識を整理しておく	
第9回	肥満	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「肥満」を読んでおく	

2020年度

		事後学習	[肥満]についての知識を整理しておく
第10回	脳腫瘍①	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「脳腫瘍」を読んでおく
		事後学習	[脳腫瘍]についての知識を整理しておく
第11回	脳腫瘍②	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「色素性乾皮症」を読んでおく
		事後学習	[色素性乾皮症]についての知識を整理しておく
第12回	もやもや病	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「もやもや病」を読んでおく
		事後学習	[もやもや病]についての知識を整理しておく
第13回	ペルテス病	事前学習	NISE Health Center 病類別支援冊子「ペルテス病」を読んでおく
		事後学習	[ペルテス病]についての知識を整理しておく
第14回	心の病	事前学習	NISE Health Center 病弱教育支援冊子「病気の子どもの理解のために 第2巻「ここの病編」」を読んでおく
		事後学習	「心の病」についての知識を整理しておく
第15回	まとめ	事前学習	これまでの学習でわからなかった部分を特定し、授業で質問する。
		事後学習	レジュメを振り返っておく

1. 科目名(単位数)	福祉科指導法 (4単位)	3. 科目番号	SSMP3341 SSMP3441 SCMP3441 SBMP3441 SNMP3441
2. 授業担当教員	大門 俊樹		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	高等学校福祉科の主旨、目標、科目構成と内容についての理解を図る。また、問題演習などを通して、福祉科の授業を行う上で必要な社会福祉の基礎的・専門的知識や技術についても整理する。さらに、受講生全員が模擬授業をつくりあげることにより、福祉科教員としての基礎を確立することを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校福祉科の設置経緯と位置づけについて理解し説明できるようになる。 2. 福祉科の教育目標と教育内容について理解し説明できるようになる。 3. 各科目(新教育課程9科目)に関して理解し説明できるようになる。 4. 教材研究と指導案作成について理解し、模擬授業の計画に備え発表できるようになる。 5. 授業展開例と授業評価について理解し説明できるようになる。 6. 模擬授業を計画し、実際に全員が授業を行い、福祉科教育実習の準備の第一歩とする。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	教育実習に備えるために、1時間分の学習指導案を作成し提出するとともに、全員が模擬授業を体験する。その後、一人ひとりの授業についての振り返りを行った後、添削をした学習指導案を返却し、教育実習に生かしていく。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 村川浩一他『(H25 新課程) 社会福祉基礎』実教出版。 【参考書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版。 東京福祉大学編『教職科目要説』ミネルヴァ書房。 【参考資料】 高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校福祉科の設置経緯と位置づけについて理解し説明できるようになる。 2. 福祉科の教育目標と教育内容について理解し説明できるようになる。 3. 各科目(新教育課程9科目)に関して理解し説明できるようになる。 4. 教材研究と指導案作成について理解し、模擬授業の計画に備え発表できるようになる。 5. 授業展開例と授業評価について理解し説明できるようになる。 6. 模擬授業を計画し、実際に全員が授業を行い、福祉科教育実習の準備の第一歩とする。 ○評定の方法 学習指導案 50% 授業内で行う模擬授業準備・発表活動等 30% 授業態度・レポート等の提出物 20% 学校での授業補助・行事参加等の教育ボランティア活動を行った場合は、評価し加算する。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 2. 授業中は携帯電話やPHS等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 3. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F評価とする。 4. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前へ出ること。 5. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。 6. この授業では、全員が福祉科の模擬授業を行う。受講生の中には福祉科で教育実習を行わない学生もいると考えられるが、福祉科指導法の履修には必須といえるため、積極的に取り組むこと。 		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業ガイダンス、基礎力診断テスト、高校福祉科の設置経緯とねらい1	事前学習	自分がなぜ福祉科教員免許を取得するのか、よく考えて授業に臨む。
		事後学習	福祉教育の類型をまとめ、理解する。
第2回	高校福祉科の設置経緯とねらい2	事前学習	高校福祉科の教育目標をチェックし、理解する。
		事後学習	教科「福祉」が登場した時代背景について理解し、まとめる。
第3回	高校福祉科の教育目標と科目編成	事前学習	高校福祉科の科目編成をチェックし、理解する。
		事後学習	高等学校の教育目標を確認し、理解する。
第4回	学習指導要領総説、教育評価(福祉科の学習評価の考え方を理解する)	事前学習	学習指導要領を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	学習指導要領と福祉科について整理するとともに、福祉科の教育目標を再確認する。
第5回	福祉科の各科目1(社会福祉基礎1) 社会福祉の理念と意義、人間関係とコミュニケーション	事前学習	学習指導要領の社会福祉基礎の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	社会福祉基礎の予習用教材を作成する。
第6回	福祉科の各科目1(社会福祉基礎2)	事前学習	学習指導要領の社会福祉基礎の内容を読んだうえで授業に臨む。

	社会福祉思想の流れと福祉社会への展望、生活を支える社会保障制度	事後学習	社会福祉基礎の授業用教材を作成する。
第7回	福祉科の各科目2（介護福祉基礎1） 介護の意義と役割、介護福祉の担い手	事前学習	学習指導要領における介護福祉基礎の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	介護福祉基礎の授業用教材を作成する。
第8回	福祉科の各科目2（社会福祉基礎2） 介護を必要とする人の理解と介護、介護における安全確保と危機管理	事前学習	学習指導要領における介護福祉基礎の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	介護福祉基礎の復習用教材を作成する。
第9回	福祉科の各科目3（コミュニケーション技術1） 介護におけるコミュニケーション	事前学習	学習指導要領におけるコミュニケーション技術の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	コミュニケーション技術の予習用教材を作成する。
第10回	福祉科の各科目3（コミュニケーション技術2） サービス利用者や家族とのコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーション	事前学習	学習指導要領におけるコミュニケーション技術の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	コミュニケーション技術の授業用教材を作成する。
第11回	福祉科の各科目4（生活支援技術）	事前学習	学習指導要領における生活支援技術の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	コミュニケーション技術の復習用教材を作成する。
第12回	福祉科の各科目5（介護過程）	事前学習	学習指導要領における介護過程の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	介護過程の授業用教材を作成する。
第13回	福祉科の各科目6（介護総合演習）	事前学習	学習指導要領における介護総合演習の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	介護総合演習の授業用教材を作成する。
第14回	福祉科の各科目7（介護実習）	事前学習	学習指導要領における介護実習の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	介護実習の授業用教材を作成する。
第15回	福祉科の各科目8（こころとからだの理解）	事前学習	学習指導要領におけるこころとからだの理解を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	こころとからだの理解の授業用教材を作成する。
第16回	福祉科の各科目9（福祉情報活用） 福祉科授業における情報機器活用についても考える。	事前学習	学習指導要領における福祉情報活用を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	福祉情報活用の授業用教材を作成する。
第17回	指導計画の作成（外部講師）	事前学習	学習指導計画とは何なのかについて理解し、授業に臨む。
		事後学習	学習指導案の項目をまとめる。
第18回	模擬授業で扱う単元の決定	事前学習	模擬授業で扱う単元を決定する。
		事後学習	模擬授業の指導案のテーマ・目標を設定する
第19回	模擬授業準備 過去の模擬授業映像を視聴し、分析しながら、自分の授業に生かしていく。	事前学習	模擬授業の指導案を作成する（1）。
		事後学習	模擬授業の指導案を作成する（2）。
第20回	模擬授業準備 単元名、単元の目標、設定の理由について考える。	事前学習	模擬授業の指導案を作成する（3）。
		事後学習	模擬授業の指導案を作成する（4）。
第21回	模擬授業準備 本時の指導（主題・目標・指導過程）について考える。学習評価の考え方を理解し、本時の評価について考える。	事前学習	模擬授業用の教材を作成する（5）。
		事後学習	模擬授業用の教材を作成する（6）。

第22回	模擬授業準備 プリント教材（予習用教材、授業用教材。復習用教材など）を作成する。情報機器を活用した授業設計についても検討する。	事前学習	模擬授業用の教材を作成する（1）。
		事後学習	模擬授業用の教材を作成する（2）。
第23回	模擬授業準備 授業の進め方、発問の仕方などについて練習する。	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する（1）。
		事後学習	模擬授業の指導案に基づき練習する（2）。
第24回	模擬授業準備 板書の仕方、映像教材導入・操作の仕方などについて練習する。	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する（3）。
		事後学習	模擬授業の指導案に基づき練習する（4）。
第25回	模擬授業 授業時の声量、姿勢、視線などに着目して、	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する（5）。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする（1）。
第26回	模擬授業 授業時の発問、グループディスカッションなどに着目して	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する（6）。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする（2）。
第27回	模擬授業 授業時の板書内容、プリント教材、映像教材の内容などに着目して	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する（7）。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする（3）。
第28回	模擬授業 授業の全体内容に着目して	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する（8）。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする（4）。
第29回	まとめ1（全員の模擬授業に対する講評） 模擬授業の映像を見ながら、授業時の声量、姿勢、視線など、授業全体について授業者が振り返った後、担当教員が好評をする。	事前学習	自分の模擬授業について、反省点を再度明らかにする（1）。
		事後学習	模擬授業に対する講評を聞いて、自分に取り入れるべきところを明らかにする（1）。
第30回	まとめ2（全員の模擬授業に対する講評） 提出された学習指導案、プリント教材などを見ながら、授業内容の詳細について、受講生と担当教員で詳細な検討を行い、教育実習に生かしていく。	事前学習	自分の模擬授業について、反省点を再度明らかにする（2）。
		事後学習	模擬授業に対する講評を聞いて、自分に取り入れるべきところを明らかにする（2）。

1. 科目名 (単位数)	福祉行財政と福祉計画 (2単位)	3. 科目番号	SSMP3103 SNMP3303 SBMP3103 SCMP3103 PSMP3403
2. 授業担当教員	尹 文九		
4. 授業形態	講義、グループ討議等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>市場の失敗が問われている現在、これからは福祉分野においても、行政の役割が市場機能より重要になると考えられる。こうした問題意識から本講義は福祉と関連し、パブリック（行政）が行っている事について以下の点を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。 ・福祉行財政の実際について理解する。 ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉分野において市場の失敗と行政の機能の変化について理解し、説明することができる。 2. 福祉サービスの担い手として行政組織の役割について学習し、理解を深める。 3. 福祉予算と福祉サービスの関係について学び、説明できるようになる。 4. 福祉計画の理論と技法について、また、福祉計画がなぜ重要になってきたのかについて学び、説明できるようになる。 5. 福祉行政の過程すなわち、plan→do→see→feed backについて学び、理解を深める。 6. 福祉計画の策定のとき、なぜ住民参加が重要なのかについて理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1：福祉計画の中で一つを選び、その内容や分かったことについて1500字程度でまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』中央法規。</p> <p>【参考書】 坂田周一『社会福祉計画』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉構造改革以後、変わった福祉行政のやり方について理解されているのか 2. 福祉財政についてその内容と課題について理解されているのか 3. 地域福祉と福祉計画地に関連し、それぞれの福祉計画について理解されているのか 4. 発表や討議を通して発表力の向上できたのか <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的な参加度（討議や発表など）：40% 2. 課題レポート及び予習ノート：30% 3. 総括テスト：30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと（正当な理由以外は減点の対象になる）。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときはきちんと傾聴すること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 第1セクター(民間)と第2セクター(行政)の相違点	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと
		事後学習	行政と民間の相違点についてまとめる
第2回	福祉と制度 福祉を実現する主体と機能、社会福祉の捉え方、社会福祉と社会保障の違いについて	事前学習	pp. 2～10を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会福祉の概念の変遷についてまとめる
第3回	福祉の法制度の展開 時代によってどのような制度ができ、特徴があるのか、社会福祉における市場と行政の機能変化について	事前学習	pp. 11～23を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会福祉における市場と行政の機能変化についてまとめる
第4回	福祉計画の概要 社会福祉と計画の関係、福祉行政と福祉計画について	事前学習	pp. 24～31を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	福祉行政と福祉計画についてまとめる
第5回	行政の骨格と社会福祉の法制度 政府の役割と地方自治体の関係、社会福祉の法令を読むポイント	事前学習	pp. 34～43を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会福祉関連法令の専門用語をまとめる
第6回	福祉行政の組織(中央及び地方政府を中心に)	事前学習	pp. 44～51を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	厚生労働省の機能についてまとめる

第7回	社会福祉基礎構造改革と福祉サービスの利用方式の分化について	事前学習	pp. 54～60 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	福祉サービスの利用方式についてまとめる
第8回	財政と社会福祉 社会保障給付費とは、社会保障給付費の推移、社会保障関係費の動向について	事前学習	pp. 62～68 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	日本の社会保障給付費の動向の特徴についてまとめる
第9回	地方自治体の財政と民生費の動向、民間と利用者負担	事前学習	pp. 69～75 を参考に自分が住んでいる地方自治体の民生費を調べてまとめる
		事後学習	日本の民生費の動向の特徴についてまとめる
第10回	福祉行政の専門機関と専門職 福祉関連専門機関と専門職にはどのようなものがあるのか	事前学習	pp. 86～100 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第11回	福祉計画の基本的視点 計画と計画化、目標と目的の違いや PDCA サイクル、福祉計画の概念や主体そして類型について	事前学習	pp. 116～133 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	福祉計画のプロセスについてまとめる
第12回	福祉計画におけるニーズ把握について	事前学習	pp. 134～141 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	客観的ニーズと主観的ニーズの関係についてまとめる
第13回	福祉計画における評価について	事前学習	pp. 142～148 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	評価技法についてまとめる
第14回	福祉計画の事例研究の視点と種類について	事前学習	pp. 158～163 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第15回	福祉計画における住民参加の方法となぜそれが重要なのか	事前学習	pp. 149～155 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	住民参加の方法及び重要性についてまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉事業所経営管理論Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SSMP3313				
2. 授業担当教員	上野 義光			SNMP3313				
4. 授業形態	講義、グループディスカッション		5. 開講学期	秋期				
6. 履修条件・他科目との関係								
7. 講義概要	<p>現在、わが国では介護保険事業、障害者総合支援事業において、福祉サービスの利用者による事業所選択および事業者と利用者の利用計画の仕組みが実施され、必要経費は利用者の負担金と行政による利用料補助額によって賄われている。また、社会福祉法人、営利法人（株式会社等）及びNPO法人等の多様な民間組織も参入が認められ、福祉サービスの提供主体が多様化し、主体的管理運営がもためられている。そのため、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、福祉サービスの供給体制の整備および充実を図ることが必要とされる。すなわち、社会福祉事業の公共性と事業主体のあり方が問われる状態にある。</p> <p>そのために、適正、効果的な事業所経営のためには、施設長をはじめとする管理者、相談援助活動に専門的に従事する社会福祉士等は、福祉事業所やサービス提供に関する経営管理の組織構造、効率的なサービス供給と運営の実際等経営論についての基礎知識も身につけることが必要である。</p> <p>本講座では、春期に開講した「福祉事業所経営管理論Ⅰ」で学習した知識を前提として、演習等を踏まえて福祉事業所の経営・管理の実務的側面に焦点を当て実践的問題を扱う。</p>							
8. 学習目標	<p>演習として、特に以下の福祉事業所の経営・管理の実務的側面に焦点を当て実践的問題を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉事業所の経営で日常的に遭遇する諸問題事例分析 2. 適正、効率的経営事例および問題事例の具体的検討 3. 利用者のニーズへの対応における事業所内職種間連携、情報管理の方法 4. 福祉事業所と外部専門機関との連携の方法 							
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートの提出：事例「リスクマネジメントの取り組み」について（1法人の概要、2法人の取り組み、3考察）、2000字程度で、12月中旬までに提出							
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 浦野正男編著「社会福祉施設経営管理論」全国社会福祉協議会 2018年</p> <p>【参考書】 小松理佐子編著「よくわかる社会福祉の経営」ミネルヴァ書房 2018年 宇山勝儀・小林理編著「社会福祉事業経営論」光生館 2011年</p>							
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉事業の経営学的な思考が身についたか。 2 多くの実践事例を踏まえて、今後の経営課題の解決に向けて、その方向性を見い出すことができたか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>60%</td> </tr> </table>				授業への積極的参加度	40%	レポート	60%
授業への積極的参加度	40%							
レポート	60%							
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分なりの将来設計をもって、積極的な態度で授業に出席する。 2 授業のための予習を必ずしてくること。 3 携帯電話は電源を切り、私語を慎むこと。 							
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる（4号館2階非常勤講師室）。							
14. 授業展開及び授業内容								
講義日程	授業内容	学習課題						
第1回	オリエンテーション（シラバスの説明、講義の進め方） 最近の社会福祉事業の経営の動向について	事前学習	社会福祉事業経営管理論の学習用ノートを準備し講義に臨むこと。					
		事後学習	最近の社会福祉事業の経営の動向についてまとめる。					
第2回	社会福祉法人と社会福祉施設（社会福祉法人の意義と役割、社会福祉施設の使命、社会福祉施設の概況と推移）について	事前学習	教科書第1章（p2~69）を読んでくること					
		事後学習	社会福祉法人に求められる事業のあり方についてまとめる。					
第3回	社会福祉施設経営管理の基礎（社会福祉法人・施設の経営管理、問題解決とモチベーション、組織におけるリーダーシップ）について	事前学習	教科書第2章（p71~139）を読んでくること					
		事後学習	組織におけるリーダーシップについてまとめる。					
第4回	事例「SWOT分析」に基づく環境特性分析と中期経営計画策定について	事前学習	教科書（p100~106）を読んでくること					
		事後学習	グループディスカッションを踏まえて事例の取り組みを理解する。					
第5回	社会福祉施設のサービス管理（サービス管理の必要性、福祉サービスとマーケティング、福祉サービスの品質マネジメント）について	事前学習	教科書（p141~162）を読んでくること					
		事後学習	福祉サービスとマーケティングについてまとめる。					
第6回	事例 ISOの取り組み	事前学習	教科書（p160~162）を読んでくること					
		事後学習	グループディスカッションを踏まえて事例の取り組みを理解する。					
第7回	社会福祉施設のサービス管理（リスクマネジメントとサービス管理、福祉サービスの評価、社会福祉施設における契約）について	事前学習	教科書（p163~215）を読んでくること					
		事後学習	福祉サービスの評価についてまとめる。					
第8回	事例 リスクマネジメントの取り組み	事前学習	教科書（p192~196）を読んでくること					
		事後学習	グループディスカッションを踏まえて事例					

			の取り組みを理解する。
第9回	社会福祉施設のサービス管理(社会福祉施設における権利擁護)について	事前学習	教科書(p216~228)を読んでもらうこと
		事後学習	グループディスカッションを踏まえて事例の取り組みを理解する。
第10回	事例 苦情解決の取り組み~第三者委員と介護オンブズマン~	事前学習	教科書(p229~233)を読んでもらうこと
		事後学習	グループディスカッションを踏まえて事例の取り組みを理解する。
第11回	社会福祉法人・施設の人事・労務管理(社会福祉法人・施設の人事、社会福祉法人・施設における職員研修、福祉施設の労務管理)について	事前学習	教科書(p235~314)を読んでもらうこと
		事後学習	福祉施設の労務管理についてまとめる。
第12回	事例 人事管理・人材育成の取り組み	事前学習	教科書(p283~291)を読んでもらうこと
		事後学習	グループディスカッションを踏まえて事例の取り組みを理解する。
第13回	社会福祉施設の会計管理と財務管理	事前学習	教科書(p315~338)を読んでもらうこと
		事後学習	社会福祉施設の会計管理と財務管理についてまとめる。
第14回	事例 管理会計と財務分析	事前学習	教科書(p339~346)を読んでもらうこと
		事後学習	グループディスカッションを踏まえて事例の取り組みを理解する。
第15回	社会福祉施設の情報管理(利用者情報の保護、公益通保者保護の仕組み)について	事前学習	教科書(p347~357)を読んでもらうこと
		事後学習	個人情報保護法についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉と教育 (2単位)		3. 科目番号	GELA1329 GELA1349
2. 授業担当教員	成田 成			
4. 授業形態	講義 (学習参考例)、演習 (ワークシート)、ディスカッション、レポート課題、発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	福祉や教育の現場では、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉や教育を必要とする各人のニーズに応えられるように解決していかなければならない。そのためには、これまで我が国で主流とされてきた一方的な知識注入型の授業法を改め、学生が主体となって学習に取り組めるような双方向対話型の授業法に切り替えていかなければならない。本授業では、主に「新聞記事」「視覚教材」「学習参考例」などをもとにして、日本の福祉と教育のあり方について考え、真に必要な能力は何かを分析しながら、現代社会で求められる福祉従事者や教育者のあり方について考察する。			
8. 学習目標	本講義では、①ディスカッションでは、他人の意見を受け入れつつ、柔軟な思考力や問題解決能力を養うこと、②発表では、聞き手に理解されやすい表現力を身に付けること、③レポート課題では、論理的でわかりやすく簡潔な文章が書けるような文章作成能力を身に付けること、を学習目標にしている。また、①～③に記した能力を兼ね備え、福祉や教育の現場で役立つ実践力を身に付けることを究極の目標としている。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：最終日の授業時間には、「本授業に参加して興味を持ったことについて、自分でテーマを決めて1,000字程度で論述せよ。」というテーマでレポートを作成していただく。			
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・福祉や教育に関する現代的な課題について理解することができたか。 ・ディスカッションにおいて、他の人の意見を受けとめ、自分の意見を分かりやすい表現で伝えることができたか。 ○評定の方法 ・平常点 (積極的参加度・授業態度・発言等) 20% ・理解度 (ディスカッション記録、レポート、発表内容、資料等の作成など) 20% ・期末評価 (レポート・試験等) 60% 3/4以上の出席が確認できない場合には単位を認めないこととする。さらに、欠席は1回(90分)につき10点を減点することとし、遅刻や早退はその時間分を減点する。ただし、特別な事情で欠席、遅刻、早退した場合には考慮し、課題を与えるなどして対応する。			
12. 受講生へのメッセージ	この科目では、ディスカッションや発表を通じて、福祉と教育のあり方について考え、福祉や教育の現場で役立つ能力を養っていただきたい。そのためにも、本授業に参加して、①レポート課題やワークシートでは、論理的でわかりやすい簡潔な文章の作成能力、②ディスカッションでは、柔軟な思考力や問題解決能力、③発表では、発言力や表現力を身に付けてほしい。			
13. オフィスアワー	時間：オリエンテーションで連絡 場所：伊勢崎キャンパス：4号館1階120研究室			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、心得など) なぜ「福祉と教育」という科目が開講されたのか	事前学習	「福祉」と「教育」の共通点について考えてくる。	
		事後学習	「福祉と教育」を開講した理由について振り返る。	
第2回	日本の教育の現状① (教師による児童のいじめ)	事前学習	教師による児童のいじめ問題についての具体例を考えてくる。	
		事後学習	いじめ問題の解決策について、さまざまな視点から考察する。	
第3回	日本の教育の現状② (教員の指導力不足)	事前学習	教員の指導力不足を感じた事例について考えてくる。	
		事後学習	教員の指導力不足の問題の具体的な解決策について練り直す。	
第4回	日本の教育の現状③ (小学校教師によるモデル授業) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	小学校時代に良かった授業について振り返ってみる。	
		事後学習	学んだことについて、将来、どのように活かすかを考えてみる。	
第5回	日本の教育の現状④ (中学校教師によるモデル授業) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	中学校時代に良かった授業について振り返ってみる。	
		事後学習	学んだことについて、将来、どのように活かすかを考えてみる。	

第6回	日本の教育の現状③④のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	日本の教育の現状③④のビデオで学んだことを整理してくる。
		事後学習	福祉または教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第7回	有能な人材育成に繋がる授業法	事前学習	印象に残る素晴らしい授業について振り返る。
		事後学習	有能な人材育成に繋がる授業について考えてくる。
第8回	福祉の現場①（在宅介護でのターミナルケア） ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	ターミナルケアについて調べてくる。
		事後学習	在宅介護で重要なことを再確認する。
第9回	福祉の現場②（モデルとなっているデイケアハウス） ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	デイケアハウスについて調べてくる。
		事後学習	モデルとなっているデイケアハウスの長所と短所を確認する。
第10回	福祉の現場①②のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	福祉の現場①②のビデオを鑑賞して学んだ点を整理してくる。
		事後学習	福祉や教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第11回	福祉の現場③（難病患者の介護—コミュニケーションの重要性） ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	難病についての具体例をいくつか調べてくる。
		事後学習	ビデオで学んだことについて整理しておく。
第12回	福祉の現場④（認知症患者への対応） ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	認知症についての具体例をいくつか調べてくる。
		事後学習	ビデオで学んだことについて整理しておく。
第13回	福祉の現場③④のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	福祉の現場③④のビデオを鑑賞して学んだ点を整理してくる。
		事後学習	福祉や教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第14回	バイスティックの7つの原則（福祉と教育への応用） ・福祉従事者や教育者にとって重要なこと	事前学習	バイスティックの7つの原則について調べてくる。
		事後学習	福祉従事者と教育者にとって重要なものは何かについて考える。
第15回	合格点がもらえるレポートの書き方 ・レポート（本授業に参加して興味を持ったこと）	事前学習	本授業に参加して興味を持ったことについて整理しておく。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	福祉と経営Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SBMP1131
2. 授業担当教員	中野 隆之		
4. 授業形態	テキストの内容を基にして、ケーススタディーについて受講生によるディスカッションを行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	福祉と経営Ⅰを受講していることを前提として授業を行う		
7. 講義概要	春期の「福祉と経営Ⅰ」ではテキストに基づいて基礎知識を学んだ。本講義では、この基礎知識を前提として、福祉(介護)業界における経営課題をいかにして解決するかについて、ケーススタディーを中心にグループディスカッションを通じて全員で考えていく。グループディスカッションを踏まえて考えたことについては必ず次週までにレポートとして提出すること。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉(介護)業界における経営課題の解決策を具体的に考えることができるようになる。 ・自分の考えを自分の言葉で発表し、他人が理解できるように伝えることができるようになる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>アサインメントは課さないが、グループディスカッションを行う4つのテーマについてディスカッションの次週までにレポートを提出すること(書式自由・字数自由)(ディスカッションを欠席した場合は、クラスメイトから話を聞いて作成すること)テーマの詳細は授業当日説明する。</p> <p>①あなたが社会福祉サービス組織の経営者だとしたら、人材確保・人材定着のために何をすべきだと考えますか、グループディスカッションで考えたことを踏まえてレポートしなさい。</p> <p>②あなたはある介護福祉施設(特養)の施設長です。当施設で介護福祉士と利用者間で以下のような出来事が起こりました(詳細は後日授業で提示)。このような場合、あなたは施設長としてどのような行動に出ますか。グループディスカッションで考えたことを踏まえてレポートしなさい。</p> <p>③あなたはある介護福祉施設(特養)に着任したばかりの施設長です。あなたは当施設の経営管理について改革が必要だと感じていました。そんな中、以下のような出来事が起こりました(詳細は後日授業で提示)。このような場合、あなたは施設長としてどのような行動に出ますか。グループディスカッションで考えたことを踏まえてレポートしなさい。</p> <p>④あなたはある販売会社に就職し5年が経過し、ある地域の営業主任(部下5人)を任せられました。ビジネスを発展させるために行うべき営業活動について、グループディスカッションで考えたことを踏まえてレポートしなさい。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 馬場博監修、介護経営の未来を考える委員会『現場リーダーのための介護経営のしくみ〔改訂版〕』日本医療企画、2014。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編『福祉サービスの組織と経営(第5版)』中央法規。 野中郁次郎著『経営管理』日経文庫、日本経済新聞社。 (社)日本介護福祉経営人材教育協会監修、馬場博編『はじめて学ぶ介護福祉のマネジメント』日本医療企画、2015(介護福祉経営士入門研修テキスト)。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディーやグループディスカッションにおいて、積極的に発言し、議論に参加していたか 2. 4つのレポート課題につき、それぞれのテーマに対して、経営課題の解決策を具体的に考えることができるか <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度 20%</p> <p>レポート 80%(4つのレポートについてそれぞれ20%)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回目の授業の冒頭に班編成を行い、全ての受講、演習をとおして班別に着席してください。班別にリーダーを決め、リーダーは授業進行・管理の補助をおこなってもらいます。なお授業中にスマホ、私語、居眠りの多い学生は教壇最前列に位置する班に所属させ、担当教員による監督下におきます。 2. 本講義は、春期の「福祉と経営Ⅰ」を学習していることを前提としてディスカッション形式によるグループワークを頻繁に行っていきます。基礎知識がない状況でディスカッションをしても表面的な議論しかできませんので、「福祉と経営Ⅰ」での学習内容をよく復習しておいて下さい。 3. グループディスカッションに当たっては、他人の意見を否定するのではなく肯定的にとらえ、建設的な議論を全員で作りに上げていくようにしてください。 4. 将来福祉や様々なサービス業務でチームリーダーや管理職に携わる際に役立つ有効なセンスを磨く、という意気込みで講義や演習に臨んでください。 5. 授業中、積極的に自分の考えを持ち発言すること。講義・演習を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言する、文書化する、といった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えてください。 6. 理解が不十分な点については放置せず授業中やオフィスアワーを利用して積極的に質問して下さい。 		
13. オフィスアワー	別途、通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	福祉と経営Ⅰの総復習	事前学習	福祉と経営Ⅰで学んだことを復習する。
		事後学習	福祉と経営Ⅰで学んだことを再確認する。
第2回	少子高齢化の進展	事前学習	テキスト p. 11 のコラム 1、p. 12 のコラム 2、p. 15 のコラム 4 及びをよく読む。
		事後学習	少子高齢化が進展する日本の将来を考える。また、自国の将来についても考える。
第3回	高齢者の住まい	事前学習	テキスト pp. 33~46 (特にテキスト p. 39 のコラム 9、p. 41 のコラム 10、p. 43 のコラム 11、p. 44 のコラム 12) をよく読む。

		事後学習	授業の中で出た議論や疑問点を整理し、自分の考えをまとめてみる。
第4回	事例研究：ガバナンス	事前学習	テキスト p. 55 のコラム 14 をよく読む。
		事後学習	授業の中で出た議論や疑問点を整理し、自分の考えをまとめてみる。
第5回	福祉事業者が行うことができる介護保険外サービス	事前学習	テキスト pp. 56～67 (特にテキスト pp. 62～63 のコラム 16) をよく読む。
		事後学習	福祉業界が行うことができるビジネス領域を整理する。
第6回	アジア諸国の介護事情	事前学習	テキスト p. 68 のコラム 17 をよく読む。
		事後学習	自国の介護事情を理解し、自国における社会福祉ビジネスの進展の可能性を考える。
第7回	事例 人材定着率の向上を目指して (グループディスカッション)	事前学習	テキスト pp. 83～85 をよく読む。
		事後学習	グループディスカッションの結果を踏まえて、考えたことをレポートとして提出する。
第8回	外国人看護師・介護福祉士の受け入れ	事前学習	テキスト p. 73 のコラム 18 をよく読む。
		事後学習	日本で就職するために必要な労働ビザの取得できる職種を理解し、福祉業界への就職の可能性を考える。
第9回	リーダーシップを高めるために	事前学習	テキスト pp. 86～92 をよく読む。
		事後学習	授業で作成したテキスト p. 89 の演習シートを振り返り、自己が成長する際のヒントとする。
第10回	事例 リーダーシップを高めるために (グループディスカッション)	事前学習	テキスト pp. 86～92 および前回配布した資料をよく読む。
		事後学習	ディスカッションの中で出た議論や疑問点を整理し、自分の考えをまとめてみる。
第11回	リーダーシップを高めるために	事前学習	前回配布した資料を振り返る。
		事後学習	授業の中で出た議論や疑問点を整理し、自分の考えをまとめてみる。
第12回	事例 リーダーシップを高めるために (グループディスカッション)	事前学習	第9～11回に配布した資料をよく読む。
		事後学習	グループディスカッションの結果を踏まえて、考えたことをレポートとして提出する。
第13回	コスト削減に関するケーススタディー	事前学習	テキスト pp. 109～116 をよく読む。
		事後学習	テキスト pp. 109～116 を復習し、授業で行ったケーススタディーの意味を理解する。 授業の中で出た議論や疑問点を整理し、自分の考えをまとめてみる。
第14回	事例 全職員で組織的に行ったオープン前の営業活動 (グループディスカッション)	事前学習	テキスト pp. 129～132 をよく読む。
		事後学習	グループディスカッションの結果を踏まえて、考えたことをレポートとして提出する。
第15回	最終まとめ	事前学習	ここまで未消化であった事項を整理する。
		事後学習	ここまで学んだことを整理し、福祉と経営の関係について自分の考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	米文学 (作家・作品論) (2単位)	3. 科目番号	EDEN3319
2. 授業担当教員	日下 洋右		
4. 授業形態	講義、発表、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「異文化理解」、「英文学」を履修すること。		
7. 講義概要	この授業では、アメリカ文学の歴史的な主潮を概観し、アメリカ文学の主要作家と作品を考察するとともに、各々の作家とその作品の時間的・空間的特徴および文化的背景をも明らかにして、今日の国際化社会で不可欠のグローバルな視野を広げることを目的とする。また、各主要作家の主要作品の名場面あるいは名文の一部を読んで、作品の真髄に触れ、名作や古典と呼ばれる所以を知ることができるようにする。 文学の歴史的考察は、文化史的視点とも重なり合い、密接に関連しあう側面を有している。その意味では、「米文学(作家・作品論)」は「異文化理解」を補充し、深化させる役割をも果たしているといえる。		
8. 学習目標	1: 米文学作品における英語表現を精読することができる。 2: 英文法・構文の知識を確実に修得し、長文を読み通すことができる。 3: アメリカ文学の全体像と各作家・作品の特徴を分析し考察して、その成果をまとめて発表できるようになることに加え、自らの意見をレポートにまとめることもできるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容の理解を深めるため、また主体的に授業に取り組む姿勢を養うため、発表とディスカッション形式を取り入れるので、そのための準備をすること。 2. 学習したことに対して自分の意見を持つことが大切なので、アメリカ文学から何を感じ、何を得たかについて自己の見解をレポート (2,000字程度) にまとめて提出すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 プリントを使用する 【参考書】 板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶ アメリカ文学史』ミネルヴァ書房。 大橋健三郎・斉藤光・大橋吉之輔『総説アメリカ文学史 研究社』 福田昇八『イギリス・アメリカ文学史』南雲堂。 井上謙治『アメリカ小説入門』研究社。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. アメリカ文学の全体像と各作家・作品の特徴を分析し考察して、その成果をまとめて発表し、自らの意見をレポートにまとめることもできるようになったか。 ○評定の方法 レポート 30% 発表 30% 小テスト 20% 受講態度・参加姿勢 20%		
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、発表、ディスカッション、レポートの作成に重点を置いて、アメリカ文学の修得を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 授業の欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された場合には、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的や目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション: アメリカ文学の概観、発表の仕方とまとめ方	事前学習	米文学に関して知っていることを発表できるようにまとめておく。
		事後学習	米文学の流れのポイント、発表の仕方とまとめ方を確認する。
第2回	初期のアメリカ文学: ピューリタニズムの文学	事前学習	プリントのブラッドストリート、テイラーを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第3回	国民文学の創成: アメリカ・ゴシックのはじまり、ニッカーボッカー派の作家と作品	事前学習	プリントのブラウン、クーパー、アーヴィングを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第4回	国民文学の成熟: アメリカン・ルネッサンス期の作家と作品	事前学習	プリントのポー、ホーソーン、メルヴィルを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第5回	アメリカン・リアリズムの確立: 南北戦争後のリアリズムの作家と作品	事前学習	プリントのトウェイン、ジェイムズを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、

			疑問点を明らかにして、理解を深める。
第6回	自然主義の文学：自然主義の作家と作品、地方色の作家と作品	事前学習	プリントのクレイン、ノリス、ロンドン、ドライサーを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第7回	ロスト・ジェネレーションの文学：第1次世界大戦後の失われた世代の作家と作品	事前学習	プリントのフィッツジェラルド、フォークナー、ヘミングウェイを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第8回	社会参加の文学：社会小説の作家と作品	事前学習	プリントのウルフ、スタインベックを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第9回	第2次世界大戦後の文学：戦争小説と南部の小説の作家と作品	事前学習	プリントのメイラー、カポーティを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第10回	エスニックの文学：アフロ・アメリカンの作家と作品、ユダヤ系の作家と作品	事前学習	プリントのライト、ウォーカー、ペロウを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第11回	ニュー Yorker 派の文学：週刊誌『ニュー Yorker』から生まれた作家と作品	事前学習	プリントのサリンジャー、アップダイクを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第12回	ビート・ジェネレーションの文学：ビート・ジェネレーションの作家と作品、亡命・国外離脱の作家と作品	事前学習	プリントのキーザー、ナバコフを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第13回	ポストモダニズムの文学：前衛・実験的な作家と作品	事前学習	プリントのバース、ヴォネガット、バーセルミを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第14回	ミニマリズムの文学：ニュー・リアリズムの作家と作品	事前学習	プリントのカーヴァー、ビーティ、メイソンを読み込んで、疑問点を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、誤解、理解不足を正し、疑問点を明らかにして、理解を深める。
第15回	まとめ、レポートを書くための要点と諸注意	事前学習	プリントと参考書の必要な箇所を読み、レポートを書く準備をする。
		事後学習	レポートを書く要点と諸注意を確認して、レポートを書き進める。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育カリキュラム論／保育・教育課程論 (2単位)	3. 科目番号	SSOT3404
2. 授業担当教員	関口 はつ江		SCOT3404
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育所保育、幼稚園教育の目的と方法の基本を確認し、保育課程・教育課程の意義を示し、その編成の仕方を実際の子どもの発達、生活に照らしながら理解できるようにする。保育は子どもの自発的な興味関心や個人差に応じて実践することを踏まえ、保育・教育課程と指導計画との質的差異を理解し、保育者の教育的意図を子どもの主体的な生活の中にどう反映したらよいか具体的に示す。さらに、実践においては子どもの実態に対応しながら計画の修正をどのようにするか、一日の保育の評価反省をどうするかを扱いつつ、保育における計画性と偶発性の双方の意味の理解を深める。ボトムアップによる計画作成の方法を長期指導計画と短期指導計画との関連から理解できるようにする。以上を通して、保育所保育指針、幼稚園教育要領等に示されている保育課程・教育課程、指導計画の考え方を正しく理解し、実践に結びつける力を養う。		
8. 学習目標	1 カリキュラムについての基礎的理解ができるようになる。 2 保育における計画—実践—評価 (反省) の関係を理解できるようになる。 3 保育課程、教育課程と指導計画との関係、および長期指導計画と短期指導計画の関係を理解し、実践に結びつけることが出来るようになる。 4 長期指導計画、短期指導計画の立て方が分かり、一日の指導計画を作成する。 5 保育実践の反省の仕方がわかり、計画の修正への過程を理解できるようになる。 6 子どもの発達の把握と指導要録、保育児童要録の意義と書き方を理解できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業内容に関して、毎回ワークシートを作成します。提出日は指示します。 レポート課題 1. 長期指導計画モデルから短期指導計画の作成 2. 実践例についての考察と次の計画への活かし方についてのレポート 3. 指導計画の形式について調べ、長所短所を考察する		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料配布 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 関口はつ江編著『保育の基本を培う保育原理』萌文書林。 幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 保育、教育課程の目的内容及び、保育計画、指導計画の必要性を理解する。 2 長期の指導計画、短期の指導計画の作成法と両者の関係を理解する。 3 保育所、幼稚園の園行事や日常の指導計画の手続きを理解することができる。 4 実際に短期指導計画を作成できる。 ○評定の方法 授業への参加度 30%、小レポート・中間課題 30%、期末レポート課題 40% として総合的に判断する。		
12. 受講生へのメッセージ	保育士必修科目であり、授業中のマナー、意欲、教育者 (保育者) としての考え方などを大切にしたいと思います。保育の計画は子どもの生活に根ざしています。自然環境、伝統行事などへの関心も深めましょう。		
13. オフィスアワー	後日提示します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	保育・教育におけるカリキュラムの必要性	事前学習	保育所保育指針・幼稚園教育要領における教育課程の考え方復習
		事後学習	子どもの生活とカリキュラムの関係の確認
第2回	保育所保育指針・幼稚園教育における計画の考え方	事前学習	多様なカリキュラムの考え方があることについて資料で予習
		事後学習	教育要領、保育指針と教育課程意との関連を理解する
第3回	小学校教育に教育課程教育方法と幼児教育・保育における教育課程。保育方法	事前学習	小学校教育と幼児期の保育との異同の理解
		事後学習	教育の系統性と生活性の確認
第4回	保育内容と保育・教育課程、保育・教育課程の編成の仕方	事前学習	「保育内容」と教科の違いについての予習
		事後学習	保育・教育課程の作成形式と内容の復習 (事例の考察)
第5回	保育・教育課程から長期指導計画の作成 (年間計画と月案)	事前学習	事例から長期指導計画例の目的内容の予習
		事後学習	保育・教育課程と長期指導計画との違い、計画の実行性を確認
第6回	長期指導計画から短期指導計画の作成 (週案)	事前学習	事例から短期指導計画の目的内容を確認する
		事後学習	長期と短期の指導計画の違いの復習。短期計画の具体性を理解
第7回	短期指導計画の展開 (週案から日案へ)	事前学習	週案の例から週案の目的内容の予習
		事後学習	週案から日案作成法の復習。子どもの実態に即することを確認
第8回	計画と実践との関係 (月の保育の例を通して)	事前学習	行事を例にして長期計画と実践の関係について予習
		事後学習	計画の修正の仕方を確認
第9回	計画と実践との関係 (1日の保育を通して)	事前学習	短期計画と実践の関係遊びの事例で予習
		事後学習	週案から日案作成 (課題)
第10回	保育の評価・反省の仕方	事前学習	保育の評価・反省のしかたについて教科書で予習

	(子どもの経験から、保育の目標から、保育者の指導法等から)	事後学習	事例からの反省(課題)
第11回	計画-実践-反省-計画のサイクル(反省の活かし方)。カリキュラムの評価、改善の意義理解	事前学習	記録、反省、計画の関連を教科書で予習
		事後学習	事例からの演習
第12回	カリキュラムの振り返りと幼児指導要録、保育所児童保育要録の意義と書き方	事前学習	指導要録、児童保育要録の目的内容形式の確認
		事後学習	指導要領の書き方の事例評価
第13回	カリキュラムの基本に基づいて、事例または課題による指導案作成例の発表・討論	事前学習	指導案作成
		事後学習	指導案修正
第14回	教材別保育展開事例研究	事前学習	同一教材の年齢別活動例の学習
		事後学習	活動事例についての評価
第15回	まとめ(保育における計画と実践、幼小連携等からのカリキュラム・マネジメントの重要性の確認)	事前学習	子どもの実態と保育のねらい、目標との関係についての考え方をまとめる
		事後学習	保育におけるカリキュラムの意味をまとめる
期末試験			

1. 科目名(単位数)	保育実習指導 I (2単位)	3. 科目番号	SSOT3481
2. 授業担当教員	関 容子		SCOT3481
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育実習 I (保育所) の意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び保育所の機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。		
8. 学習目標	<p>「保育実習指導 I (保育所)」が終了した時点で、下記目標の達成が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の種類及び保育所の機能と保育士の役割を明確にする。 2. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。 3. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につける。 4. 演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。 5. 保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。 6. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明することができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>アサイメント(宿題)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に向かうための心構えに関する課題 2. 事務手続き等、実習に必要な書類に関する課題 3. 実習記録に伴う記述に関する課題 4. その他(授業内のワークシート、リフレクションシート) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』名須川知子監修 萌文書林、2020年 【教材】 東京福祉大学「保育実習の手引き」 【参考資料】 関口はつ江(編著)『学びをいかに 保育実習ハンドブック』大学図書出版、2018年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができるか。 2. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につけるか。 <p>○評定の方法</p> <p>個別の授業態度、グループ活動への取り組み、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度 50% 2. 各提出物 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>これから予定されている保育実習に向けて、実習の意義、目的、内容、方法及び乳幼児の理解について学びます。さらに、実習課題を明確にし、実習記録の意義、保育所や施設の役割を理解できるようにします。保育実習は、子どもたちが生活する場に行き、子ども、保護者、保育者、保育施設につながる様々な方とかわり、保育実践に参加するという大変重要な学びの機会です。大学での学びを保育現場でどのように生かすか、現在の自分の課題を見出し、不安を明確にし、実習開始までにスケジュールをたてましょう。毎回、保育現場に立つ自分をイメージし、実習生としての心得を身に付けながら、準備を進めていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知いたします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	保育実習の目標と内容 実習の流れ及び実習施設との連絡、必要書類等について。	事前学習	『実習の手引き』の「保育実習の内容」pp. 1-5を読む。
		事後学習	個人調査書、自己紹介書等の下書きと清書
第2回	実習課題を作成する	事前学習	なぜ保育士資格を取得したいのか、動機を明確にするとともに、実習をとおして何を学びたいかを明らかにする。
		事後学習	課題を明確にし、リフレクションシートに記入する。
第3回	実習先について知る	事前学習	保育所・施設の特徴や方針、地域性について調べる
		事後学習	保育所概要について記入する
第4回	実習に向けての心構えと準備	事前学習	「保育実習の手引き」を読み、実習先と実習生の心構えについて理解する。
		事後学習	オリエンテーションまでの流れと留意事項、持ち物(提出書類等)について確認し書き出す。
第5回	実習で出会う子どもたち・保育場面を知る —DVDを視聴し、記録を書いてみる—	事前学習	配布資料を読み、発達の流れを理解する
		事後学習	保育施設における一日の生活流れを場面ごと捉え、書き出してみる。
第6回	実習記録から保育を見る着眼点を学ぶ	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	資料の着眼点を意識し、時系列の記録を書く
第7回	環境構成図を描く	事前学習	配布資料の環境構成図を真似て描く。

		事後学習	実習記録のどのような場面に環境構成図を入れるか意識し、記録を真似て書く。
第8回	エピソード記録を書く —DVDを視聴し、記録を書いてみる—	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	日常生活で見かけた子ども一場面を切り取り、記録してみる。
第9回	一日のまとめと振り返りを書く 記録を書いてみる—	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	配布資料を読む。
第10回	指導計画の作成とアレンジの考え方	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	部分実習では、対象年齢児の興味や発達を考え、どんなことができるか、何がしたいかを考えてくる。
第11回	指導計画の作成	事前学習	取り組みたい部分実習について準備する。
		事後学習	作成した部分実習について、対象を変えてアレンジしてみる。
第12回	教材を使った自己紹介と部分実習 グループごと発表する 自己紹介と部分実習の模擬保育をする	事前学習	どんな自己紹介、部分実習をしたいかを考え、発表の準備をする。
		事後学習	他者の発表内容を参考に、自身の改善点に取り組む。自分の得意分野から、自己紹介や部分実習につかえるものを準備する。
第13回	グループごと発表する 自己紹介と部分実習の模擬保育をする	事前学習	自己紹介、模擬保育の発表準備をする。
		事後学習	他者の発表内容を参考に、自身の改善点に取り組む。
第14回	—先輩の実習体験から学ぶ—	事前学習	実習に対する不安や質問事項について書き出してくる。
		事後学習	不安や質問事項に対する対処方法や準備についてまとめる。
第15回	授業のまとめ 実習施設へのお礼状	事前学習	事務手続き、持ち物、実習記録、教材準備等を確認し、足りないもの、準備不足がないか確認する。
		事後学習	実習をとおして学びたいこと、身に付けたい専門性について、レポートにまとめる。

1. 科目名(単位数)	保育実習指導 I (2単位)	3. 科目番号	SSOT3481
2. 授業担当教員	山本 健志郎		SCOT3481 SJMP3251
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育実習 I (保育所) の意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び保育所の機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。		
8. 学習目標	<p>「保育実習指導 I (保育所)」が終了した時点で、下記目標の達成が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の種類及び保育所の機能と保育士の役割を明確にする。 2. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。 3. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につける。 4. 演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。 5. 保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。 6. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明することができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>アサイメント(宿題)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にむかうための心構えに関する課題 2. 事務手続き等、実習に必要な書類に関する課題 3. 実習記録に伴う記述に関する課題 4. その他(授業内のワークシート、リフレクションシート) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 関口はつ江(編著)『学びをいかす 保育実習ハンドブック』大学図書出版、2018年。 【教材】 東京福祉大学「保育実習の手引き」</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができるか。 2. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につけるか。 <p>○評定の方法</p> <p>個別の授業態度、グループ活動への取り組み、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度 50% 2. 各提出物 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>保育実習に向けて、実習の意義、目的、内容、方法及び乳幼児の理解について学びます。保育実習は、保育実践の現場に参加するという、とても重要な学びの機会です。その重要な学びをより豊かなものにするために実習での課題を明確にし、実習記録の意義や、保育所や施設の役割を理解できるようにします。大学での学びを保育実践に繋げるか、現在の自分が子どもに保育するための課題は何かを知り、保育実習への不安を期待に変えられるよう、実習生としての心得を身に付け、準備をしましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知いたします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	保育実習の目標と内容 実習の流れ及び実習施設との連絡、必要書類等について。	事前学習	『学びをいかす 保育実習ハンドブック』pp42-46, 『実習の手引き』の「保育実習の内容」pp. 1-5を読む。
		事後学習	個人調査書、自己紹介書等の下書きと清書。
第2回	実習課題を作成する	事前学習	なぜ保育士資格を取得したいのか、動機を明確にするとともに、実習をとおして何を学びたいかを明らかにする。
		事後学習	自身の考えをリフレクションシートに記入する。
第3回	実習先について知る	事前学習	保育所・施設の特徴や方針、地域性について調べる
		事後学習	保育所概要について記入する。
第4回	実習に向けての心構えと準備	事前学習	配布資料及び、『学びをいかす 保育実習ハンドブック』p. 50を読む。
		事後学習	オリエンテーションまでの流れと留意事項、持ち物(提出書類等)について確認し書き出す。
第5回	実習で出会う子どもたち・保育場面を知る —DVDを視聴し、記録を書いてみる—	事前学習	配布資料を読み、発達の流れを理解する。
		事後学習	保育施設における一日の生活流れを場面ごと捉え、書き出してみる。
第6回	実習記録から保育を見る着眼点を学ぶ	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	資料の着眼点を意識し、時系列の記録を書く。

第7回	環境構成図を描く	事前学習	配布資料の環境構成図を真似て描く。
		事後学習	実習記録のどのような場面に環境構成図を入れるか意識し、記録を真似て書く。
第8回	エピソード記録を書く —DVDを視聴し、記録を書いてみる—	事前学習	配布資料を読む。
		事後学習	日常生活で見かけた子ども一場面を切り取り、記録してみる。
第9回	一日のまとめと振り返りを書く —DVDを視聴し、記録を書いてみる—	事前学習	配布資料と『学びをいかす 保育実習ハンドブック』pp.51-58を読んでくる。
		事後学習	文の構成を考え、見本を参考に書く。
第10回	指導計画の作成とアレンジの考え方	事前学習	配布資料と『学びをいかす 保育実習ハンドブック』pp.59-67を読んでくる。
		事後学習	対象年齢と部分実習で何をしたいかを考える。
第11回	指導計画の作成	事前学習	取り組みたい部分実習について準備する。
		事後学習	作成した部分実習について、対象を変えてアレンジしてみる。
第12回	教材を使った自己紹介と部分実習	事前学習	どんな自己紹介をしたいか考える。
		事後学習	自分の得意分野から、自己紹介や部分実習につかえるものを準備する。
第13回	グループごと、自己紹介や部分実習の模擬保育をする	事前学習	自己紹介、模擬保育の発表準備をする。
		事後学習	他者の発表内容を参考に、自身の改善点に取り組む。
第14回	保育実習に向けて自分の課題を見つけ解決する	事前学習	保育実習の不安なことや自分に足りないことを書きだす。
		事後学習	自分の課題を解決するための準備をする。
第15回	授業のまとめ 実習施設へのお礼状	事前学習	事務手続き、持ち物、実習記録、教材準備等を確認し、足りないもの、準備不足がないか確認する。
		事後学習	実習をとおして学びたいこと、身に付けたい専門性について、レポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育実践演習 (2単位)	3. 科目番号	SSOT4497
2. 授業担当教員	チームティーチング		SCOT4497
4. 授業形態	演習 保育児童学科教員全員が分担して、ゼミ形式の授業をおこなう。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育児童専門演習とつなげて、通年で修得すること		
7. 講義概要	<p>保育児童専門演習に引き続き、保育の専門性を深めるため、グループまたは個人のテーマ、学習目的によって指導教員のもとで主体的に学習する。</p> <p>保育にかかわる理論的研究、実践的研究、実技研修等を、共同活動または、個人活動として行う。実技分野においては、実践における得意分野を作る一助とする。方法は、①特定の研究テーマのもとでの調査、継続観察、保育実践を行い研究結果をまとめる、②保育所・幼稚園・福祉施設などへの参加、保育補助活動を通して、実践力を高める、③新しい保育実践法(音楽、造形、体育、児童文化等)の開拓、研究を行うなどが想定される。最後に研究報告書、実践報告書の作成並びに発表会を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 4年制大学卒業生に求められる専門分野における、自己学習力、研究能力を身につける。 2 自分の得意分野、または不得意分野に対して自主的に研鑽を積み、保育者としての専門的能力を高める。 3 各指導教員のもとで、小人数による討論、共同作業、共同学習、役割行動等によって、人間関係を深めたり、自己表現をするとともに、実践現場への適応力を養う。 4 保育関連の今日的課題、新しい情報への関心を高め、研究資料の検索や文献による研究になじむ。 5 個性を十分に発揮し、創造性を養う。 6 保育現場において十分活躍できるよう、社会人、専門的職業人としての自覚を養う。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>グループによって活動目的、経過が異なるので、担当教員に任される。</p> <p>調査研究結果報告、実践報告、実技習得成果発表等、多様な形式による課題やレポートが課せられる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】各担当者によって提示される。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 4年制大学卒業生に求められる専門分野における、自己学習力、研究能力を身につける。 2 自分の得意分野、または不得意分野に対して自主的に研鑽を積み、保育者としての専門的能力を高める。 3 各指導教員のもとで、小人数による討論、共同作業、共同学習、役割行動等によって、人間関係を深めたり、自己表現をするとともに、実践現場への適応力を養う。 4 保育関連の今日的課題、新しい情報への関心を高め、研究資料の検索や文献による研究になじむ。 5 個性を十分に発揮し、創造性を養う。 6 保育現場において十分活躍できるよう、社会人、専門的職業人としての自覚を養う。 <p>○評定の方法</p> <p>成績評価の規準1～6についての達成度を以下の方法により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各受講生のゼミナールへの参加意欲・態度について、研究成果、ゼミでの発言・共同の実態等から総合的に評価する。(50%) ・各受講生のゼミナール参加による知識理解や思考の深まり、研究法の習熟、表現力・創造性の向上について、ゼミで作成した成果(論文、レポートや実技など)とその発表から総合的に評価する。(50%) <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>学生生活最後の学期です。存分に自己発揮して、充実した活動をしてください。</p> <p>仲間や教員とのコミュニケーションを大事にしましょう。</p>		
13. オフィスアワー	各担当者によって提示される。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容		
第1回	<p>幼児体育関連分野</p> <p>現場での体育指導の在り方についての調査、観察研究、実践を通しての指導法の学習をする。</p>		
第2回	<p>造形、表現関連分野</p> <p>造形活動表現をグループで体験しながら保育現場での活用方法を考え、また、子どもを囲むより良い環境の構成についても造形表現の立場から考える。</p>		
第3回	<p>音楽、表現分野</p> <p>音楽表現活動をグループで体験しながら、子どもの発達、保育現場で活用について考えていく。創作オペレッタ、ペープサートによる音楽劇、創作手遊び、曲集作りなどを行う。</p>		
第4回	<p>保育理論分野</p> <p>保育思想、保育制度、海外の保育等に関する文献研究や、現在の保育理論に基づく多様な保育実践法についてフィールドワークをする。</p>		
第5回	<p>保育実践分野</p> <p>保育の「目的」(保育方針)、「保育内容」、「方法」、「教材研究」等保育実践に関する具体的学習活動をする。</p>		
第6回	<p>児童福祉分野</p> <p>児童福祉関係機関への訪問、現場職員との交流、社会地域調査等を通して、福祉の実態に関する学習をする。</p>		

第7回	保育心理分野 幼児の発達に即した保育実践法や保育のあり方等、現場体験を加えて発達と保育の理解を深める。
第8回	障害児保育、特別支援分野 障害のある子どもや「気になる子ども」。統合保育のみならず、病院内保育、施設内保育など障害児療育のさまざまな形態に触れながら、実践的なスキルを学習する。
第9回	小児保健分野 小児保健、小児保健実習で学んだことの総復習、子どもたちの健康を守り、健全な発育を促す対策（感染症、事故防止、救急看護、咀嚼力向上、歯科保健など）として、保育所、幼稚園、地方自治体などの取り組み等文献調査や実態調査を行う。
第10回	保育にかかわる関連分野 幼小連携、学童保育、子育て支援などの諸問題に関する文献及び現場での体験的学習。

1. 科目名 (単位数)	保育者論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP1106
2. 授業担当教員	坂本 真理子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	現代の経済社会・生活環境の著しい変化の中で育つ子ども達の問題を見据えて、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、保育者の資質を身に付けられるようにする。家庭保育や集団保育の実践と関連して学び、どちらにおいても、子どもの気持ちを受容し、子どもと共に絶えず先の方向を洞察してふるまえる自分を育てることが必要になる。現代の子どもの育ちの危機を理解し、保育者の専門性について、子ども個々のかかわりから、保護者支援、専門職間・専門機関との連携など、様々な人間関係における協働を理解する。		
8. 学習目標	1 保育者の役割と倫理について理解する。 2 保育者の制度的な位置づけを理解する。 3 保育者の専門性について考察し、理解する。 4 保育者の協働について理解する。 5 保育者の専門的成長について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート 自分の長所・短所を述べ、将来どの様な保育者になりたいか考察しまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 汐見稔幸・大豆生田啓友編 最新保育講座2『保育者論』 ミネルヴァ書房 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型人的こども園 教育・保育要領』		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 保育者の役割と倫理について理解しているか。 2. 保育者の制度的な位置づけを理解しているか。 3. 保育者の専門性について考察し、理解しているか。 ○評定の方法 授業への積極的参加態度、小課題への取り組み、レポート、小試験を適宜課し、それらを総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 各提出物 総合点の30% 3 小試験 総合点の40%		
12. 受講生へのメッセージ	保育者の意義および役割、職務内容に関する知識について理解を深め、保育者に対する自らの適性を考察するとともに、自分を振り返りながら保育者への意欲や自覚を養いましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、 保育・教育とは	事前学習	自分の幼児期の体験を資料として保育とはどのようなことか考えておく。
		事後学習	シラバス全体に目を通し授業計画を確認しておく。
第2回	保育者の仕事—保育者の一日を知る—	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる。
		事後学習	保育者の様々な一日の仕事を理解する。
第3回	保育という仕事の実態①	事前学習	免許、資格要件を調べておく。
		事後学習	保育者の在り方を確認する。
第4回	保育という仕事の実態②	事前学習	園生活に必要な保育者の仕事について調べておく。
		事後学習	保育者の仕事の意味、内容を理解する。
第5回	保育者の役割	事前学習	現代の子どもの生活から特に必要な保育者の役割を調べておく。
		事後学習	子どもと共に生活する保育者の大切な役割について理解する。
第6回	保育者の倫理	事前学習	関連法律の予習をしておく。
		事後学習	保育をする上で大切な倫理について、倫理綱領をもとに考察する。
第7回	職務内容の理解①	事前学習	関連法律の予習をしておく。
		事後学習	現在の福祉関連制度の確認をする。
第8回	職務内容の理解②	事前学習	関連法律の予習をしておく。
		事後学習	現在の学校制度の確認をする。
第9回	保育者の専門性—保育者に求められる能力—	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる。
		事後学習	事例から求められる保育者の姿について理解する。
第10回	保育者の専門性—保育の実践と自己評価—	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる。
		事後学習	自分の持つ子ども観、保育観について改めて考えたことをまとめる。
第11回	保育者の専門性—保育者としての成長と学び	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる。
		事後学習	保育者としての成長とともに培われていく専門性についてまとめる。

第12回	地域の中の保育者の役割	事前学習	地域の中での園の役割について調べておく。
		事後学習	地域の中での園の役割や子育て支援について理解する。
第13回	保育者に求められる幅広い資質	事前学習	園の組織や役割について調べておく。
		事後学習	専門職間の連携の仕方、幅広い資質についてまとめる。
第14回	保育の現状と今後の課題	事前学習	教科書の該当箇所を読んでくる。
		事後学習	現代保育の課題を理解し、保育者に求められる責務について理解する。
第15回	振り返りとまとめ	事前学習	保育者の専門性、チームとしての保育職についてまとめる。
		事後学習	授業で学んだことを踏まえ保育者の役割や専門性についてまとめる。

1. 科目名(単位数)	保育者論 (2単位)	3. 科目番号	SSOT1401 SCOT1401 SJMP1106
2. 授業担当教員	鈴木 美子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	現代の経済社会・生活環境の著しい変化の中で育つ子ども達の問題を見据えて、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、保育者の資質を身に付けられるようにする。家庭保育や集団保育の実践と関連して学び、どちらにおいても、子どもの気持ちを受容し、子どもと共に絶えず先の方向を洞察してふるまえる自分を育てることが必要になる。現代の子どもの育ちの危機を理解し、保育者の専門性について、子ども個々のかかわりから、保護者支援、専門職間・専門機関との連携など、様々な人間関係における協働を理解する。		
8. 学習目標	1 保育者の役割と倫理について理解する。 2 保育者の制度的な位置づけを理解する。 3 保育者の専門性について考察し、理解する。 4 保育者の協働について理解する。 5 保育者の専門的成長について理解する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	レポート 「保育とは、保育者とは、幼児とは」について理解し、保育の専門性と幼児の育ちを支える保育者の在り方を述べる。レポートをまとめることによって自分が保育をどのようにとらえていたかを自覚し、この科目の学びを深めるとともに、職業選択を進める契機とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 プリントを配付します。 【参考書】 小田豊他編著『保育者論』北大路書房、2012。 秋民言編『改定 保育者論 第2版』建帛社、2010。 大場幸男企画『保育者論』萌文書林、2012。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 保育者の役割と倫理について理解しているか。 2. 保育者の制度的な位置づけを理解しているか。 3. 保育者の専門性について考察し、理解しているか。 ○評定の方法 授業への積極的参加態度、小課題への取り組み、レポート、小試験を適宜課し、それらを総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 各提出物 総合点の30% 3 小試験 総合点の40%		
12. 受講生へのメッセージ	子どもをよく観察することにより、子どもは周囲の人とのかかわりの中で育つことを感じ取る力を身につけてください。将来の保育者としての自分の姿を想像して、目標を設け努力してください。 1 授業のルールを守る。(遅刻、欠席をしない) 2 私語はしない。		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、保育者の資質とは	事前学習	自分の幼児期の体験を資料として保育者の資質について考えておく
		事後学習	保育者の資質について体験からの自覚と理論との関連を考える
第2回	専門職とは何か、保育専門職の特質と他の専門職との違い	事前学習	専門職の定義を調べ、専門性について考えておく
		事後学習	乳幼児の教育・保育の専門家の特性を理解する
第3回	保育者の在り方(保育者の心構え)	事前学習	保育者としての心構えについてポイントをまとめておく
		事後学習	保育者の在り方を確認する
第4回	現代における保育者の使命と役割	事前学習	現代の子どもの生活から特に必要な役割を参考書から調べておく
		事後学習	保育者役割の具体事例として理解する
第5回	保育専門職(幼稚園教諭、保育所保育士、認定こども園保育教諭)の服務と身分保障	事前学習	免許、資格要件を調べておく
		事後学習	職務の意味を確認する
第6回	保育の制度(学校教育法、幼稚園教育要領、幼稚園設置基準)	事前学習	関連法律の予習をしておく
		事後学習	現在の学校制度の確認をする
第7回	保育の制度(児童福祉法、保育所保育指針、認定こども園法、他)	事前学習	関連法律の予習をしておく
		事後学習	現在の福祉関連制度の確認をする
第8回	保育実践法(子どもへのかかわり)	事前学習	事前配布資料から保育の実践事例について考えておく
		事後学習	実践事例の再検討、振り返りをする
第9回	保育実践法(環境の考え方)	事前学習	事前配布資料から保育の実践事例について考えておく
		事後学習	実践事例の振り返りをする
第10回	保育実践法(保護者支援)	事前学習	事前配布資料から保育の実践事例について考えておく
		事後学習	実践事例の振り返りをする
第11回	保育の歴史と代表的な人物 世界	事前学習	参考書から世界の保育の歴史を調べておく
		事後学習	代表人物の思想と実践、現代への影響について復習をする

第12回	保育の歴史と代表的な人物 日本	事前学習	参考書から我が国の保育の歴史を調べておく
		事後学習	代表的人物の思想と実践、現在への影響について復習をする
第13回	施設内職員の協力連携の方法、および他機関の専門職との連携の重要性	事前学習	園の組織や役割について調べておく
		事後学習	専門職間の連携の仕方についてまとめる
第14回	現代社会の生活と専門性の向上	事前学習	資料から専門性の向上の予習をしておく
		事後学習	専門性向上のための方策のレポートを提出する
第15回	自分の資質と教育・保育におけるチーム学校運営としての専門職者としての専門性習得課題	事前学習	保育者の専門性、チームとしての保育職についてまとめる。
		事後学習	今後の学習課題のまとめを提出する
		期末試験	

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (言葉) (2単位)	3. 科目番号	JNNT1102 SJMP2134
2. 授業担当教員	瑞穂 優		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「言葉」の内容と意味を理解する 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する。 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の援助を理解する。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5. 言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6. 児童文化財 (絵本や紙芝居、パネルシアターなど) の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	乳幼児の発達に適した絵本を調べ、「絵本ノート」を作成する。 エプロンシアター・パネルシアター・パペット等の児童文化財の教材を作成し、発表する。 言葉の発達とその遅れに関する知識を獲得する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 内藤知美・新井美保子 (編著) 『コンパス保育内容言葉 第2版』2017年 建帛社 【参考書】 保育所保育指針/幼稚園教育要領/幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「言葉」の内容と意味を理解し、説明することができる。 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解し、説明することができる。 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解し、説明することができる。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、授業発表等で実践することができた。 5. 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、言葉をめぐる現代社会の現状と課題を踏まえ、保育者の役割の説明することができる。 6. 児童文化財 (絵本や紙芝居、パネルシアターなど) の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を保育実践にむけて考察、立案することができる。 ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度と学習目標への到達度 (積極的参加、課題への取り組みと提出、授業後の記述内容により加点) 40% 2. 提出課題 (絵本やわらべうた等の収集と教材ノートの作成) 30% 3. 期末試験 (言語発達や保育者の役割に関する筆記試験) 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	人間にとって言葉はとても大きな役割を果たしています。子どもにとってもそれは同じですが、小さな子どもは0から言葉を学習し、うまく言葉にすることができない経験をたくさん積んで発達しています。子どもの発達を支える者として、子どもの言葉についてしっかり学習してほしいと思います。 1. 授業にきちんと出席する 2. 私語は慎む 3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にしてしまう この3つは守ってください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の概要とすすめ方	事前学習	教科書の目次を読んでくる。
		事後学習	児童文化財の製作課題スケジュールを考えてくる。
第2回	子どもにとっても言葉	事前学習	教科書 第1章を読んでくる。
		事後学習	言葉をめぐるワークショップを振り返り、まとめてくる。
第3回	領域「言葉」のねらいと内容	事前学習	幼稚園教育要領の領域「言葉」を読んでくる。
		事後学習	領域「言葉」についての内容を確認しておく。
第4回	0、1歳児の言葉の発達と養育者との愛着	事前学習	教科書 第2、3章を読んでくる。
		事後学習	養育者との関係と言葉の結びつきについて理解しておく。
第5回	1、2歳児の言葉の発達と園での生活	事前学習	教科書 第4、5章を読んでくる。
		事後学習	3歳までの言葉の発達に関するワークシートを仕上げてくる。
第6回	3歳以降の言葉の発達と仲間との関係	事前学習	教科書 第6、7章、第8章1、2を読んでくる。
		事後学習	3歳以降の言葉の発達に関するワークシートを仕上げてくる。
第7回	言葉の発達と小学校教育との連携	事前学習	教科書第8章3-5を読み、言葉と小学校の国語とのつながりについて考えてくる。
		事後学習	幼児期の言葉の発達への援助について振り返り、自分の考えをまとめる。
第8回	言葉の発達が気にかかる子どもたち	事前学習	教科書 第10章を読んでくる。
		事後学習	言葉の遅れに関するワークシートを仕上げてくる。
第9回	児童文化財とは	事前学習	教科書 第12章、13章を読んでくる。

		事後学習	製作したい児童文化財の題材を収集してくる。
第10回	言葉を育てる遊び	事前学習	教科書 第12章2, 3, 6, 7を読んできると。
		事後学習	わらべうたや手遊びをおさらいして習得する。
第11回	言葉を育てる絵本	事前学習	教科書第12章5、第13章1を読んできると。
		事後学習	絵本ノートを仕上げてくる。
第12回	言葉を育てる読み聞かせ ～読み聞かせを体験しよう～	事前学習	紹介したい絵本を探して、持参する。
		事後学習	読み聞かせ体験をまとめる。
第13回	言葉を育む保育者の役割 ～児童文化財を用いた模擬保育指導案の作成～	事前学習	児童文化財を演じる準備をしてくる。
		事後学習	指導案を仕上げる。
第14回	児童文化財を使った模擬保育	事前学習	発表に向けての準備をする。
		事後学習	発表のまとめをする。
第15回	まとめ	事前学習	授業を振り返ってくる。
		事後学習	期末テストの準備
期末試験			

1. 科目名(単位数)	保育内容(言葉) (2単位)	3. 科目番号	SJMP2134
2. 授業担当教員	柳 辰男		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「言葉」の内容と意味を理解する 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する。 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の援助を理解する。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5. 言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6. 児童文化財(絵本や紙芝居、パネルシアターなど)の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>アサイメント(宿題)は、保育者としての基礎的知識教養及び保育計画を表現する表現方法を身に付けるために以下の課題を実践演習し提出する。</p> <p><提出課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児向けの絵本を20冊以上読み、指導上必要な内容を書式に従って整理して提出する。 2. 幼児及び小学校低学年向けの絵本を1冊選び、その育材・教材研究、指導計画、展開の方法等を書式に従って書いて提出する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 内藤知美・新井美保子(編著)『コンパス保育内容言葉』、2017年 建帛社 必要に応じて授業内でプリントを配布する。</p> <p>【参考書】 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「言葉」の内容と意味を理解し、説明することができる。 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解し、説明することができる。 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解し、説明することができる。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、授業発表等で実践することができた。 5. 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、言葉をめぐる現代社会の現状と課題を踏まえ、保育者の役割の説明することができる。 6. 児童文化財(絵本や紙芝居、パネルシアターなど)の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を保育実践にむけて考察、立案することができる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度と学習目標への到達度 (積極的参加、課題への取り組みと提出、授業後の記述内容により加点) 40% 2. 提出課題 (絵本やわらべうた等の収集と教材ノートの作成) 30% 3. 期末試験 (言語発達や保育者の役割に関する筆記試験) または期末課題 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生の皆さんは、まだ実習体験をしている人は少なく、大部分の人は、乳幼児の言葉やコミュニケーションのイメージがなく、保育指導における言葉の指導の大切さや具体的方法や技術が意識されていないであろう。そこで、できるだけ、身近にいる乳幼児との接触をベビーシッターや幼稚園、保育所でのボランティアやアルバイト等を通して積極的にしてほしい。また、これからの保育所や幼稚園で実習している自分を想定しその時の責任観と実践的技術や喜びを感じながら積極的に学んでほしい。</p> <p>そのために、次のことを、お互いに努力しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前事後学習及び提出課題に誠実に取り組み、授業に積極的に参加すること。 2. 将来保育や教育等の仕事を志す者として、私語や不適切な眼差し等によって他の学習者の邪魔をしたり、人権や人格を傷つけたりすることのないように努めること。 3. 質問、話し合い、感想・作品・宿題等の発表、実演ロールプレイ練習等に照れたりふざけたりすることなく誠実に積極的に参加し、自分を発揮すると共に他の人に役立つ役割を果たすこと。 4. 指導者の私は、授業の準備に努め、授業の開始終了時刻を厳守し、皆さんの質問や考えを誠実に受け止め応えるよう努力するので、皆さんは積極的に話しかけてください。 		
13. オフィスアワー	第1回目の授業時に連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	人間にとっての言葉の意義と機能	事前学習	「言葉」からイメージすることを考えておく。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、人間にとっての言葉の意義について自身の考えをノートにまとめる。

第2回	現代社会における言葉をめぐる課題	事前学習	現代社会における言葉をめぐる問題や課題について、関心のあることの新聞記事を用意する。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、現代社会における言葉をめぐる課題を整理し、幼児教育の役割について自身の考えをまとめる。
第3回	領域「言葉」のねらいと内容と基本的理解	事前学習	領域「言葉」のねらいと内容を読み、関心のある箇所を探す。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、指導上の留意点について理解し、自己課題をノートにまとめる。
第4回	子どもの言葉の発達過程①（乳児期）	事前学習	誕生から約1年間の言語獲得について、実習体験や身近な子どもの観察等を通して関心のある事象を整理しておく。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、乳児期の言葉獲得について、保育者の役割をまとめる。
第5回	子どもの言葉の発達過程②（幼児期）	事前学習	幼児期の言語獲得について、実習体験や身近な子どもの観察等を通して、関心のある事象を整理しておく。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、幼児期の言葉獲得について、保育者の役割をまとめる。
第6回	コミュニケーションとしての言葉と書き言葉（文字）との出会い	事前学習	保育実践の中で、子ども同士がどのように言葉を使用していたか、また、子どもが文字に関心をもっていた事例や環境について、具体的に整理しておく。
		事後学習	本日の授業を踏まえ、非言語コミュニケーションとしての言葉及び、文字等への関心と書くことへの興味について、保育における環境や保育者の援助について自身の考えをまとめる。
第7回	言葉に対する感覚とは何か 言葉の美しさ、楽しさを感じる（演習）	事前学習	子どものつぶやきや会話の事例を整理しておく。
		事後学習	本日の授業を通して、乳幼児の言葉の世界観や想像性について自身の考えをまとめる。
第8回	子どもにとっての児童文化財の歴史と意義（教材研究）①絵本と紙芝居 （情報機器及び教材の活用法について学ぶ）	事前学習	好きな絵本と紙芝居を用意し、ブックトークの準備を行う。
		事後学習	絵本と紙芝居の教材について、ブックリスト（課題）の作成を行う。
第9回	言葉を育て想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実践と教材研究（演習） （情報機器及び教材の活用法について学ぶ）	事前学習	関心のある児童文化財について、教材研究を行い、指導案の作成しておく。
		事後学習	パネルシアター、パペット、ペーパーサートなどの特徴を理解し、子どもが言語活動を実施する場合の過程と計画を立案する。
第10回	指導案作成とグループ制作	事前学習	グループ毎に児童文化財を決め、指導案を作成し、模擬保育の準備を行う。
		事後学習	修正、改善を図り、模擬保育の発表にむけて準備を整える。
第11回	模擬保育の実施と評価 保育における評価について考える	事前学習	模擬保育の発表の準備を整える。
		事後学習	模擬保育を踏まえ、保育における評価に基づいて振り返り、気づいたことを整理する。
第12回	模擬保育 言葉に対する感覚を豊かにする環境構成と援助 ①乳児期	事前学習	わらべうたについて調べ、発表の準備をする。
		事後学習	乳児期のことばと援助について、環境構成と援助の留意点について自身の考えをまとめる。
第13回	模擬保育 言葉に対する感覚を豊かにする環境構成と援助 ②幼児期	事前学習	関心のある保育実践の記事を探し、準備する。
		事後学習	言葉に対する感覚を豊かにする環境構成と援助について、自身の考えをまとめる。
第14回	特別な配慮を要する幼児の言葉の支援	事前学習	言語障害の定義と種類について調べておく。
		事後学習	保育の場での早期発見と具体的な援助、支援体制について、自身の考えをまとめる。
第15回	保幼小の接続と領域「言葉」	事前学習	領域「言葉」のねらいと内容を踏まえ、伝え合う言葉について自身の考えをまとめておく。
		事後学習	幼児教育の独自性を踏まえ、スタートカリキュラムへの接続にあたって求められる保育者の役割について自身の考えをノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (人間関係) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3413
2. 授業担当教員	瑞穂 優		SCOT3413 SJMP3132
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	幼児期において育みたい力のうち人間関係について、そのねらいと内容について学ぶ。子どもの人間関係の発達過程の理解と共に、子どもたちの生活場面での人間関係がどのように広がり、深まっていくのか、子ども、子ども集団、保育者、家庭、地域等を含めた人との関わりについて理解する。保育の全体構造のなかで、子どもの人間関係の力を育む援助について、子どもの実際をみとる力、そこからねらいを見定め、指導・援助の構想ができるようになることを目指す。		
8. 学習目標	1. 幼稚園教育要領 (幼保連携型認定子ども園教育・保育要領) に示されたねらい及び内容を理解し、説明できる。 2. 幼児期の人間関係の発達過程を理解し、説明できる。 3. 子どもの人間関係の実態を見取り、実態からねらいを見出し、実践的な保育内容・活動の構想ができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。 2. 課題 (事例) を読み、まとめる。 3. テスト		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 無藤隆 (監修) 『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』2018 萌文書林 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示)』フレーベル社 文部科学省『幼保連携型認定子ども園・保育要領 (平成 29 年 3 月告示)』フレーベル社		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 幼稚園教育要領 (幼保連携型認定子ども園教育・保育要領) に示されたねらい及び内容について説明できるか。 2. 幼児期の人間関係の発達過程について説明できるか。 3. 子どもの人間関係の実態を見取り、実態からねらいを見出し、実践的な保育内容・活動の構想ができるか。 ○評定の方法 1. レポート 総合点の 40% 2. 授業への参加態度 (模擬保育を含む) 総合点の 30% 3. 試験 (小テスト等) 総合点の 30%		
12. 受講生へのメッセージ	人は生まれながらに「関係的な存在」であり、私たちは関係の中で生きています。自分によって相手が変わり、相手がいるから自分が変わるということを認識しながら授業を受けてほしいと思います。 1. 授業にきちんと出席する 2. 私語は慎む 3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にしまう この3つは守ってください。また、授業に必要なものの準備が不十分ということがないようにしてください。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 保育内容 (人間関係) を学ぶ意義	事前学習	シラバスを確認し、授業の準備をする
		事後学習	授業に必要な教材をそろえる
第2回	「人間関係」のねらいと内容	事前学習	要領、指針の人間関係のねらいと内容を読む
		事後学習	人間関係のねらいと内容を整理する
第3回	乳幼児期の人間関係の発達の理解 (1) ～0歳児の発達と愛着～	事前学習	0歳までの発達の特徴を見直す
		事後学習	0歳までの人間関係の発達の特徴をまとめる
第4回	乳幼児期の人間関係の発達の理解 (2) 1～3歳までの発達と信頼関係～	事前学習	1～3歳の発達の特徴を見直す
		事後学習	1～3歳の人間関係の発達の特徴をまとめる
第5回	幼児期の人間関係の発達の理解 3～5歳児の発達と子ども同士の関係	事前学習	3～5歳までの発達の特徴を見直す
		事後学習	3～5歳の人間関係の発達の特徴をまとめる
第6回	「人間関係」を育む保育者の関わり	事前学習	教科書 第3章を読んでくる
		事後学習	子ども同士をつなぐ保育者の援助のあり方について考察する
第7回	「人間関係」を育む「遊び」の役割 (1) ～遊びの発達～	事前学習	教科書 第4章を読んでくる
		事後学習	「遊び」の発達についてまとめる
第8回	「人間関係」を育む「遊び」の役割 (2) ～遊びが培うもの～	事前学習	自分が好きだった遊びを思い出し、その遊びを繰り返し遊んだ理由を考える
		事後学習	「遊び」が人間関係の発達にはたすやくわりについてまとめる

第9回	かかわりの難しい子どもへの支援	事前学習	かかわりの難しい子どもとはどんな子どもか考えてくる
		事後学習	かかわりの難しい子どもの特徴とかかわり方についてまとめる
第10回	個と集団の育ち	事前学習	教科書 第6章を読んでくる
		事後学習	ひとりひとりが集団のなかで育つ意義についてまとめる
第11回	子どもの育ちと親への支援	事前学習	教科書 第8章を読んでくる
		事後学習	親への支援についてまとめる
第12回	子どもの人間関係を育む活動を考える ～指導案の作成～	事前学習	指導案の作成について予習してくる
		事後学習	指導案を作成する
第13回	子どもの人間関係を育む活動を考える ～グループワーク～	事前学習	グループ発表の準備
		事後学習	指導案の修正
第14回	子どもの人間関係を育む活動を考える：グループ発表	事前学習	グループ発表の準備
		事後学習	指導案の修正
第15回	まとめ	事前学習	これまでの授業をふりかえってくる
		事後学習	これまでの授業を振り返り、子どもの人間関係を豊かにするための保育者の援助についてレポートをまとめる

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (表現) / 表現 (保育児童福祉専修) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1135						
2. 授業担当教員	林 麻由美								
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育者には、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、意志のある「表」と無意識のうちに現れる内的変化である「現」をそれぞれ大切に受け止めるための理解力を身につけることが必要である。本講義では、講義と演習を通して、乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」のねらいと内容について理解し、説明することができる。 2. 乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができる。 3. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識を経て、保育者自身が豊かな表現者となるよう、自己表現力を高める。 4. 乳幼児の「表現」を支える保育者の役割について理解し、説明することができる。 5. 乳幼児の「表現」を援助するための方法を身につける。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容に即して活動の準備 2. 教科書の読みとりとまとめ 3. 発表の準備と内容に関するレポートの提出 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林紀子・砂上史子・刑部育子編著新しい保育講座 11『保育内容「表現」』ミネルヴァ書房 2019。</p> <p>【参考書】 無藤隆 監修『事例で学ぶ保育内容 領域表現』萌文書林。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 幼稚園教育要領、幼稚園教育要領 (平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」が設定された背景及びねらい、内容について理解することができたか。 2. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識を経て、自己表現力を高めることができたか。 3. 乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができるか。 4. 乳幼児の「表現」を支える保育者の役割について理解し、説明することができるか。 5. 乳幼児の「表現」を援助するための方法を身につけ、実践することができるか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>①授業への取り組み・発表内容</td> <td>総合評価の 40%</td> </tr> <tr> <td>②提出物 (レポートを含む)</td> <td>総合評価の 30%</td> </tr> <tr> <td>③筆記試験</td> <td>総合評価の 30%</td> </tr> </table> <p>①から③までを総合的に評価する。</p>			①授業への取り組み・発表内容	総合評価の 40%	②提出物 (レポートを含む)	総合評価の 30%	③筆記試験	総合評価の 30%
①授業への取り組み・発表内容	総合評価の 40%								
②提出物 (レポートを含む)	総合評価の 30%								
③筆記試験	総合評価の 30%								
12. 受講生へのメッセージ	学習目標が達成できるよう努力しましょう。幼児理解を深め、未分化な幼児の表現活動を捉え、的確に援助できるようになりましょう。自らの表現力をみがきましょう。自然の美しさや日々の変化に気づく感受性を育てましょう。色々な文化的経験を積みましょう。								
13. オフィスアワー	授業内にて周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要)	事前学習	教科書第1章を読んでおく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第2回	領域「表現」の誕生とそれ以前の保育内容について	事前学習	教科書 pp. 93～99 を読んでおく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第3回	領域「表現」のねらいと内容について①	事前学習	教科書 pp. 100～106 を読んでおく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第4回	領域「表現」のねらいと内容について②	事前学習	教科書 pp. 100～106 を読んでおく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第5回	乳幼児の発達と表現	事前学習	教科書 pp. 21～28 を読んでおく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第6回	季節を意識した平面制作とお話作り①	事前学習	折り紙を折ることに慣れておく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第7回	季節を意識した平面制作とお話作り②	事前学習	活動の準備。構想を練る。						
		事後学習	制作とお話作りの振り返り。						
第8回	季節を意識した平面制作とお話の発表と振り返り	事前学習	発表の準備。						
		事後学習	制作とお話作り、発表に関する振り返りを行う。						
第9回	諸感覚を通しての感性と表現	事前学習	教科書 pp. 37～40 を読んでおく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第10回	音楽表現、身体表現 (歌唱、リズム遊びなど)	事前学習	歌唱に慣れておく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第11回	音楽表現、身体表現 (音楽に合わせて身体を動かすなど)	事前学習	ストレッチをしておく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						
第12回	子どもの表現を支える保育者の役割を考える。	事前学習	教科書第8章を読んでおく。						
		事後学習	授業で学んだことの復習。						

第13回	造形表現の教材と指導法	事前学習	教科書第11章を読んでおく。
		事後学習	授業で学んだことの復習。
第14回	音楽表現の教材と指導法	事前学習	教科書第12章を読んでおく。
		事後学習	授業で学んだことの復習。
第15回	まとめ（保育内容「表現」における今後の課題	事前学習	教科書第13章を読んでおく。
		事後学習	授業で学んだことの復習。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	保育内容総論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP2130
2. 授業担当教員	関口 はつ江		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育者として保育内容を考える際、保育内容の5領域や子どもの活動に対する理解は重要である。しかし、子どもの実態に応じて保育を構想するためにはこれらの理解のみでは十分条件とはならない。これらに加えて、養護と教育が一体的に展開する保育、環境を通して行う保育、遊びによる総合的な保育といった一連の保育内容の展開に関する考え方への理解が深まることで、はじめて目の前の子どもの姿から具体的に保育を構想することが可能となる。本講義の目的はここにあり、子どもの姿から保育を構想していく際に必要な考え方を身につけることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育・教育要領に基づいた現代の保育の全体的な構造を理解し、説明できる。 2. 保育の歴史の変遷について学び、保育の基本及び保育内容について「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて説明できる。 3. 子どもの生活や遊びの総合性を理解し、保育内容を領域別に指導するのではなく、相互関連性等を踏まえた総合的な指導の在り方を理解する。特に、各領域が発達を捉える視点であることを具体的に説明することができる。 4. 子どもの発達の特性や発達過程を踏まえた観察や記録の観点を習得し、子ども理解を深める姿勢を身に付ける。 5. 多様な保育展開について学び、子どもの育ちに相応しい保育を構想することができる。 6. 現代社会における様々な保育課題を知り、常に保育者としての資質と専門性の向上に努める姿勢を身に付ける。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>第3回終了後と第11回終了後に小テスト、さらに期末試験を行います。 授業中の事例考察の課題の提出があります。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>教科書 関口はつ江 岸井慶子編 「実践理解のための保育内容総論」 大学図書出版 平成29年告示幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に対する参加態度(授業に臨む姿勢、個別学習・グループ学習における課題への取り組み)は意欲的であったか。 2. 提出物の期日は順守できたか、取り組みの内容は十分なものであったか。 3. (試験) 授業を踏まえて学習目標に示された内容が定着していたか。 (レポート) テーマに沿って分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度 50% 2. 提出物とその内容 20% 3. 期末試験もしくは期末レポート 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、保育実践の具体的根拠となる保育内容を規定した幼稚園教育要領や保育指針を扱います。正しく理解し、自分のものにするために、教科書、参考資料を丁寧に読んでください。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業時に知らせます。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の理解	事前学習	テキスト第1章、現行各法令の予習
		事後学習	現行法令が示すことの基本を理解する
第2回	現在の社会が求める保育の在り方～教育基本法、学校教育法、児童福祉法、子ども子育て関連3法等からの考察	事前学習	テキスト第2章、関連法令を予習する
		事後学習	子どもの主体的、自立的発達支援の重要性を確認する
第3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷と社会的背景理解	事前学習	テキスト第3章予習
		事後学習	現在の保育内容の考え方を深める
第4回	生活の場としての保育施設の1日の在り方～発達段階による保育ニーズの違い	事前学習	テキスト第5章予習
		事後学習	子どもにとっての園生活、遊びの理解
第5回	乳児期(0, 1, 2歳児)の保育の基本、保育内容の考え方	事前学習	テキスト第6章、8章予習
		事後学習	乳児の生活と保育内容の理解

第6回	3歳児期の特徴と保育内容・保育活動1～3歳児の遊びの姿と育ちの見方を中心に。映像教材予定	事前学習	テキスト第7章予習
		事後学習	3歳児発達の姿と遊びへのかかわり
第7回	3歳児保育の特徴と保育内容・保育活動2～保育の環境構成と指導計画を中心に	事前学習	テキスト第9章予習
		事後学習	3歳児の生活指導、保育環境、活動の見通し
第8回	4歳児期の特徴と保育内容・保育活動1～4歳児の遊びの姿、集団関係を中心に。映像教材予定	事前学習	テキスト第10章の予習
		事後学習	4歳児の遊びと子どもの経験
第9回	4歳児期の特徴と保育内容・保育活動2～保育の環境構成と指導計画中心に	事前学習	4歳児の内面と育ちの姿の予習
		事後学習	4歳児の指導、環境構成、活動の見通し
第10回	5歳児期の特徴と保育内容・保育活動1～5歳児の遊びによる学びのを中心に。映像教材予定	事前学習	テキスト第11章の予習
		事後学習	5歳児の遊びと子どもの経験
第11回	5歳児期の特徴と保育内容・保育活動2～5歳児の育つ力と指導の要点を中心に	事前学習	5歳児の内面と育ちの姿の予習
		事後学習	5歳児の指導、環境構成、活動の見通し
第12回	園の全体的活動や異年齢活動の意義・役割	事前学習	テキスト第4章予習
		事後学習	多様な保育方法とその効果の理解
第13回	園外保育、保護者参加、地域連携活動の意義・役割	事前学習	地域における保育の場の検討
		事後学習	地域連携、保護者参加の意義と保育方法理解
第14回	就学前教育のねらいと方法の基本	事前学習	テキスト第12章予習
		事後学習	幼児期に養う力と保育方法、保育内容との関連理解
第15回	子どもの力の育成（育つことが望まれる資質や姿と子どもの現在）	事前学習	テキスト第13章予習
		事後学習	これからの社会を見通した幼児教育のねらいと内容
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育の心理学／保育の心理学 I (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2406
2. 授業担当教員	長谷川 有香		SCOT2406
4. 授業形態	講義, ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	人間の発達を理解することは、子どもの成長に気付き、子どもの行動を適切に理解し、それを保護者や同僚と共有する際の重要な基礎となる。保育の心理学では、子どもの発達について、各時期の特徴を、社会情動的側面、身体的機能や運動機能、認知、言語などの様々な側面から学ぶ。さらに、乳幼児期の学びに関する理論や、その過程や特性、子どもの学びを支える保育のあり様などを学ぶ。		
8. 学習目標	①人間の発達プロセスに関する基本的な知識を理解し、説明できるようになる。 ②子どもの行動や現象を、発達や教育に関わる心理学の知見を用いて説明できるようになる。 ③保育場面において子どもの発達を支える支援を、心理学の知見を用いて考えられるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に小テスト・小レポートを実施します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】使用しない 【資料・教材】授業にてプリントを配布します		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 人間の発達過程について説明することができるか 2. 子どもの行動や現象について心理学の知見を用いて説明することができるか 3. 保育場面における子どもの発達支援について心理学の知見を用いて考え、説明することができるか ○評定の方法 1. 授業への積極的参加態度 総合点の 30% 2. 課題発表もしくはレポート 総合点の 30% 3. 小テスト 総合点の 40%		
12. 受講生へのメッセージ	人が一生を通じてどのように成長・発達していくのかを学びます。子どもたちのことを学ぶだけでなく、自分自身についての理解を深める機会にもしていただけたらと思います。		
13. オフィスアワー	初回授業で指示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス	事前学習	シラバスを確認する
		事後学習	今後の授業内容について理解し、必要な教科書や教材を準備する
第 2 回	保育の心理学とは・発達とは	事前学習	予習課題 1
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 3 回	胎生期の発達	事前学習	予習課題 2
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 4 回	周産期	事前学習	予習課題 3
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 5 回	乳児期①運動発達	事前学習	予習課題 4
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 6 回	乳児期②知覚・認知の発達	事前学習	予習課題 5
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 7 回	乳児期③社会性の発達	事前学習	予習課題 6
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 8 回	幼児期①認知の発達	事前学習	予習課題 7
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 9 回	幼児期②社会性の発達	事前学習	予習課題 8
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 10 回	幼児期③体験ワーク	事前学習	予習課題 9
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 11 回	児童期①認知の発達	事前学習	予習課題 10
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 12 回	児童期②社会性の発達	事前学習	予習課題 11
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 13 回	青年期①自己の発達	事前学習	予習課題 12
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 14 回	青年期②問題行動	事前学習	予習課題 13
		事後学習	レジュメを見直して内容を理解する
第 15 回	まとめとテスト	事前学習	これまでのレジュメを見直してテストの準備をする
		事後学習	テストで解答できなかった点を見直す

1. 科目名 (単位数)	法学Ⅱ (民法、行政法) (4単位)		3. 科目番号	GELA2317
2. 授業担当教員	梶原 洋生			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>社会福祉や教育に携わる者は、社会保障や教育制度に関する諸法令についての基礎知識を理解し、その具体化を図るため、民法 (総則・財産法・家族法) 及び行政法 (行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等) に関する基礎知識を学び、その実践に求められる能力、いわゆるリーガルマインドを習得する必要がある。</p> <p>また、法律科目の特性上、まず法律の条文を読んで理解し、適切に解釈できるようになるとともに、判例を学び、各々の法律条文がどのように解釈され、適用されているのかを理解できるようにならなければならない。そのため、この講義では、条文に当たり、判例を検討しながら学習を進めていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 条文や判例に基づいて法律を解釈できるようになる。 2. 民法、行政法の基礎知識を習得し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の民法、行政法科目に対応できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。 2 課題レポートの提出を義務付ける。テーマは「債務不履行と訴訟について」を予定している。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 副田隆重他『ライフステージと法』最新版 有斐閣</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を通じて、条文や判例に基づいた法解釈のやり方 (リーガルマインド) がみについているかどうか。 2. 小テストを通じて、授業で学んだ法律用語等を理解し、説明できるようになっているか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 総合点の20% 2. 期末試験 総合点の80% 			
12. 受講生へのメッセージ	社会福祉や教育に携わる者は、社会保障や教育制度に関する諸法令についての基礎知識を理解し、その具体化を図るため、いわゆるリーガルマインドを習得する努力を日常から行ってください。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義の進め方、勉強の仕方等) 民法・総則 －権利能力と行為能力－	事前学習	民法の定義を200字以内でまとめる。	
		事後学習	権利能力と行為能力のちがいについて200字以内でまとめる。	
第2回	民法・総則 －法人と成年後見－	事前学習	法人には、どのようなものがあるか調べ、200字以内でまとめる。	
		事後学習	成年被後見人制度について200字以内でまとめる。	
第3回	民法・総則 －公序良俗について－	事前学習	公序良俗について200字以内でまとめる。	
		事後学習	法律行為の瑕疵について200字以内でまとめる。	
第4回	民法・総則 －時効と代理－	事前学習	時効とはなにか調べ、200字以内でまとめる。	
		事後学習	代理制度について200字以内でまとめる。	
第5回	民法・物権 －物権とは－	事前学習	物権とはなにか調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	用益物権について200字以内でまとめる。	
第6回	民法・物権 －登記とは－	事前学習	登記について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	担保物権について200字以内でまとめる。	
第7回	民法・債権 －債権とは－	事前学習	債権とはなにか調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	債権の効力について200字以内でまとめる。	
第8回	民法・債権 －典型契約－	事前学習	契約にはどのようなものがあるか調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	典型契約について200字以内でまとめる。	
第9回	民法・債権 －債務不履行－	事前学習	債務不履行について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	事務管理・不当利得について200字以内でまとめる。	
第10回	まとめ① －財産法の捉え方－	事前学習	これまでの授業を振りかえり、400字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の財産法の総復習をおこない、400字以内でまとめる	
第11回	民法・不法行為 －損害賠償について－	事前学習	損害賠償について200字以内でまとめる。	
		事後学習	不法行為の成立要件についてまとめ200字以内でまとめる。	
第12回	民法・不法行為 －使用者責任について－	事前学習	使用者責任について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	過失責任と無過失責任について200字以内でまとめる。	
第13回	民法・親族 －婚姻・離婚について－	事前学習	親族の範囲を調べ、200字以内でまとめる。	
		事後学習	婚姻・離婚について200字以内でまとめる。	
第14回	民法・親族 －親子関係について－	事前学習	親子関係について200字以内でまとめる。	
		事後学習	養子制度について200字以内でまとめる。	

2020年度

第15回	民法・親族 －親権について－	事前学習	親の懲戒権について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	親権について200字以内でまとめる。
第16回	民法・相続 －法定相続について－	事前学習	相続の意義を調べ、200字以内でまとめる。
		事後学習	法定相続について200字以内でまとめる。
第17回	民法・相続 －嫡出子と非嫡出子－	事前学習	嫡出子と非嫡出子の相続分について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	単純承認と限定承認について200字以内でまとめる。
第18回	民法・相続 －遺留分について－	事前学習	遺言について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	遺留分について200字以内でまとめる。
第19回	民法・相続 －生前贈与について－	事前学習	生前贈与について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	遺産分割について200字以内でまとめる。
第20回	まとめ② －親族の判例－	事前学習	これまでの授業を振り返り、600字以内でまとめる。
		事後学習	民法の親族法と相続法の総復習を行い、600字以内でまとめる。
第21回	行政法・行政行為 －行政の役割とは－	事前学習	行政の役割について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	行政立法と行政行為について200字以内でまとめる。
第22回	行政法・行政行為 －行政処分について－	事前学習	行政処分について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	行政行為の公定力について200字以内でまとめる。
第23回	行政法・行政手続法 －行政官庁について－	事前学習	行政官庁について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	行政処分の事前救済について200字以内でまとめる。
第24回	行政法・行政不服審査法 －行政不服申立てについて－	事前学習	行政不服申立ての種類について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	行政庁の審査について200字以内でまとめる。
第25回	行政法・行政事件訴訟法 －行政訴訟の判決－	事前学習	行政訴訟の判決を一つ調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	行政訴訟の種類について200字以内でまとめる。
第26回	行政法・行政事件訴訟法 －救済の仕組み－	事前学習	行政訴訟の意義について200字以内でまとめる。
		事後学習	行政訴訟による救済の仕組みについて200字以内でまとめる。
第27回	行政法・国家賠償法 －国家賠償法について－	事前学習	行政庁の不法行為に対する賠償について200字以内でまとめる。
		事後学習	国家賠償法について200字以内でまとめる。
第28回	行政法・情報公開法 －情報公開について－	事前学習	情報公開について調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	情報に関する法制度について200字以内でまとめる。
第29回	行政法・自治体行政の組織 －地方自治について－	事前学習	地方自治の本旨を調べ200字以内でまとめる。
		事後学習	地方自治法について200字以内でまとめる。
第30回	まとめ －公法と私法の役割－	事前学習	公法と私法の相違について200字以内でまとめる。
		事後学習	公・私法の比較を800字以内でまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	法学概論 (2単位)		3. 科目番号	GELA1316 GELA1337 GELA1116
2. 授業担当教員	梶原 洋生			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>この講義は、憲法、民法、労働法等、各種の法に関する一般的な約束事や社会生活を送っていくために必要な基礎的な法の概略を学ぶものである。</p> <p>この講義では、法学をはじめ学ぶ学生を主たる対象に、法と社会、法の種類、法解釈等について学習するとともに、社会生活に関連する法律として、家族、財産に関する民法等の民事法の概略、犯罪に関する刑法等の刑事法の概略、労働法などの社会法の一部について学習する。この学習を通じて、法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得する。</p> <p>この講義は、法学を専門とするわけではない法学初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いので、深く突っ込んだ議論を行うことは困難であるとともに、かなりのスピードで法律について学んで頂くことになり、また、事前・事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。また、比較的一方方向の講義になる可能性が高いことも留意して下さい。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得し、法学的に物事を考えることができるようになる。 2. 教科書のポイントを理解し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の法律科目に対応できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。 2 課題レポートの提出を義務付ける。テーマは「判例の形成について」を予定している。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】朝日新聞社会部『母さんごめん、もう無理だ〜きょうも傍聴席にいます〜』幻冬舎。</p> <p>【参考書】『ポケット六法 最新版』。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法学一般の基礎知識を理解し、説明できたか。 ・条文や判例の読み方を修得したか。 ・採用試験で出題される問題に対応しうる知識を身に付けたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への参加度 (出席、発表、授業態度等) を30%、レポート、小テスト、期末テストなどの結果を70%とする。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	講義は、初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いのでかなりのスピードで法律について学んで頂くこととなります。事前、事後の学習をしっかりと行う必要があります。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	法と社会生活、暮らしと法	事前学習	法の定義について調べ、200字以内でまとめる。	
		事後学習	公法と私法と社会法について200字以内でまとめる。	
第2回	法化社会のしくみ	事前学習	憲法と条約との優位性について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	法の段階的構造について200字以内でまとめる。	
第3回	法の働き	事前学習	法の役割について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	平均的正義と配分的正義について200字以内でまとめる。	
第4回	事件の法的解決	事前学習	裁判所の種類を調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	民事訴訟と刑事訴訟について200字以内でまとめる。	
第5回	法の解釈	事前学習	法と言語について200字以内でまとめる。	
		事後学習	文理解釈と論理解釈について200字以内でまとめる。	
第6回	財産と法①－自然人とは－	事前学習	自然人と法人について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の総則について200字以内でまとめる。	
第7回	財産と法②－所有権絶対主義とは－	事前学習	所有権絶対主義について200字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の物権について200字以内でまとめる。	
第8回	財産と法③－契約自由とは－	事前学習	契約自由の原則について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の債権について200字以内でまとめる。	
第9回	家族と法①－親族の捉え方－	事前学習	親族の範囲について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の家族法について200字以内でまとめる。	
第10回	家族と法②－相続人の捉え方－	事前学習	相続人の順位について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の相続法について200字以内でまとめる。	
第11回	家族と法③－遺言の法律－	事前学習	遺言について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の相続法について200字以内でまとめる。	
第12回	消費者保護と法	事前学習	消費者保護のための法を調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	消費者関係法の理解について200字以内でまとめる。	
第13回	労働と法	事前学習	労働者保護のための法を調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	労働法についての理解を200字以内でまとめる。	
第14回	犯罪と法	事前学習	罪刑法定主義について調べ200字以内でまとめる。	
		事後学習	刑法についての理解を200字以内でまとめる。	
第15回	まとめ	事前学習	法と社会の関係について200字以内でまとめる。	
		事後学習	法学全般の総復習を600字以内でまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	保健医療 (2単位)	3. 科目番号	SBMP1302 SSMP1102 SCMP1102 SNMP1302 SPMP1302 PSMP1402
2. 授業担当教員	橋本 由利子		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これまでわが国の保健医療サービスは、国民皆保険制度によって支えられてきた。しかし疾病構造の変化や高齢化が進んでいる現在、わが国の保健医療サービスは再編成を迫られている。この科目では医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスの各専門職の役割、多職種連携や「病院」についての基礎的な理解を深めるとともに、保健医療サービスにおけるソーシャルワーカーの役割や、組織や地域とソーシャルワークの関連を理解する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるようになる。 2. 診療報酬の概要を理解し、説明することができるようになる。 3. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携について理解し、説明することができるようになる。 4. 医療を取り巻く現状について理解し、説明することができるようになる。 5. 病院のしくみについて理解し、説明することができるようになる。 6. 組織とソーシャルワークの関連について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. その日に学習したことを整理するために、毎回ワークシートを提出する。 2. グループで保健医療職種の一つを選び、レポートにまとめ、発表する。 3. グループで医療ソーシャルワーカーの支援の実際と留意点の事例をまとめ、発表する。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス』中央法規。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度及び診療報酬制度の概要、医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるか。 2. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携、組織とソーシャルワークの関連について説明することができるか。 ○評定方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業態度 (参加・実践・小テスト等) 総合点の30% 2. 期末試験・レポート等 総合点の70% 		
12. 受講生へのメッセージ	少子高齢化が進んでいる日本において、福祉を志す人は医療保険制度や保健医療の諸問題に常に敏感になることが必要である。ニュースや新聞をよくチェックし解決策を考えよう。あなたが考える対策がこれからの日本の将来を決めるかもしれない。 [受講生に期待される学習態度] <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 [講師は次のことを実行する] <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。質問はメールでも受け付けます。yuhashim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 保健医療サービスとその構成要素 (ひと・もの・かね・情報)	事前学習	医療についての自己の体験をまとめる
		事後学習	ステークホルダーを中心にして保健医療の概要をまとめる
第2回	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 健康転換と保健医療サービスの変遷	事前学習	疾病構造の変化について教科書を読んてくる
		事後学習	保健医療サービスの変化を健康転換からまとめる
第3回	保健医療サービスの専門職の役割 保健医療サービス専門職の概観 医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士等	事前学習	医療関連職種について教科書を読んてくる
		事後学習	保健医療サービスに関わる専門職の役割についてまとめる
第4回	保健医療サービスの専門職の役割 保健医療サービス専門職の基本姿勢 患者の権利について 患者の権利を守るしくみ、ACPについて	事前学習	患者の権利の現状について教科書を読んてくる
		事後学習	インフォームドコンセント、ACPの重要性についてまとめる
第5回	保健医療サービスの専門職の役割 (学生発表) 医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、社会福祉士等	事前学習	グループで選んだ医療関連職種について調べてくる
		事後学習	医療関連職種についてまとめる

第6回	保健医療サービスを提供する施設とシステム① 医療法による医療施設の機能・類型、医療政策による医療施設の機能・類型、診療報酬による医療施設の基準・類型	事前学習	保健医療サービス提供施設について教科書を読んでくる
		事後学習	医療施設の機能・類型についてまとめる
第7回	保健医療サービスを提供する施設とシステム② 介護保険法における施設の機能・類型、地域包括ケアと在宅支援のシステム	事前学習	介護保険法における施設について教科書を読んでくる
		事後学習	介護保険法における施設・在宅医療についてまとめる
第8回	保健医療サービスの提供と経済的保障① 医療費に関する政策的動向、医療保険制度と診療報酬制度の概要、介護保険制度の概要、自立支援医療、公費負担医療制度の概要	事前学習	保健医療サービスに関わる社会保障制度について教科書を読んでくる
		事後学習	医療費に関する政策動向についてまとめる
第9回	保健医療サービスの提供と経済的保障② 診療報酬制度、高額療養費制度、ターミナルケア支援の診療報酬制度、診療報酬における社会福祉士の評価	事前学習	診療報酬制度について教科書を読んでくる
		事後学習	診療報酬制度とその動向についてまとめる
第10回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割① 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	事前学習	医療ソーシャルワーカーの業務について教科書を読んでくる
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの業務指針についてまとめる
第11回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割② 業務の内容—ミクロのソーシャルワーク	事前学習	医療ソーシャルワーカーの業務について教科書を読んでくる
		事後学習	ミクロのソーシャルワークについてまとめる
第12回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割③ 業務の内容—ミクロからメゾのソーシャルワーク、メゾからマクロのソーシャルワーク	事前学習	医療ソーシャルワーカーの業務について教科書を読んでくる
		事後学習	メゾおよびマクロのソーシャルワークについてまとめる
第13回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの支援の実際と留意点 (学生発表)	事前学習	医療ソーシャルワーカーの支援の実際と留意点についてグループで調べてくる
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの支援の実際と留意点についてまとめる
第14回	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践 保健医療の専門職との連携方法と基礎知識、チームケア実現のための制度や連携機関・団体	事前学習	保健医療サービスにおける連携の理論について教科書を読んでくる
		事後学習	チームワークの理論とコンピテンシーについてまとめる
第15回	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践 地域ケアネットワークの実際、保健医療サービスのまとめ、課題と展望	事前学習	地域ネットワークの事例について教科書を読んでくる
		事後学習	保健医療サービスの課題についてまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保健科指導法Ⅱ (4単位)		3. 科目番号	EDHE2348
2. 授業担当教員	石井 里佳			
4. 授業形態	◇課題提示→講義→演習・協議等→講義→振り返り など <例1> 導入：講義から自らの課題の把握→展開(演習)：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議→まとめ：協議と講義のまとめ <例2>演習(保健科指導法Ⅰで学習した指導法を生かした指導案の作成と模擬授業) 導入：講義(健康教育の指導の在り方)→展開(演習)：保健学習の指導案の作成→実際の学校の授業の参観→中学校3年の『病気の予防』の指導内容から課題を把握→指導案の作成→模擬授業→全体協議→まとめ：授業実践、授業の評価とまとめ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	(1) 保健学習に関する主要な概念を講義等で理解し、演習・協議等を通じて保健学習の概念を自ら描き、保健科教諭としての専門性を生かした授業力を高める。 (2) 保健科指導法Ⅰで学んだ内容を基礎として、保健科教育内容の構成や系統性、学習指導要領の内容の示し方、教材づくりなどについて学習する。 (3) 保健科指導法Ⅰで学んだ専門的知識や実践力を踏まえ、教育実習に必要な授業力を身につける 保健管理と保健教育の違いはもとより、保健学習と保健指導の違いに応じた保健教育を学習する。			
8. 学習目標	(1) 生徒にとって楽しく分かる保健授業を目指した「教育内容、教材、指導方法」などの基礎と応用について、実践的・具体的に身に付けることができる。 (2) 文部科学省刊「中学校学習指導要領解説 保健体育編」と「高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編」の保健分野・保健科の内容等について理解したうえで、示された学習指導案形式に則った学習指導案を作成し模擬授業を行うことができる。 (3) 保健学習と保健指導の違いに応じた授業の展開を理解し説明することができる。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	次時の学習内容について、教科書等で予習してくることをアサインメントとする。 レポート課題は「学校教育が担うべき保健的教養」「性に関する教育」「心とストレスに関する教育」「生活習慣病に関する教育」「熱中症(応急手当)に関する教育」などとする、詳細は授業中に指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 日本保健科教育学会編『保健科教育法入門』大修館書店 文部科学省刊『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房 文部科学省刊『高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編』東山書房 【参考書・参考資料】 文部科学省刊『中学校学習指導要領』 文部科学省『高等学校学習指導要領』 森昭三、和唐正勝編著『新版 保健の授業づくり入門』大修館書店 植田誠治編著『学校におけるがん教育の考え方・進め方』大修館書店 福田洋、江口泰正『ヘルスリテラシー—健康教育の新しいキーワード—』大修館書店 プリントなどの教材等は、毎時の授業で配布し使用する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 期待されている保健科教育への対応に関する使命感を養うことができたか。 2 学習指導要領の目標及び内容について理解し説明できるようになったか。 3 知識を活用する学習活動を取り入れるなど、指導方法の工夫ができたか。 4 与えられた課題について積極的にグループでディスカッションができたか ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、模擬授業、レポート、指導案、基礎的理解テスト等を総合して評価する。] 1 授業への積極的参加 30% 2 模擬授業・指導案・レポート 50% 3 基礎的知識理解テスト 20%			
12. 受講生へのメッセージ	本講義でも「保健科指導法Ⅰ」に引き続きポートフォリオを作ります。講義での記録や配布資料などを保存できるファイルやノート(A4サイズ以上が望ましい)を準備してください。 また、授業中は「1 座席は指定とする。」「2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと(止むを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。」「3 携帯電話の操作及び私語の禁止。」を守ってください。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業の進め方等オリエンテーション 保健科指導法Ⅰを踏まえて、より実践的な内容となることを把握する。 レディネスチェック	事前学習	保健科指導法入門(以下教科書)および保健科指導法Ⅰのポートフォリオを読み直す。	
		事後学習	授業づくりの手順と必要な要素について整理する。	
第2回	今日の健康課題1 学習指導要領から、今日の健康課題を検討する。	事前学習	中学・高校学習指導要領解説における保健の学習内容を熟読する。	
		事後学習	今日の健康課題の改善を視点とした自身の保健授業の指導観について考える。	
第3回	今日の健康課題2 インターネットを用いて、関心を持った健康問題やニュース、記事についての情報を入手し、その背景や科学的根拠をもとにディスカッションを行う。	事前学習	インターネットを用いて、レポートを作成する。	
		事後学習	インターネットの情報を、教材化する上での留意点などを整理する。	

第4回	これから求められる健康観とヘルスリテラシー	事前学習	配布した読み物資料(ヘルスリテラシー)を熟読し、レジュメを作成する。
		事後学習	ヘルスリテラシーの概念を整理し、子どもに必要な健康観について自分の考えを持つ。
第5回	養護教諭による保健教育1	事前学習	養護教諭による保健教育のメリットと課題について考える。
		事後学習	養護教諭による保健教育の概要について「整理する」。
第6回	養護教諭による保健教育2	事前学習	養護教諭による保健授業に関する資料を熟読する。
		事後学習	養護教諭として保健授業を行う上でのニーズや課題とその改善策を考える。
第7回	教材づくり 学習内容の教材化	事前学習	資料(保健の授業づくり入門 pp.138~147)を熟読する。
		事後学習	教材化に必要な要素を整理する。
第8回	発問、図表の資料、読み物資料を取り入れた授業	事前学習	保健科指導法Iのポートフォリオを再度読み直す。
		事後学習	課題や情報の提示の仕方についてその特性を整理する。
第9回	教材研究と指導案(細案)の作成1 医薬品の使い方	事前学習	担当校種の「医薬品の使い方」に関する学習内容や目標などを理解する。
		事後学習	細案を改善する。
第10回	模擬授業に向けた教材研究1 学習指導要領と指導案の構造	事前学習	指導法Iのポートフォリオおよび指導要領解説を熟読する。
		事後学習	学習内容の系統性と目標の関係性について整理する。
第11回	模擬授業に向けた教材研究2 年間指導計画と単元計画、その他教科・学校教育活動との関連	事前学習	教科書 pp.79~86 を熟読する。
		事後学習	保健教育の中の保健学習という視点から、養護教諭による保健授業の特性について考える。
第12回	教材研究と指導案(細案)の作成2 欲求やストレスと心の健康、精神疾患の予防と回復	事前学習	担当校種の「欲求やストレスと心の健康、精神疾患の予防と回復」に関する学習内容や目標などを理解する。
		事後学習	細案を改善する。
第13回	擬授業に向けた教材研究3 授業の流れ(導入、展開、まとめ)をイメージする。	事前学習	教科書 pp.112~144 を熟読する。
		事後学習	授業の展開の仕方について整理する。
第14回	模擬授業に向けた教材研究4 保健教育におけるアクティブラーニング	事前学習	関連する内容の保健科指導法Iのポートフォリオを熟読してくる。
		事後学習	アクティブラーニングの概念と授業の取り入れ方について整理する。
第15回	教材研究と指導案(細案)の作成3 家族計画と人工妊娠中絶	事前学習	「家族計画と人工妊娠中絶」に関する学習内容や目標などを理解する。
		事後学習	細案を改善する。
第16回	模擬授業に向けた教材研究5 生徒の実態を把握する方法 アンケートの作成とその結果から生徒観を読み取る。	事前学習	教科書 pp.49~51 を熟読する。
		事後学習	「生活習慣病」「性に関する指導」に関する授業前のアンケートを作成する。
第17回	模擬授業に向けた教材研究6 板書の仕方と、資料や教材の示し方および準備物について	事前学習	関連する内容の保健科指導法Iのポートフォリオを熟読してくる。
		事後学習	より良い板書の仕方(文字の大きさや色、レイアウト)について考える。
第18回	教材研究と指導案(細案)の作成4 保健・医療制度および保健・医療機関の活用	事前学習	担当校種の「保健・医療制度および保健・医療機関の活用」に関する学習内容や目標などを理解する。
		事後学習	細案を改善する。
第19回	模擬授業に向けた教材研究7 テスト問題の作成	事前学習	教科書 pp.29~36 を熟読する。
		事後学習	学習内容に沿ったテスト問題を作成する。
第20回	模擬授業に向けた教材研究8 ICT機器を用いた授業づくり	事前学習	教育現場で使われている ICT 機器について調べる。
		事後学習	ICT 機器の用いる際の留意点やメリットを整理する。
第21回	教材研究と指導案(細案)の作成5 第二次性徴、心身の発達・発育	事前学習	担当校種の「第二次性徴、心身の発達・発育」に関する学習内容や目標などを理解する。
		事後学習	細案を改善する。
第22回	授業改善に必要な視点 授業観察と検討会について	事前学習	教科書 pp.108~110 を熟読する。
		事後学習	授業の観察の視点の持ち方について整理する。
第23回	模擬授業および授業検討会1	事前学習	模擬授業の単元の目標や内容、授業評価の方法の視点を理解する。
		事後学習	模擬授業の評価について整理する。
第24回	模擬授業および授業検討会2	事前学習	模擬授業の単元の目標や内容、授業評価の方法の視点を理解する。
		事後学習	模擬授業の評価について整理する。
第25回	模擬授業および授業検討会3	事前学習	模擬授業の単元の目標や内容、授業評価の方法

2020年度

			の視点を理解する。
		事後学習	模擬授業の評価について整理する。
第26回	模擬授業および授業検討会4	事前学習	模擬授業の単元の目標や内容、授業評価の方法の視点を理解する。
		事後学習	模擬授業の評価について整理する。
第27回	模擬授業全体の振り返り 指導案修正する。	事前学習	自身の授業評価の結果をまとめる。
		事後学習	修正した指導案を完成させる。
第28回	授業づくり1 2つのグループに分かれ、各担当単元の授業の流れや、 教材や資料を作る。	事前学習	指導案に沿って中学生生徒に分かる授業を行うための教材を作成したり、発問や板書計画などを確認しておく。
		事後学習	
第29回	授業づくり2 2つのグループに分かれ、各担当単元の授業の流れや教材、 資料を作る。	事前学習	指導案に沿って中学生生徒に分かる授業を行うための教材や発問計画、板書計画などを作成し、その要点を確認しておく。
		事後学習	
第30回	全授業の振り返り 保健授業を行う際の自分の強みや、現場に行くまでに克服 したいことを整理し、互いにアドバイスをし合う。	事前学習	自身と仲間の授業評価について整理し、互いに指摘し合うことで、自身の保健指導についての強みや教育実習までに改善する点を明確にする。
		事後学習	

1. 科目名 (単位数)	ボランティア論 (2単位)		3. 科目番号	GELA1350
2. 授業担当教員	佐藤 惟			
4. 授業形態	講義 (ディスカッションを含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに目覚められ、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。 2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。 3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。 4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業で示されたテーマのうち自分の関心のあるものを一つ選び、各自で調べた内容についてパワーポイントを用いてグループごとにプレゼンテーションを行ってもらおう。また、自分のこれまでのボランティア経験を振り返りレポートを作成する。プレゼンテーションおよびレポートの形式については授業内で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 指定しない (プリント資料を毎回配布する)。</p> <p>【参考書】 小倉常明・松藤和生編著『いちばんはじめのボランティア』樹村房、2005。 巡静一・早瀬昇編『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規出版、1997。 田中優著『幸せを届けるボランティア 不幸を招くボランティア』河出文庫、2017。 岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会、2006。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになったか。 2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになったか。 3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深めることができたか。 4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができたか。 <p>○評定の方法 授業への積極的参加度 40% 課題レポート 30% 期末評価 (レポート・試験等) 30%</p> <p>※ 東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正当な理由なく授業を欠席・遅刻・早退をしないこと。やむを得ない事情で欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 2. 授業中は携帯電話やPHS等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 3. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループ・ディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、主体的に取り組むこと。 4. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。 5. 可能な範囲で、自ら積極的にボランティア活動に取り組むこと。施設ボランティアだけがボランティアではない。エコキャップや使用済み切手の収集と提供などもボランティアである。 			
13. オフィスアワー	授業内で別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業ガイダンス (教員の自己紹介、受講生の自己紹介ーボランティア体験や関心のあるボランティアについて、授業の進め方の説明など)	事前学習	これまでの自分のボランティア経験や、ボランティアについて自分が持っているイメージを書き出しておく。	
		事後学習	自分が関心を持っているボランティア活動について考え、まとめる。	
第2回	ボランティア活動の理念、ボランティア活動の現状；映像視聴	事前学習	ボランティア活動の理念および社会の現状について調べておく。	
		事後学習	学習した内容を整理し、ボランティア活動について学んだ点をまとめる。	
第3回	東京オリンピック・パラリンピックとボランティア	事前学習	東京オリンピック・パラリンピックのボランティアについて調べておく。	
		事後学習	東京オリンピック・パラリンピックのボランティアについて学んだ点をまとめる。	
第4回	外部講師による講演：傾聴ボランティアについて	事前学習	電話相談ボランティアや傾聴ボランティアについて調べておく。	
		事後学習	講演を聞いて学んだ内容を復習する。	
第5回	教育とボランティア	事前学習	教育に関わるボランティアについて調べておく。	
		事後学習	教育に関わるボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。	

2020 年度

第 6 回	子どもとボランティア	事前学習	子どものボランティアについて調べておく。
		事後学習	子どものボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。
第 7 回	高齢者とボランティア、障害者とボランティア	事前学習	高齢者および障害者のボランティアについて調べておく。
		事後学習	高齢者および障害者のボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。
第 8 回	外国人とボランティア	事前学習	外国人を対象としたボランティアについて調べておく。
		事後学習	外国人を対象としたボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。
第 9 回	町内会・自治会とボランティア、ボランティア活動の実際	事前学習	町内会・自治会について調べておく。ボランティアを始めるにあたって留意すべき点について自分で考え、まとめる。
		事後学習	町内会・自治会について授業で学んだ要点をまとめる。ボランティア活動を始めるにあたって留意すべき点についてまとめる。
第 10 回	民生委員・児童委員、保護司、その他の地域のボランティア	事前学習	民生委員・児童委員および保護司について調べておく。
		事後学習	民生委員・児童委員および保護司について授業で学んだ要点をまとめる。
第 11 回	ボランティアコーディネーターとボランティアマネジメント	事前学習	ボランティアを受け入れる立場に立って、ボランティア活動を考えてみる。
		事後学習	ボランティアコーディネーターに求められる能力について考え、まとめる。
第 12 回	日本におけるボランティアの歴史、海外におけるボランティアの歴史	事前学習	日本および欧米におけるボランティアの起源や歴史、発展について、調べておく。
		事後学習	欧米のボランティア活動の歴史の変遷について、授業で学んだ要点をまとめる。
第 13 回	災害ボランティア；グループ発表①	事前学習	災害ボランティアについて調べておく。
		事後学習	災害ボランティアについて授業で学んだ要点をまとめる。
第 14 回	NPO と企業の社会貢献 (CSR) ；グループ発表②	事前学習	NPO と企業の社会貢献 (CSR) について各自で調べ、簡潔にまとめてくる。
		事後学習	企業が社会貢献を行うことの意義について、ポイントをまとめる。
第 15 回	まとめ；グループ発表③	事前学習	これまでに学んだ内容を改めて振り返り、関心のあるテーマについてまとめておく。
		事後学習	「人はなぜボランティアを行うのか？」について考え、自分の経験も踏まえてレポートにまとめる。
15.実務経験を有する教員特記事項	民間の訪問介護事業者での訪問介護員、及び病院における生活相談員、介護職員等の業務経験の知見を活かし、「7」に示した講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	マーケティング論 (2単位)	3. 科目番号	SBMP2133						
2. 授業担当教員	美藤 信也								
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション形式の授業を行います	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「経営戦略論」の履修が望ましい								
7. 講義概要	企業は自社の標的市場を確定し、市場需要の創造・開拓・拡大を図るために製品政策、価格政策、チャンネル政策、プロモーション政策を展開していることを学ぶ。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティング戦略の体系を理解する 2. マーケティングリサーチの役割を理解する 3. 4P (product, price, promotion, place) について理解する 4. 企業の社会的責任について理解する 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	次の授業で学ぶ内容の予習と各授業で学んだ内容の復習をしっかりと行ってください。レポート課題は、授業内で告知及び説明します。								
10. 教科書・参考書・教材	教科書は、使用しません。 必要に応じ、プリント及び資料を配布します。参考書は、講義の際に紹介します。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティング戦略の体系について学び、説明できるようになる。 2. マーケティングリサーチと4Pについて、説明できるようになる。 3. 企業の社会的責任について、自ら考えレポート等のまとめ発表できるようになる。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、期末試験・レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>2 小レポート・中間レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験・レポート</td> <td>50%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	20%	2 小レポート・中間レポート	30%	3 期末試験・レポート	50%
1 授業への積極的参加	20%								
2 小レポート・中間レポート	30%								
3 期末試験・レポート	50%								
12. 受講生へのメッセージ	日本経済新聞を主とする新聞及びニュース等で取り扱われるマーケティングに関する記事をできる限り読み、現在のトピックスや現実の動きに注視してください。								
13. オフィスアワー	授業内で通知します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	ガイダンス (①本講義の進め方・評価の仕方, ②マーケティング論で何を学ぶか。)	事前学習	授業用のノートやファイルを準備しておく						
		事後学習	マーケティング論で学ぶ全体像を把握する						
第2回	企業経営におけるマーケティングの役割とマーケティング戦略の体系	事前学習	企業経営とマーケティングの関係を調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第3回	マーケティング環境の分析と事業及び企業目標の設定	事前学習	マーケティング環境を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第4回	マーケティングリサーチ	事前学習	マーケティングリサーチを調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第5回	セグメンテーション, ターゲティング, ポジショニング	事前学習	セグメンテーション等を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第6回	製品政策① (製品の定義と新製品開発)	事前学習	製品の定義及び製品ミックスを調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第7回	製品政策② (製品ミックスとブランド戦略)	事前学習	製品ライフサイクルや新製品開発を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第8回	価格政策① (価格設定の基本)	事前学習	価格の基本設定を調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第9回	価格政策② (新製品の価格設定)	事前学習	新製品の価格設定を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第10回	流通チャンネル政策① (流通チャンネルの定義と階層)	事前学習	流通チャンネルとは何かを調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第11回	流通チャンネル政策② (流通チャンネルの類型)	事前学習	流通チャンネルの類型を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第12回	プロモーション政策① (広告戦略)	事前学習	プロモーション・ミックスを調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第13回	プロモーション政策② (販売促進と人的販売)	事前学習	各プロモーションの特徴を調べる						
		事後学習	プリントを復習し、授業内容を整理する						
第14回	マーケティングと社会	事前学習	CSRとは何かを調べる						
		事後学習	プリントを読み返し、授業のまとめをする						
第15回	全体のまとめ	事前学習	今までの授業の内容を確認する						
		事後学習	プリントの総復習する						
期末試験									

1. 科目名 (単位数)	マルチメディアと学習環境 (2単位)		3. 科目番号	EDIT3335
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	マルチメディアの教育利用について、教科書に基づいて過去の実例から学ぶ。また、コンピュータを利用したデジタル教材作成の演習を通して、マルチメディアと学習環境について理解を深める。			
8. 学習目標	情報化社会における学習環境について学び、マルチメディアに関わる最新技術や学習システムなどについて深く理解し、活用することを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習テーマごとの課題に対して、調べたり考えたりして内容をまとめる。また、プレゼンテーションの準備あるいはレポートの作成を行う。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料を適宜配布する。 【参考書】 井上智義、『視聴覚メディアと教育方法』北大路書房、2006。 日本教育メディア学会、『博物館情報・メディア論』、ぎょうせい、2013。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業で扱うマルチメディアの教育活用に関する内容について理解しているか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章で、自分の考えを述べられるか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加、受講態度 30% 2. 授業ごとに課されるレポートや課題 70%			
12. 受講生へのメッセージ	理解すべき基本事項から最新の話題までを扱います。受け身の姿勢ではなく、熱意があつて積極的な履修者の参加を期待します。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション : 講義内容の確認、履修者の知識と技術の確認、質問・相談	事前学習	マルチメディアと学習環境というテーマについて何か自分の考えをまとめておくこと。	
		事後学習	授業で出てきたキーワードのうち、興味を持ったことについて調べる。	
第2回	マルチメディアと教育	事前学習	自分のこれまでの学校経験の中で使われていたマルチメディアについて考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第3回	メディアとメッセージ	事前学習	メディアの教育利用について調べる。	
		事後学習	授業で出てきたキーワードのうち、興味を持ったことについて調べる。	
第4回	アナログからデジタルへ① ビジュアルエイド、ICT 機器	事前学習	写真やスライド、OHP など、授業における静止画像の使い方について考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第5回	アナログからデジタルへ② 映像教材、ディスプレイ	事前学習	フィルムやテレビ、デジタルムービーなどの動画の教育活用について考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第6回	コンピュータによる学習支援① : 情報のデジタル化	事前学習	情報のデジタル化について情報処理の基礎について復習しておく。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第7回	コンピュータによる学習支援② : 情報処理	事前学習	CAI や CMI、e-learning などのキーワードについて調べておくこと。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第8回	コンピュータによる学習支援③ : ICT 機器、タブレット端末	事前学習	学校におけるタブレット端末の活用や、タブレット端末を用いた教育ソフトについて調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第9回	コンピュータによる学習支援④ : 情報通信技術	事前学習	インターネットを利用した学習環境について調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第10回	メディアリテラシーと教育	事前学習	特に教育に必要とされるメディアリテラシーについて考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第11回	マルチメディアや ICT を活用した教育の実践例①: 小学校における ICT 活用	事前学習	マルチメディアや ICT を活用した教育の実践例についていくつか調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第12回	マルチメディアや ICT を活用した教育の実践例②: ICT 教育の動向	事前学習	マルチメディアや ICT を活用した教育の実践例の中から興味を持ったことについて詳しく調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第13回	情報機器を使った授業と演習① 対象とする教科・単元の検討	事前学習	実際の授業の中でどのように情報機器を活用すれば良いのかを考える。	
		事後学習	情報機器を使った模擬授業の準備を進める	
第14回	情報機器を使った授業と演習② ICT を活用する方法の検討	事前学習	実際の授業の中でどのように情報機器を活用すれば良いのかを考える。	
		事後学習	情報機器を使った模擬授業の準備を進める	
第15回	情報機器を使った授業と演習③ 発表および総合的なまとめ	事前学習	授業で扱ったキーワードを確認してその内容を確認する。	
		事後学習	学んだことを整理して確認をする。	

1. 科目名 (単位数)	マルチメディア表現Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	EDIT2333
2. 授業担当教員	森 正人			
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	この講義を受講する場合は「マルチメディア表現Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。高等学校の数学Ⅱ程度の知識を必要とする内容である。			
7. 講義概要	マルチメディア表現Ⅰでは、音声・楽音及び2次元静止画像について学んだが、それらの基礎技術を基にして、本講義では、動画像及び3次元コンピュータグラフィックス(CG)について学ぶ。先ず動画像に関しては、2次元動画像の表現法、圧縮法、及び編集法について学ぶ。つづいて3次元CGに関しては、3次元物体の表現法及び、3次元CG作成の原理について学ぶ。そして、マルチメディア表現Ⅰ、Ⅱで学んできた個別の要素技術を総動員して、具体的に3次元CGを作成する。			
8. 学習目標	1. 2次元動画像の表現法、圧縮法、及び編集法について学ぶ。 2. 3次元物体の表現法及び、3次元CG作成の原理について学ぶ。 3. マルチメディア表現Ⅰ、Ⅱで学んできた個別の要素技術を総動員して3次元CGを作成する。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	マルチメディア表現Ⅰ、Ⅱで学んできた個別の要素技術を総動員して3次元CGの作品を作成してもらおうが、講義時間内で十分な作業時間を確保出来ないのので、レポートとして提出してもらう。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 (1) 田上博司『阪南大学叢書76 マルチメディア情報学概論』二瓶社。(マルチメディア表現Ⅰと同じ教科書) (2) 佐藤淳『情報工学レクチャーシリーズ コンピュータグラフィックス』森北出版。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 2次元動画像の表現法、圧縮法、及び編集法について、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 3次元物体の表現法及び、3次元CG作成の原理について、基本的事項を理解し、説明できるか。 3. 自分なりの3次元CG作品を作成できるか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1. 平常点(授業への積極的な参加・小テスト・レポート等) 50% 2. 最終考課(テストもしくは最終課題) 50%			
12. 受講生へのメッセージ	この授業で述べることはすべて、皆さんと同じ人間が考え出したことです。先輩に敬意を表しながらも、「自分ならどうするか」と、常に自分自身で考える習慣をつけてください。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	講義の概要、動画像の原理、動画像の圧縮	事前学習	教科書(1)の3.7.1節~3.7.3節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	動画像圧縮の原理をよく理解すること。	
第2回	動画像の編集	事前学習	前時の内容を、しっかりと理解しておくこと。	
		事後学習	講義中に提示された演習課題を完成させること	
第3回	3次元CGレンダリング実習1(ソフトウェア基本操作、レイトレーシングの概念)	事前学習	教科書3節~6節を読んでおくこと。	
		事後学習	講義で習った操作の復習を行うこと。	
第4回	3次元CGレンダリング実習2(モデル、ポリゴン等の概念)	事前学習	配付資料の指定箇所を読んでおくこと。	
		事後学習	講義で習った操作の復習を行うこと。	
第5回	3次元CGレンダリング実習3(ライト、テクスチャの概念)	事前学習	配付資料の指定箇所を読んでおくこと。	
		事後学習	講義で習った操作の復習を行うこと。	
第6回	3次元CGレンダリング実習4(シーンの概念、レンダリングの知識)	事前学習	配付資料の指定箇所を読んでおくこと。	
		事後学習	講義で習った操作の復習を行うこと。	
第7回	CGのための数学1(ベクトルと行列)	事前学習	教科書(2)の1章、2章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	教科書(2)の1章、2章に現れる問題を自分で解いてみること。	
第8回	CGのための数学2(変換)	事前学習	教科書(2)の3章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	教科書(2)の3章に現れる問題を自分で解いてみること。	
第9回	CGのための数学3(3次元空間の幾何学1) 法線ベクトルの扱い	事前学習	教科書(2)の4章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	「平面向き」という考え方になれること。	
第10回	CGのための数学4(3次元空間の幾何学2) 応用的内容	事前学習	教科書(2)の4章を再度よく読んでおくこと。	
		事後学習	教科書(2)の4章に現れる問題を自分で解いてみること。	
第11回	CGのための数学5(3次元空間におけるオブジェクト)	事前学習	教科書(2)の5章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	教科書(2)の5章に現れる問題を自分で解いてみること。	
第12回	3次元CG作品作成演習1	事前学習	ポリゴン、レイトレーシング等の基本概念を復習しておく。	
		事後学習	実作業で使用した技術的事項の理論を確認しておく。	
第13回	3次元CG作品作成演習2	事前学習	作業計画を考えておく。	
		事後学習	実作業で使用した技術的事項の理論を確認しておく。	
第14回	3次元CG作品作成演習3	事前学習	作業計画を考えておく。	
		事後学習	実作業で使用した技術的事項の理論を確認しておく。	
第15回	3次元CG作品作成演習4	事前学習	作業計画を考えておく。	
		事後学習	提出に向けて、作品を完成させる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	免疫学概論 (2単位)		3. 科目番号	EDHE2318						
2. 授業担当教員	山本 静雄									
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>免疫系は、いろいろな細胞がさまざまな手段を駆使して働いている生体防御のための複雑なシステムである。微生物や寄生虫などの感染に対して、抵抗力と防御力を与えるのが免疫系である。感染性の病原体に対する免疫系の対応は、生存のために必須のものであり、生得的なシステムと、後天的に獲得されるものがある。</p> <p>本授業では、免疫系の基本的システム、免疫系と健康、免疫異常と病気について学び、生体防御システムの知識を深める。</p>									
8. 学習目標	<p>以下について学び、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫とは何かについて学ぶ。 2. 免疫系がどのようなにはたらくのか学ぶ。 3. 免疫系の反応について学ぶ。 4. 免疫系の異常と疾病について学ぶ。 5. 免疫系に影響を及ぼす因子について学ぶ。 6. 正常な免疫系を維持する要素について学ぶ。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫現象について、例を示して簡潔にまとめなさい。 2. IgM、IgG、S-IgA、IgE抗体の機能について簡潔にまとめなさい。 3. ウイルス及び毒素に対する中和抗体の作用機序について図示説明しなさい。 4. I型アレルギーの発現機序及び代表的なアレルゲンである花粉、食物ならびに昆虫毒について簡潔にまとめなさい。 <p>(レポートはA4サイズの用紙に横書きとすること。これらを討議にも用いる。)</p>									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】鈴木隆二 著『カラー図解 免疫学の基本がわかる事典 第1版』西東社、2015。</p> <p>【参考書】山元 弘 編『ベーシック薬学教科書シリーズ10 免疫学 第1版』化学同人、2008。</p> <p>谷口 克 監『標準免疫学 第3版』医学書院、2016。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫の基本である自己と非自己について理解しているか。 2. 生体の防御システムについて、理解しているか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート・発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table>				1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%	2. 課題レポート・発表	30%	3. 期末試験	40%
1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%									
2. 課題レポート・発表	30%									
3. 期末試験	40%									
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最高学府の学生に相応しい主体的な学習活動を実践されるよう期待します。 2. 講義中に質問の機会をもうけますので、不明な点があれば講義の中で質問をして理解することに努めてください。 3. 講義中の私語及び携帯電話・スマートフォン等の使用は禁止します。 4. レポートは簡潔にまとめ、必ず^レ切までに提出してください。 									
13. オフィスアワー	初回講義に周知する									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	免疫(学)の歴史と概要	事前学習	教科書の pp. 12~23 を読み、理解できない箇所を明らかにしておく。							
		事後学習	免疫とはどのような機能であるかを整理する。							
第2回	免疫に関与する臓器と細胞	事前学習	教科書の pp. 24~27、36~41 を読み、概要を把握する。							
		事後学習	リンパ組織と血液細胞についてまとめる。							
第3回	生体の防御機構と自然免疫	事前学習	教科書の pp. 20~23 を読み、概要を把握する。							
		事後学習	生体の防御機構における免疫学的防御機構の位置付け及び自然免疫についてまとめる。							
第4回	獲得(適応)免疫、体液性免疫と細胞性免疫の概要	事前学習	教科書の pp. 52~53、58~61、104~105、30~31 を読み、概要を把握する。							
		事後学習	獲得免疫では免疫記憶が成立することを踏まえて獲得免疫についてまとめる。							
第5回	抗原、抗原決定基と抗体	事前学習	教科書の pp. 32~35 を読み、概要を把握する。							
		事後学習	抗原は生体にとって非自己であり、抗原決定基は抗原上に存在する抗体を産生させ、できた抗体と結合する構造物の最小単位であることを理解し、抗原と抗体の関係についてまとめる。							
第6回	抗体、免疫グロブリン (Ig)	事前学習	教科書の pp. 54~57 を読み、概要を把握する。							
		事後学習	抗体と免疫グロブリンの関係についてまとめる。							
第7回	免疫グロブリンクラスと性状	事前学習	教科書の pp. 54~57 を理解する。							
		事後学習	免疫グロブリンの H 鎖、L 鎖の抗原性を理解する。免疫							

			グロブリンの主な性状をまとめる。
第8回	抗原と抗体の反応、免疫複合体(IC)形成と補体の活性化	事前学習	教科書の pp. 30~31、132~135 を読み、概要を把握する。 事前に配布するプリントを読み概要を把握する
		事後学習	抗原と抗体が結合すると IC が形成され、それによって補体の古典的経路が活性化されて抗原が傷害されることを理解する。
第9回	補体、補体による細胞傷害作用、オプソニン	事前学習	教科書の pp. 90~95 を読み、概要を把握する。
		事後学習	補体成分、補体の活性化経路と補体の機能(細胞傷害)について理解する。
第10回	抗体によるウイルスの感染阻止と毒素の中和(無毒化)の仕組み、ワクチン、ウイルスの抗原変異	事前学習	教科書の pp. 136~147 を読み、概要を把握する。
		事後学習	ウイルス及び毒素に対する中和抗体の作用ならびに免疫が成立しないウイルスについて理解する。
第11回	サイトカイン、細胞性免疫と細胞傷害性サイトカイン	事前学習	教科書の pp. 110~119、74~77 を読み、概要を把握する。
		事後学習	サイトカインの性状と役割を簡潔にまとめる。
第12回	アレルゲン、IgE 抗体の産生及び I 型(即時型) アレルギー発現の機序	事前学習	教科書の pp. 148~151 を読み、概要を把握する。
		事後学習	I 型アレルギーの発現機序をまとめる。
第13回	花粉、食物及び昆虫毒に対するアレルギー、アナフィラキシー、食物アナフィラキシーへの緊急対応	事前学習	教科書の pp. 156~161、164~165 を読み、概要を把握する。
		事後学習	食物アレルギーには共通抗原性が存在することを理解する。食物アナフィラキシーへの緊急対応についてまとめる。
第14回	血液型と輸血の概要、臓器移植の概要	事前学習	配布資料及び教科書の pp. 104~105、198~203 を読み、概要を把握する。
		事後学習	血液型 (ABO 式、Rh 式) と HLA 型についてまとめる。
第15回	がん細胞に対する免疫機構の概要、まとめ	事前学習	教科書の pp. 210~213 を読み、概要を把握する。
		事後学習	免疫系のがん細胞発生監視と排除の仕組みを簡潔にまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	薬理学概説 (薬物乱用防止を含む) (2単位)		3. 科目番号	EDHE2319 PSMP2305						
2. 授業担当教員	飯島 久香									
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物 (覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど) の特徴、および薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。 									
8. 学習目標	<p>以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の有効性と毒性 (副作用) の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物関連の最新情報 (効果、副作用、新薬情報など) を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業の開始前に配布) 									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】吉岡充弘・泉剛 (著) 『薬理学：疾病のなりたちと回復の促進 [3]』医学書院。 【参考書】栗原久 (著) 『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』東京法令出版。 栗原久 (監修) 『Stop Drug! -薬物乱用を防止するために-』東京法令出版。 東京福祉大学 (編) 『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用量-効果相関を基に、人体と化学物質 (薬物) との相互関連について理解しているか。 2. 学校現場、家庭で使用している医薬品の作用について理解しているか。 3. 薬物乱用の概念を理解し、乱用防止策のビジョンを持てるか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート・発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table>				1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%	2. 課題レポート・発表	30%	3. 期末試験	40%
1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%									
2. 課題レポート・発表	30%									
3. 期末試験	40%									
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 									
13. オフィスアワー	別途連絡する									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	イントロダクション： 薬の効果発現 (用量-効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体)	事前学習	「薬理学概説」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。pp. 4-34 を読み、薬の効果発現についての概略を調べておく。							
		事後学習	薬物の使用目的、効果発現の基本原則をまとめる。							
第2回	「抗感染症薬 (抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬)」	事前学習	pp. 65-87 を読み、病原体の種類を理解する。							
		事後学習	抗生物質、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。							
第3回	「消毒薬」	事前学習	pp. 298-295 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。							
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬についてまとめる。							
第4回	「呼吸器系に作用する薬物 (気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬)」	事前学習	pp. 230-226 を読み、喘息の原因と症状を理解する。							
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。							
第5回	「麻薬性鎮痛薬 (解熱鎮痛薬、片頭痛治療薬等)」	事前学習	pp. 181-187 を読み、痛みの発現機序について理解する。							
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる。							
第6回	「抗ヒスタミン薬と抗炎症薬 (ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬)」	事前学習	pp. 122-132 を読み、アレルギー反応の発現機序を理解する。							
		事後学習	アレルギー反応の予防・緩和薬の作用機序、副作用を							

			まとめる。
第7回	保健室にある薬（薬理作用と使用上の注意点）	事前学習	第1回～第6回の授業内容を復習する。
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。まとめをレポート提出する。
第8回	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物、危険ドラッグ） 【参考書】『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』使用。	事前学習	【参考書】『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』pp. 69-93を調べておく。
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考えを含めてまとめたレポートを提出する。
第9回	「飲酒（アルコールパッチテストの実習あり）」	事前学習	【参考書】pp. 100-108を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく。
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第10回	「喫煙（ニコチン）」	事前学習	【参考書】pp. 109-114を読み、タバコ中やタバコ煙中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第11回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する。
第12回	「喫茶（カフェイン・チョコレート）」	事前学習	【参考書】pp. 115-119を読んで、茶・コーヒー中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫茶の功罪、特に幼児や妊婦における影響についてまとめる。
第13回	「急性中毒に対する薬物（中毒と解毒処置）」	事前学習	教科書 pp. 282-286 を読んで、中毒とはどういうことか理解する。
		事後学習	中毒に対する緊急処置（治療薬を含む）についてまとめる。
第14回	「漢方医学の基礎知識（サプリメント）」	事前学習	教科書 pp. 290-296 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	漢方薬を含めて、サプリメントの有効性の真偽を考察する。
第15回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題について考察し、まとめる。
		事後学習	課題について発表し、ディスカッションした内容についてまとめ、レポート提出する。

1. 科目名 (単位数)	養護実習指導 (1単位)	3. 科目番号	EDHE3377
2. 授業担当教員	八重樫 節子		
4. 授業形態	講義や演習 (保健室経営計画作成等)、事例検討等について、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履修者同士の実践的な学びあいを重視します。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	養護実習は、学校での実務を体験することを習得するものである。その養護実習の目的は、これまで学んできたことを生かすこと、養護教諭が行う実務の教育活動の中で位置づいていることを知ること、そして、新たな課題を見いだすことである。そこで、本科目では、養護教諭を目指すものにとってその準備の段階と本実習後の効果を上げるために、養護実習 (本実習) に対する理解を深め、実習生としての態度や心構え・技能等を事前に育成すること、更に準備の段階と本実習後には、自己の課題を省察し、進路選択にも結びつけることを学んでいく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健活動及び養護教諭の執務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割が理解できるようになる。 2. 養護の対象である子どもの心身の発達特徴や生活状況および健康問題の特質を理解し、説明できる。 3. 子どもの発達において問題とされる健康課題に対して、個別的及び組織的に適切な取り組みができる。 4. 養護教諭になるための志向を高めるとともに、養護教諭になるための自らの課題について理解し、解決しようとする意欲をもてるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【アサイメント (宿題)】 ・授業毎に、講義内容についての振り返りを行い提出する。 ・実習先の学校経営方針や学校経営計画について調べてワークシートにまとめる。 ・講義での学びを踏まえ、自らの実習の目標を明確化し、実習の計画を検討する。 ・中間課題レポート：「健康診断の実際」目的・内容の自己評価をして課題ワークを提出# 7。 ・一日保健室執務計画の提出# 4 ・保健教育指導案作成 ・最終課題レポート：ほけんだより作成		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 東京福祉大学編『養護実習・看護臨床実習の手引き』 大谷尚子・中桐佐知子『養護教諭シリーズNO. 4 改訂 養護教諭ハンドブック』東山書房。 【参考書】 学校保健・安全実務研究会編著『学校保健実務必携 新訂版』第一法規、2017年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校保健活動及び養護教諭の執務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割が理解できたか。 2) 養護の対象である子どもの心身の発達特徴や生活状況および健康問題の特質を理解できたか。 3) 子どもの発達において問題とされる健康課題に対して、個別的及び組織的に適切な取り組みを考えたことができたか。 4) 養護教諭になるための志向を高めるとともに、養護教諭になるための自らの課題について理解し、解決しようとする意欲が持っているか。 ○評定の方法 授業ごとに出席する小レポート (総合点の30%)、授業中のグループ活動等における積極的な発言 (同30%)、中間課題レポート (同20%)、最終課題レポート (同20%) の結果から総合的に判断する。また、本学の規定に定められている、15回中12回以上の出席が単位修得の条件であることを加味する。		
12. 受講生へのメッセージ	「養護実習指導」は、養護教諭になるために必要な理論と実地体験 (実習) が欠かせません。今まで学んだことがらを、具体的な教育実践の場面において検証していくことができます。現在学校現場で抱えている問題を直に感じ取り理解することができます。大学に戻ってから新たな課題意識を持って、その解決学習に発展させていくことができます。子どもの心と体を大切にする養護教諭にとって自己の心と体の健康管理に十分配慮し、児童生徒の範になれるような生活態度で臨んで下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 養護実習の意義と目標 ・臨地で実習する意義 ・養護実習の目標	事前学習	養護実習の「意義」と「目的」について、自分なりの考えを持って講義に臨む。教科書 pp12～17
		事後学習	授業の目的について理解したことを、講義時間内に配布する小レポート用ワークシートに記述する。
第2回	養護実習の内容と方法 ・観察や参加の視点 ・実習日誌の書き方	事前学習	養護実習の内容と方法について教科書 pp9～28 を熟読し、基本的な事項について整理しておく。
		事後学習	養護実習の内容と方法について、理解したことを小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
第3回	実習前の準備と実習の開始 ・実習生という立場の理解 ・実習の成果をあげるための準備	事前学習	教育実習生という立場を理解し、養護実習に臨む上での心構えについて教科書 pp27～44 を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	養護実習を開始する前に必要な準備について、本時の講義を通して感じたことやわかったこと及び心構えを整理し、自らの今後の課題を小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
第4回	教育計画と学校組織についての理解	事前学習	教科書 (pp45～60、85～104) の養護教諭の執務計画に関

	養護教諭の執務計画 ・一日保健室執務計画 課題ワーク提出①	事後学習	するページ学校保健実務必携 pp63～79/pp520～536 を熟読し、その進め方について理解しておく。 実習校の教育計画や組織体制について調べ、小レポート用ワークシートに記述する。自分の一日保健室計画を立案してみる。 次回課題ワーク提出
第5回	環境衛生活動の実際 ・校舎内外の環境整備、清掃の実際、 環境衛生検査の実際 保健教育学習指導案の作成上の留意点	事前学習	教科書の (pp61～82) 学校保健実務必携 (pp80～166) 学校環境衛生活動に関するページを熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	学校環境衛生活動の内容、実施状況、振り返りをワーク小レポート用ワークシートに記述する。学習指導案に関する配布資料と教科書 (pp161～196) を熟読し、作成の準備を進める。
第6回	健康診断の実技演習① ・健康診断とその事後措置 ・測定の練習 (発育測定)	事前学習	学校保健実務必携 (pp192～206) 健康診断 (発育測定) についての配付資料を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断の実施と事後措置の進め方について、小レポート用ワークシートに記述する。
第7回	健康診断の実技演習② ・測定の練習 (視力・聴力・色覚検査) 課題ワーク提出②	事前学習	学校保健実務必携 (pp219) 健康診断 (視力・聴力・色覚検査) についての配付資料を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断の技術演習の目的・内容の自己評価を通して、感じたことわかったことを小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。 健康診断の技術演習①②のワークシートを次回提出
第8回	健康診断の実技演習③ ・測定ロールプレイ ・学校医や検針期間と実施する検診 ・健康診断表、学校生活管理指導票の作成	事前学習	第6回、第7回で学習した測定時の留意事項を復習し、ロールプレイで実践する内容を練習しておく。
		事後学習	健康診断の測定ロールプレイを通して、感じたことわかったことを小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
第9回	保健室来室者への対応① ・保健室来室者の来室理由と対応過程 ・内科的症状への対応	事前学習	教科書 (pp132～160) 及び学校保健実務必携の来室者への対応に関するページを熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	内科的救急処置の留意点について、小レポート用、ワークシートに記述しファイリングしておく。
第10回	保健室来室者への対応② ・保健室来室者の来室理由と対応過程 ・外科的症状への対応 保健だより作成上の留意点	事前学習	教科書の来室者への対応に関するページ (pp132～160) を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	外科的救急処置の留意点について、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。ほけんだよりに関する配付資料を熟読し、作成の準備を進める。
第11回	保健室来室者への対応③ ・気分不良を訴える子どもの対応 ・何となく来室する子どもの対応 ・頻回来室者への対応	事前学習	教科書等 (pp132～160) 学校保健実務必携 (pp397～434) 健康相談活動や心のケアにおける来室者への対応に関するページを熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	健康相談活動の留意点について、自分の考えをワークシートに記述しファイリングしておく。
第12回	集団を対象とした保健教育① ・保健教育の内容と機会 ・保健教育指導案の検討	事前学習	教科書 (pp168～194) 及び配布した資料を参考に他の受講者の指導案に対する意見をまとめ、小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
		事後学習	他の受講生の指導案に対する意見を踏まえ、改善すべき点等をワークシートに記述しファイリングしておく。
第13回	集団を対象とした保健教育② ・保健教育指導案検討・模擬授業準備 ・ほけんだより検討	事前学習	グループの代表者の模擬授業のアイデアについて、小レポート用ワークシートに記述し、まとめておく。
		事後学習	指導案の完成と模擬授業の実践に向けて、グループごとに準備を完了する。これまでの講義を踏まえた自らの養護実習の目標を、小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
第14回	模擬授業① ・授業実践および討論	事前学習	模擬授業指導案の再整理を行い、使用する教材を作成するなど準備をしておく。
		事後学習	模擬授業から学んだことを小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
第15回	模擬授業② ・授業実践および討論 養護実習に向けた最終まとめ	事前学習	模擬授業指導案の再整理を行い、使用する教材を作成するなど準備をしておく。
		事後学習	模擬授業から学んだことを小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
期末試験			

*2019年度以降入学生より、教育実習にかかわる単位取得は、教職課程再課程認定に伴い「教育実習指導 (事前指導)」、「教育実習 (4週)」および「教育実習事後指導 (1時間)」におけるすべての履修によって単位取得が認定されることとなった。

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (2単位)	3. 科目番号	SSOT2423 SCOT2423 SJMP2142 SJMP1142
2. 授業担当教員	飯田 昌男		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容 (健康) (表現)、レクリエーション関係、健康スポーツの履修を勧める。		
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。</p> <p>1, 自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。)</p> <p>2, 子どもの運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。)</p> <p>3, リズム体操、身体表現の教材がつくれる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1 実技試験[5種目(鉄棒・跳び箱・マット・竹馬・縄跳び)：子供たちの見本となるレベルです]。レポートは、上記の遊び方(ねらい・留意点など)について提出する。</p> <p>課題2 使用した教具の特性を生かし、対象年齢にあったリズム体操を創作し、発表・レポートにまとめる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考書】河田 隆編『幼児体育教本』同文書院。 日本幼児体育学会編『幼児体育』大学教育出版。 山口智之著『幼児体育-応用編-』タイケン出版。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 その他授業の中で紹介していく。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 体力や運動レベルの差が大きいので、自己への挑戦・前向きな姿勢(出席状況含む)を評価基準とする。</p> <p>2. 実技試験への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。</p> <p>3. 授業を振り返り、幼児体育への考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む)</p> <p>2. 実技試験・課題レポート 40%</p> <p>3. 振り返りのレポート 10%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもの生活の中心は「あそび」であり、そのほとんどが「運動あそび」である。毎日元気いっぱい体を動かすことによって、心身の発達を向上させる大切な時期でもある。この大切なときの指導援助は、家族をはじめ幼稚園教諭や保育士である。この授業では、自らの健康の向上を図りながら運動あそび、リズム、身体表現を楽しみ、次第に指導援助する視点に向かい、補助の仕方・声かけを学んでほしい。学習ノートを自ら作成し、授業内容・留意点や気づいた点などを記録し、自分流声掛けを研究してほしい。きっと現場で役に立つと思います。</p> <p>授業においては以下のような基本的ルールを守ってください。</p> <p>1. 授業中の活発な意見、質問等を期待します。</p> <p>2. 欠席は学則に則り3回までとします。出席を取っている間の入室は出席とし、それ以降の入室は欠席とします。ただし、授業は受けられます。理由は準備運動をすることと時間を守ることはとても重要であると考えているからです。また、無断で早退した場合は欠席とします。</p> <p>3. 実技中心の授業なので運動にふさわしい服装、髪型をしてきてください。ふさわしくない服装、髪型の場合は授業参加をお断りする場合があります。</p> <p>4. 実技が出来なくてもあきらめないでください。努力と工夫を忘れずに前向きに考えましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(授業の約束、内容等の説明)、幼児体育の目標とねらい	事前学習	幼稚園や保育所での運動遊びについて調べておく。 どのような保育者になりたいかまとめておく。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第2回	集団あそび(ジャンケンゲーム、その他)の指導と声掛けを学習する	事前学習	ジャンケンゲームを調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉(声掛け)と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第3回	集団あそび(伝承あそび、竹馬)の指導と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	伝承遊びについて調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉(声掛け)と本時の内容を学習ノートにまとめる。

第4回	器械運動あそび(マット)の指導・補助と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	マット遊びについて調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉(声掛け)と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第5回	器械運動あそび(跳び箱)の指導・補助と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	跳び箱遊びについて調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉(声掛け)と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第6回	器械運動あそび(鉄棒)の指導・補助と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	鉄棒遊びについて調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉(声掛け)と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第7回	リズム体操(ジャズ体操、その他)	事前学習	子ども向けTV番組(特にリズム体操)などを観てくる。
		事後学習	体操の振付を学習ノートにまとめる。
第8回	リズム体操(パラバルーン、その他)	事前学習	子ども向けTV番組(特にリズム体操)などを観てくる。
		事後学習	体操の振付を学習ノートにまとめる。
第9回	創作リズム体操 (グループ練習、ディスカッション)	事前学習	グループの発表曲の候補を挙げておく。
		事後学習	グループにて練習。
第10回	創作リズム体操 (グループ練習、ディスカッション)	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	グループにて練習。
第11回	創作リズム体操 (発表会のリハーサル、グループ練習、ディスカッション)	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	グループにて練習。
第12回	創作リズム体操発表会 レポート提出	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	自分たちの発表や他のグループの発表の振り返りを学習ノートにまとめる。
第13回	縄跳び(短縄)の指導と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉(声掛け)と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第14回	縄跳び(長縄)の指導と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉(声掛け)と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第15回	縄跳び(いろいろな跳び方)の指導と声掛けを学習する 実技評価 まとめと今後の課題	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉(声掛け)と本時の内容を学習ノートにまとめる。
15.実務経験を有する教員特記事項	高等学校教諭(体育)、また専門学校においてレクリエーション・インストラクターの資格申請にかかわってきた知見を活かし、「7」に示した講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	幼児理解 (2単位)	3. 科目番号	SJMP2312 SSOT2408 SCOT2408 JNCS1405						
2. 授業担当教員	鈴木 美子								
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期・秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>幼児期の保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うことが重要です。本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、実践事例（文献、映像）等を用いて、幼児の生活の実際とその理解、具体的な指導のとらえと意味、幼児期の保育における環境のとらえ方、評価の在り方、幼小の連携、並びに行事について学びます。</p>								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育は環境を通して行うものであることが理解できるようになる。 ・保育者の役割をあげ、説明することができるようになる。 ・幼児期の保育における評価について説明することができるようになる。 ・幼小の学びの関連性が分かるようになる。 ・行事の意味が分かり、日常の保育との関係を説明することができるようになる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題：必要に応じて次回の授業に関するプリントを渡します。記入箇所に記載し、自分の考えをまとめ、文章化した上で各回の授業（ディスカッション）に臨んで下さい。ディスカッションを充実させることにつながります。</p> <p>レポート：課題を授業中に提示します。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】小田豊編著『幼児教育の方法』北大路書房。 【参考書】幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育及び幼児理解の基本を理解しているか。 2. 幼児期の発達が理解できたか。 3. 保育者の役割を理解し、保育者の姿勢を意識して捉えてようとしているか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、グループワークで協働する態度、提出物、理解度を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 受講態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2 小テストによる理解度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>3 提出物</td> <td>30%</td> </tr> </table>			1 受講態度	30%	2 小テストによる理解度	40%	3 提出物	30%
1 受講態度	30%								
2 小テストによる理解度	40%								
3 提出物	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>大人になってきている自分を、もう一度振り返って、幼児期の自分の心や眼差しを思い起こしながら、子どもの目線になって幼児理解を試みてみましょう。</p> <p>実践事例を通して、具体的に捉え考えることの積み重ねによって幼児理解を確かなものへと構築していきましょう。</p>								
13. オフィスアワー	別途通知します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	授業概要、授業計画、保育とは	事前学習	幼稚園教育要領解説とポイントを読んでおく。						
		事後学習	幼児期の発達の特徴をまとめる。						
第2回	環境を通して行う保育（その1） —子どもにとっての環境の意味—	事前学習	プリントを読み必要箇所に記入しておく。						
		事後学習	環境の意味をまとめる。						
第3回	環境を通して行う保育（その2） —保育者の役割—	事前学習	プリントを読み必要箇所に記入しておく。						
		事後学習	保育者の役割をまとめる。						
第4回	環境を通して行う保育（その3） —友だちという存在—	事前学習	プリントを読み必要箇所に記入しておく。						
		事後学習	友だちの存在についてまとめる。						
第5回	実践事例の映像から —環境に関わって遊びを展開する子どもの姿を具体的に捉える—	事前学習	プリントを読んで課題を考えてまとめておく。						
		事後学習	事例をもとに環境の意味を具体的にまとめる						
第6回	実践事例の映像から —保育者の援助を具体的に捉える—	事前学習	プリントを読んでおく。						
		事後学習	事例をもとに、保育者の援助を具体的に捉えその意味を文章化する						
第7回	保育の評価	事前学習	プリントを読んで空欄に適切な文章を記入しておく。						
		事後学習	反省評価についてまとめる						
第8回	連携を生かした保育 —保育における連携とは—	事前学習	プリントの必要箇所に記入しておく。						
		事後学習	保育における連携についてまとめる。						
第9回	連携を生かした保育 —保育場面と小学校以降の学びの関連性を捉える—	事前学習	プリントの必要箇所に記入しておく。						
		事後学習	幼児期における学びの芽生えとそれ以降の学習との関連をまとめる						
第10回	行事を生かした保育 —保育における行事の意味—	事前学習	プリントを読んでおく。						
		事後学習	幼稚園教育要領解説とポイントの該当箇所を読み、行事の意味をまとめる						
第11回	行事を生かした保育 —運動会の実践事例から—	事前学習	運動会について、幼児期の体験をまとめておく。						
		事後学習	映像の中の、幼児の具体的な姿を文章化し、日常の保育とのつながりを捉える。						
第12回	3歳児の保育	事前学習	プリントを読んでおく。						
		事後学習	3歳児の発達と保育についてワークシートを仕上げ理解する。						
第13回	4歳児の保育	事前学習	プリントを読んでおく。						

		事後学習	4歳児の発達と保育についてワークシートを仕上げ理解する。
第14回	5歳児の保育	事前学習	プリントを読んでおく。
		事後学習	4歳児の発達と保育についてワークシートを仕上げ理解する。
第15回	まとめ	事前学習	本授業の要点や課題を整理しておく。
		事後学習	本授業を通して学んだことを振り返り、各課題に関するポイントを文章化する
期末試験			

1. 科目名(単位数)	理科指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJEL3432 EDEL3317				
2. 授業担当教員	加藤 敏明						
4. 授業形態	講義、実験、グループ学習、模擬授業	5. 開講学期	秋期				
6. 履修条件・他科目との関係	「理科」の単位を取得した後に履修することが望ましい。						
7. 講義概要	<p>理科教育は、子どもたちが興味関心をもつ「理科の授業づくり」について理論と実践に基づいた基本を習得する必要がある。そのためには、自然科学の基本的な概念や法則を体系的に学習し、自然界の全体像を構造的に捉え科学的な自然観を習得しなければならない。</p> <p>以上のことを学習するためには、小学校の理科教師は自然の事物・現象について観察・実験などの基本的な技能を身につけ、自然界の性質や規則性を適用したもののづくりや栽培・飼育の活動を子どもたちに指導する力量を身につける必要がある。</p> <p>本講義では、身の回りの自然現象について知識及び技能、思考力・判断力、表現力並びに学びに向かう力をもって解決していく力量を学習する。そのために、毎回授業に役立つ実験を行う。</p>						
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育の歴史の変遷について学習し、今回改訂された学習指導要領の理科教育の内容や目標がわかる。 ・理科の授業作りと指導計画の立て方を学習する。なお、事前に理科学習指導案の書き方を学び、模擬授業を行い、理科の指導技術を習得し、授業中の安全管理について理解する。 ・理科教育を取り巻く諸問題のうち、プログラミングを取り入れたもののづくりや環境教育等がわかる。 ・毎回一つの実験を通して実践力のある理科教師になる。 						
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1：6年の「燃焼の仕組み」の単元を指定し、指導案を作成する。</p> <p>課題2：天候に左右される教材(特に、星の観察・植物の生長等)についてどのような指導方法があるか、あなたの考えを1,000字以内で述べなさい。</p> <p>課題3：年間指導計画を作成する。</p>						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 加藤敏明、二村泰弘共著『小学校教師の理科指導法』上毛新聞社 小学校学習指導要領解説 理科編東洋館出版社(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社。</p>						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学に対する科学的な物の見方・考え方を理解している。 2. 自然の原理・原則を理解し、論理的に理解できる。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業態度(教科書の準備・私語・発表)</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2. レポート・指導案・模擬授業</td> <td>総合点の50%</td> </tr> </table>			1. 授業態度(教科書の準備・私語・発表)	総合点の50%	2. レポート・指導案・模擬授業	総合点の50%
1. 授業態度(教科書の準備・私語・発表)	総合点の50%						
2. レポート・指導案・模擬授業	総合点の50%						
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生に期待すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。 2. 授業中は他人に迷惑をかけないように、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 3. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得する。 4. レポートや副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは、理由を書面にて提出すること。 						
13. オフィスアワー	第1回の時に知らせる。						
14. 授業展開及び授業内容							
講義日程	授業内容	学習課題					
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。理科教育の目標について学習する。	事前学習	理科の新学習指導要領を読んでおく。				
		事後学習	理科教育で育成する能力について復習する。				
第2回	日本の理科教育の歴史の変遷について学習する。	事前学習	教科書の第3章を読んでおく。				
		事後学習	戦前と戦後の理科教育の変遷について復習する。				
第3回	理科の授業と年間指導計画について学習する。	事前学習	教科書の第5章を読んでおく。				
		事後学習	年間指導計画の立て方を復習する。				
第4回	理科学習指導案の作成の仕方について学習する。	事前学習	学習指導案を考えてくる。				
		事後学習	学習指導案を作成する。				
第5回	第3学年の理科の目標と教材の取り扱いについて学習する。	事前学習	学習指導要領解説理科編の第3学年を読んでおく。				
		事後学習	第3学年の理科の目標と内容を復習する。				
第6回	第4学年の理科の目標と教材の取り扱いについて学習する。	事前学習	学習指導要領解説理科編の第4学年を読んでおく。				
		事後学習	第4学年の理科の目標と内容を復習する。				
第7回	第5学年の理科の目標と教材の取り扱いについて学習する。	事前学習	学習指導要領解説理科編の第5学年を読んでおく。				
		事後学習	第5学年の理科の目標と内容を復習する。				
第8回	第6学年の理科の目標と教材の取り扱いについて学習する。また、プログラミングを通したもののづくりを学習する。	事前学習	学習指導要領解説理科編の第6学年を読んでおく。				
		事後学習	第6学年の理科の目標と内容を復習する。				
第9回	学習指導案をもとに模擬授業を行う。(6年生の内容)	事前学習	模擬授業の準備をしておく。				
		事後学習	模擬授業の問題点を復習しておく。				
第10回	学習指導案をもとに模擬授業を行う。(6年生の内容)	事前学習	模擬授業の準備をしておく。				
		事後学習	模擬授業の問題点を復習しておく。				
第11回	理科の授業と安全指導について学習する。	事前学習	教科書の第7章を読んでおく。				

		事後学習	理科の安全指導について復習する。
第12回	野外の写真を見ながら野外学習について学習する。その中で情報機器の活用についても学習する。	事前学習	教科書の第6章を読んでおく。
		事後学習	野外学習について復習する。
第13回	環境破壊の写真を見ながら環境教育について学習する。その中で情報機器の活用についても学習する。	事前学習	教科書の第9章を読んでおく。
		事後学習	自然と共生する社会について復習する。
第14回	理科の授業での評価の仕方について学習する。	事前学習	教科書の第10章を読んでおく。
		事後学習	事例を通して評価してみる。
第15回	まとめ（理科の新しい見方・考え方について学習する）	事前学習	理科の基礎・基本を調べておく。
		事後学習	理科の目指す資質・能力を復習しておく。

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (2単位)	3. 科目番号	SSMP3331 SBMP3331 SCMP3331 SNMP3331 SJMP3113						
2. 授業担当教員	後藤 進吾								
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	臨床心理学として、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	ワークシートを活用し、予習・復習を通して専門知識を理解し、説明できる。 既習事項により、課題レポート作成をとおして理解を深める。								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】特に指定しない。 配付資料 (A4版) を整理・まとめられるステーションナリーを準備する。</p> <p>【参考書】 藤山直樹・中村留貴子 (監修) 湊真季子・岩倉拓・小尻与志乃・菊池恭子 (著) 『事例で学ぶアセスメントとマネジメント』岩崎学術出版社 乾吉佑 (編) 『心理療法の見立てと介入をつなぐ工夫』金剛出版</p>								
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の構造、面接、査定、地域援助について理解し、説明できる。 2. 臨床心理学の役割を理解し、学んだことを実践の場でどのように応用するかを考察できる。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業態度と参加姿勢</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業態度と参加姿勢	総合点の20%	2 試験	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の40%
1 授業態度と参加姿勢	総合点の20%								
2 試験	総合点の40%								
3 課題レポート	総合点の40%								
12. 受講生への メッセージ	初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明します。受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。								
13. オフィスアワー	決定次第、通知します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション 予習の方法、課題レポートの作成について 臨床心理学概説：面接・査定・地域援助	事前学習	シラバスを熟読しておく						
		事後学習	キーワードの理解を確認し、課題レポート作成の準備を進める						
第2回	発達の過程で起こりうる心の問題： いじめ・不登校・虐待・自傷行為・非行問題	事前学習	不登校や虐待についてニュースや事例を調べる						
		事後学習	学習した内容についてワークシートにまとめる						
第3回	こころの病気と発達障害：統合失調症	事前学習	統合失調症について事前に調べる						
		事後学習	統合失調症についてワークシートにまとめる						
第4回	こころの病気と発達障害：うつ病・躁うつ病	事前学習	うつ病と躁うつ病について事前に調べる						
		事後学習	うつ病と躁うつ病についてワークシートにまとめる						
第5回	こころの病気と発達障害：強迫症と摂食障害	事前学習	強迫症と摂食障害について事前に調べる						
		事後学習	強迫症と摂食障害についてワークシートにまとめる						
第6回	こころの病気と発達障害：発達障害	事前学習	発達障害について事前に調べる						
		事後学習	発達障害についてワークシートにまとめる						
第7回	コミュニティ心理学 基礎と地域精神衛生、コンサルテーション	事前学習	コミュニティ心理学についてワークシートを用いて調べ、予習する						
		事後学習	ワークシートを作成する						
第8回	学校における臨床： スクールカウンセリングの実際と事例検討	事前学習	スクールカウンセリング事業や学校臨床の事例について調べる						
		事後学習	スクールカウンセラーの役割と実際についてワークシートを用いてまとめる						

第9回	心理療法の歴史と理論	事前学習	心理療法の歴史と理論について予習する
		事後学習	歴史と理論についてワークシートを用いてまとめる
第10回	さまざまな心理療法：精神分析	事前学習	精神分析について配布した資料を読む
		事後学習	学習内容をワークシートにまとめる
第11回	さまざまな心理療法：来談者中心療法	事前学習	来談者中心療法について配布した資料を読む
		事後学習	学習内容をワークシートにまとめる
第12回	さまざまな心理療法：行動療法	事前学習	行動療法について配布した資料を読む
		事後学習	学習内容をワークシートにまとめる
第13回	さまざまな心理療法：臨床動作法	事前学習	臨床動作法について配布した資料を読む
		事後学習	学習内容をワークシートにまとめる
第14回	課題レポート作成① 第13回までの学びを基に、各自のテーマを設定し、課題レポートを作成する。	事前学習	レポート作成の各自の課題を設定する。
		事後学習	課題レポートを作成
第15回	課題レポート作成② 各自のテーマを設定し、課題レポートを作成する。	事前学習	課題レポートの発表準備
		事後学習	期末試験に向け既習事項を整理する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学概論 / 臨床心理学 (4単位)		3. 科目番号	PSMP2114
2. 授業担当教員	野口 理英子			
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	臨床心理学として、その成り立ち、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格の成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 6. スクールカウンセリングについて理解をし、説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ発表 グループ毎に与えられるテーマについての発表に向けて、グループ内で役割分担して準備し発表する。テーマについては初回授業で周知する。 2. 課題シート (毎回を予定) 3. レポート 以下の設題のレポート課題を課する。 設題：様々な臨床心理学的諸問題 (不登校、いじめ、虐待、自殺、非行、緊急支援、被害者支援、子育て支援等) の中から一つのテーマを選び、問題解決に向けて、臨床心理学が、その問題をどのようにとらえ、どのように貢献できるのかを1200字程度で論じなさい。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 野島一彦編著『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患・発達障害を含めた心理的問題を抱える人の心理の理解 2. 各発達段階における心理的課題と障害の理解 3. 代表的な心理臨床の理解 4. 心理アセスメントの考え方と方法の理解 5. 主要な心理的援助の理論と技法の理解 6. スクールカウンセリングについての理解 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 レポート課題 40% 授業への参加 30% 発表 30% 以上で評価を行う。			
12. 受講生へのメッセージ	以下のことを心がけて下さい。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には積極的な態度で参加して下さい (意見を述べる、質問する、等)。 2. 事前・事後学習を通して、理解を深めて下さい。 3. 他の受講生に迷惑をかけないで下さい (発表時に欠席する、私語、等)。 			
13. オフィスアワー	授業内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション グループ分け	事前学習	臨床心理学から、自分が学びたいことを学習ノートに書き出す。	
		事後学習	グループ発表の準備に向けた今後の打ち合わせを行う。	
第2回	臨床心理学はどのように生まれ、展開してきているか (アメリカでの展開と日本での経過)	事前学習	テキスト第1章 (pp. 10~17) を通読し、要点を学習ノートにまとめる。	
		事後学習	臨床心理学とは何かを自分の言葉にして学習ノートにまとめる。	
第3回	正常と病理の概念について理解する。	事前学習	正常と異常について考えたことをノートにまとめる。	
		事後学習	正常と異常の判断基準を学習ノートにまとめる。	
第4回	神経発達障害 (知的障害を含む) の全体を理解する。	事前学習	神経発達障害について、自分の知っている事柄やそれに関連した自分の体験をノートに箇条書きにしておく。	
		事後学習	神経発達障害のそれぞれの特性を学習ノートにまとめる。	
第5回	不安障害について理解する。現代人が持つ神経症的傾向についても自分に当てはめて学習する。	事前学習	自分の経験から、人が不安になるこころの仕組みを考えてくる。	
		事後学習	不安障害についての理解を学習ノートにまとめる。	
第6回	ストレスのメカニズムについて臨床心理学的に理解する。	事前学習	自分がストレスを感じる時の状態を思い起こし、その様子を箇条書きにすること、ストレスを解消するための自分なりの方法を書き出しておく。	
		事後学習	ストレスについての理解を学習ノートにまとめる。	

第7回	双極性障害とうつ病性障害の理解と援助の基礎を学ぶ。	事前学習	うつ病性障害について調べて学習ノートにまとめる。
		事後学習	双極性障害とうつ病性障害に対しての心理的支援の要点を学習ノートにまとめる。
第8回	統合失調症の理解と援助の基礎を学ぶ。	事前学習	統合失調症について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	統合失調症に対しての心理的支援の要点を学習ノートにまとめる。
第9回	乳幼児期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	乳幼児期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	乳幼児期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第10回	学童期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	学童期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	学童期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第11回	思春期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	思春期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	思春期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第12回	青年期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	青年期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	青年期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第13回	成人期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	成人期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	成人期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第14回	老年期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	老年期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	老年期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第15回	心理アセスメントの理解（見立てと診断の違い）とその多様性を知る。知能検査・パーソナリティ検査についても理解する。	事前学習	テキスト pp. 56～65 を通読して、分からない用語や理解できない事柄を書き出してくる。
		事後学習	心理アセスメントと医学的診断の違いについて、学習ノートにまとめる。心理テスト実施をめぐる諸問題について学習ノートにまとめる。
第16回	力動論（特に、精神分析学）について理解する。フロイトの自我構造論・防衛機制の考え方を学び、分析心理学の考え方も理解する。	事前学習	テキスト pp. 94～100 を通読し、興味のある箇所を書き出す。
		事後学習	自我構造論・防衛機制および分析心理学の考え方を学習ノートにまとめる。
第17回	人間性心理学（特に、来談者中心療法）について理解する。ロジャーズの自己理論の考え方およびカウンセラーの3条件を学ぶ。	事前学習	テキスト pp. 107～112 を通読して、自分のもつ人間観について考えてみる。
		事後学習	自己理論の考え方とカウンセラーの3条件について学習ノートにまとめる。
第18回	行動論について理解する。	事前学習	テキスト pp. 100～107 を通読して、学習理論が当てはまる身の回りの出来事をリストアップする。
		事後学習	行動論について理解したことを学習ノートにまとめる。
第19回	認知論について理解する。特に、エリスの論理療法とベックの認知療法の違いについて理解する。	事前学習	捉え方の違いによって自分の感じ方が変わった実体験を思い出して書き出してくる。
		事後学習	エリスとベックの療法の違いについて学習ノートにまとめる。
第20回	システム論について理解する。代表的な家族療法の考え方を学習する。	事前学習	テキスト pp. 170～174 を通読して、分からない言葉を書き出し調べてくる。
		事後学習	ベイトソンのコミュニケーション理論とベルタランフィーの一般システム理論の考え方をまとめ、家族療法の考え方を整理する。
第21回	教育領域における心理臨床について理解する。特に、スクールカウンセリングについて学習し、コミュニティアプローチを理解する。	事前学習	テキスト pp. 184～188 および pp. 178～182 を通読しておく。
		事後学習	教育領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。日本におけるスクールカウンセラー制度についてまとめる。
第22回	不登校・いじめ問題を理解し、その心理的援助について学ぶ。	事前学習	不登校問題の原因について自分が考えたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	不登校・いじめ問題の要点を学習ノートにまとめる。
第23回	福祉領域の心理臨床について理解する。	事前学習	テキスト pp. 189～193 を通読しておく。
		事後学習	福祉領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第24回	虐待問題、障害を持つ人、高齢者への心理的支援を学ぶ。	事前学習	虐待問題の対策について自分が考えたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	虐待問題の要点を学習ノートにまとめる。
第25回	医療領域の心理臨床について理解する。	事前学習	テキスト pp. 199～203 を通読しておく。
		事後学習	医療領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第26回	がん医療およびリエゾン医療における心理臨床を学ぶ。	事前学習	医療領域の心理臨床的問題を自分なりに考えて学習ノートにまとめる。
		事後学習	リエゾン医療における心理臨床について学習ノートにまとめる。
第27回	産業領域の心理臨床を理解する。	事前学習	テキスト pp. 204～208 を通読しておく。
		事後学習	産業領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第28回	自殺問題を理解し、その予防策について学ぶ。	事前学習	自殺問題の予防策について自分が考えたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	自殺問題の予防策について要点を学習ノートにまとめる。
第29回	司法・矯正領域の心理臨床を理解する。	事前学習	テキスト pp. 194～198 を通読しておく。
		事後学習	司法領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第30回	非行問題を理解し、その心理的援助について学ぶ。	事前学習	非行問題について自分が考えたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	非行問題の心理的援助について学習ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2単位)	3. 科目番号	GEHL1103
2. 授業担当教員	佐藤 友樹		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーションワークの授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。</p> <p>授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助方法を知る。 4. レクリエーションの企画・運営ができる理論・知識を身につける。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>実技発表：レクリエーション大会の運営。</p> <p>課題レポート：レクリエーション大会の評価。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	必要に応じて資料を配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢(出席状況含む)を評価基準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>第1回の授業は、教室でオリエンテーションとする。</p> <p>第2回から第14回までは、体育館で実技となるので運動ができる服装を準備すること。原則、ジャージで参加すること。また、体育館シューズを準備すること。</p> <p>第8回の授業は、教室でレクリエーション大会に向けての準備を行う。</p> <p>第15回の授業は、教室で授業の振り返りを行う。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスに目を通して本授業内容を確認する。
		事後学習	今後の学習計画を立てる。
第2回	レクリエーションの意義	事前学習	「レクリエーション」という言葉を調べる。
		事後学習	身近なレクリエーションについて考える。
第3回	アイスブレイキングの意義	事前学習	「アイスブレイキング」という言葉を調べる。
		事後学習	アイスブレイキングについて整理する。
第4回	幼児期・児童期のレクリエーション	事前学習	幼児期・児童期のレクリエーションの特性について調べる。
		事後学習	幼児期・児童期のレクリエーションの特性について整理する。
第5回	青年期・中年期のレクリエーション	事前学習	青年期・中年期のレクリエーションの特性について調べる。
		事後学習	青年期・中年期のレクリエーションの特性について整理する。
第6回	老年期・障がい者のレクリエーション	事前学習	老年期・障がい者のレクリエーションの特性について調べる。
		事後学習	老年期・障がい者のレクリエーションの特性について整理する。
第7回	チャレンジ・ザ・ゲーム	事前学習	チャレンジ・ザ・ゲームの種類を調べる。
		事後学習	実施したチャレンジ・ザ・ゲームを評価する。
第8回	レクリエーション大会を企画① ➤ 展開案の作成	事前学習	展開案作成のための資料を収集する。
		事後学習	作成した展開案をチェックする。
第9回	レクリエーション大会を企画② ➤ 予行練習	事前学習	予行練習に必要な道具等を準備する。
		事後学習	展開案の最終チェックをする。
第10回	レクリエーション大会① ➤ 1日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。

第11回	レクリエーション大会② ➤ 2日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。
第12回	レクリエーション大会③ ➤ 3日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。
第13回	レクリエーション大会④ ➤ 4日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。
第14回	レクリエーション大会⑤ ➤ 5日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。
第15回	まとめ（授業の振り返り）	事前学習	これまでの授業内容を振り返る。
		事後学習	これまでの授業内容を整理する。
15.実務経験を有する教員 特記事項	スポーツクラブや企業における児童体操講師、幼稚園での課外体育講師としての実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2単位)	3. 科目番号	GEBS2303
2. 授業担当教員	相原 豊		GEHL2314
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。		
8. 学習目標	1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助方法を知る。 4. レクリエーションの企画・運営ができる理論・知識を身につける。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	課題1 レクリエーションの基本的理論と概念のレポート 課題2 レクリエーションの企画と運営の実施		
10. 教科書・参考書・教材	必要に応じて適宜資料を配布します		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢(出席状況含む)を評価基準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。		
12. 受講生へのメッセージ	本講義はレクリエーションの基本的意義からレクリエーションの概念等まで理解し応用技術の実践ができることを目的とします。また自分の人生においてどのようにレクリエーションと関わっていくかというライフサイクルプランの作成も行うことで現場での企画、運営が可能となる指導者を目標とします なお運動時はジャージで参加すること。ジーンズ・スウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズを使用します。		
13. オフィスアワー	講義内で周知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：概要や進め方、目的確認	事前学習	レクリエーションの意味を考える
		事後学習	レクリエーションの目的と意味を考える
第2回	レクリエーションの基礎理論① ○レクリエーションの意義と役割	事前学習	レクリエーションの意義を考える
		事後学習	レクリエーションの課題を考える
第3回	レクリエーションの基礎理論② ○各発達段階のレクリエーション	事前学習	各発達段階を調べる
		事後学習	各発達段階のレクリエーションをまとめる
第4回	レクリエーションの体験① ○様々な基礎的レクリエーション	事前学習	基本的なレクリエーションを調べる
		事後学習	実践したレクリエーションをまとめる
第5回	レクリエーションの体験② ○ニュースポーツを用いたレクリエーション	事前学習	ニュースポーツを調べる
		事後学習	実践したニュースポーツをまとめる
第6回	レクリエーションの体験③ ○発達段階に適したレクリエーション	事前学習	3回目の資料に目を通す
		事後学習	実践したレクリエーションをまとめる
第7回	グループワーク① ○目的・対象に応じたレクリエーションの考案 「青年期におけるチーム力UPについて」	事前学習	初期発達段階のレクリエーションを考える
		事後学習	実践したレクリエーションをまとめる
第8回	グループワーク② ○目的・対象に応じたレクリエーションの考案 「老年期における他者との関わりについて」	事前学習	中・壮年期レクリエーションを考える
		事後学習	実践したレクリエーションをまとめる
第9回	グループによる企画① 乳幼児期を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第10回	グループによる企画② 児童期を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第11回	グループによる企画③ 中壮年期を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第12回	グループによる企画④ 障害を考慮した企画	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う
		事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第13回	グループによる企画⑤	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う

	街づくり、地域活性を考慮した企画	事後学習	実践結果から改善案をまとめる
第14回	レクリエーション大会①	事前学習	レクリエーション大会の準備
		事後学習	大会の反省から次回の改善を考える
第15回	レクリエーション大会② まとめ	事前学習	レクリエーション大会の準備
		事後学習	適切なレクリエーション方法を考察する
15.実務経験を有する教員 特記事項	オリンピック体操選手としての出場経験、また体操教室(体操クラブ)の体操指導経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2単位)	3. 科目番号	GEHL1103
2. 授業担当教員	中村 裕		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。		
8. 学習目標	1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助方法を知る。 4. レクリエーションの企画・運営ができる理論・知識を身につける。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	1. レクリエーションの基礎的理論のレポート作成。 2. グループによる企画書作成および運営。 3. レクリエーション指導のポイントと工夫についての口頭発表。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特になし(必要に応じて適宜資料を配布する) 【参考書】 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢(出席状況含む)を評価基準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加態度 50%(出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。		
12. 受講生へのメッセージ	本講義はレクリエーションの基本的な意義やレクリエーション指導の基礎から応用的技術まで幅広く実施します。理論のみならず、実際に体験し、感じた事や注意点など、全員でディスカッションを行います。後半はグループで企画案を作成し、発表の場をつくります。対象年齢に合ったレクリエーションか否か。改善点はあるか。また、注意点はどこか、など話し合い、将来、実践できる指導者を目指します。 この授業はレクリエーションの理論を学ぶだけでなく、企画・運営をしっかりと行えるような能力を身につけて欲しいと考えています。そのために、以下のルールを守るようにお願いします。 1. 積極的な授業参加、ディスカッションや振り返りなど活発な意見を期待します。 2. 欠席、遅刻、早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 3. 実技授業では、運動をするのにふさわしい服装で参加してください。(髪型、室内の場合は室内履き等)		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (本講義の意義、概要、留意点、制度、役割など) アイスブレイキングを体験1	事前学習	レクリエーションとは何かを考える
		事後学習	レクリエーションの意義と概要を復習する。
第2回	レクリエーションの基礎理論 (アイスブレイキングの役割と意義) レクリエーション体験・ディスカッション アイスブレイキングを体験2	事前学習	アイスブレイキングについて調べる。
		事後学習	アイスブレイキングの役割についてまとめる。
第3回	ライフスタイルとレクリエーション (レクリエーション支援論について) 幼児期へのレクリエーション支援 グループに分かれて企画・発表1	事前学習	レクリエーション支援法について考える。 ライフスタイルごとのレクリエーションについて調べる。幼児期の特徴を調べる
		事後学習	ライフスタイルごとの課題を復習する。当日の反省と次への発展の仕方をまとめる
第4回	レクリエーションの事業論1 (事業計画・安全管理) 幼児期へのレクリエーション支援 グループに分かれて企画・発表2	事前学習	事業計画とはどういうものか調べる。
		事後学習	事業計画および安全管理を復習。 (安全管理の必要性) (安全管理の方法)を自分なりにまとめる。 当日の反省と次への発展の仕方をまとめる
第5回	レクリエーションの事業論2	事前学習	児童期の特徴を調べる

	(レクリエーション計画・準備) 児童期へのレクリエーション支援 グループに分かれて企画・発表1	事後学習	当日の反省と次への発展の仕方をまとめる
第6回	コミュニケーション・ワーク (ホスピタリティーについて) 児童期へのレクリエーション支援 グループに分かれて企画・発表2	事前学習	ホスピタリティーを調べる。
		事後学習	レクリエーションにおけるホスピタリティーの意義を復習する。当日の反省と次への発展の仕方をまとめる
第7回	鬼ごっこについて 鬼ごっこの歴史、意義、概要、留意点 レクリエーション体験・ディスカッション (いろいろな鬼ごっこを体験)	事前学習	鬼ごっこについて調べる。
		事後学習	体験した鬼ごっこをヒントに個人で新しい鬼ごっこを企画
第8回	鬼ごっこ企画 (グループで対象年齢に合った鬼ごっこの企画案を作成) グループごとに企画・発表	事前学習	鬼ごっこ企画の運営方法を考える
		事後学習	発表後の改善点について振り返り。
第9回	レクリエーション事業の実際1 (グループにてドッジボール 実践)	事前学習	ドッジボール運営の方法について考える。
		事後学習	ドッジボール運営の注意点を復習する。
第10回	レクリエーション事業の実際2 (グループにてドッジボール企画、運営、)	事前学習	ドッジボール運営の方法について考える。
		事後学習	ドッジボール運営の注意点を復習する。
第11回	高齢者のレクリエーション 体験とディスカッション	事前学習	高齢者の特徴を調べる
		事後学習	体験したレクリエーションを個人的にアレンジする
第12回	グループに分かれて高齢者向きのレクリエーションを企画・発表	事前学習	高齢者が可能な運動プログラムを考える
		事後学習	発表後の改善点について振り返り
第13回	障害者のレクリエーション 体験とディスカッション	事前学習	障がいの種類と障害者の特徴を調べる
		事後学習	体験したレクリエーションを個人的にアレンジする
第14回	グループに分かれて障害者向きのレクリエーションを企画・発表	事前学習	障害者が可能な運動プログラムを考える
		事後学習	発表後の改善点について振り返り
第15回	まとめ・評価	事前学習	今まで行ってきた授業を全体的に振り返る
		事後学習	レクリエーションの意義・支援についてまとめる
15.実務経験を有する教員 特記事項	「こどもの城」で長年子どもの体育指導を行ってきた実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	労働安全衛生法 (じん肺法を含む) (2単位)	3. 科目番号	SSMP3337 SNMP3337 SCMP3337 SBMP3337
2. 授業担当教員	橋本 由利子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>労働安全衛生法は、労働者の安全と健康を確保すると共に、労働者を取り巻く環境の変化に応じ、人間尊重を基盤とした「より快適な」作業環境づくりの促進を目的として、事業者のみならず国や労働者に対する責務についても規定している。</p> <p>本科目では、労働安全衛生法、じん肺法、およびそれらに基づいてより細かく具体的に規定された労働安全衛生規則や種々の有害作業別に規定された規則について学ぶ。近年、技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高齢化や長時間労働による心身の健康状態の変化等の問題が頻発しているため、これらに対応できる福祉を学んだ衛生管理者が求められていることについても学ぶ。</p> <p>なお労働安全衛生法は、本学で国家資格である第1種衛生管理者免許を取得するために、必ず履修しなければならない科目の一つである。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 労働安全衛生法および施行令、施行規則について説明できるようになる。 事務所衛生基準規則について説明できるようになる。 酸素欠乏症等防止規則について説明できるようになる。 有機溶剤中毒予防規則について説明できるようになる。 特定化学物質等障害予防規則について説明できるようになる。 粉じん障害防止規則について説明できるようになる。 じん肺法およびじん肺法施行規則について説明できるようになる。 石棉障害予防規則について説明できるようになる。 電離放射線障害防止規則について説明できるようになる。 最近の法改正の内容 (過重労働・メンタルヘルス対策、有害性・危険性の調査等) を説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題:</p> <p>① 毎回の授業開始時に前回の復習テストを行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】中央労働災害防止協会編『衛生管理 下<第1種用>』中央労働災害防止協会、2020年。</p> <p>【参考書】中央労働災害防止協会編『安全衛生法令要覧』中央労働災害防止協会。</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 第1種衛生管理者として知っておくべき労働安全衛生法および関連法令、ならびに衛生管理業務について理解できたか。</p> <p>○評定方法</p> <p>[日常の授業態度、提出物等を総合して評価する]</p> <p>1. 日常の授業態度 (参加、実践、態度) 総合点の40%</p> <p>2. 課題レポート・期末試験など 総合点の60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家資格である第1種衛生管理者と同等以上の知識を習得することを第一目標とする授業を行うので、以下の「ルール」をしっかりと守ってください。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <p>1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。</p> <p>2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。</p> <p>3. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。</p> <p>[講師は次のことを実行する]</p> <p>1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。質問はメールでも受け付けます。yuhashim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、労働安全衛生法について (1) (労働安全衛生法成立の背景、労働安全衛生法の目的、誰が守るのか、法律の読み方) ビデオ「労働安全衛生規則の手引き～法令を正しく理解しよう」	事前学習	労働安全衛生法とはどのようなものか考えてくる
		事後学習	法律の読み方について復習する
第2回	労働安全衛生法について (2) (どのような事柄が書かれているのか) ビデオ「労働安全衛生法とは」	事前学習	教科書「労働安全衛生法制定の趣旨及び改正の経緯」について読んでくる
		事後学習	労働安全衛生法の概要について復習する
第3回	労働安全衛生法① (衛生管理体制、衛生管理者の選任と職務、総括安全衛生管理者について) 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「労働安全衛生法第3章安全衛生管理体制関係」を読んでくる
		事後学習	衛生管理体制について国家試験問題を復習する

第4回	労働安全衛生法②（衛生委員会、産業医について） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「労働安全衛生法第3章安全衛生管理体制関係」を再度読んでくる
		事後学習	衛生委員会について国家試験問題を復習する
第5回	労働安全衛生法③（雇入れ時の安全衛生教育、健康診断について） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「労働安全衛生法第6章安全衛生教育」を読んでくる
		事後学習	安全衛生教育について国家試験問題を復習する
第6回	事務所衛生基準規則について（事務所環境の測定頻度、換気設備の点検等について） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「事務所衛生基準規則」を読んでくる
		事後学習	事務所環境基準規則について国家試験問題を復習する
第7回	酸素欠乏等防止規則について（酸素欠乏危険場所について、環境測定・健康診断について） 国家試験問題検討	事前学習	教科書「酸素欠乏等防止規則」を読んでくる
		事後学習	酸素欠乏等防止規則について国家試験問題を復習する
第8回	有機溶剤中毒予防規則について（有機溶剤の種類、設置すべき換気設備、環境測定・健康診断について） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「有機溶剤中毒予防規則」を読んでくる
		事後学習	有機溶剤中毒予防規則について国家試験問題を復習する
第9回	特定化学物質障害予防規則について（特定化学物質の種類、設置すべき設備、環境測定・健康診断について） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「特定化学物質障害予防規則」を読んでくる
		事後学習	特定化学物質障害予防規則について国家試験問題を復習する
第10回	粉じん障害防止規則・石綿障害予防規則について（粉じん作業・石綿作業について、設置すべき設備、環境測定） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「粉じん障害防止規則・石綿障害予防規則」を読んでくる
		事後学習	粉じん障害防止規則・石綿障害予防規則について国家試験問題を復習する
第11回	じん肺法について（健康診断、じん肺管理区分について） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「じん肺法及び同法施行規則」を読んでくる
		事後学習	じん肺法について国家試験問題を復習する
第12回	電離放射線障害防止規則について（電離放射線の基準値、設置すべき設備、環境測定・健康診断について） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「電離放射線障害防止規則」を読んでくる
		事後学習	電離放射線障害防止規則について国家試験問題を復習する
第13回	労働基準法（危険有害業務関係、妊産婦の保護関係） 国家試験問題の検討	事前学習	教科書「労働基準法の概要（危険有害業務関係、妊産婦の保護関係）」を読んでくる
		事後学習	労働基準法（危険有害業務関係、妊産婦の保護関係）の国家試験問題を復習する
第14回	最近の法律改正について（過重労働・メンタルヘルス対策、有害性・危険性の調査等）	事前学習	最近の法律改正について考えてくる
		事後学習	最近の法律改正（過重労働・メンタルヘルス対策、有害性・危険性の調査等）について復習する
第15回	まとめ、福祉施設で発生する可能性のある労働衛生上の問題にはどのようなものがあるかグループで話し合う。	事前学習	福祉施設での労働衛生上の問題点について考えてくる
		事後学習	この科目で学習したことをまとめ、グループで話し合った結果をまとめる

期末試験